

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第306集

大里郡妻沼町

飯塚北遺跡 I

妻沼西部工業団地造成事業用地内
埋蔵文化財発掘調査報告

— I —

<第2分冊>

2 0 0 5

埼 玉 県

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

口絵

発刊に寄せて

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	5. グリッド出土石器	53
1. 発掘調査に至る経過	1	VI 奈良・平安時代の遺構と遺物	55
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	1. 住居跡	55
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	3	(第149号住居跡まで)	258
II 遺跡の立地と環境	6	〈第2分冊〉	
III 遺跡の概要	10	(第150号住居跡から)	259
IV 縄文時代の遺構と遺物	13	VII まとめ	443
1. 土壌	13	1. 弥生時代の遺物	443
2. グリッド出土土器	15	(1) 飯塚北遺跡出土の弥生土器	443
V 弥生時代の遺構と遺物	16	(2) 再葬墓と他の遺構との関連性について	447
1. 再葬墓	16	2. 奈良・平安時代の遺物	451
2. 土壌	26	写真図版	
3. 遺物集中区	28	付図	
4. グリッド出土土器	45		

插图目次

〈第2分册〉

第281图	第150号住居跡	259	第315图	第219号住居跡出土遺物	290
第282图	第150号住居跡出土遺物	260	第316图	第167·220号住居跡	291
第283图	第151号住居跡	261	第317图	第167·220号住居跡出土遺物	292
第284图	第151号住居跡出土遺物	262	第318图	第168号住居跡	294
第285图	第152号住居跡	264	第319图	第168号住居跡出土遺物	295
第286图	第152号住居跡出土遺物	265	第320图	第169号住居跡	296
第287图	第153号住居跡	266	第321图	第169号住居跡出土遺物	297
第288图	第155·163号住居跡	267	第322图	第170·213号住居跡	299
第289图	第155号住居跡出土遺物	267	第323图	第170号住居跡出土遺物	300
第290图	第163号住居跡出土遺物	268	第324图	第213号住居跡出土遺物	301
第291图	第156号住居跡	268	第325图	第171号住居跡	302
第292图	第156号住居跡出土遺物	269	第326图	第171号住居跡出土遺物	303
第293图	第157号住居跡	270	第327图	第173号住居跡	304
第294图	第157号住居跡出土遺物	270	第328图	第173号住居跡出土遺物	305
第295图	第158号住居跡	271	第329图	第174号住居跡	306
第296图	第158号住居跡出土遺物	271	第330图	第174号住居跡出土遺物	307
第297图	第159号住居跡	272	第331图	第176号住居跡	308
第298图	第159号住居跡出土遺物	272	第332图	第176号住居跡出土遺物(1)	309
第299图	第161号住居跡	273	第333图	第176号住居跡出土遺物(2)	310
第300图	第161号住居跡出土遺物	274	第334图	第177·198·202号住居跡	311
第301图	第162号住居跡	275	第335图	第177号住居跡出土遺物	310
第302图	第162号住居跡出土遺物	275	第336图	第198号住居跡出土遺物	312
第303图	第164·175号住居跡	277	第337图	第202号住居跡出土遺物	312
第304图	第164号住居跡出土遺物	277	第338图	第178号住居跡	313
第305图	第175号住居跡出土遺物	278	第339图	第178号住居跡出土遺物	314
第306图	第165·172号住居跡	279	第340图	第179号住居跡出土遺物	315
第307图	第165号住居跡出土遺物	280	第341图	第179号住居跡	316
第308图	第172号住居跡出土遺物	281	第342图	第180号住居跡	317
第309图	第166·186·219号住居跡	282	第343图	第180号住居跡出土遺物	318
第310图	第166号住居跡出土遺物(1)	283	第344图	第195号住居跡	319
第311图	第166号住居跡出土遺物(2)	284	第345图	第195号住居跡出土遺物	319
第312图	第166号住居跡出土遺物(3)	285	第346图	第201号住居跡	320
第313图	第166号住居跡出土遺物(4)	286	第347图	第201号住居跡出土遺物	321
第314图	第186号住居跡出土遺物	289	第348图	第181号住居跡	322

第349图	第181号住居跡出土遺物	323	第387图	第206・207・222号住居跡	353
第350图	第182号住居跡	324	第388图	第207号住居跡出土遺物	354
第351图	第182号住居跡出土遺物	325	第389图	第222号住居跡出土遺物	354
第352图	第183号住居跡	326	第390图	第208号住居跡	355
第353图	第183号住居跡出土遺物	326	第391图	第208号住居跡出土遺物	355
第354图	第184号住居跡	327	第392图	第209号住居跡	356
第355图	第184号住居跡出土遺物	328	第393图	第209号住居跡出土遺物	357
第356图	第185号住居跡	329	第394图	第210号住居跡	357
第357图	第185号住居跡出土遺物	330	第395图	第210号住居跡出土遺物	358
第358图	第187号住居跡	331	第396图	第211号住居跡	359
第359图	第187号住居跡出土遺物	332	第397图	第211号住居跡出土遺物	360
第360图	第188号住居跡	332	第398图	第214号住居跡	361
第361图	第188号住居跡出土遺物	333	第399图	第214号住居跡出土遺物	361
第362图	第189号住居跡	333	第400图	第215号住居跡	362
第363图	第189号住居跡出土遺物	334	第401图	第215号住居跡出土遺物	363
第364图	第190号住居跡	335	第402图	第216号住居跡	364
第365图	第190号住居跡出土遺物	336	第403图	第216号住居跡出土遺物	365
第366图	第191号住居跡	337	第404图	第217号住居跡	366
第367图	第191号住居跡出土遺物	338	第405图	第217号住居跡出土遺物	366
第368图	第192号住居跡	339	第406图	第218・229・247・253号住居跡	367
第369图	第192号住居跡出土遺物	339	第407图	第218号住居跡出土遺物	368
第370图	第193・205号住居跡	340	第408图	第229号住居跡出土遺物	369
第371图	第193号住居跡出土遺物	341	第409图	第247号住居跡出土遺物	370
第372图	第205号住居跡出土遺物	342	第410图	第253号住居跡出土遺物	370
第373图	第194号住居跡	343	第411图	第221号住居跡	371
第374图	第194号住居跡出土遺物	343	第412图	第221号住居跡出土遺物	372
第375图	第196号住居跡	344	第413图	第223号住居跡	373
第376图	第196号住居跡出土遺物	345	第414图	第223号住居跡出土遺物	374
第377图	第197号住居跡	346	第415图	第224号住居跡	375
第378图	第197号住居跡出土遺物	347	第416图	第224号住居跡出土遺物	376
第379图	第199号住居跡	347	第417图	第244号住居跡	376
第380图	第199号住居跡出土遺物	348	第418图	第244号住居跡出土遺物	377
第381图	第200号住居跡	348	第419图	第225号住居跡	378
第382图	第200号住居跡出土遺物	349	第420图	第225号住居跡出土遺物	379
第383图	第203号住居跡	350	第421图	第226号住居跡	379
第384图	第203号住居跡出土遺物	351	第422图	第226号住居跡出土遺物	379
第385图	第204号住居跡	352	第423图	第227号住居跡	380
第386图	第204号住居跡出土遺物	352	第424图	第227号住居跡出土遺物	381

第425图	第228·237号住居跡	383	第462图	第249号住居跡出土遺物	411
第426图	第228号住居跡出土遺物	384	第463图	第252号住居跡	412
第427图	第237号住居跡出土遺物	384	第464图	第252号住居跡出土遺物	413
第428图	第230号住居跡	385	第465图	第254号住居跡	414
第429图	第231号住居跡	386	第466图	第254号住居跡出土遺物	414
第430图	第231号住居跡出土遺物	386	第467图	第255号住居跡	415
第431图	第232号住居跡	387	第468图	第255号住居跡出土遺物	415
第432图	第232号住居跡出土遺物	387	第469图	第256号住居跡	416
第433图	第233号住居跡	388	第470图	第256号住居跡出土遺物	417
第434图	第233号住居跡出土遺物	388	第471图	第257号住居跡	418
第435图	第234号住居跡	389	第472图	第258号住居跡	419
第436图	第234号住居跡出土遺物	389	第473图	第258号住居跡出土遺物	419
第437图	第235号住居跡	390	第474图	第262·295号住居跡	420
第438图	第235号住居跡出土遺物	390	第475图	第262号住居跡出土遺物	421
第439图	第236·239·250·282·299号住居跡	392	第476图	第295号住居跡出土遺物	421
第440图	第239号住居跡	393	第477图	第263号住居跡	422
第441图	第236号住居跡出土遺物	394	第478图	第263号住居跡出土遺物	422
第442图	第239号住居跡出土遺物(1)	395	第479图	第264·312号住居跡	423
第443图	第239号住居跡出土遺物(2)	396	第480图	第264号住居跡出土遺物(1)	424
第444图	第250号住居跡出土遺物	396	第481图	第264号住居跡出土遺物(2)	425
第445图	第282号住居跡出土遺物	397	第482图	第312号住居跡出土遺物	426
第446图	第299号住居跡出土遺物	397	第483图	第265号住居跡	427
第447图	第238号住居跡	398	第484图	第265号住居跡出土遺物	428
第448图	第238号住居跡出土遺物	399	第485图	第266·286号住居跡	428
第449图	第240·333号住居跡	400	第486图	第267号住居跡	429
第450图	第241号住居跡	401	第487图	第267号住居跡出土遺物	430
第451图	第241号住居跡出土遺物	402	第488图	第268·269·270号住居跡	431
第452图	第242·243号住居跡	403	第489图	第268号住居跡出土遺物	432
第453图	第242·243号住居跡出土遺物	403	第490图	第269号住居跡出土遺物	432
第454图	第246·251号住居跡	404	第491图	第270号住居跡出土遺物	433
第455图	第246号住居跡出土遺物	405	第492图	第271·272号住居跡	434
第456图	第251号住居跡出土遺物	406	第493图	第271·272号住居跡出土遺物	435
第457图	第248·260·261号住居跡	407	第494图	第274·275号住居跡	436
第458图	第248号住居跡出土遺物	408	第495图	第274号住居跡出土遺物	437
第459图	第260号住居跡出土遺物	408	第496图	第274·275号住居跡出土遺物	438
第460图	第261号住居跡出土遺物	409	第497图	第276·285·292·303·304号住居跡	439
第461图	第249号住居跡	410	第498图	第276号住居跡出土遺物	440

第499図	第285号住居跡出土遺物	……………	440	第502図	第277号住居跡出土遺物	……………	442
第500図	第303号住居跡出土遺物	……………	441	第503図	再葬墓出土土器と関連資料	……………	445
第501図	第277号住居跡	……………	441	第504図	弥生時代の遺構	……………	448

図版目次

〈第2分冊〉

図版1	遺跡全景				第22号住居跡
図版2	遺跡全景				第23号住居跡カマド遺物出土状況
図版3	第1号再葬墓 (S K 602) 遺物出土状況			図版8	第23号住居跡 第24号住居跡カマド
	第1号再葬墓 (S K 602)				第24号住居跡 第26号住居跡
	第2号再葬墓 (S K 879) 遺物出土状況				第27号住居跡カマド遺物出土状況
図版4	第3号再葬墓 (S K 936) 遺物出土状況				第28号住居跡カマド
	第4号再葬墓 (S K 701) 遺物出土状況				第28号住居跡カマド遺物出土状況
	第4号再葬墓 (S K 701)				第28号住居跡
	第5号再葬墓 (S K 789) 遺物出土状況			図版9	第28号住居跡遺物出土状況
	第741号土壇遺物出土状況				第30号住居跡
	第741号土壇				第30号住居跡遺物出土状況
	第938号土壇				第31号住居跡
図版5	第1号住居跡遺物出土状況				第33号住居跡カマド遺物出土状況
	第2号住居跡 第5号住居跡カマド				第33号住居跡 第33・43号住居跡
	第5号住居跡 第6号住居跡				第34号住居跡カマド遺物出土状況
	第10号住居跡 第11号住居跡カマド			図版10	第34号住居跡
	第11号住居跡				第35号住居跡カマド遺物出土状況
図版6	第13号住居跡カマド 第13号住居跡				第35号住居跡遺物出土状況
	第14号住居跡カマド遺物出土状況				第35号住居跡
	第14号住居跡 第15号住居跡				第37号住居跡遺物出土状況
	第16号住居跡カマド 第16号住居跡				第37号住居跡 第38・57号住居跡
	第17号住居跡			図版11	第38号住居跡 第42号住居跡カマド
図版7	第18号住居跡				第42号住居跡 第44号住居跡
	第20号住居跡カマド遺物出土状況				第45号住居跡
	第20号住居跡				第48号住居跡遺物出土状況
	第21号住居跡カマド遺物出土状況				第48号住居跡
	第21号住居跡				第49号住居跡遺物出土状況
	第22号住居跡カマド遺物出土状況			図版12	第49号住居跡

- 第53号住居跡カマド遺物出土状況
第53号住居跡
- 第54号住居跡カマド遺物出土状況
第54号住居跡
- 第56号住居跡カマド遺物出土状況
第56号住居跡 第58号住居跡
- 図版13 第59号住居跡カマド遺物出土状況
第59号住居跡 第61号住居跡
第62号住居跡カマド遺物出土状況
第62号住居跡
第63号住居跡カマド遺物出土状況
第63号住居跡遺物出土状況
第63号住居跡
- 図版14 第64号住居跡カマド遺物出土状況
第64号住居跡 第67号住居跡カマド
第67号住居跡 第68号住居跡
第70号住居跡 第71号住居跡
第74号住居跡
- 図版15 第76・79号住居跡 第73・78号住居跡
第80号住居跡 第81号住居跡
第82号住居跡
第85号住居跡カマド遺物出土状況
第85号住居跡
第86号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版16 第86号住居跡 第90号住居跡
第91号住居跡カマド遺物出土状況
第91号住居 第92号住居跡
第93号住居跡遺物出土状況
第93号住居跡
- 図版17 第95号住居跡カマド遺物出土状況
第95号住居跡
第96号住居跡カマド遺物出土状況
第96号住居跡 第98号住居跡
第100号住居跡 第101号住居跡
第101・102・103号住居跡
- 図版18 第103・104号住居跡
第107号住居跡カマド遺物出土状況
- 第107号住居跡
第108号住居跡遺物出土状況
第108号住居跡 第109号住居跡
第111号住居跡 第115号住居跡
- 図版19 第116号住居跡 第117号住居跡
第120号住居跡遺物出土状況
第120号住居跡 第122号住居跡
第123号住居跡カマド 第123号住居跡
第125号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版20 第125号住居跡 第126号住居跡
第127号住居跡カマド 第127号住居跡
第128号住居跡 第129号住居跡カマド
第129号住居跡 第132号住居跡
- 図版21 第133号住居跡カマド遺物出土状況
第133号住居跡カマド 第133号住居跡
第134号住居跡カマド遺物出土状況
第134号住居跡
第135号住居跡カマド遺物出土状況
第135号住居跡 第136号住居跡
- 図版22 第137号住居跡
第138号住居跡遺物出土状況
第138号住居跡
第139号住居跡カマド遺物出土状況
第139号住居跡遺物出土状況
第139号住居跡
第140号住居跡カマド出土状況
第140号住居跡
- 図版23 第141号住居跡遺物出土状況
第141号住居跡
第144号住居跡カマド遺物出土状況
第144号住居跡遺物出土状況
第144号住居跡 第147号住居跡
第148号住居跡カマド 第148号住居跡
- 図版24 第150号住居跡カマド 第150号住居跡
第151号住居跡カマド 第151号住居跡
第152号住居跡カマド 第152号住居跡
第156号住居跡 第157号住居跡カマド

- 図版25 第157号住居跡 第158号住居跡
 第159号住居跡 第161号住居跡
 第162号住居跡 第164号住居跡カマド
 第164号住居跡 第165号住居跡カマド
- 図版26 第165号住居跡
 第166号住居跡遺物出土状況
 第166号住居跡 第167号住居跡
 第168号住居跡カマド遺物出土状況
 第168号住居跡
- 図版27 第169号住居跡
 第170号住居跡カマド遺物出土状況
 第170号住居跡 第171号住居跡
 第172号住居跡
 第173号住居跡カマド遺物出土状況
 第173号住居跡
 第174号住居跡・第240号土坑
- 図版28 第175号住居跡 第176号住居跡
 第178号住居跡 第179号住居跡
 第180号住居跡
 第181号住居跡カマド遺物出土状況
 第181号住居跡
 第182号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版29 第182号住居跡 第183号住居跡
 第184号住居跡
 第185号住居跡カマド遺物出土状況
 第185号住居跡 第186号住居跡
 第187号住居跡 第189号住居跡
- 図版30 第190号住居跡
 第191号住居跡カマド遺物出土状況
 第191号住居跡 第192号住居跡
 第195号住居跡 第196号住居跡
 第196・197号住居跡 第197号住居跡
- 図版31 第198号住居跡 第200号住居跡
 第203号住居跡カマド遺物出土状況
 第203号住居跡 第204号住居跡
 第205号住居跡カマド 第205号住居跡
 第210号住居跡
- 図版32 第211号住居跡 第213号住居跡
 第214号住居跡 第215号住居跡
 第216号住居跡 第217号住居跡
 第218号住居跡古銭出土状況
 第219号住居跡
- 図版33 第223号住居跡カマド遺物出土状況
 第223号住居跡
 第223・224・225号住居跡
 第224号住居跡 第225号住居跡
 第227号住居跡 第228号住居跡
 第230号住居跡
- 図版34 第232号住居跡 第234号住居跡
 第236号住居跡 第237号住居跡
 第238号住居跡カマド遺物出土状況
 第238号住居跡 第239号住居跡
 第239・260号住居跡カマド
- 図版35 第241号住居跡 第242・243号住居跡
 第244号住居跡 第246号住居跡
 第249号住居跡カマド遺物出土状況
 第249号住居跡 第251号住居跡
 第254号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版36 第254号住居跡 第255号住居跡
 第256号住居跡 第257号住居跡
 第258号住居跡 第262号住居跡
 第264号住居跡 第277号住居跡
- 図版37 第1号再葬墓出土遺物
 第2a号再葬墓出土遺物
 第2b号再葬墓出土遺物
 第4号再葬墓出土遺物
- 図版38 第1号再葬墓出土遺物
 第2a号再葬墓出土遺物
 第2b号再葬墓出土遺物
 第5号再葬墓出土遺物
- 図版39 第3号再葬墓出土遺物
 第510・511号土坑出土遺物
- 図版40 第1集中区出土遺物
- 図版41 第2集中区出土遺物

図版42	第3集中区出土遺物(1)		第35b号住居跡出土遺物
図版43	第3集中区出土遺物(1)(2)		第36号住居跡出土遺物
	第3周中区出土遺物(2)		第37号住居跡出土遺物
図版44	第4集中区出土遺物(1)	図版59	第37号住居跡出土遺物
図版45	第4集中区出土遺物(2)		第38号住居跡出土遺物
図版46	第5集中区出土遺物(1)		第42号住居跡出土遺物
図版47	第5集中区出土遺物(1)(2)		第48号住居跡出土遺物
	第5集中区出土遺物(2)	図版60	第48号住居跡出土遺物
図版48	第5集中区出土遺物(2)(3)		第49号住居跡出土遺物
	グリッド出土遺物(1)		第53号住居跡出土遺物
図版49	グリッド出土遺物(1)		第54号住居跡出土遺物
	グリッド出土遺物(2)		第59号住居跡出土遺物
図版50	グリッド出土遺物(2)	図版61	第63号住居跡出土遺物
	グリッド出土遺物(3)		第67号住居跡出土遺物
図版51	グリッド出土遺物(3)		第68号住居跡出土遺物
	グリッド出土遺物(4)		第70号住居跡出土遺物
図版52	グリッド出土石器(1)(2)		第71号住居跡出土遺物
図版53	第2号住居跡出土遺物		第76号住居跡出土遺物
	第4号住居跡出土遺物	図版62	第80号住居跡出土遺物
	第5号住居跡出土遺物		第82号住居跡出土遺物
	第12号住居跡出土遺物		第85号住居跡出土遺物
	第14号住居跡出土遺物		第90号住居跡出土遺物
図版54	第17号住居跡出土遺物		第91号住居跡出土遺物
	第20号住居跡出土遺物	図版63	第92号住居跡出土遺物
	第21号住居跡出土遺物		第93号住居跡出土遺物
	第22号住居跡出土遺物		第94号住居跡出土遺物
	第23号住居跡出土遺物		第96号住居跡出土遺物
	第24号住居跡出土遺物	図版64	第96号住居跡出土遺物
図版55	第24号住居跡出土遺物		第98号住居跡出土遺物
	第26号住居跡出土遺物		第100号住居跡出土遺物
	第28号住居跡出土遺物	図版65	第101号住居跡出土遺物
図版56	第28号住居跡出土遺物		第102号住居跡出土遺物
	第30号住居跡出土遺物		第103号住居跡出土遺物
	第33号住居跡出土遺物	図版66	第103号住居跡出土遺物
	第35a号住居跡出土遺物		第107号住居跡出土遺物
図版57	第35a号住居跡出土遺物		第111号住居跡出土遺物
図版58	第35a号住居跡出土遺物		第115号住居跡出土遺物

- 第117号住居跡出土遺物
- 図版67 第115号住居跡出土遺物
第117号住居跡出土遺物
第120号住居跡出土遺物
- 図版68 第120号住居跡出土遺物
第122号住居跡出土遺物
第123号住居跡出土遺物
- 図版69 第125号住居跡出土遺物
第128号住居跡出土遺物
第130号住居跡出土遺物
- 図版70 第129号住居跡出土遺物
第132号住居跡出土遺物
第134号住居跡出土遺物
第136号住居跡出土遺物
第137号住居跡出土遺物
第138号住居跡出土遺物
- 図版71 第140号住居跡出土遺物
第143号住居跡出土遺物
第144号住居跡出土遺物
第146号住居跡出土遺物
- 図版72 第148号住居跡出土遺物
第149号住居跡出土遺物
第150号住居跡出土遺物
第151号住居跡出土遺物
第152号住居跡出土遺物
- 図版73 第152号住居跡出土遺物
第161号住居跡出土遺物
第162号住居跡出土遺物
第165号住居跡出土遺物
第166号住居跡出土遺物
- 図版74 第166号住居跡出土遺物
- 図版75 第166号住居跡出土遺物
- 図版76 第166号住居跡出土遺物
- 図版77 第166号住居跡出土遺物
第167号住居跡出土遺物
第168号住居跡出土遺物
第169号住居跡出土遺物
- 図版78 第169号住居跡出土遺物
第170号住居跡出土遺物
第171号住居跡出土遺物
第173号住居跡出土遺物
- 図版79 第173号住居跡出土遺物
第174号住居跡出土遺物
第179号住居跡出土遺物
第180号住居跡出土遺物
第181号住居跡出土遺物
第182号住居跡出土遺物
第184号住居跡出土遺物
- 図版66 第186号住居跡出土遺物
第187号住居跡・第218号住居跡出土古銭
第189号住居跡出土遺物
- 図版81 第190号住居跡出土遺物
第191号住居跡出土遺物
第194号住居跡出土遺物
第195号住居跡出土遺物
第196号住居跡出土遺物
- 図版82 第196号住居跡出土遺物
第197号住居跡出土遺物
第199号住居跡出土遺物
第201号住居跡出土遺物
- 図版83 第201号住居跡出土遺物
第203号住居跡出土遺物
第207号住居跡出土遺物
- 図版84 第209号住居跡出土遺物
第210号住居跡出土遺物
第210号住居跡出土遺物
第211号住居跡出土遺物
第213号住居跡出土遺物
- 図版85 第214号住居跡出土遺物
第215号住居跡出土遺物
第216号住居跡出土遺物
第219号住居跡出土遺物
第223号住居跡出土遺物
第224号住居跡出土遺物

图版86	第224号住居跡出土遺物	第269号住居跡出土遺物
	第227号住居跡出土遺物	第271·272号住居跡出土遺物
	第231号住居跡出土遺物	第274·275号住居跡出土遺物
	第233号住居跡出土遺物	第277号住居跡出土遺物
	第235号住居跡出土遺物	图版92 第4号住居跡出土遺物
	第237号住居跡出土遺物	第28号住居跡出土遺物
图版87	第237号住居跡出土遺物	第48号住居跡出土遺物
	第238号住居跡出土遺物	第63号住居跡出土遺物
	第239号住居跡出土遺物	第103号住居跡出土遺物
图版88	第239号住居跡出土遺物	第133号住居跡出土遺物
	第244号住居跡出土遺物	图版93 第148号住居跡出土遺物
图版89	第244号住居跡出土遺物	第168号住居跡出土遺物
	第246号住居跡出土遺物	第200号住居跡出土遺物
	第247号住居跡出土遺物	第223号住居跡出土遺物
	第248号住居跡出土遺物	第228号住居跡出土遺物
	第249号住居跡出土遺物	图版94 第236号住居跡出土遺物
图版90	第251号住居跡出土遺物	第238号住居跡出土遺物
	第252号住居跡出土遺物	第244号住居跡出土遺物
	第254号住居跡出土遺物	第256号住居跡出土遺物
	第260号住居跡出土遺物	第260号住居跡出土遺物
	第262号住居跡出土遺物	图版95 第59号住居跡出土遺物
图版91	第262号住居跡出土遺物	第93号住居跡出土遺物
	第263号住居跡出土遺物	第96号住居跡出土遺物
	第264号住居跡出土遺物	图版96 第120号住居跡出土遺物

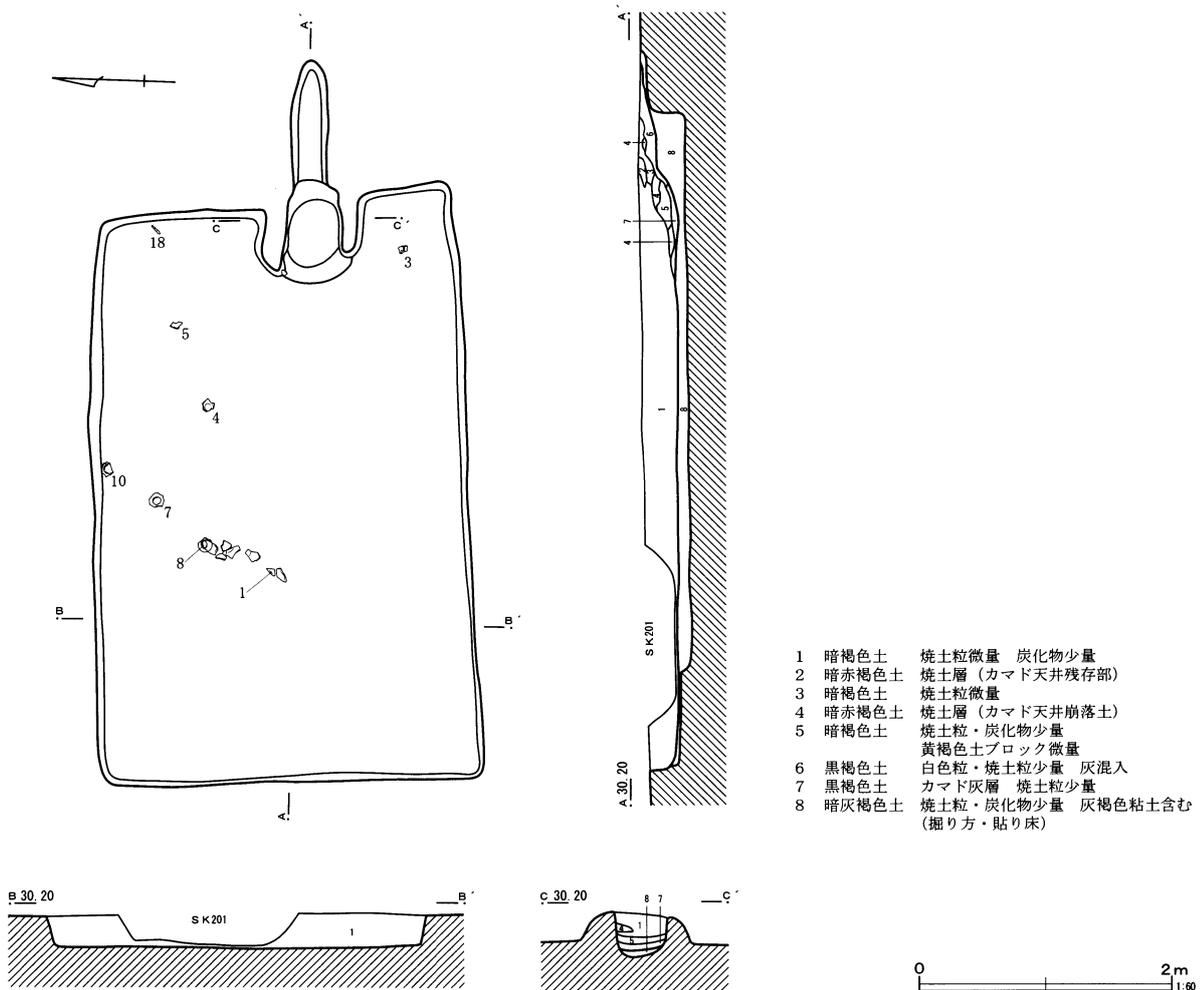
第150号住居跡 (第281・282図)

K-13・14グリッドに位置する。第164・168号住居跡・第201号土坑と重複し、土坑に西部が切られ、2軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長東西4.71m、南北3.00m、深さ28cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-89°-Eを指す。

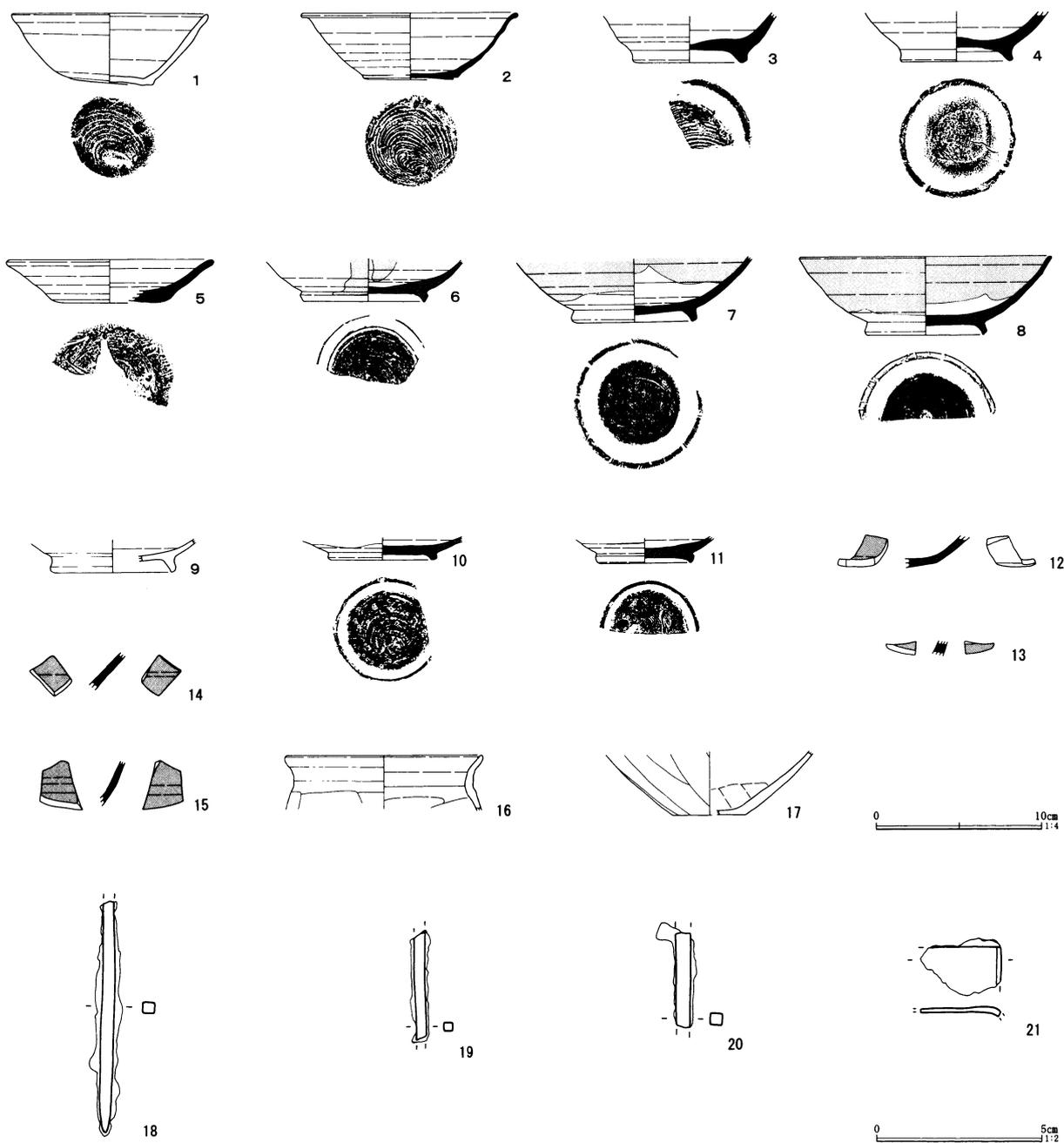
カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部は、81cm×43cmを測り、煙道部は長さ95cmが確認

できた。

遺物は、須恵器坏・高台坏碗、土師器甕、灰釉陶器高台付碗・高台付皿、緑釉陶器と鉄製品が出土した。18～20はいずれも角棒状の鉄製品である。18は現存長7.0cmで、端部が存在することから釘など接合具の可能性もある。19は現存長3.4cm、20は現存長2.8cm。ともに用途は不明である。21は現存長2.4cm、厚さ約0.1cmの鉄板である。曲がった部分で折れた様子が見て取れる。用途は不明である。



第281図 第150号住居跡



第 282 図 第 150 号住居跡出土遺物

第 150 号住居跡出土遺物観察表 (第 282 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.0	4.4	5.2	A B C F J	普通	橙	85	覆土	酸化焰焼成 やや歪みあり
2	須恵坏	13.2	4.1	5.7	A C J K	良好	灰	90	掘り方	底部回転糸切り
3	須恵高台坏			(7.0)	A G	普通	灰黄	25	覆土	
4	須恵高台碗			6.7	A B F G	不良	灰黄	70	覆土	
5	須恵皿	(12.6)	2.7	(7.0)	A F J	普通	灰黄褐	40	覆土	
6	灰釉高台碗			(7.3)	A C G	良好	灰白	25	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 内面赤色 東遠江産
7	灰釉高台碗			7.0	A G	普通	灰褐	80	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産

第150号住居跡出土遺物観察表 (第282図)

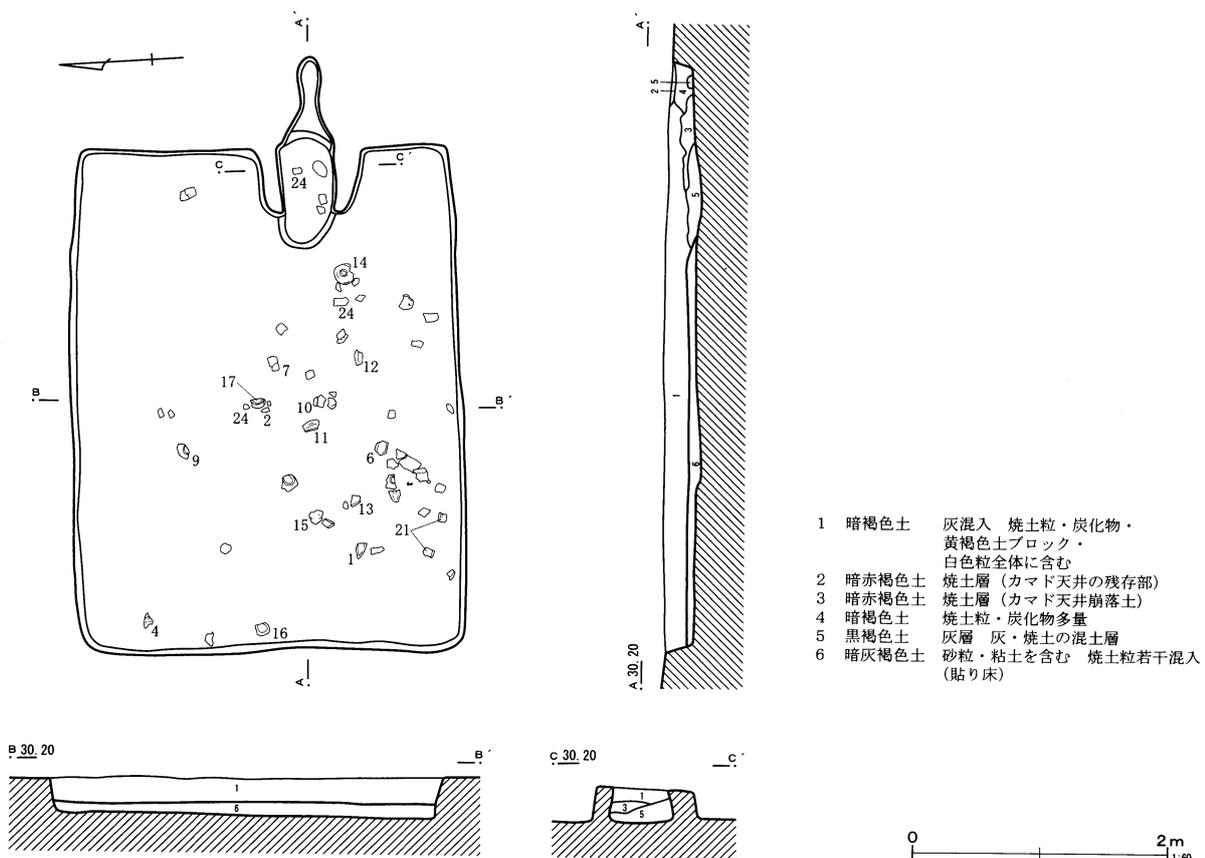
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
8	灰釉高台壺	(15.2)	4.8	(7.0)	G	良好	灰白	40	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 浜北産
9	灰釉高台壺			(7.1)	A	良好	灰白	20	覆土	底部高台内糸切り 施釉なし 東濃産
10	灰釉高台皿			6.0	AG	良好	灰白	70	覆土	底部高台内糸切り 施釉ツケガケ 東濃産
11	灰釉高台皿			5.5	AG	良好	灰	40	覆土	底部高台内糸切り 施釉ツケガケ 東遠江産
12	緑釉陶器						—	破片	覆土	外面施釉なし 猿投産
13	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
14	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
15	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
16	土師小型甕	(12.0)			A B C J	普通	褐灰	10	覆土	
17	土師甕			(4.4)	A B F J	普通	橙	20	覆土	

第151号住居跡 (第283・284図)

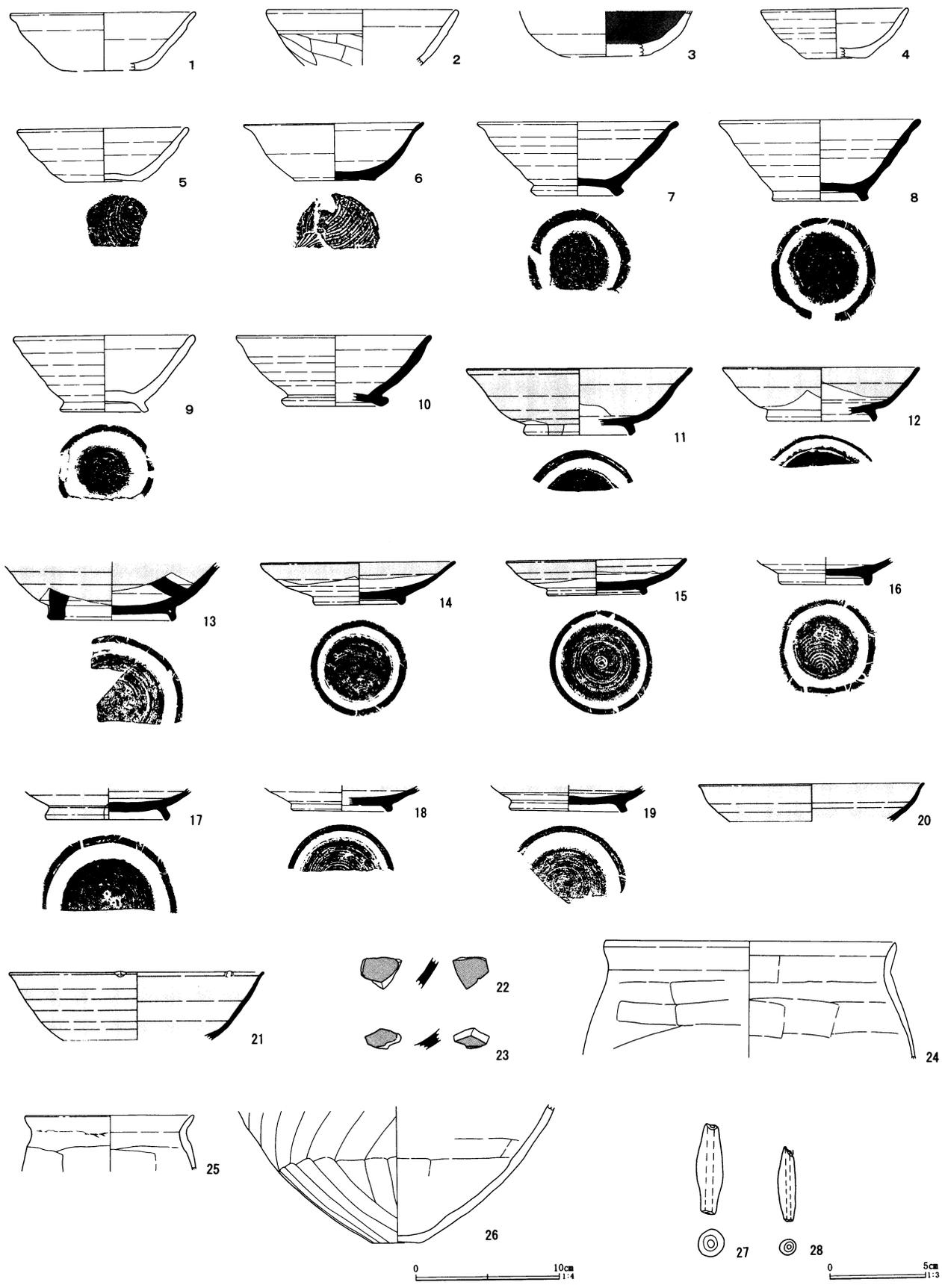
K・L-13、K-14グリッドに位置する。第165号住居跡と重複し、切っている。規模は、主軸長東西3.95m、南北3.10m、深さ18cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部は、94cm×43cm、深さ10cmを測り、煙道部は長さ60cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏壺・灰釉陶器高台付壺・高台坏皿、緑釉陶器、土錘が出土した。



第283図 第151号住居跡



第 284 图 第 151 号住居跡出土遺物

第151号住居跡出土遺物観察表 (第284図)

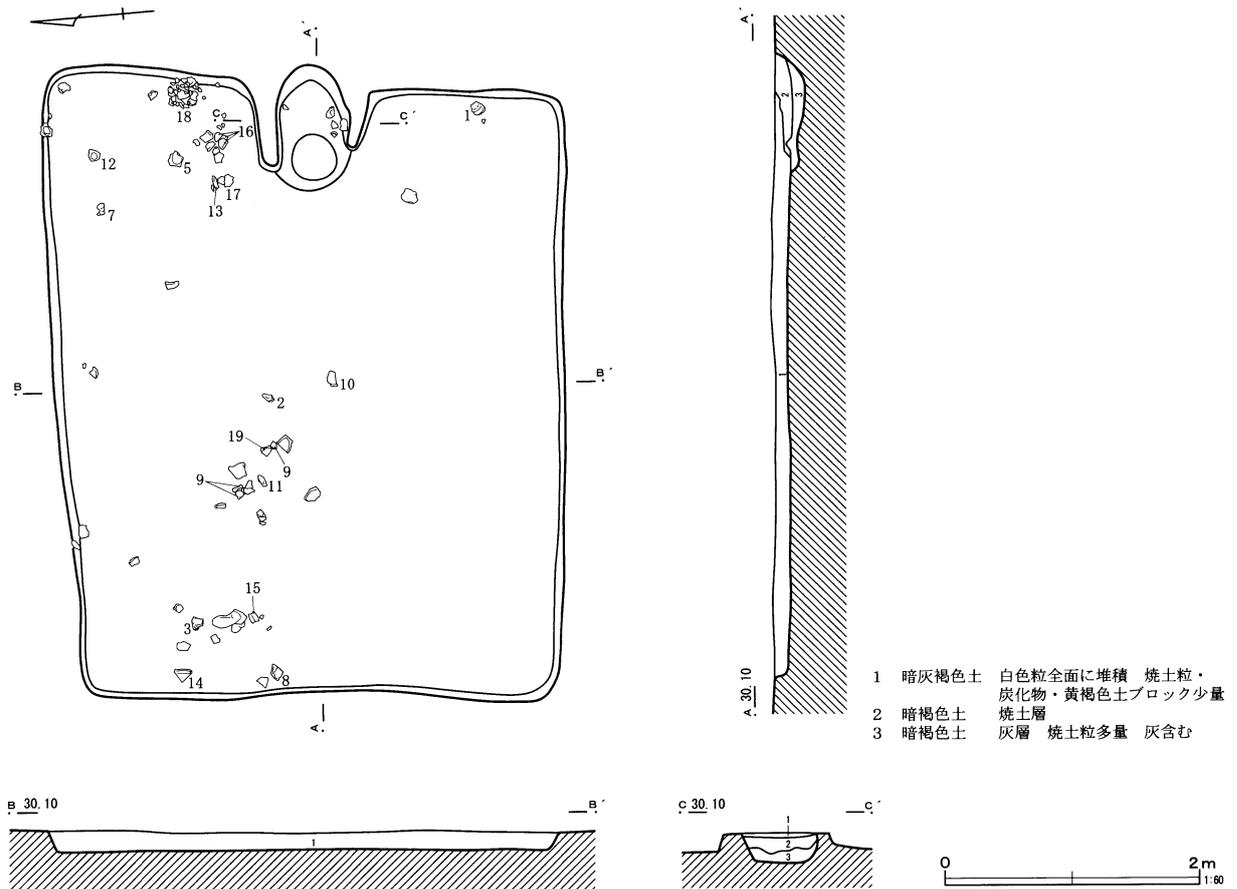
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考	
1	土師坏	(12.8)	(4.1)	(5.6)	A B F K	普通	にぶい黄橙	40	覆土		
2	土師坏	(13.2)			A B J	普通	浅黄橙	20	覆土		
3	土師坏			(6.6)	A B F	良好	浅黄橙	13	覆土	黒色土器	
4	土師坏	(10.2)	3.5	(4.2)	A B F K	普通	にぶい橙	30	覆土		
5	須恵坏	(11.8)	3.7	(5.4)	A C F J	不良	明褐	12	覆土	底部回転糸切り 酸化焰焼成	
6	須恵坏	(12.4)	4.0	5.6	A I K	普通	オリーブ黒	45	覆土		
7	須恵高台埴	(13.7)	5.2	6.5	A B J	普通	にぶい黄	30	覆土	一部酸化焰焼成	
8	須恵高台埴	(13.9)	5.8	6.8	A J	普通	灰	55	覆土	底部回転糸切り	
9	須恵高台埴	(12.5)	5.4	6.2	A F J	普通	にぶい褐	60	覆土	酸化焰焼成	
10	須恵高台埴	(13.6)	5.0	(7.5)	A C J	普通	灰	25	覆土		
11	灰釉高台埴	(15.6)	4.7	(7.4)	A J	良好	灰黄	30	覆土	底部高台内へら削り 施釉ツケガケ 東濃産	
12	灰釉高台埴	(13.6)	3.8	(7.5)	A G	良好	灰白	30	覆土	底部高台内へら削り 施釉ツケガケ 内面重ね焼き痕あり 東濃産	
13	灰釉高台埴			(8.5)	A	普通	灰	25	床直	底部高台内へら削り 施釉ツケガケ 一部油煙付着 東濃産	
14	灰釉高台皿	13.5	3.0	6.3	A G K	良好	灰白	95	覆土	底部高台内糸切り 施釉ツケガケ 内面重ね焼き痕あり 浜北産	
15	灰釉高台皿	(12.6)	2.5	7.0	A G K	普通	灰	40	覆土	底部高台内へら削り 施釉ツケガケ 東濃産	
16	灰釉高台埴			6.1	A G K	良好	灰	底部	床直	底部高台内糸切り 施釉なし 浜北産	
17	灰釉高台埴			8.5	G	良好	灰黄	50	覆土	底部高台内へら削り 内外面ハケヌリ 東遠江産	
18	灰釉高台皿			(7.0)	A J	良好	灰白	50	覆土	底部高台内糸切り 施釉ハケヌリ 東濃産	
19	灰釉高台皿			(7.8)	A	普通	灰黄	30	覆土	底部高台内へら削り 施釉ツケガケ 東濃産	
20	灰釉埴	(15.6)			A G	良好	灰白	10	覆土	施釉ツケガケ 東濃産	
21	灰釉埴	(17.6)			A G	良好	灰白	20	覆土	輪花埴 施釉ツケガケ 東濃産	
22	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産	
23	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産	
24	土師甕	(20.4)			A B F	普通	橙	20	カマド・他		
25	土師甕	(11.7)			A B C F	普通	にぶい赤褐	20	覆土		
26	土師甕			(3.4)	A B F J	普通	橙	60	覆土		
27	土錘	長さ4.2 径1.35 孔径0.4						にぶい橙	100	覆土	
28	土錘	長さ(3.85) 径0.9~0.95 孔径0.25						にぶい黄橙	95	覆土	

第152号住居跡 (第285・286図)

L-14グリッドに位置する。第193号住居跡と重複し、切っている。規模は、主軸長東西4.98m、南北4.06m、深さ14cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-95°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、100cm×57cm、深さ14cmを測る。

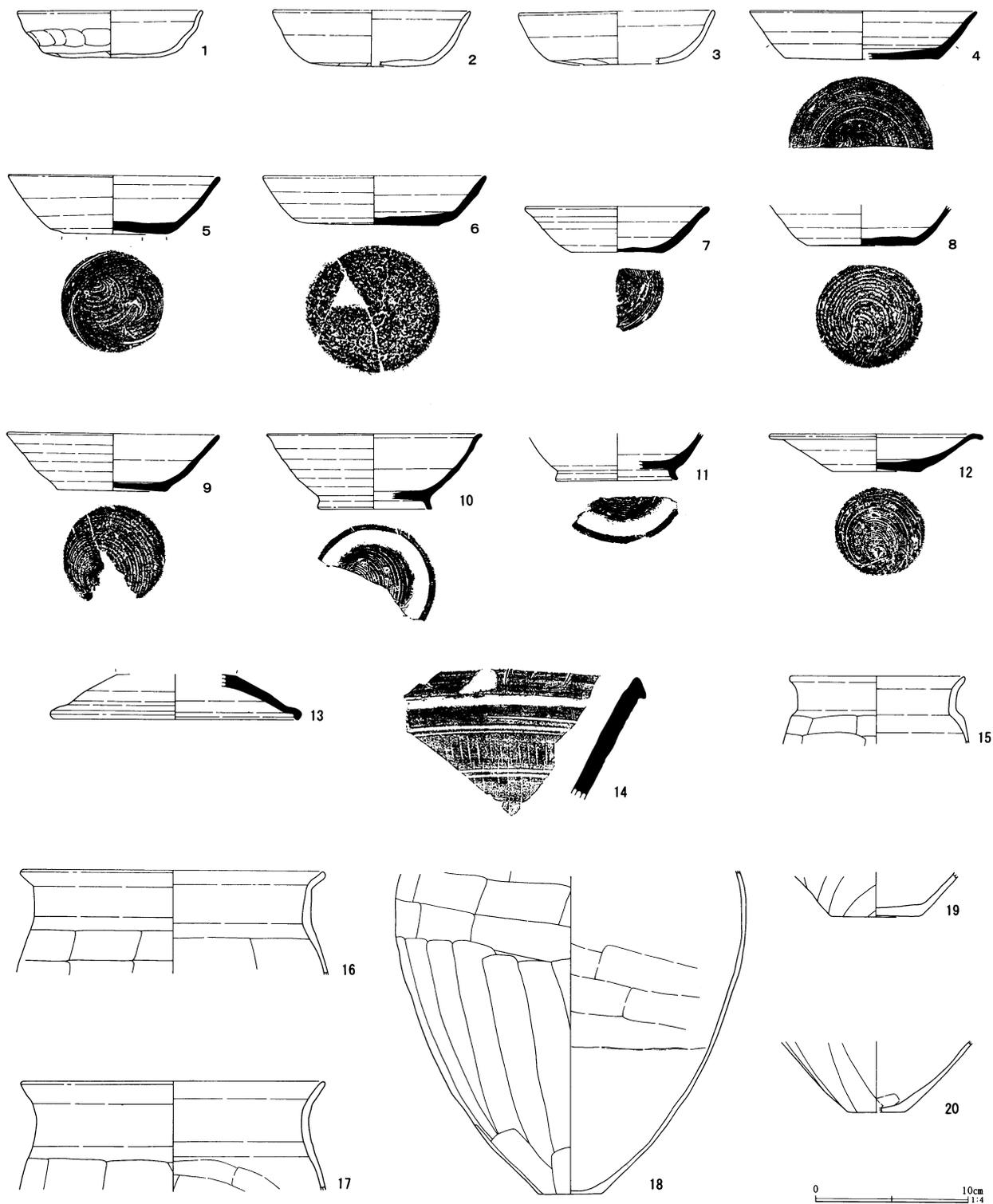
遺物は、土師器坏・須恵器坏、高台坏埴・皿・甕破片、土師器甕が出土した。



第285図 第152号住居跡

第152号住居跡出土遺物観察表 (第286図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.0)	3.2		AB	普通	橙	50	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
2	土師坏	(12.8)	3.7		ABDJ	普通	橙	25	覆土	
3	土師坏	(12.7)	3.5		AF	普通	橙	25	覆土	
4	須恵坏	(14.9)	3.2	(10.2)	AH	良好	灰	45	覆土	外面体部下端～底部全面左回転ヘラ削り 火樽痕 南比企産
5	須恵坏	(13.7)	3.8	6.7	AH	良好	灰	50	覆土	底部周辺右回転ヘラ削り
6	須恵坏	14.4	3.2	8.7	AJ	不良	灰白	85	覆土	底部調整不明
7	須恵坏	(11.9)	3.0	(6.0)	AK	良好	オリーブ灰	20	覆土	
8	須恵坏			7.0	AC	普通	灰白	60	床直	
9	須恵坏	13.3	3.8	7.1	A	不良	灰	80	覆土	
10	須恵高台埴	(13.9)	5.0	7.5	AG	普通	灰	25	覆土	
11	須恵高台埴			(8.0)	AB	良好	黄灰	15	覆土	末野
12	須恵皿	(14.0)	2.5	5.8	AJ	良好	灰	70	覆土	底部回転糸切り
13	須恵蓋	(16.0)			AF	普通	灰黄褐	30	覆土	天井部右回転ヘラ削り
14	須恵甕				FG	普通	灰白	—	覆土	
15	土師甕	(11.3)			ABF	普通	にぶい褐	25	覆土	
16	土師甕	(19.6)			ABF	普通	橙	35	覆土	
17	土師甕	(19.7)			ABF	普通	橙	20	覆土	
18	土師甕			4.2	ABFJ	普通	にぶい橙	70	覆土	



第 286 図 第 152 号住居跡出土遺物

第 152 号住居跡出土遺物観察表 (第 286 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
19	土師甕			5.8	A B C F	良好	にぶい橙	70	覆土	底部一方向ヘラ削り
20	土師甕			(3.7)	A B F	良好	にぶい黄橙	20	覆土	

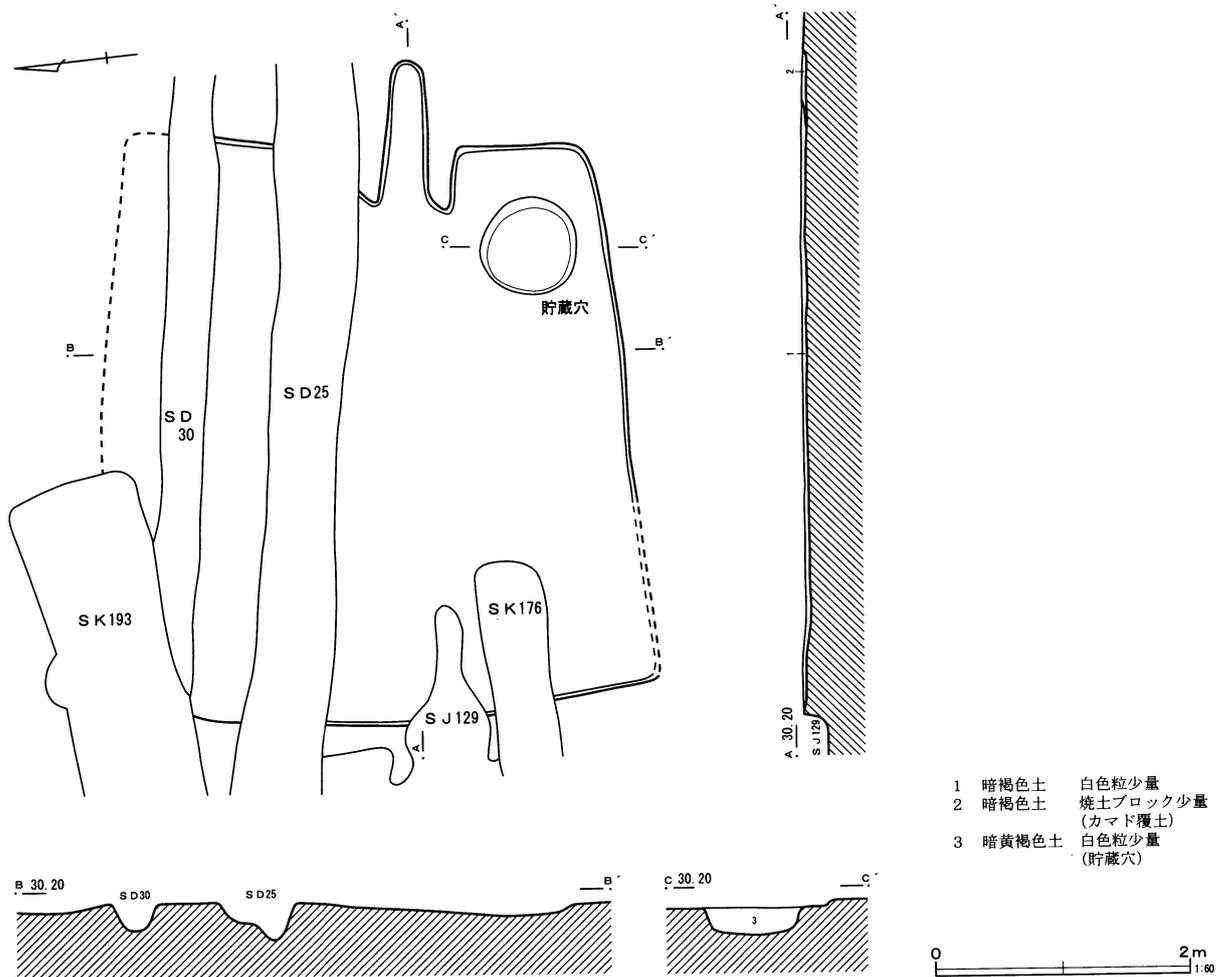
第153号住居跡 (第287図)

J-13グリッドに位置する。第129号住居跡・第176・193号土坑・第25・30号溝と重複している。すべての遺構に切られており、北壁は確認できなかった。規模は、主軸長東西4.36m、西壁で確認できた南北3.70m、深さ4cm程を測る。平面形は、

長方形を呈する。主軸方位は、N-95°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東に設けられており、76cm×76cmの円形で、深さ21cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、60cm×33cmを測り、床面と同じ高さである。



第287図 第153号住居跡

第155号住居跡 (第288・289図)

H-13・14グリッドに位置する。第163号住居跡・第3号性格不明遺構と重複し、性格不明遺構に住居跡の殆どが切られている。主軸方位は、N-20°-Eを指す。

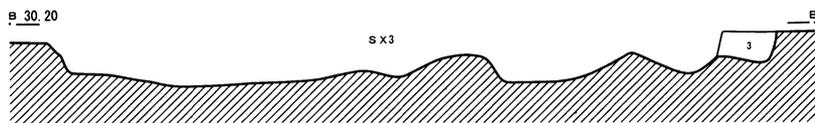
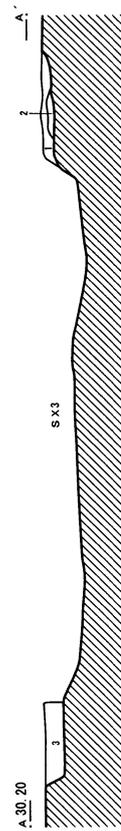
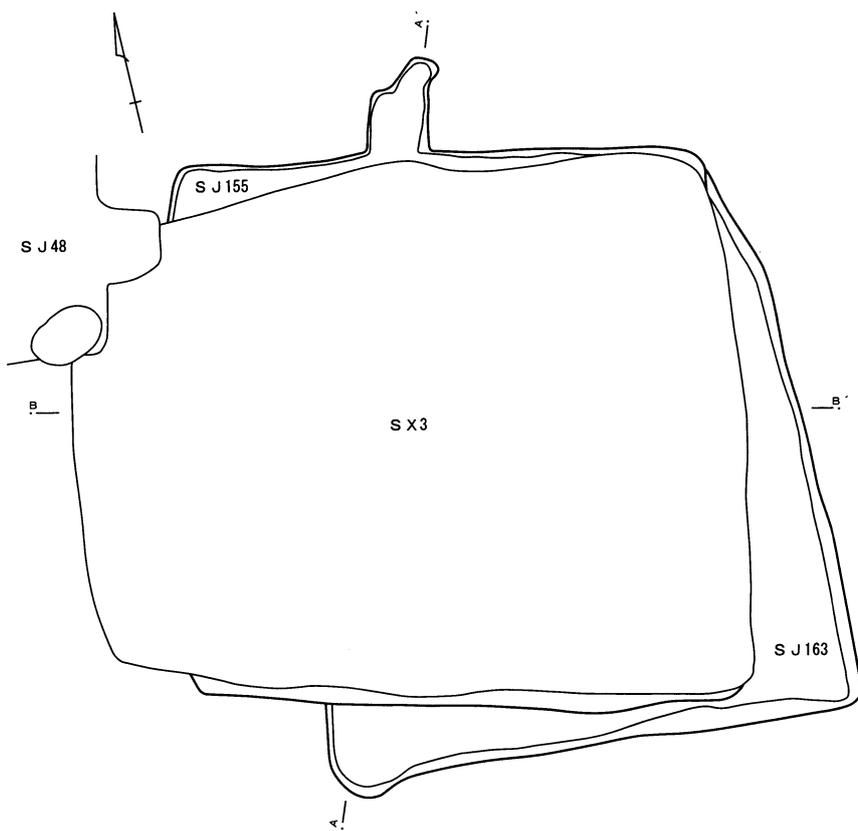
カマドは、北壁西寄りに設けられている。燃焼部

は、確認できた35cm×47cmを測る。

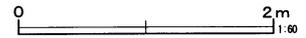
遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付碗が出土した。

第163号住居跡 (第288・290図)

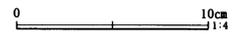
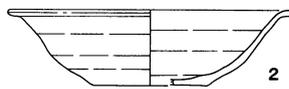
H-13・14グリッドに位置する。第155号住居跡・第3号性格不明遺構と重複し住居跡殆どが切られて



- 1 暗褐色土 白色粒少量
- 2 暗褐色土 白色粒・焼土粒・炭化物少量
- 3 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量(S J 163)



第 288 図 第 155・163 号住居跡



第 289 図 第 155 号住居跡出土遺物

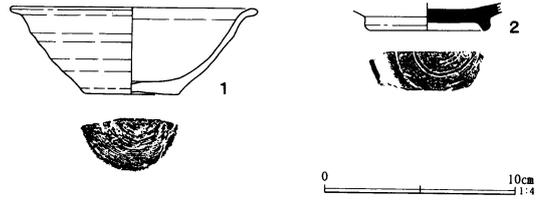
第 155 号住居跡出土遺物観察表 (第 289 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師环			(6.0)	A F J	普通	にぶい橙	25	覆土	
2	須恵环	(14.7)	4.0	(6.0)	A F J K	普通	にぶい黄橙	25	覆土	酸化焰焼成
3	須恵高台碗	(14.5)	5.2	(7.0)	A I J K	普通	灰	30	覆土	

いる。規模は、主軸長南壁で東西4.20 m、東壁で南北4.00 m、深さ23cm程を測る。主軸方位は、N-0°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器坏、灰釉陶器高台付壺が出土した。



第290図 第163号住居跡出土遺物

第163号住居跡出土遺物観察表 (第290図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.6)	4.6	(5.1)	A F J	普通	にぶい赤褐	65	覆土	酸化焰焼成
2	灰釉高台付壺			(6.5)	A J	良好	灰白	10	覆土	底部高台内へラ削り 施釉なし 浜北産

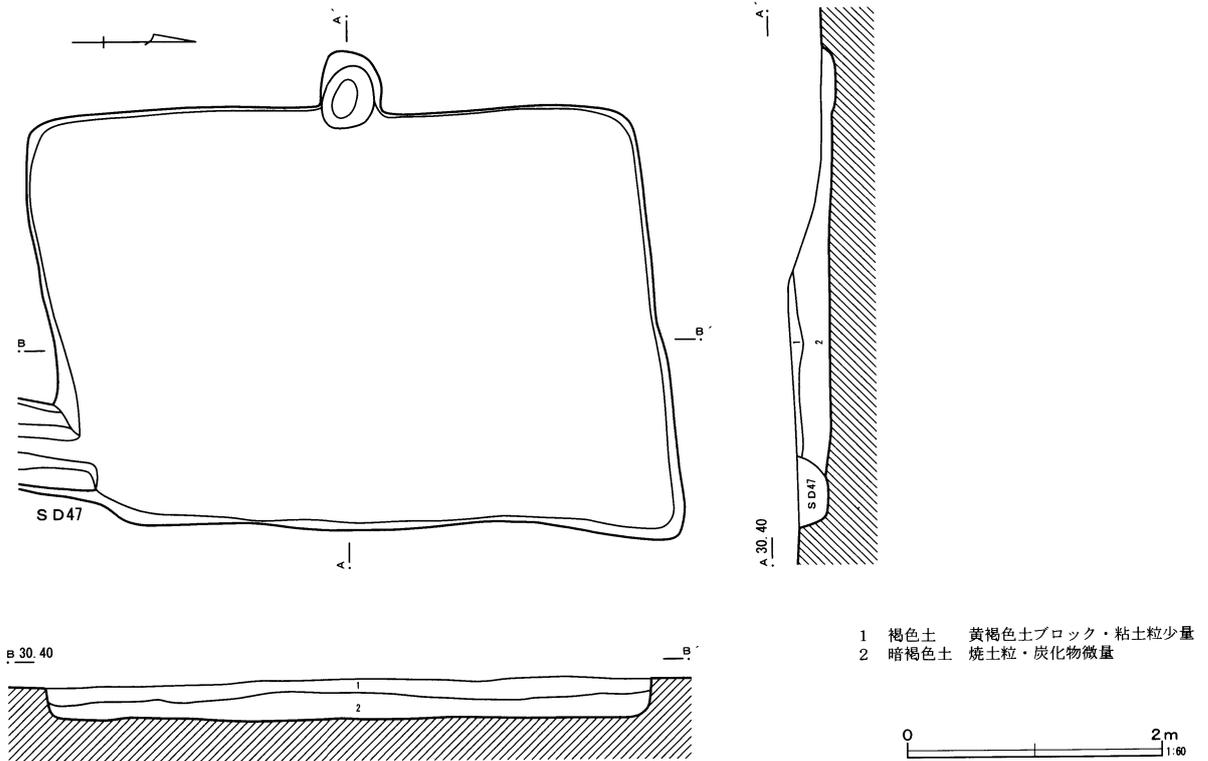
第156号住居跡 (第291・292図)

H・I-14グリッドに位置する。第47号溝と重複し、切られている。規模は、主軸長東西3.34 m、南北4.77 m、深さ30cm程を測る。平面形は、歪んだ長方形を呈する。主軸方位は、N-90°-Wを指

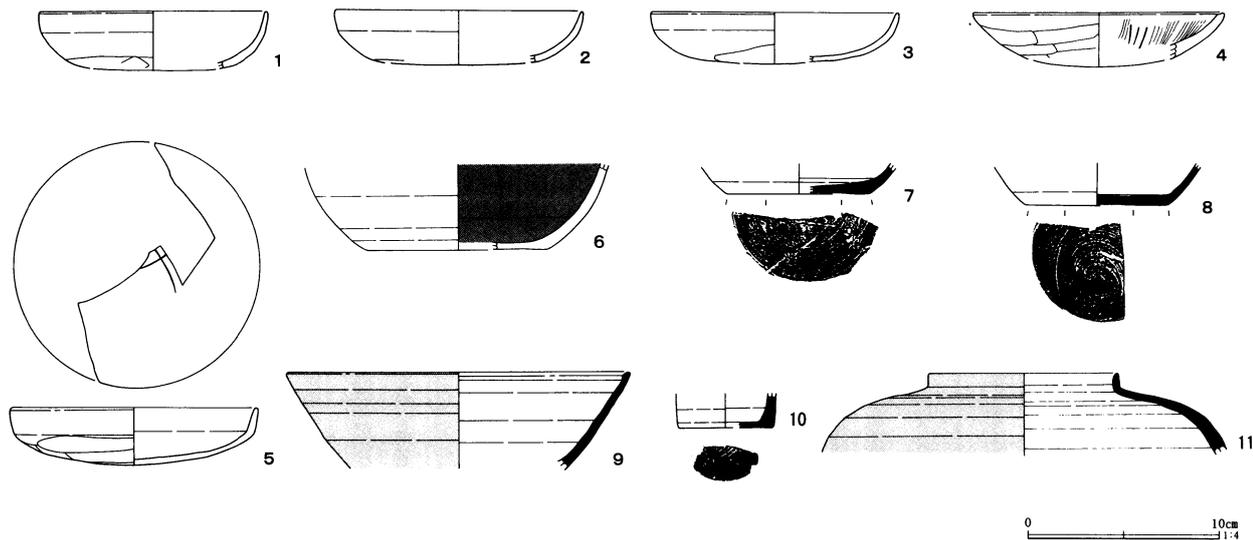
す。

カマドは、東壁に設けられている。60cm×48cmの掘り方が残存していた。

遺物は、土師器坏・壺、須恵器坏・壺・コップ型土器・短頸壺が出土した。



第291図 第156号住居跡



第292図 第156号住居跡出土遺物

第156号住居跡出土遺物観察表 (第292図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(11.8)			A B C F	普通	にぶい橙	15	覆土	
2	土師杯	(12.9)			A B F	普通	にぶい橙	20	覆土	
3	土師杯	(12.9)	(2.7)		A B	普通	にぶい橙	20	覆土	
4	土師杯	(13)			A C F J	良好	橙	15	覆土	内面放射状の暗文
5	土師杯	12.8	3.0		A B F	普通	橙	40	覆土	底部内面「×」のヘラ描き
6	土師壺			(9.4)	A F G	普通	にぶい黄橙	20	覆土	黒色土器 底部右回転ヘラ削り
7	須恵杯			(7.4)	A C G H	普通	黄灰	35	覆土	
8	須恵杯			(7.3)	A G H	良好	灰	25	覆土	底部周辺右回転ヘラ削り
9	須恵壺	(17.8)			A G	良好	灰	10	覆土	外面自然釉
10	須恵コップ			(4.9)	A G H	良好	灰	25	覆土	
11	須恵短頸壺	(9.9)			A G	良好	暗緑	10	覆土	外面全面自然釉

第157号住居跡 (第293・294図)

N-12グリッドに位置する。西壁は攪乱を受け確認できなかった。第200号住居跡と重複し、切っている。規模は、主軸長南壁で東西3.00m、南北2.80m、深さ16cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

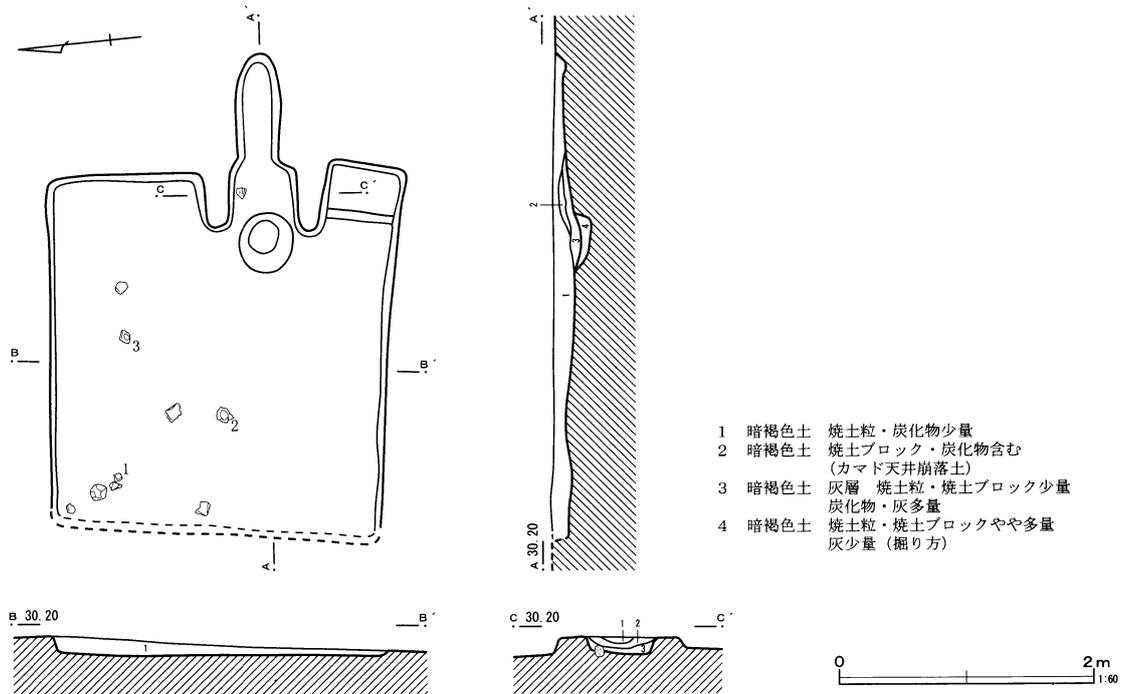
東壁のカマド南側が、15cm程高く棚状になっている。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、85cmが残存していた。煙道部は、長さ88cmが確認できた。

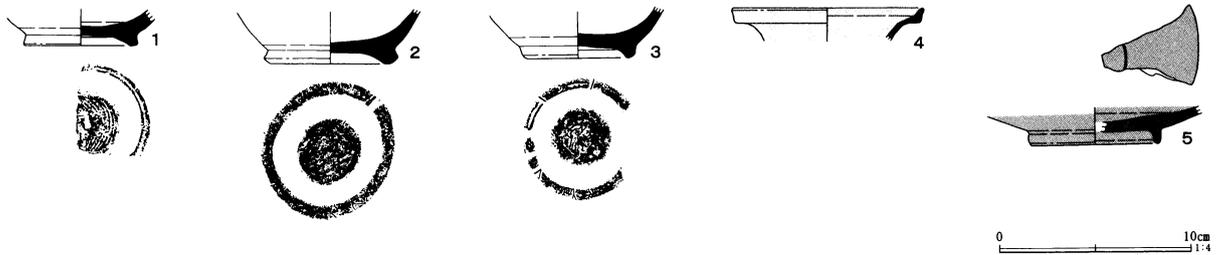
遺物は、須恵器高台付壺、灰釉陶器長頸瓶、緑釉陶器高台付皿が出土した。

第157号住居跡出土遺物観察表 (第294図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壺			(6.0)	I J	良好	オリーブ黒	35	覆土	底部回転糸切り
2	須恵高台壺			7.0	A B J	不良	にぶい黄橙	70	覆土	
3	須恵高台壺			5.8	A C I	普通	にぶい黄橙	60	覆土	
4	灰釉長頸瓶	(9.9)			G	良好	灰白	10	覆土	施釉ハケヌリ 東濃産
5	緑釉高台皿			(6.7)	A	良好	-	10	覆土	底部内面円文 猿投産



第293図 第157号住居跡



第294図 第157号住居跡出土遺物

第158号住居跡 (第295・296図)

M・N-12・13グリッドに位置する。第159・183号住居と重複し、2軒とも切っている。規模は、主軸長東西2.95m、南北3.45m、深さ8cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-

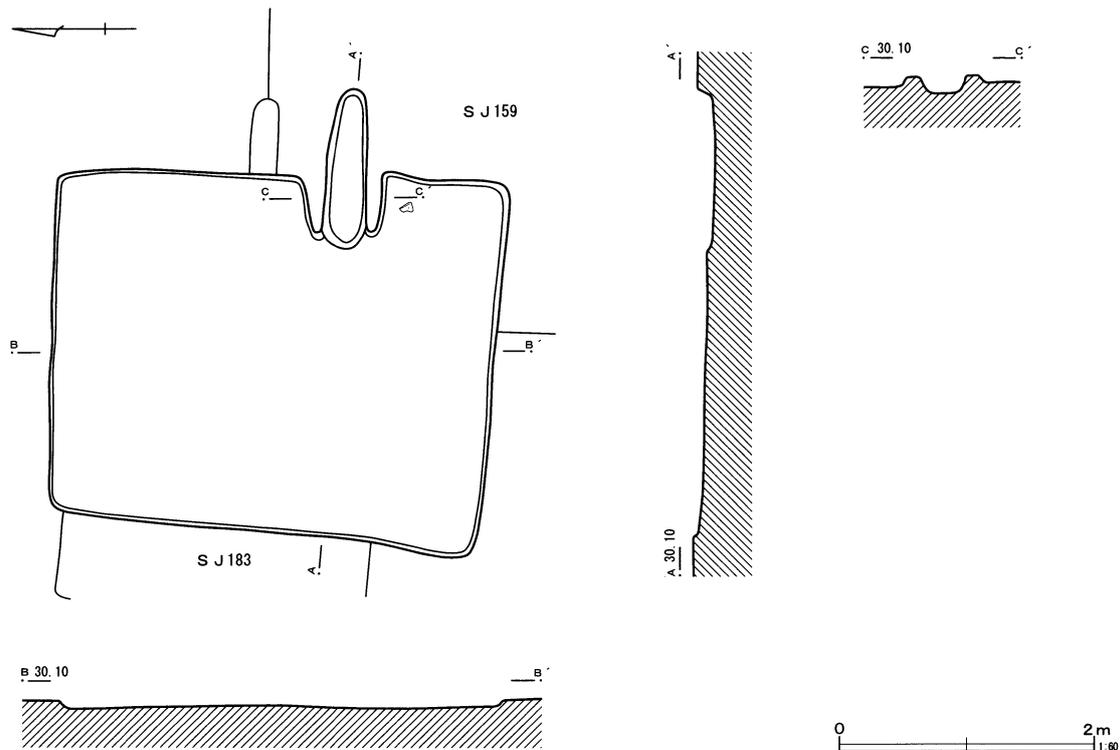
94°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、掘り方として125cm×33cm、深さ8cmが確認できた。

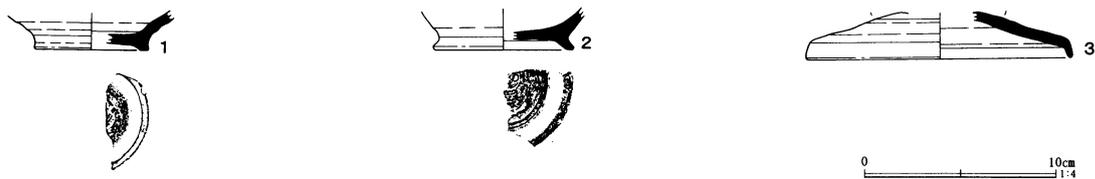
遺物は、須恵器高台付壺・蓋が出土した。

第158号住居跡出土遺物観察表 (第296図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壺			(5.9)	A G	普通	灰	25	覆土	
2	須恵高台壺			(7.3)	A F	普通	灰	20	覆土	底部のみ酸化焰焼成
3	須恵蓋	(13.8)			A	良好	灰	15	覆土	天井部右回転ヘラ削り



第 295 図 第 158 号住居跡



第 296 図 第 158 号住居跡出土遺物

第 159 号住居跡 (第 297・298 図)

N-13 グリッドに位置する。第 158・183 号住居跡と重複し、北西隅が切られている。規模は、主軸長東西 3.95 m、南北 3.46 m、深さ 12cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-93°-

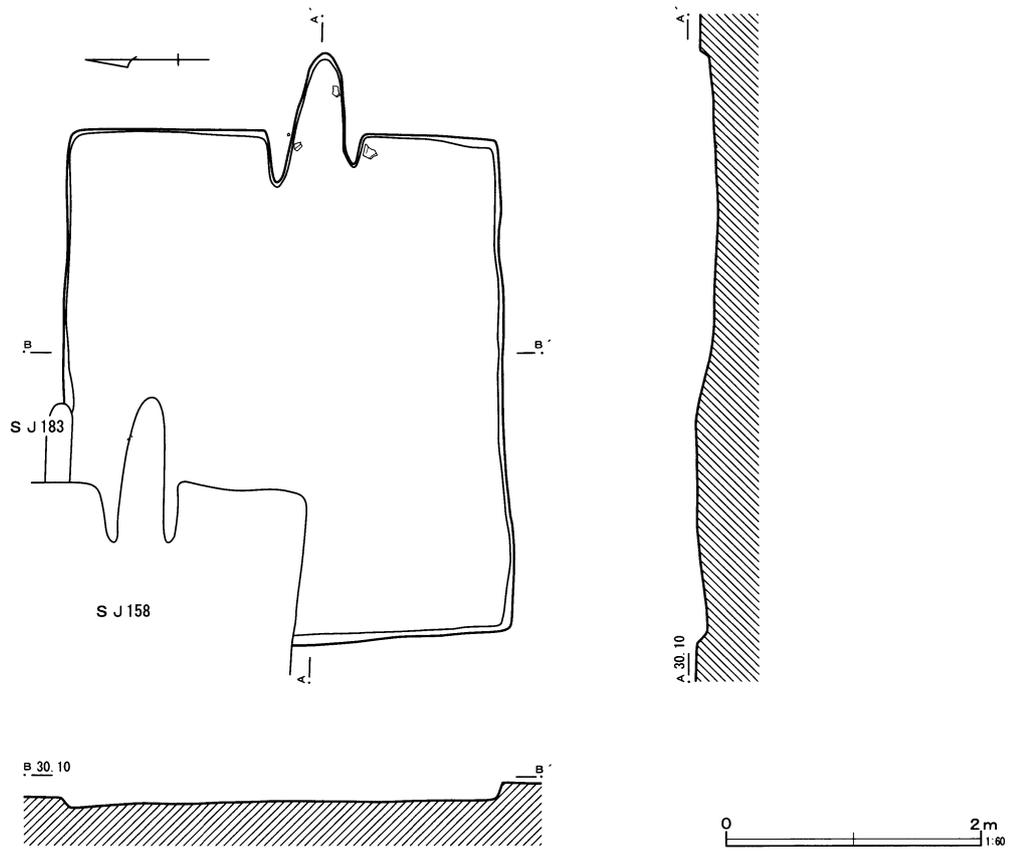
E を指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられ、掘り方のみが確認できた。

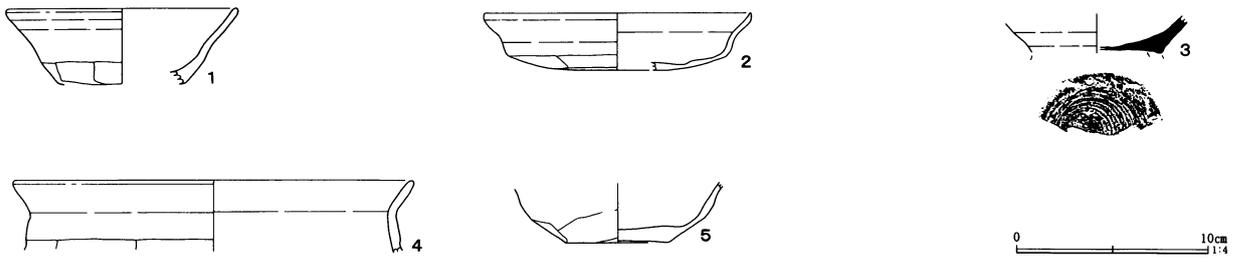
遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付碗が出土した。

第 159 号住居跡出土遺物観察表 (第 298 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)	3.0	(6.7)	AB	普通	灰褐	10	覆土	高台欠損
2	土師坏	(13.9)			AB	不良	橙	15	覆土	
3	須恵高台碗				AJ	良好	灰	30	覆土	
4	土師甕	(20.8)	ABF	良好	灰黄褐	10	覆土			
5	土師甕		5.5	ABCF	普通	にぶい褐	70	覆土		



第 297 图 第 159 号住居跡



第 298 图 第 159 号住居跡出土遺物

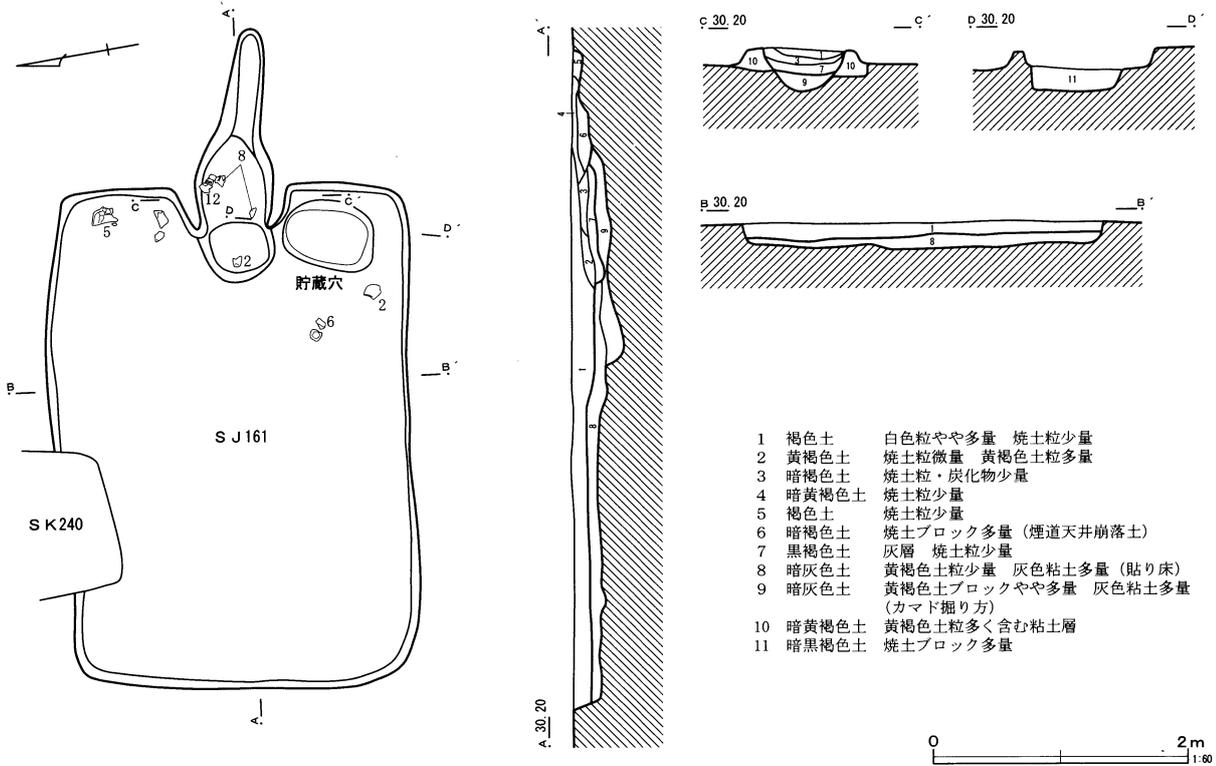
第161号住居跡 (第299・300図)

G-15グリッドに位置する。第174号住居跡・第240号土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡を切っている。第240号土坑・当住居跡・第174号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西3.98m、南北2.84m、深さ12cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-98°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東に設けられており、55cm×71cmの楕円形で、深さ34cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、110cm×62cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ90cmが確認できた。

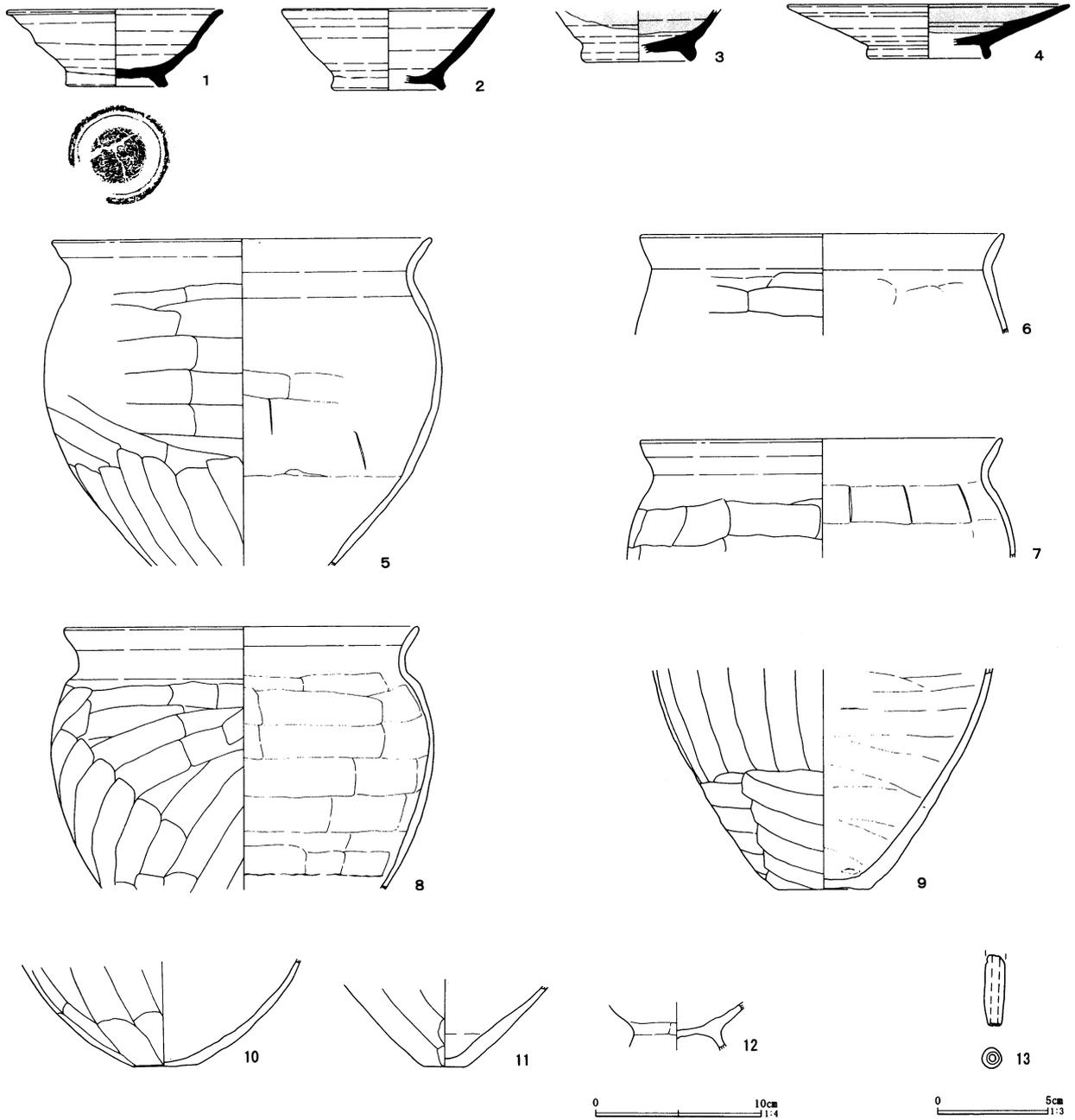
遺物は、須恵器高台壺、土師器甕・台付甕、土錘が出土した。



第299図 第161号住居跡

第161号住居跡出土遺物観察表 (第300図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壺	13.2	4.7	6.2	A F J	普通	灰黄	80	カマド	底部回転糸切り
2	須恵高台壺	(12.8)	5.0	(6.5)	A J	普通	黒褐	15	カマド	
3	灰釉高台壺			(6.4)	A G	良好	灰白	15	覆土	底部高台内糸切り 施釉ツケガケ 浜北産
4	灰釉高台段皿	(17.0)	3.3	(7.0)	A K	良好	灰黄	15	床下土坑	底部高台内ヘラ削り ハケヌリー筆 二川産
5	土師甕	(22.7)			A F G	普通	にぶい褐	40	床直	
6	土師甕	(21.8)			A F J	普通	浅黄橙	10	覆土	
7	土師甕	(21.7)			A F	普通	橙	25	貯蔵穴	
8	土師甕	(21.3)			A B F J	普通	橙	50	カマド	
9	土師甕			5.6	A B F J	普通	灰褐	60	貯蔵穴	
10	土師甕			(3.9)	A B F J	普通	橙	40	床下土坑	
11	土師甕			(2.5)	A B F J	普通	橙	35	貯蔵穴	
12	土師台付甕				A B F	普通	灰黄褐	70	覆土	
13	土錘	長さ3.2	径0.92	孔径0.30		普通	橙	70	覆土	



第300図 第161号住居跡出土遺物

第162号住居跡 (第301・302図)

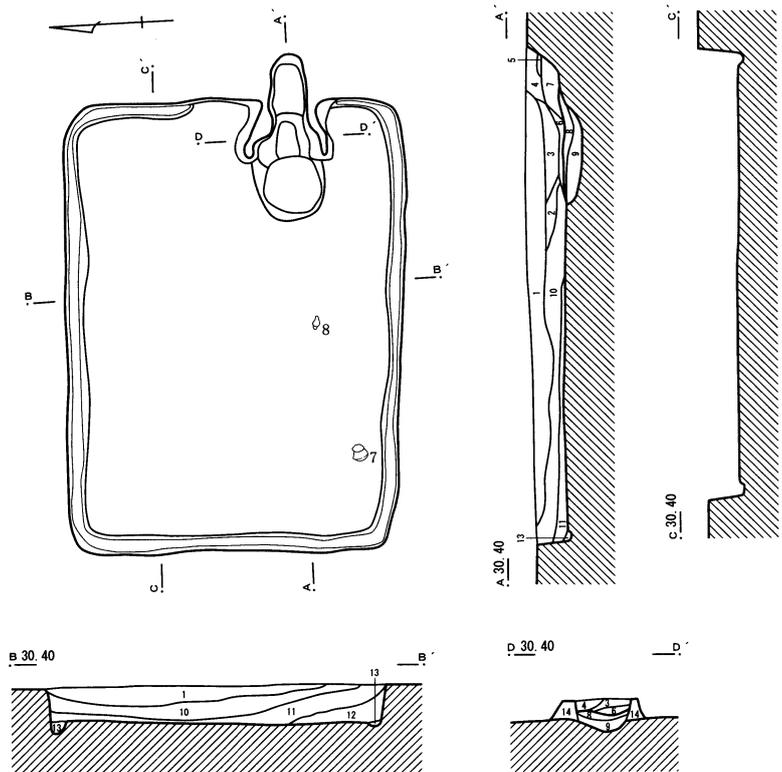
I-13・14グリッドに位置する。第169・191号住居跡と重複し、2軒とも切っている。規模は、主軸長東西3.54m、南北2.60m、深さ30cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-92°-Eを指す。

壁溝は、カマドを除き全周し、幅8~18cm、深

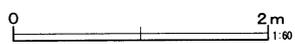
さ5~10cmを測る。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部は、85cm×55cm、深さは床面と同じで、煙道部は長さ46cmが確認できた。

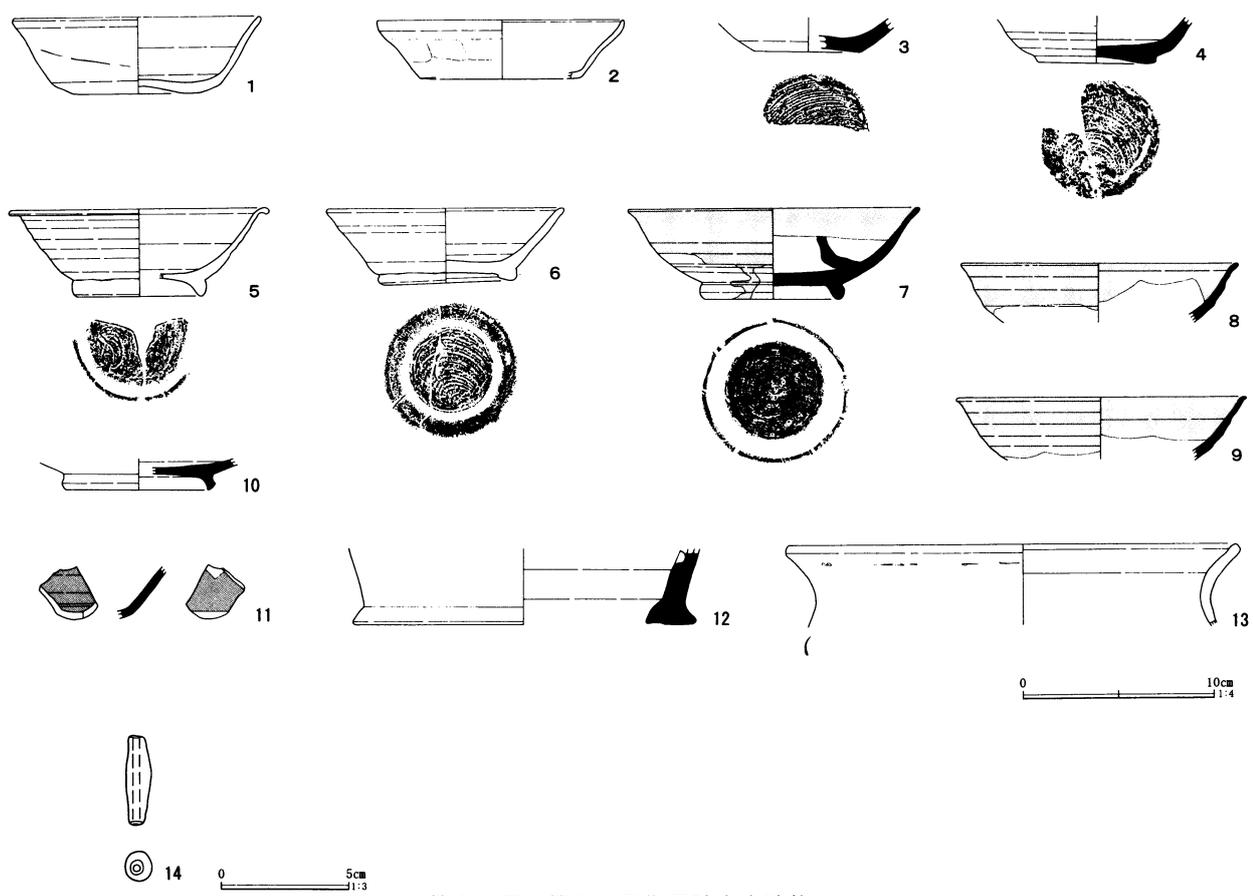
遺物は、土師器坏・高台坏壘・甕、須恵器坏・甌、土錘が出土した。



- | | |
|----------|--------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 白色粒・焼土粒・炭化物少量
土器片多量に含む |
| 2 黒色土 | 灰層 焼土粒・炭化物 |
| 3 黒褐色土 | 焼土ブロック・灰多量 |
| 4 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 |
| 5 暗赤褐色土 | 焼土粒多量 焼土ブロック帯状に堆積
(煙道天井崩落土) |
| 6 黒色土 | 灰層 焼土粒微量 |
| 7 暗灰褐色土 | 焼土粒・灰色粘土少量 炭化物微量
(カマド構築時貼付) |
| 8 灰褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 (カマド構築時貼付) |
| 9 暗灰褐色土 | 焼土粒微量 炭化物・灰少量
(カマド掘り方) |
| 10 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 |
| 11 黒褐色土 | 焼土粒・炭化物多量 灰少量
遺物多量に含む |
| 12 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物・褐色土ブロック少量 |
| 13 暗黄褐色土 | 炭化物少量 |
| 14 暗褐色土 | 白色粒・焼土粒・炭化物・灰色粘土少量 |



第301図 第162号住居跡



第302図 第162号住居跡出土遺物

第162号住居跡出土遺物観察表 (第302図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.3	4.0	6.5	A F	普通	にぶい黄橙	65	覆土	
2	土師坏	(12.9)		(8.3)	A B C J	普通	にぶい橙	20	カマド	
3	須恵坏			(5.5)	A J	普通	灰黄	40	覆土	
4	須恵坏			6.2	A B C F	普通	明赤褐	85	覆土	
5	土師高台坏	(13.6)	4.6	(6.6)	A B F J	普通	にぶい橙	50	カマド	ロクロ土師器 底部回転糸切り
6	土師高台坏	12.4	4.0	7.3	A B F J	普通	橙	90	覆土	底部右回転糸切り ロクロ土師器
7	灰釉高台坏	15.0	4.8	7.0	A	良好	灰黄	60	覆土	底部～体部内面一部に油煙付着
8	灰釉坏	(14.4)			A	普通	灰黄	25	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
9	灰釉坏	(15.0)			A J	普通	灰黄	20	覆土	施釉ツケガケ 東遠江産
10	灰釉高台皿			(7.5)	A G	普通	灰白	10	覆土	底部高台内糸切り 施釉なし 二川産
11	緑釉稜坏					良好	—	破片	覆土	猿投産
12	須恵甗			(17.7)	G J	普通	灰白	10	覆土	
13	土師甗	(23.4)			A B F G	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
14	土錘	長さ3.5	径1.0	孔径0.3		普通	にぶい黄橙	100	覆土	

第164号住居跡 (第303・304図)

K-13・14グリッドに位置する。第150・175号住居跡と重複し、第150号住居跡にきられ、第175号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西3.69m、南北3.30m、深さ12cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-86°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、123cm×78cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ84cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・甗が出土した。

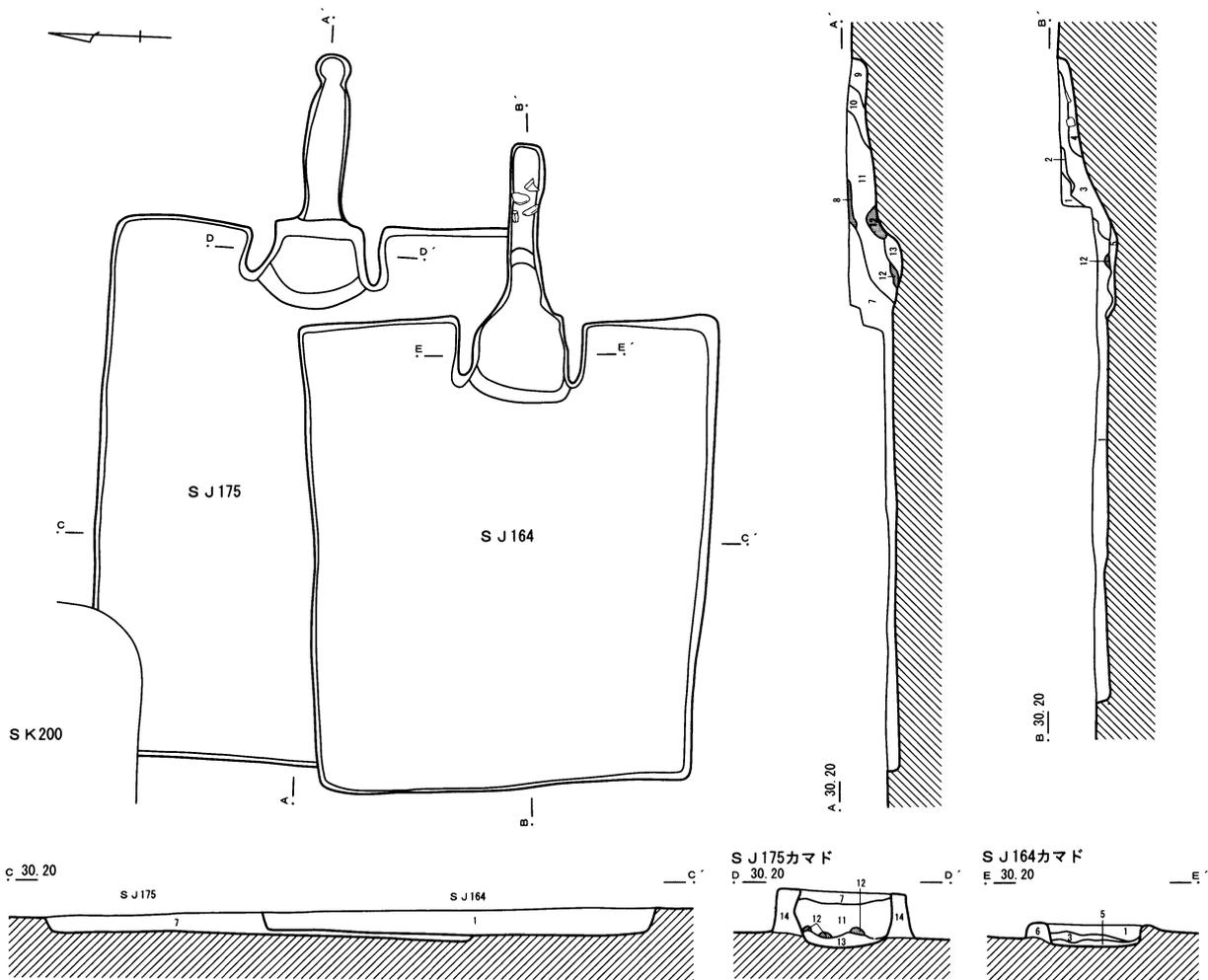
第175号住居跡 (第303・305図)

K-13・14グリッドに位置する。第150・164号住居・第200号土坑と重複し、土坑・両住居跡に切られている。第150号住居跡・第164号住居跡・当住居跡の順に古くなる。南西隅は、第200号土坑に壊されている。規模は、主軸長東西4.27m、南北(3.44)m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、71cm×77cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ132cmが確認できた。

遺物は、須恵器高台坏・坏・皿、土師器甗と鉄

製品が出土した。6・7ともに用途不明の板状鉄製品である。6は現存長3.3cmで、幅が1.8cmに広がる部分がわずかに彎曲する。7は現存長3.6cmで、径0.3cmの孔を有する。

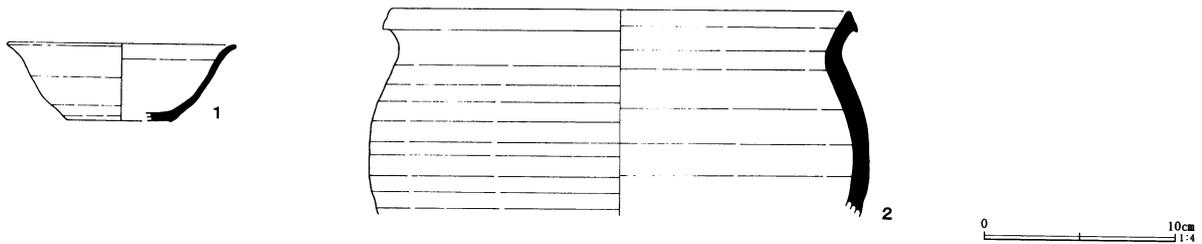


第164・175号住居跡

- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色土 焼土粒微量 黄褐色土粒多量 | 8 暗赤褐色土 焼土層 (カマド天井残欠) |
| 2 暗赤褐色土 焼土層 (カマド天井崩落土) | 9 暗褐色土 焼土粒・灰微量 |
| 3 赤褐色土 カマド天井崩落土・暗褐色土の混土層 | 10 暗褐色土 黄褐色土ブロック混入 |
| 4 暗褐色土 焼土粒多量 炭化物微量 | 11 暗褐色土 焼土粒多量 炭化物少量 |
| 5 黒褐色土 灰層 焼土粒多量 | 12 赤褐色土 焼土層 (カマド天井崩落土) |
| 6 暗褐色灰色土 焼土粒・炭化物少量 灰褐色粘土含む | 13 黒褐色土 灰層 焼土混入 |
| 7 暗褐色土 焼土粒少量 黄褐色土ブロック微量 | 14 暗黄褐色土 白色粒・黄褐色土ブロック少量 焼土粒微量 |



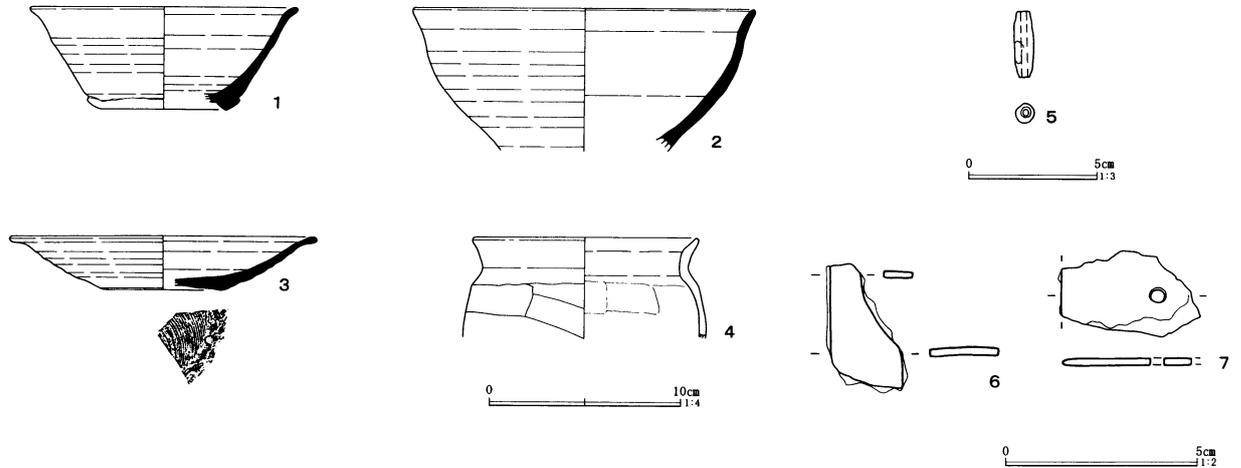
第303図 第164・175号住居跡



第304図 第164号住居跡出土遺物

第164号住居跡出土遺物観察表 (第304図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.8)	4.0	(5.3)	A K	普通	暗灰	10	覆土	底部回転糸切り
2	須恵甕	(23.8)			F H J	普通	灰白	15	覆土	



第305図 第175号住居跡出土遺物

第175号住居跡出土遺物観察表 (第305図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台碗	(14.0)	5.4	(7.4)	A C J K	良好	灰褐	15	覆土	
2	須恵碗	(18.0)			A C J	良好	黄灰	15	カマド	内面やや磨耗する
3	須恵皿	(16.0)	2.8	(6.0)	A J K	良好	灰	10	覆土	底部回転糸切り
4	土師甕	(11.6)			B C F	普通	褐	14	覆土	
5	土錘	長さ2.6	径0.75	孔径0.20		普通	にぶい橙	90	覆土	

第165号住居跡 (第306・307図)

K・L-13・14グリッドに位置する。第151・172号住居跡と重複し、第151号住居跡に北壁南半が切られ、第172号住居跡に入れ子状になって切っている。規模は、主軸長東西5.83m、南北2.86m、深さ27cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-92°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、77cm×37cm、深さ8cm程を測り、煙道部は長さ80cmが確認できた。

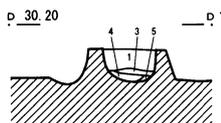
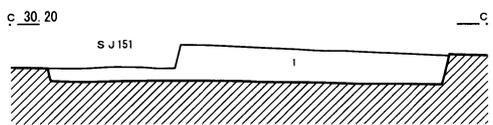
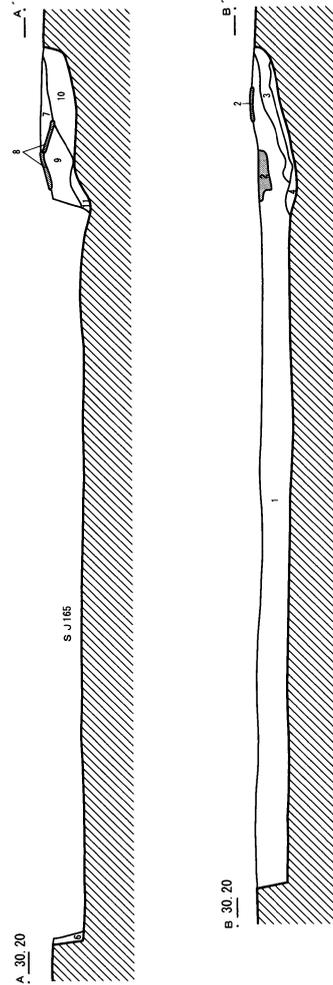
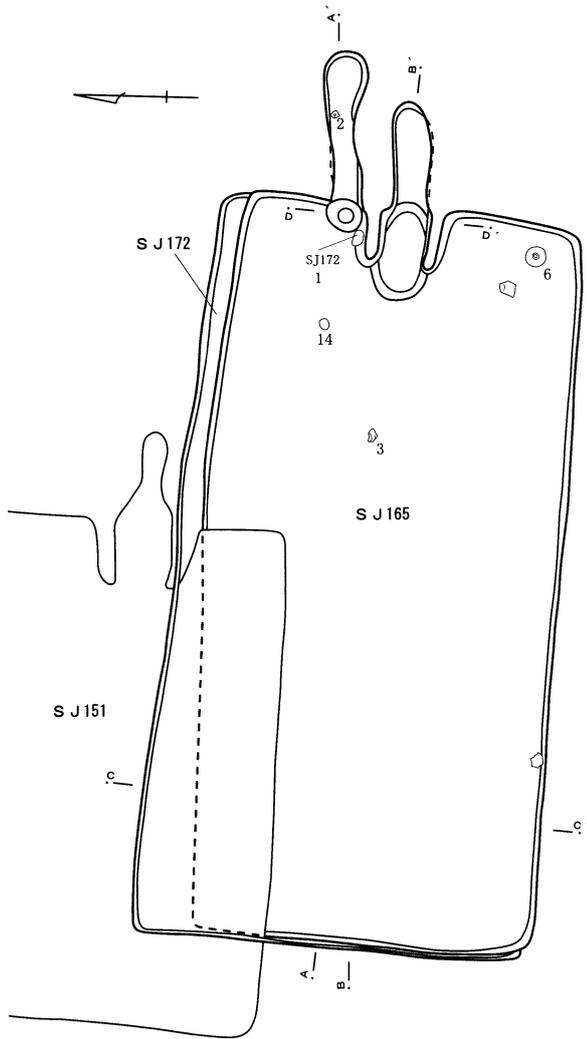
遺物は、須恵器坏・高台坏碗・皿・蓋、土師器台坏甕、灰釉陶器高台付稜碗・緑釉片、土錘、礫が出土した。

第172号住居跡 (第306・308図)

K・L-13・14グリッドに位置する。第151・165号住居跡と重複し、住居跡の殆どが第165号住居跡が入子状になって切られ、北壁西半の上部が第151号住居跡に切られている。規模は、主軸長北壁で東西5.85m、西壁で3.07mが確認でき、深さ24cm程を測る。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、33cm×25cm、深さ13cmを測り、煙道部は長さ90cmが確認できた。

遺物は、碗・高台坏碗が出土した。



第165号住居跡

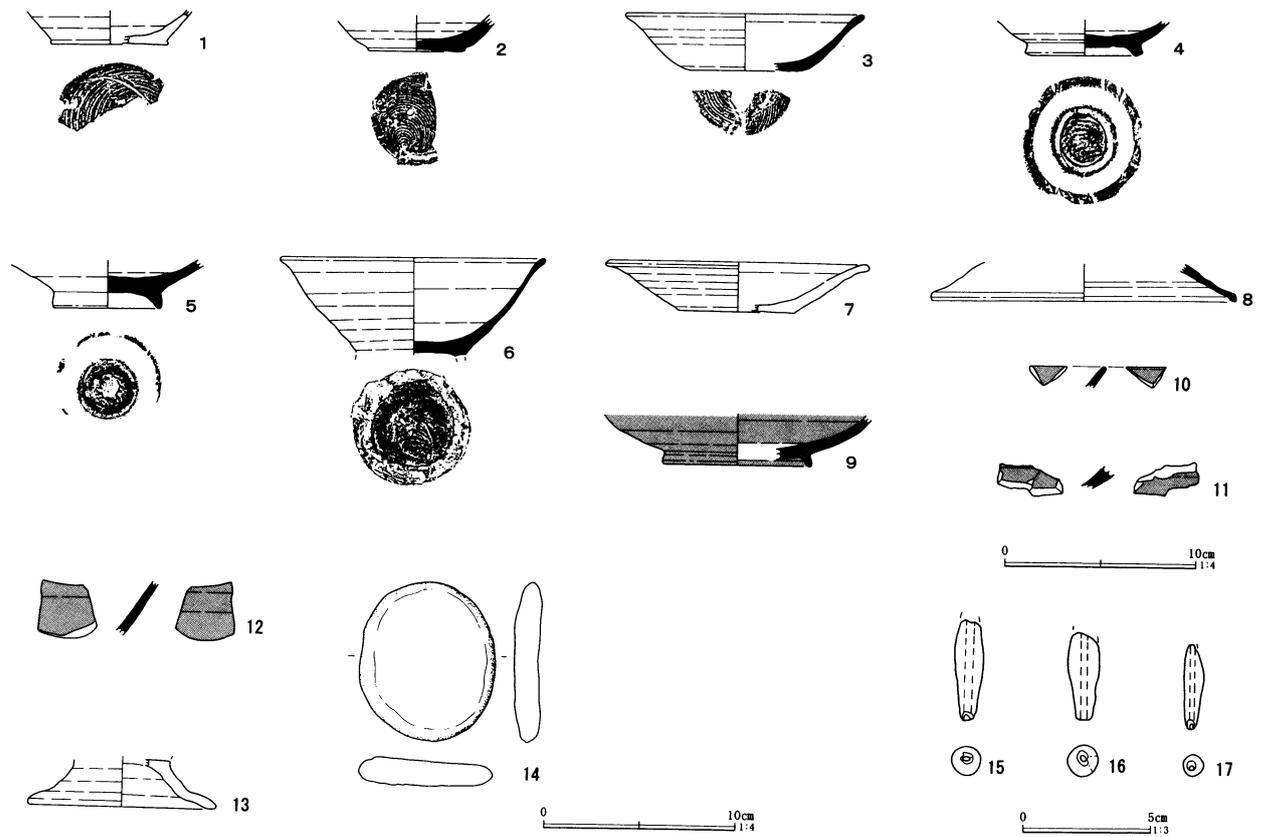
- 1 暗褐色土 焼土粒多量 炭化物少量 白色粒微量
- 2 暗赤褐色土 (カマド天井の残存部分)
- 3 暗赤褐色土 焼土粒主体 (カマド天井崩落土)
- 4 黒褐色土 灰層 焼土粒多量
- 5 暗黄褐色土 (カマド掘り方)

第172号住居跡

- 6 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量
- 7 暗灰褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量
- 8 暗赤褐色土 焼土層 カマド天井 (S J 172)
- 9 暗灰褐色土 焼土ブロックやや多量 炭化物微量
- 10 暗灰褐色土 焼土ブロック多量 炭化物微量 (カマド天井崩落土)
- 11 暗灰褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量 灰少量



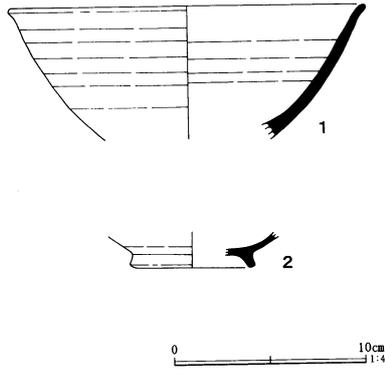
第306図 第165・172号住居跡



第307図 第165号住居跡出土遺物

第165号住居跡出土遺物観察表 (第307図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵杯			(6.1)	A J	良好	灰黄褐	35	覆土	酸化焰焼成
2	須恵杯			5.0	A B J K	良好	灰	40	掘り方	底部回転糸切り
3	須恵杯	(12.3)	3.0	(5.6)	A I K	不良	灰	30	覆土	
4	須恵高台碗			6.1	A I J	普通	灰	70	覆土	底部内面重ね焼痕
5	須恵高台碗			5.5	B C	不良	灰	60	覆土	
6	須恵高台碗	13.6			A J K	普通	灰	90	覆土	高台部欠損
7	須恵皿	(13.7)	2.6	(6.0)	A B F G	不良	にぶい赤褐	13	覆土	酸化焰焼成
8	須恵蓋	(15.8)			A G	普通	灰オリーブ	15	覆土	
9	緑釉稜碗			(7.7)	A G	良好	淡緑	20	覆土	猿投産
10	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
11	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
12	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
13	土師台付甕			(9.7)	A C F	普通	橙	20	覆土	
14	磔	長さ8.3 幅7.0 厚さ1.3						—	覆土	
15	土錘	長さ(3.9)	径1.15	孔径0.3		普通	橙	90	覆土	
16	土錘	長さ(3.4)	径1.2	孔径0.24		普通	にぶい橙	70	覆土	
17	土錘	長さ(3.3)	径0.8	孔径0.2		普通	灰黄褐	90	覆土	



第308図 第172号住居跡出土遺物

第172号住居跡出土遺物観察表 (第308図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵埴	(18.5)			A J K	普通	灰	30	カマド	
2	須恵高台埴			(6.1)	A C J	普通	灰	60	カマド	底部回転糸切り

第166号住居跡 (第309・310・311・312・313図)

L-14・15グリッドに位置する。第186・219号住居跡と重複し、2軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長南北5.32m、東西4.56m、深さ46cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-3°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台坏埴・皿・蓋、灰釉陶器高台付皿・高台坏埴・羽釜・(長頸)瓶・甕・円面硯と鉄製品が出土した。99は鋸を有する鉄製刀子である。切先を含む刃の一部を欠く。現存長10.3cm、茎部長6.8cm、刃部幅0.9~1.3cmである。両関で背刃ともに明瞭な角関である。茎部の表面には柄木の木質が残っている。鋸の大きさは1.4cm×0.7cm、塞がりのない筒状のものである。

第186号住居跡 (第309・314図)

L-14・15グリッドに位置する。第166・219号住居跡と重複し、東壁・南壁・住居跡の殆どが第166号住居跡に切られている。規模は、主軸長西壁で南北4.60m、北壁で東西3.52m、深さ32cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主

軸方位は、N-2°-Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

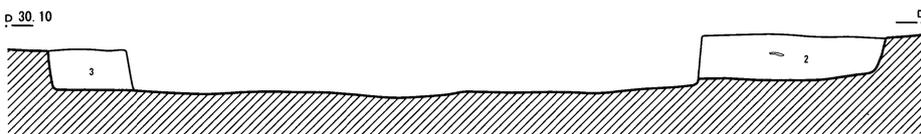
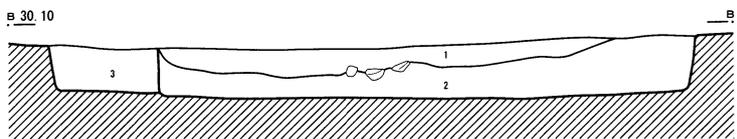
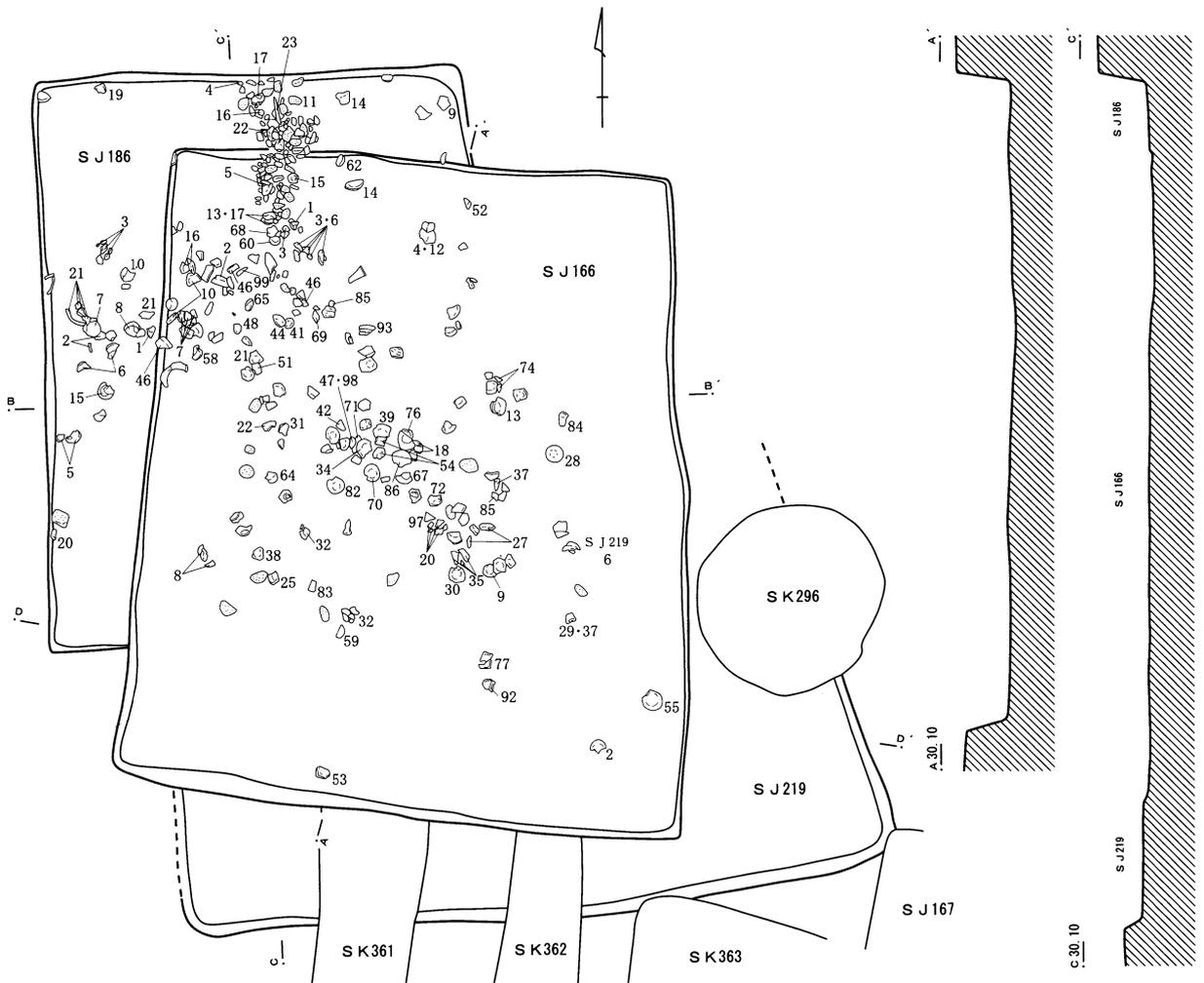
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・蓋・甕・円面硯と鉄製品が出土した。23は鉄製の刀子もしくは刀(短刀)である。切先を含む刃部と、茎の大半を欠く。現存長21.1cm、刃幅1.4~2.5cmである。背関は明瞭な角関である。刃関は失われているため、両関として復元した。

第219号住居跡 (第309・315図)

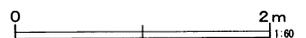
L-14・15グリッドに位置する。第166・167・186号住居跡・第296・361・362・363号土坑と重複し、第166号住居跡に住居跡の殆どが切られ、他の住居跡・土坑にも切られている。規模は、南壁で東西5.16m、南北は不明、深さ35cm程を測る。主軸方位は、N-8°-Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

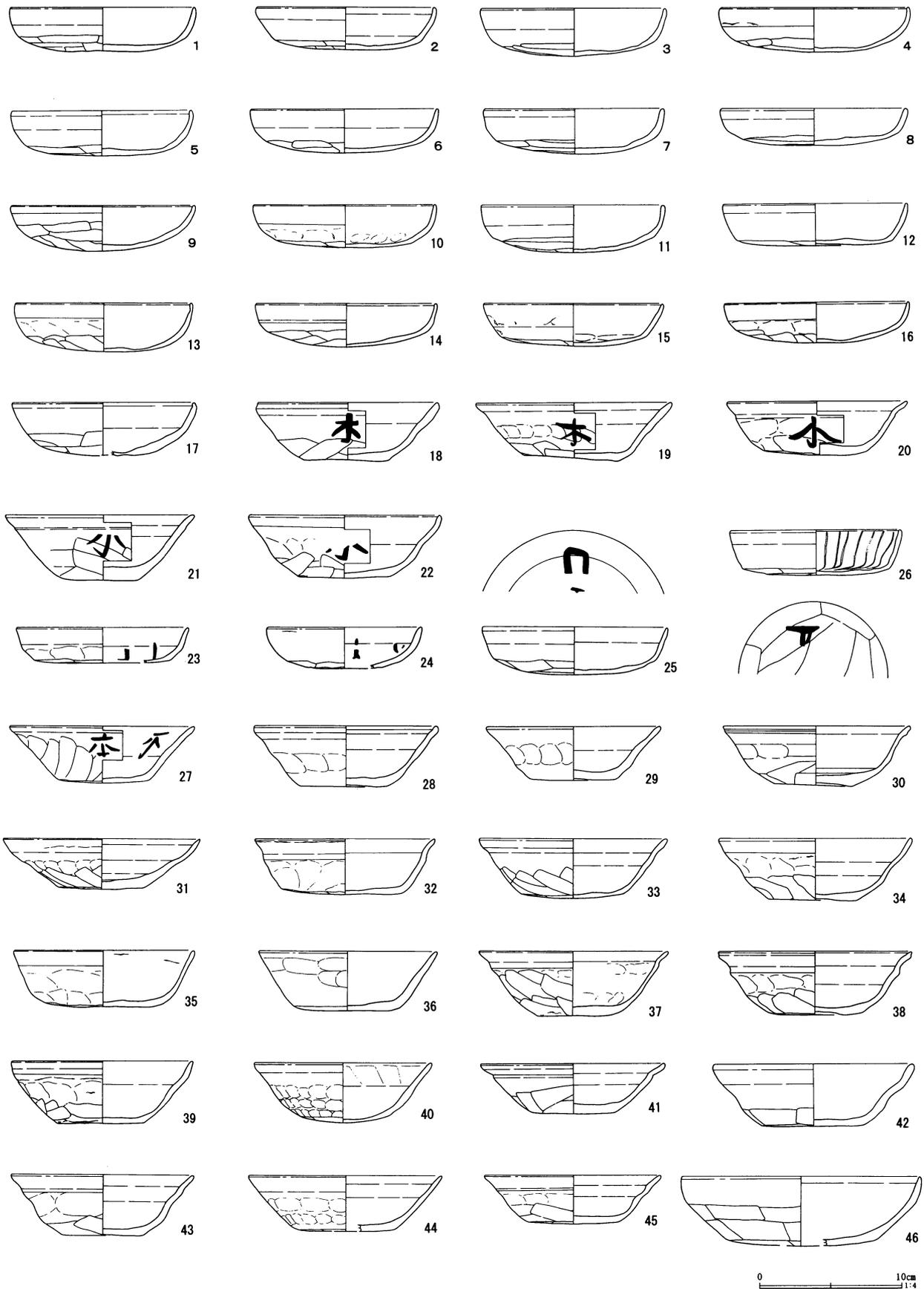
遺物は、土師器坏、須恵器坏・埴・蓋、灰釉陶器高台埴と鉄製品が出土した。11は用途不明の棒状鉄製品である。現存長は3.6cm。断面は蒲鋒形を呈する。



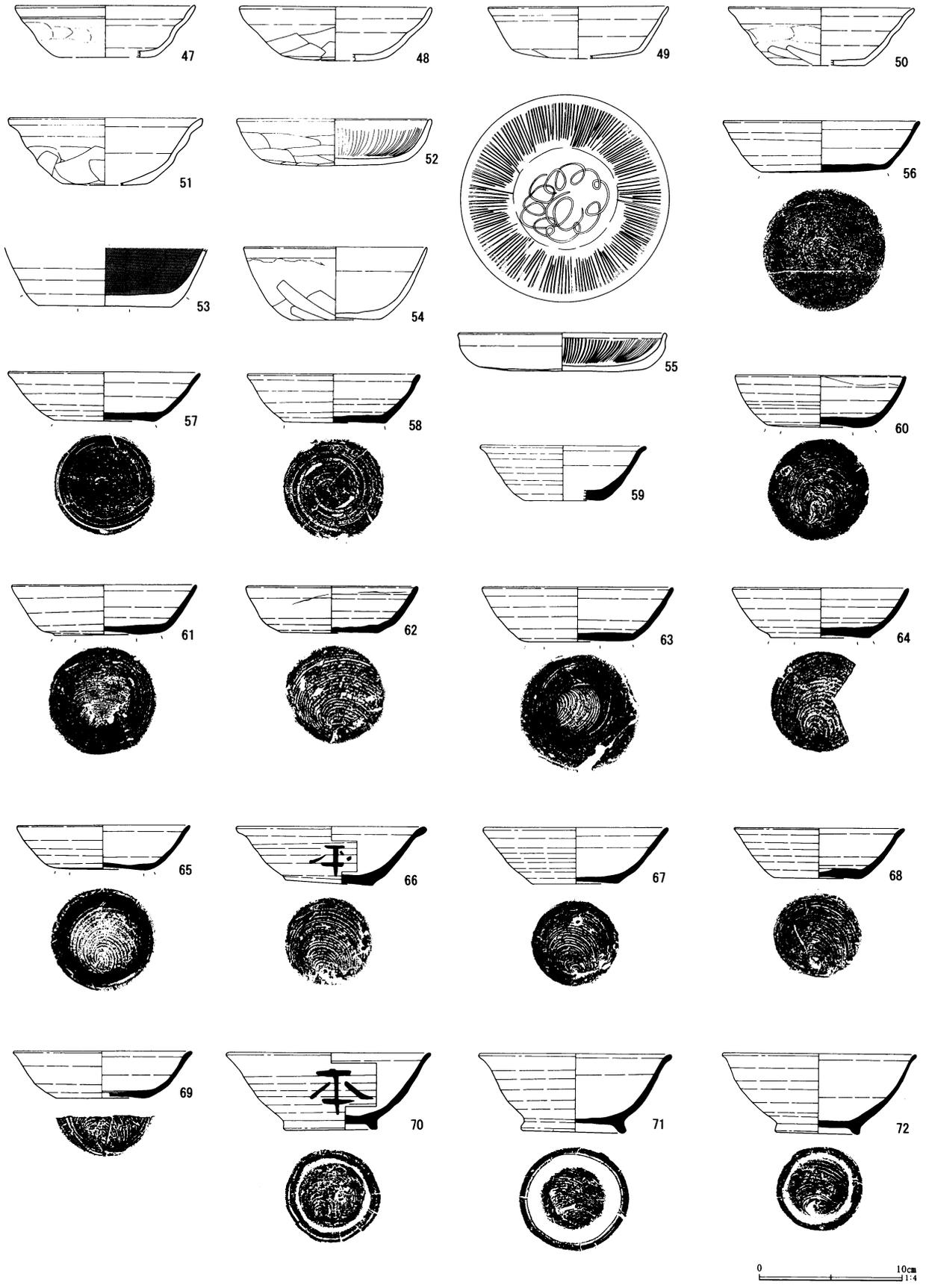
- 第166・186・219号住居跡
- 1 暗褐色土 焼土粒少量 炭化物多量
 - 2 暗灰褐色土 焼土粒少量 炭化物・灰多量
 - 3 暗褐色土 焼土粒少量 炭化物多量 (S J 186覆土)



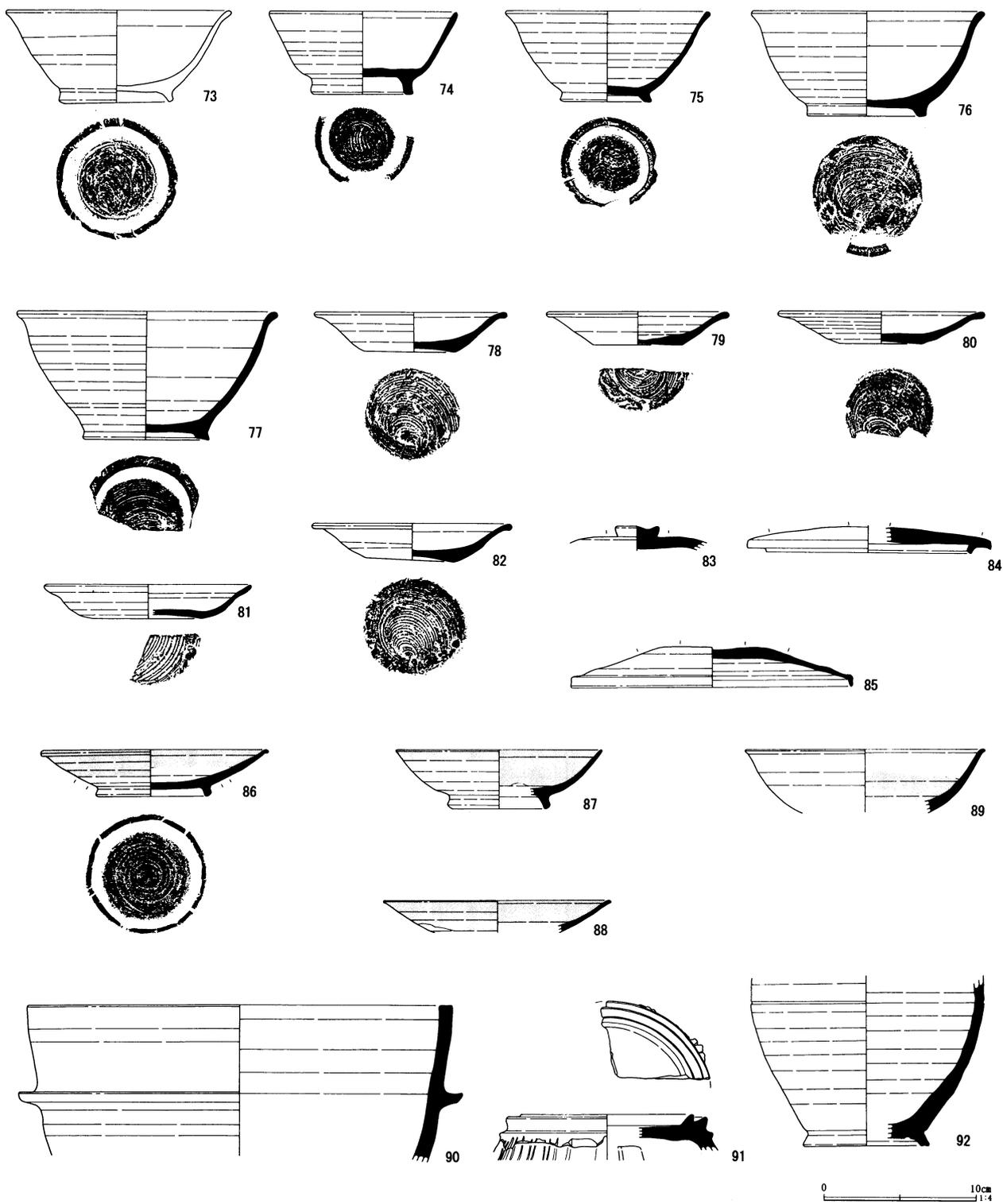
第309図 第166・186・219号住居跡



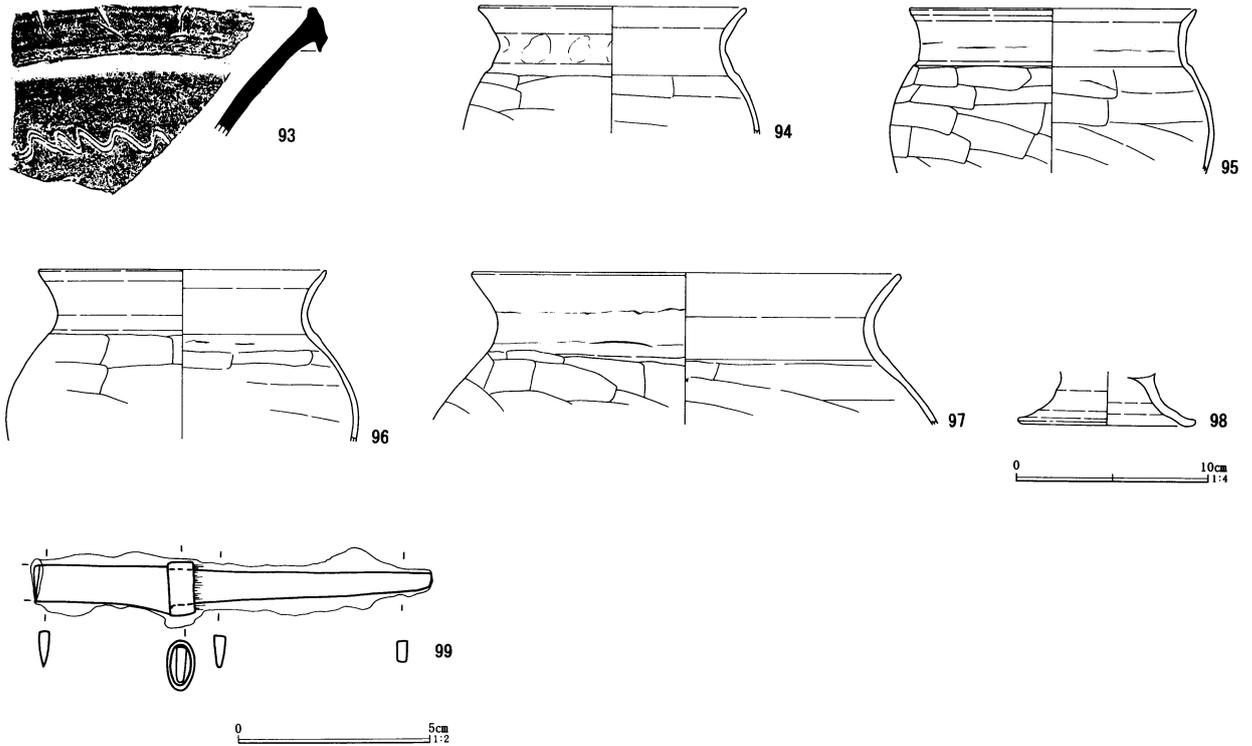
第310图 第166号住居跡出土遺物(1)



第 311 図 第 166 号住居跡出土遺物 (2)



第312图 第166号住居跡出土遺物(3)



第 313 図 第 166 号住居跡出土遺物 (4)

第 166 号住居跡出土遺物観察表 (第 310 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.9)	3.1		A C G	普通	にぶい橙	40	覆土	
2	土師坏	12.5	3.0	10.3	A B C J	普通	橙	95	覆土	
3	土師坏	(13.0)	2.9		A J	普通	にぶい橙	45	覆土	
4	土師坏	13.3	3.2		A B F	普通	橙	90	床直	
5	土師坏	12.6	3.2		B J	良好	橙	70	覆土	
6	土師坏	(13.0)	3.1		A B	普通	にぶい橙	50	覆土	
7	土師坏	12.5	3.2		A J	良好	にぶい橙	70	覆土	
8	土師坏	(12.8)	2.6		A C J	普通	橙	50	床直	
9	土師坏	12.9	3.3		A B C	普通	にぶい橙	100	床直	
10	土師坏	12.8	3.1		B C F	普通	にぶい橙	100	覆土	
11	土師坏	(12.7)	3.4		A B F	普通	橙	65	覆土	
12	土師坏	(12.8)	2.6	(10.9)	A B C	普通	橙	40	床直	口縁部外面～内面底部外周回転ナデ
13	土師坏	12.5	3.5		B C J	普通	橙	85	覆土	
14	土師坏	12.7	3.1		A B C J	普通	にぶい橙	95	覆土	
15	土師坏	12.6	3.1		B C F	普通	橙	90	覆土	
16	土師坏	13.0	2.9		B C F J	普通	にぶい橙	80	覆土	
17	土師坏	12.8	3.8		A B C G	普通	にぶい橙	95	覆土	歪みあり
18	土師坏	12.7	4.1	5.8	A F	良好	にぶい橙	95	覆土	墨書「木」 体部内面回転ナデ
19	土師坏	13.7	4.0	6.5	A F	良好	橙	98	覆土	墨書「木」 体部内面回転ナデ
20	土師坏	12.8	3.9	7.4	A B F	普通	にぶい橙	70	覆土	墨書「木」
21	土師坏	(13.1)	4.2	5.1	A B F	良好	浅黄橙	60	覆土	墨書「木」
22	土師坏	(13.6)	4.5	6.6	A B C F J	普通	にぶい黄橙	70	覆土	墨書「木」

第 166 号住居跡出土遺物観察表 (第 310・311 図)

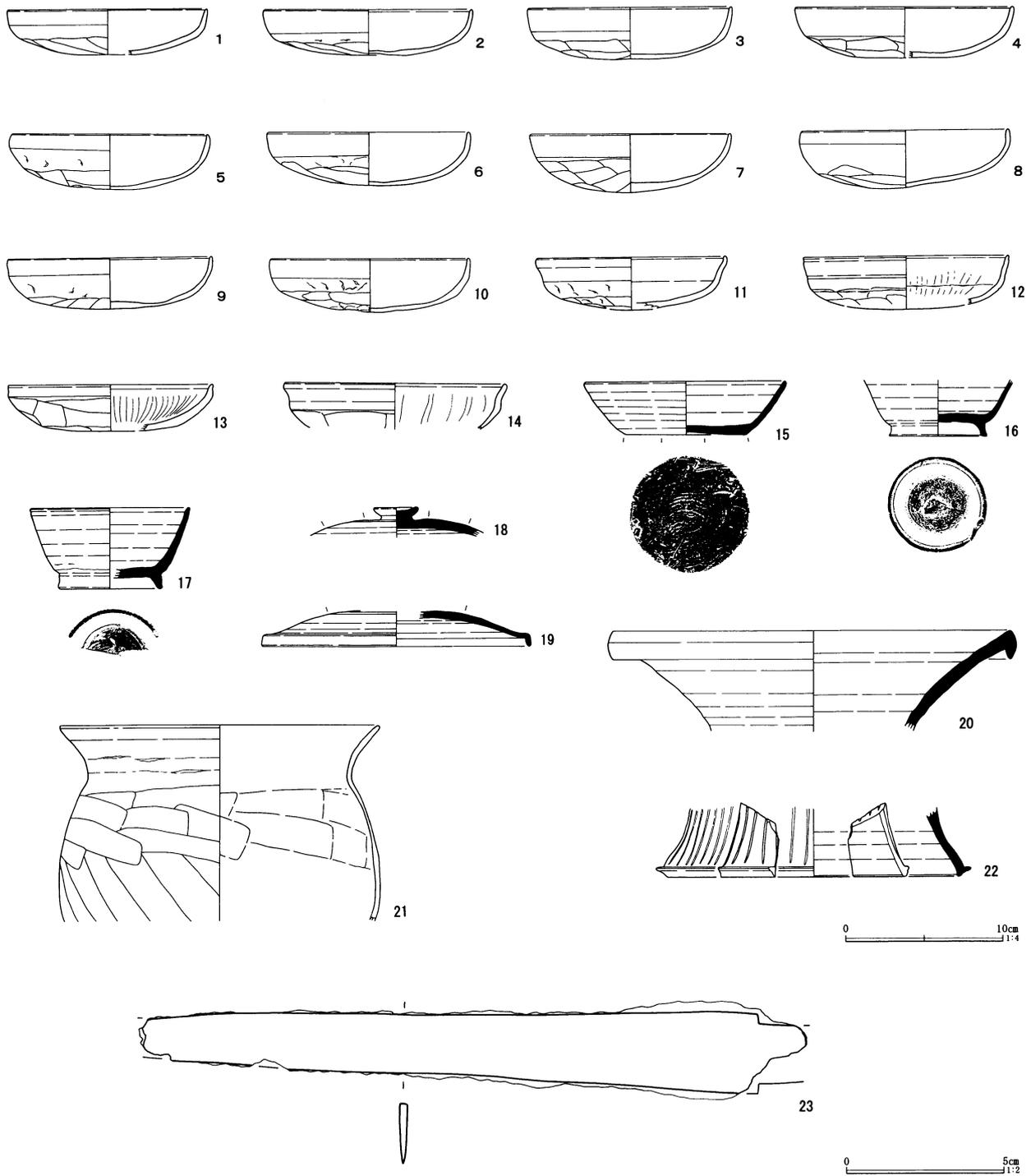
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
23	土師坏	(11.9)	2.5	(9.6)	A B G	普通	にぶい橙	20	覆土	墨書 口縁部外面～体部内面回転ナデ
24	土師坏	(10.8)	2.9		A C E	普通	にぶい黄橙	20	覆土	墨書
25	土師坏	(12.9)	3.4	(11.5)	A B C F	普通	にぶい褐	50	覆土	墨書 口縁部外面～底部内面外周回転ナデ
26	土師坏	(11.8)	3.2	10.4	A B C	良好	橙	60	覆土	墨書 暗文 口縁部外面～体部内面回転ナデ
27	土師坏	13.1	4.1	6.4	A B F J	普通	にぶい橙	80	覆土	墨書外面「木」、内面「不」 底部へラ削り
28	土師坏	12.8	4.3	6.1	A F J	普通	橙	100	覆土	
29	土師坏	(12.1)	3.8	6.1	A B F J	良好	にぶい橙	30	覆土	底部外周のみ手持ちへラ削り
30	土師坏	13.1	3.2	5.4	A B F	普通	橙	98	覆土	
31	土師坏	(13.7)	3.6	6.0	F	良好	浅黄橙	25	覆土	内面回転ナデ 底部一方向へラ削り
32	土師坏	12.7	4.0	8.4	A B C F	普通	にぶい黄橙	60	覆土	
33	土師坏	(13.0)	4.2	(7.1)	A B F	普通	橙	50	覆土	
34	土師坏	13.5	4.4	6.2	A B C F	普通	褐灰	90	覆土	
35	土師坏	12.7	4.0	8.3	B F J	不良	明赤褐	80	覆土	
36	土師坏	(12.4)	(4.2)	(7.3)	A F	普通	にぶい橙	20	覆土	
37	土師坏	(13.4)	4.6	5.3	A B C F	普通	橙	70	覆土	
38	土師坏			6.6	B C F J	普通	にぶい橙	60	覆土	
39	土師坏	12.8	4.4	6.1	A B C F	良好	にぶい橙	90	覆土	やや歪みあり
40	土師坏	(12.4)	4.3	(6.8)	A F G	普通	にぶい橙	45	覆土	
41	土師坏	(12.9)	3.5	5.7	A F G	良好	橙	50	覆土	
42	土師坏	13.9	4.5	7.2	A B F	普通	橙	100	覆土	体部内面油煙一部付着
43	土師坏	(12.6)	4.3	(5.7)	A F	普通	にぶい橙	30	覆土	
44	土師坏	(13.5)	3.9	(7.1)	A D F J	普通	橙	45	覆土	
45	土師坏	(12.3)	3.5	(6.2)	A B F	良好	にぶい橙	20	覆土	
46	土師坏	(16.7)	(5.0)	(10.5)	A B C F	良好	にぶい橙	60	覆土	
47	土師坏	(12.4)	3.7	(6.5)	F	普通	にぶい橙	30	覆土	口縁部外面回転ナデ
48	土師坏	(13.2)	3.8	(7.2)	A B F	良好	灰黄	30	覆土	
49	土師坏	(12.4)	3.7	(9.0)	A C F	普通	橙	45	覆土	
50	土師坏	(12.8)	4.1	(6.2)	A B F	普通	橙	30	覆土	
51	土師坏	(13.4)	4.7	(5.9)	A B D	普通	橙	25	覆土	
52	土師坏	13.6	3.3	10.2	A B F J	普通	橙	90	床直	暗文土器
53	土師埴			(9.2)	B F G	良好	浅黄橙	30	覆土	黒色土器 体部外面下端～底部外周右回転へラ削り
54	土師埴	12.8	5.2	6.3	A G	普通	にぶい橙	80	覆土	体部内面回転ナデ
55	土師坏	14.4	2.7	11.5	A C F	良好	橙	98	覆土	暗文土器
56	須恵坏	13.8	3.6	8.7	A H J	良好	灰	80	覆土	底部全面回転へラ削り
57	須恵坏	13.4	3.5	7.0	A H K	良好	灰	80	覆土	底部全面右回転へラ削り
58	須恵坏	12.1	3.5	7.0	H K	良好	灰	70	覆土	底部全面右回転へラ削り
59	須恵坏	(11.6)	4.1	(6.3)	G K	良好	灰	45	覆土	
60	須恵坏	11.9	3.7	7.3	A	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
61	須恵坏	13.0	3.6	7.5	A H K	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
62	須恵坏	12.0	3.3	6.8	A C K	良好	灰	100	覆土	底部右回転糸切り
63	須恵坏	13.4	3.9	7.4	H K	普通	灰	80	覆土	底部周辺回転へラ削り
64	須恵坏	(12.4)	3.5	7.1	A H K	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
65	須恵坏	12.1	3.1	6.7	A H K	良好	灰	100	床直	底部右回転糸切り
66	須恵坏	13.1	4.0	6.1	A C J	普通	灰白	90	覆土	墨書「本」

第166号住居跡出土遺物観察表 (第311～313図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
67	須恵坏	(12.7)	4.0	6.0	A J	普通	灰	65	覆土	
68	須恵坏	(11.8)	3.5	6.1	A G I J	普通	灰	60	覆土	
69	須恵坏	(12.4)	3.3	(6.4)	A E G	良好	灰白	40	覆土	
70	須恵高台壺	14.1	5.5	6.6	A F J K	不良	灰黄	95	覆土	墨書「本」
71	須恵高台壺	13.3	5.5	7.0	A G I J K	普通	灰	90	覆土	
72	須恵高台壺	(13.4)	5.6	5.9	A F J K	普通	灰	60	覆土	底部のみ酸化焰焼成
73	須恵高台壺	14.6	6.1	7.5	A F	普通	にぶい橙	90	覆土	酸化焰焼成
74	須恵高台壺	(12.2)	5.5	6.6	A J	普通	灰白	60	覆土	
75	須恵高台壺	(13.1)	6.0	6.0	A G I	普通	灰	35	覆土	
76	須恵高台壺	(15.2)	7.0	(7.9)	A C J K	普通	灰	70	覆土	底部回転糸切り
77	須恵高台壺	(16.9)	8.5	(8.2)	I J	普通	黄灰	30	覆土	
78	須恵皿	(12.5)	2.6	5.9	J K	普通	灰	60	覆土	
79	須恵皿	(11.7)	2.2	(5.9)	A J K	普通	灰	30	覆土	
80	須恵皿	(13.6)	3.1	(5.5)	A J	普通	灰	30	覆土	
81	須恵皿	(13.4)	2.3	(7.0)	A F I	普通	灰	25	覆土	
82	須恵皿	12.8	2.5	6.0	A K	良好	灰	98	覆土	底部回転糸切り
83	須恵蓋				A H J K	普通	灰白	—	覆土	天井部右回転ヘラ削り
84	須恵蓋	(16.0)			A G H	良好	灰	15	覆土	天井部左回転ヘラ削り
85	須恵蓋	(18.5)			A H	良好	灰	35	覆土	つまみ欠損 天井部右回転ヘラ削り
86	灰釉高台皿	14.9	3.1	7.6	A G	良好	灰白	95	覆土	高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 浜北産
87	灰釉高台壺	(13.5)	3.9	(5.1)	A G J	良好	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
88	灰釉皿	(14.8)			A G	良好	灰白	15	覆土	施釉ツケガケ 東濃産
89	灰釉壺	(15.6)			A G	良好	灰白	15	覆土	施釉ハケヌリ
90	須恵羽釜	(27.8)			A C G K	普通	灰黄	10	覆土	
91	須恵円面硯	(13.0)			A J	良好	灰	20	覆土	圈足硯 脚台部は長方形透孔と縦位の沈線 (透孔+2条沈線)
92	須恵長頸瓶			(8.2)	A C I K	普通	灰白	60	覆土	
93	須恵甕				A	良好	暗灰	—	覆土	外面自然釉
94	土師甕	(14.0)			A B F J	普通	にぶい赤褐	30	覆土	
95	土師甕	(15.0)			B C F J	普通	にぶい褐	15	覆土	
96	土師甕	(15.0)			A B J	普通	にぶい赤褐	25	覆土	
97	土師甕	(22.4)			A B C F J	普通	橙	70	覆土	やや歪みあり
98	土師台付甕			(8.8)	A B C E	普通	にぶい赤褐	破片	覆土	台部のみ

第186号住居跡出土遺物観察表 (第314図)

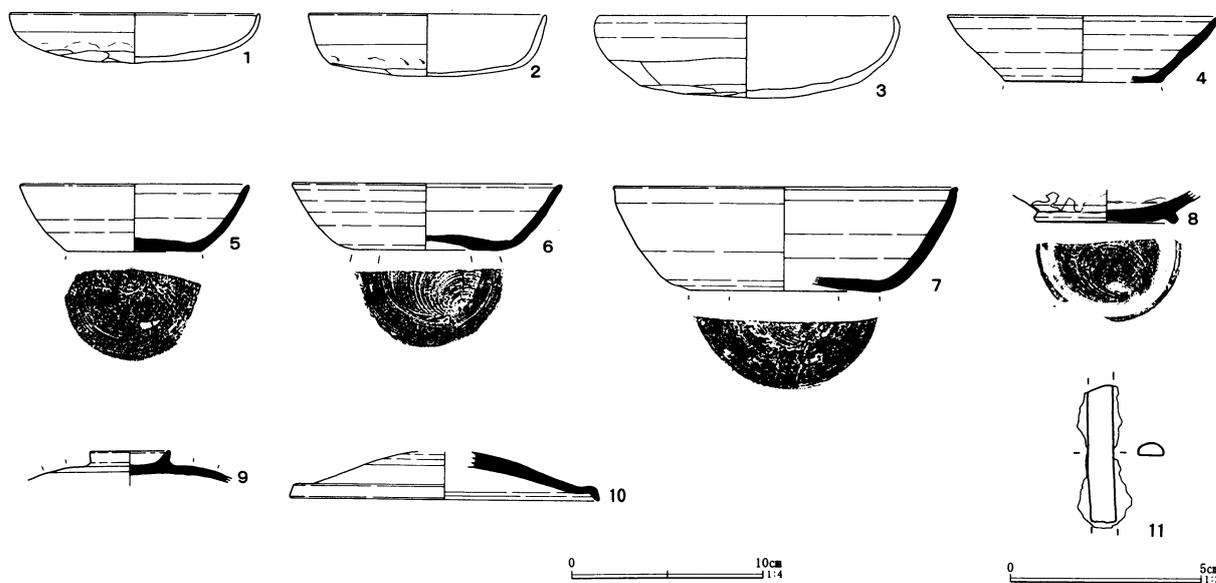
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	2.9		A B J	普通	にぶい橙	25	覆土	
2	土師坏	13.3	2.9		A B F J K	普通	橙	80	床直	
3	土師坏	(13.0)	3.3		A B C J	良好	にぶい橙	40	覆土	
4	土師坏	(13.8)	3.3		A B F J	普通	橙	15	覆土	
5	土師坏	12.6	3.6		A B J	普通	にぶい橙	90	覆土	
6	土師坏	12.8	3.4		A B J	普通	にぶい橙	90	覆土	
7	土師坏	12.7	3.8		A B J	普通	にぶい橙	90	覆土	
8	土師坏	13.1	3.7		A B J	普通	にぶい橙	80	覆土	
9	土師坏	(13.0)	3.3		A B F J	普通	橙	60	床直	やや歪みあり



第314图 第186号住居跡出土遺物

第186号住居跡出土遺物観察表 (第314図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
10	土師坏	12.6	3.5		A B J	普通	にぶい橙	80	覆土	
11	土師坏	(12.0)	(3.3)		A B J	普通	にぶい褐	25	覆土	
12	土師坏	(13.0)			A B J	普通	にぶい橙	10	覆土	内面放射状暗文
13	土師坏	(13.0)	3.0		A J	良好	橙	10	覆土	内面放射状暗文
14	土師坏	(14.0)	(2.9)		A B J	普通	にぶい橙	15	覆土	内面暗文
15	須恵坏	12.8	3.5	7.8	A H J K	良好	灰	90	覆土	底部周辺回転ヘラ削り
16	須恵高台坏			6.2	A J K	良好	灰	80	覆土	
17	須恵高台坏	(10.0)	5.2	(6.6)	A K	普通	灰	30	覆土	
18	須恵蓋				A H K	普通	灰	40	覆土	つまみ径2.8 天井部回転ヘラ削り
19	須恵蓋	(17.0)			A H J K	良好	灰	30	覆土	天井部回転ヘラ削り
20	須恵甕	(25.1)			A G H	良好	灰	15	覆土	
21	土師甕	(20.1)			A B C F J	普通	橙	60	覆土	
22	須恵円面硯			(18.4)	A	良好	灰	10	覆土	圈足硯 脚台部長方形透孔と縦位沈線 (長方形透孔+沈線3 or 4条)



第315図 第219号住居跡出土遺物

第219号住居跡出土遺物観察表 (第315図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.6)	2.6		A B C J	普通	橙	20	覆土	
2	土師坏	12.4	3.3	10.2	B F J	普通	にぶい橙	60	覆土	底部ヘラ削り
3	土師坏	(15.5)	4.3		A B	普通	にぶい褐	40	覆土	
4	須恵坏	(14.4)	3.5	(8.2)	A	良好	灰	20	覆土	底部回転ヘラ削り
5	須恵坏	(12.0)	3.6	(7.0)	A H K	良好	黄灰	30	覆土	
6	須恵坏	(14.0)	3.5	(7.5)	F H J K	良好	橙	30	覆土	底部回転糸切り
7	須恵碗	(18.0)	5.5	(10.0)	A K	良好	灰	30	覆土	
8	灰釉高台碗			(7.4)	A G	良好	灰	45	覆土	高台内糸切り 施釉ハケヌリ 二川産
9	須恵蓋				A G K	良好	灰	10	覆土	環状つまみ
10	須恵蓋	(16.0)			A G	良好	灰	15	覆土	

第167号住居跡 (第316・317図)

L・M-15グリッドに位置する。第219・220号住居跡と重複し、2軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長南北4.20m、東西3.82m、深さ34cm程を測る。平面形は、歪んだ方形を呈する。南北方向を基準にすると主軸方位は、N-16°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付碗・皿・高台坏皿・鉢・甕、灰釉陶器高台付碗・高台付皿、緑釉陶器片、砥石、羽口と鉄製品が出土した。33は鉄製刀子である。現存長5.8cm、刃幅0.7cmであ

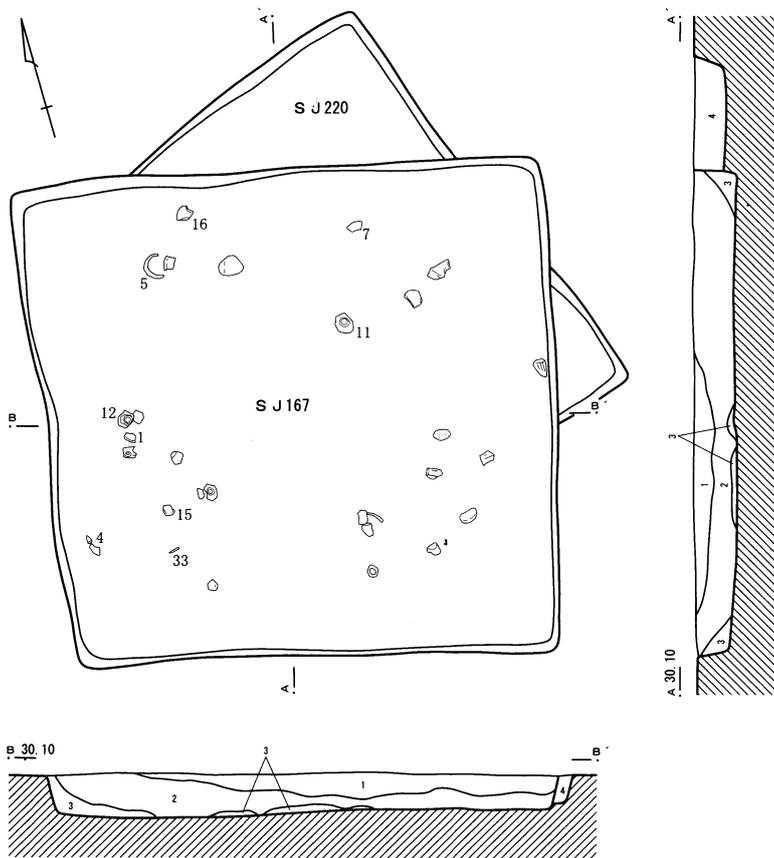
る。切先を含む刃部と茎先を欠く。両関で刃関がやや浅い。34は用途不明の管状鉄製品である。長さ3.3cm、径0.9cmである。

第220号住居跡 (第316・317図)

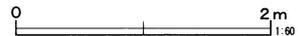
L・M-15グリッドに位置する。第167号住居跡と重複し、住居跡の殆どが切られている。規模は、南北が東壁で3.67m、東西は北壁で確認できた2.17m、深さ25cm程を測る。主軸方位は東壁を基準とすると、N-20°-Wを測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

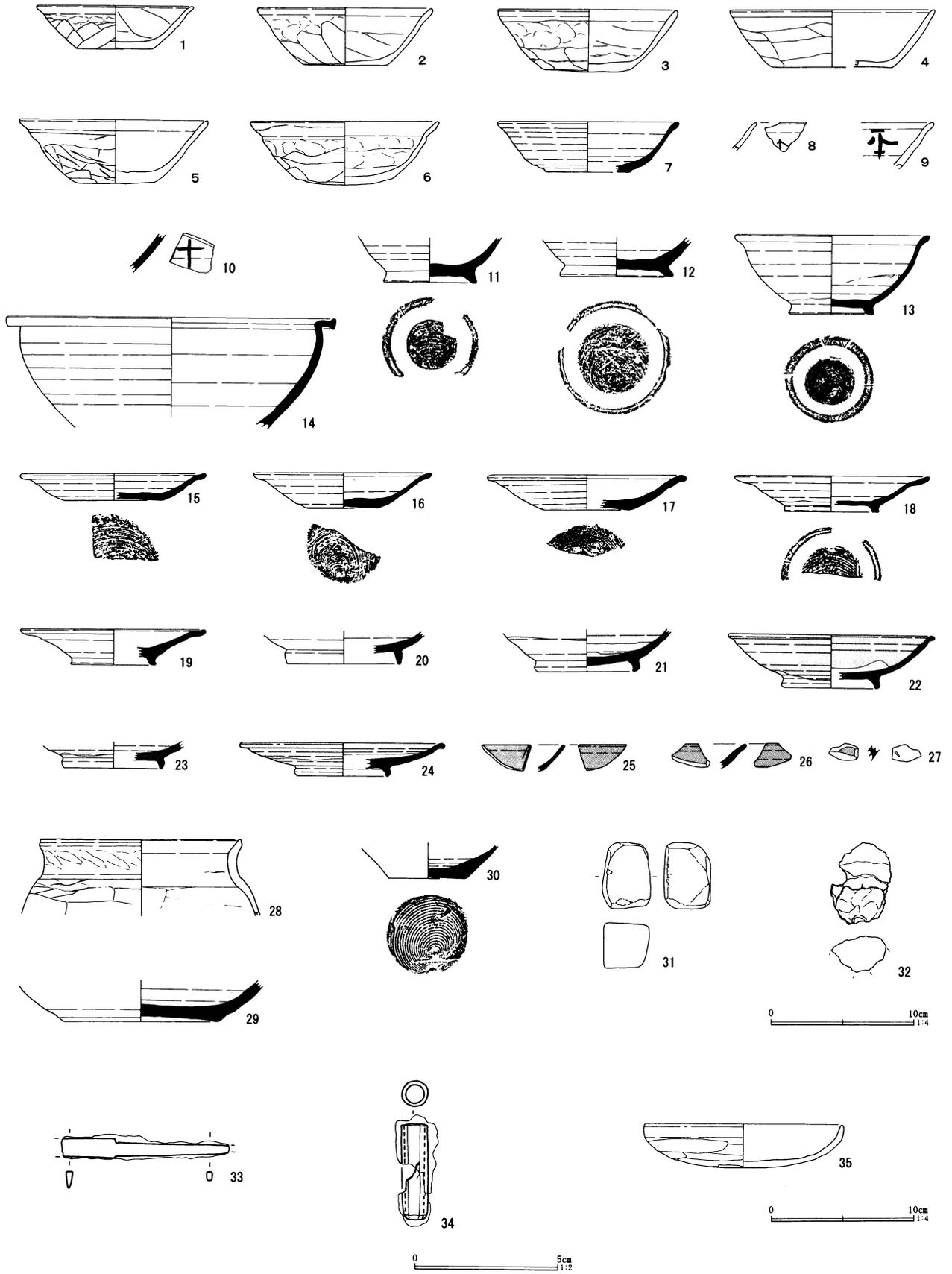
遺物は、土師器坏が出土した。



- 第167・220号住居跡
- 1 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック・炭化物少量
灰多量
 - 2 暗褐色土 灰・炭化物・焼土粒多量
焼土ブロック少量
 - 3 暗黄褐色土 灰・炭化物・焼土粒少量
 - 4 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量 (S J 220覆土)



第316図 第167・220号住居跡



第 317 图 第 167·220 号住居跡出土遺物

第167号住居跡出土遺物観察表 (第317図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.0)	3.1	5.3	A B C F	普通	橙	50	床直	やや歪みあり 底部一方向平行ヘラ削り
2	土師坏	(12.0)	4.1	(6.0)	B C F J	普通	橙	20	覆土	手持ちヘラ削り
3	土師坏	12.6	4.5	6.1	B F J	普通	にぶい橙	70	覆土	底部一方向平行ヘラ削り
4	土師坏	(14.4)	4.1	(8.6)	B C F	普通	橙	25	覆土	底部一方向平行ヘラ削り
5	土師坏	13.2	4.5	5.6	A B C F	普通	にぶい黄橙	100	覆土	やや歪みあり
6	土師坏	(13.0)	4.5	6.8	C F J	普通	にぶい褐	40	覆土	手持ちヘラ削り
7	須恵坏	(12.6)		(6.0)	A C J K	良好	灰	20	覆土	底部回転糸切り
8	土師坏				A	良好	にぶい橙	破片	覆土	墨書
9	土師坏				A F	普通	にぶい橙	破片	覆土	墨書「本」
10	須恵坏				A F J	普通	灰黄	破片	覆土	墨書「十」
11	須恵高台壺			6.6	I	普通	灰	70	覆土	底部回転糸切り
12	須恵高台壺			7.8	J	普通	灰	70	覆土	
13	須恵高台壺	(13.6)	5.6	6.0	A K	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
14	須恵鉢	(22.8)			A G	良好	灰	25	覆土	
15	須恵皿	(12.7)	1.9	(6.8)	A J	良好	灰	25	覆土	底部回転糸切り
16	須恵皿	(12.4)	2.5	5.3	A C K	良好	灰	15	覆土	
17	須恵皿	(13.3)	2.5	(6.0)	A C	普通	灰褐	25	覆土	底部回転糸切り
18	須恵高台皿	(13.6)	2.6	6.6	A J	良好	灰褐	30	覆土	やや歪みあり
19	須恵高台坏	(12.8)	2.5	(6.0)	A K	普通	灰	20	覆土	底部回転糸切り
20	灰釉高台壺			(7.9)	G	良好	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ一筆 浜北産
21	灰釉高台壺			(6.8)	G K	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ
22	灰釉高台壺	(14.4)	3.8	(6.8)	A G	良好	灰黄	30	覆土	高台内ヘラ削り 内外面ハケヌリ一筆 内面重ね焼き痕あり 浜北産
23	灰釉高台皿			(6.9)	G	良好	灰白	25	覆土	高台内ヘラ削り 内外面ハケヌリ 内面重ね焼き痕あり 浜北産
24	灰釉高台皿	(14.0)	2.3	(6.4)	A G	良好	灰白	25	覆土	高台内ヘラ削り 内外面ハケヌリ一筆 内面重ね焼き痕あり 東濃産
25	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	猿投産
26	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	猿投産
27	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	猿投産
28	土師甕	(14.0)			A B F	普通	橙	25	覆土	
29	須恵甕			(10.8)	A	良好	灰	25	覆土	
30	須恵坏			5.5	A	普通	灰白	60	覆土	
31	砥石	長さ4.6 幅3.25 厚さ3.2						—	覆土	角閃石安山岩製 6面使用
32	羽口	長さ5.8 幅4.0						破片	覆土	

第220号住居跡出土遺物観察表 (第317図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
35	土師坏	(13.8)	3.1		A B C F G	普通	橙	40	覆土	底部手持ちヘラ削り

第168号住居跡 (第318・319図)

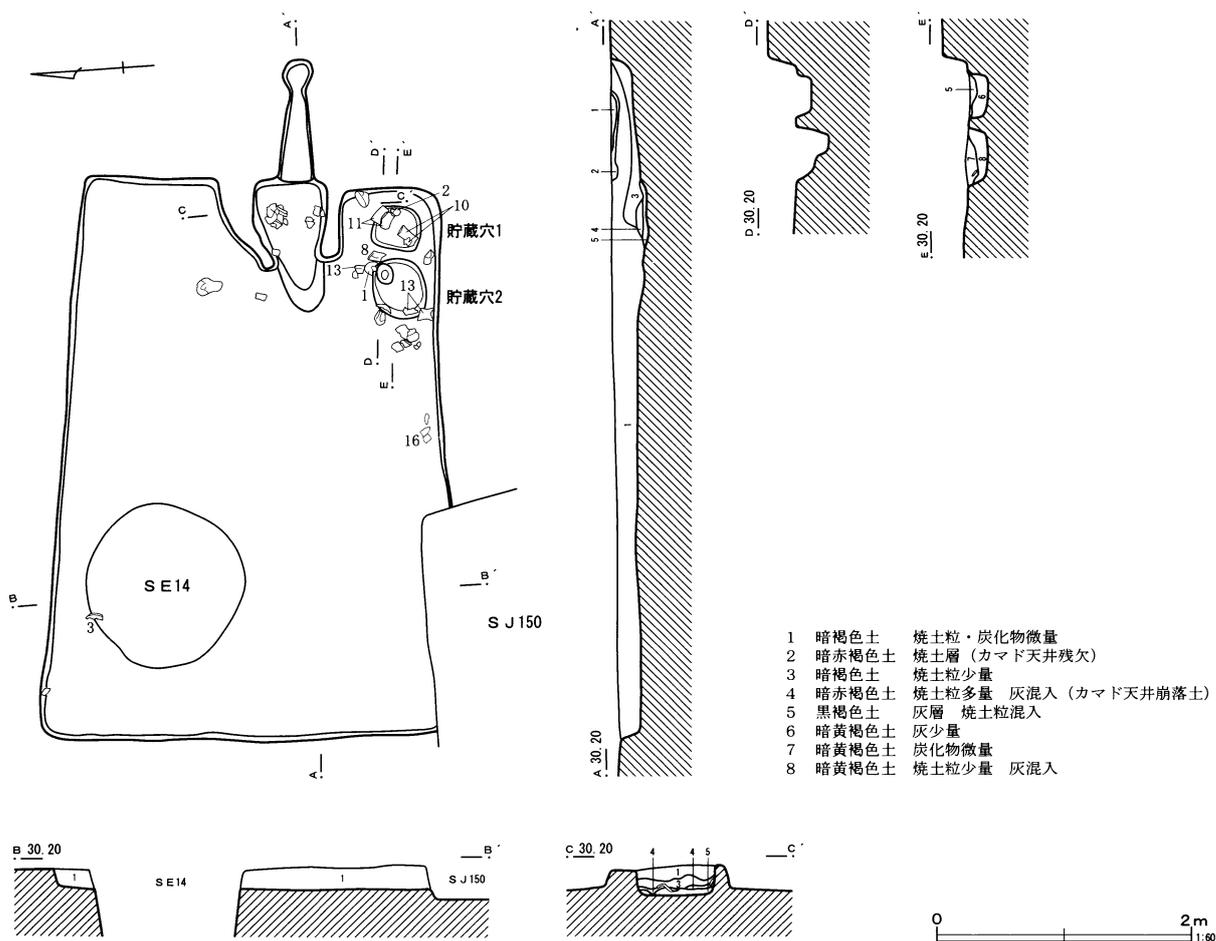
J・K-14グリッドに位置する。第150号住居跡・第9号井戸跡と重複し、南西隅は第150号住居跡に切られている。規模は、主軸長東西4.39m、南北3.11m、深さ17cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

貯蔵穴1は、南東隅に設けられており、34cm×39cmの円形で、深さ35cmを測る。

貯蔵穴2は、南東隅貯蔵穴1の西に隣接して設けられており、47cm×42cmの円形で、深さ35cmを測る。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃燒部は、103cm×58cm、深さ8cm程を測り、煙道部は長さ97cmが確認できた。

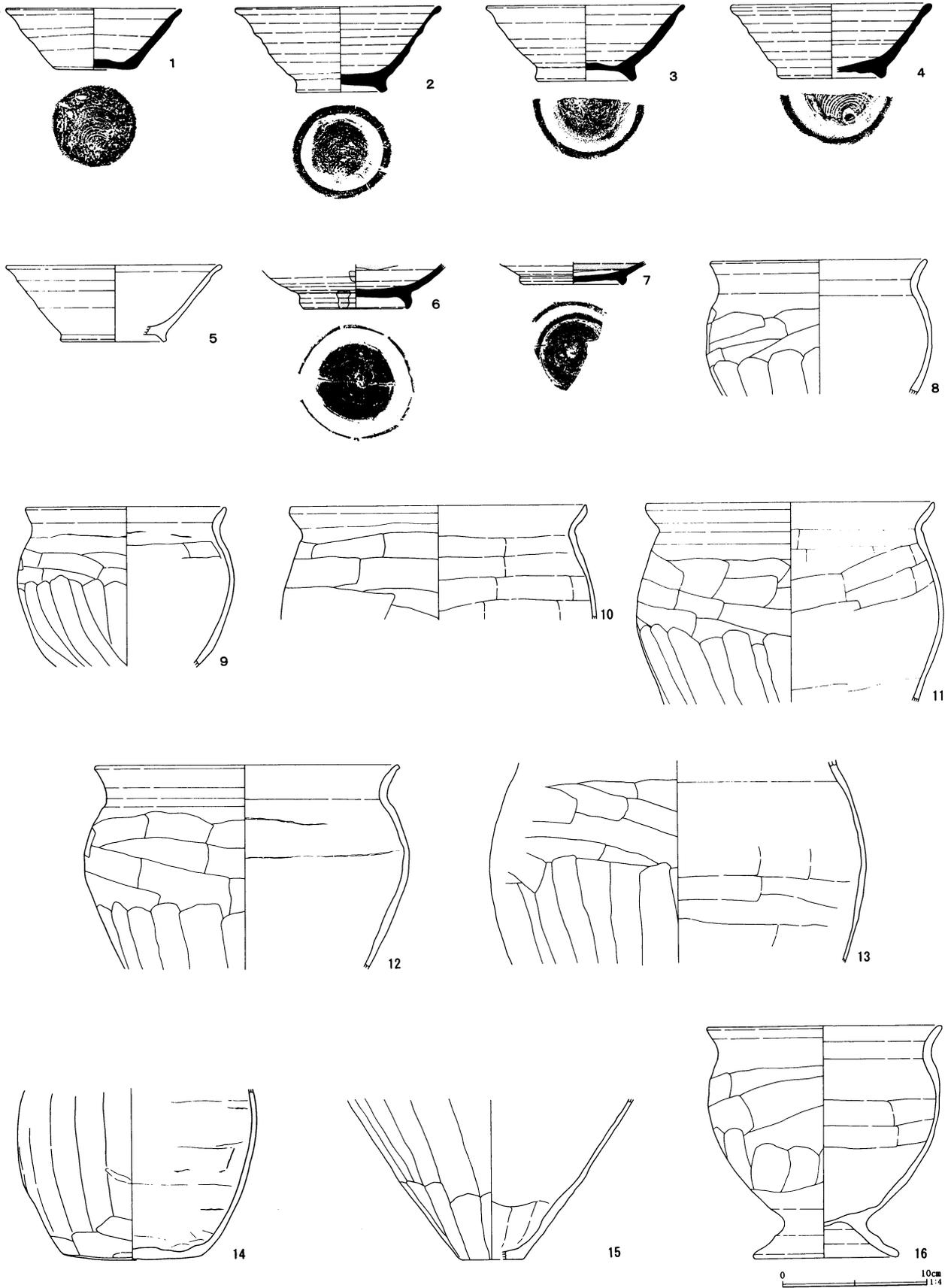
遺物は、須恵器坏・高台付壺、土師器甕・台付甕、灰釉陶器高台付壺・高台付皿が出土した。



第318図 第168号住居跡

第168号住居跡出土遺物観察表 (第319図)

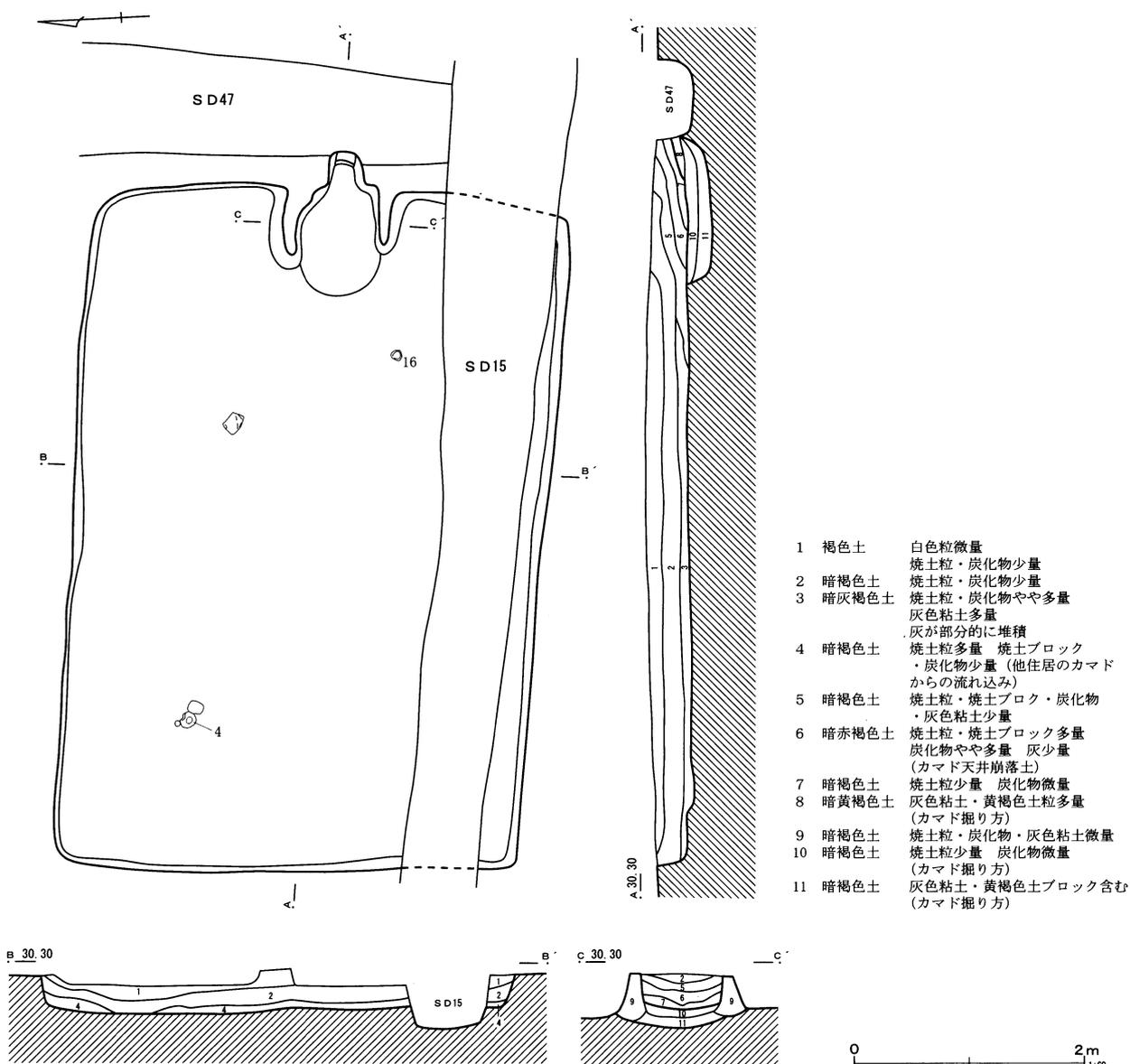
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.2	4.3	5.8	A J	普通	灰黄	90	床直	底部回転糸切り
2	須恵高台壺	(14.3)	6.0	6.4	A B J	普通	灰黄褐	70	貯蔵穴	やや歪む
3	須恵高台壺	(13.8)	5.4	7.0	A B F J	普通	灰黄褐	40	床直	
4	須恵高台壺	(14.0)	5.3	(7.6)	A B J	普通	灰黄	40	貯蔵穴	底部回転糸切り
5	須恵高台壺	(14.9)	5.3	(7.0)	A B F G	普通	にぶい橙	25	覆土	酸化焰焼成



第 319 图 第 168 号住居跡出土遺物

第168号住居跡出土遺物観察表 (第319図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
6	灰釉高台壺			7.2	A J	良好	灰白	80	覆土	高台内へラ削り 施釉 東遠江産
7	灰釉高台皿			(7.0)	A	良好	灰	40	覆土	高台内へラ削り 施釉 東濃産
8	土師甕	(14.8)			A B F	普通	にぶい黄橙	30	床直	
9	土師甕	13.8			A B F J	普通	にぶい橙	75	覆土	
10	土師甕	(20.3)			A B F	普通	浅黄橙	20	貯蔵穴	
11	土師甕	19.9			A B	良好	灰黄	25	貯蔵穴	
12	土師甕	(20.8)			A F	普通	浅黄橙	25	カマド	
13	土師甕				A B C F	良好	浅黄橙	20	貯蔵穴	胴部
14	土師甕			9.8	A F G J	普通	にぶい赤褐	60	覆土	
15	土師甕			4.6	A B G F	良好	暗褐	50	覆土	
16	土師台付甕	16.2	16.3	(9.8)	A B G J	良好	橙	80	床直	



第320図 第169号住居跡

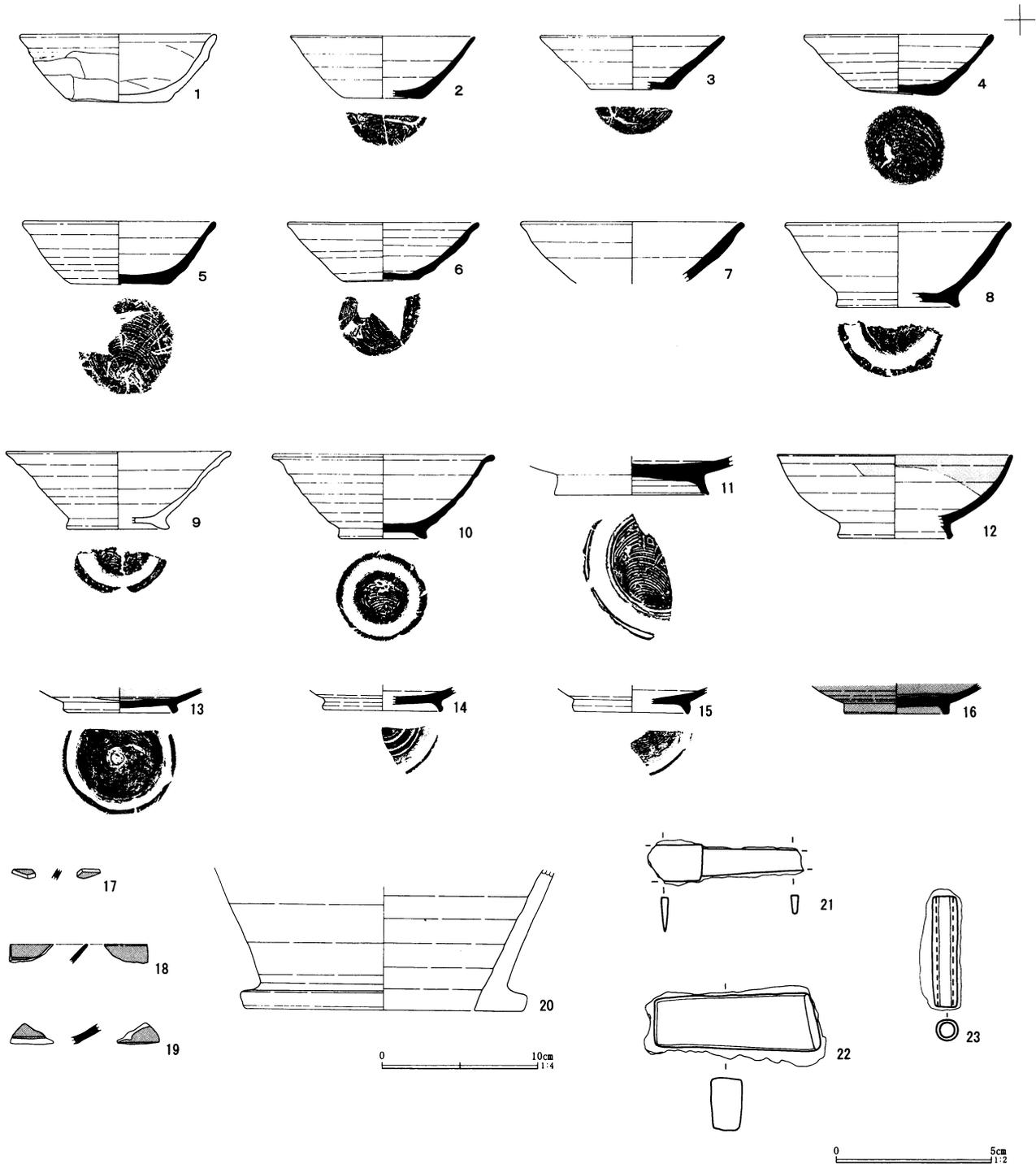
第169号住居跡 (第320・321図)

I・J-14グリッドに位置する。第15・47号溝と重複し、南壁寄り第15号溝に切られ、カマド先端が第47号溝に切られている。規模は、主軸長東西6.00m、南北4.12m、深さ37cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-96° -

Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。カマド先端部分は、第47号溝により壊されている。燃焼部は、97cm×75cmが確認でき、床面と同じ高さである。煙道部は、30cmほどが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・塊・高台付塊・甑、



第321図 第169号住居跡出土遺物

灰釉陶器高台付碗・高台付皿、緑釉陶器高台付碗・緑釉陶器片と鉄製品が出土した。21は鉄製刀子である。現存長5.0cm、刃幅1.2cm、刃部の大半と茎先を欠いている。両関で、刃と背ともに明瞭な角関

である。22は長さ5.2cm、幅1.7cm、厚さ0.9cmの棒塊状の鉄製品である。用途不明。製品ではなく、鉄素材の可能性もある。23は用途不明の管状鉄製品である。長さ3.5cm、径0.7cmである。

第169号住居跡出土遺物観察表(第321図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.6	4.4	6.2	A B F J	良好	にぶい橙	70	覆土	手持ちへら削り
2	須恵坏	(10.9)	4.0	(5.1)	A J	不良	灰白	30	覆土	
3	須恵坏	(11.8)	3.5	(5.5)	A B C F	普通	灰褐	25	覆土	
4	須恵坏	12.0	4.0	5.4	A B J	普通	灰白	90	床直	底部回転糸切り
5	須恵坏	(12.2)	4.0	6.3	A G J	普通	灰	45	覆土	
6	須恵坏	12.3	3.8	5.0	A G J	普通	黄灰	70	覆土	底部回転糸切り
7	須恵碗	(14.0)			C H	普通	灰	35	覆土	
8	須恵高台碗	(14.3)	5.5	(7.5)	A H	普通	灰	30	覆土	
9	須恵高台碗	(14.4)	5.0	(6.5)	F J K	普通	橙	20	覆土	酸化焰焼成
10	須恵高台碗	(14.1)	5.5	5.6	A J	普通	黄灰	70	カマド	
11	須恵高台碗			10.0	A J K	普通	灰	40	覆土	
12	灰釉高台碗	(15.0)	5.4	(7.2)	A	良好	灰白	25	カマド	高台内へら削り 施釉内外面ハケヌリ 浜北産
13	灰釉高台皿			6.8	A G J	良好	灰白	60	覆土	高台内へら削り 施釉 東遠江産
14	灰釉高台碗			(7.7)	J	普通	灰白	15	覆土	高台内へら削り 施釉 内面重ね焼き痕 東濃産
15	灰釉高台皿			(7.4)	G	良好	灰白	10	覆土	高台内へら削り 施釉内外面ハケヌリ 浜北産
16	緑釉高台碗			6.8	F	普通	オリーブ灰	90	覆土	底部内面へら磨き 東濃産
17	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
18	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
19	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
20	須恵甌			(17.8)	B C F H	普通	にぶい黄橙	20	覆土	酸化焰焼成

第170号住居跡(第322・323図)

I-15グリッドに位置する。第213号住居跡・第224・225土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡を切っている。西壁の一部は、第225号土坑に切られ壁溝のみの確認である。南西隅は、第224号土坑に切られている。規模は、主軸長東西3.92m、南北3.54m、深さ40cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

壁溝は、東壁のカマド、貯蔵穴の部分を除いて、全周する。幅11~22cm、深さ10~18cmを測る。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、72cm×100cmの方形気味で北で浅くなり、南側で深さ35cm

を測る。

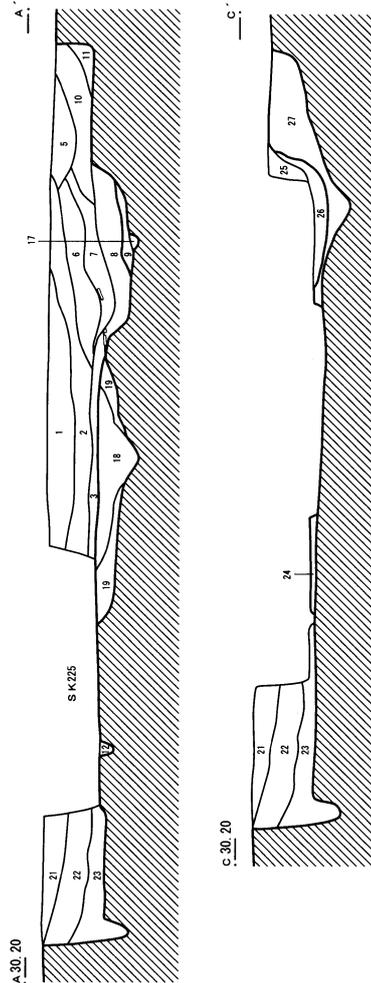
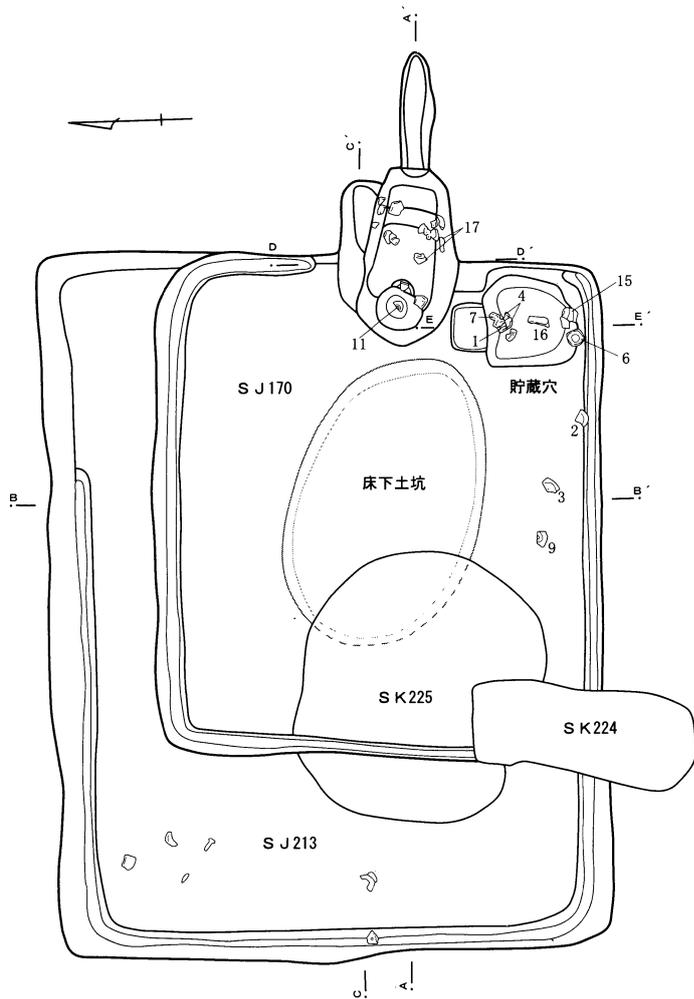
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、140cm×37cm、深さ32cmを測り、煙道部は93cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋が出土した。

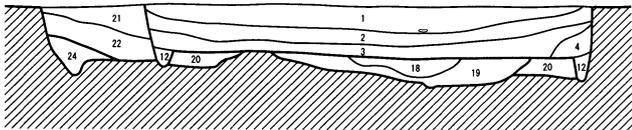
第213号住居跡(第322・324図)

I-15グリッドに位置する。第170号住居、第224・225号土坑と重複し、住居跡・土坑に切られている。規模は、主軸長東西5.56m、南北4.38m、深さ33cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

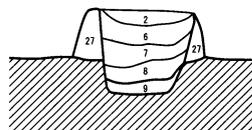
カマドは東壁に設けられ、一部遺存していた。燃



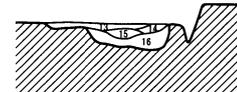
e.30.20



S J 170カマド
p.30.20



S J 170貯蔵穴
e.30.20



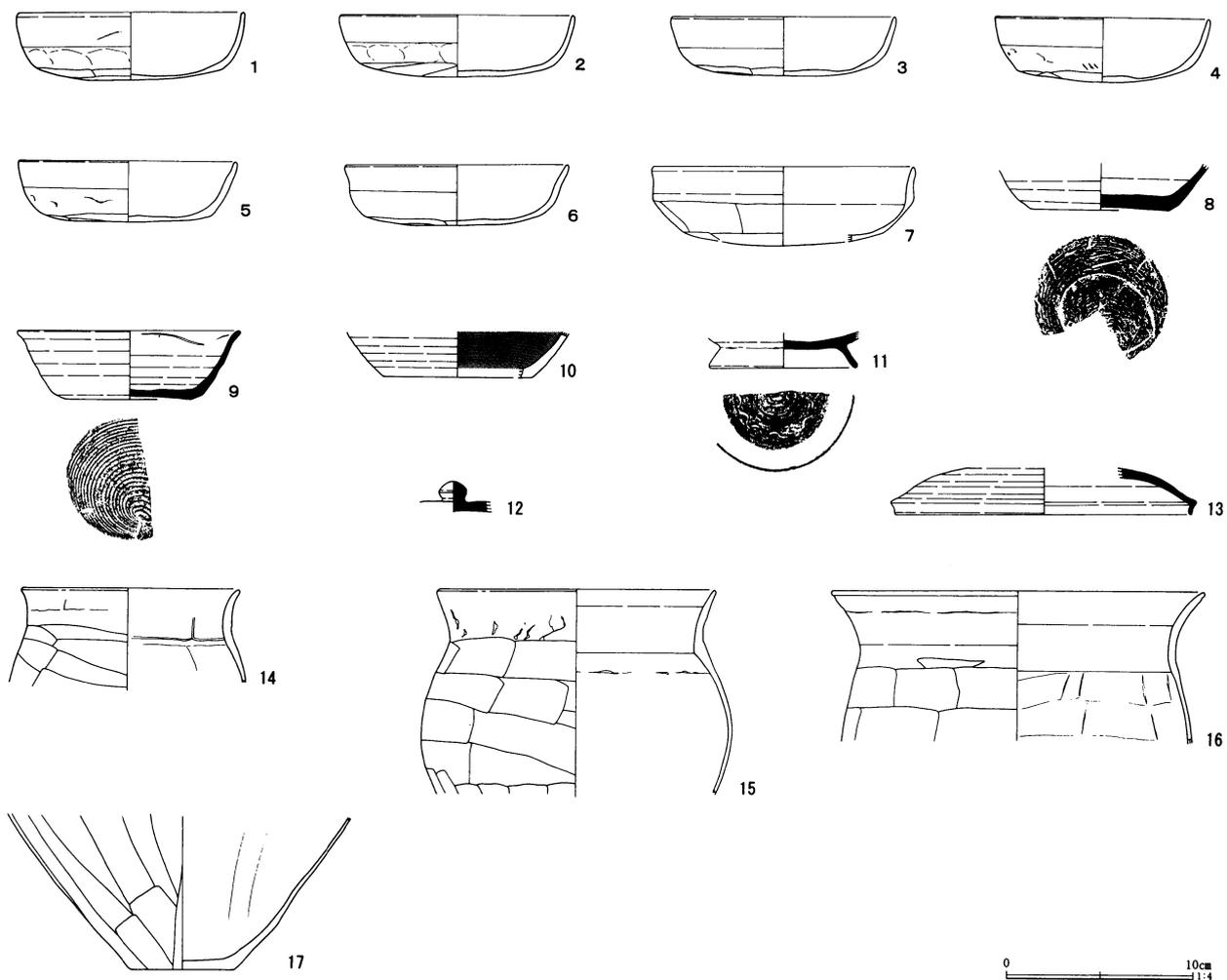
第170号住居跡

- 1 暗褐色土 白色粒・炭化物少量 焼土粒多量
- 2 暗褐色土 焼土粒少量 炭化物多量
- 3 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物・灰褐色粘土粒少量
- 4 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 灰褐色粘土粒少量
- 5 暗赤褐色土 焼土ブロック多量
- 6 暗黄褐色土 焼土ブロック・炭化物少量 黄褐色土粒多量 (カマド天井崩落土)
- 7 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物・灰少量
- 8 灰褐色土 灰層 焼土ブロック・炭化物・灰褐色粘土粒少量 灰多量
- 9 暗黄褐色土 焼土ブロック・灰・灰褐色粘土ブロック少量 黄褐色土粒多量 (カマド掘り方)
- 10 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 11 暗褐色土 焼土粒・暗灰褐色粘土粒少量 炭化物微量
- 12 暗灰褐色土 炭化物微量 暗灰色粘土多量
- 13 暗灰色土 焼土粒・炭化物・灰の互層 (貯蔵穴)
- 14 黒褐色土 焼土粒少量 炭化物多量 (貯蔵穴)
- 15 黒褐色土 焼土粒互層 炭化物多量 (貯蔵穴)

- 16 暗褐色土 焼土粒・炭化物・灰色粘土少量 (貯蔵穴)
- 17 暗黄褐色土 焼土粒・炭化物・灰少量 黄褐色土粒多量 (支脚個穴)
- 18 暗灰褐色土 焼土ブロック・暗灰色粘土粒多量 炭化物少量 (床下土坑)
- 19 黄灰褐色土 炭化物微量 暗灰色粘土粒・黄褐色土ブロック少量 (床下土坑)
- 20 黄灰褐色土 焼土粒微量 炭化物少量 灰色粘土粒多量 (掘り方)
- 21 暗褐色土 白色粒・炭化物微量 焼土粒少量
- 22 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 23 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量
- 24 暗黄褐色土 灰色粘土少量 (貼り床)
- 25 褐色土 焼土粒・焼土ブロック・黄褐色土ブロック多量 炭化物微量 灰色粘土粒少量
- 26 暗灰褐色土 灰層 焼土粒・焼土ブロック・炭化物多量 黄褐色土ブロック少量 灰色粘土粒多量
- 27 暗褐色土 炭化物・灰色粘土粒少量



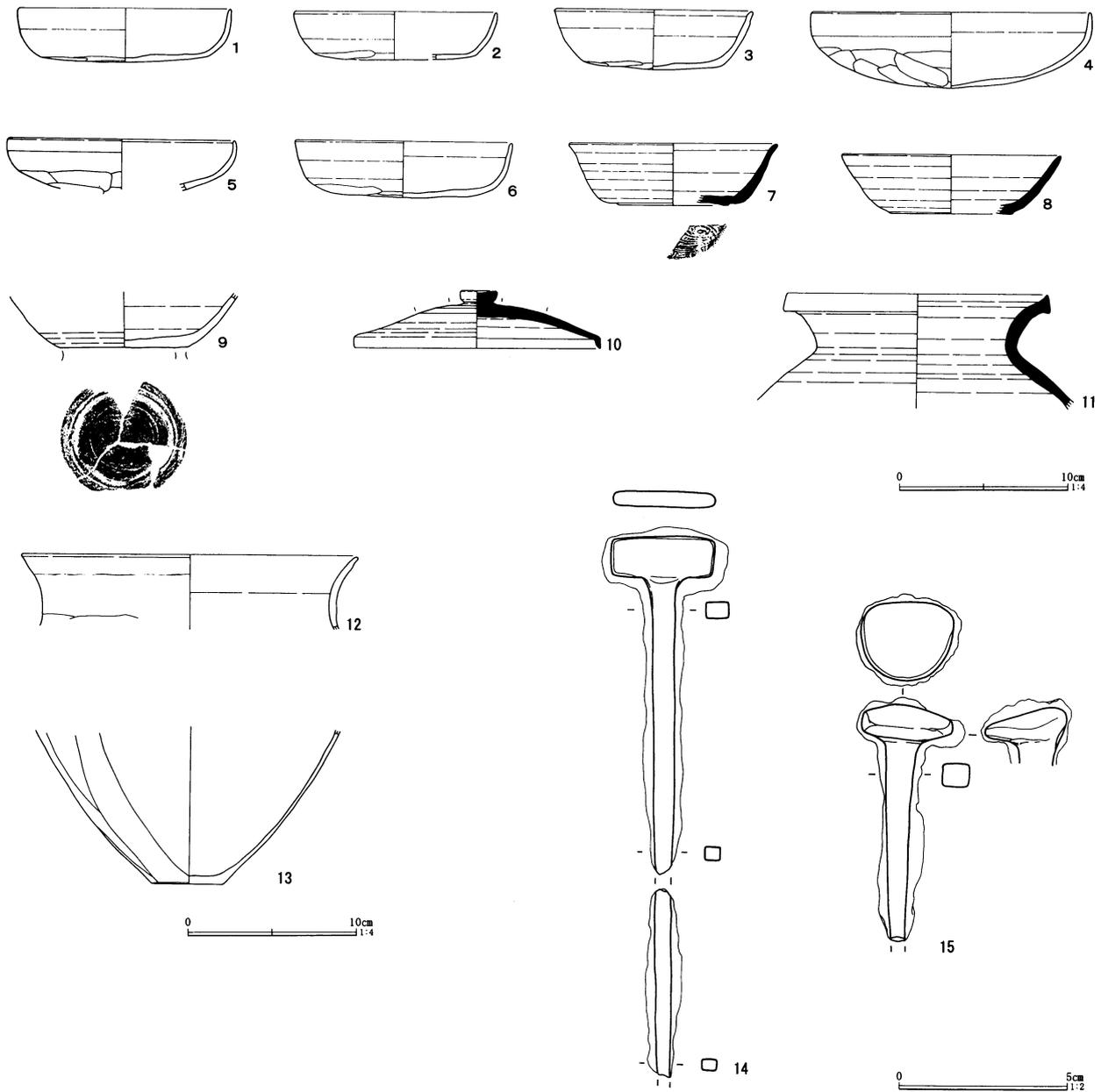
第322図 第170・213号住居跡



第 323 図 第 170 号住居跡出土遺物

第 170 号住居跡出土遺物観察表 (第 323 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(12.3)	3.7		A B C F J	普通	にぶい橙	60	貯蔵穴	
2	土師杯	(12.6)	3.4		A B J	普通	橙	40	覆土	
3	土師杯	(12.0)	3.2		A B C J	普通	橙	70	覆土	やや歪む
4	土師杯	11.6	3.5		A B F J	普通	にぶい褐	80	貯蔵穴	
5	土師杯	11.8	3.3	9.0	A B F J	普通	にぶい褐	60	覆土	
6	土師杯	12.0	3.3	9.4	A B J	普通	にぶい橙	100	貯蔵穴	やや歪む
7	土師杯	(14.0)	(4.0)		A B J	普通	橙	15	貯蔵穴	
8	須恵杯			7.5	A J K	良好	灰	80	覆土	底部右回転糸切り
9	須恵杯	(12.0)	3.7	6.6	A C J K	良好	灰	50	覆土	底部右回転糸切り
10	土師碗			(8.0)	A J	普通	橙	10	覆土	内黒
11	須恵高台碗			(8.0)	A F J	普通	灰黄褐	50	カマド	
12	須恵蓋				A	普通	灰	25	覆土	
13	須恵蓋	(16.0)			A J	良好	灰	10	覆土	
14	土師甕	(11.5)			A B F	良好	橙	30	覆土	
15	土師甕	(14.8)			A B C F	普通	にぶい橙	30	貯蔵穴	
16	土師甕	(20.0)			A B C J	普通	にぶい橙	25	貯蔵穴	
17	土師甕			5.6	A F J	良好	橙	40	カマド	



第324図 第213号住居跡出土遺物

焼部は、101cm、深さ7cmが残存していた。

遺物は、土師器坏・高台付碗・甕、須恵器坏・蓋・甕と鉄製品が出土した。14は2片に分離し、接合しないが同一個体と考えられる鉄製品である。現存長は10.0cmと5.6cmである。端部を叩いて1.2cm×3.1cmの長方形を形作っている。用途は不明だが、釘に類する接合具の可能性もある。15は鉄製釘である。脚部を欠き、現存長は7.0cmである。頭部は基部端を円形に叩き潰して作られており、大きさは2.3cm×2.7cmである。

第213号住居跡出土遺物観察表 (第324図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.5	3.3	10.0	ACFJ	普通	橙	60	覆土	
2	土師坏	(11.9)	2.9		J	普通	にぶい橙	25	覆土	
3	土師坏	11.5	3.6	8.0	ABF	普通	橙	95	覆土	
4	土師坏	(16.6)	4.6		ABFJ	普通	橙	50	覆土	
5	土師坏	(13.4)	(3.0)		ABJ	普通	にぶい橙	30	覆土	
6	土師坏	(12.8)	3.3		ABF	普通	にぶい橙	35	覆土	
7	須恵坏	(12.4)	3.7	(6.6)	AFJK	良好	灰	20	覆土	底部回転糸切り
8	須恵坏	(13.0)	3.5	(7.4)	AJK	良好	灰	15	覆土	
9	土師高台壺			(7.5)	AFJ	普通	橙	60	覆土	高台剥離
10	須恵蓋	14.7	3.5		AHJK	普通	灰	60	覆土	つまみ径2.2cm 天井部回転ヘラ削り
11	須恵甕	(15.6)			AHJK	良好	灰	30	覆土	
12	土師甕	(20.0)			ABFJ	普通	にぶい橙	10	覆土	
13	土師甕			(4.2)	FJ	普通	にぶい橙	75	覆土	

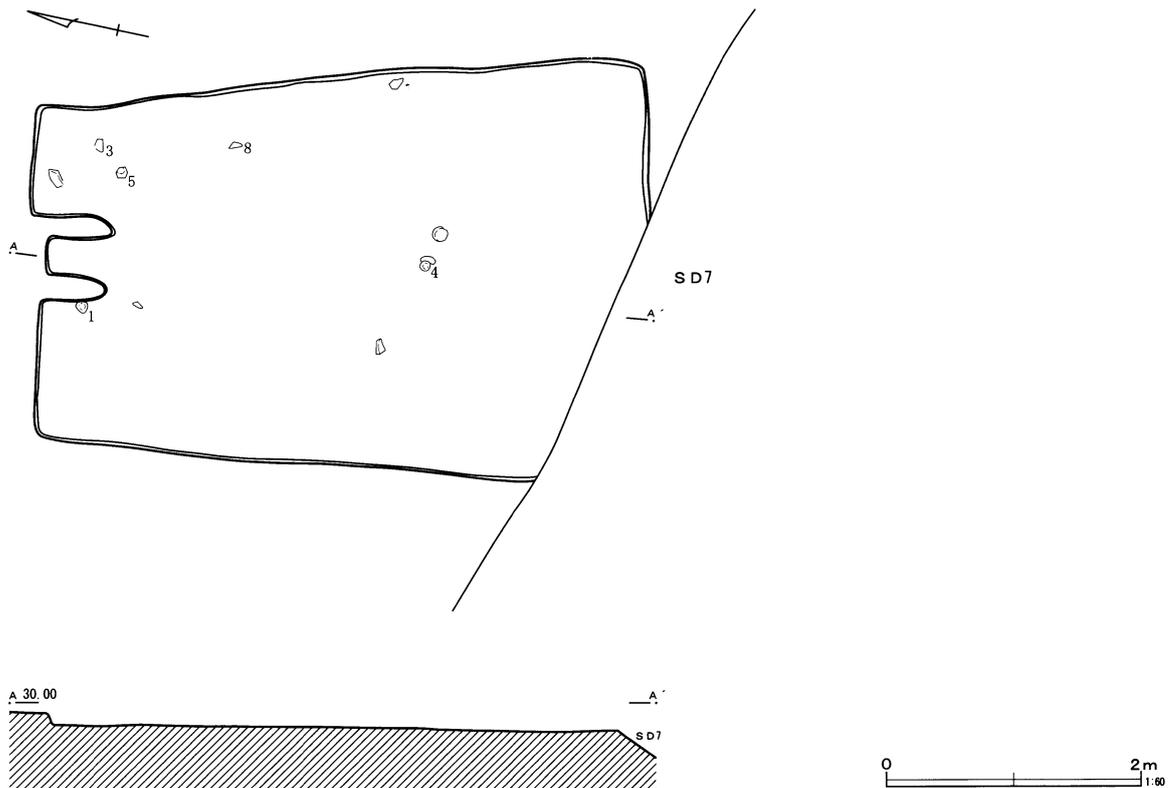
第171号住居跡 (第325・326図)

L・M-14グリッドに位置する。第179号住居跡・第7号溝と重複し、溝に南西隅が切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長4.78m×3.33m、深さ10cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸

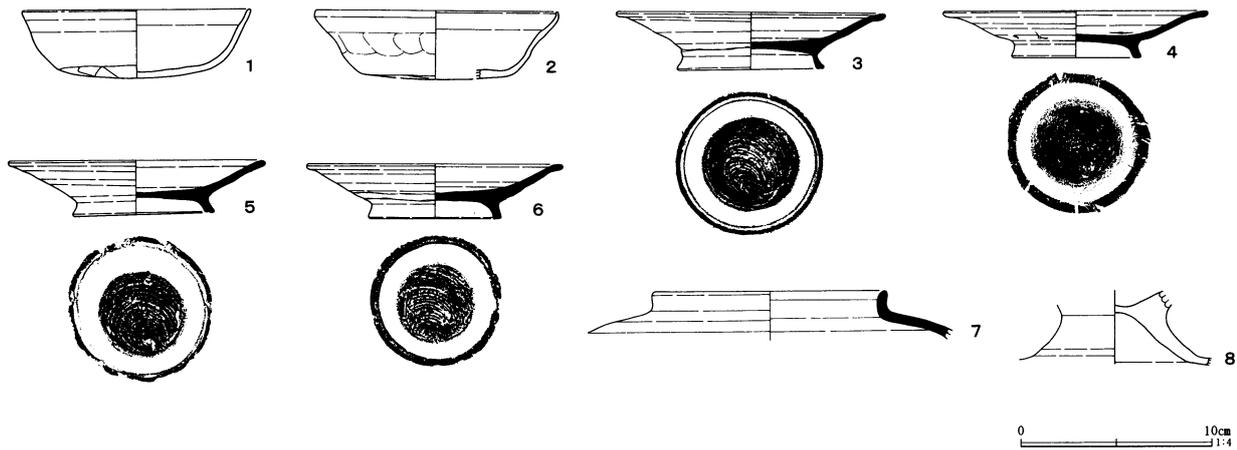
方位は、N-8°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、掘り方が確認できた。

遺物は、土師器坏・台付甕、須恵器高台付皿・短頸壺が出土した。



第325図 第171号住居跡



第326図 第171号住居跡出土遺物

第171号住居跡出土遺物観察表 (第326図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)	3.6		A B C	普通	にぶい赤褐	70	覆土	内外面に油煙付着
2	土師坏	(12.6)	3.6		A B F	普通	橙	15	覆土	
3	須恵高台皿	14.1	3.1	7.7	A C F J K	良好	褐灰	70	覆土	底部回転糸切り
4	須恵高台皿	(14.0)	2.5	6.8	A C K	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
5	須恵高台皿	13.4	2.9	7.4	A C J K	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
6	須恵高台皿	(13.4)	2.8	6.9	A J K	良好	灰	40	床直	底部回転糸切り
7	須恵短頸壺	(12.0)			A G	良好	灰	10	覆土	自然釉
8	土師台付甕				A B C	普通	橙	30	覆土	

第173号住居跡 (第327・328図)

G-15・16グリッドに位置する。第190号住居跡・第434号土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長東西3.69m、南北3.39m、深さ21cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、77cm×58cmの方形気味で、深さ49cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、82cm×70cm、深さ13cmを測り、煙道部は、長さ145cmが確認できた。

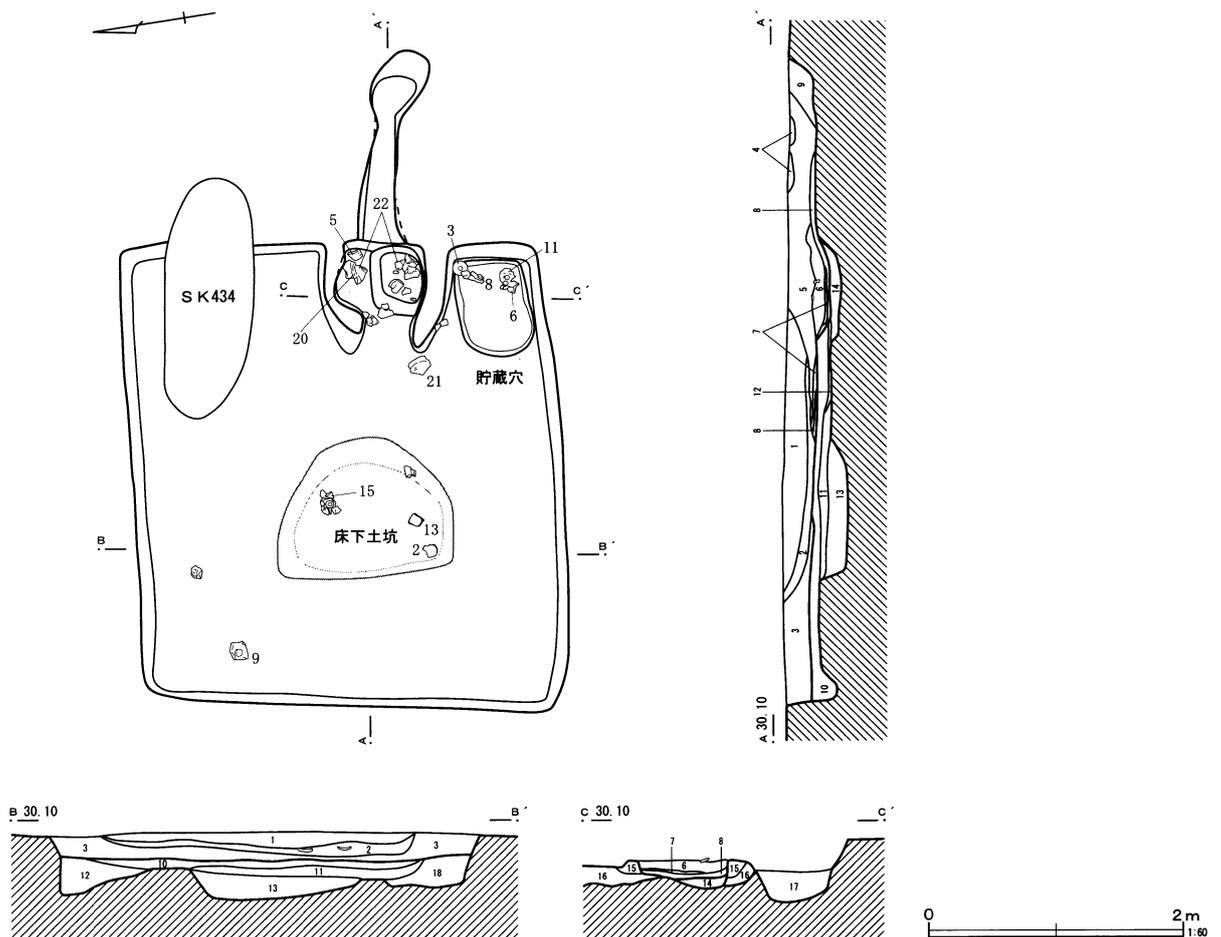
遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付碗、灰釉陶器高台付碗が出土した。

第174号住居跡 (第329・330図)

F・G-15グリッドに位置する。第161号住居跡・第240号土坑・第48号溝と重複し、すべてに切られている。規模は、主軸長東西4.76m、南北3.80m、深さ11cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-68°-Eを指す。

カマドは、東壁北寄りに設けられている。カマド左袖の部分は、第240号土坑に切られ、燃焼部は、69cm×73cm、深さ10cm程が確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・灰釉陶器高台付碗と鉄製品が出土した。7は鉄鏝の一部と考えられる鉄製品である。現存長3.4cm、角閔をもつ頸部破片である。

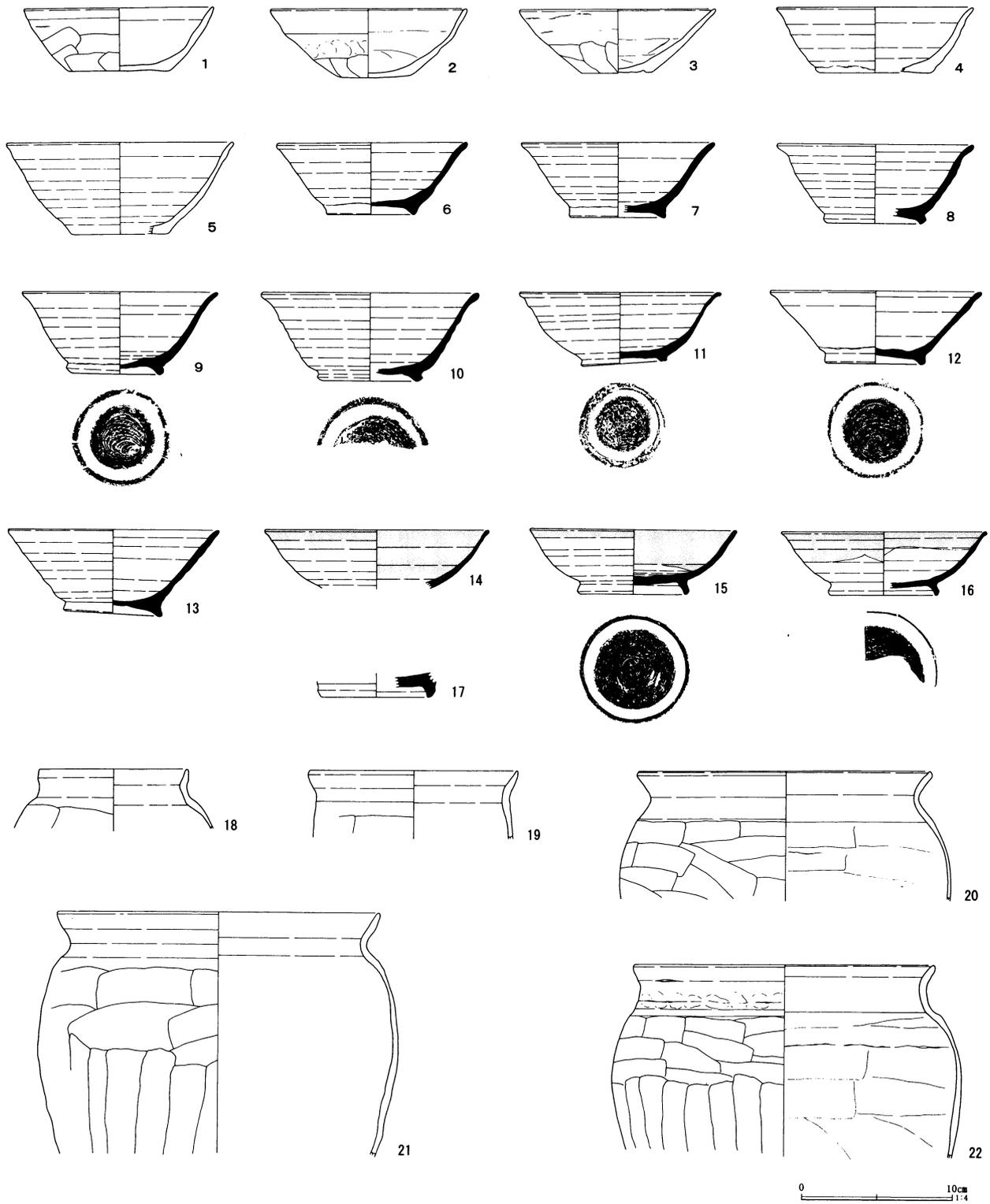


- | | | |
|----|-------|--------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック少量 |
| 2 | 黒褐色土 | 灰主体 焼土粒少量 |
| 3 | 暗褐色土 | 黄褐色土粒少量 |
| 4 | 赤褐色土 | 焼土層 (煙道天井残欠) |
| 5 | 暗灰褐色土 | 焼土粒少量 |
| 6 | 暗褐色土 | 灰を主体 黒褐色土との混土 (カマド天井崩落土) |
| 7 | 暗灰色土 | 焼土粒・黄褐色土粒微量 |
| 8 | 黒褐色土 | 灰層 |
| 9 | 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 黄褐色土粒多量 |
| 10 | 灰褐色土 | 焼土粒微量 灰色粘土多量 (貼り床) |
| 11 | 灰褐色土 | 10層と近似 粘土主体 (貼り床) |
| 12 | 黒色土 | 炭化物・灰主体 (掘り方) |
| 13 | 灰褐色土 | 褐色土多く含む (床下土坑) |
| 14 | 暗褐色土 | 褐色土・灰色土の混土層 (カマド掘り方) |
| 15 | 黄褐色土 | 黄褐色土・灰色粘土の混土層 |
| 16 | 暗褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック少量 (カマド掘り方) |
| 17 | 灰褐色土 | 焼土粒・炭化物多量 (貯蔵穴) |
| 18 | 灰褐色土 | 焼土粒・炭化物・黄褐色土粒含む |

第 327 図 第 173 号住居跡

第 173 号住居跡出土遺物観察表 (第 328 図)

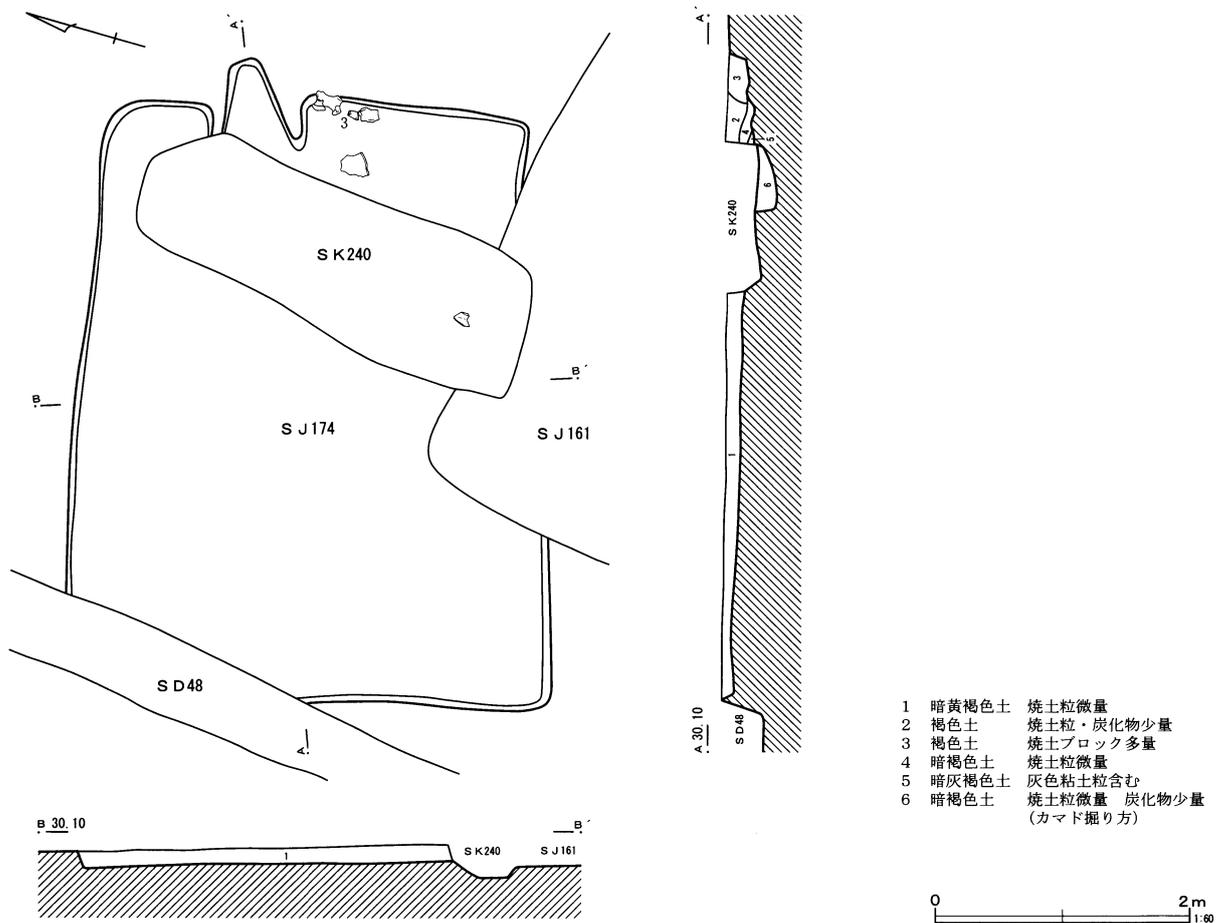
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	4.3	(6.6)	A B F J	普通	にぶい褐	30	貯蔵穴	
2	土師坏	13.0	4.0	4.8	A B F J	普通	灰黄褐	60	覆土	
3	土師坏	13.0	4.3	4.8	A B F J	普通	橙	95	覆土	
4	土師坏	(13.0)	4.4	(7.4)	A J	不良	黄灰	20	覆土	ロクロ土師器 底部調整不明
5	土師坏	(15.0)	6.1	(6.4)	A C F J K	普通	にぶい黄褐	15	カマド	ロクロ土師器 底部調整不明
6	須恵高台埴	(12.6)	4.8	6.0	A F J	不良	黄灰	60	貯蔵穴	底部調整不明
7	須恵高台埴	(12.8)	5.0	(6.4)	A B J	不良	灰	10	覆土	底部調整不明
8	須恵高台埴	(12.8)	5.3	(6.2)	A J	良好	灰白	40	貯蔵穴	底部回転糸切り
9	須恵高台埴	(13.0)	5.5	6.5	A J	良好	黄灰	60	覆土	
10	須恵高台埴	(14.4)	5.9	(7.0)	A J	良好	灰黄褐	50	覆土	



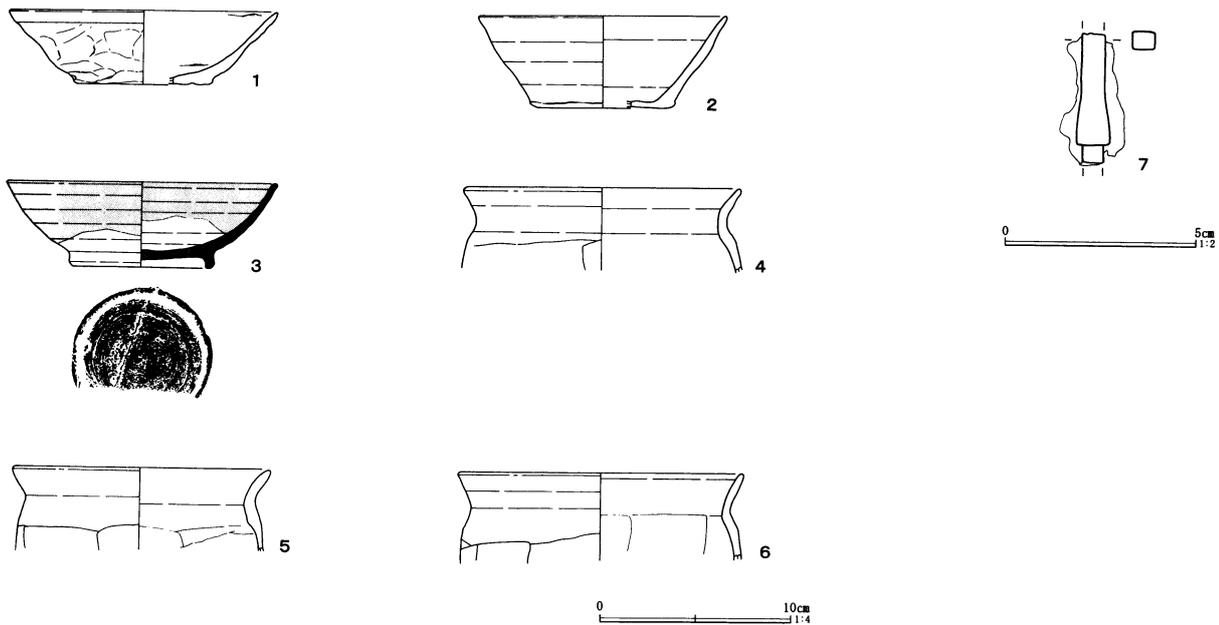
第 328 图 第 173 号住居跡出土遺物

第 173 号住居跡出土遺物観察表 (第 328 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
11	須恵高台埴	13.4	4.9	5.8	AJK	良好	灰	70	覆土	
12	須恵高台埴	(14.0)	4.9	6.6	ABJ	普通	灰	30	覆土	やや歪みあり
13	須恵高台埴	(14.0)	5.8	6.3	AFJ	不良	にぶい黄橙	60	覆土	
14	灰釉埴	(14.6)			G	良好	灰白	10	覆土	施釉ツケガケ 東濃産
15	灰釉高台埴	13.5	4.3	6.9	AGK	良好	灰白	80	覆土	高台内へラ削り 施釉ツケガケ 内面重ね 焼き痕あり 東濃産
16	灰釉高台埴	(13.4)	4.2	(7.1)	AG	良好	灰黄	25	覆土	高台内へラ削り 施釉ツケガケ 内面重ね 焼き痕あり 東濃産
17	灰釉高台埴			(7.1)	A	普通	灰白	10	覆土	高台内へラ削り 内外面ハケヌリ 浜北産
18	土師甕	(9.8)			ABF	普通	にぶい褐	25	覆土	
19	土師甕	(13.7)			AF	普通	にぶい橙	15	覆土	
20	土師甕	(19.4)			ABFJ	普通	橙	30	カマド	
21	土師甕	(21.2)			J	普通	灰白	10	覆土	
22	土師甕	20.0			ABFJ	普通	にぶい橙	70	カマド	



第 329 図 第 174 号住居跡



第330図 第174号住居跡出土遺物

第174号住居跡出土遺物観察表 (第330図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(14.0)	3.9	(7.0)	A B F J	普通	にぶい黄橙	15	覆土	底部未調整
2	土師坏	(13.0)	4.9	(7.6)	A B F J	普通	にぶい橙	40	覆土	ロクロ土師器 底部糸切り
3	灰釉高台碗	(14.0)	4.5	7.1	G	良好	灰白	50	覆土	高台内へラ削り 施釉ツケガケ 内面重ね 焼き痕 東濃産
4	土師甕	(14.2)			A G	良好	にぶい橙	25	カマド	
5	土師甕	(13.3)			F G	普通	にぶい橙	25	覆土	
6	土師甕	(14.6)			A B F J	良好	灰褐	30	覆土	

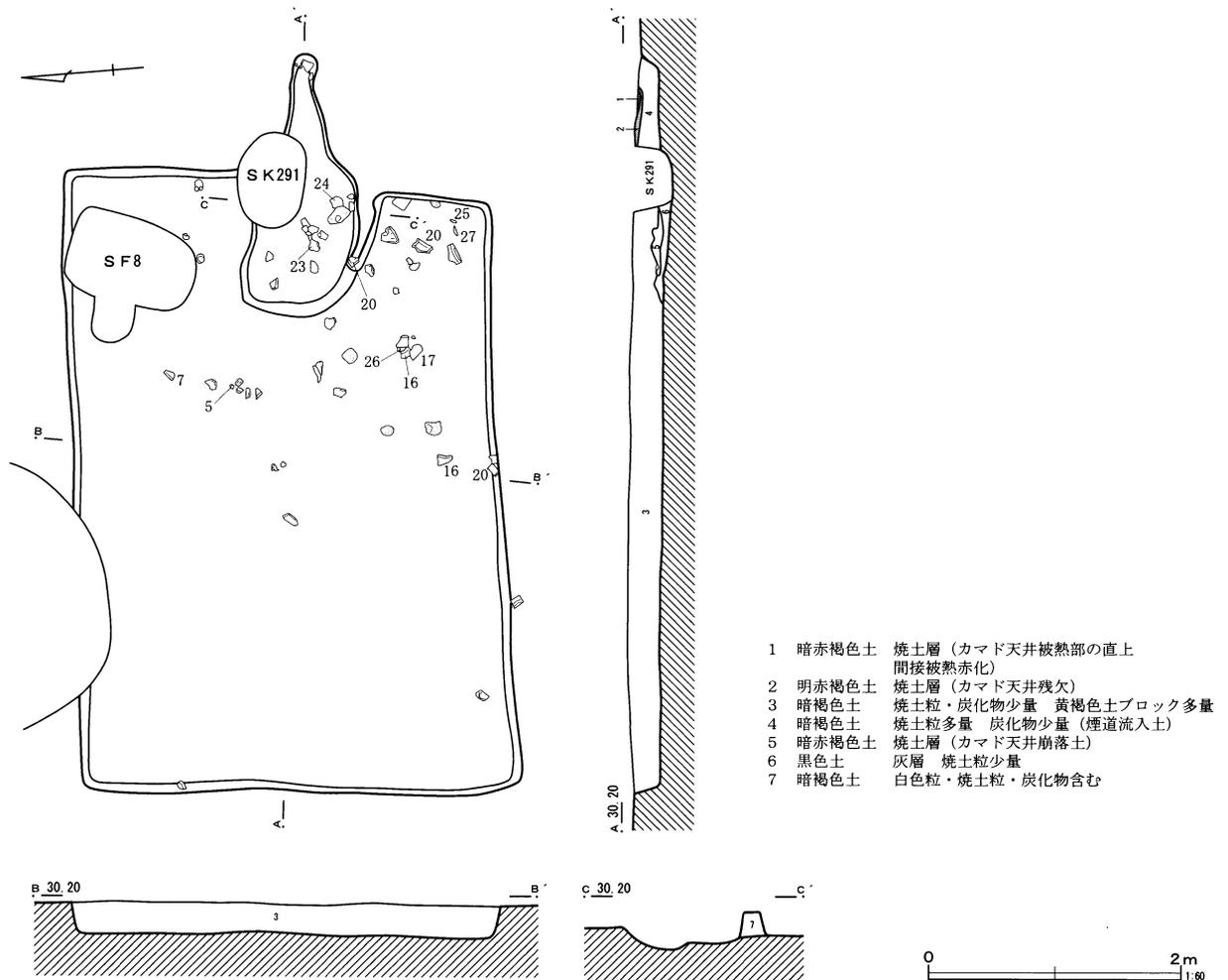
第176号住居跡 (第331・332・333図)

・ J・K-14・15グリッドに位置する。第203号住居跡・第291号土坑、第8号火葬墓と重複し、住居跡以内に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長東西4.91m、南北3.48m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-96°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。カマドの北側に第291号土坑があり切られている。燃烧部は、83cm×83cm、深さ8cmが残存し、煙道部は長さ70cmが確認できた。

遺物は、土師器高台付碗・甕、須恵器高台付碗・

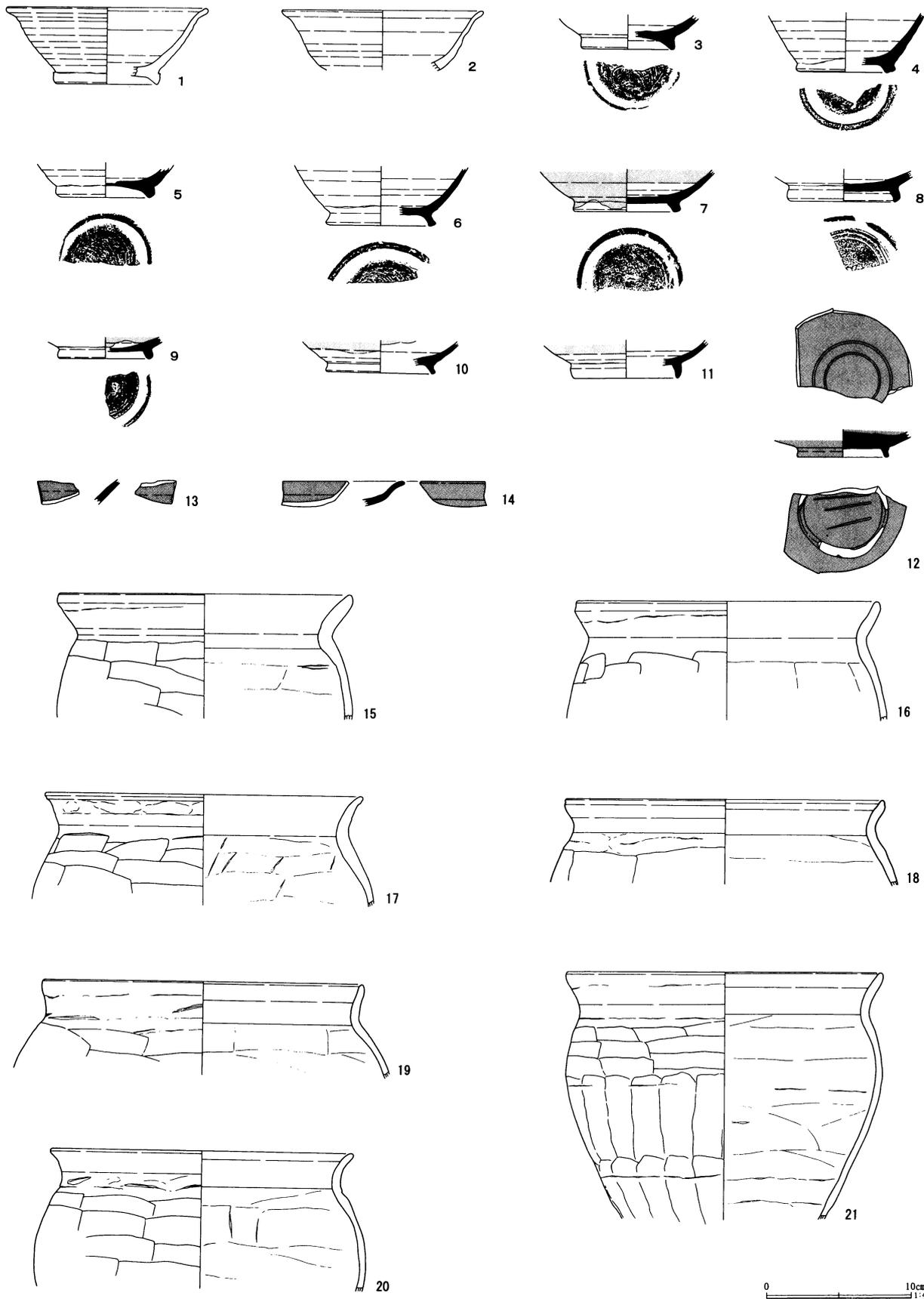
甕、灰釉陶器高台付碗、緑釉陶器高台付皿と鉄製品が出土した。26は鉄製刀子である。切先と茎先を欠き、現存長は7.9cmである。刃幅は0.5～1.1cmで、関の形状は推定であるが、刃関の不明瞭な両関と考えられる。27は角棒状の鉄製品で、現存長は4.4cmである。用途は不明である。



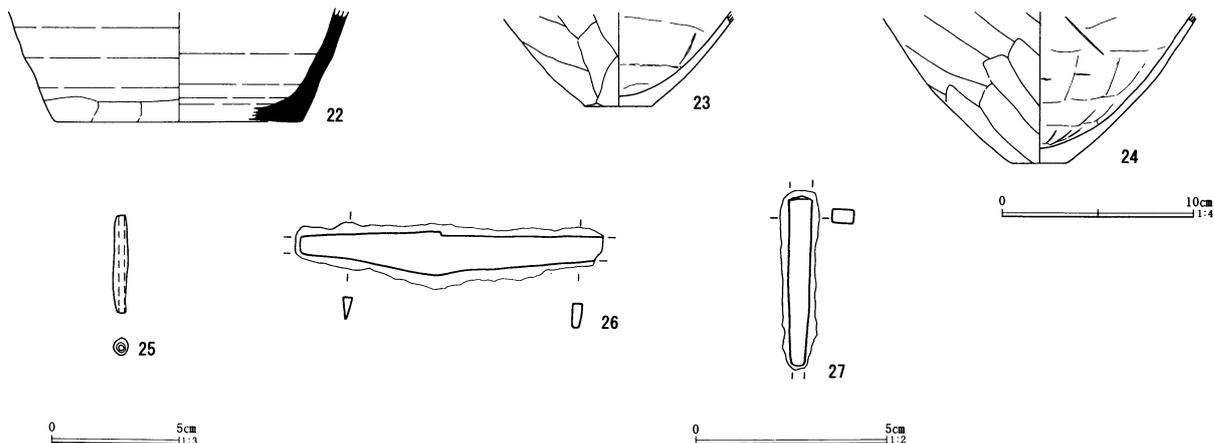
第 331 図 第 176 号住居跡

第 176 号住居跡出土遺物観察表 (第 332 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師高台埴	(14.0)	(5.4)	(7.0)	A B F J	普通	浅黄橙	20	覆土	ロクロ土師器
2	土師埴	(14.0)			A J	良好	にぶい橙	20	覆土	ロクロ土師器
3	須恵高台埴			(6.0)	A C	普通	灰	35	覆土	底部回転糸切り
4	須恵高台埴			(6.8)	A C J	良好	黄灰	40	覆土	
5	須恵高台埴			(6.0)	A C J	良好	灰	50	床直	底部回転糸切り
6	須恵高台埴			(7.6)	A G J	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
7	灰釉高台埴			(7.4)	A G	良好	灰	50	床直	高台内へラ削り 施釉ツケガケ 浜北産
8	灰釉高台埴			(7.0)	A J	良好	灰	20	覆土	高台内へラ削り 施釉なし 浜北産
9	灰釉高台埴			(6.2)	A	良好	灰	15	覆土	高台内へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
10	灰釉高台埴			(7.6)	A J	良好	黄灰	20	覆土	高台内糸切り 施釉ツケガケ 東濃産
11	灰釉高台埴			(7.0)	A	良好	灰	10	覆土	高台内糸切り 施釉 東濃産
12	緑釉高台皿			(6.3)	J	良好	—	40	床直	猿投産
13	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
14	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
15	土師甕	(20.0)			A B F J	普通	橙	10	カマド	
16	土師甕	(20.5)			A F J	普通	にぶい橙	25	覆土	



第 332 图 第 176 号住居跡出土遺物 (1)



第333図 第176号住居跡出土遺物(2)

第176号住居跡出土遺物観察表(第332・333図)

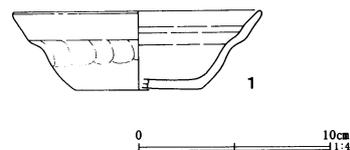
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
17	土師甕	(22.0)			A F J	良好	にぶい橙	20	床直	やや歪みあり
18	土師甕	(22.0)			A B J	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
19	土師甕	(22.0)			A B C F J	普通	浅黄橙	25	覆土	
20	土師甕	(21.0)			A B F J	普通	にぶい黄橙	30	カマド	
21	土師甕	(20.0)			A B C F J	普通	にぶい橙	15	覆土	
22	須恵甕			(13.0)	A J	普通	灰	20	覆土	
23	土師甕			(3.6)	A B F J	普通	橙	30	カマド	
24	土師甕			2.8	A C F J	普通	橙	40	カマド	
25	土錘	長さ3.8 径0.6 孔径0.25				普通	灰白	100	覆土	

第177号住居跡(第334・335図)

K-13・14グリッドに位置する。第151・165・172・198・202号住居跡及び第293号土坑と重複し、東壁は第165号住居跡・第293号土坑に切られ、北西隅は第151号住居跡に切られ、第172・198・202号住居跡を切っている。規模は、遺存主軸長東西2.50m、遺存南北1.06m、深さ24cm程を測る。主軸方位は、N-98°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、122cm×45cmが残存していた。

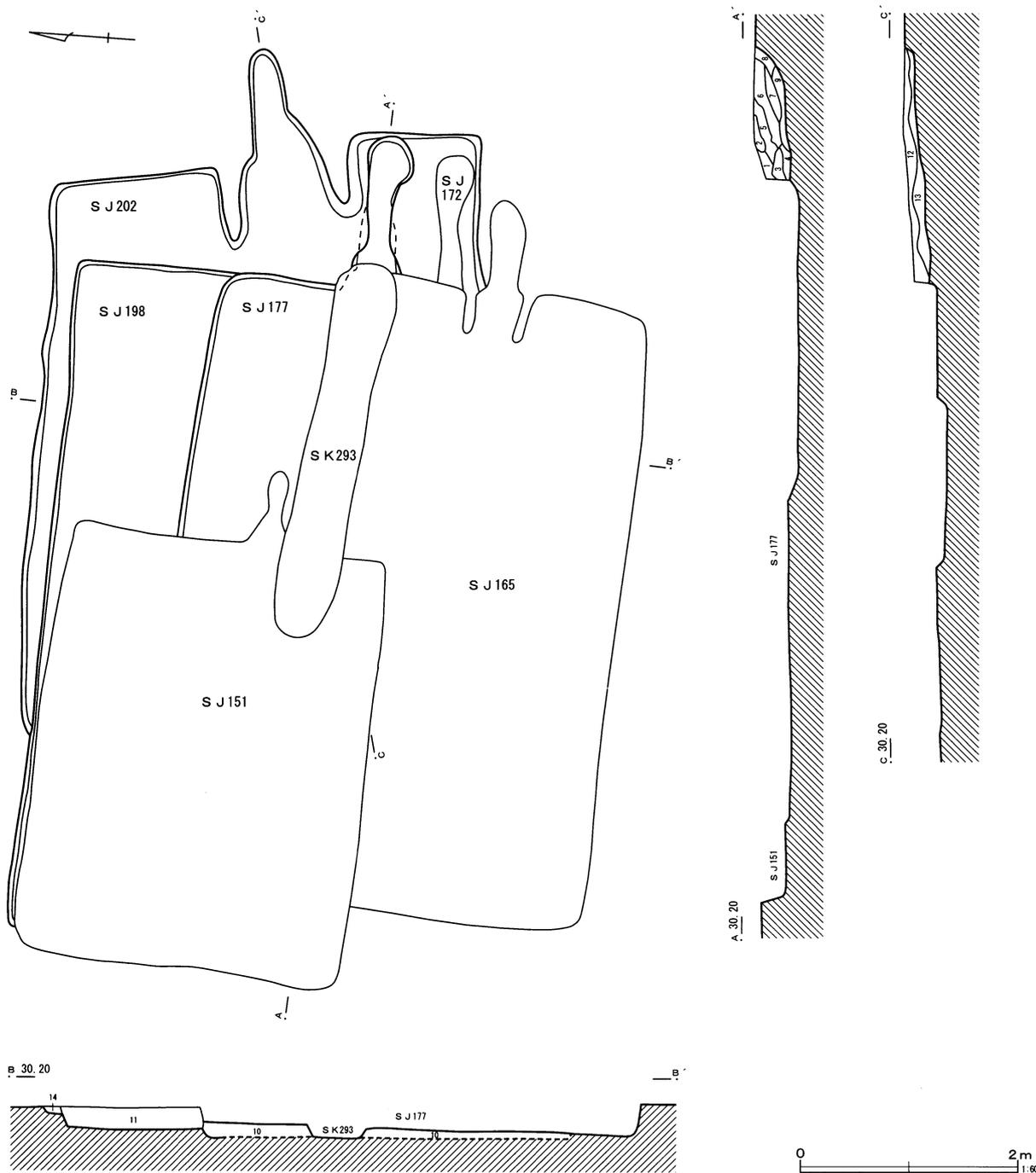
遺物は、土師器環が出土した。



第335図 第177号住居跡出土遺物

第177号住居跡出土遺物観察表(第335図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(12.9)	4.1	(6.5)	A B F	普通	にぶい橙	30	カマド	



第177号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量
- 2 明赤褐色土 焼土層 カマド天井
- 3 暗褐色土 焼土粒・黄褐色土ブロック混入
- 4 黒褐色土 灰層 焼土粒やや多く混入
- 5 暗褐色土 焼土粒微量 炭化物少量
- 6 暗褐色土 焼土粒少量 炭化物多量
- 7 暗褐色土 焼土粒少量 焼土ブロック混入
- 8 暗褐色土 焼土粒多量 灰との混土層

第198号住居跡

- 9 暗褐色土 焼土粒少量 灰混入 (燃焼部)
- 10 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物微量 粘土多量 (貼り床)

第202号住居跡

- 11 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量 粘土含む
- 12 暗褐色土 白色粒・炭化物少量 焼土粒多量 砂質土 (カマド天井崩落土)
- 13 黒褐色土 白色粒・炭化物微量 焼土粒少量 砂質土 (カマドの残欠)
- 14 暗褐色土 焼土少量 炭化物微量

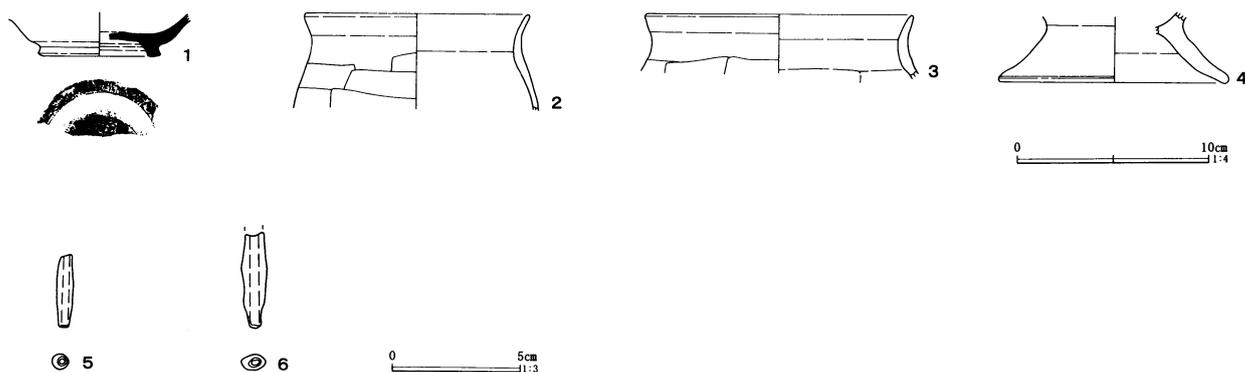
第334図 第177・198・202号住居跡

第198号住居跡 (第334・336図)

K-13・14グリッドに位置する。第151・177・202号住居跡と重複し、第151・177に切られ、第202号住居跡を切っている。規模は、遺存している北壁で主軸長東西3.10m、遺存している東壁で南北1.37mが確認でき、北壁を基準とすると主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

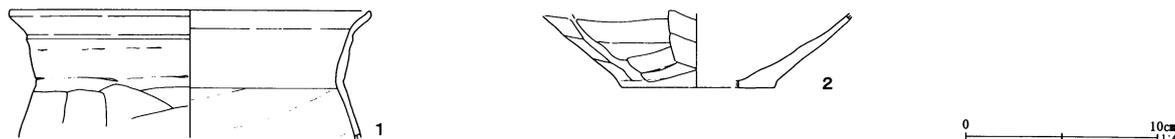
遺物は、須恵器高台坏碗、土師器甕・台付甕、土錘が出土した。



第336図 第198号住居跡出土遺物

第198号住居跡出土遺物観察表 (第336図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台碗			(5.7)	AJ	普通	暗灰黄	20	覆土	
2	土師甕	(11.6)			AF	普通	にぶい橙	破片	覆土	
3	土師甕	(13.9)			AF	普通	橙	20	覆土	
4	土師台付甕			(11.7)	AF	普通	灰黄褐	20	覆土	
5	土錘	長さ2.9	径0.7	孔径0.2		普通	にぶい赤褐	100	覆土	
6	土錘	長さ(3.7)	径1.0	孔径0.3		普通	にぶい黄橙	80	覆土	



第337図 第202号住居跡出土遺物

第202号住居跡出土遺物観察表 (第337図)

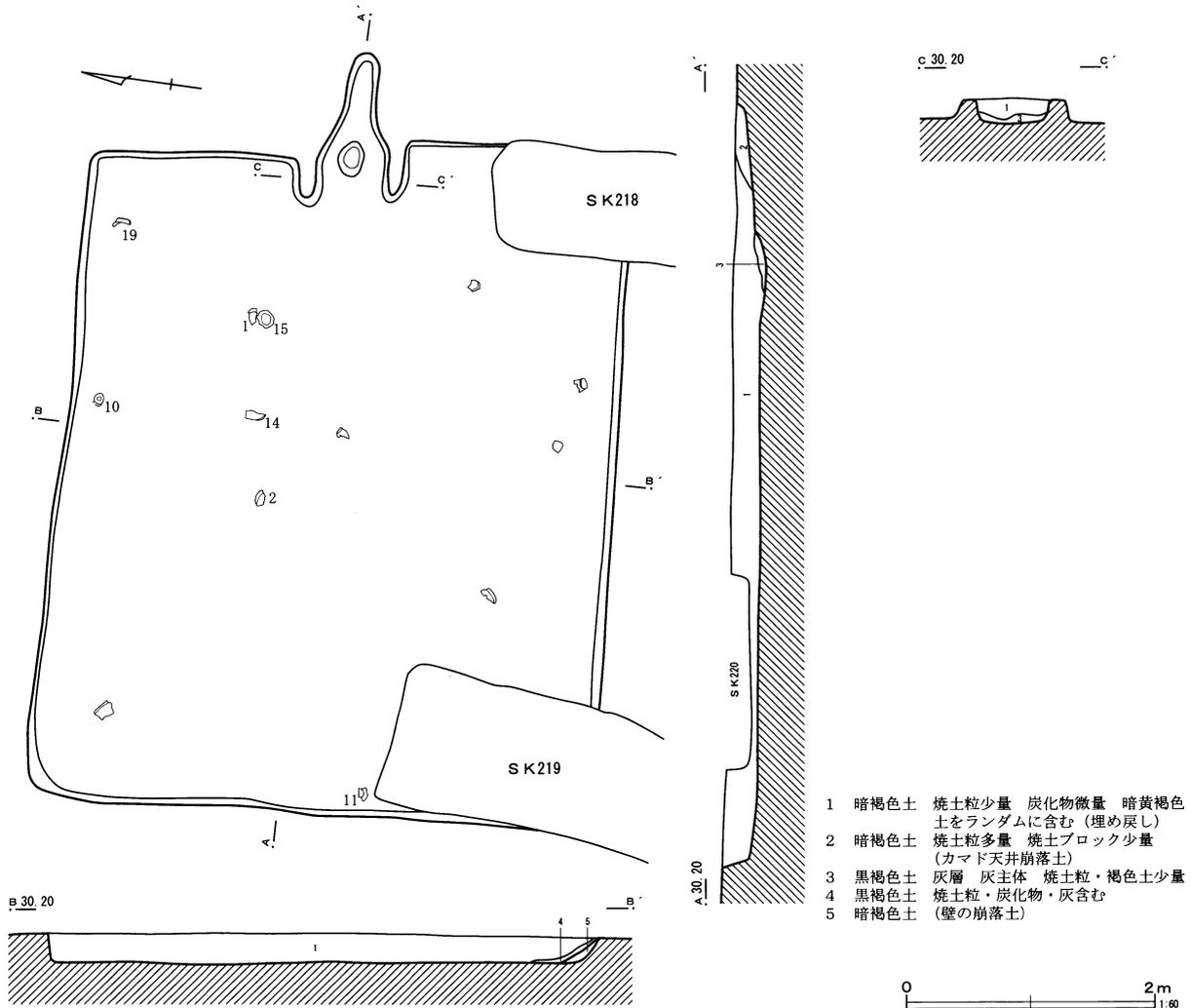
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師甕	(19.0)			ABC FJ	普通	にぶい褐	30	カマド	
2	土師甕			(8.0)	AB	良好	黒褐	20	覆土	

第178号住居跡 (第338・339図)

L-13グリッドに位置する。第208号住居跡・第218・219・220号土坑と重複し、土坑には切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長東西5.33m、南北4.50m、深さ23cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、75cm×65cm、深さ7cm程を測り、煙道部は、長さ105cmが確認できた。

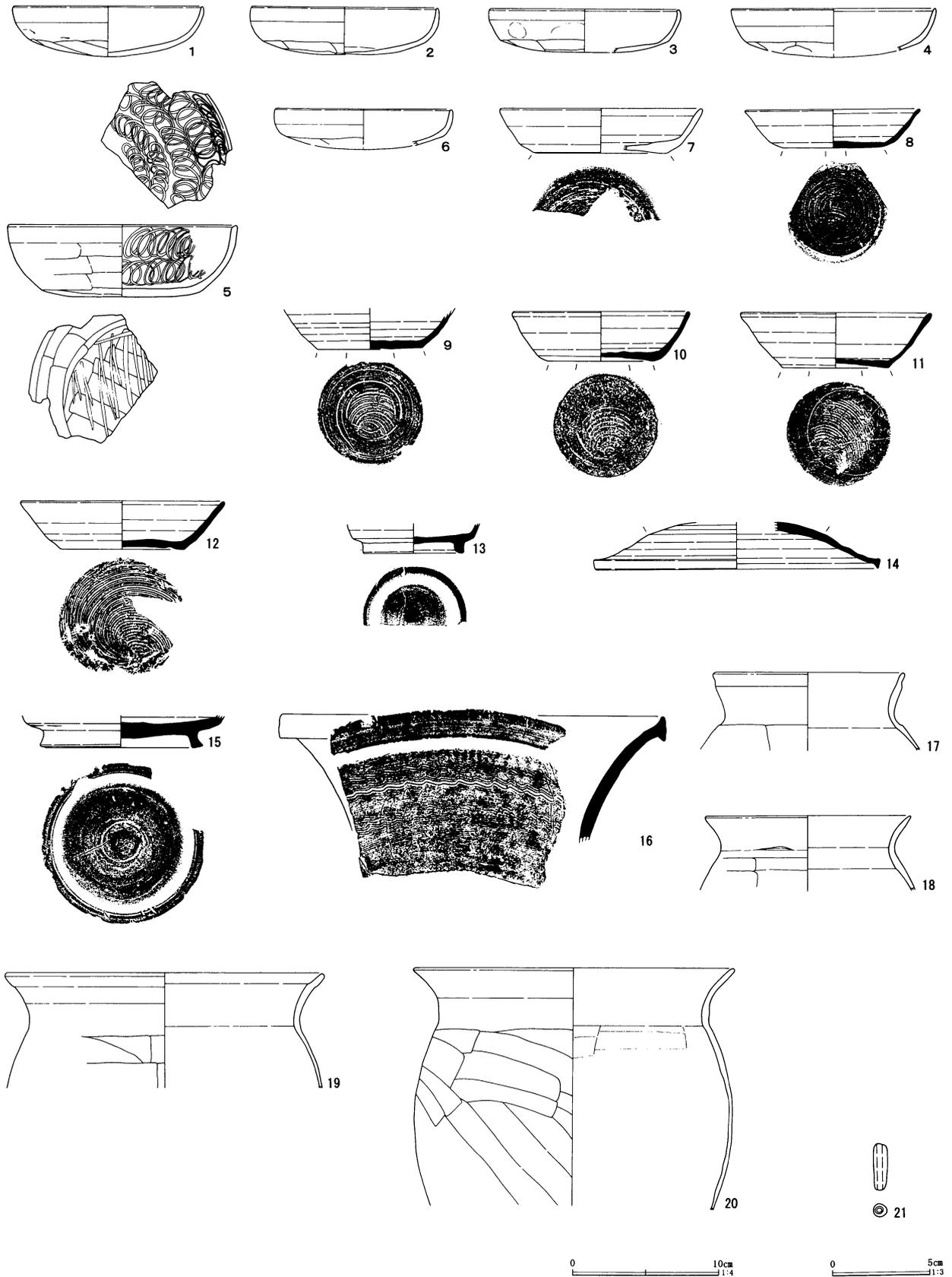
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・蓋・高台付盤・甕、土錘が出土した。



第338図 第178号住居跡

第178号住居跡出土遺物観察表 (第339図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	3.5		BCJ	普通	橙	40	覆土	
2	土師坏	(13.0)	3.3		AJK	普通	明赤褐	30	覆土	
3	土師坏	(13.0)	3.0		BCFJ	普通	にぶい橙	20	覆土	
4	土師坏	(14.0)	(2.9)		ABC	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師坏	(15.6)	5.0	(10.8)	AFJ	良好	橙	20	覆土	内面螺旋状暗文 底部外面へラ削り後暗文
6	土師坏	(12.0)	(2.5)		BCJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
7	須恵坏	(13.8)	3.1	(9.2)	AFJ	普通	橙	30	覆土	酸化焙焼成



第 339 图 第 178 号住居跡出土遺物

第178号住居跡出土遺物観察表 (第339図)

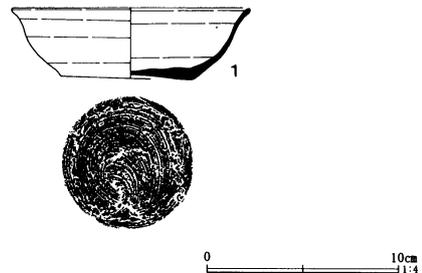
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
8	須恵坏	(12.0)	2.7	6.8	AHJK	良好	灰	60	覆土	
9	須恵坏		(2.8)	7.2	AHJK	良好	灰	40	覆土	
10	須恵坏	(12.0)	3.4	7.1	AHJK	良好	灰	70	覆土	体部外面下端回転ヘラ削り
11	須恵坏	(13.2)	3.8	7.3	AHJK	良好	灰	60	覆土	底部ヘラ記号
12	須恵坏	(14.0)	3.3	8.6	AGJK	良好	灰白	60	覆土	やや歪みあり
13	須恵高台坏			(6.8)	AJK	良好	灰	50	覆土	
14	須恵蓋	(19.4)			ACJ	良好	灰	40	覆土	天井部回転ヘラ削り
15	須恵高台盤			11.1	ACJ	良好	灰	90	覆土	底部回転ヘラ削り
16	須恵甕	(26.0)			AJK	良好	褐灰	25	覆土	
17	土師甕	(13.0)			ABJ	普通	橙	20	覆土	
18	土師甕	(14.0)			ABCFG	普通	にぶい赤褐	20	覆土	
19	土師甕	(21.6)			ABCF	普通	橙	15	床直	
20	土師甕	(21.9)			ABCF	普通	橙	10	掘り方	
21	土錘	長さ2.4	径0.7	孔径0.3		普通	橙	80	覆土	

第179号住居跡 (第340・341図)

L・M-14グリッドに位置する。第171号住居跡、第7号溝と重複し、住居跡に上部を殆ど切られ、南西部を溝に切られている。規模は、主軸長東西4.77m、南北4.86m、深さ12cm程を測る。平面形は、台形を呈すると推定される。主軸方位は、N-76°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、102cm×75cmが遺存していた。

遺物は、須恵器坏が出土した。



第340図 第179号住居跡出土遺物

第179号住居跡出土遺物観察表 (第340図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.5	3.7	7.0	CJK	良好	灰	70	覆土	底部右回転糸切り

第180号住居跡 (第342・343図)

K・L-13・14グリッドに位置する。第195号住居跡と重複し、切っている。北壁は不明瞭である。規模は、主軸長東西6.64m、南北3.10m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、

100cm×70cmが残存していた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付坏・高台付塊・円面硯、灰釉陶器高台付皿、緑釉陶器、基石が出土した。

第178号住居跡出土遺物観察表 (第339図)

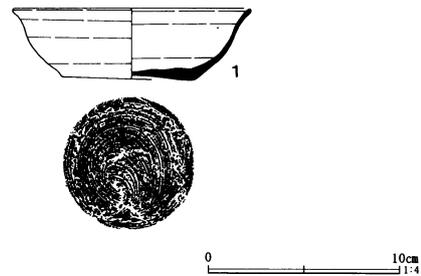
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
8	須恵坏	(12.0)	2.7	6.8	AHJK	良好	灰	60	覆土	
9	須恵坏		(2.8)	7.2	AHJK	良好	灰	40	覆土	
10	須恵坏	(12.0)	3.4	7.1	AHJK	良好	灰	70	覆土	体部外面下端回転ヘラ削り
11	須恵坏	(13.2)	3.8	7.3	AHJK	良好	灰	60	覆土	底部ヘラ記号
12	須恵坏	(14.0)	3.3	8.6	AGJK	良好	灰白	60	覆土	やや歪みあり
13	須恵高台坏			(6.8)	AJK	良好	灰	50	覆土	
14	須恵蓋	(19.4)			ACJ	良好	灰	40	覆土	天井部回転ヘラ削り
15	須恵高台盤			11.1	ACJ	良好	灰	90	覆土	底部回転ヘラ削り
16	須恵甕	(26.0)			AJK	良好	褐灰	25	覆土	
17	土師甕	(13.0)			ABJ	普通	橙	20	覆土	
18	土師甕	(14.0)			ABCFG	普通	にぶい赤褐	20	覆土	
19	土師甕	(21.6)			ABCF	普通	橙	15	床直	
20	土師甕	(21.9)			ABCF	普通	橙	10	掘り方	
21	土錘	長さ2.4 径0.7 孔径0.3				普通	橙	80	覆土	

第179号住居跡 (第340・341図)

L・M-14グリッドに位置する。第171号住居跡、第7号溝と重複し、住居跡に上部を殆ど切られ、南西部を溝に切られている。規模は、主軸長東西4.77m、南北4.86m、深さ12cm程を測る。平面形は、台形を呈すると推定される。主軸方位は、N-76°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃烧部は、102cm×75cmが遺存していた。

遺物は、須恵器坏が出土した。



第340図 第179号住居跡出土遺物

第179号住居跡出土遺物観察表 (第340図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.5	3.7	7.0	CJK	良好	灰	70	覆土	底部右回転糸切り

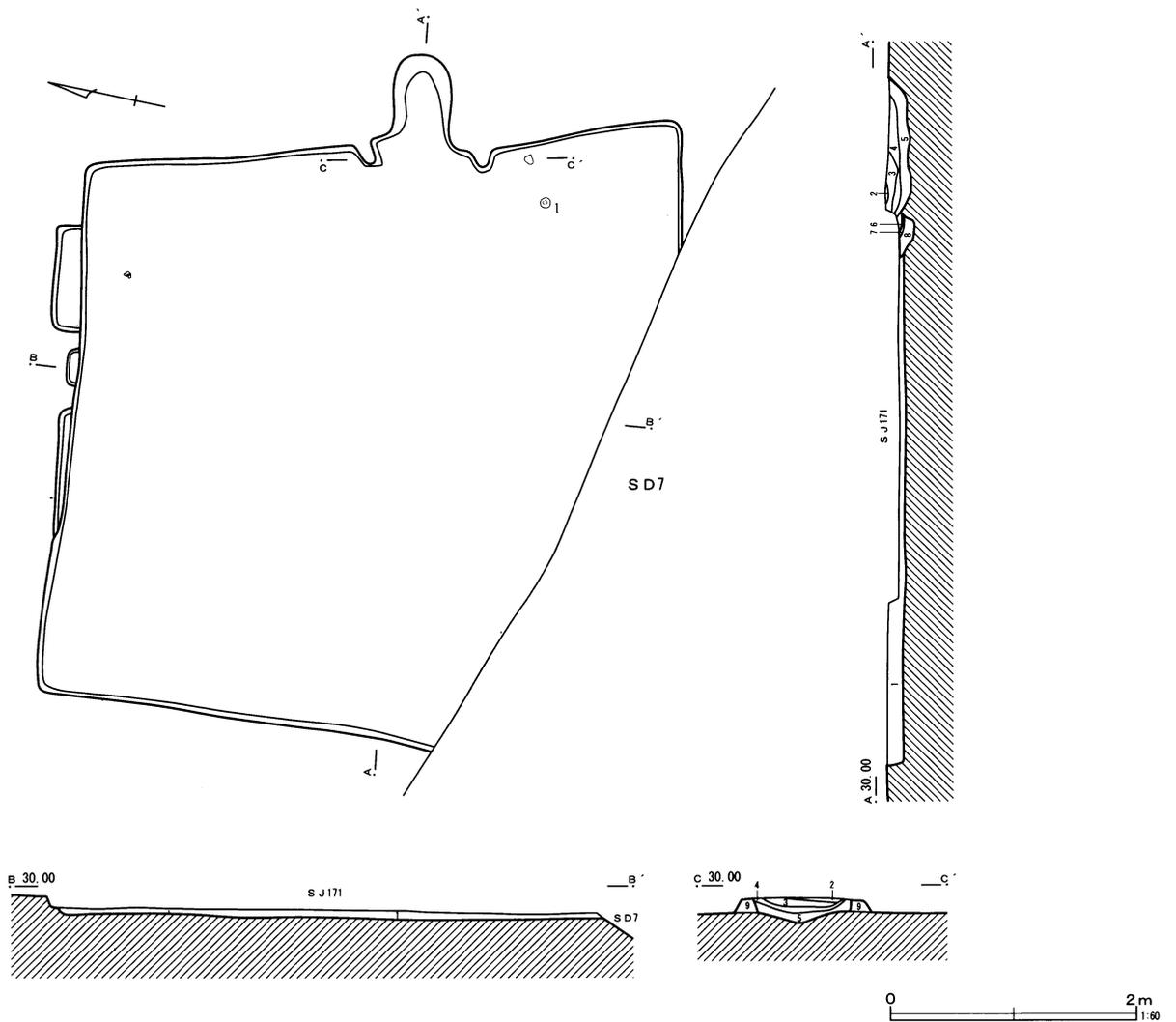
第180号住居跡 (第342・343図)

K・L-13・14グリッドに位置する。第195号住居跡と重複し、切っている。北壁は不明瞭である。規模は、主軸長東西6.64m、南北3.10m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、

100cm×70cmが残存していた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付坏・高台付碗・円面硯、灰釉陶器高台付皿、緑釉陶器、基石が出土した。



- | | | | |
|----------|-----------------------------|----------|--------------------------|
| 第179号住居跡 | 5 黒灰色土 | 灰層 焼土粒少量 | |
| 1 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 | 6 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 (カマド掘り方) |
| 2 赤褐色土 | 焼土層 (カマド天井崩落土) | 7 黒色土 | 焼土粒少量 |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 | 8 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 6層に近似 (カマド掘り方) |
| 4 暗褐色土 | 焼土ブロック多量 炭化物・灰少量 (カマド天井崩落土) | 9 暗灰褐色土 | 灰褐色粘土含む |

第341図 第179号住居跡

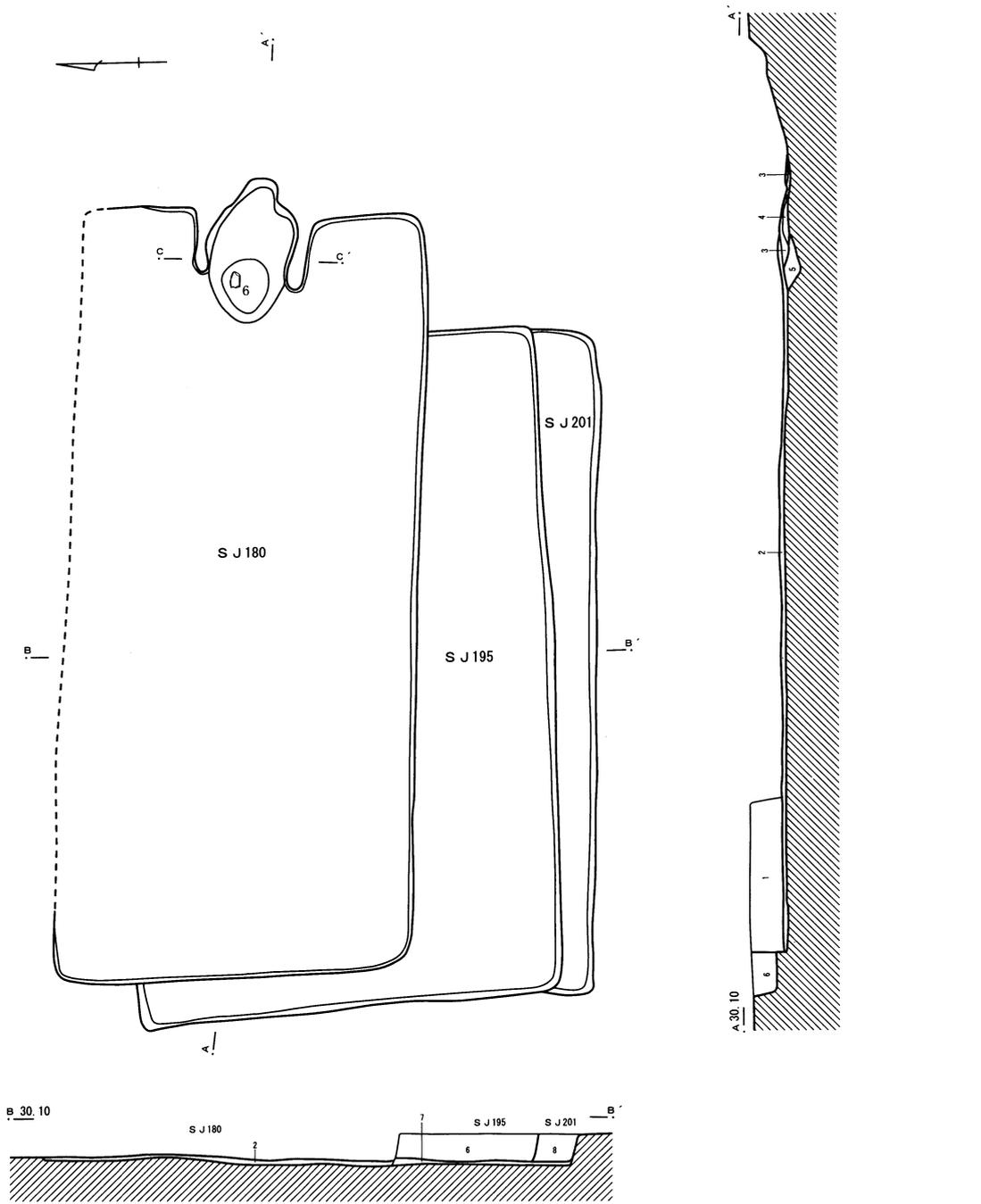
第195号住居跡 (第344・345図)

L-13・14グリッドに位置する。第180・201号住居跡と重複し、第180号住居跡に切られ、第201号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西5.84m、西壁で南北3.72m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-89°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付碗と鉄製品

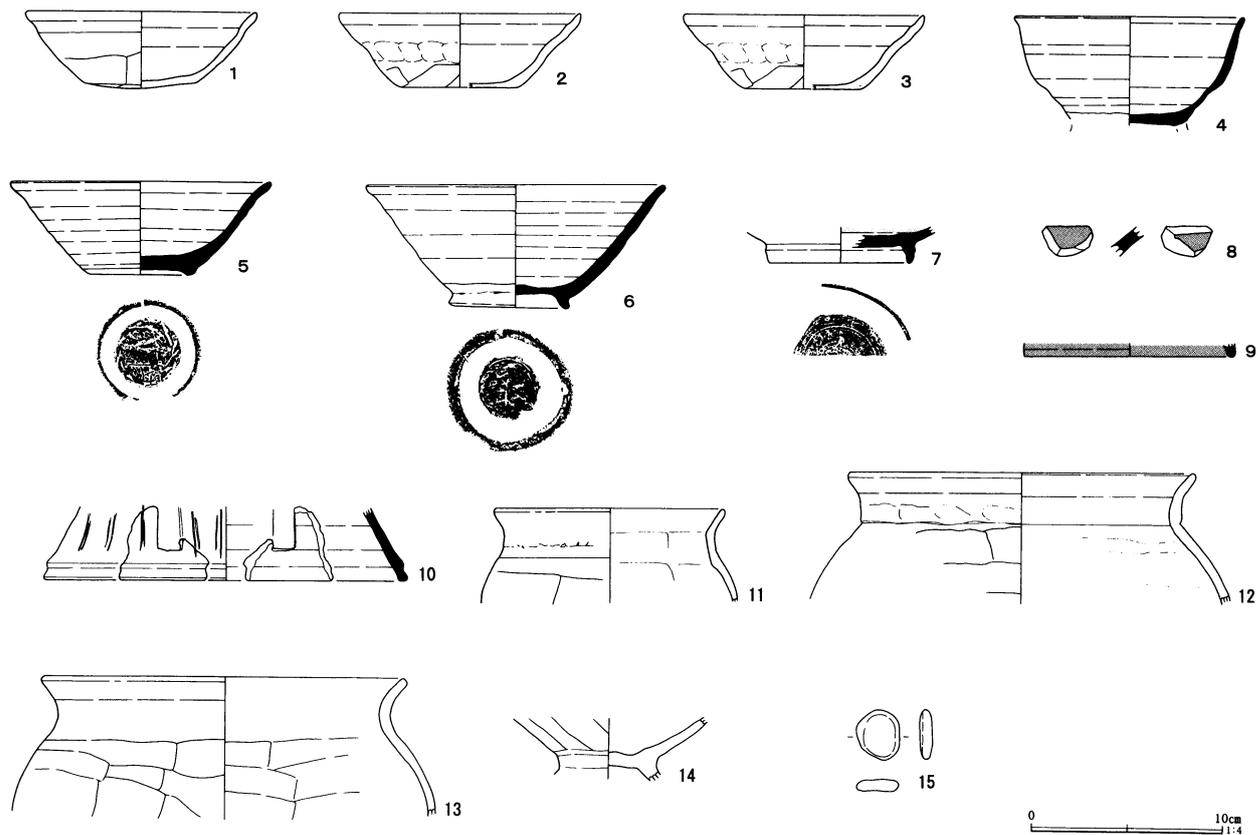
が出土した。6は大きく折れ曲がる角棒状の鉄製品である。現存長は4.6cm。のぼすと9cmほどになる。用途は不明である。



第180・195・201号住居跡

- 1 暗褐色土 白色粒混入 焼土粒・炭化物多量
- 2 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量 灰色粘土多量 (貼り床)
- 3 暗褐色土 焼土粒多量 (カマド天井崩落土)
- 4 黒色土 灰層 焼土粒多量混入
- 5 黒褐色土 焼土粒・炭化物多量 灰混入 (カマド掘り方)
- 6 暗褐色土 白色粒混入 焼土粒少量 炭化物やや多量 (S J 195)
- 7 暗黄褐色土 黄褐色土との混土 (S J 195貼り床)
- 8 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量 (S J 201)

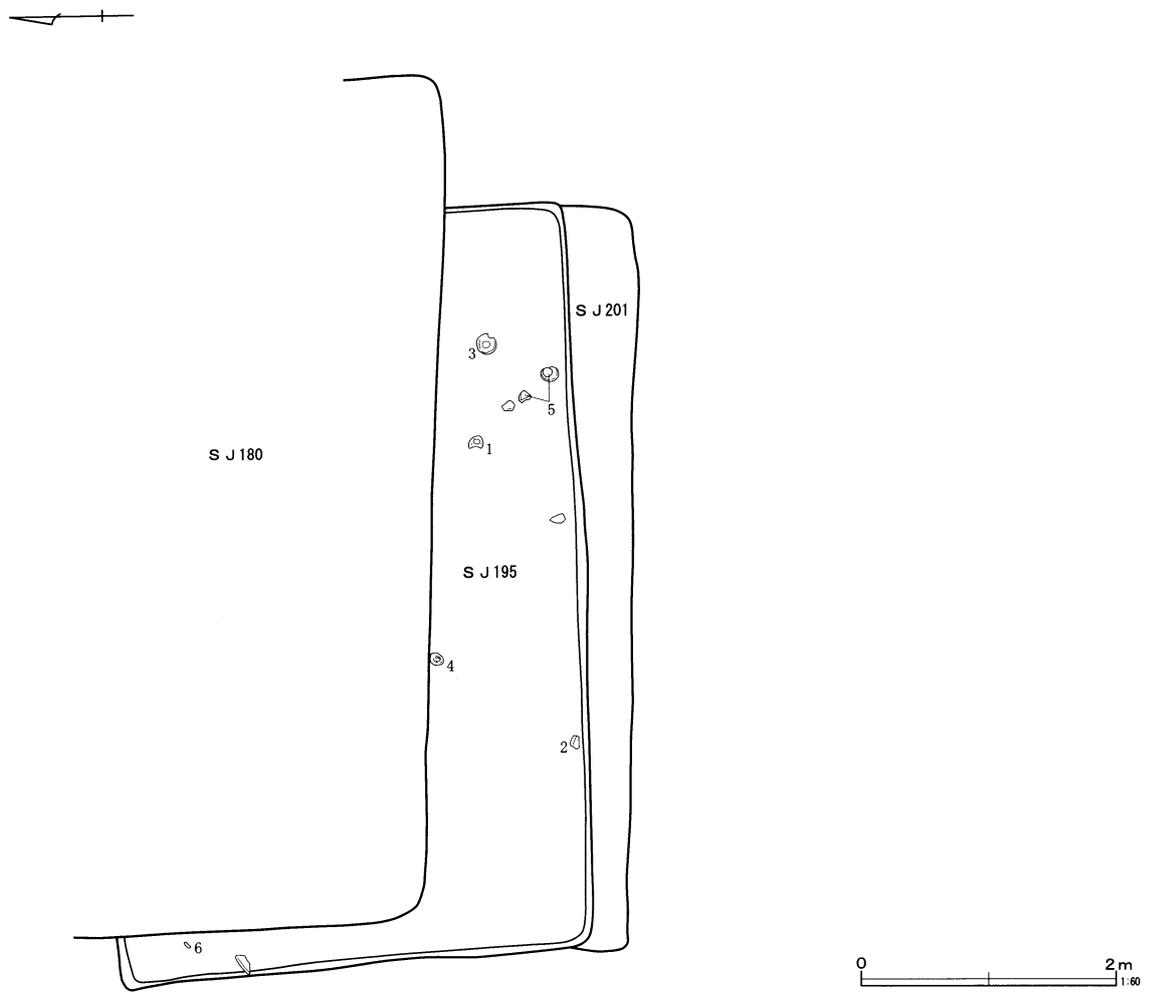
第342図 第180号住居跡



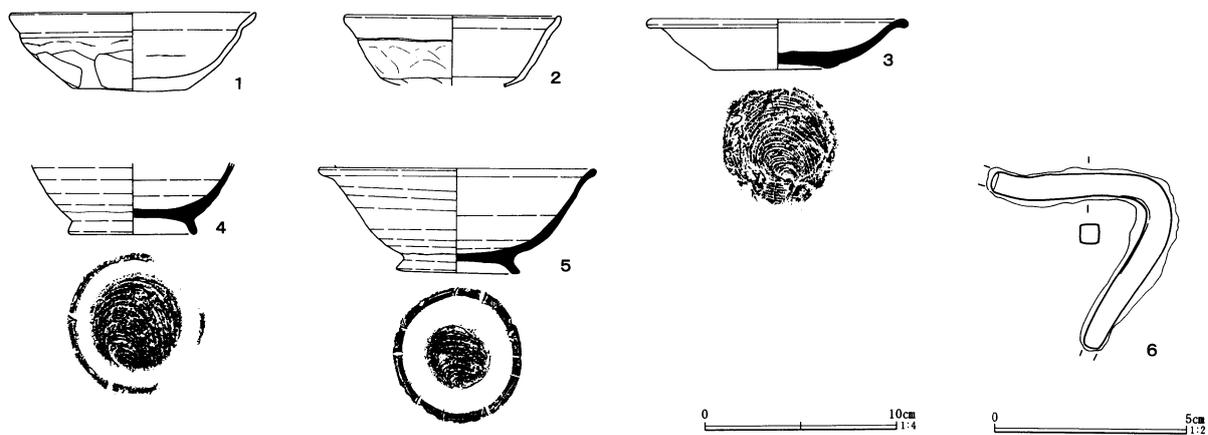
第 343 図 第 180 号住居跡出土遺物

第 180 号住居跡出土遺物観察表 (第 343 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(11.9)	4.1	(6.0)	A B F	普通	にぶい橙	25	覆土	
2	土師杯	(12.5)	3.9	(6.0)	B J	良好	灰黄	25	覆土	
3	土師杯	(13.7)	3.9	(6.1)	A F J	良好	橙	20	覆土	
4	須恵高台碗	(12.0)	(5.7)		A E G	良好	褐灰	40	覆土	高台部分剥離
5	須恵高台杯	13.6	4.9	5.1	A C J	良好	灰	70	覆土	
6	須恵高台碗	15.6	6.5	6.4	A J K	普通	灰	80	カマド	器形の歪み大きい
7	灰釉高台皿			(7.4)	G	良好	灰白	25	覆土	高台内糸切り 施釉 内面重ね焼き痕あり 東濃産
8	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
9	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
10	須恵門面硯			(18.8)	A	良好	灰	10	覆土	圈足硯 脚台部は長方形透孔と縦位の沈線
11	土師甕	(10.8)			B	良好	にぶい黄橙	20	覆土	
12	土師甕	(18.0)			A B J	普通	褐灰	15	覆土	
13	土師甕	(18.8)			A C F	良好	灰黄褐	15	覆土	
14	土師台付甕				A B F G	普通	灰褐	30	覆土	
15	基石	長さ 2.1 幅 2.2 厚さ 0.6						—	覆土	



第 344 图 第 195 号住居跡



第 345 图 第 195 号住居跡出土遺物

第 195 号住居跡出土遺物観察表 (第 345 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.9	4.2	5.9	A B F J K	普通	にぶい橙	90	覆土	やや歪みあり
2	土師坏	(11.2)	(3.7)		A B F	普通	橙	30	覆土	歪み大きい
3	須恵坏	13.0	2.8	6.0	A D G	良好	灰	90	床直	底部回転糸切り
4	須恵高台壺			6.5	A J K	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
5	須恵高台壺	14.4	5.5	6.5	A I J K	良好	灰	95	床直	底部回転糸切り

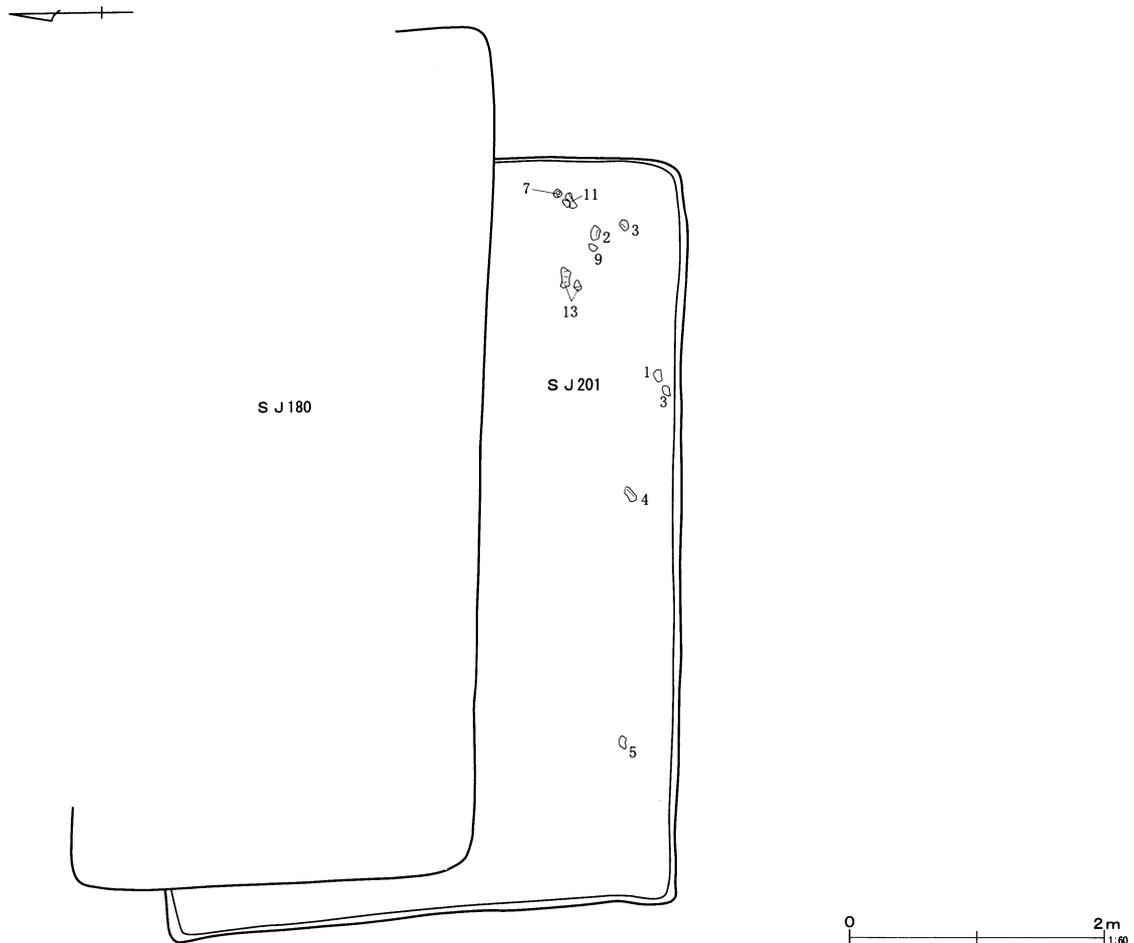
第 201 号住居跡 (第 346・347 図)

L-13・14 グリッドに位置する。第 195 号住居跡と重複し、切られている。規模は、主軸長南壁で東西 5.82 m、東壁で南北 0.55 m が確認でき、深さ

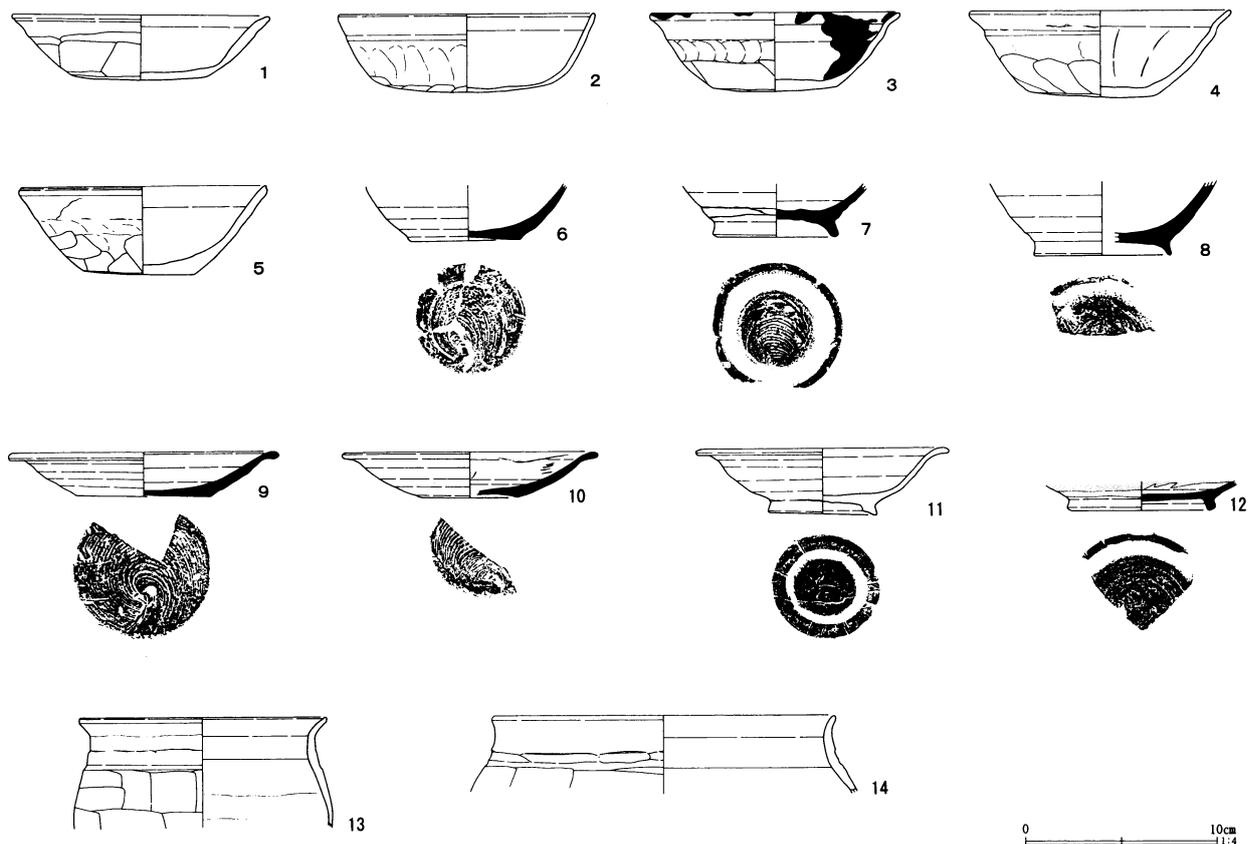
25cm 程を測る。主軸方位は、N-92°-E を指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・高台坏皿・甕、須恵器坏・高台坏壺・皿、灰釉陶器高台付皿が出土した。



第 346 図 第 201 号住居跡



第 347 図 第 201 号住居跡出土遺物

第 201 号住居跡出土遺物観察表 (第 347 図)

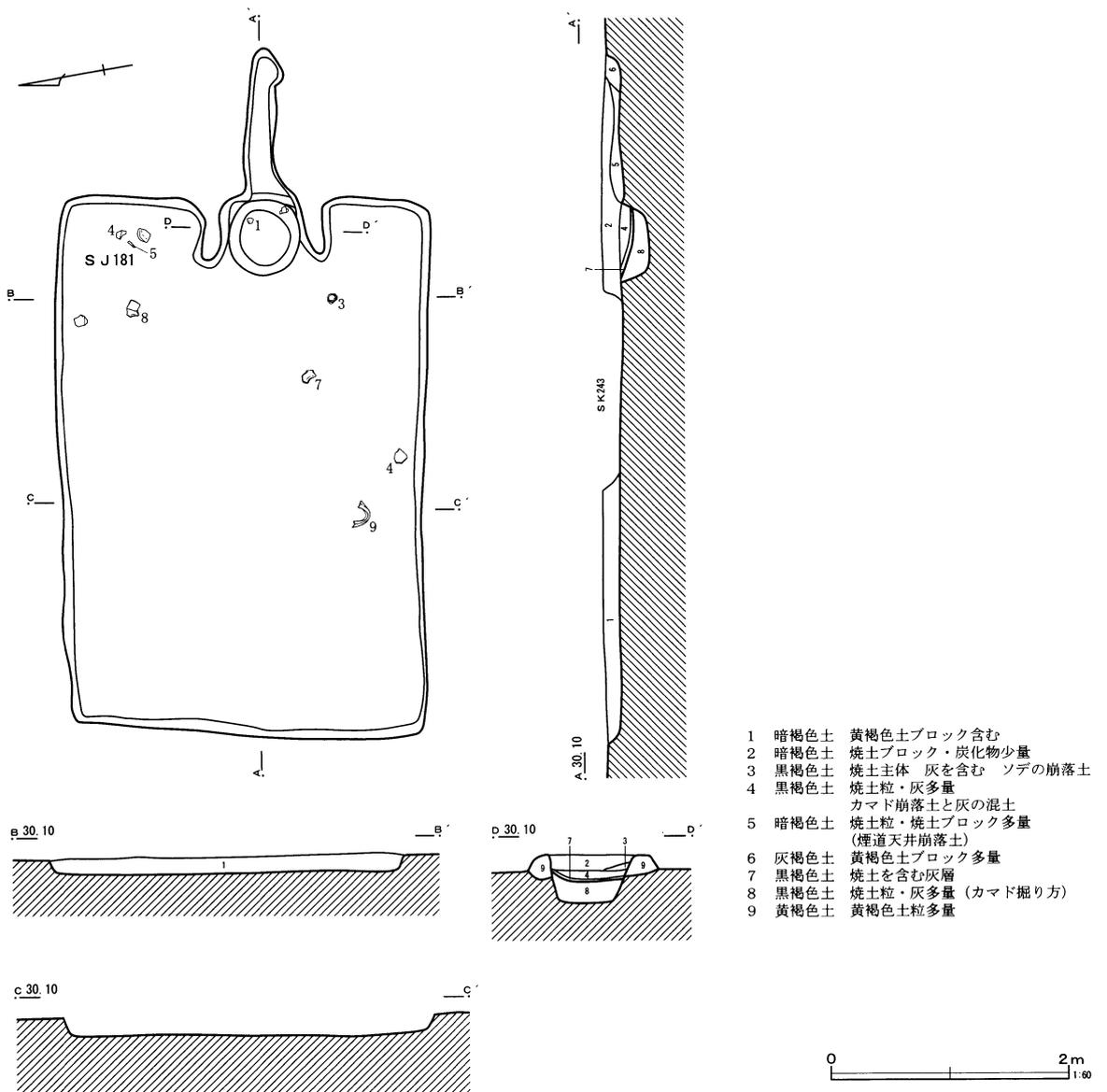
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.6)	3.4	7.3	A B F J	普通	橙	15	床直	底部ヘラ削り
2	土師坏	(13.4)	4.2		A B F J	普通	橙	45	床直	底部ヘラ削り
3	土師坏	13.0	4.2	6.4	A F	普通	橙	60	床直	油煙内外面付着 底部ヘラ削り
4	土師坏	13.8	4.6	6.7	A B F J	普通	橙	95	床直	底部一方向平行ヘラ削り
5	土師坏	12.8	4.7	5.9	A B F J	普通	橙	100	床直	やや楕円形 底部一方向平行ヘラ削り
6	須恵坏			5.5	A C F	不良	褐灰	50	覆土	
7	須恵高台碗			6.5	A J K	良好	灰	80	覆土	
8	須恵高台碗			(7.0)	A C F	普通	灰	20	覆土	
9	須恵皿	(14.2)	3.4	7.0	A G J K	良好	灰	60	床直	
10	須恵皿	(13.4)	2.4	(5.0)	A G J K	良好	灰	45	覆土	
11	土師高台皿	13.3	3.5	5.6	A F J K	普通	にぶい褐	100	床直	ロクロ土師器
12	灰釉高台皿			(7.2)	A J K	良好	灰	20	覆土	高台内ヘラ削り 内外面ハケヌリ 浜北産
13	土師甕	(13.0)			A B F J	普通	にぶい褐	25	覆土	
14	土師甕	(18.0)			A B F J	普通	にぶい橙	10	覆土	

第181号住居跡 (第348・349図)

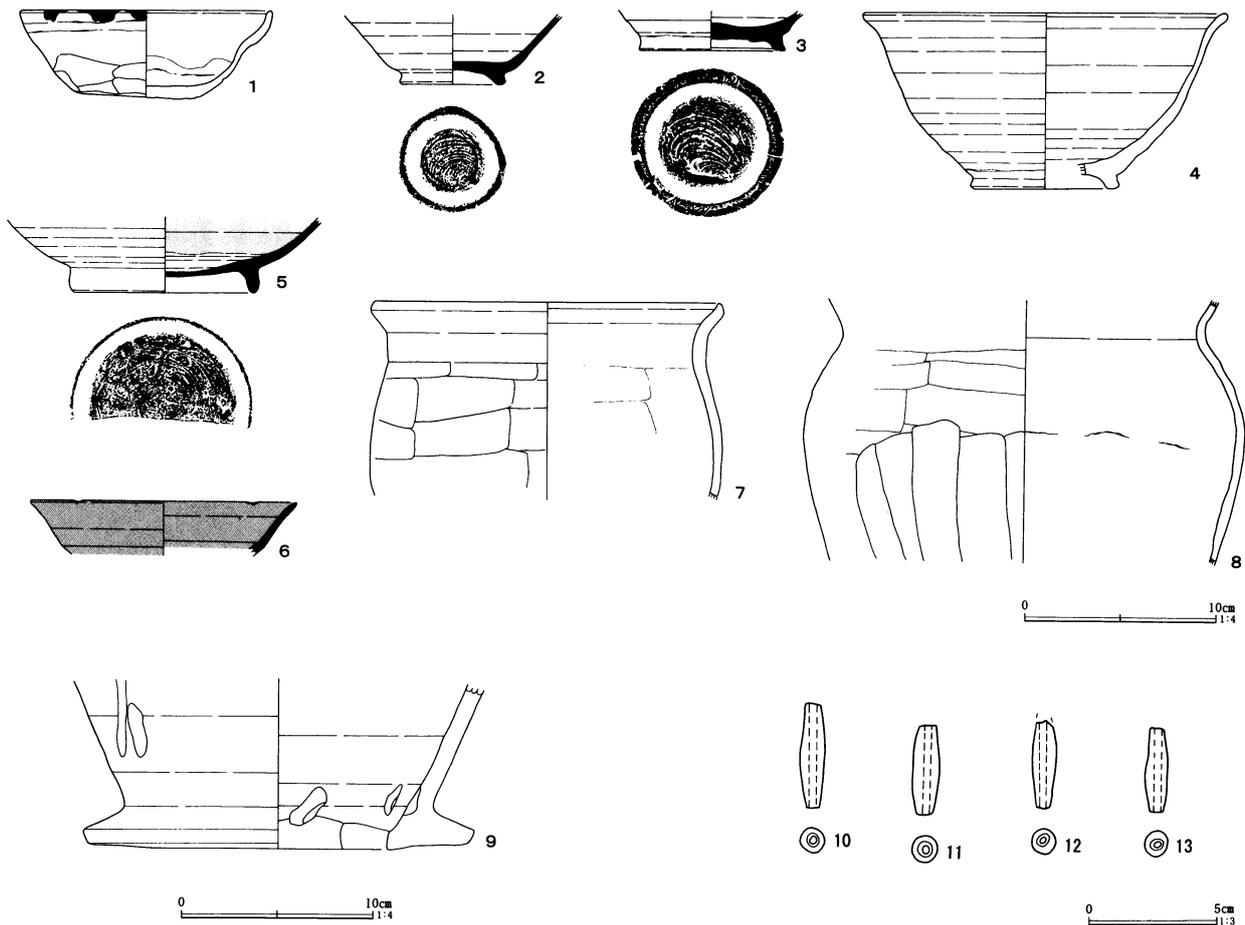
G-16グリッドに位置する。第189号住居跡・第243号土坑と重複し、土坑にカマド前を切られ、住居跡の上部を切っている。規模は、主軸長東西4.54 m、南北3.07 m、深さ14cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-100°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、64cm×72cm、深さ13cm程を測り、煙道部は長さ128cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台坏塼・甕・甌、須恵器高台付塼、灰釉陶器高台坏塼、緑釉塼と土錘が出土した。



第348図 第181号住居跡



第349図 第181号住居跡出土遺物

第181号住居跡出土遺物観察表 (第349図)

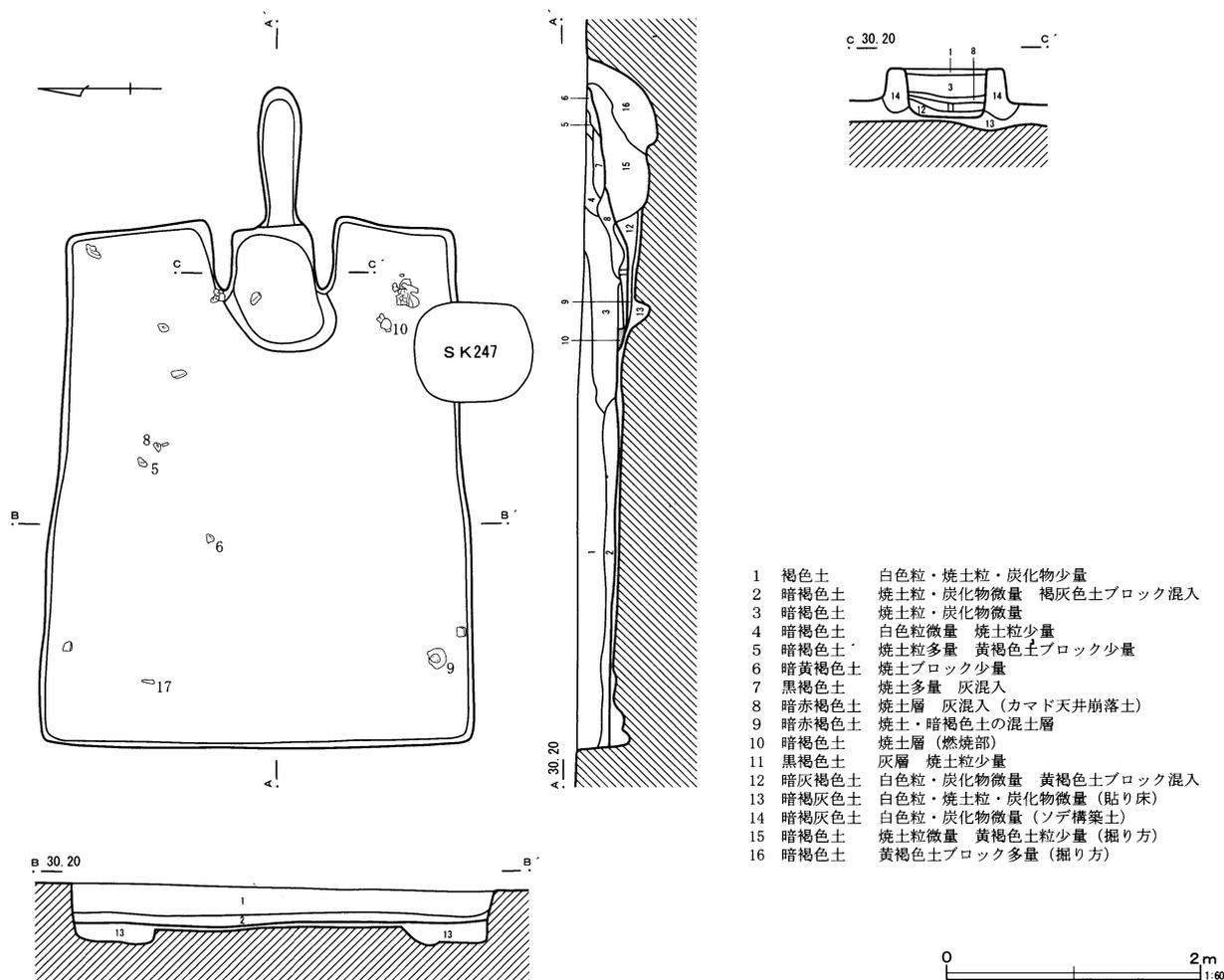
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	13.2	4.7	6.8	A B F J K	普通	橙	100	カマド	底部ヘラ削り
2	須恵高台碗			5.5	A J	良好	灰	60	覆土	やや歪みあり 底部回転糸切り
3	須恵高台碗			7.6	A J K	良好	灰	100	床直	底部右回転糸切り
4	土師高台碗	(19.0)	(9.3)	(7.6)	A C F J K	普通	にぶい橙	40	床直	ロクロ土師器
5	灰釉高台碗			9.4	A K	良好	灰白	40	覆土	高台内ヘラ削り 内面ハケヌリ 二川産
6	緑釉陶器碗						灰オリーブ	10	覆土	輪花稜碗 猿投産
7	土師甕	(18.0)			A B F J	普通	灰黄	20	床直	
8	土師甕				J	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
9	土師甕			(19.8)	A B F J K	普通	浅黄	40	床直	
10	土錘	長さ4.1	径1.0	孔径0.3		普通	灰黄	100	覆土	
11	土錘	長さ3.5	径1.0	孔径0.3		普通	褐灰	100	覆土	
12	土錘	長さ(3.45)	径0.95	孔径0.25		普通	灰白	90	覆土	
13	土錘	長さ3.3	径1.9	孔径0.29		普通	灰黄	95	覆土	

第182号住居跡 (第350・351図)

K-14・15グリッドに位置する。第203・280号住居跡・第247号土坑と重複し、土坑に南壁の一部が切られ、2軒の住居跡を切る。規模は、主軸長東西4.20m、南北3.40m、深さ30cm程を測る。平面形は、やや台形気味を呈する。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、98cm×68cm、深さ7cm程を測り、煙道部は長さ110cmが確認できた。

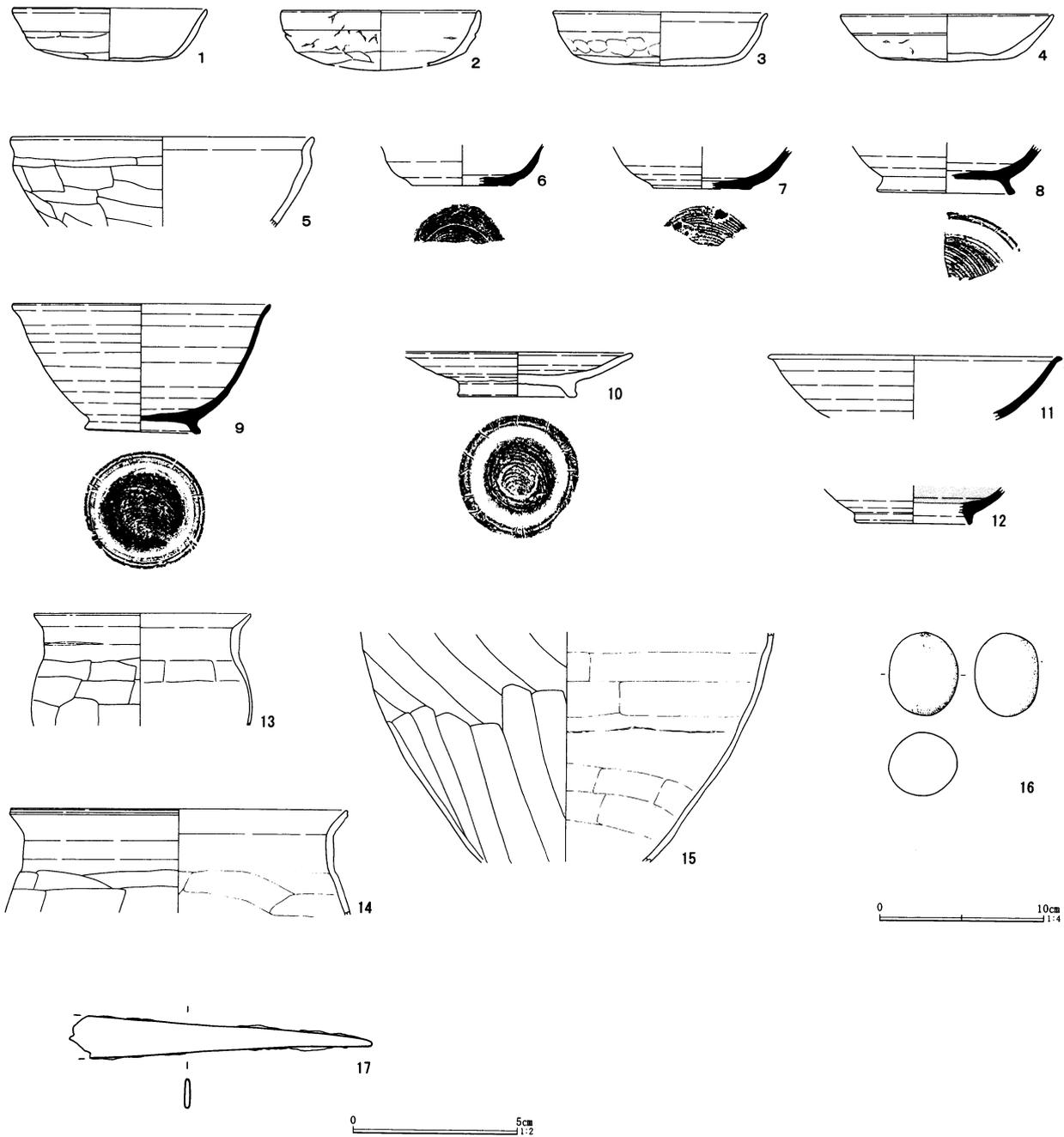
遺物は、土師器坏・鉢・甕、須恵器高台坏碗・高台坏皿、灰釉陶器碗・高台碗、磨石と鉄製品が出土した。17は、鉄製の柄もしくは茎である。現存長9.2cmである。



第350図 第182号住居跡

第182号住居跡出土遺物観察表 (第351図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.9	3.3	8.7	A B J	普通	橙	90	覆土	底部ヘラ削り
2	土師坏	(12.0)	(3.4)		A F J	普通	橙	20	覆土	
3	土師坏	(12.9)	3.4	(10.4)	A B J	普通	にぶい橙	30	覆土	底部ヘラ削り
4	土師坏	(13.0)	2.9	(8.2)	A J	普通	にぶい橙	20	覆土	底部ヘラ削り
5	土師鉢	(18.2)			B C G	良好	橙	25	覆土	



第351図 第182号住居跡出土遺物

第182号住居跡出土遺物観察表 (第351図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
6	須恵坏			(6.0)	AGJ	良好	灰	30	覆土	
7	須恵坏			(6.0)	AK	普通	灰	20	覆土	
8	須恵高台碗			(8.4)	JK	普通	灰	20	覆土	
9	須恵高台碗	(15.8)	8.0	7.1	ACJK	良好	灰	65	床直	底部回転糸切り
10	須恵高台皿	(14.0)	2.7	7.2	ACFJK	普通	にぶい赤褐	60	覆土	酸化焰焼成
11	灰釉碗	(17.6)			AG	良好	灰白	10	覆土	施釉なし 二川産
12	灰釉高台碗			(6.8)	AG	良好	灰白	15	覆土	高台内へら削り 内面ハケヌリ 内面重ね焼き痕 二川産

第182号住居跡出土遺物観察表 (第351図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
13	土師甕	(13.2)			BC	良好	橙	20	覆土	
14	土師甕	(20.5)			ABFG	良好	灰褐	15	カマド	
15	土師甕				ABFG	普通	にぶい褐	15	覆土	
16	磨石	長さ5.1 幅4.2 厚さ3.9					灰白	—	覆土	

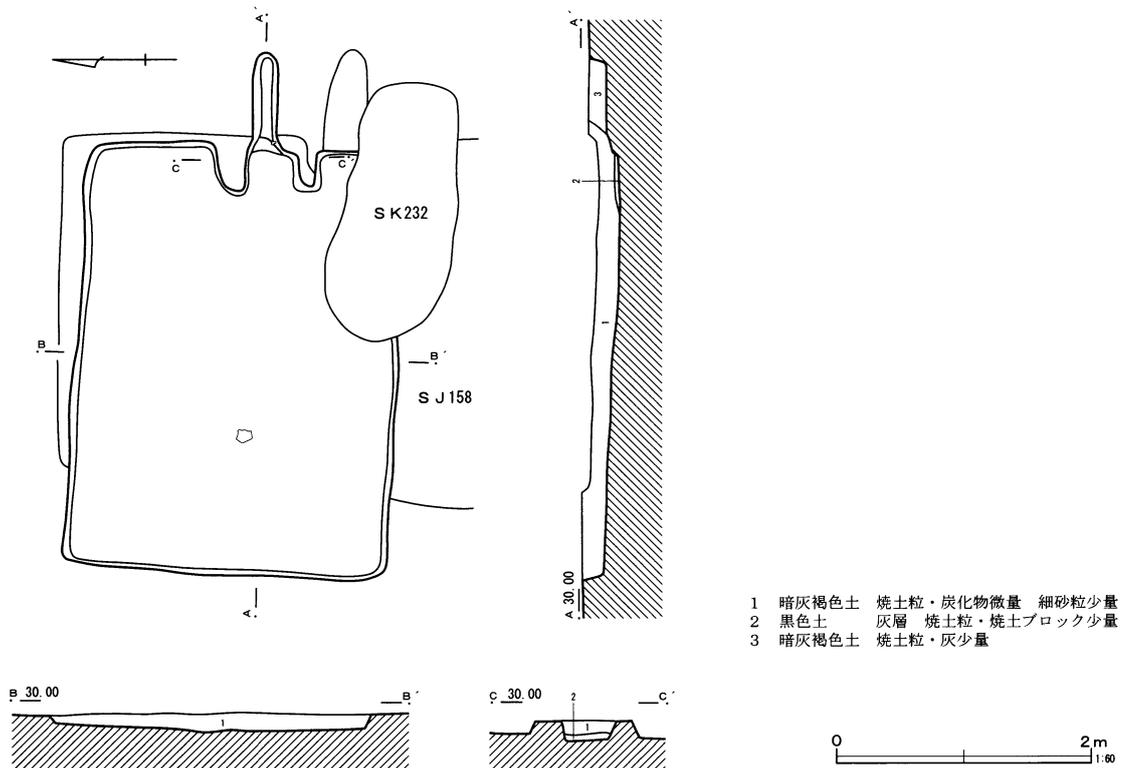
第183号住居跡 (第352・353図)

M・N-12・13グリッドに位置する。第158号住居跡・第232号土坑と重複し、土坑に南東隅が切られ、住居跡に殆ど上部が切られる。規模は、主軸長東西3.40m、南北2.56m、深さ17cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-92°

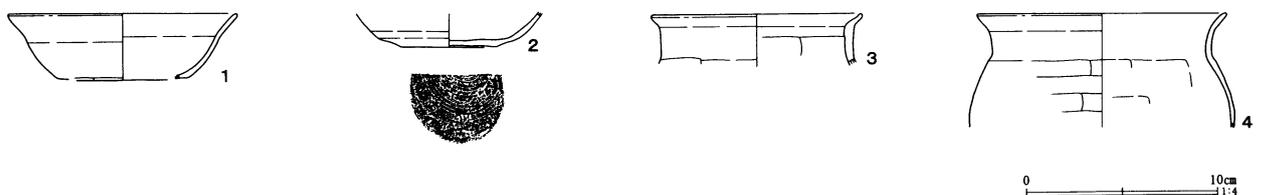
-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃烧部は、50cm×43cmを測り、床面と同じ高さで、煙道部は長さ66cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・小型甕、須恵器坏が出土した。



第352図 第183号住居跡



第353図 第183号住居跡出土遺物

第183号住居跡出土遺物観察表 (第353図)

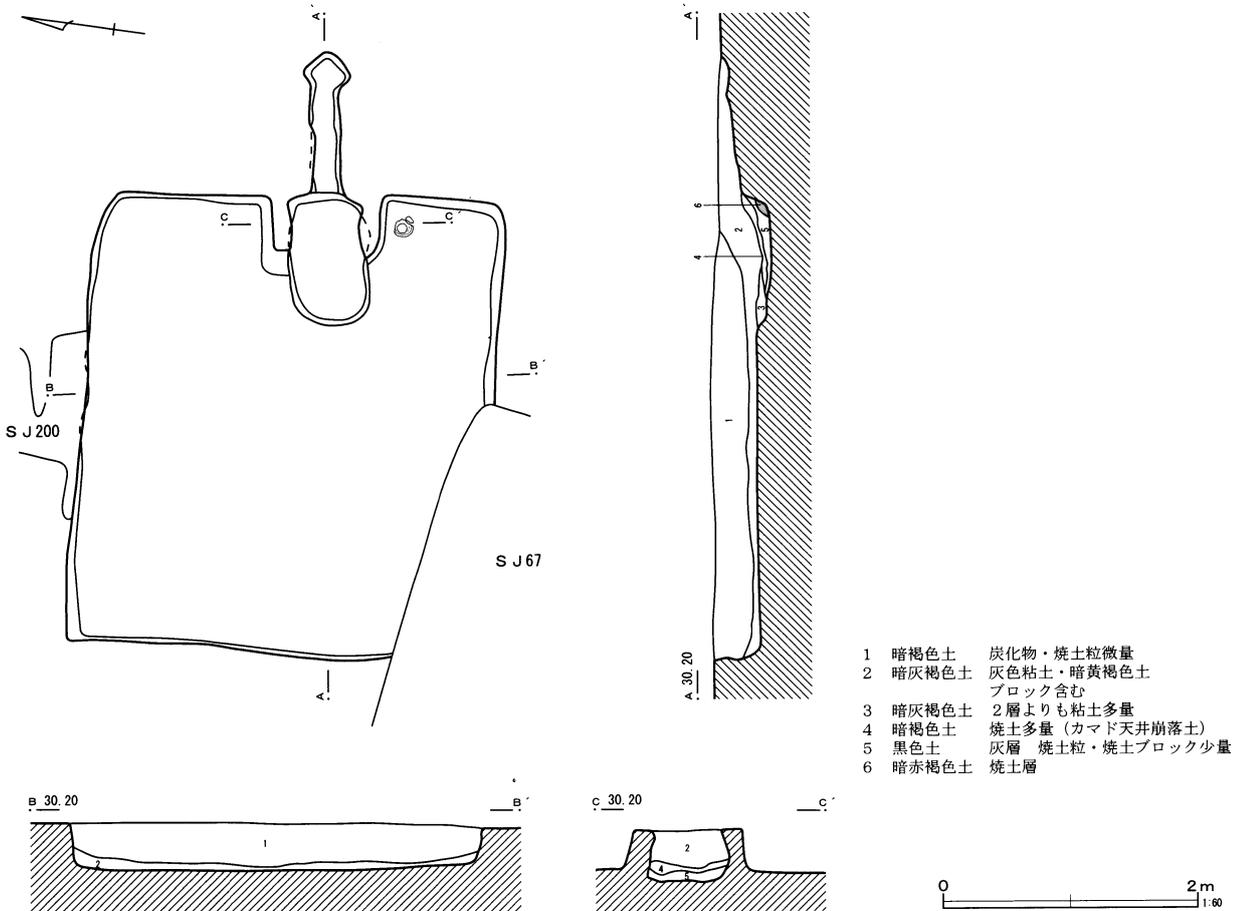
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)	(3.5)	(6.8)	A B F	普通	にぶい橙	25	覆土	内外面油煙斑状に付着 底部右回転糸切り 酸化焰焼成
2	須恵坏			5.0	A I	良好	にぶい褐	40	覆土	
3	土師小型甕	(10.8)			A F	普通	褐	15	覆土	
4	土師小型甕	(12.9)			A B F J	普通	橙	10	覆土	

第184号住居跡 (第354・355図)

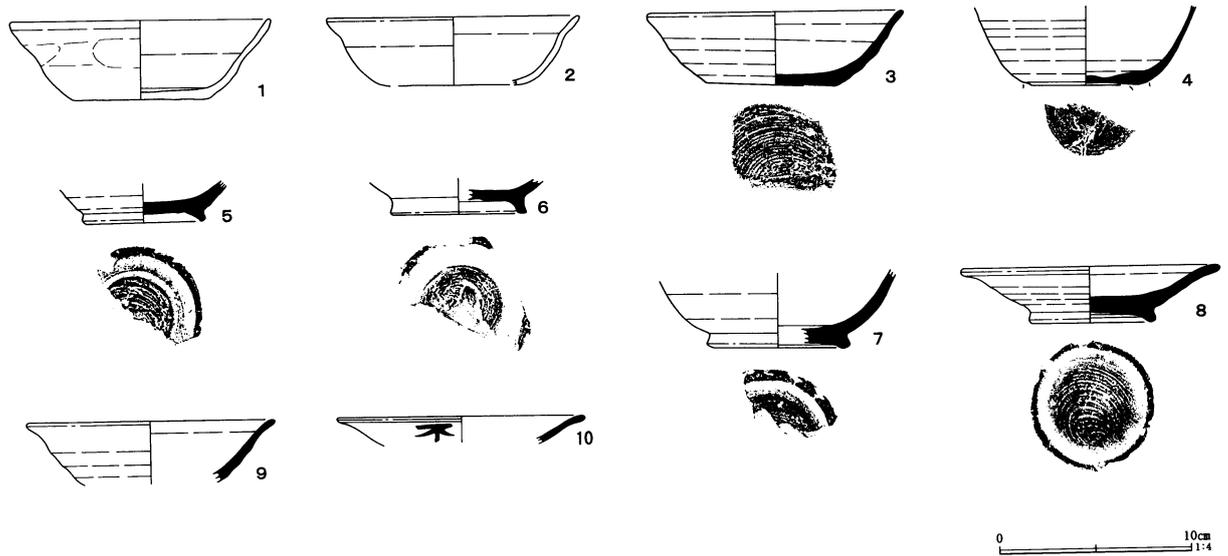
N-12グリッドに位置する。第67・200号住居跡と重複し、第67号住居跡に南壁西半部が切られ、第200号住居跡を切る。規模は、主軸長東西3.55m、南北3.25m、深さ38cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-82°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、105cm×62cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ110cmが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付壺・高台付皿が出土した。



第354図 第184号住居跡



第355図 第184号住居跡出土遺物

第184号住居跡出土遺物観察表 (第355図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.5)	(4.2)	(7.1)	C F J	普通	にぶい橙	15	覆土	底部外周手持ちへラ削り
2	土師坏	(13.0)			A F	不良	にぶい橙	15	覆土	
3	須恵坏	(13.2)	3.9	(6.8)	F I J	普通	黄灰	75	覆土	底部剥離
4	須恵高台埴				A B K	普通	灰	40	覆土	黒斑 高台剥離
5	須恵高台埴			(6.0)	A G J	普通	灰	40	覆土	底部回転糸切り
6	須恵高台埴			(7.0)	G	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
7	須恵高台埴			(7.5)	A J	普通	灰	15	覆土	
8	須恵高台皿	13.5	3.0	6.5	A C	不良	灰白	90	覆土	
9	須恵埴	(12.7)			A	良好	灰	30	覆土	
10	須恵皿	(13.0)			A C G	良好	灰	20	覆土	墨書あり

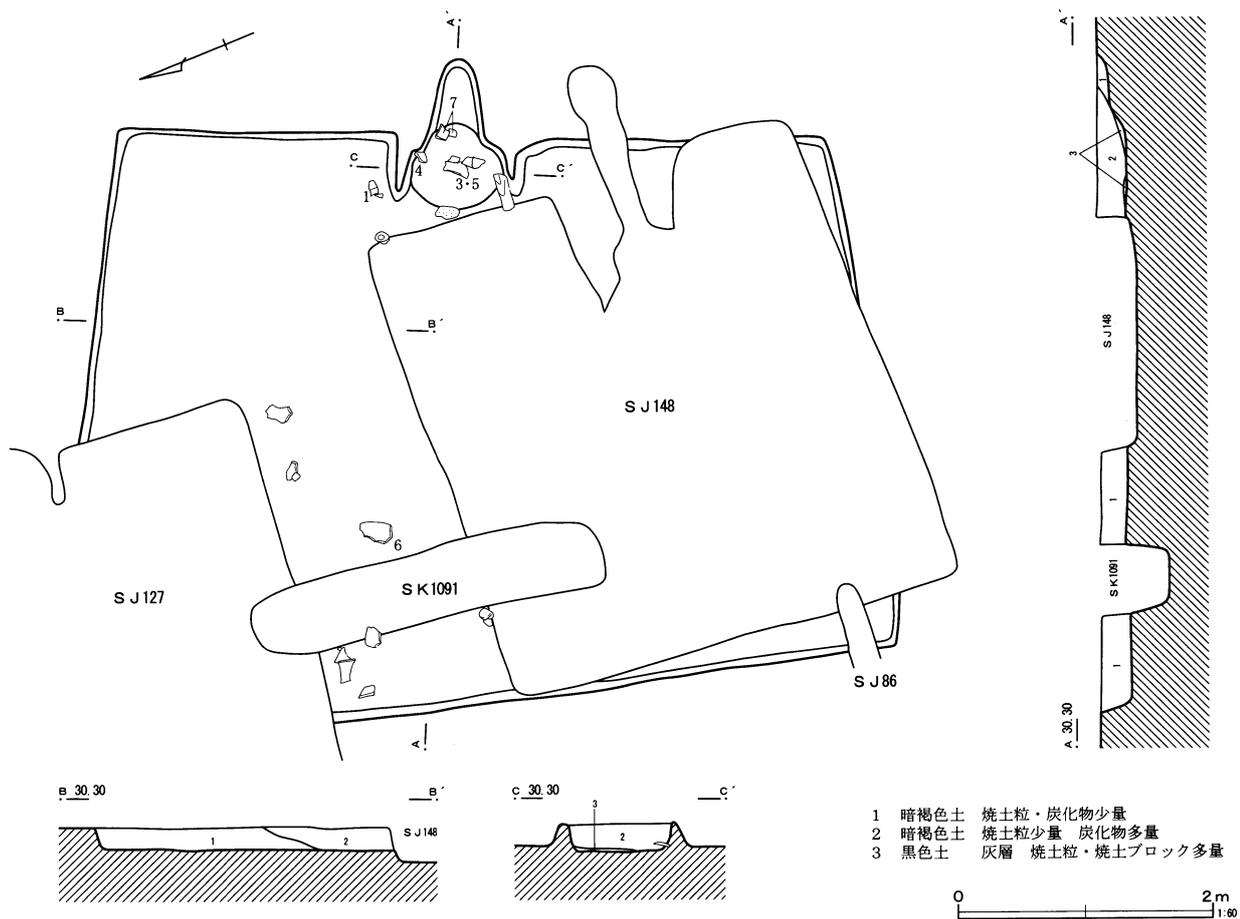
第185号住居跡 (第356・357図)

L-12・13グリッドに位置する。第86・127・148号住居跡・第1091号土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡に南半と北西隅が切られている。規模は、主軸長東西4.67m、南北5.94m、深さ20cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N-115°-Eを指す。

カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃燒部は住居跡に切られるが、97cm×80cmが残存し、深さは床面と同じである。煙道部は、長さ40cmが

確認できた。

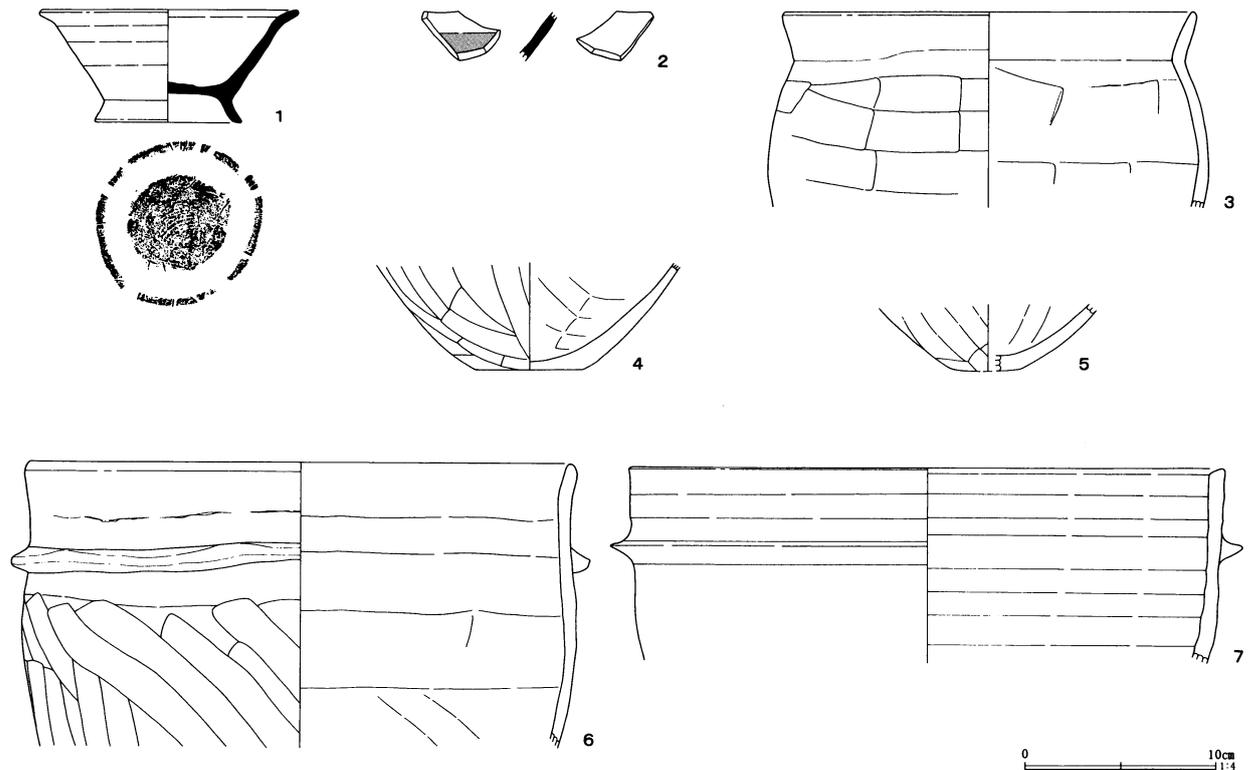
遺物は、須恵器高台付埴、土師器甕・羽釜、緑釉陶器破片が出土した。



第356図 第185号住居跡

第185号住居跡出土遺物観察表 (第357図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台坩	(13.8)	5.9	5.8	A B C J	普通	浅黄橙	60	覆土	
2	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
3	土師甕	(21.8)			A B J	良好	にぶい黄褐	20	カマド	外面ヘラ削り 内面横ナデ
4	土師甕			5.6	A B C F	普通	にぶい黄橙	40	カマド	
5	土師甕			(4.0)	A B J	良好	にぶい橙	25	カマド	
6	土師羽釜	(28.3)			A F J	普通	浅黄橙	30	床直	
7	土師羽釜	(30.9)			A F J	良好	にぶい橙	10	カマド	体部外面→方向回転ヘラ削り



第357図 第185号住居跡出土遺物

第187号住居跡 (第358・359図)

H・I-16グリッドに位置する。規模は、主軸長南北3.40m、東西2.80m、深さ44cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-12°-Eを指す。

柱穴が6本と貼り床の下のP7が壁に沿って並び、東壁と北壁の一部には布掘り状に壁溝が廻る。幅9~17cm、深さ10cm程を測る。片岩が確認された土坑からは焼土粒・焼土ブロック・灰が混入しており、炉とも考えられ、工房跡とみられる。

遺物は、須恵器皿、灰釉陶器高台碗、古銭、土錘と鉄製品が出土した。5は鉄鏝である。現存長5.0cm、鏝身部現存長3.5cm。短頸の雁股鏝である。

6は鉄製の釘もしくはそれに類する接合具の脚部の破片と考えられる。現存長は3.5cmである。

第188号住居跡 (第360・361図)

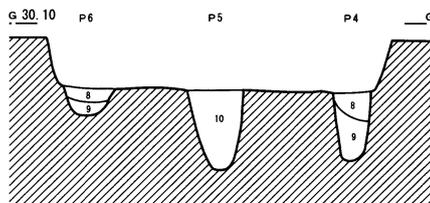
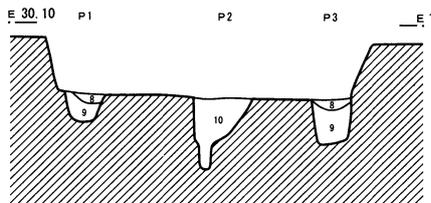
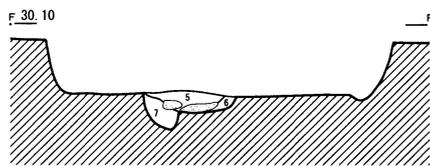
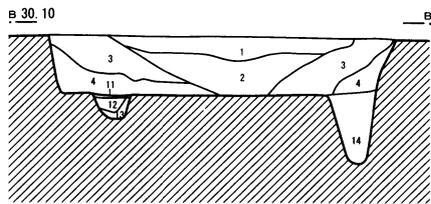
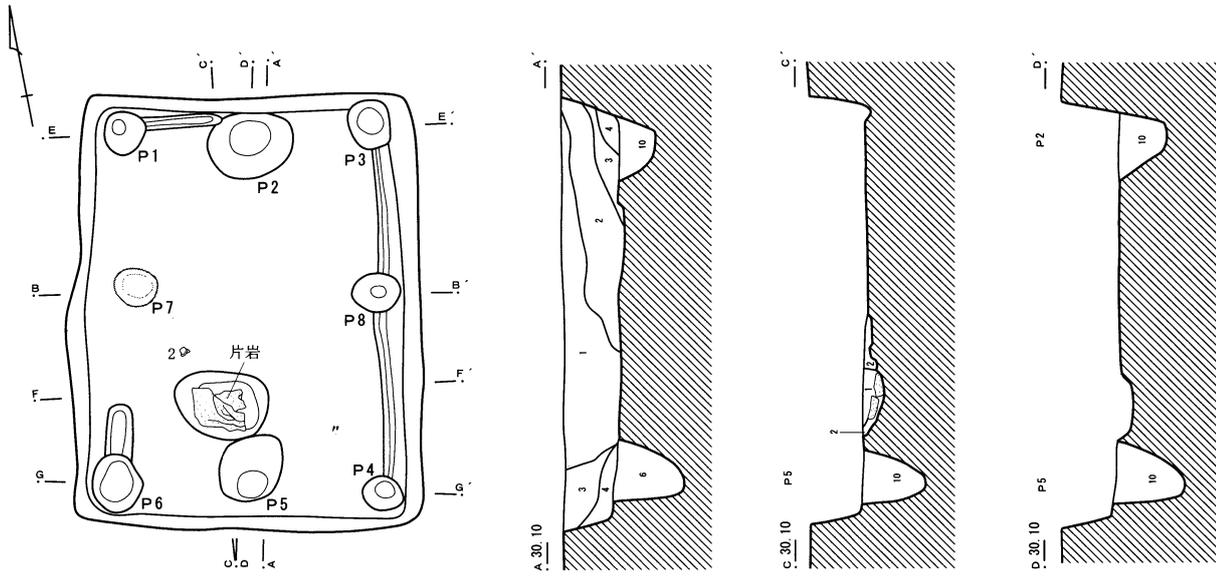
N-12グリッドに位置する。第45・67号住居跡と重複し2軒から上部が切られている。規模は、主軸長東西4.68m、南北2.93m、深さ12cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。袖部から先端まで103cm、幅30cmが確認できたが詳細は不明である。

遺物は、須恵器皿が出土した。

第187号住居跡出土遺物観察表 (第359図)

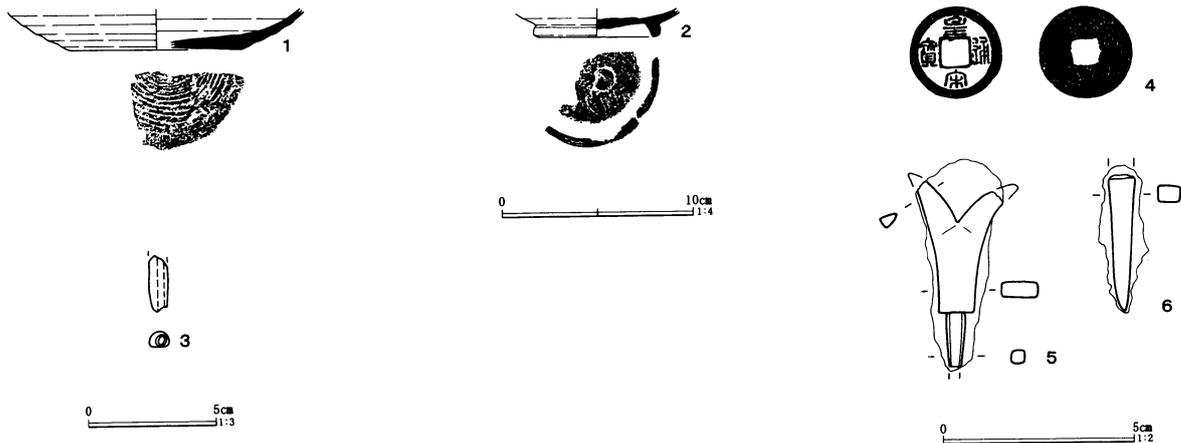
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵皿			(9.0)	AJK	良好	灰	15	覆土	
2	灰釉高台碗			(6.6)	AJ	良好	灰白	40	覆土	高台内糸切り 東遠江産
3	土錘	長さ(2.2)		径(0.8)	孔径0.3	普通	浅黄橙	50	覆土	
4	古銭	径2.45		孔0.70×0.75	厚さ0.06		-	-	ピット6	「皇宋通寶」北宋銭(北九州方面で製造?)



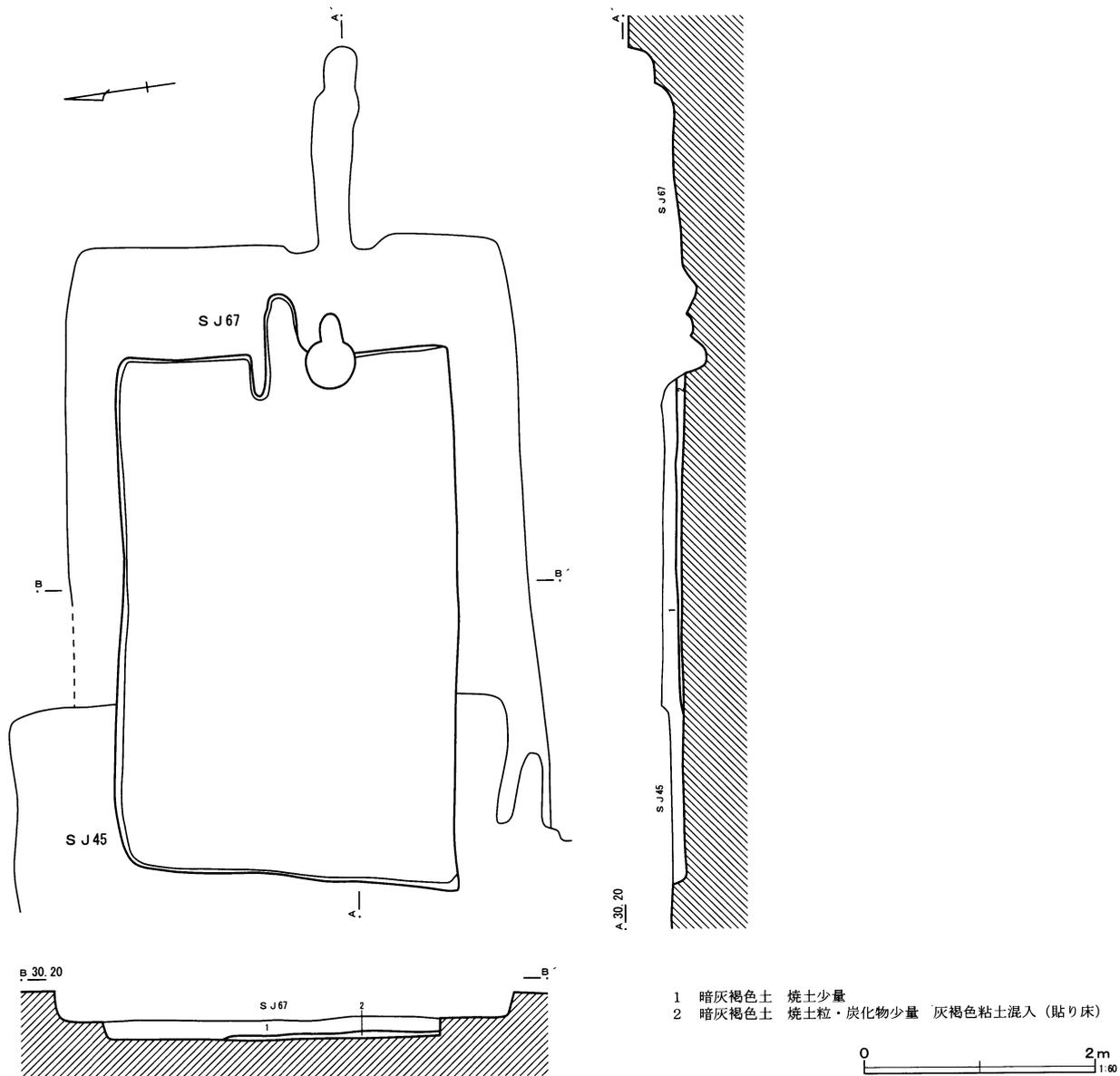
- | | | | |
|---------|-------------------------|---------|-------------------------|
| 1 褐色土 | 白色粒・黄褐色土多量 焼土粒・炭化物少量 | 8 暗褐色土 | 白色粒・黄褐色土粒多量 |
| 2 褐色土 | 白色粒少量 焼土粒・炭化物微量 黄褐色土粒多量 | 9 褐色土 | 黄褐色土粒多量 |
| 3 暗褐色土 | 白色粒・焼土粒・炭化物少量 黄褐色土粒多量 | 10 暗褐色土 | 白色粒少量 焼土粒・炭化物微量 黄褐色土粒多量 |
| 4 黒褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 | 11 灰色土 | 粘土質(貼り床) |
| 5 暗灰褐色土 | 焼土ブロック・焼土粒多量 | 12 暗灰色土 | 白色粒多量 |
| 6 黒褐色土 | 焼土粒少量 灰多量 | 13 暗褐色土 | 白色粒多量 炭化物微量 |
| 7 暗褐色土 | 包含物なし | 14 暗褐色土 | 焼土粒微量 |



第 358 図 第 187 号住居跡

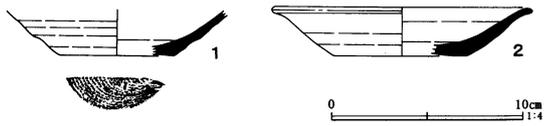


第359图 第187号住居跡出土遺物



- 1 暗灰褐色土 焼土少量
- 2 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量 灰褐色粘土混入（貼り床）

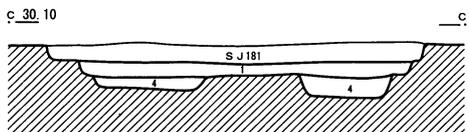
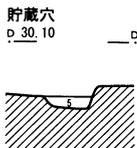
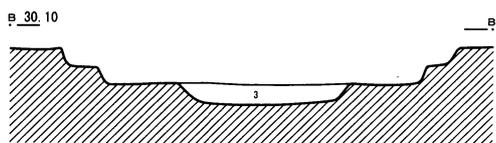
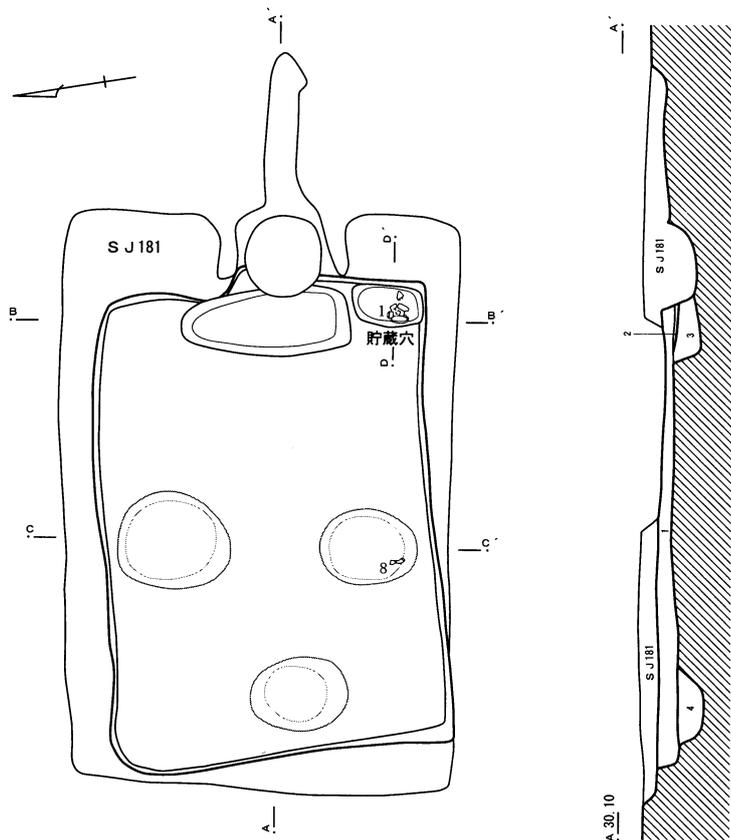
第360图 第188号住居跡



第 361 図 第 188 号住居跡出土遺物

第 188 号住居跡出土遺物観察表 (第 361 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵皿			(6.0)	CG	普通	灰白	20	覆土	底部回転糸切り
2	須恵皿	(13.5)	2.6	(6.8)	ACFK	普通	にぶい黄褐	15	覆土	底部回転糸切り



- 1 暗褐色土 灰色粘土含む (貼り床)
- 2 黒褐色土 焼土を含む灰層
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック少量 (カマド掘り方)
- 4 暗灰色土 黄褐色土・灰色粘土ブロック含む 埋め戻し
- 5 灰褐色土 焼土粒・炭化物・黄褐色土ブロック含む (貯蔵穴)



第 362 図 第 189 号住居跡

第 189 号住居跡 (第 362・363 図)

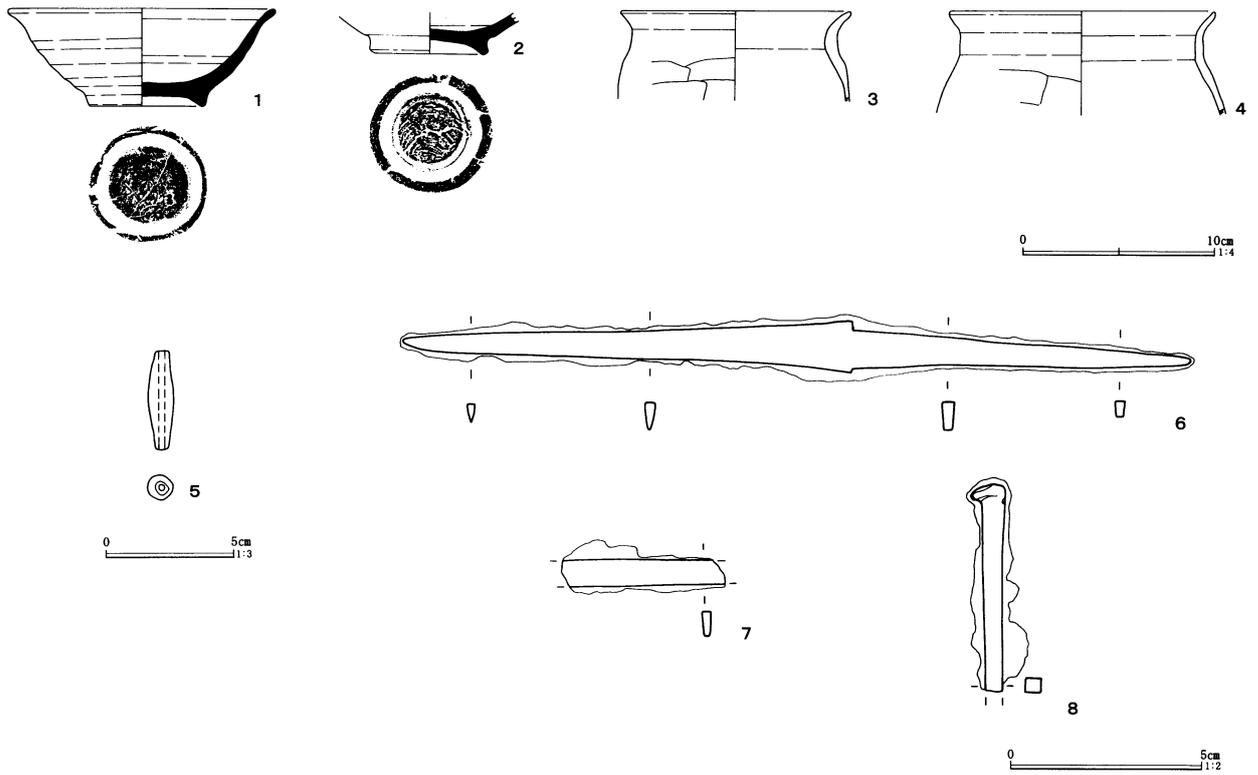
G-16 グリッドに位置する。第 181 号住居跡と重複し、上部が切られている。規模は、主軸長東西 3.69 m、南北 2.65 m、深さ 23cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-95°-E を指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、33cm × 54cm の楕円形で、深さ 18cm を測る。

カマドは、東壁に設けられているが、殆どが第 181 号住居跡に切られている。燃焼部は、38cm が残

存していた。

遺物は、須恵器高台付壺、土師器甕、土錘と鉄製品が出土した。6 は鉄製刀子である。完存しており、長さは 20.6cm、刃長 11.8cm、刃幅 0.4~1.4cm、茎長 8.8cm である。関は明瞭な両関である。目釘孔は存在しない。7 は刀子の茎と考えられる鉄製品である。現存長 4.2cm。8 は鉄製釘である。現存長は 5.4cm で、脚部を欠く。頭部は基部先端をつぶして折り曲げている。



第 363 図 第 189 号住居跡出土遺物

第 189 号住居跡出土遺物観察表 (第 363 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壺	14.0	5.1	6.0	A J K	良好	褐灰	80	貯蔵穴	やや歪みあり
2	須恵高台壺			(5.7)	A F G K	普通	黄灰	80	覆土	
3	土師甕	(11.9)			B F J	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
4	土師甕	(13.8)			A F J	普通	橙	15	覆土	
5	土錘	長さ 3.85	径 1.0	孔径 0.25		普通	黒褐	100	覆土	

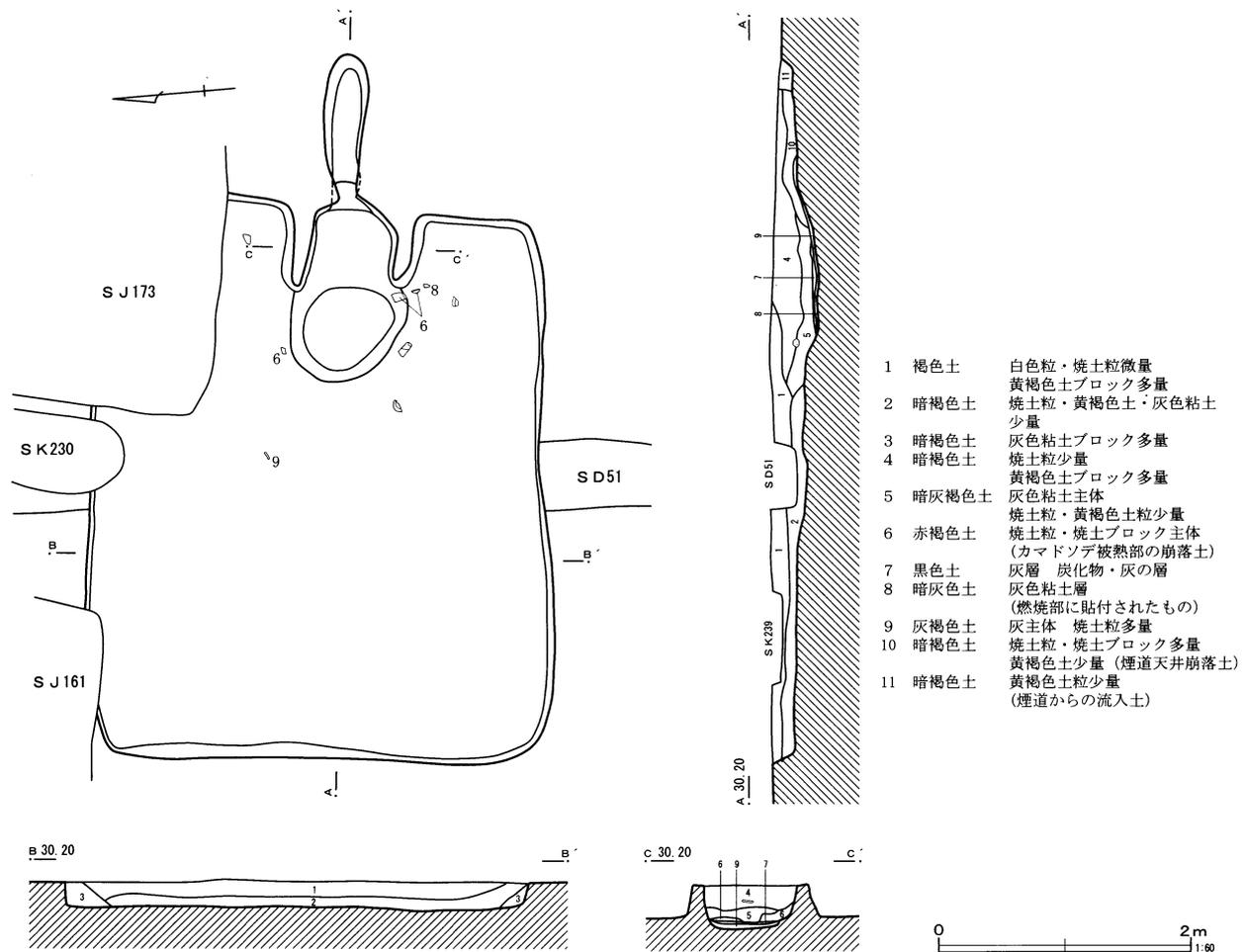
190号住居跡 (第364・365図)

G-15グリッドに位置する。北東隅の壁は、第161・173・204号住居跡・第230号土坑・第51号溝と重複し、第204号住居跡を切る他はすべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西4.45m、南北3.64m、深さ21cm程を測る。平面形は、長方形を

呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃烧部は、159cm×93cm、深さ13cm程を測り、煙道部は長さ101cmが確認できた。

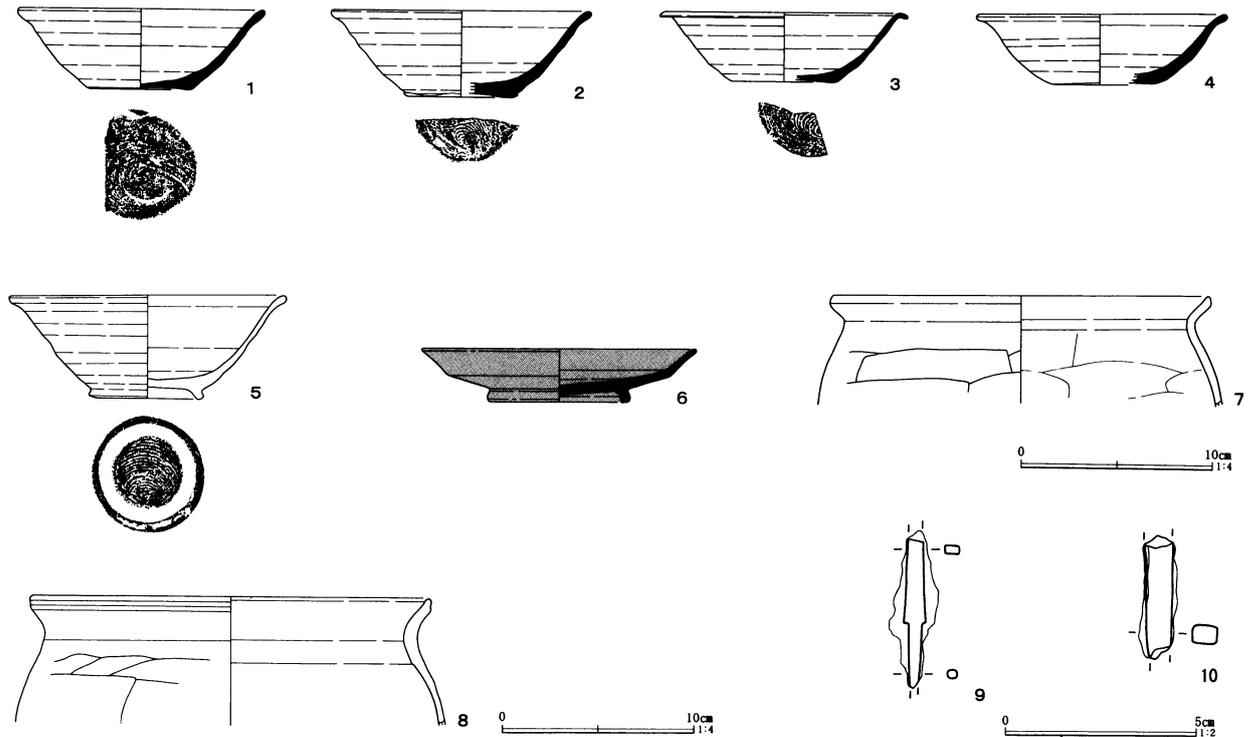
遺物は、須恵器坏・高台付埴、土師器甕、緑釉陶器高台付椀皿と鉄製品が出土した。9は鉄鏃の一部



第364図 第190号住居跡

第190号住居跡出土遺物観察表 (第365図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.8)	4.3	5.6	A J	普通	灰	40	覆土	
2	須恵坏	(13.6)	4.6	(5.8)	A B F J	普通	にぶい黄橙	40	覆土	
3	須恵坏	(13.0)	3.6	(5.6)	A J K	良好	灰	15	覆土	
4	須恵坏	(13.0)	3.7	6.0	A B J	普通	にぶい黄橙	60	覆土	底部回転糸きり
5	土師高台埴	(14.4)	5.5	6.1	A J K	普通	褐	70	覆土	ロクロ土師器
6	緑釉高台椀皿	14.1	2.8	7.3	-	良好	灰白	55	カマド・他	猿投産
7	土師甕	(19.6)			A B F	普通	灰褐	20	覆土	
8	土師甕	(20.7)			A F	普通	にぶい黄橙	40	覆土	



第365図 第190号住居跡出土遺物

と考えられる鉄製品である。角閃を有する。現存長は3.9cmである。10は用途不明の角棒状鉄製品である。現存長3.2cm。

第191号住居跡(第366・367図)

I-14グリッドに位置する。第162号住居跡・第47号溝と重複し、西壁が住居跡に切られ、カマド上部が溝に切られている。規模は、主軸長東西3.84m、南北2.50m、深さ31cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-92°-Eを

指す。

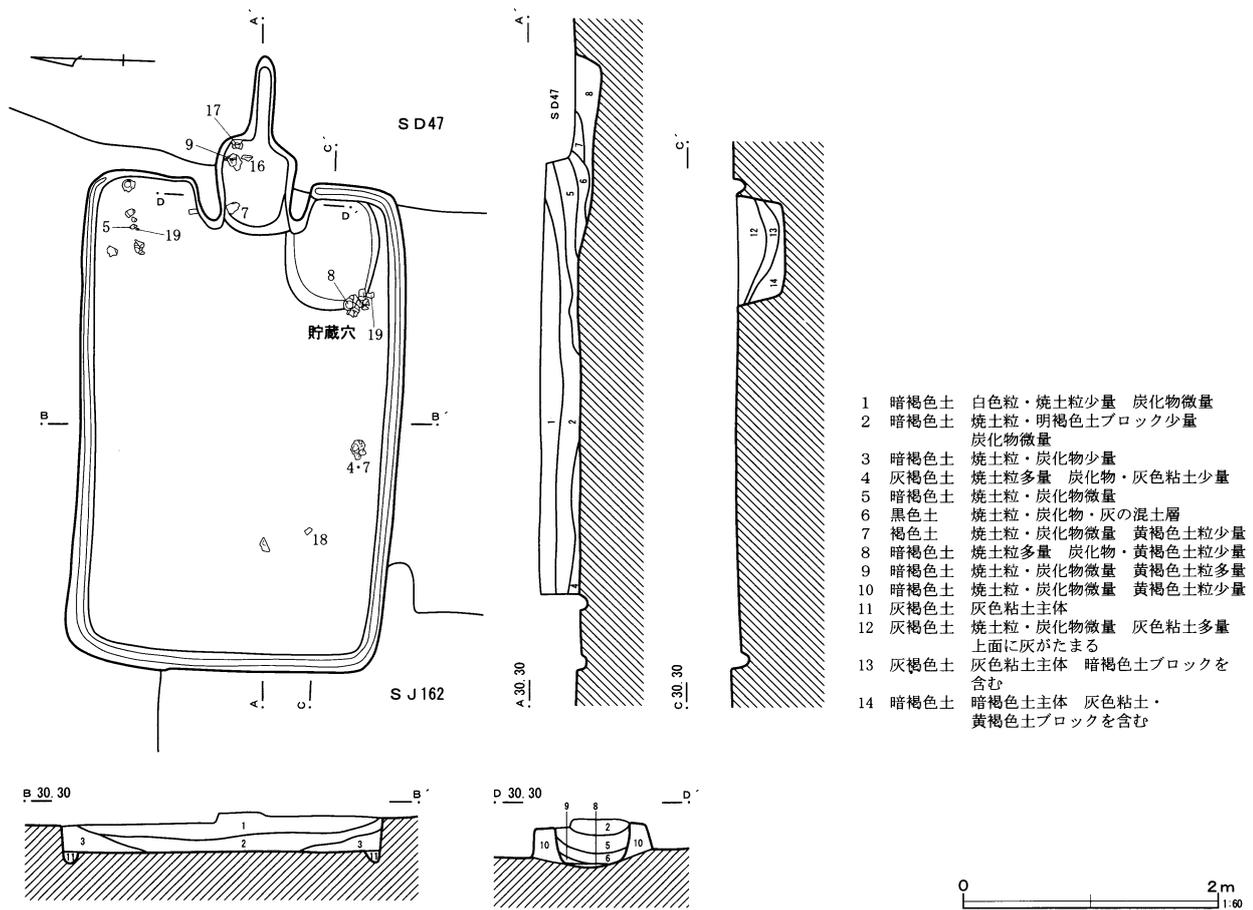
貯蔵穴は、南東隅に設けられており、86cm×73cmの楕円形で、深さ37cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、77cm×62cm、深さ15cmを測り、煙道部は長さ65cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付碗、土師器高台付碗・甕、灰釉陶器高台付碗・高台付皿、陶器が出土した。

第191号住居跡出土遺物観察表(第367図)

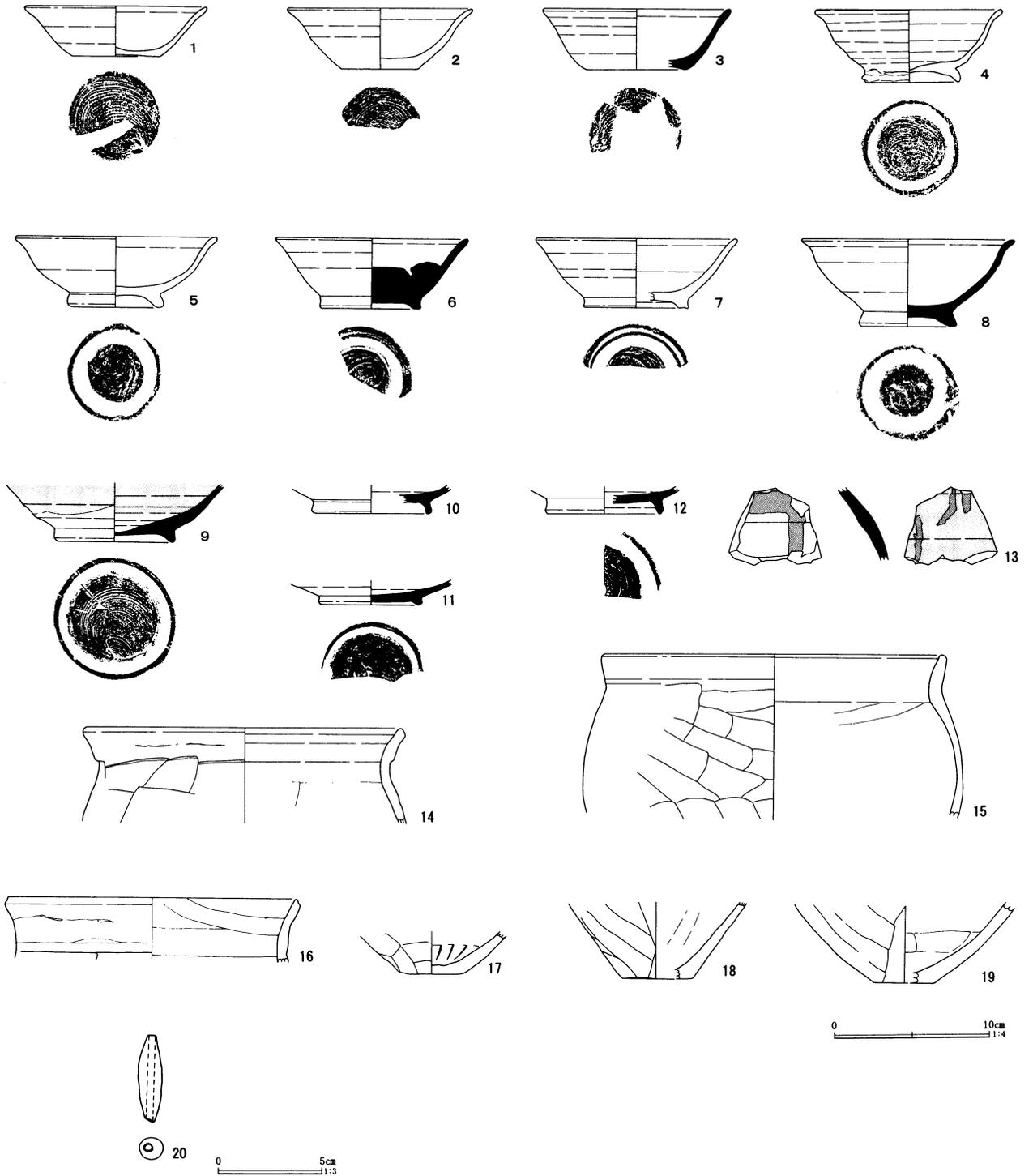
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.5)	3.3	5.7	A J	普通	橙	70	覆土	酸化焰焼成
2	須恵坏	(11.9)	4.0	(4.9)	A F J	普通	橙	30	カマド	酸化焰焼成
3	須恵坏	(11.9)	4.0	(6.0)	A G	普通	にぶい褐	20	覆土	底部右回転糸切り
4	土師高台碗	12.0	4.7	6.3	A B F J K	普通	橙	60	覆土	やや歪みあり ロクロ土師器
5	須恵高台碗	(12.8)	4.5	5.7	A F J	普通	橙	50	カマド	酸化焰焼成
6	須恵高台碗	(12.2)	4.6	(6.3)	A F J	普通	にぶい黄橙	30	カマド	底部~体部中位内面油煙付着 一部酸化焰焼成
7	須恵高台碗	(12.8)	4.5	(6.7)	A B F J	普通	橙	30	覆土	酸化焰焼成
8	須恵高台碗	(13.5)	5.7	6.0	A B F J	普通	にぶい黄橙	60	覆土	歪みあり
9	灰釉高台碗			7.4	G	良好	灰	70	カマド	高台内糸切り 施釉ツケガケ 内面に重ね焼き痕 東遠江産



第366図 第191号住居跡

第191号住居跡出土遺物観察表 (第367図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
10	灰釉高台壺			(7.5)	AG	良好	灰白	20	覆土	高台内へラ削り 施釉なし 東濃産
11	灰釉高台皿			(6.4)	AG	良好	灰白	40	覆土	高台内糸切り 施釉なし 底部内面に重ね焼き痕 東濃産
12	灰釉高台皿			(7.3)	G	良好	灰白	20	覆土	高台内へラ削り 施釉なし 東濃産
13	陶器瓶				CJ	普通	—	破片	覆土	緑色、黄褐色釉
14	土師甕	(20.2)			ACF	普通	橙	20	カマド	
15	土師甕	(21.6)			ABFJ	普通	灰黄褐	15	貯蔵穴	
16	土師甕	(18.5)			ABFJ	普通	橙	15	カマド	
17	土師甕			4.0	ABF	普通	にぶい黄橙	50	カマド	
18	土師甕			(4.5)	ABFK	良好	にぶい黄橙	25	覆土	
19	土師甕			(4.0)	ABCF	普通	橙	25	カマド	
20	土錘	長さ4.2	径1.1	孔径0.35		普通	にぶい橙	100	覆土	



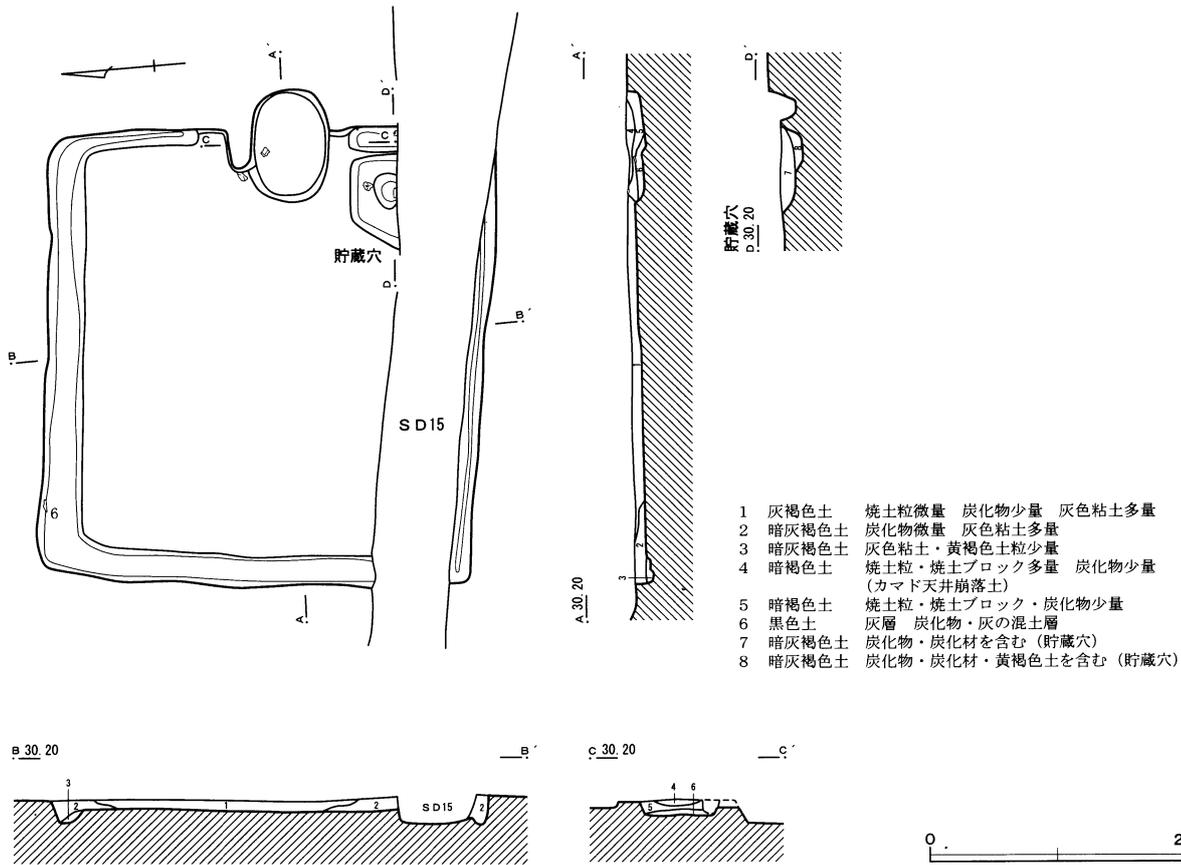
第367図 第191号住居跡出土遺物

第192号住居跡 (第368・369図)

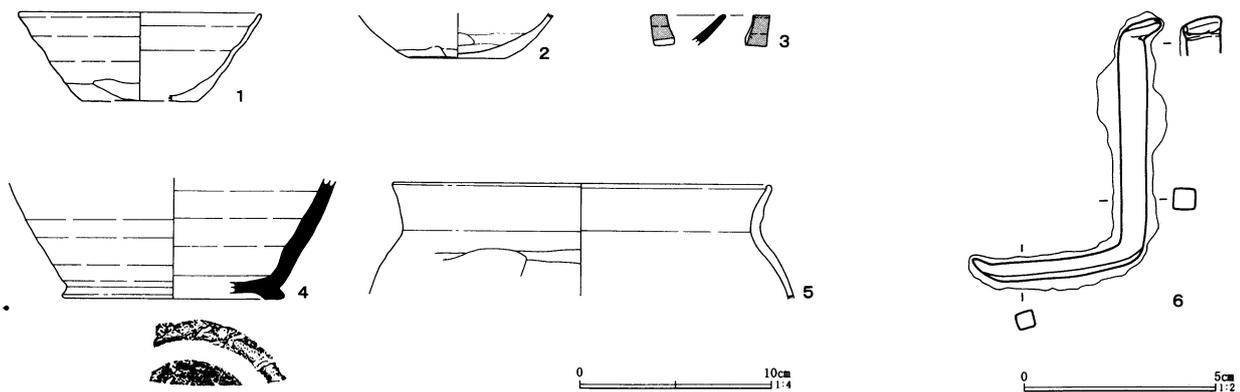
I・J-14グリッドに位置する。第15号溝と重複し、南壁側が切られている。規模は、主軸長東西3.60m、南北3.42m、深さ8cm程を測る。平面形

は、方形を呈する。主軸方位は、N-92°-Eを指す。

壁溝は、カマドを除いて全周し、幅13~30cm、深さ10cm程を測る。



第 368 図 第 192 号住居跡



第 369 図 第 192 号住居跡出土遺物

第 192 号住居跡出土遺物観察表 (第 369 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	4.7	(6.0)	A B F	普通	にぶい橙	30	カマド	猿投産
2	土師甕			(5.0)	A F J	普通	にぶい黄橙	40	カマド	
3	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	
4	須恵瓶			(11.5)	A F J K	普通	灰	25	貯蔵穴	
5	土師甕	(19.6)			A C F	普通	にぶい黄橙	15	カマド	

貯蔵穴は、南東に設けられており、一部は第15号溝に切れ、確認できたのは74cm×36cmで、深さ25cmを測る。

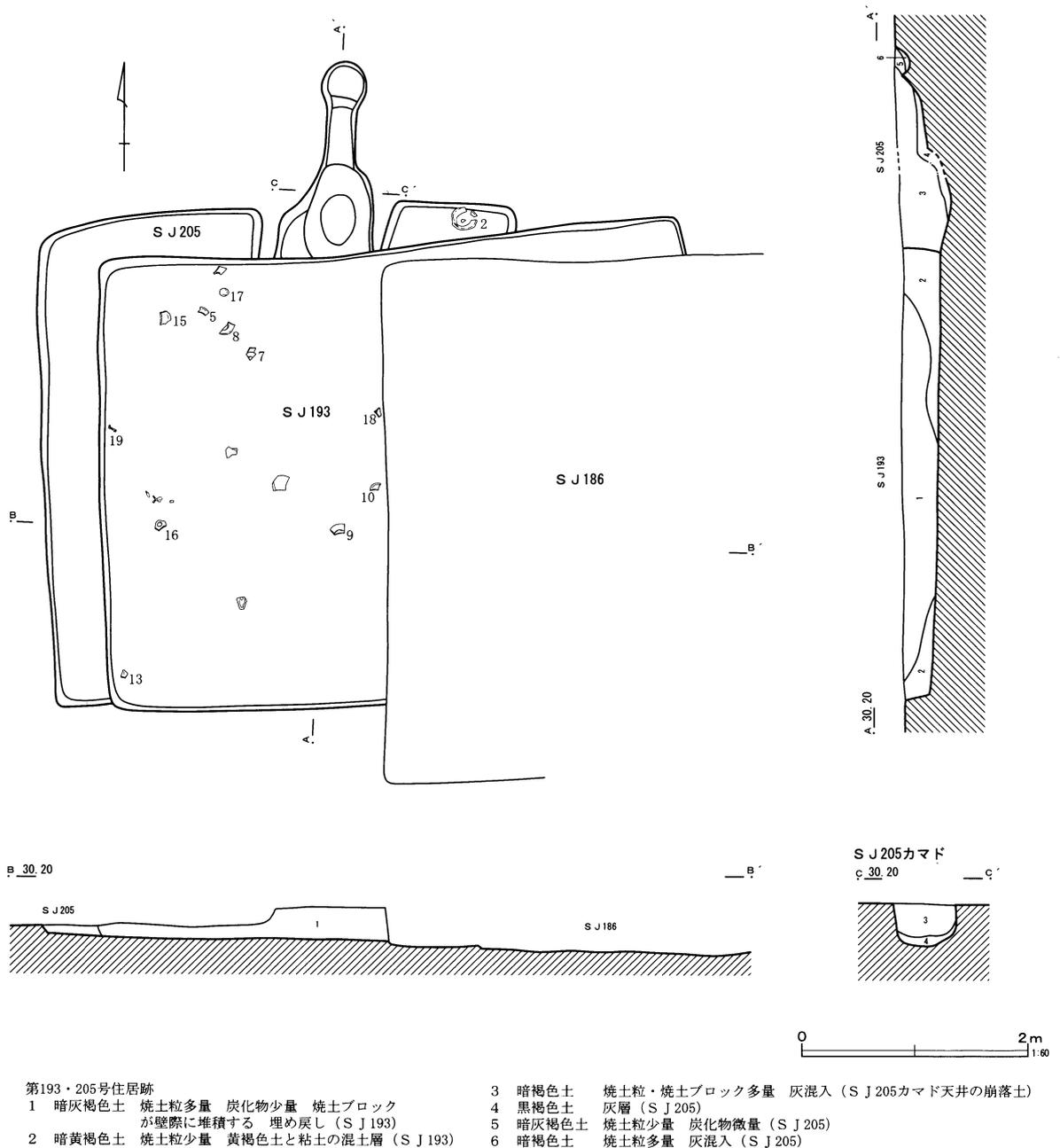
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、88cm×60cm、深さ10cm程を測る。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器長頸瓶、灰釉陶器破片と鉄製品が出土した。6は鉄製釘である。完形で基部の中ほどからほぼ直角に折れ曲がっている。

現状の長さは6.4cmであるが、まっすぐにのぼすと10cmほどの長さになる。頭部は基部先端をつぶして折り曲げている。

第193号住居跡 (第370・371図)

L-14グリッドに位置する。第186・205号住居跡と重複し、第186号住居跡に切れ、第205号住居跡を切っている。切り合いから第186号住居跡・当住居跡・第205号住居跡の順に古くなる。規模は、

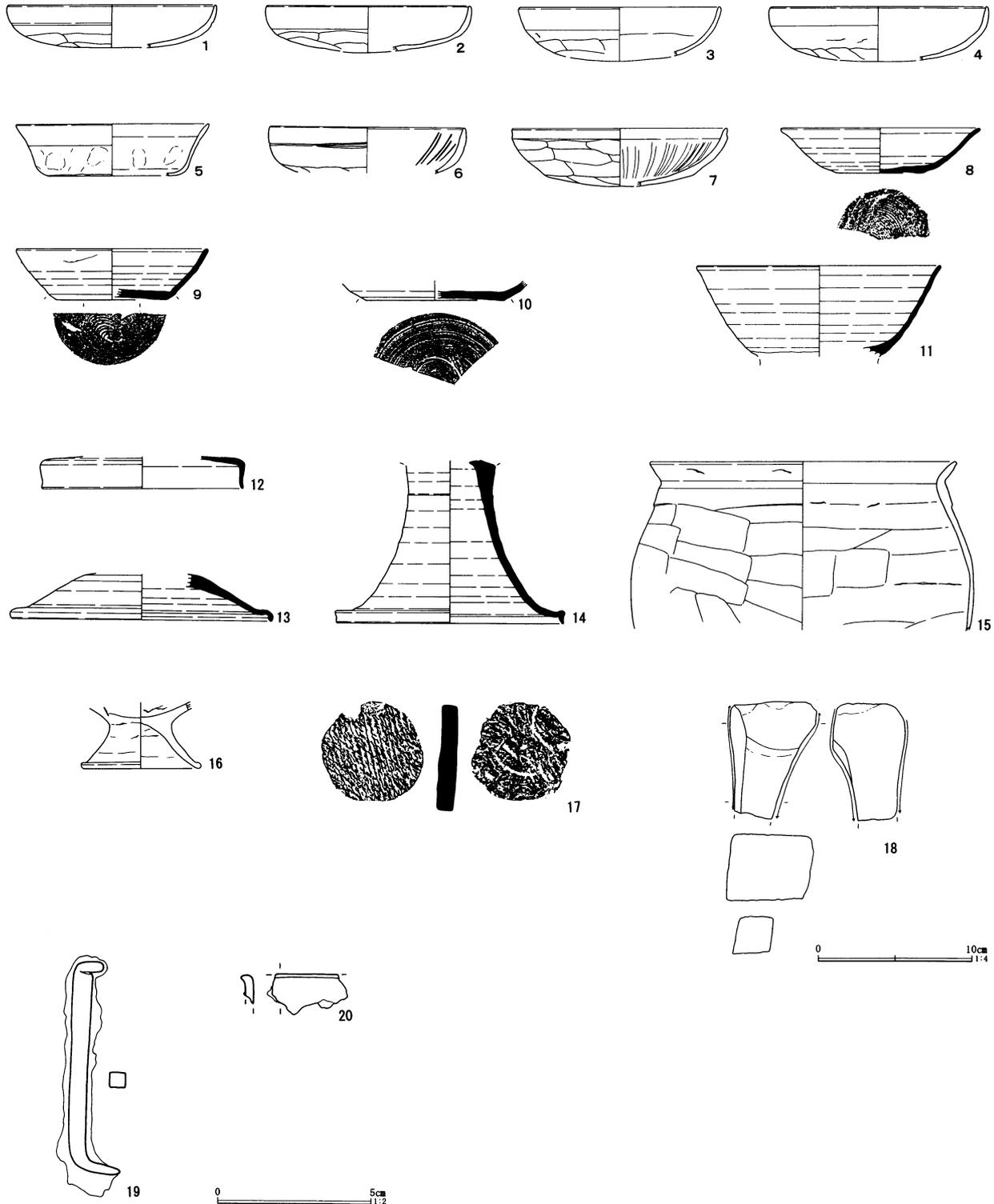


第370図 第193・205号住居跡

主軸長北壁で東西 5.21 m、南北 4.00 m、深さ 30cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・台付甕、須恵器坏・碗・高台付碗・蓋・高盤、円盤、砥石と鉄製品・銅製品が出土した。19 は鉄製釘である。脚部がほぼ直角に折れる。現状の長さは 7.0cm である。基部先端をつぶ



第 371 図 第 193 号住居跡出土遺物

し、折り曲げて頭部を形作る。20は縁を有する銅製品である。現存長は2.6cm、厚さは約0.2cmである。縁はわずかに肥厚する。内面には溶けた銅が付着している。用途は不明である。

第205号住居跡（第370・372図）

L-14グリッドに位置する。第186・193号住居跡と重複し、住居跡の殆どが切られている。規模は、西壁で主軸長南北4.24m、北壁で東西4.24m、深

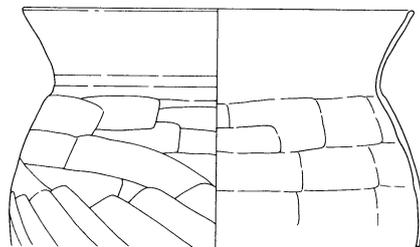
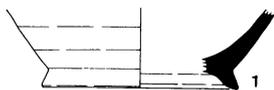
さ8cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-1°-Eを指す。

カマドは、北壁やや東寄りに設けられている。焚口付近が他の住居跡に切られているため確認できた。燃焼部は、83cm×80cm、深さ13cm程を測り、煙道部は、長さ90cmが確認できた。

遺物は、須恵器（長頸）瓶、土師器甕が出土した。

第193号住居跡出土遺物観察表（第371図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.6)	2.8		A B C J	普通	橙	30	覆土	
2	土師坏	(13.2)	3.0		A B J	普通	橙	40	覆土	
3	土師坏	(13.0)	(3.2)		A B F J	普通	にぶい橙	15	覆土	やや歪みあり
4	土師坏	(14.0)	(3.5)		A B J	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師坏	(12.6)	3.4	(8.6)	A B F J	普通	橙	30	覆土	
6	土師坏	(12.6)	(3.0)		A D J	普通	にぶい橙	20	覆土	内面の一部に暗文
7	土師坏	(14.0)	3.9		A B C E	普通	橙	50	床直	内面放射状暗文
8	須恵坏	(13.0)	3.0	5.8	A J K	普通	灰	40	覆土	やや歪みあり 底部回転糸切り
9	須恵坏	(12.6)	3.4	7.2	A J K	良好	灰	45	覆土	体部下端から底部周辺回転ヘラ削り
10	須恵碗			(9.0)	A H J	良好	灰	25	覆土	体部下端から底部回転ヘラ削り
11	須恵高台碗	(16.0)			A I J K	普通	灰	25	覆土	
12	須恵蓋	(13.0)			A	良好	褐灰	20	覆土	自然釉
13	須恵蓋	(17.0)			A F	良好	灰褐	40	覆土	天井部回転ヘラ削り
14	須恵高盤			14.6	A H J K	良好	黄灰	70	覆土	脚部のみ
15	土師甕	(20.0)			A B C	普通	にぶい赤褐	15	覆土	
16	土師台付甕			(7.8)	A B J	普通	黒褐	60	覆土	
17	須恵円盤	径6.9			A J	良好	灰	—	覆土	甕片転用
18	砥石	長さ7.7 幅5.6 厚さ4.4					—	—	覆土	凝灰岩製



第372図 第205号住居跡出土遺物

第205号住居跡出土遺物観察表（第372図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵瓶			(10.0)	A	良好	灰	15	覆土	
2	土師甕	(20.3)			A B C F	普通	橙	80	床直	

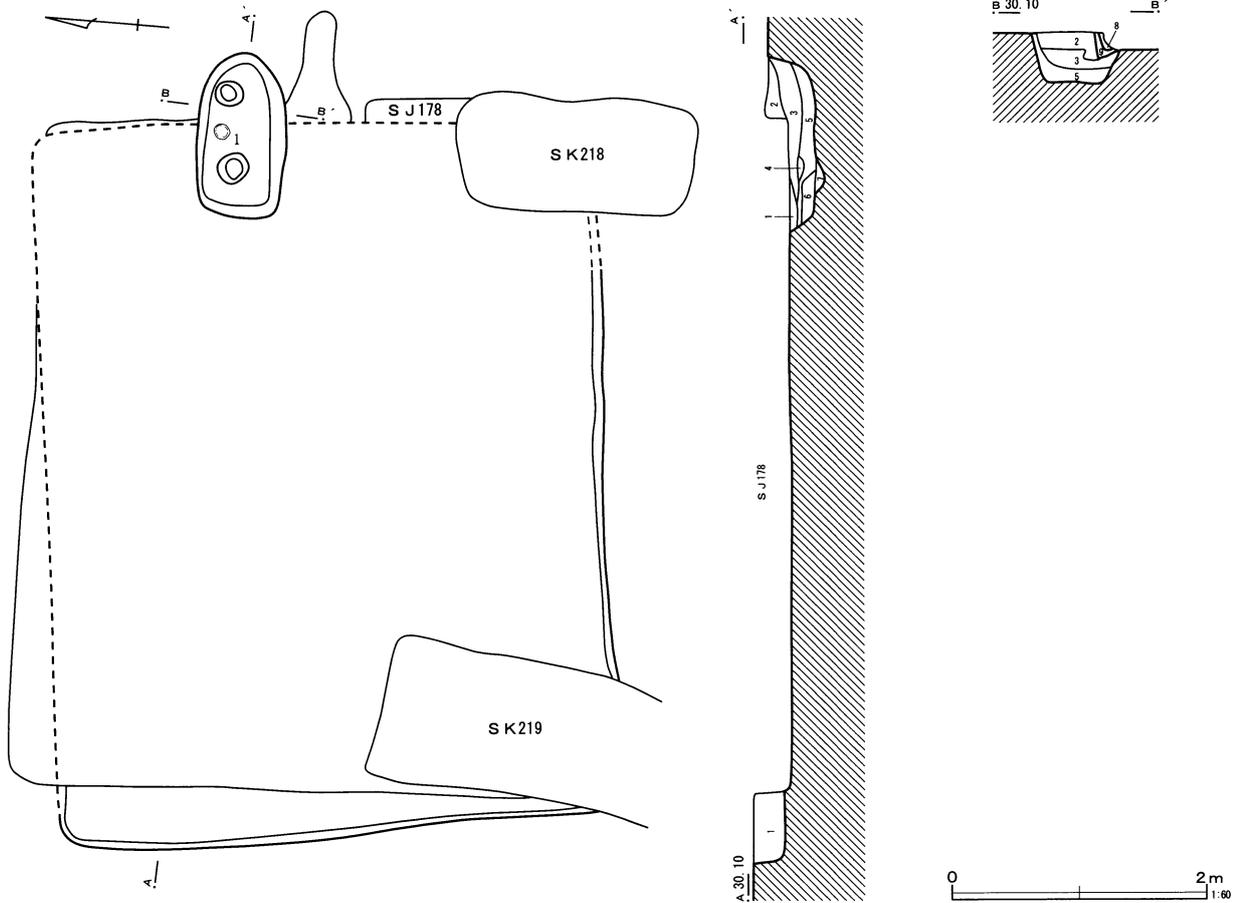
第194号住居跡 (第373・374図)

L-13グリッドに位置する。第178号住居跡・第218・219号土坑と重複し切れ、住居跡には殆どが切られている。規模は、主軸長東西5.69m、残存する部分の西壁で南北4.42m、深さ25cm程を

測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

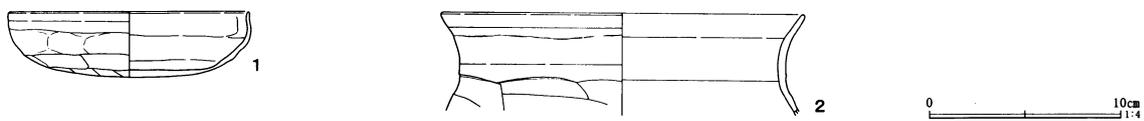
カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃焼部は、131cm×68cm、深さ27cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕が出土した。



- | | | | |
|---------|-------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 | 5 黒褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック多量 |
| 2 暗灰褐色土 | 焼土粒少量 炭化物微量 | 6 暗褐色土 | 4層近似 炭化物多量 |
| 3 黒褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック・炭化物・灰多量 (カマド天井崩落土) | 7 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物多量 |
| 4 黒色土 | 灰層 焼土粒少量 | 8 暗灰褐色土 | 2層と近似 (S J178カマドソデ) |
| | | 9 暗褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック多量 (S J178カマド掘り方) |

第373図 第194号住居跡



第374図 第194号住居跡出土遺物

第194号住居跡出土遺物観察表 (第374図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.6	3.5		A B J	普通	橙	100	カマド	
2	土師甕	(19.0)			A B F J	普通	橙	20	覆土	

第196号住居跡 (第375・376図)

K・L-16グリッドに位置する。第197・214号住居跡と重複し、2軒の住居跡をきっている。規模は、主軸長東西3.86m、南北2.72m、深さ31cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-89°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、110cm×52cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ104cmが確認できた。

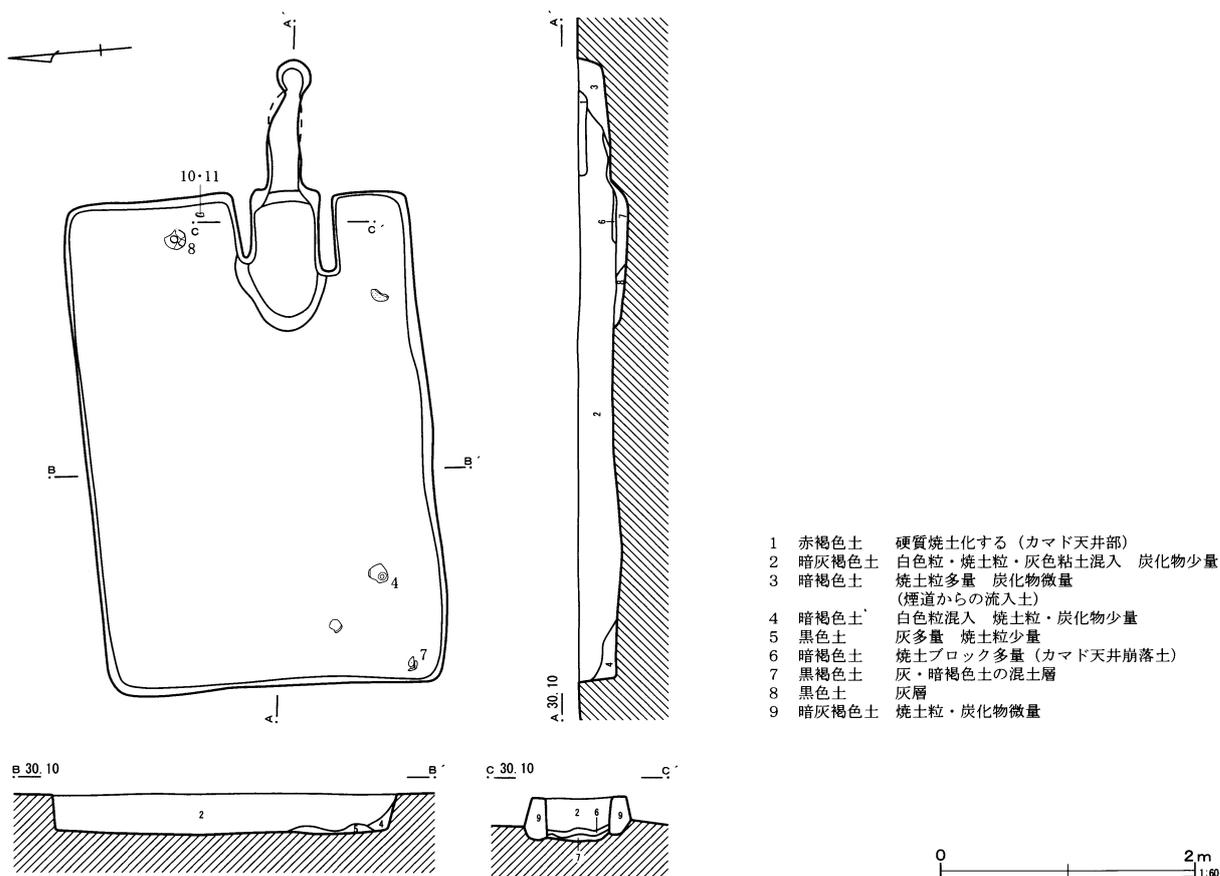
遺物は、土師器坏・高台付碗・甕・台付甕、須恵器坏・高台付碗、灰釉陶器高台付碗・高台付皿が出土した。

第197号住居跡 (第377・378図)

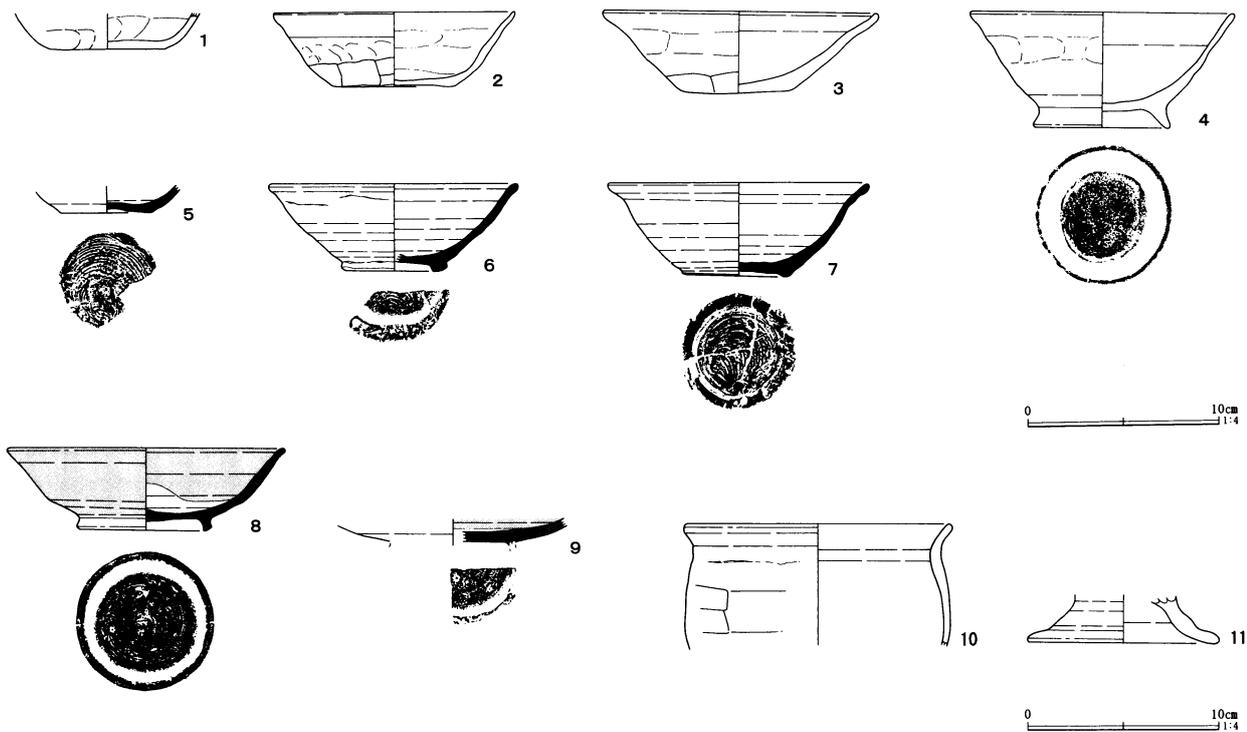
K・L-15・16グリッドに位置する。第196・214号住居跡・第326号土坑と重複し、北東部は第196号住居跡に、南東隅は第326号土坑に切られ、第214号住居跡の上部を切っている。規模は、主軸長東西4.84m、南北4.08m、深さ17cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-99°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、107cm×72cm、深さ26cmを測り、煙道部は長さ55cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台



第375図 第196号住居跡



第 376 図 第 196 号住居跡出土遺物

第 196 号住居跡出土遺物観察表 (第 376 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏			(6.0)	A B F J	普通	黄褐	40	覆土	体部内面ロクロ痕 底部外面手持ちへら削り
2	土師坏	(12.6)	3.9	6.4	A B F J	普通	にぶい赤褐	40	覆土	
3	土師坏	(14.1)	4.4	5.6	A F G	普通	褐灰	80	床直	体部内面下半ロクロナデ
4	土師高台碗	13.6	6.1	6.9	A B K	普通	にぶい橙	60	覆土	ロクロ土師器
5	須恵坏			4.9	A J K	普通	灰	30	覆土	
6	須恵高台碗	(13.0)	4.6	4.8	A	良好	褐灰	30	覆土	底部回転糸切り 周辺ナデ
7	須恵高台碗	13.8	5.0	5.7	A J	良好	灰白	85	覆土	底部回転糸切り
8	灰釉高台碗	14.4	4.3	6.5	G K	良好	灰白	80	床直	高台内へら削り 施釉内外面ハケヌリ 内面重ね焼き痕 東濃産
9	灰釉高台皿				G	良好	灰白	10	覆土	高台内へら削り 内面ハケヌリ一筆 内面重ね焼き痕 浜北産
10	土師甕	(13.6)			A B F G	普通	にぶい橙	15	床直	
11	土師台付甕			(9.8)	A B J	普通	にぶい橙	40	床直	脚部

付碗・高台付皿・甕が出土した。

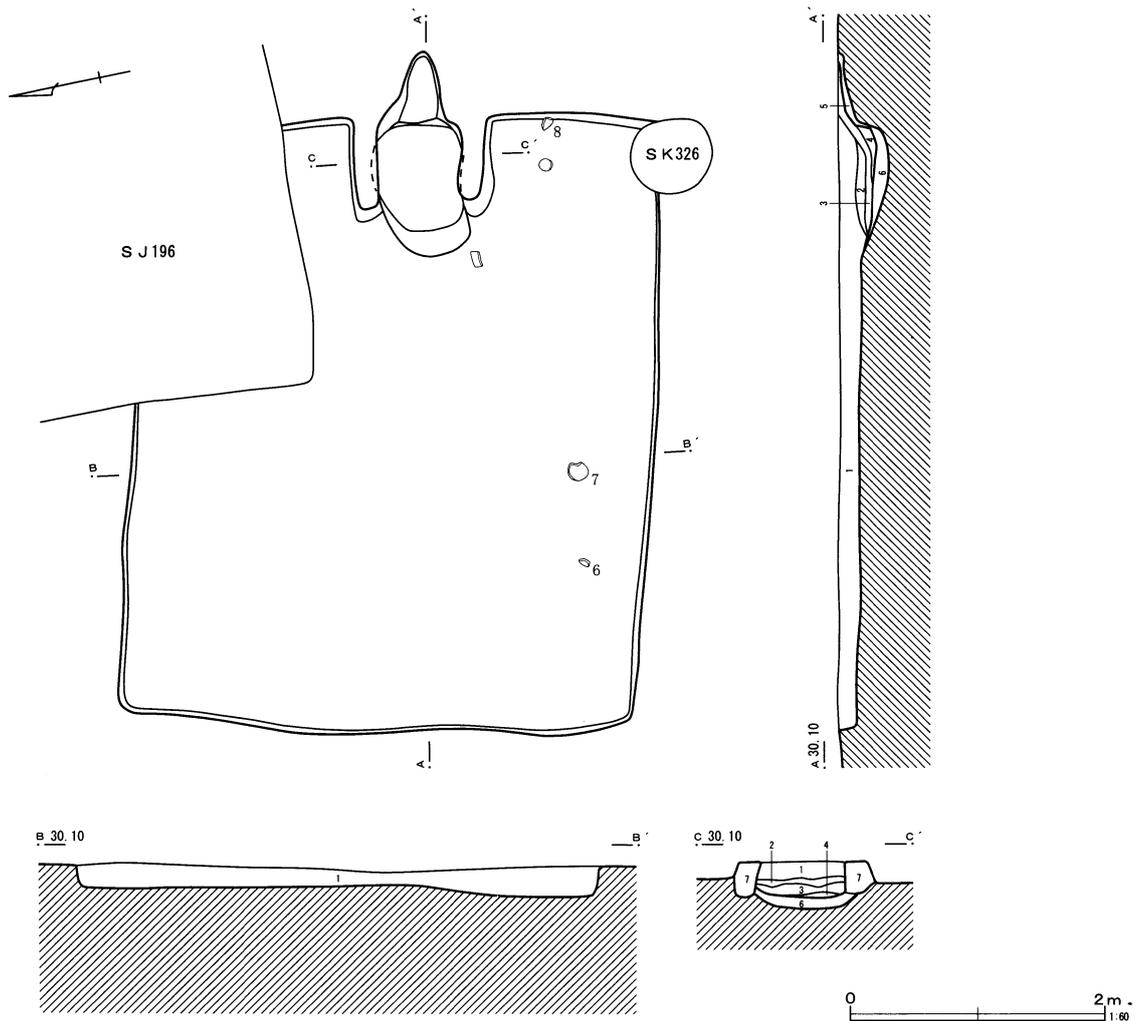
第 199 号住居跡 (第 379・380 図)

G-16・17 グリッドに位置する。第 181・189 号住居跡と重複し、2 軒の住居跡に西壁が切られている。規模は、主軸長南北 3.53 m、南壁で東西 4.13 m、深さ 19cm 程を測る。平面形は、長方形を呈す

る。主軸方位は、N-9°-E を指す。

カマドは、北壁やや東寄りに設けられている。燃焼部は、80cm × 63cm で床面と同じ高さである。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台碗、灰釉陶器高台付皿が出土した。

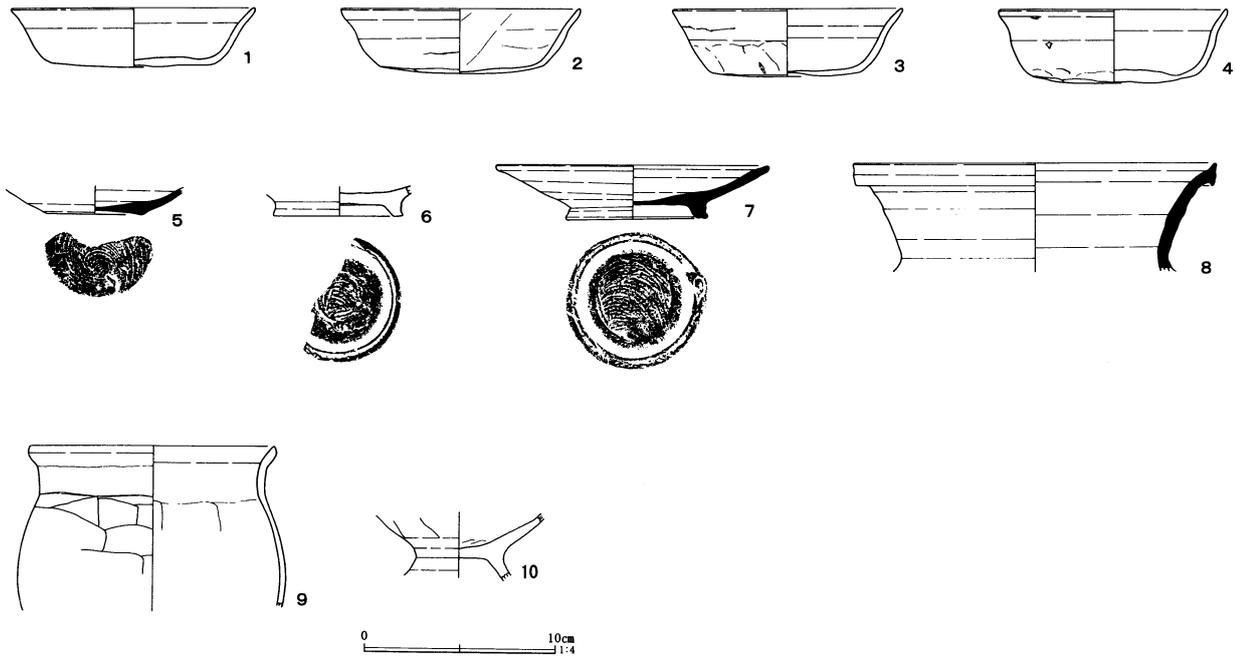


- 1 暗褐色土 白色粒・焼土粒・炭化物少量
 2 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物多量(カマド天井崩落土)
 3 黒褐色土 焼土粒・炭化物多量
 4 黒色土 灰層
 5 暗灰褐色土 焼土粒微量 粘土混入(カマド掘り方)
 6 暗灰褐色土 焼土粒やや多量 炭化物少量(カマド掘り方)
 7 暗灰褐色土 白色粒少量 灰褐色粘土含む

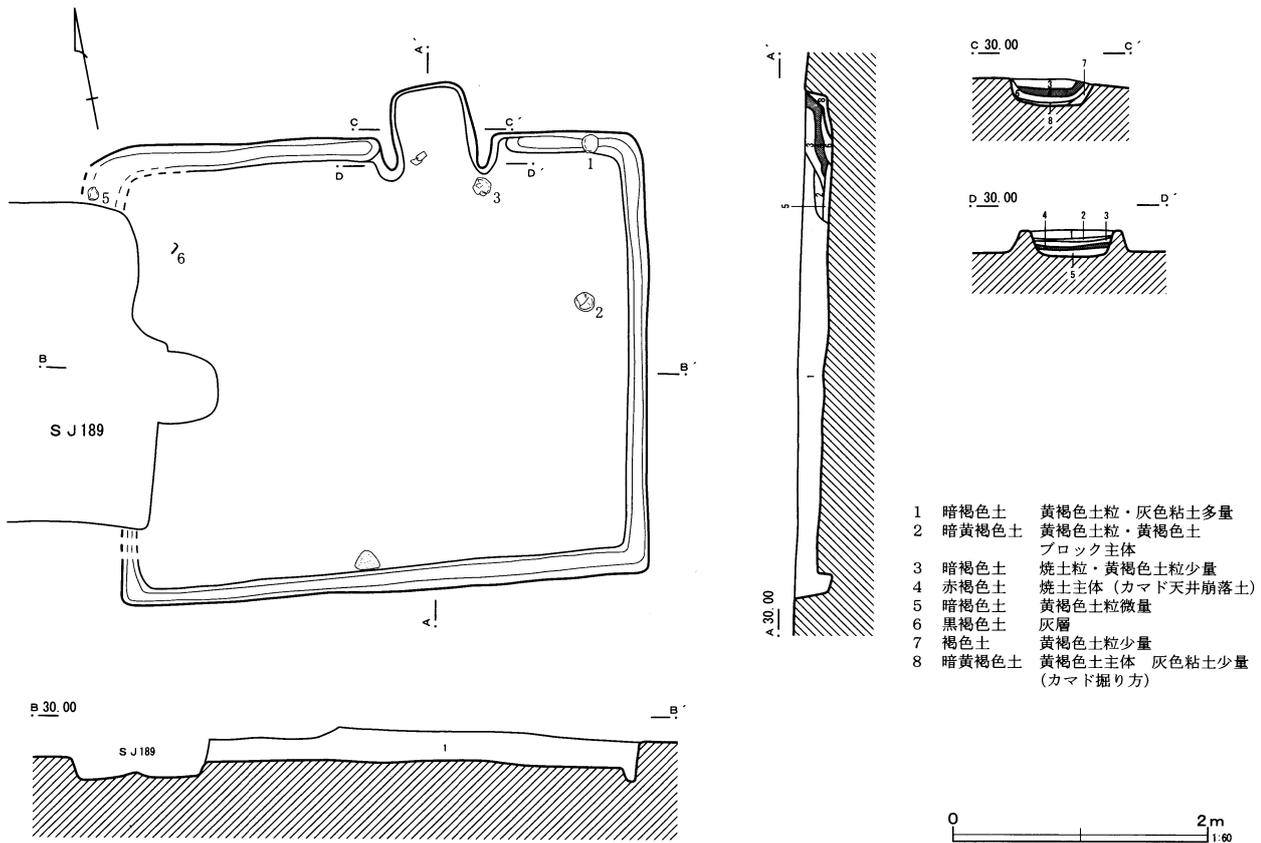
第 377 図 第 197 号住居跡

第 197 号住居跡出土遺物観察表 (第 378 図)

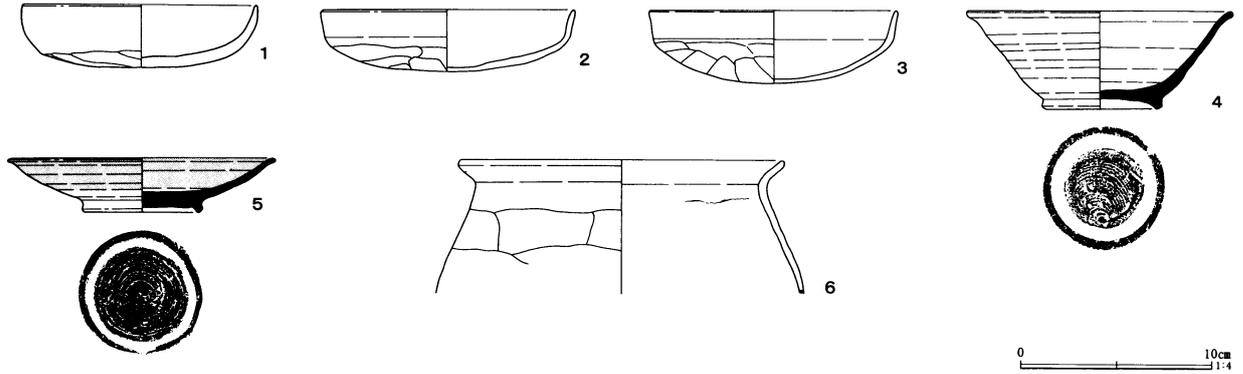
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.7)	3.1	(8.3)	A B F G	普通	橙	30	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ底部外面中央を除き手持ちへラ削り
2	土師坏	12.5	3.4	8.7	A B F J	普通	にぶい橙	90	床直	
3	土師坏	12.1	3.6	7.9	A B F J	普通	橙	90	覆土	口縁部外面～体部内面ロクロナデ
4	土師坏	(12.0)	3.9		A B F G	普通	橙	40	覆土	
5	須恵坏			(5.1)	A J K	普通	灰	45	覆土	
6	須恵高台碗			6.7	A C J	良好	にぶい褐	50	床直	酸化焰焼成
7	須恵高台皿	14.3	2.9	7.4	A F J K	良好	にぶい赤褐	90	床直	
8	須恵甕	(18.8)			A K	普通	灰	20	覆土	
9	土師甕	(12.6)			A B F	普通	にぶい赤褐	25	覆土	
10	土師台付甕				A F G	普通	にぶい黄褐	70	覆土	



第 378 図 第 197 号住居跡出土遺物



第 379 図 第 199 号住居跡



第380図 第199号住居跡出土遺物

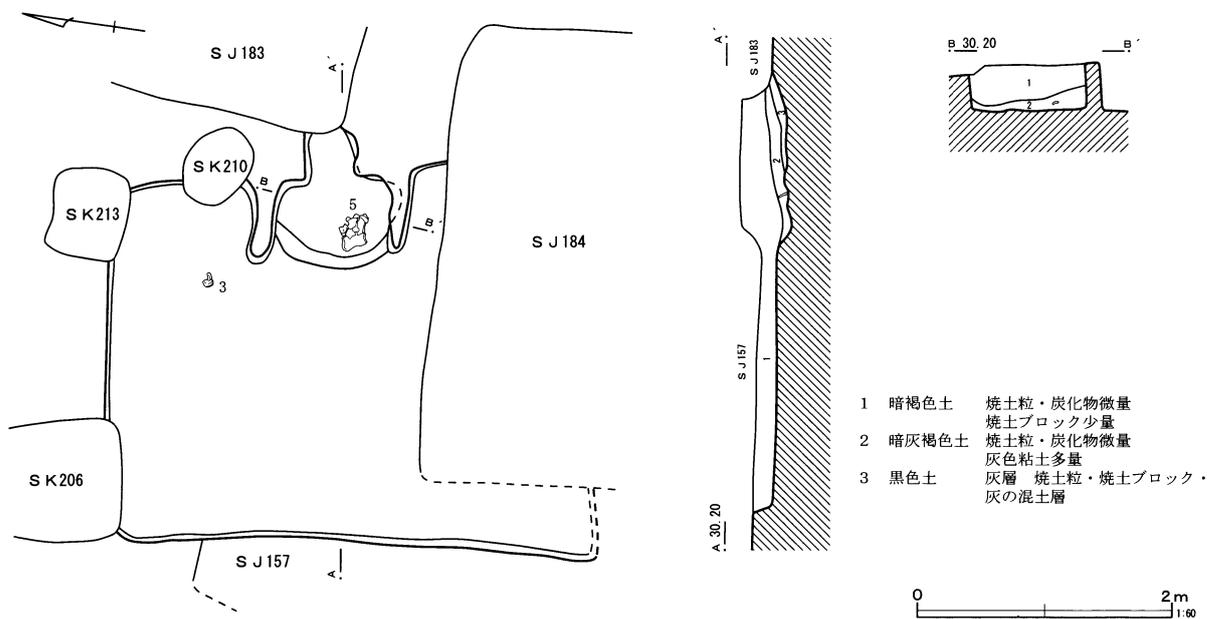
第199号住居跡出土遺物観察表 (第380図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.2	3.3		A B C	普通	にぶい橙	95	床直	
2	土師坏	13.0	3.3		A B J	普通	橙	90	床直	
3	土師坏	(13.0)	3.8		A B C J	不良	にぶい橙	85	カマド	
4	須恵高台碗	14.0	5.2	6.3	A J	普通	灰	70	覆土	
5	灰釉高台皿	(13.7)	2.9	6.2	A G K	良好	灰白	50	壁溝	高台内へら削り 施釉ツケガケ 内面重ね 焼き痕あり 東濃産
6	土師甕	(16.7)			A B F	普通	にぶい褐	25	覆土	

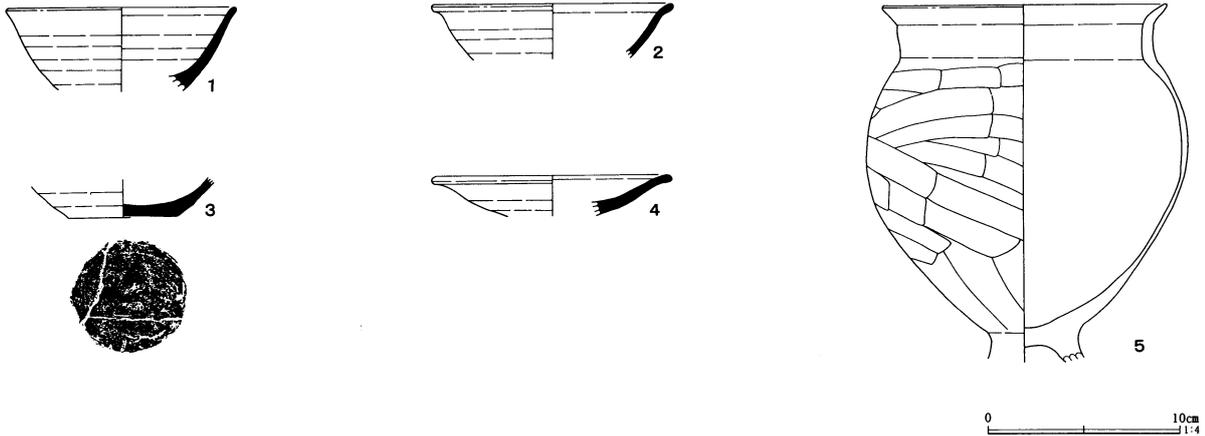
第200号住居跡 (第381・382図)

M・N-12グリッドに位置する。第157・183・184号住居跡・第206・210・213号土坑と重複し、

すべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西3.00 m、西壁で南北3.80 m、主軸方位は、N-82°-Eを指す。



第381図 第200号住居跡



第382図 第200号住居跡出土遺物

第200号住居跡出土遺物観察表 (第382図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.8)			A J	普通	灰白	15	覆土	
2	須恵坏	(12.4)			A C	普通	灰	20	覆土	
3	須恵坏			5.8	A C I J	普通	にぶい橙	80	床直	底部回転糸切り
4	須恵皿	(12.5)			A J	普通	暗赤灰	15	覆土	
5	土師台付甕	(14.7)			A B J	普通	にぶい黄橙	90	カマド	台部欠損 口縁部内面に油煙付着

カマドは、東壁やや北寄りに設けられ、先端部分は、第183号住居に切られている。燃焼部は、74cm × 100cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ36cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・皿、土師器台付甕が出土した。

第203号住居跡 (第383・384図)

J・K-14・15グリッドに位置する。第176・182号住居跡・第255号土坑と重複し、北東隅の壁は、第255号土坑に切られ、南壁と北西部の多くが切られている。規模は、主軸長東西5.14m、推定の南北4.00m程、深さ22cm程を測る。平面形は、台形を呈すると推定される。主軸方位は、N-101°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、104cm × 28cm、深さ15cm程を測り、煙道部は長さ54cmが確認できた。

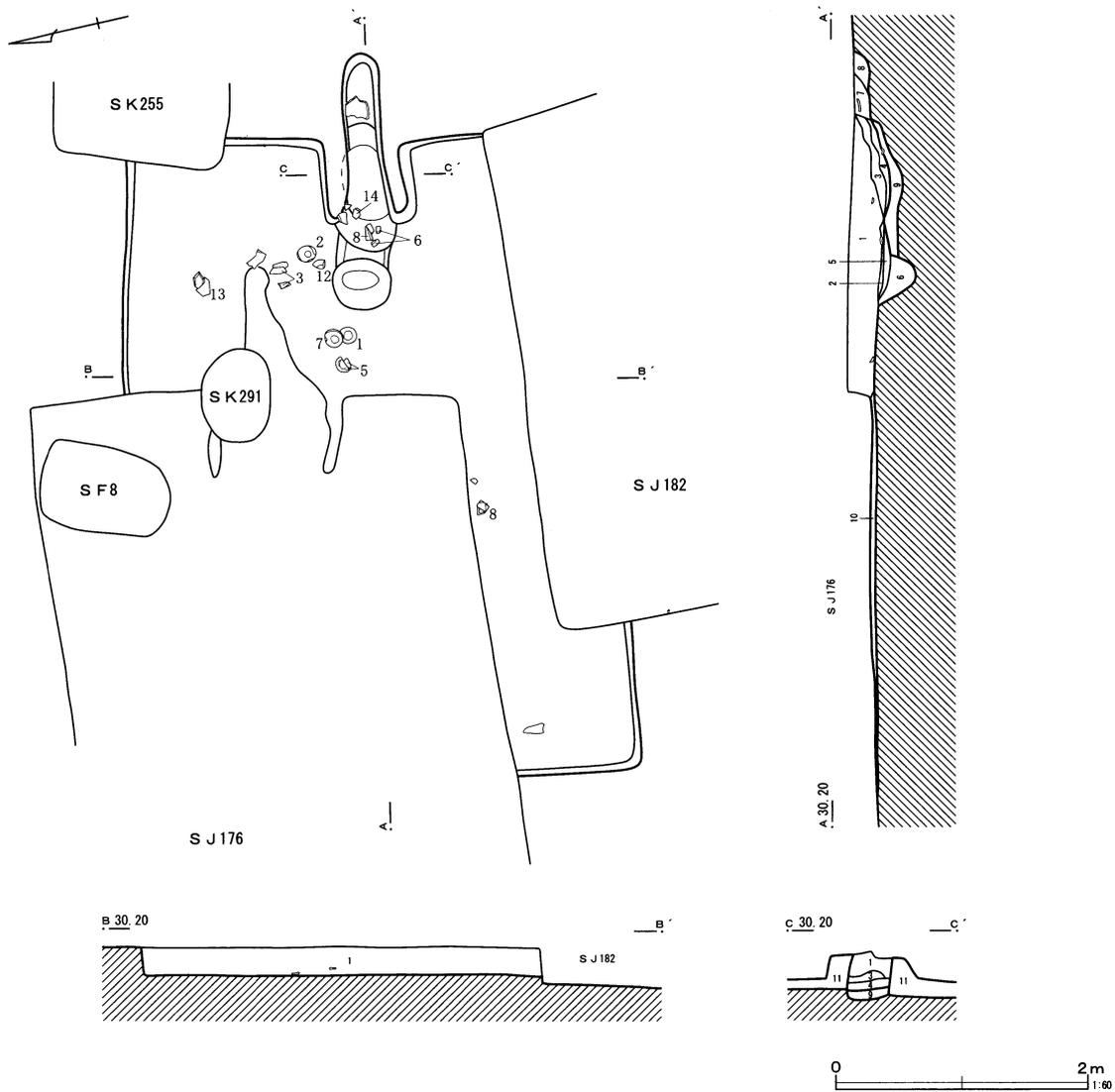
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付碗・皿・蓋・甕、灰釉陶器碗が出土した。

第204号住居跡 (第385・386図)

G-15・16グリッドに位置する。第190号住居跡と重複し、上部が切られている。規模は、主軸長東西3.81m、南北2.94m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-96°-Eを指す。

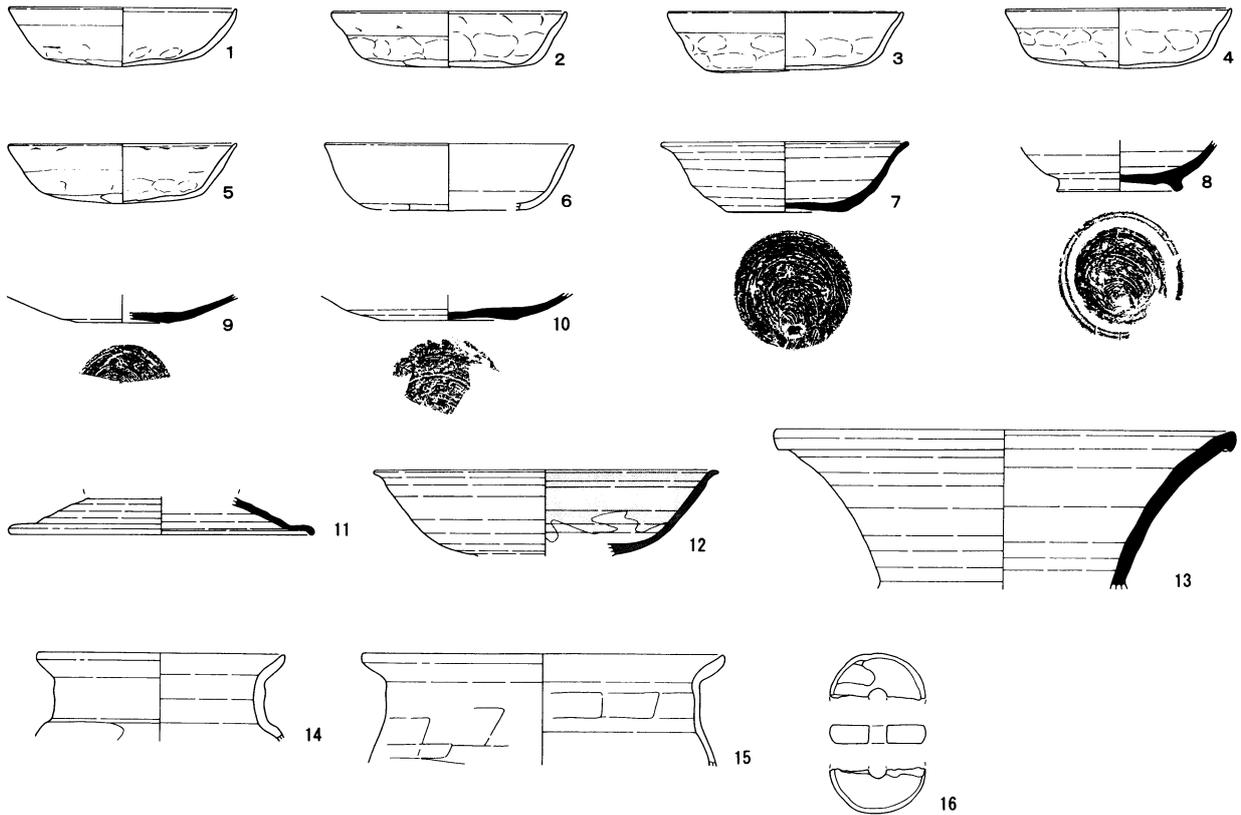
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、108cm × 67cmで床面と同じ高さで、煙道部は長さ106cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕と鉄製品が出土した。6は角棒状の鉄製品である。現存長は3.2cm。用途は不明である。



- | | | | | | | |
|---------|---------|----------------|-------|----------|-------------|--------------|
| 1 暗灰褐色土 | 焼土粒やや多量 | 炭化物少量 | 白色粒微量 | 6 黒褐色土 | 灰主体 | 焼土粒多量 |
| 2 赤褐色土 | 焼土・灰の混土 | | | 7 暗褐色土 | 焼土粒少量 | |
| 3 暗灰褐色土 | 焼土粒多量 | 灰少量 (カマド天井崩落土) | | 8 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 | |
| 4 黒褐色土 | 灰層 | 焼土粒少量 | 灰混入 | 9 暗灰褐色土 | 焼土粒少量 | 灰多量 (カマド掘り方) |
| 5 黒褐色土 | 焼土粒少量 | 炭化物多量 | 灰混入 | 10 暗灰褐色土 | 焼土粒少量 (貼り床) | |
| | | | | 11 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 | |

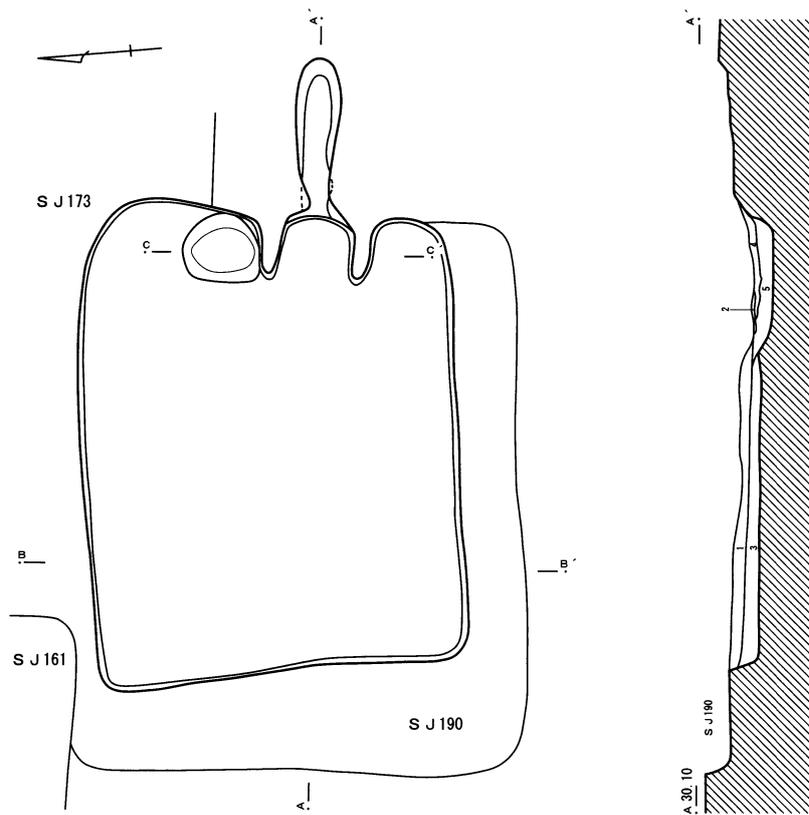
第383図 第203号住居跡



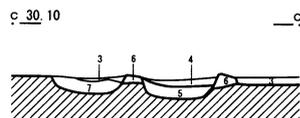
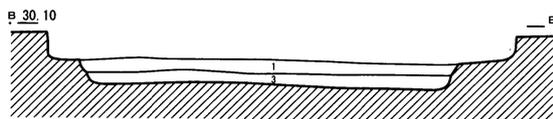
第384図 第203号住居跡出土遺物

第203号住居跡出土遺物観察表 (第384図)

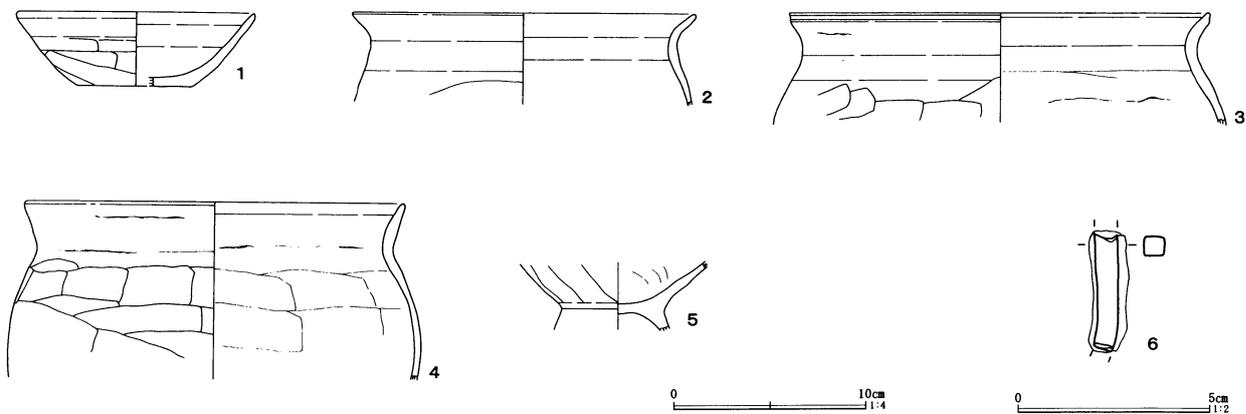
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.0	3.1	8.0	A B J	普通	橙	100	床直	
2	土師坏	12.2	3.0	9.0	A B J	普通	にぶい橙	100	覆土	
3	土師坏	12.3	3.2	8.4	A B J	普通	にぶい橙	95	覆土	
4	土師坏	11.9	3.2	9.1	A B J	良好	にぶい褐	70	覆土	
5	土師坏	12.0	3.2	8.4	A B C J	普通	橙	90	覆土	底部ヘラ削り
6	土師坏	(12.9)	(3.5)		A B J	普通	橙	25	カマド	歪みあり
7	須恵坏	13.0	3.7	6.5	A J K	良好	灰	100	覆土	底部右回転糸切り
8	須恵高台碗			6.6	A G J	良好	灰	60	覆土	底部回転糸切り
9	須恵皿			(5.0)	A J	良好	灰	35	覆土	底部回転糸切り
10	須恵皿			(7.2)	A K	良好	オリーブ灰	15	覆土	底部回転糸切り
11	須恵蓋	(15.8)			A G	良好	灰	10	覆土	
12	灰釉碗	(18.0)	(4.5)		A J	良好	灰	15	覆土	施釉ハケヌリ 二川産
13	須恵甕	(23.9)			A J K	良好	灰	45	覆土	外面自然釉
14	土師甕	(12.9)			A B C	良好	にぶい赤褐	15	カマド	
15	土師甕	(18.8)			A C F	普通	橙	20	カマド	
16	紡錘車	径5.0 孔径0.9 厚さ1.0					灰	50	覆土	須恵器の転用



- 1 灰色土 灰色粘土主体 焼土粒・黄褐色土粒
微量 (S J 190の貼り床)
- 2 灰褐色土 焼土粒・黄褐色土粒少量
- 3 暗灰色土 灰色粘土主体
- 4 黒褐色土 焼土ブロック・灰多量
- 5 暗褐色土 焼土粒微量 黄褐色土粒・灰色粘土
ブロック多量 (S J 204カマド掘り方)
- 6 黄褐色土 黄褐色土主体 灰色粘土含む
- 7 暗褐色土 焼土ブロック・灰色粘土ブロック多量



第 385 図 第 204 号住居跡



第 386 図 第 204 号住居跡出土遺物

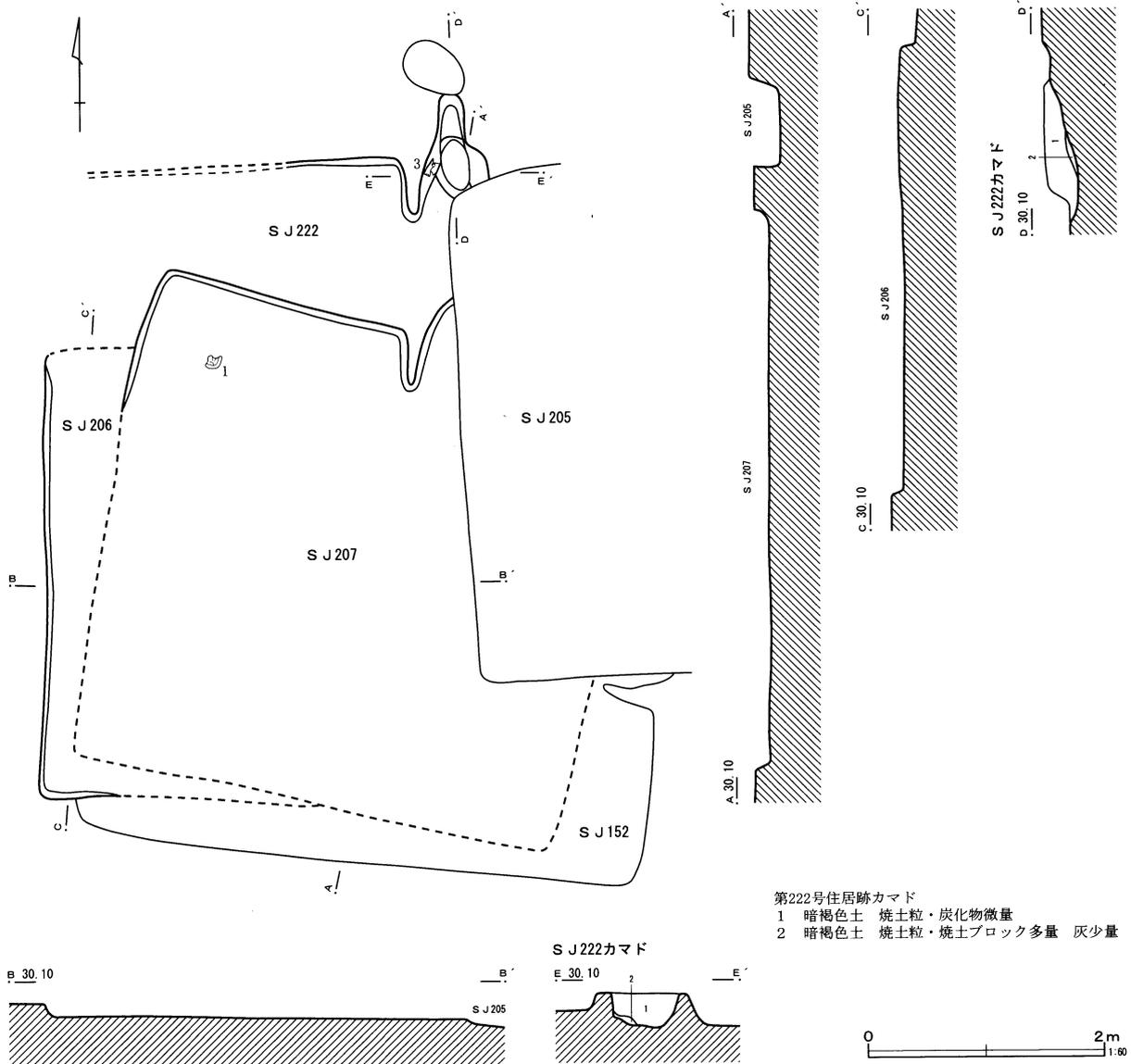
第204号住居跡出土遺物観察表 (第386図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(12.3)	3.9	(6.0)	A F	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
2	土師甕	(17.7)			A F J	良好	にぶい黄橙	15	覆土	
3	土師甕	(21.7)			A F J	良好	灰黄	20	覆土	
4	土師甕	(19.5)			B F J	普通	浅黄橙	40	覆土	
5	土師台付甕				A	良好	灰黄	70	覆土	

第206号住居跡 (第387図)

L-14グリッドに位置する。第152・206・207・222号住居跡と重複しているが切りあい関係は不明である。規模は、西壁で主軸長南北3.82m、東西

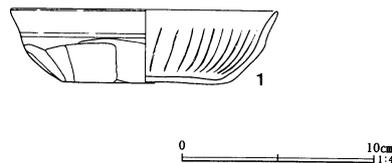
0.72mが確認できたのみで、深さ10cm程を測る。主軸方位は南壁を基準とすると、N-2°-Eを指す。カマド等の施設は、確認できなかった。



第387図 第206・207・222号住居跡

第207号住居跡 (第387・388図)

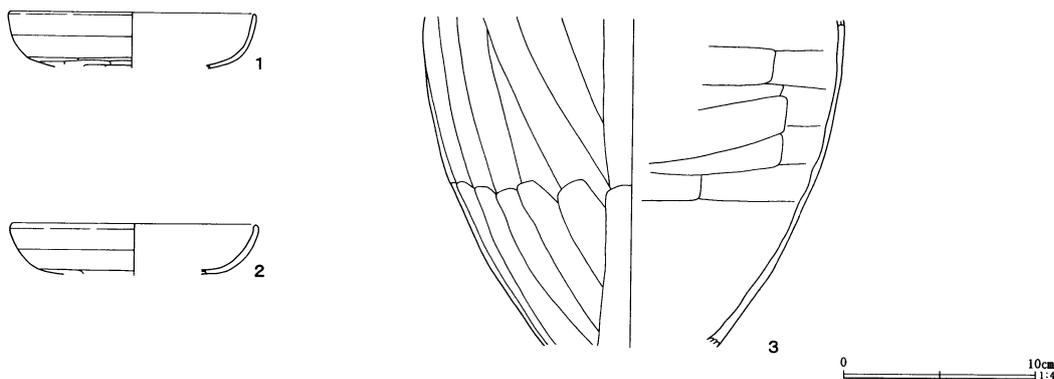
L-14グリッドに位置する。第152・205・206・222号住居跡と重複しているが、第205号住居跡に切られている以外は不明である。規模は、主軸長南北不明、北壁で確認できた東西2.94m、深さ10cm程を測る。主軸方位は、N-5°-Eを指す。



第388図 第207号住居跡出土遺物

第207号住居跡出土遺物観察表 (第388図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.9)	3.9	8.8	A B C J	普通	にぶい褐	60	床直	やや歪みあり 内面暗文



第389図 第222号住居跡出土遺物

第222号住居跡出土遺物観察表 (第389図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.7)			A B F	普通	にぶい褐	15	カマド	
2	土師坏	(12.8)			B F	普通	橙	20	カマド	
3	土師甕				A B C	良好	橙	-	カマド	

カマドは、北壁に設けられているが、掘り方のみの確認で詳細は不明である。

遺物は、土師器坏が出土した。

第222号住居跡 (第387・389図)

L-14グリッドに位置する。第205・206・207号住居跡と重複しているが、第205号住居跡に切られている以外は不明である。カマドのみの確認である。カマド主軸方位は、N-0°-Eを指す。

カマドは、北壁に設けられている。一部、第205号住居跡に切られているが、燃焼部は、114cm × 55cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ38cmが確認できた。

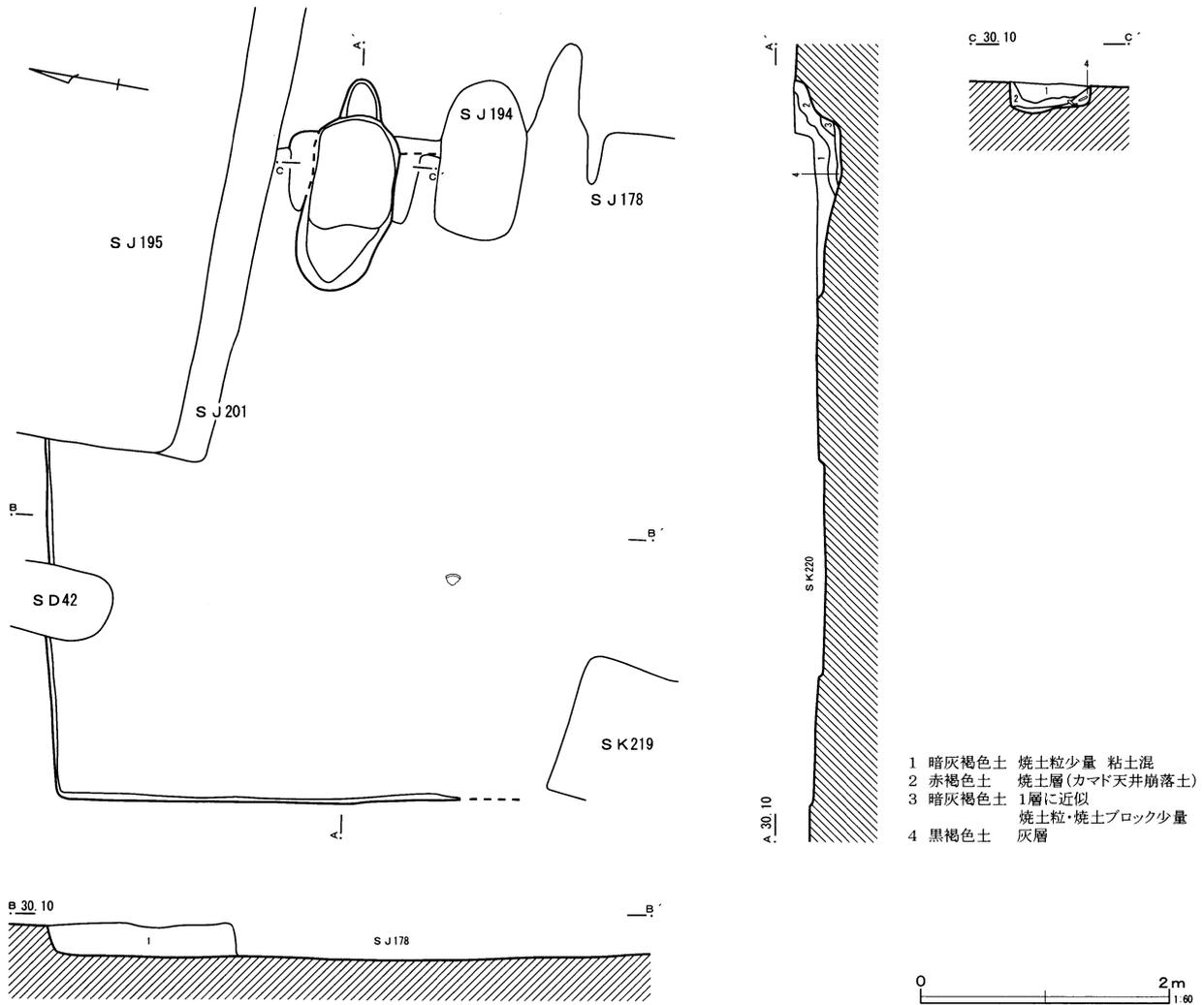
遺物は、土師器坏・甕が出土した。

第208号住居跡 (第390・391図)

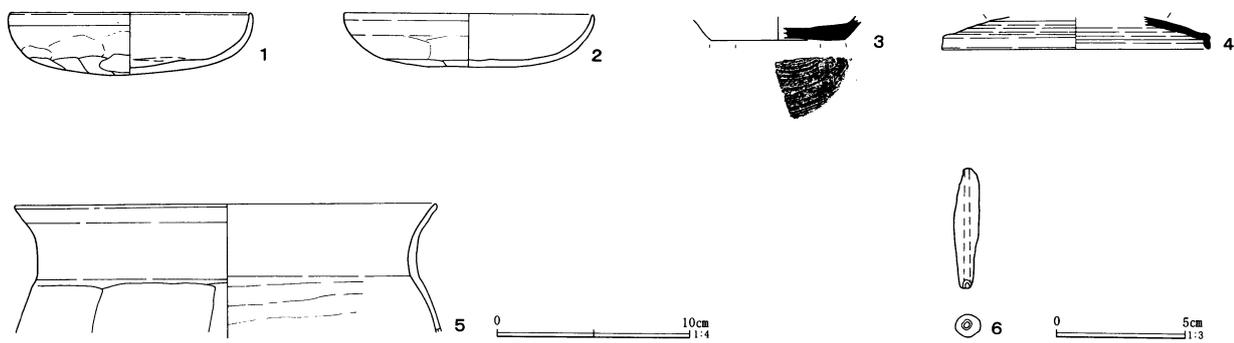
L-13グリッドに位置する。第178・194・195・201号住居跡・第219・220号土坑・第42号溝と重複し、第220号土坑に中央付近が切られ、いずれの遺構にも切られている。規模は、主軸長東西5.28m、西壁で確認できた南北3.25m、深さ25cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-81°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、145cm × 65cm、深さ22cmを測り、煙道部は長さ29cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋が出土した。



第390図 第208号住居跡



第391図 第208号住居跡出土遺物

第208号住居跡出土遺物観察表 (第391図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.6	3.3		A B J	普通	橙	55	カマド	
2	土師坏	(12.8)	2.8		A B F G	普通	にぶい橙	10	覆土	
3	須恵坏			(7.0)	A G H	良好	灰オリーブ	20	覆土	底部右回転周辺ヘラ削り

第208号住居跡出土遺物観察表 (第391図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
4	須恵蓋	(14.0)			A J	良好	灰	20	カマド	天井部回転ヘラ削り
5	土師甕	(21.6)			A B F	良好	橙	30	カマド	
6	土錘	長さ4.7 径0.95 孔径0.2				普通	黄灰	100	覆土	

第209号住居跡 (第392・393図)

L-12グリッドに位置する。第127・148号住居跡・第109・349号土坑・第14号溝と重複し、住居跡に南壁・北壁が切られ住居跡内が土坑・溝に切られている。規模は、主軸長東西4.68m、南北3.18m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-99°-Eを指す。

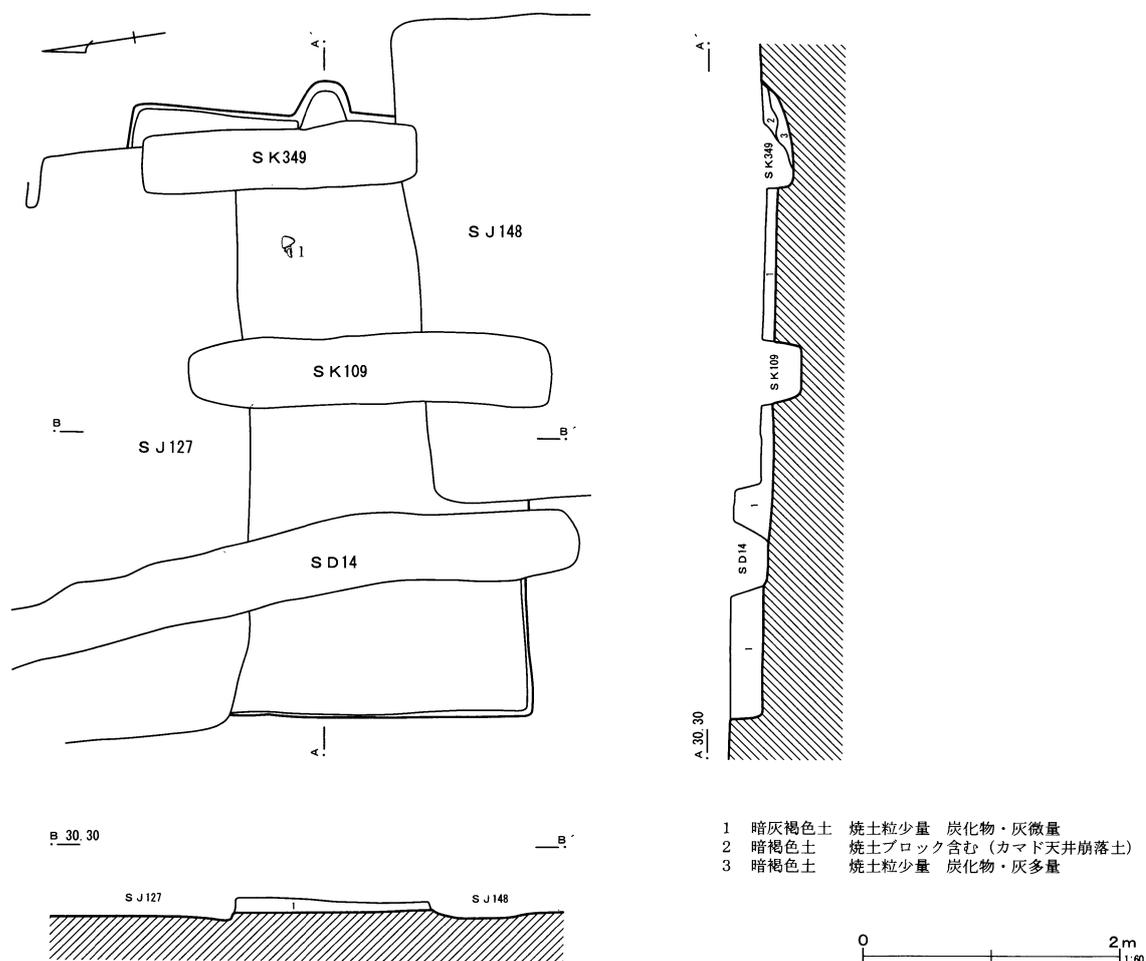
カマドは、東壁に設けられている。カマド前が土坑によって切られているため、確認できた燃焼部は、45cm×45cm、深さ15cmを測る。

遺物は、須恵器坏・高台付碗、灰釉陶器高台付皿、緑釉陶器破片が出土した。

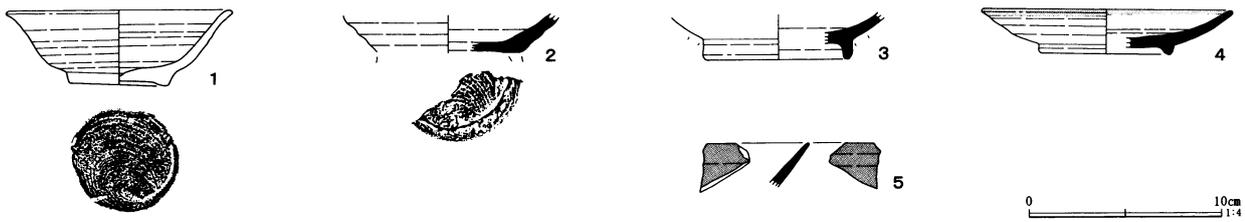
第210号住居跡 (第394・395図)

L-12・13グリッドに位置する。第148号住居跡と重複し、上部が切られている。規模は、主軸長東西3.88m、南北3.32m、深さ18cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-88°-Eを指す。

壁溝は、南壁のみで確認され、幅10~18cm、深さ5cm程を測る。



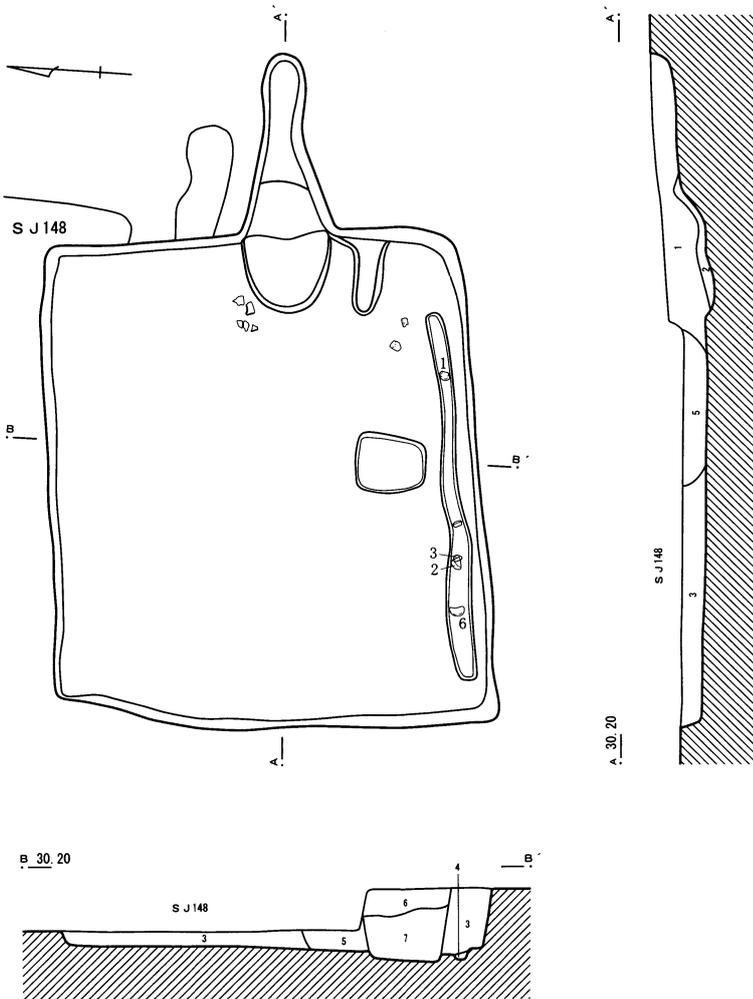
第392図 第209号住居跡



第393図 第209号住居跡出土遺物

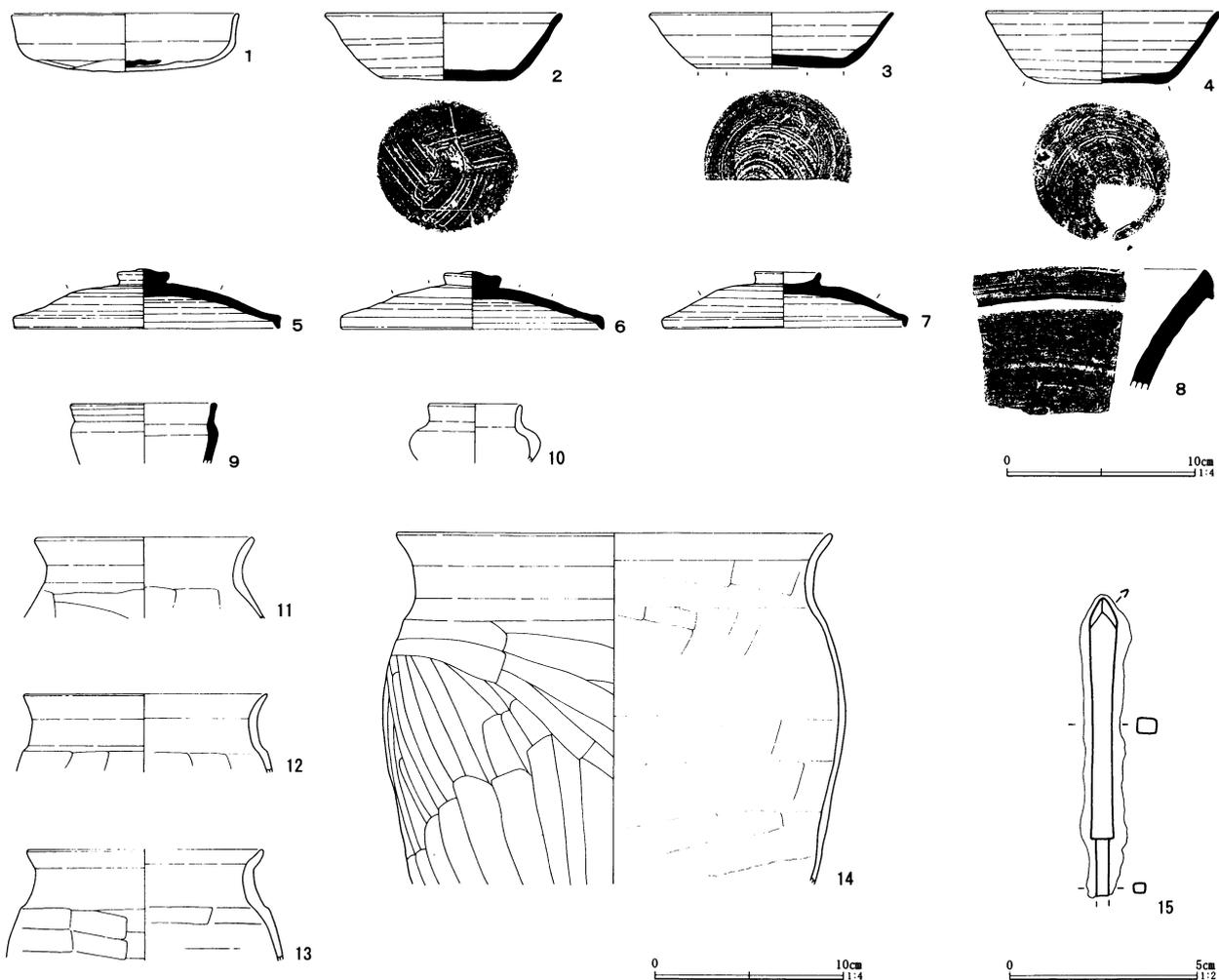
第209号住居跡出土遺物観察表 (第393図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.5)	3.9	5.1	ACFJ	普通	浅黄橙	70	床直	酸化焰焼成
2	須恵高台碗				ABCD	普通	浅黄橙	25	覆土	高台部剥離
3	須恵高台碗			(7.3)	A	良好	灰	15	覆土	体部外面下端に右回転ヘラ削り
4	灰釉高台皿	(13.0)	2.3	(6.7)	GJ	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
5	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産



- 1 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量
灰・炭化物少量
- 2 黒色土 灰層 焼土粒多量
- 3 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 4 黒褐色土 焼土粒・炭化物微量
- 5 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量 (S J 148覆土)
- 6 黒褐色土 白色粒少量 焼土粒・炭化物微量
(ピット覆土)
- 7 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 (ピット覆土)

第394図 第210号住居跡



第 395 図 第 210 号住居跡出土遺物

第 210 号住居跡出土遺物観察表 (第 395 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.9	3.1		A B	良好	橙	80	壁溝	口縁部内外面横ナデ 底部内面油煙附着
2	須恵坏	12.4	3.7	6.8	A E K	普通	黄灰	75	覆土	底部外面手持ちヘラ削り
3	須恵坏	(12.8)	4.0	7.8	A H J	良好	灰白	40	壁溝	底部周辺右回転ヘラ削り
4	須恵坏	12.6	3.9	7.5	A H J	良好	褐灰	85	掘り方	やや歪みあり
5	須恵蓋	(14.0)	3.2		A J	良好	灰	60	覆土	天井部回転ヘラ削り つまみ径2.8
6	須恵蓋	(13.9)	3.1		A J	良好	灰	70	壁溝	天井部外面左回転ヘラ削り つまみ径3.05
7	須恵蓋	12.8	3.1		A J K	良好	灰	100	掘り方	天井部回転ヘラ削り つまみ径3.5
8	須恵甕				A J	良好	灰	破片	覆土	
9	須恵小形壺	(7.7)			A	良好	灰	10	覆土	
10	ミニチュア	(4.7)			A B	普通	橙	10	覆土	
11	土師甕	(11.5)			A B C	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
12	土師甕	(12.8)			A B C	普通	にぶい褐	15	覆土	
13	土師甕	(12.4)			B C F	普通	にぶい褐	25	覆土	
14	土師甕	(22.9)			A B F J K	良好	にぶい橙	30	掘り方	
15	鉄製品						-	-	覆土	

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃
堿部は、103cm×70cm、深さ10cmを測り、煙道部
は長さ100cmが確認できた。

また、南壁寄りにある土坑は、住居跡を切り床面
も掘り込み、住居跡に関する土坑ではない。

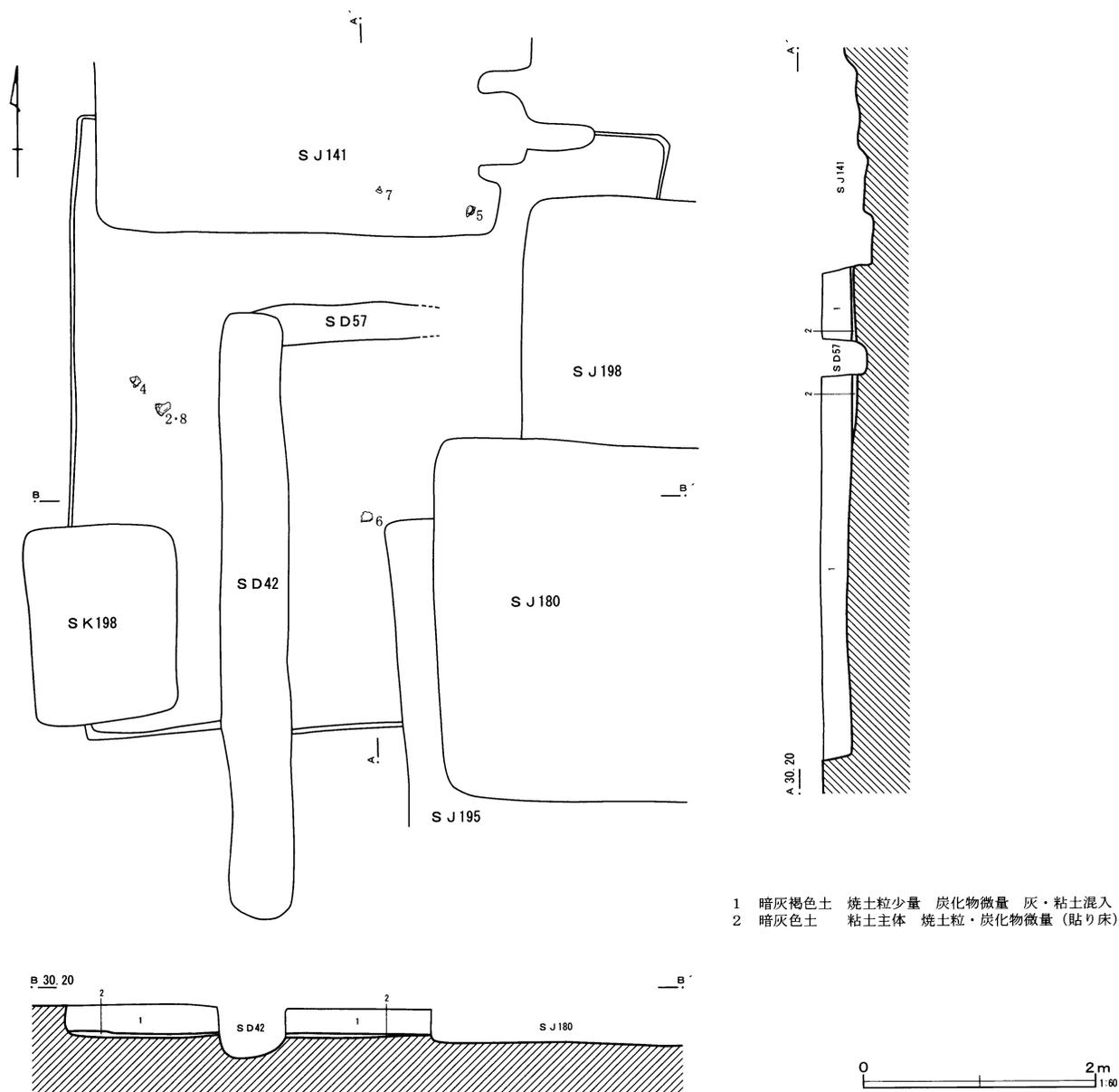
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・小型壺、
ミニチュア土器と鉄製品が出土した。15は鉄鏃で
ある。錆化が著しく、鏃身部の形状は推定であるが、
鑿箭式と呼ばれる無関の三角形鏃と考えられる。現
存長は7.9cm、鏃身部の長さは6.4cmである。関は
角関である。

第211号住居跡 (第396・397図)

K・L-13グリッドに位置する。第141・180・
195・198号住居跡・第198号土坑・第42・57号溝
と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、
主軸長西壁で南北5.41m、北壁で東西5.10m、深
さ25cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸
方位は西壁を基準値すると、N-1°-Eを指す。

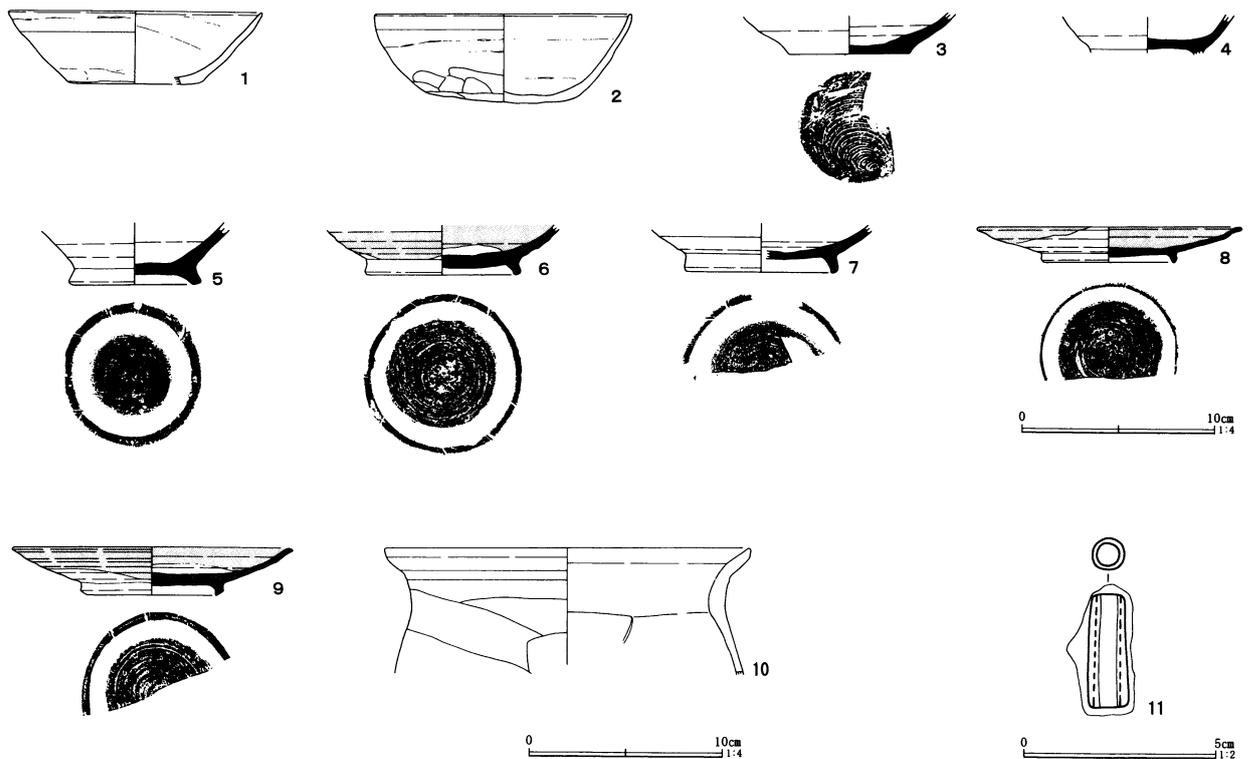
カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付碗・皿、灰
釉陶器高台付碗・高台付皿と鉄製品が出土した。11
は用途不明の管状鉄製品である。長さは2.9cm、最



- 1 暗灰褐色土 焼土粒少量 炭化物微量 灰・粘土混入
- 2 暗灰色土 粘土主体 焼土粒・炭化物微量 (貼り床)

第396図 第211号住居跡



第397図 第211号住居跡出土遺物

第211号住居跡出土遺物観察表 (第397図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.2)	3.8	(7.0)	A B C F J	普通	橙	40	覆土	やや磨耗する
2	土師坏	13.4	4.7	7.9	A B F J K	普通	橙	90	床直	底部外面外周部のみヘラ削り
3	須恵皿			(5.8)	A	普通	にぶい黄橙	40	覆土	底部回転糸切り 内面に赤色顔料付着
4	須恵高台碗				A B C J	普通	にぶい黄橙	70	床直	高台欠損
5	須恵高台碗			6.8	A C	普通	灰黄	80	床直	
6	灰釉高台碗			7.6	A G	良好	灰白	75	覆土	高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 内面重ね焼き痕 浜北産
7	灰釉高台碗			(7.6)	A J	普通	灰白	40	カマド	高台内ヘラ削り 施釉なし 東濃産
8	灰釉高台皿	(13.8)	1.9	6.8	G J	良好	灰白	40	床直	高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
9	灰釉高台皿	(14.6)	2.6	6.7	A G	良好	灰白	40	覆土	高台内ヘラ削り 内外面ハケヌリー筆 東濃産
10	土師甕	(18.8)			A B	普通	にぶい橙	15	覆土	

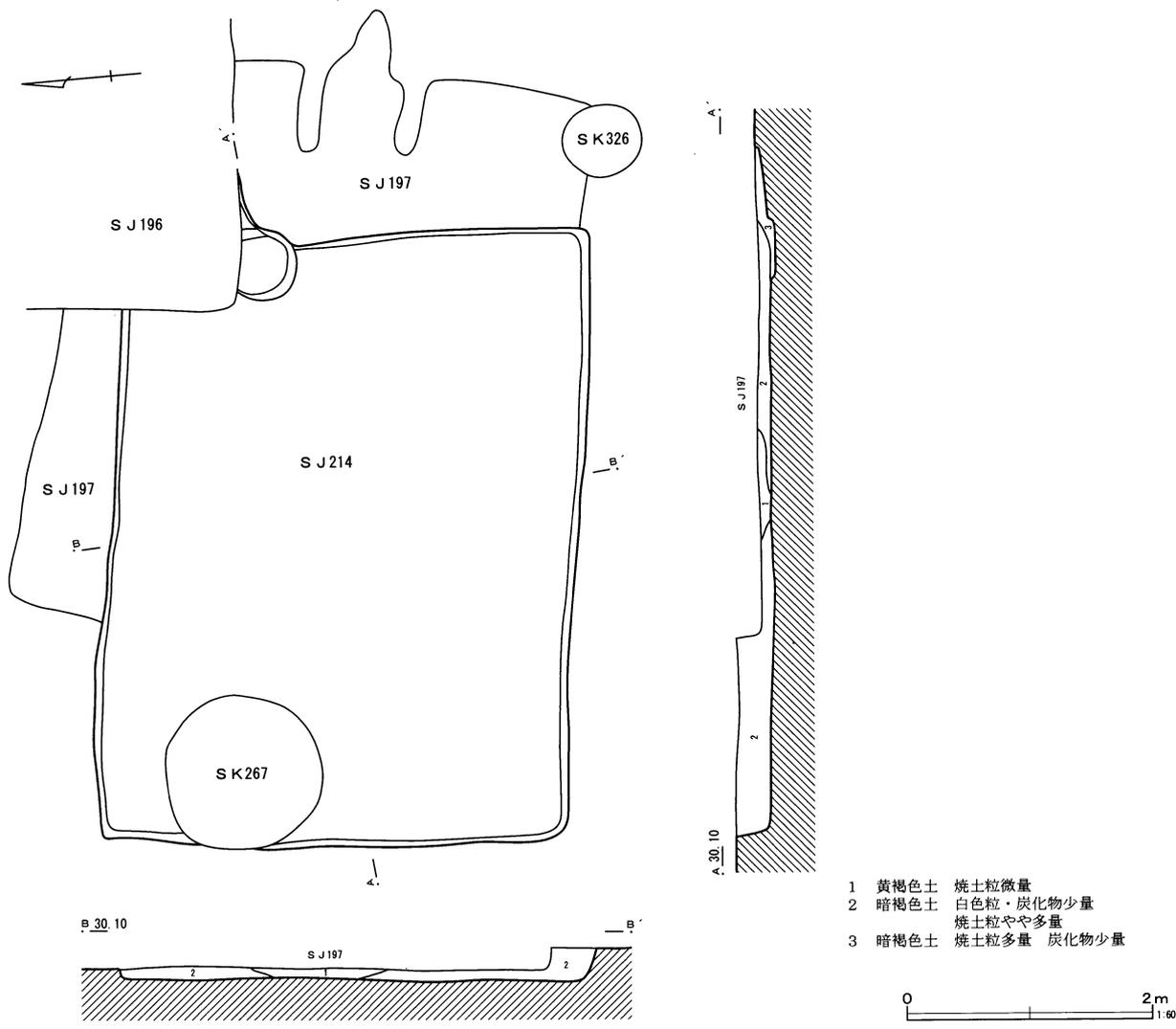
大径は1.0cmである。

第214号住居跡 (第398・399図)

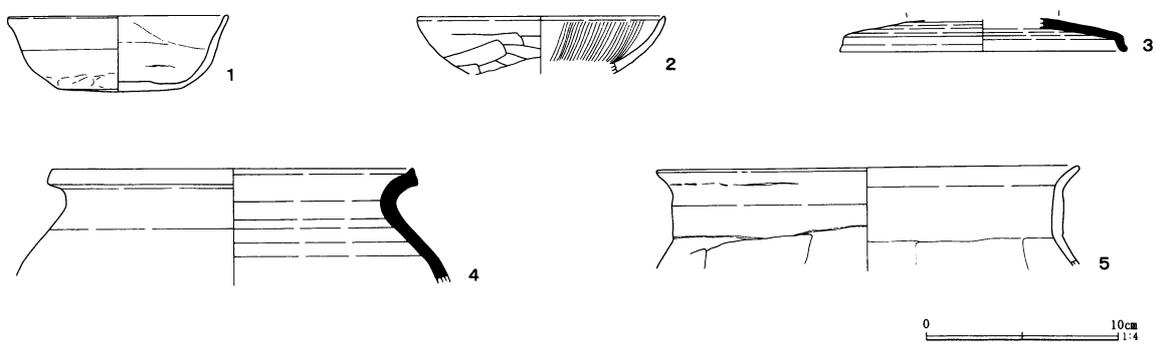
K・L-15・16グリッドに位置する。第196・197号住居跡・第267号土坑と重複し、すべての遺構に切れ、住居跡により住居跡上部が切られている。規模は、主軸長東西4.98m、南北3.87m、深さ28cm程を測る。平面形は、やや歪んだ長方形を呈する。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

カマドは、東壁で北に片寄って設けられている。北半は住居跡によって切られ、確認できたのは50cm×46cm、深さ8cm程を測り、煙道部は57cmを確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器蓋・甕が出土した。



第398図 第214号住居跡



第399図 第214号住居跡出土遺物

第214号住居跡出土遺物観察表 (第399図)

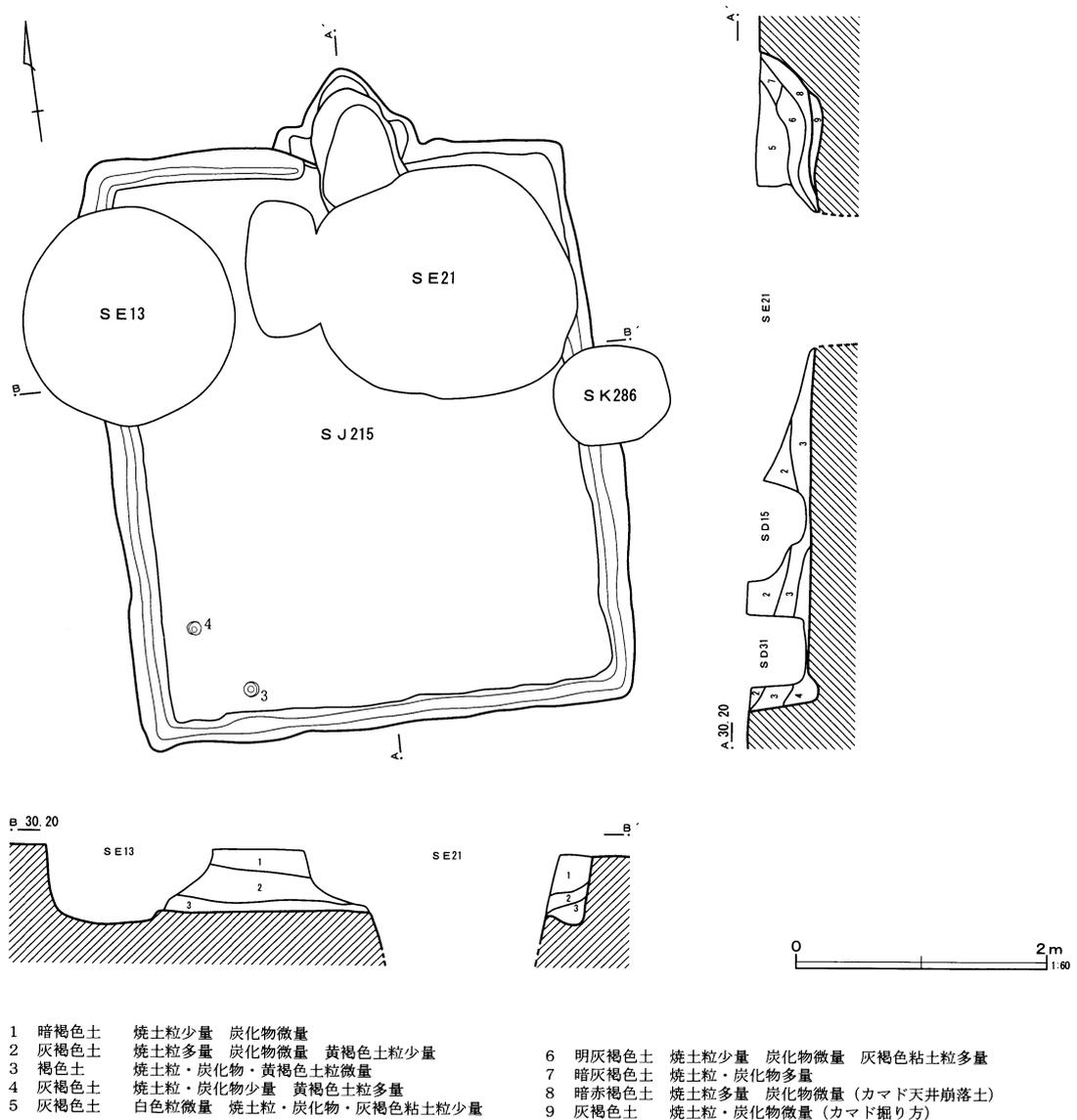
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.5	3.9	6.6	A B F J	普通	にぶい橙	70	覆土	底部一方向平行へう削り
2	土師坏	(12.8)			A B	良好	橙	15	覆土	暗文土器
3	須恵蓋	(14.9)			A F J	良好	灰黄	15	覆土	
4	須恵甕	(18.7)			A J	普通	灰	15	覆土	
5	土師甕	(21.8)			A B F	良好	にぶい橙	25	覆土	

第215号住居跡 (第400・401図)

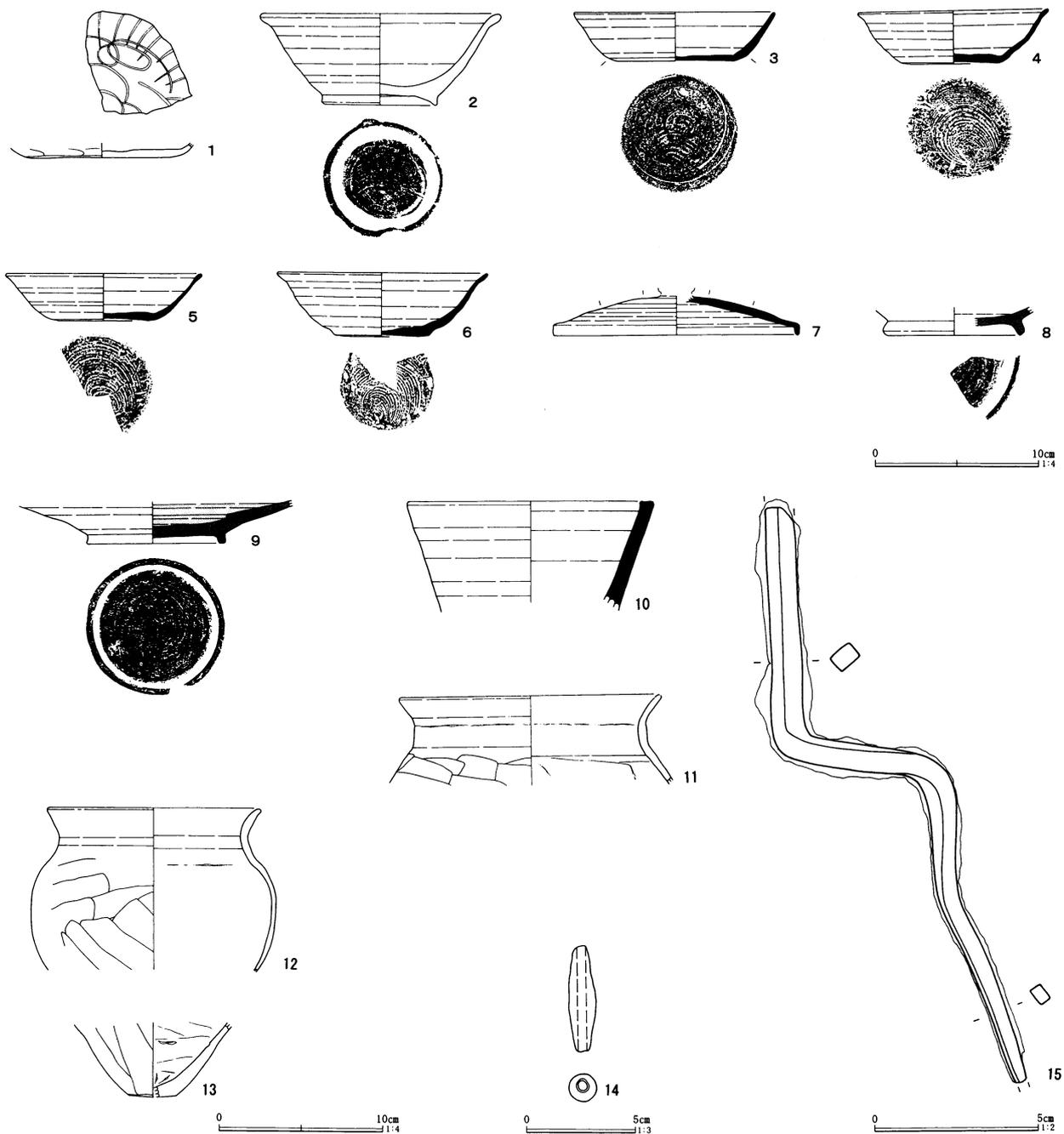
I・J-15グリッドに位置する。第286号土坑・第13・21号井戸跡・第15・31号溝と重複し、すべての遺構に切られ、南壁に沿って第31号溝が東西に貫通し、中央やや南寄りに第15号溝が東西に貫通している。北西の壁を、第13号井戸が切り、カマド付近から北東隅を第21号井戸が切っている。規模は、主軸長南北4.76m、東西4.06m、深さ50cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-0°-Eを指す。壁溝はほぼ全周し、幅17~25cm、深さ7~10cmを測る。

カマドは、北壁に設けられている。カマド前面は第21号井戸により切られており、燃烧部は、87cm×70cmが残存し、確認できた。

遺物は、土師器坏・高台付碗・甕、須恵器坏・蓋・鉢、土錘と鉄製品が出土した。15は角棒状の鉄製品である。大きく屈曲しねじれている。のびした現存長は21.5cmほどになる。用途は不明である。



第400図 第215号住居跡



第401図 第215号住居跡出土遺物

第215号住居跡出土遺物観察表 (第401図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏			(9.3)	ACJ	良好	にぶい褐	25	覆土	暗文
2	土師高台碗	(14.4)	5.6	6.8	AFJ	普通	にぶい黄橙	60	覆土	ロクロ土師器
3	須恵坏	12.3	3.0	7.1	ACJK	良好	灰	100	床直	体部下端へラ削り 底部全面へラ削り
4	須恵坏	11.7	3.3	6.0	AHJK	良好	灰	100	覆土	底部右回転糸切り
5	須恵坏	(12.0)	2.9	6.2	AHJK	良好	灰	40	覆土	
6	須恵坏	(13.0)	3.9	5.8	AJK	良好	灰	40	覆土	
7	須恵蓋	(15.0)			AHJ	良好	黄灰	10	覆土	天井部回転へラ削り
8	灰釉高台碗			(8.1)	GH	普通	灰黄	15	覆土	高台内へラ削り 施釉なし 二川産

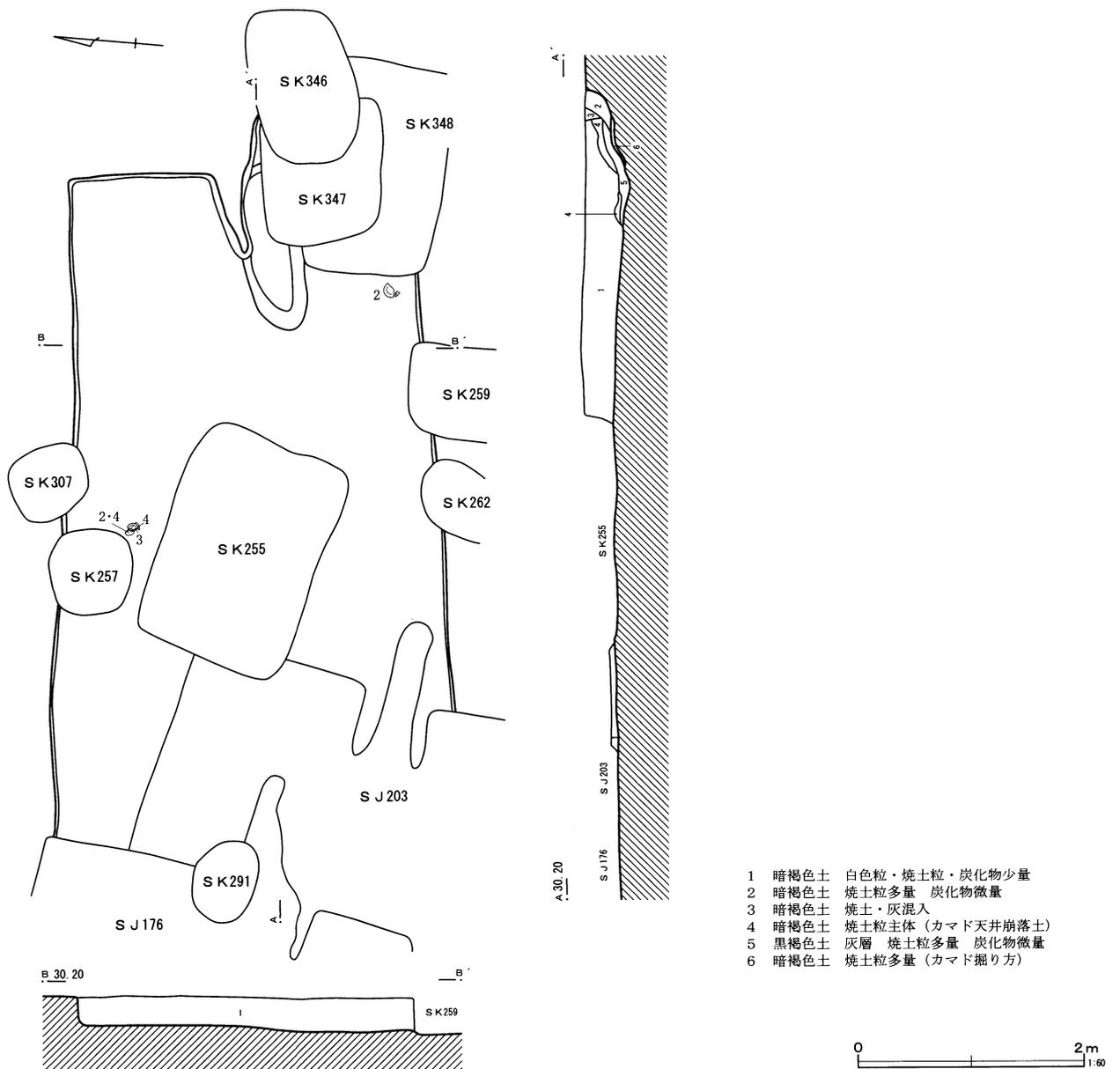
第215号住居跡出土遺物観察表 (第401図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
9	灰釉高台皿			8.4	AGJ	良好	灰	70	覆土	
10	須恵鉢	(15.0)			ACG	普通	黄灰	15	覆土	
11	土師甕	(16.0)			AFJ	普通	褐	15	覆土	
12	土師甕	(12.8)			ABFJ	普通	にぶい褐	30	覆土	
13	土師甕			(3.0)	ABCFJ	普通	にぶい褐	15	覆土	
14	土錘	長さ4.9 径1.6 孔径0.3				普通	にぶい黄橙	100	覆土	

第216号住居跡 (第402・403図)

J・K-14・15グリッドに位置する。第176・203号住居跡・第255・257・259・262・307・346・347・

348号土坑と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西は、南壁で確認でき5.93 m、南北3.54 m、深さ31cm程を測る。平面形は、長方

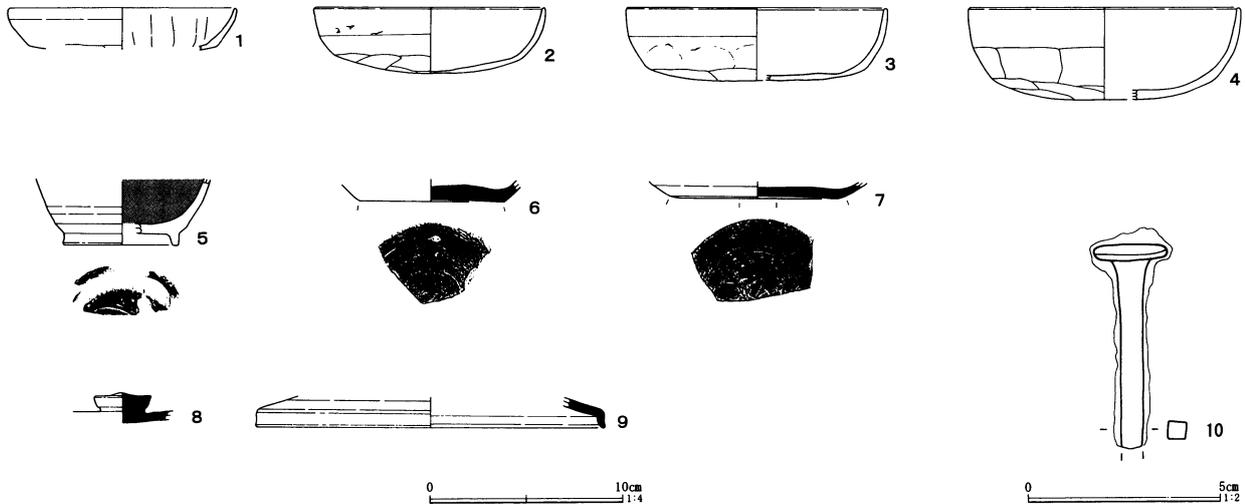


第402図 第216号住居跡

形を呈する。主軸方位は、N-83°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。南東半が土坑に切れ、燃焼部は、148cm×55cm、深さ10cm程が確認でき、煙道部は、長さ44cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台付坏、須恵器碗・蓋と鉄製品が出土した。10は鉄製釘である。脚部を含む基部下半を欠き、現存長は5.3cmである。



第403図 第216号住居跡出土遺物

第216号住居跡出土遺物観察表 (第403図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.7)		(9.8)	AB	良好	橙	15	覆土	暗文土器
2	土師坏	12.0	3.5		ABFJ	普通	にぶい橙	80	覆土	
3	土師坏	(13.4)	3.8		ABCFJ	普通	にぶい橙	15	覆土	
4	土師坏	(14.0)	4.8		ABFJ	普通	にぶい橙	20	覆土	
5	土師高台坏			(5.9)	J	普通	にぶい黄橙	20	覆土	黒色土器
6	須恵碗			(7.4)	AGH	良好	灰オリーブ	20	覆土	内面のみ酸化焰焼成
7	須恵碗			(8.0)	AH	良好	灰	25	覆土	体部下端外面～底部右回転ヘラ削り
8	須恵蓋				AH	普通	灰	60	覆土	つまみ径3.0
9	須恵蓋	(18.0)			JK	不良	灰	10	覆土	

第217号住居跡 (第404・405図)

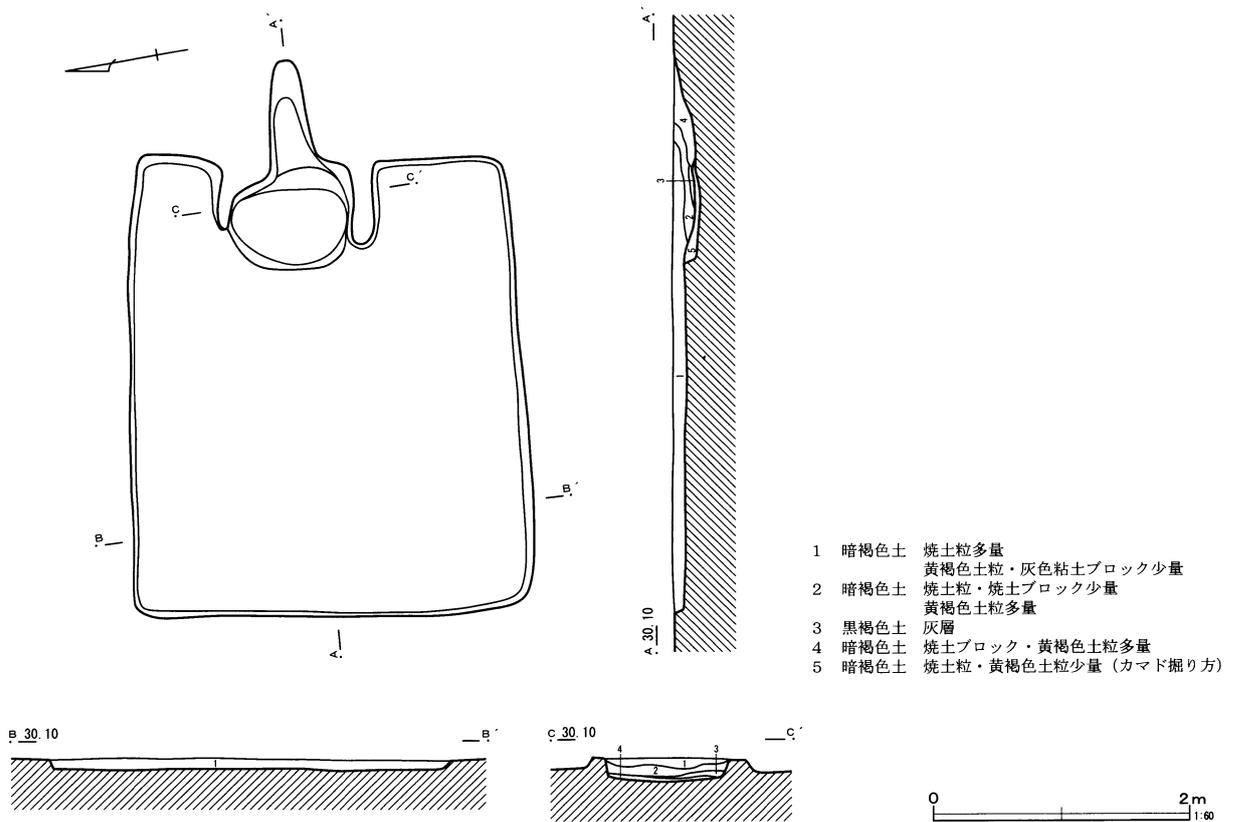
J-16・17グリッドに位置する。第267号住居跡と重複し、上部を切っている。規模は、主軸長東西3.60m、南北3.10m、深さ10cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-95°-Eを指す。

カマドは、東壁北寄りに設けられている。燃焼部は、78cm×95cm、深さ8cm程を測り、煙道部は長さ86cmが確認できた。

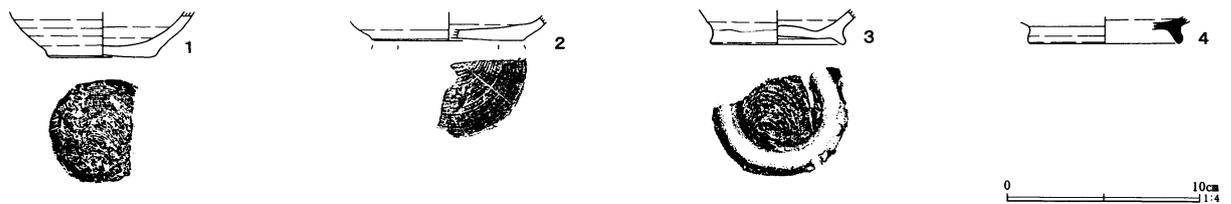
遺物は、須恵器坏・高台付碗、灰釉陶器高台付碗が出土した。

第218号住居跡 (第406・407図)

J-16グリッドに位置する。第229・247号住居跡、第376・380・425号土坑と重複し、土坑に切れ、第229号住居跡の上部を切り、第247号住居跡を切っている。カマドの一部は、第376・379号土坑に切られている。規模は、主軸長東西5.24m、南北2.90m、深さ32cm程を測る。平面形は、長方



第404図 第217号住居跡



第405図 第217号住居跡出土遺物

第217号住居跡出土遺物観察表 (第405図)

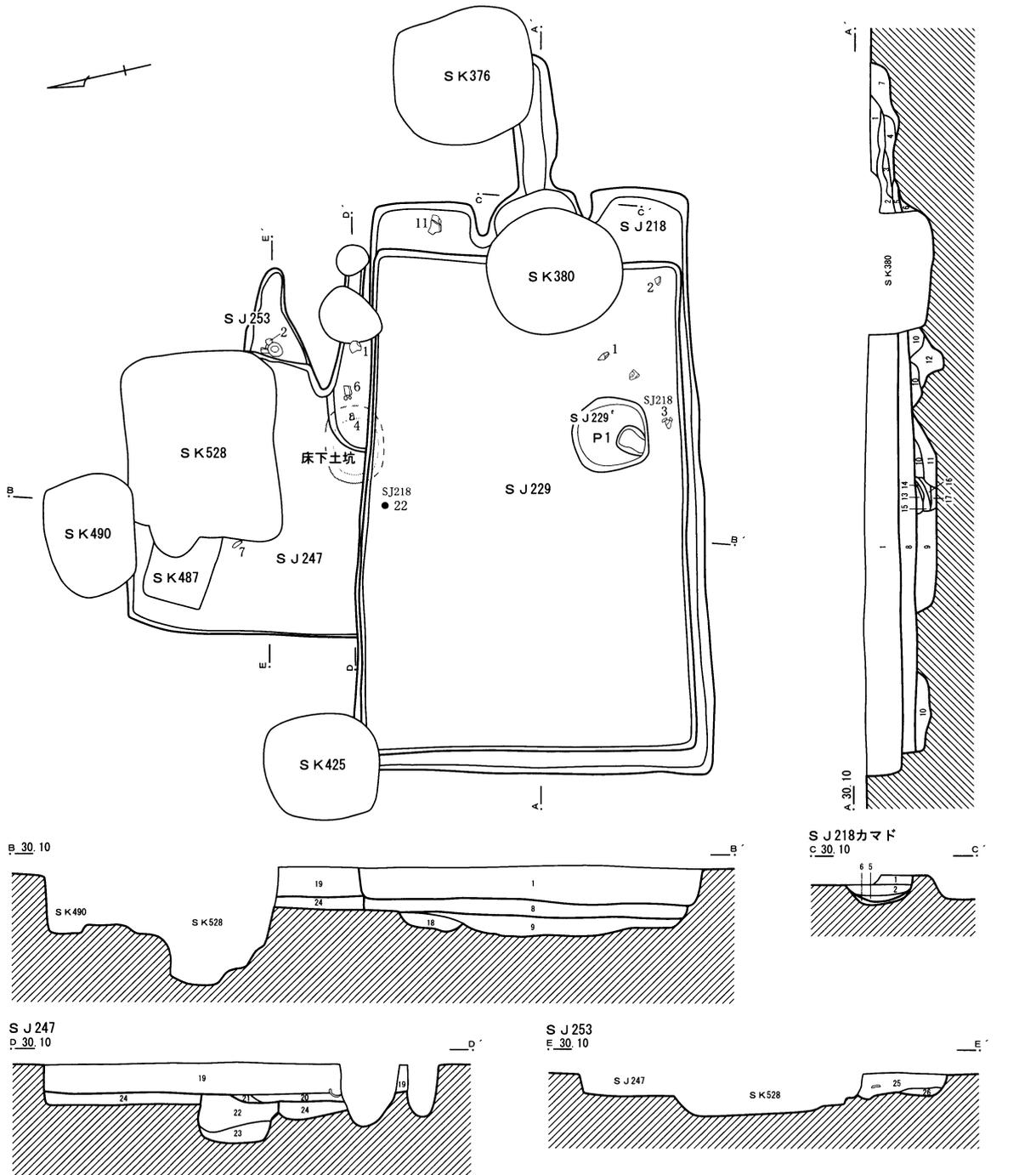
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			5.6	A C J	良好	灰	50	覆土	底部回転糸切り
2	須恵坏			(7.8)	A J	良好	褐灰	25	覆土	底部へう記号「×」
3	須恵高台埴			7.0	A J K	良好	灰黄褐	60	覆土	底部回転糸切り
4	灰釉高台埴			(8.0)	A J	良好	灰白	20	覆土	高台内糸切り 施釉なし 東濃産

形を呈する。主軸方位は、N-104°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。確認できた燃焼部は、34cm×83cmで床面と同じ高さである。煙道部は、長さ106cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台付埴・甕・羽釜、灰釉陶器高台付埴・高台付皿、砥石、土錘、古銭と鉄製品

が出土した。23は鉄製刀子である。現存長5.2cmの関部を含む刃部片と、現存長4.4cmで茎先を欠く茎部に分かれる。同一個体と推定される。刃幅は0.9cm、刃関の浅い両関の刀子である。24は丸棒状の鉄製品である。先端部を有し、現存長は6.0cmである。用途は不明であるが、紡錘車の軸部の可能性もある。



第218号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック・炭化物多量
- 2 暗灰色土 灰色土主体 焼土粒・炭化物少量
- 3 赤褐色土 焼土粒多量 (カマド天井崩落土)
- 4 暗褐色土 焼土粒多量 灰少量
- 5 黒褐色土 灰層 焼土粒・黄褐色土粒多量
- 6 暗褐色土 焼土粒・黄褐色土粒少量 (カマド掘り方)
- 7 暗褐色土 焼土ブロック多量 (煙突天井崩落土)

第229号住居跡

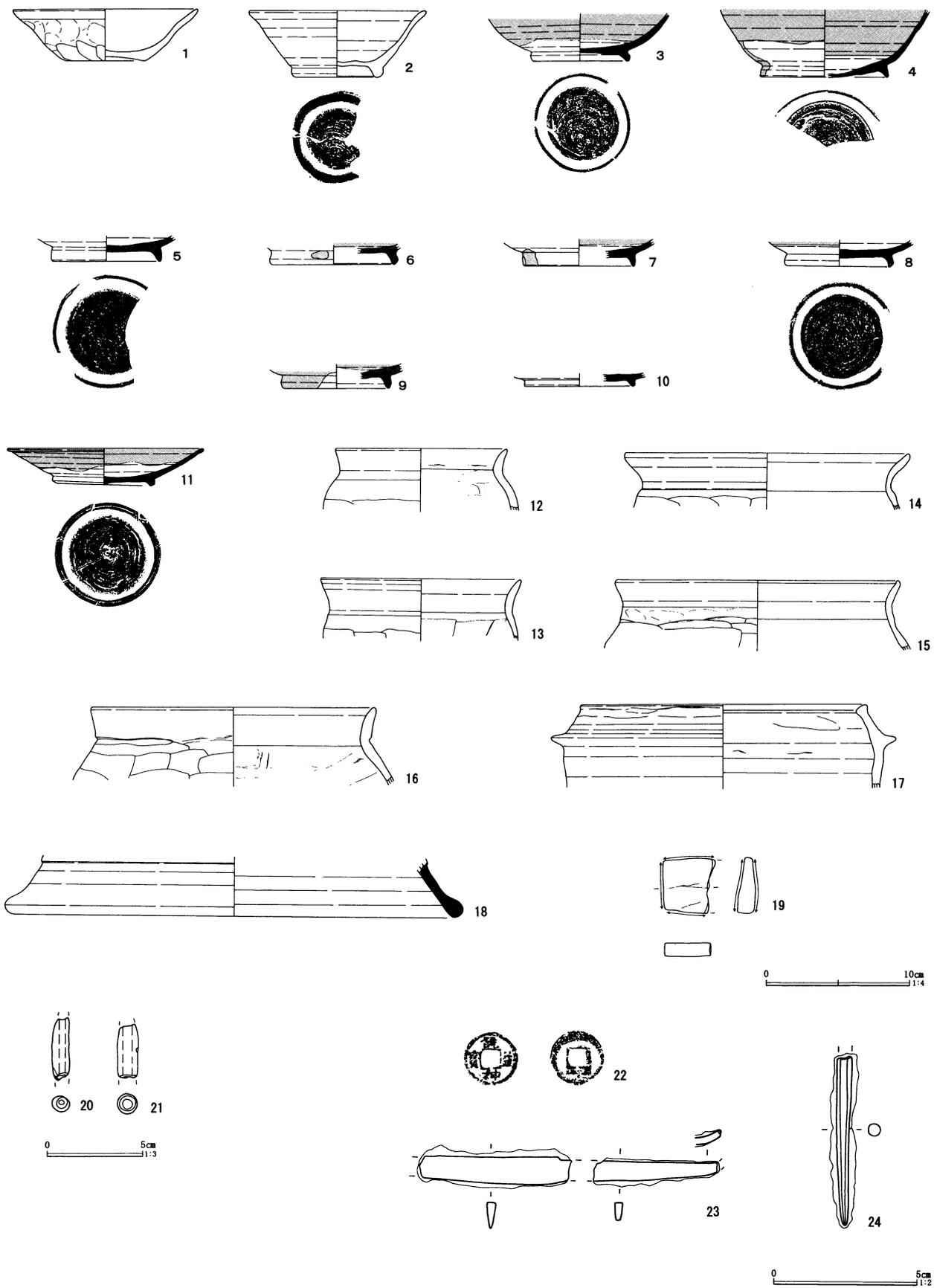
- 8 暗灰色土 焼土粒・黄褐色土粒多量
- 9 暗褐色土 焼土粒多量 黄褐色土粒少量
- 10 灰色土 焼土粒微量 褐色土粒多量 (掘り方)
- 11 褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック主体
- 12 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 黄褐色土ブロック多量 (掘り方)

- 14 黒色土
- 15 暗褐色土 黄褐色土多量
- 16 黒色灰土 灰層 焼土ブロック含む
- 17 暗褐色土 焼土粒・黄褐色土粒多量
- 18 暗灰色土 黄褐色土ブロック多量

第247号住居跡

- 19 暗褐色土 焼土粒・炭化物・黄褐色土粒多量
- 20 黒色灰土 灰層 焼土ブロック多量 炭化物少量
- 21 灰色土 粘土層 (カマド貼付粘土)
- 22 黒褐色土 焼土粒・灰・黄褐色土ブロック多量 (S J 247床下土坑)
- 23 褐色土 黄褐色土主体 (S J 247床下土坑)
- 24 灰褐色土 白色粒・黄褐色土粒多量 焼土粒少量 (S J 247貼り床)
- 25 暗褐色土 黄褐色土粒多量 (S J 253カマド)

第406図 第218・229・247・253号住居跡



第 407 图 第 218 号住居跡出土遺物

第218号住居跡出土遺物観察表 (第407図)

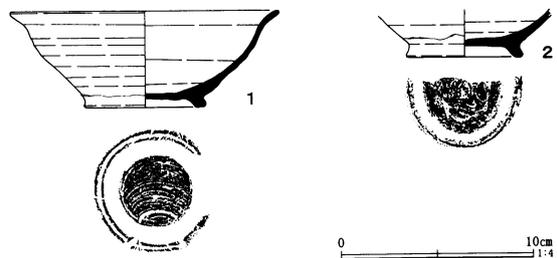
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	3.6	5.5	A F J	普通	浅黄橙	30	覆土	
2	土師高台埴	(12.4)	4.7	6.4	A F J K	普通	にぶい黄橙	40	覆土	ロクロ土師器
3	灰釉高台埴			6.7	A K	良好	灰黄	70	覆土	高台内糸切り 施釉ツケガケ 東遠江産
4	灰釉高台埴			(9.0)	A	良好	灰	20	覆土	高台内へら削り 施釉ツケガケ 内面重ね 焼き痕 浜北産
5	灰釉高台埴			7.7	A	良好	灰白	60	覆土	高台内へら削り 釉なし 東濃産
6	灰釉高台埴			(8.4)	A	良好	灰黄	10	覆土	高台内へら削り 施釉 東遠江産
7	灰釉高台埴			(7.7)	A	良好	灰黄	10	覆土	高台内へら削り 施釉 浜北産
8	灰釉高台埴			7.2	A G	良好	灰白	90	覆土	高台内へら削り 施釉 浜北産
9	灰釉高台埴			(7.3)	A	良好	灰白	20	覆土	高台内へら削り 内外面ハケヌリ 東濃産
10	灰釉高台皿			(7.7)	A	良好	灰白	15	覆土	高台内糸きり 施釉なし 東濃産
11	灰釉高台皿	(13.7)	2.7	7.2	A	良好	灰黄	60	覆土	高台内へら削り 施釉ツケガケ 東遠江産
12	土師甕	(12.0)			A B F J	普通	にぶい橙	25	覆土	
13	土師甕	(14.0)			A B F J	普通	にぶい黄橙	20	覆土	
14	土師甕	(20.0)			A B F J	普通	浅黄橙	15	覆土	
15	土師甕	(20.0)			A J	普通	灰黄褐	10	覆土	
16	土師甕	(20.0)			A B C J	普通	にぶい褐	15	覆土	
17	土師羽釜	(20.0)			A B F J	普通	にぶい黄橙	10	覆土	
18	須恵高台部			(32.0)	A J	良好	灰	5	覆土	
19	砥石	長さ3.9 幅(3.7) 厚さ1.1				—	—	—	覆土	
20	土錘	長さ(3.3) 径0.9 孔径0.3				普通	灰黄	80	覆土	
21	土錘	長さ(2.95) 径1.1 孔径0.5				普通	橙	60	覆土	
22	古銭	径1.9 孔0.65×0.60 厚さ0.1				—	—		覆土	「饒益神寶」(にょうえきしんぼう) 清和天皇貞観元年(859年)発行

第229号住居跡 (第406・408図)

J-16グリッドに位置する。第218・247・252号住居跡・第380・425号土坑と重複し、2基の土坑に壁の一部と第218号住居跡に上部が切られ、第247・252号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西4.60m、南北2.96m、深さ47cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-104°-Eを指す。

ピットが南壁寄りで確認され、径70cm×65cmの円形で、深さ15cm、南端で28cmを測る。

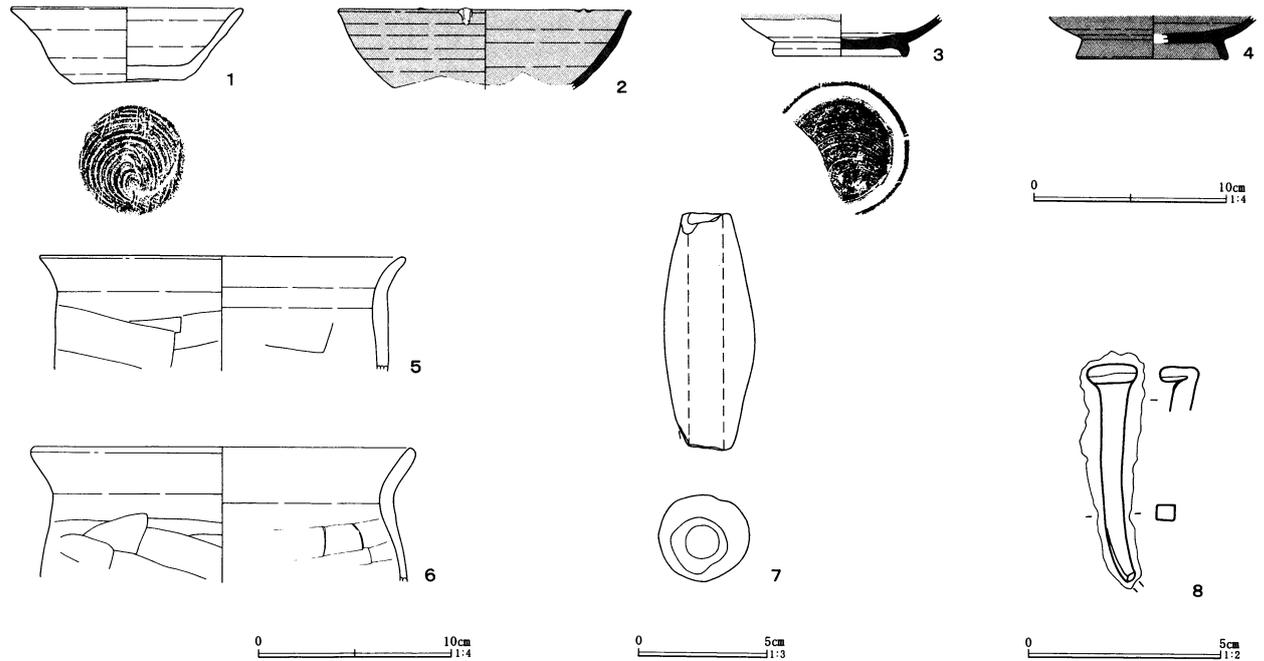
カマド等の施設は、確認できなかった。遺物は、須恵器高台付埴が出土した。



第408図 第229号住居跡出土遺物

第229号住居跡出土遺物観察表 (第408図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台埴	(14.0)	5.0	6.4	A C J K	普通	褐灰	60	覆土	
2	須恵高台埴			6.1	A J K	良好	灰	50	覆土	



第409図 第247号住居跡出土遺物

第247号住居跡出土遺物観察表 (第409図)

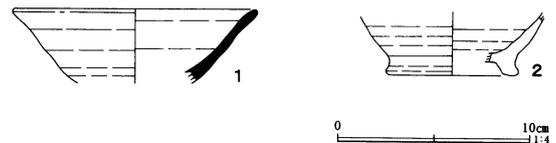
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.1	4.0	5.9	A B F J	普通	橙	90	カマド	ロクロ土師器
2	灰釉碗	(14.9)			A	良好	灰白	20	覆土	輪花碗 施釉ツケガケ 東濃産
3	灰釉高台碗			6.8	G	良好	灰白	50	覆土	高台内糸切り 施釉ツケガケ 内面重ね焼き痕 東濃産
4	緑釉高台碗			(7.8)	G	良好	暗緑	25	カマド	
5	土師甕	(18.8)			A J	良好	浅黄	20	覆土	
6	土師甕	(19.6)			A B J	良好	橙	25	カマド	
7	土錘	長さ9.2	径3.5	孔径1.35		普通	灰白	90	床直	

第247号住居跡 (第406・409図)

J-16グリッドに位置する。第218・229・253号住居跡・第487・490・528号土坑・ピットと重複し、土坑・住居跡のいずれの遺構にも切られている。規模は、主軸長東西2.52m、確認できた南北2.06m、深さ28cm程を測る。主軸方位は、N-103°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。ピットに切ら

れ、更に北半しか確認できないが燃焼部は、102cm深さ7cm程残存していた。煙道部は、ピットに切れ不明である。



第410図 第253号住居跡出土遺物

第253号住居跡出土遺物観察表 (第410図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.4)			A B C	普通	灰黄	20	カマド	
2	土師高台碗		6.3	(7.0)	B C F J	普通	橙	40	カマド	ロクロ土師器

遺物は、土師器坏・甕、灰釉陶器碗・高台付碗、緑釉陶器高台付碗、土錘と鉄製品が出土した。8は鉄製釘である。脚部を欠き、現存長は5.7cmである。基部先端を叩いて頭部を作り、折り曲げている。

第253号住居跡 (第406・410図)

J-16グリッドに位置する。第253号住居跡に切れ、カマドのみの検出である。主軸方位は、N-105°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。確認できた燃焼部は、82cm×58cmが残存していた。

遺物は、須恵器坏、土師器高台付碗が出土した。

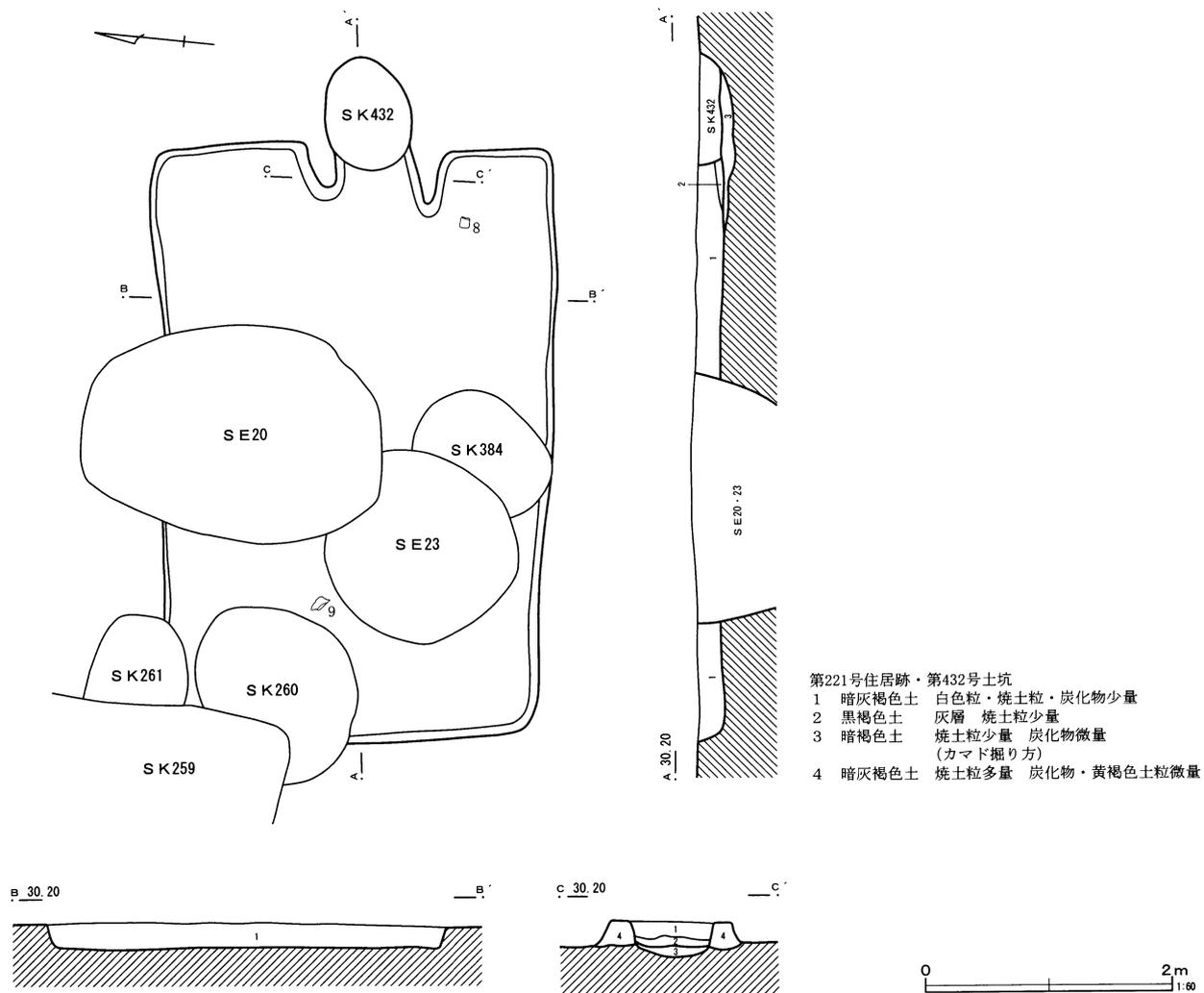
第221号住居跡 (第411・412図)

K-15グリッドに位置する。第259・260・261・384・432号土坑・第20・23号井戸跡と重複し、土坑・

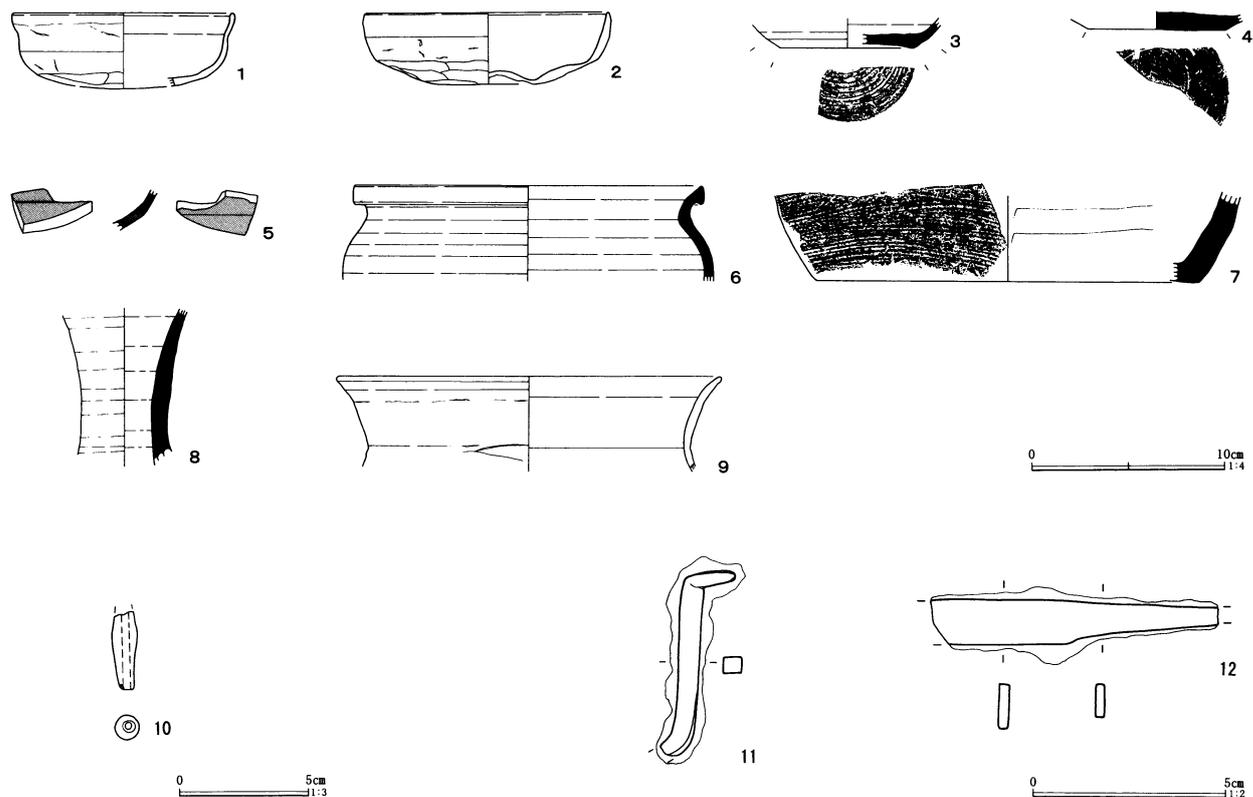
井戸跡すべてに切られている。規模は、主軸長東西4.78m、南北3.20m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-84°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられ、ほぼ第432号土坑に壊されている。確認できた燃焼部は、35cm×67cmが残存していた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器碗・甕、緑釉陶器、土錘と鉄製品が出土した。11は鉄製釘である。脚部を欠き、現存長は5.0cmである。基部の端を叩いて頭部としている。12は延板状の鉄製品である。現存長7.5cm。一見刀子に見えるが、刃はなく用途は不明である。



第411図 第221号住居跡



第 412 図 第 221 号住居跡出土遺物

第 221 号住居跡出土遺物観察表 (第 412 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.6)	3.8		A D J	普通	橙	20	カマド	
2	土師坏	(12.6)	3.8		A B C J	普通	にぶい橙	40	覆土	やや歪みあり
3	須恵埴			(7.0)	A B	良好	黄灰	25	覆土	底部回転糸切り
4	須恵埴			(7.0)	B H	良好	灰白	35	覆土	底部回転ヘラ削り
5	緑釉陶器						—	破片	カマド	
6	須恵甕	(18.0)			A J K	良好	灰	10	覆土	
7	須恵甕			(20.0)	J	良好	灰	20	覆土	
8	須恵長頸瓶				H J	良好	灰	100	床直	
9	土師甕	(20.0)			A B F J	普通	橙	10	覆土	
10	土錘	長さ(3.0)	径0.95	孔径0.3		普通	にぶい黄橙	90	覆土	

第 223 号住居跡 (第 413・414 図)

L-17 グリッドに位置する。第 225 号住居跡・第 60 号溝と重複し、西半部が溝に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長の確認できた東西 2.42 m、南北 3.66 m、深さ 10cm 程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-108°-E を指す。

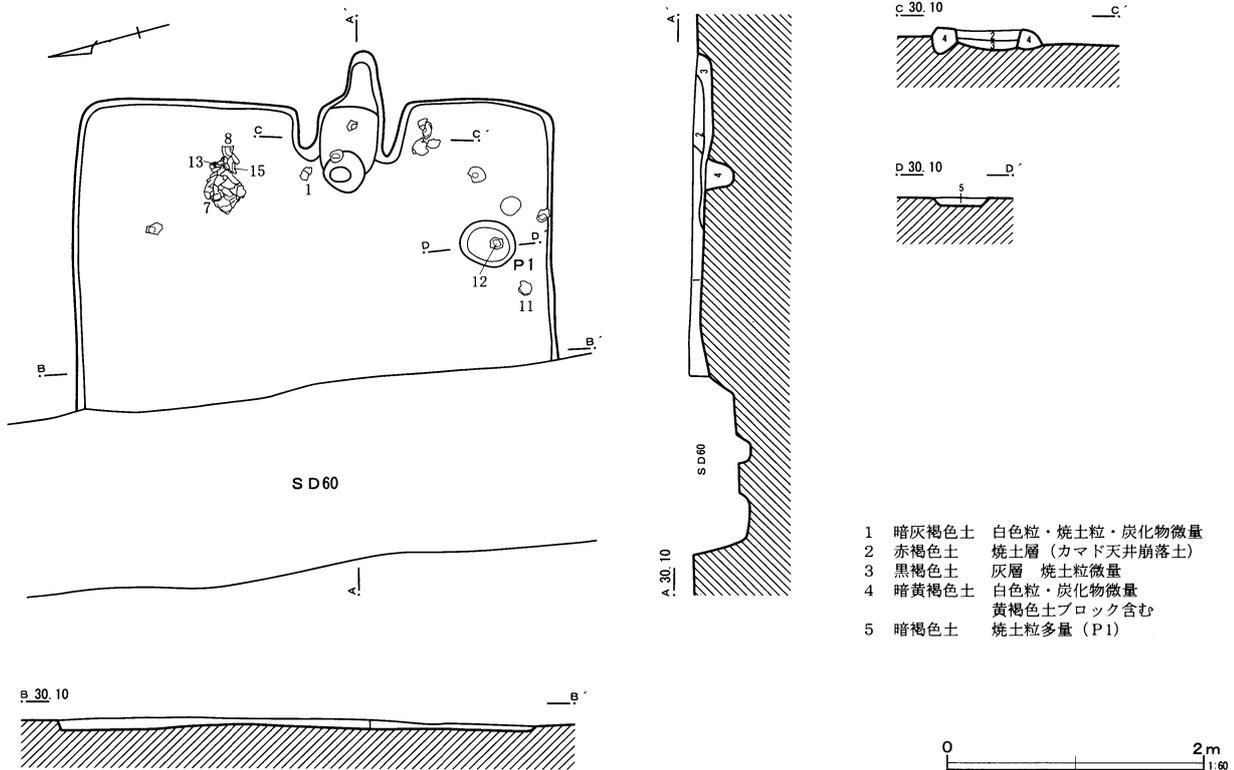
南壁寄りにピット 1 基が検出され、径 45cm × 37cm、深さ 7 cm 程を測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、50cm × 52cm で、深さは床面と同じ高さである。煙道部は、長さ 43cm が確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器高台付埴皿、土錘と鉄製品が出土した。14 は厚さ約 0.1cm の

鉄板が二つ折りになったものである。現存長は4.2cm、幅は1.3～1.6cmである。15は延板状の鉄製品である。一方の端部は細くなり、反対側はカーブしている。

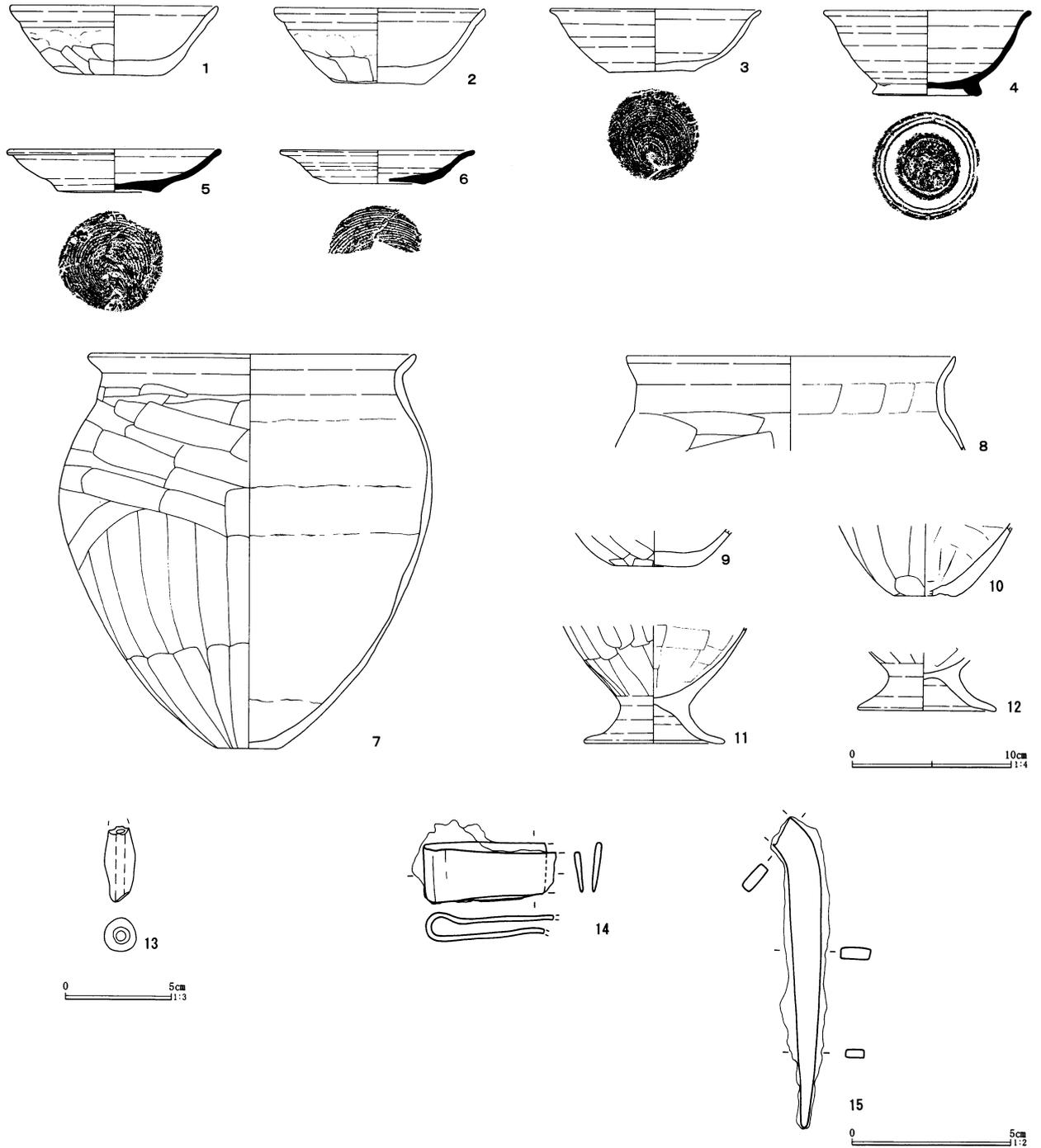
る。現存長は9.8cmである。1・2ともに用途は不明である。



第413図 第223号住居跡

第223号住居跡出土遺物観察表 (第414図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(13.0)	4.4	6.4	A B F J K	普通	橙	70	覆土	体部内面ロクロ痕
2	土師環	13.4	4.8	5.8	A B F J	普通	褐	60	覆土	
3	土師環	(13.2)	4.0	5.5	A B F J	普通	橙	60	覆土	ロクロ土師器 底部回転糸切り
4	須恵高台埴	(13.0)	5.4	6.9	A F J K	良好	灰	40	覆土	歪み大きい
5	須恵皿	13.5	2.8	6.5	A J K	良好	灰褐	100	覆土	歪み大きい
6	須恵皿	(12.2)	2.1	(6.0)	A J K	良好	灰	15	カマド	底部回転糸切り
7	土師甕	20.6	25.0	(4.0)	A B F G J	普通	にぶい赤褐	90	床直	
8	土師甕	(20.6)			A B F K	普通	灰黄褐	20	床直	
9	土師甕			(5.0)	A F J	普通	にぶい橙	40	覆土	底部外面一方向ヘラ削り
10	土師甕			(4.2)	A B F J	普通	黒褐	30	覆土	
11	土師台付甕			(8.7)	A B F	良好	にぶい黄橙	60	床直	
12	土師台付甕			(8.6)	A B D J	普通	褐灰	70	床直	
13	土錘	長さ(3.15)		径1.45	孔径0.4～0.45		黒褐	70	床直	



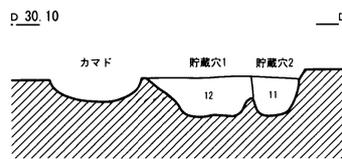
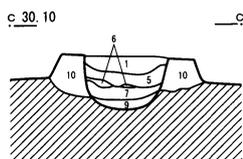
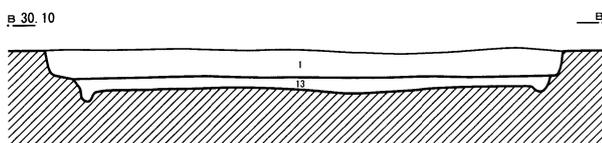
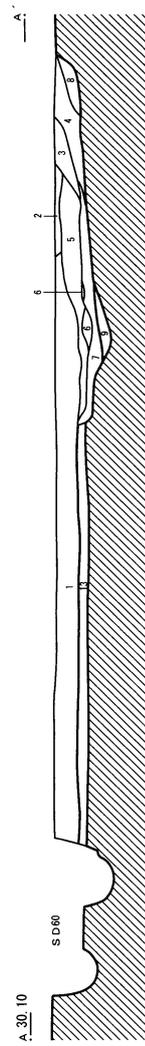
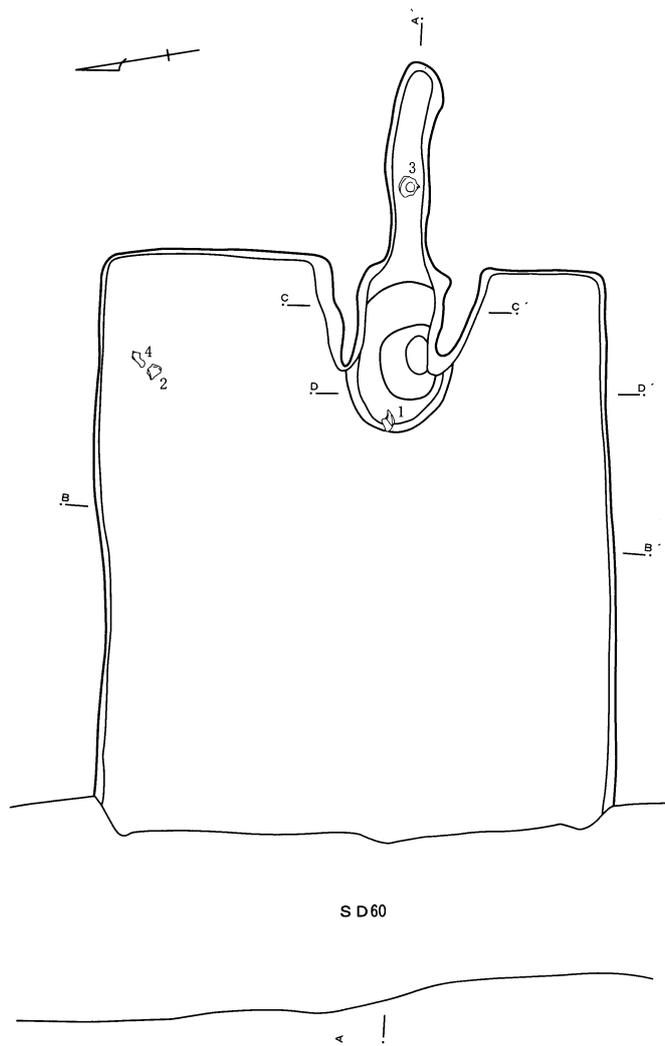
第414図 第223号住居跡出土遺物

第224号住居跡 (第415・416図)

L・M-17グリッドに位置する。第244号住居跡と重複している。西壁は、第60号溝に壊されている。規模は、主軸長東西(4.00)m、南北4.04m、深さ18cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-104°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、160cmが残存していた。煙道部は、長さ98cmが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器高台壺・瓶底部、灰釉陶器高台付壺が出土した。

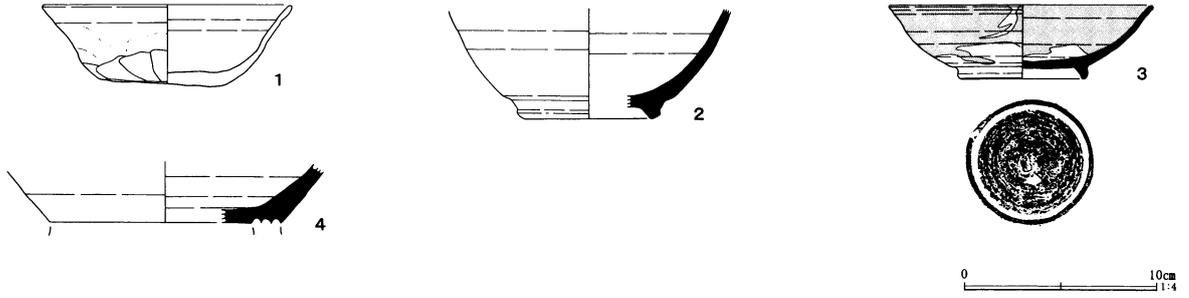


第224・244号住居跡

- | | | |
|----|-------|-------------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 白色粒多量 焼土粒・炭化物微量 |
| 2 | 赤褐色土 | 焼土層 (カマド天井残欠) |
| 3 | 暗褐色土 | 焼土ブロック多量 (カマド天井崩落土) |
| 4 | 暗灰褐色土 | 焼土ブロック多量 (煙道からの流入土) |
| 5 | 暗褐色土 | 焼土粒多量 炭化物微量 |
| 6 | 暗褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック多量 炭化物少量 (カマド天井崩落土) |
| 7 | 黒色土 | 灰層 焼土粒多量 炭化物少量 |
| 8 | 暗赤褐色土 | 焼土層 灰混入(煙突崩落土) |
| 9 | 暗灰褐色土 | 焼土粒少量 (カマド掘り方) |
| 10 | 暗灰褐色土 | 白色粒微量 焼土粒部分的に混入 黄褐色土粒ランダムに含む |
| 11 | 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 (貯蔵穴2) |
| 12 | 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 (貯蔵穴1) |
| 13 | 暗灰褐色土 | 焼土粒多量 炭化物微量 (S J 244) |



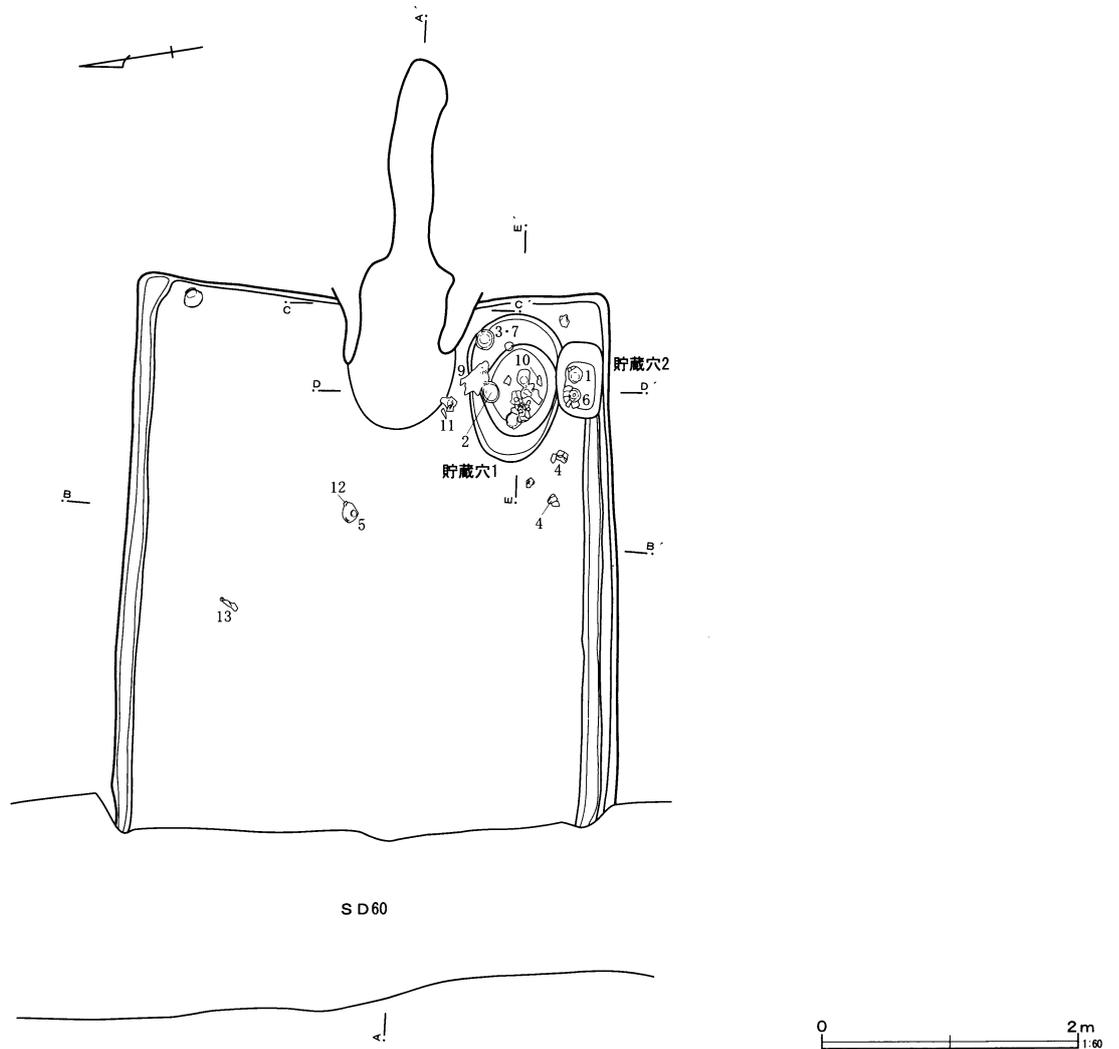
第415図 第224号住居跡



第416図 第224号住居跡出土遺物

第224号住居跡出土遺物観察表 (第416図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	13.0	4.3	6.7	A B F J	普通	橙	80	カマド	
2	須恵高台碗			(6.5)	B F G	普通	にぶい褐	30	床直	内面黒色
3	灰釉高台碗	13.8	3.9	6.6	A J	良好	灰白	70	覆土	高台内へラ削り 施釉内外面ハケヌリ一筆 内面に重ね焼き痕 二川産
4	須恵甕				A G	良好	黄褐	20	覆土	高台部剥離 外面自然釉



第417図 第224号住居跡

第244号住居跡 (第417・418図)

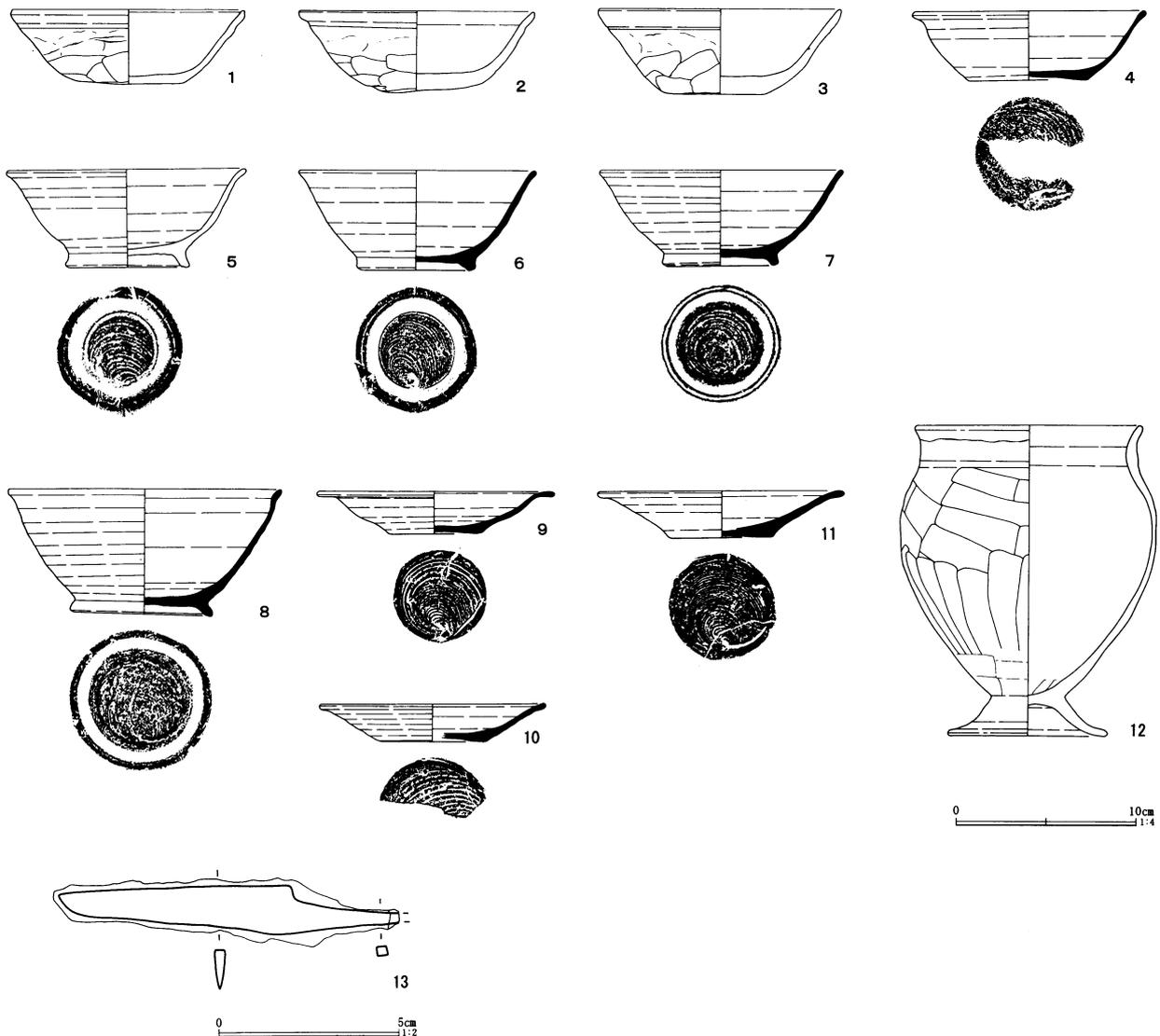
M-17グリッドに位置する。第224号住居跡・第60号溝と重複し、住居跡に上部が切られ、西壁は第60号溝に切られている。規模は、確認できた主軸長東西3.83m、南北4.00m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-102°-Eを指す。

貯蔵穴1は、南東隅に設けられており、104cm×68cmの楕円形で、深さ33cmを測る。

貯蔵穴2は、南東隅に設けられており、53cm×36cmの楕円形で、深さ33cmを測る。

カマドは、第224号住居跡に切られ、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・高台付碗・台付甕、須恵器坏・高台付碗・皿と鉄製品が出土した。13は鉄製刀子である。現存長9.4cm、刃長6.4cm、刃幅0.8～1.4cmである。背関は深く、刃関は不明瞭である。茎部は細く角棒状になる。



第418図 第244号住居跡出土遺物

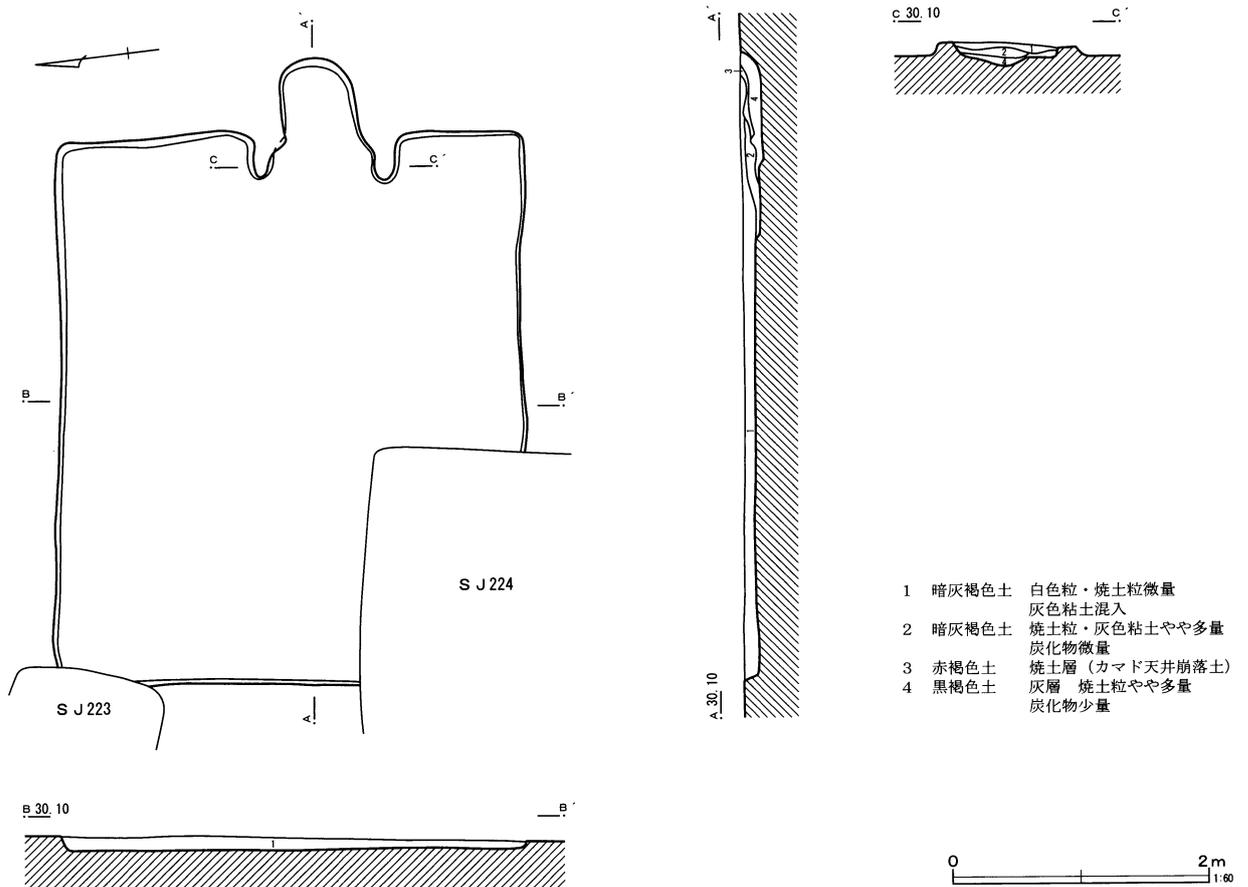
第 244 号住居跡出土遺物観察表 (第 418 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	4.2	6.0	A B F J	普通	にぶい赤褐	60	貯蔵穴 2	底部一方向へう割り 磨耗著しい 底部回転糸切り 磨耗著しい やや歪みあり 底部回転糸切り 底部回転糸切り 底部右回転糸切り
2	土師坏	13.2	4.6	5.9	A B F J	普通	にぶい橙	100	貯蔵穴 1	
3	土師坏	13.6	4.8	5.8	A B F J	普通	にぶい橙	100	貯蔵穴 1	
4	須恵坏	12.9	3.9	6.5	F J	普通	にぶい黄橙	90	床直	
5	土師高台碗	13.3	5.5	6.8	A F J K	普通	橙	100	床直	
6	須恵高台碗	(13.2)	5.6	6.6	A C J K	良好	灰	70	貯蔵穴 2	
7	須恵高台碗	13.6	5.4	6.5	A F J K	普通	褐灰	100	貯蔵穴 1	
8	須恵高台碗	15.2	7.1	8.0	A J K	良好	灰	85	床直	
9	須恵皿	(13.4)	2.4	5.0	A J K	良好	灰	60	貯蔵穴 1	
10	須恵皿	(12.6)	2.1	(6.2)	A C J K	良好	灰	40	貯蔵穴 1	
11	須恵皿	(13.6)	2.6	5.8	A F J K	良好	黄灰	60	床直	
12	土師台付甕	12.5	17.5	8.8	A C F J	普通	にぶい黄褐	80	床直	

第 225 号住居跡 (第 419・420 図)

L・M-17 グリッドに位置する。第 223・224 号住居跡と重複し、両住居跡に切られている。規模は、

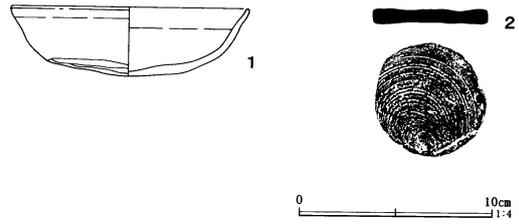
主軸長東西 4.33 m、南北 3.65 m、深さ 11cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-96°-E を指す。



第 419 図 第 225 号住居跡

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、148cm × 58cm、深さ 10cm 程を測る。

遺物は、土師器坏、須恵器底部転用の円板が出土した。



第 420 図 第 225 号住居跡出土遺物

第 225 号住居跡出土遺物観察表 (第 420 図)

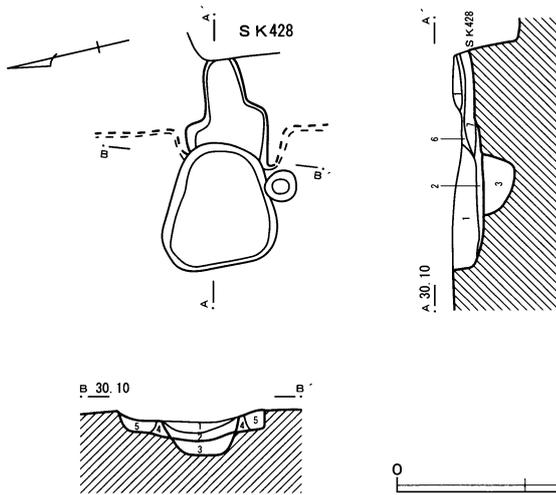
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師器坏	(12.2)	3.6		A B C G	普通	にぶい橙	60	覆土	
2	須恵円板			5.9	A B G	普通	灰	100	覆土	外縁部平滑

第 226 号住居跡 (第 421・422 図)

I-16 グリッドに位置する。カマドのみの検出である。カマドの先端部分は、第 428 号土坑に切られている。

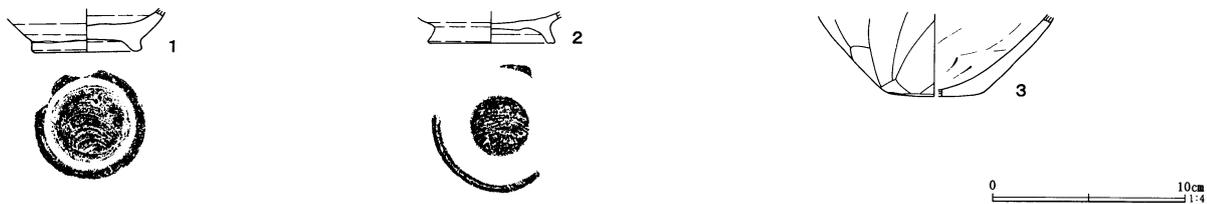
カマドの燃焼部は、98cm × 88cm、深さ 23cm を測り、煙道部は 63cm が確認された。

遺物は、土師器高台付碗・甕が出土した。



- 1 暗褐色土 焼土粒少量 黄褐色土粒多量
- 2 黒色土 灰層 焼土粒少量
- 3 暗褐色土 黄褐色土粒少量 (カマド掘り方)
- 4 暗黄褐色土 (カマド掘り方)
- 5 暗褐色土 黄褐色土粒多量 (カマド掘り方)
- 6 暗褐色土 焼土ブロック主体 (カマド天井崩落土)
- 7 暗灰褐色土 焼土粒・黄褐色土粒多量

第 421 図 第 226 号住居跡



第 422 図 第 226 号住居跡出土遺物

第 226 号住居跡出土遺物観察表 (第 422 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師高台椀			5.7	A B F J	普通	にぶい黄橙	100	覆土	ロクロ土師器
2	土師高台椀			6.6	A F J K	普通	橙	80	覆土	ロクロ土師器
3	土師甕			(5.0)	A B C F J	普通	にぶい褐	15	覆土	

第 227 号住居跡 (第 423・424 図)

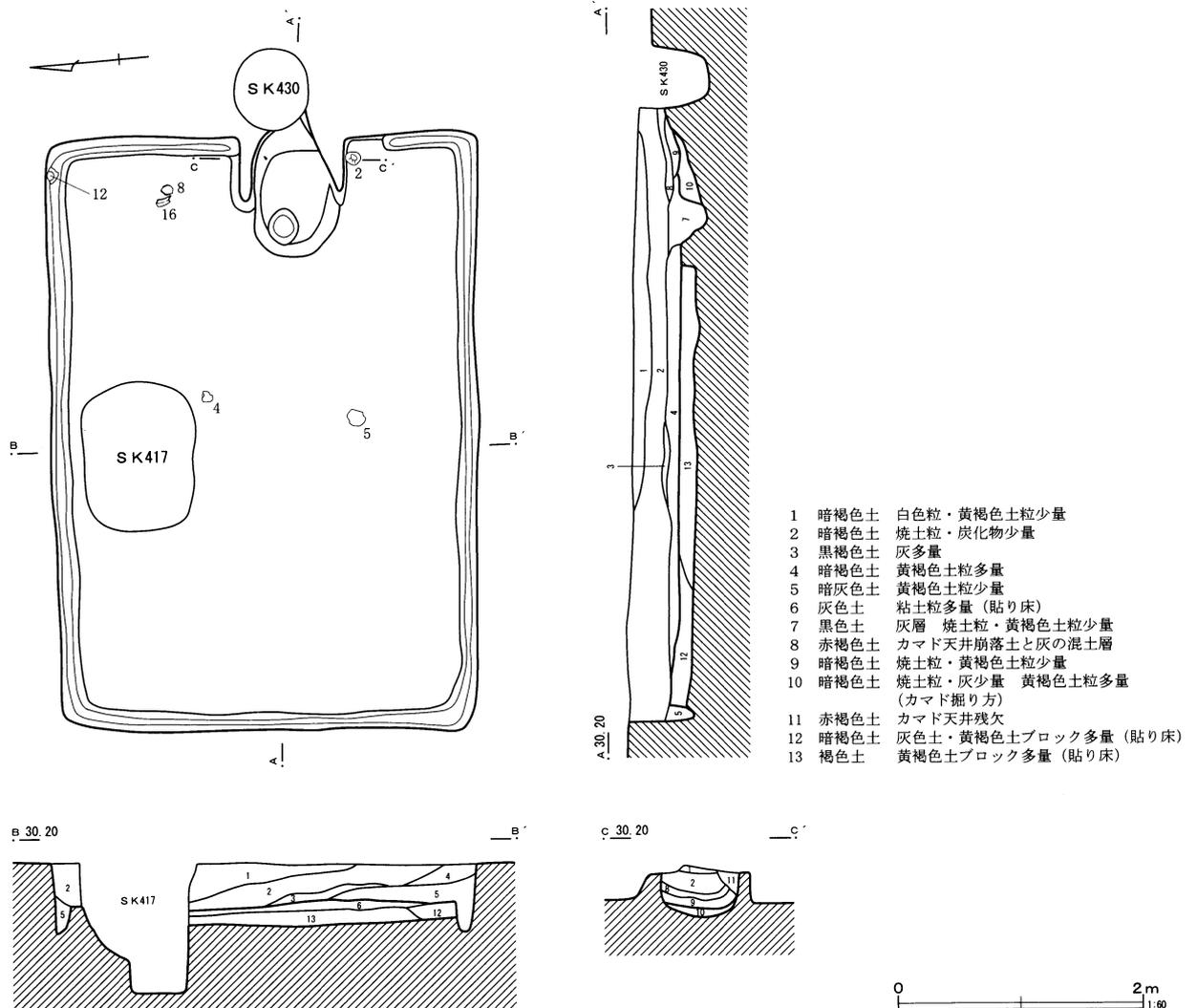
J-15・16 グリッドに位置する。第 417・430 号土坑と重複し、いずれにも切られている。規模は、主軸長東西 4.90 m、南北 3.45 m、深さ 38cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-94°-E を指す。

壁溝はカマド部分を除き全周し、幅 13~20cm、

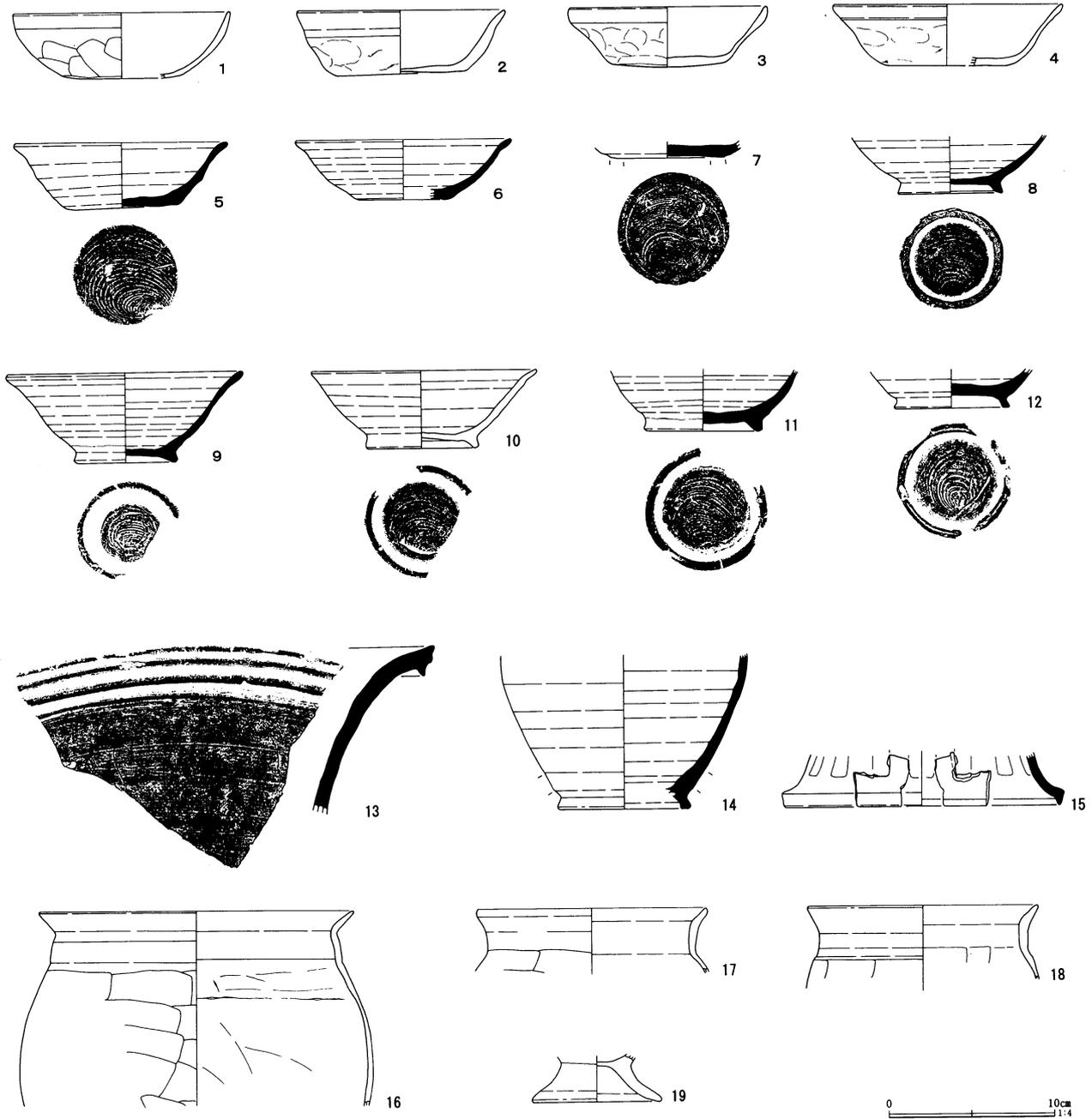
深さ 10~26cm を測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられ、カマド先端部分は、第 430 号土坑に切られている。燃焼部は、110cm×68cm で床面と同じ高さである。煙道部は土坑に切られ、不明である。

遺物は、土師器坏・高台付壺・甕・台付甕、須恵器坏・高台付壺・甕・円面硯が出土した。



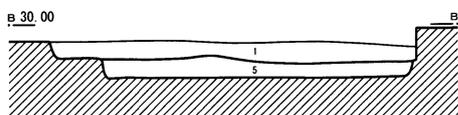
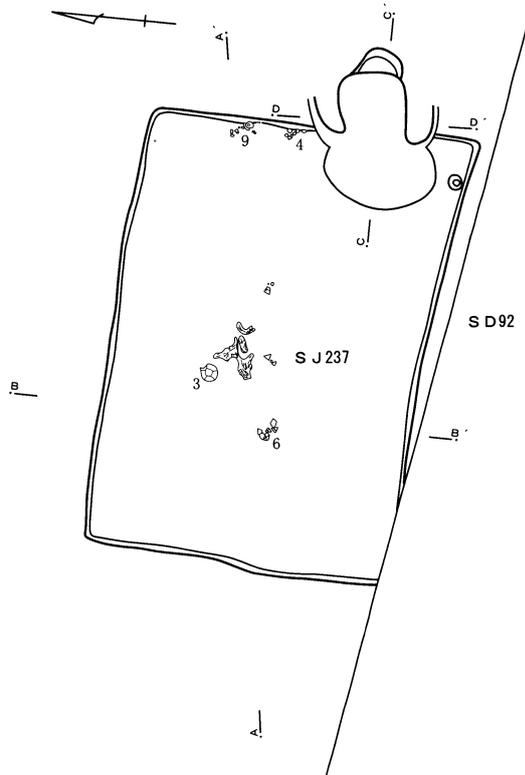
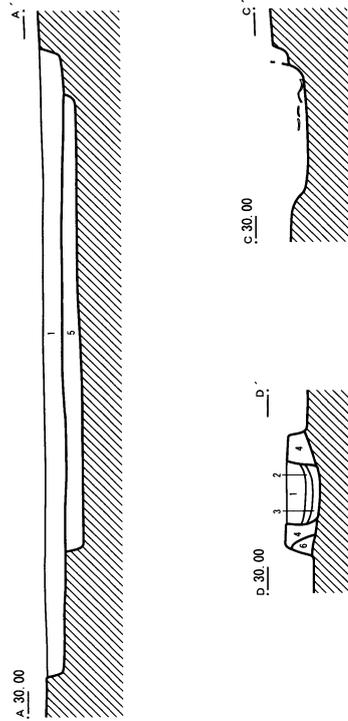
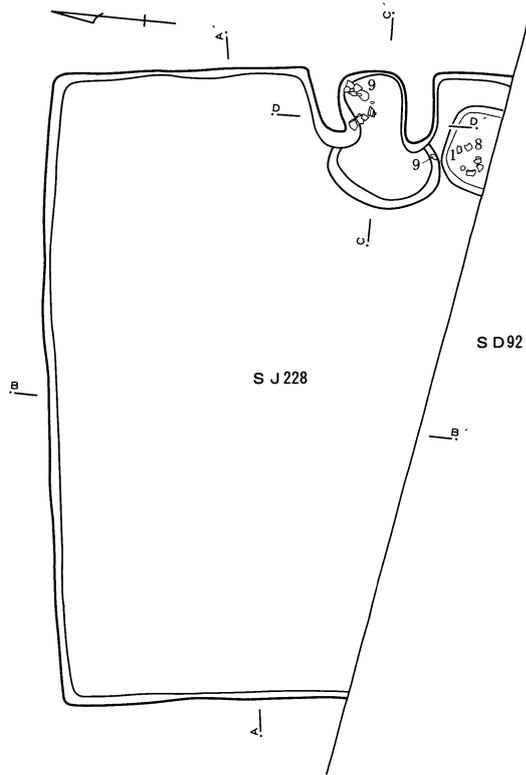
第 423 図 第 227 号住居跡



第424図 第227号住居跡出土遺物

第227号住居跡出土遺物観察表 (第424図)

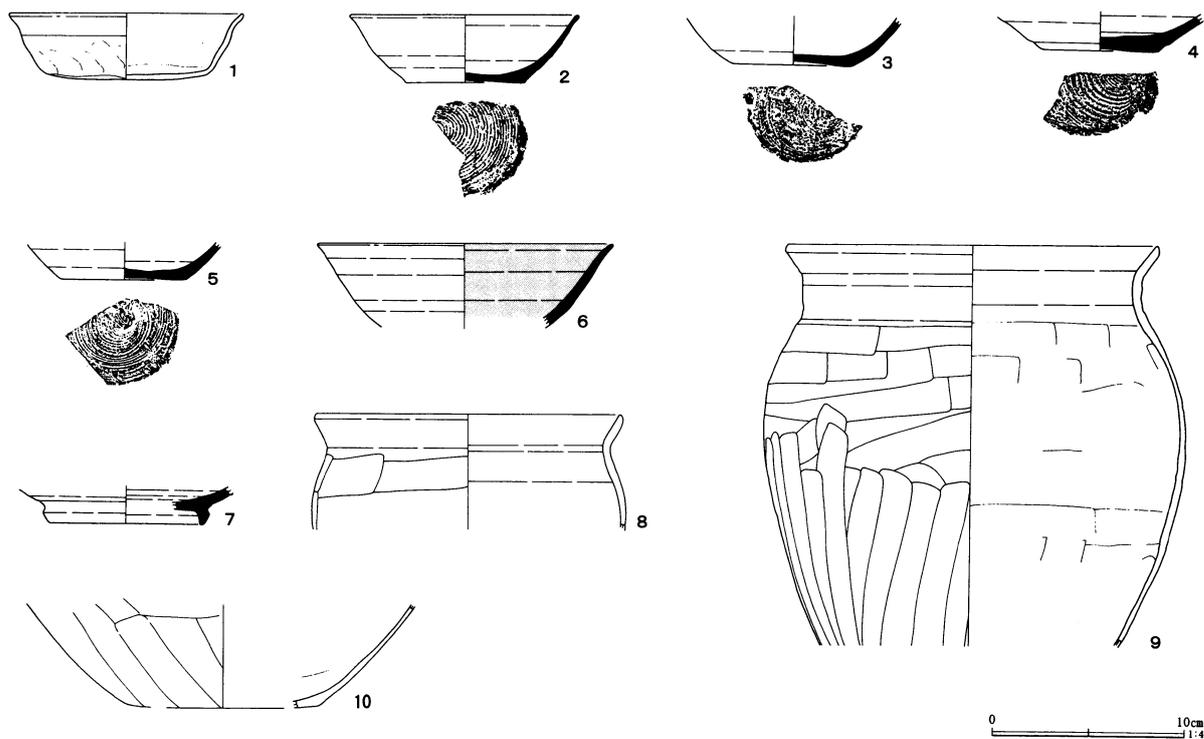
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.2)	4.0	(7.4)	ABFJ	普通	浅黄橙	40	覆土	
2	土師坏	12.7	4.0	7.8	ABFJ	不良	にぶい褐	100	覆土	
3	土師坏	(12.0)	3.7	7.0	ABCFJ	普通	橙	40	覆土	
4	土師坏	(14.0)	3.7	(7.2)	AFJ	普通	にぶい橙	30	覆土	
5	須恵坏	12.9	4.1	6.4	ABFJ	良好	にぶい褐	85	覆土	やや歪みあり
6	須恵坏	(13.0)	3.7	(5.8)	AJK	良好	灰	30	覆土	底部回転糸切り
7	須恵塊			6.9	AGHJ	良好	灰	95	覆土	
8	須恵高台塊			6.4	AJK	良好	灰	70	床直	



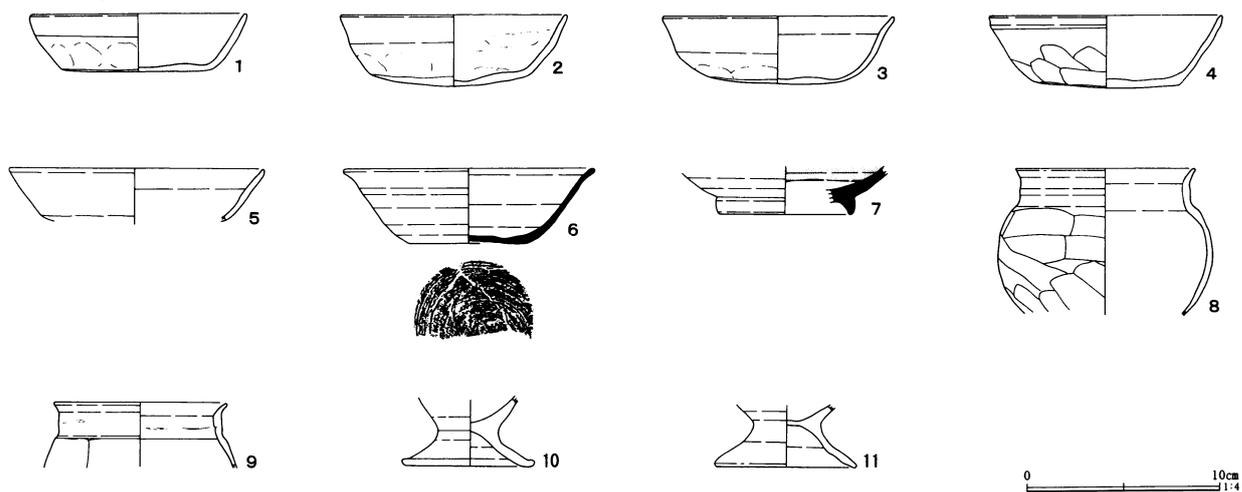
- 第228号住居跡
- 1 暗灰褐色土 白色粒少量 灰色粘土を含む
 - 2 暗赤褐色土 焼土粒多量 (カマド天井崩落土)
 - 3 黒褐色土 灰層 焼土粒少量
 - 4 暗黄褐色土 焼土粒少量 (カマドソデ構築土)
- 第237号住居跡
- 5 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物微量
 - 6 暗黄褐色土 黄褐色土主体 (カマドソデ構築土)



第 425 図 第 228・237 号住居跡



第426図 第228号住居跡出土遺物



第427図 第237号住居跡出土遺物

第237号住居跡出土遺物観察表 (第427図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.2	3.0	7.8	A B F J	普通	橙	95	覆土	
2	土師坏	11.8	3.7	8.2	A B J K	普通	にぶい赤褐	85	覆土	
3	土師坏	12.0	3.5	7.0	A B J K	普通	にぶい橙	90	床直	
4	土師坏	12.0	3.7	7.5	A B F J	普通	橙	80	床直	
5	土師坏	(13.1)			A G J	普通	にぶい橙	35	床直	

第 237 号住居跡出土遺物観察表 (第 427 図)

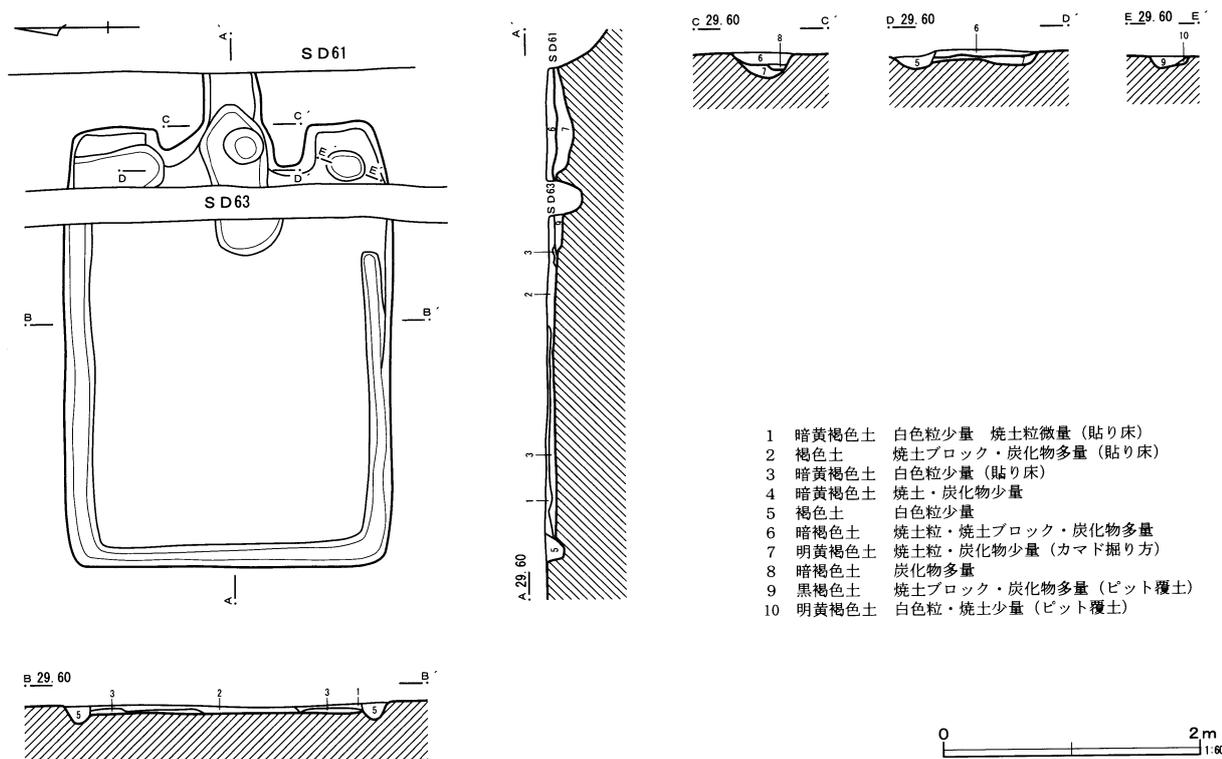
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
6	須恵坏	(13.0)	3.9	6.2	FJK	良好	にぶい黄橙	20	床直	高台内へラ削り 施釉ハケヌリ 二川産
7	灰釉高台埴			(6.8)	AG	普通	灰白	15	覆土	
8	土師甕	9.2			ABC	普通	にぶい赤褐	70	貯蔵穴	
9	土師甕	(9.0)			ACFJ	普通	にぶい赤褐	30	床直	
10	土師台付甕			(6.4)	AC	普通	にぶい赤褐	80	床直	
11	土師台付甕			(7.2)	ABF	普通	にぶい橙	70	貯蔵穴	

第 230 号住居跡 (第 428 図)

Q・R-25・26 グリッドに位置する。第 61・63 号溝と重複し、第 63 号溝が東壁寄りで南北に横断して切れ、カマド先端が第 61 号溝に切られる。規模は、主軸長東西 3.46 m、南北 2.54 m、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-90°-E を指す。

壁溝は東壁と南壁の一部を除き確認され、幅 14 ~ 22cm、深さ 5 ~ 7 cm を測る。南東隅には、ピットが確認され、32cm x 25cm の楕円形で、深さ 10cm を測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は一部が溝に切られているが、87cm x 57cm、深さ 20cm が残存していた。



第 428 図 第 230 号住居跡

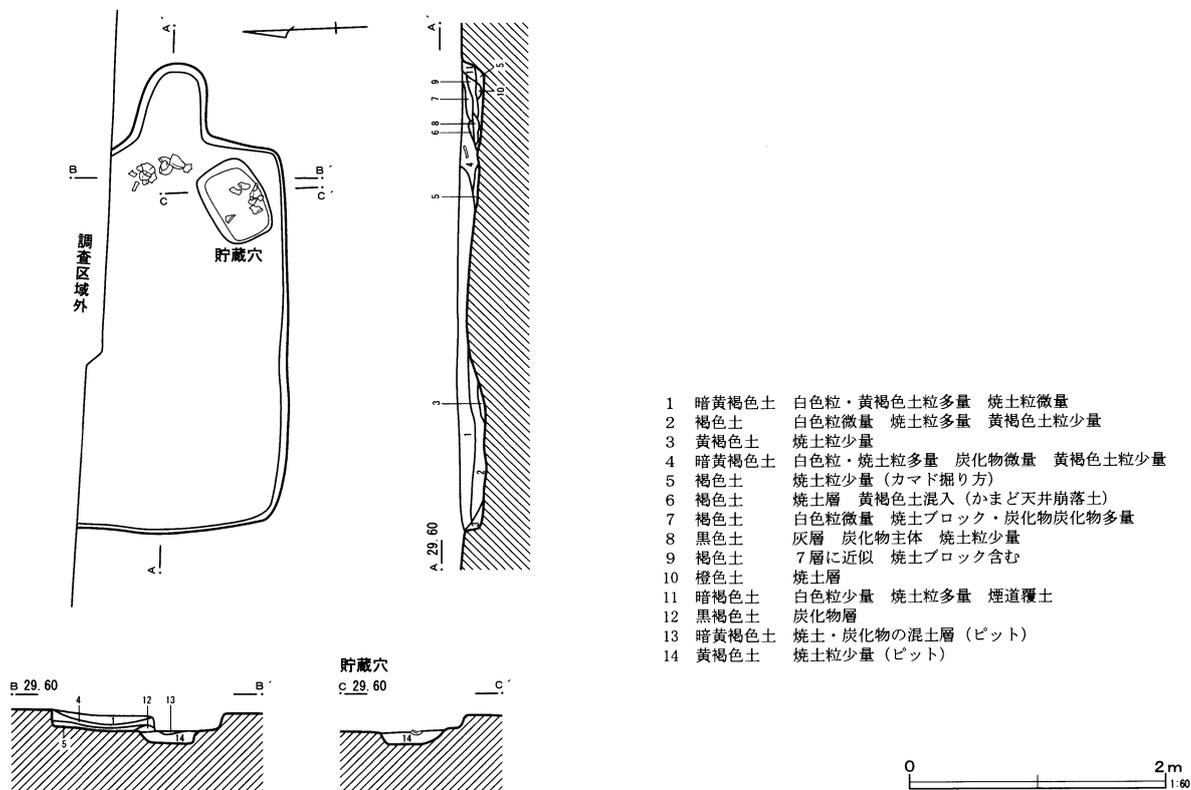
第231号住居跡 (第429・430図)

Q-25グリッドに位置する。北側は、調査区域外となっている。規模は、主軸長東西2.98m、西壁で南北1.58mが確認でき、深さ12cm程を測る。主軸方位は、N-92°-Eを指す。

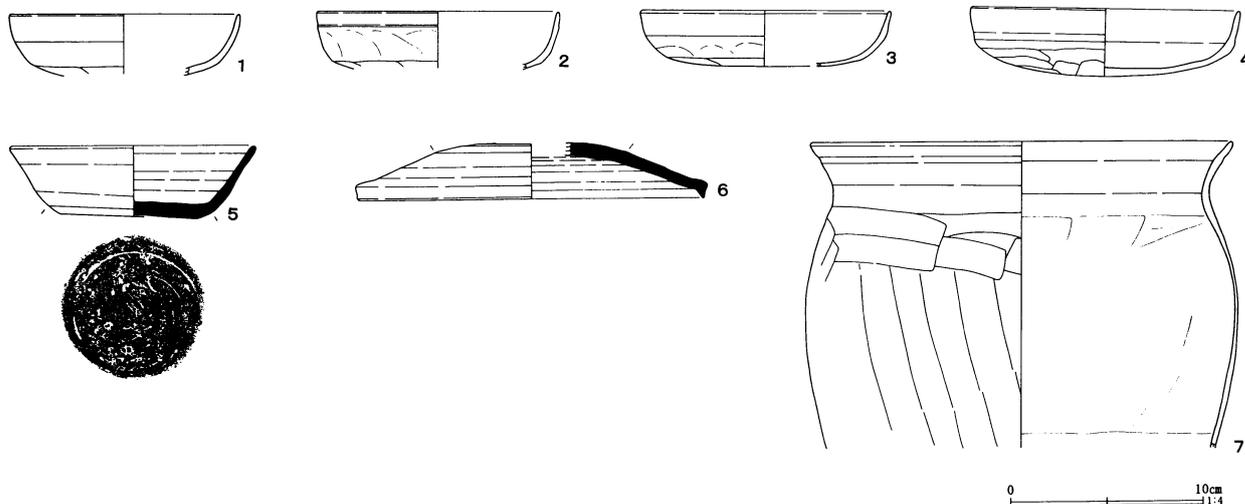
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、68cm×58cm、深さ6cmを測る。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、67cm×51cmの長方形で、深さ23cmを測る。

遺物は、土師器杯・甕、須恵器杯・蓋が出土した。



第429図 第231号住居跡



第430図 第231号住居跡出土遺物

第 231 号住居跡出土遺物観察表 (第 430 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.0)			A B J	普通	にぶい褐	10	カマド	
2	土師坏	(12.6)			A B J K	普通	橙	15	カマド	
3	土師坏	(13.0)			A B J	普通	にぶい橙	30	カマド	
4	土師坏	(14.0)			A B J	普通	にぶい褐	30	覆土	
5	須恵坏	12.8	3.8	7.2	A C F J K	普通	橙	90	カマド	酸化焰焼成 体部外面下端～底部ヘラ削り
6	須恵蓋	(18.0)			A F J K	普通	浅黄橙	50	覆土	天井部回転ヘラ削り
7	土師甕	(21.7)			A F G	普通	にぶい黄褐	25	カマド	

第 232 号住居跡 (第 431・432 図)

P-24 グリッドに位置する。北側は、調査区域外となっている。規模は、主軸長南壁で東西 4.03 m、南北 0.94 m が確認できたのみで、深さ 44cm 程を測る。主軸方位は南壁を基準とすると、N-85°-W を指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器鉢が出土した。

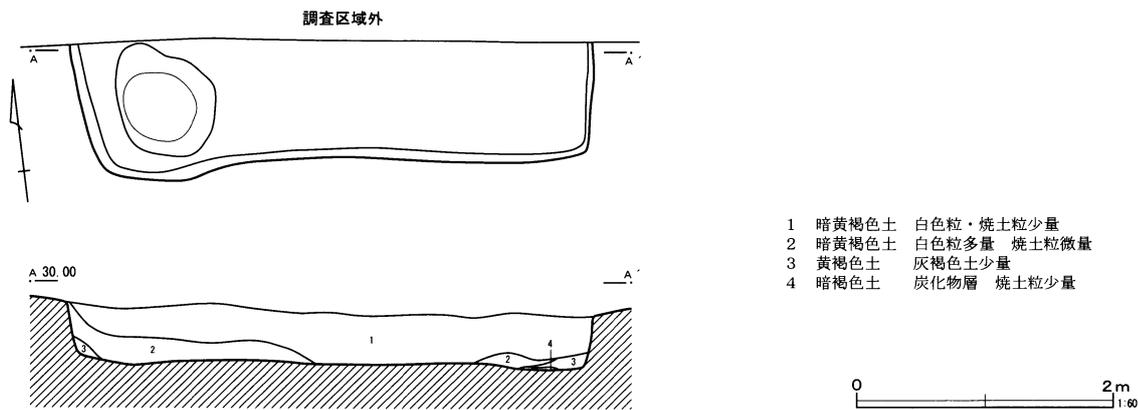
第 233 号住居跡 (第 433・434 図)

L・M-15、M-16 グリッドに位置する。規模は、主軸長東西 4.72 m、南北 4.02 m、深さ 14cm 程を測る。平面形は、やや歪んだ長方形を呈する。主軸方位は、N-75°-W を指す。

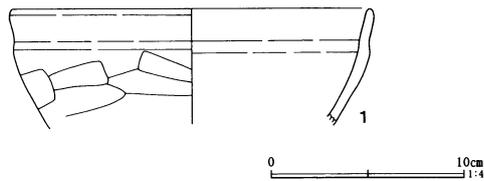
ピットが 5 基検出されたが配置が歪んでおり、柱穴とは断定できない。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏が出土した。



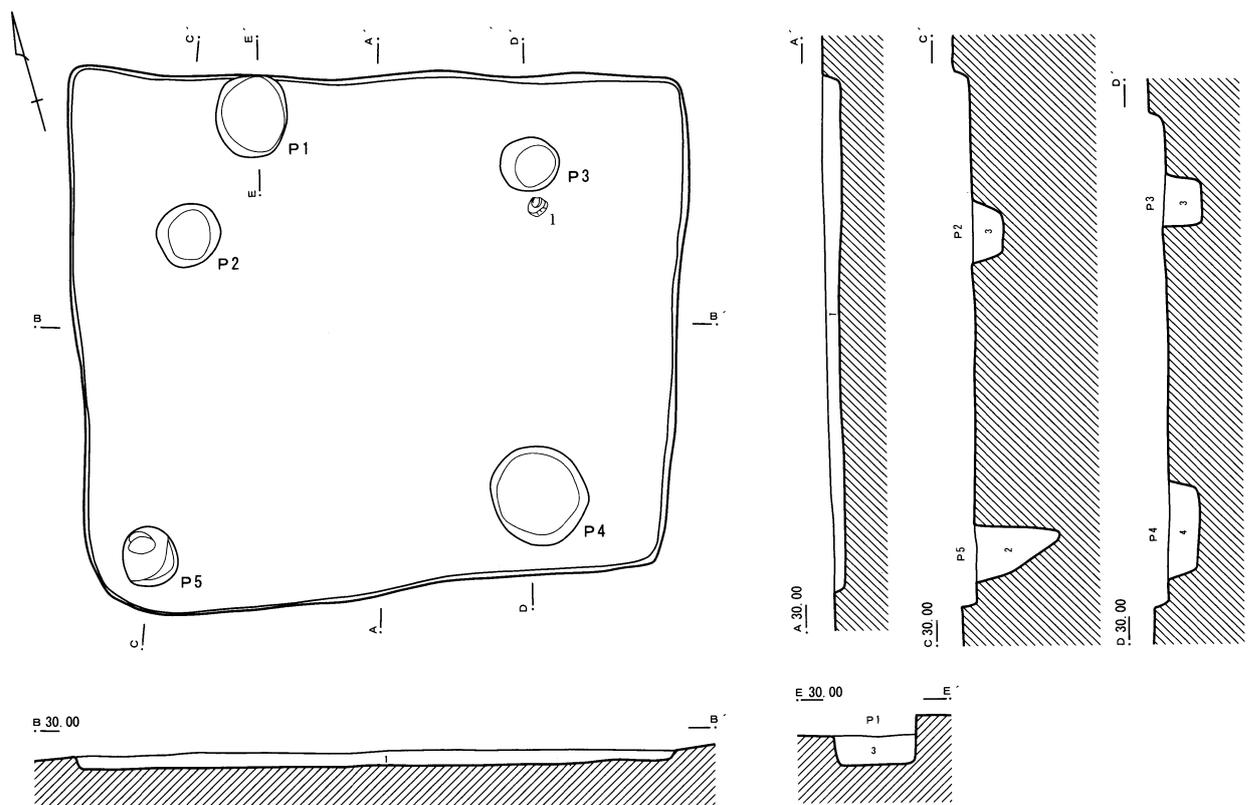
第 431 図 第 232 号住居跡



第 432 図 第 232 号住居跡出土遺物

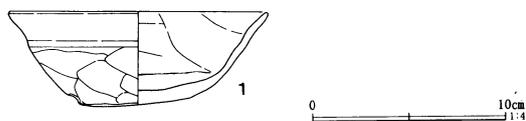
第 232 号住居跡出土遺物観察表 (第 432 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師鉢	(18.7)			A B G	普通	にぶい橙	35	覆土	



- 1 暗灰褐色土 焼土粒微量
- 2 暗褐色土 焼土粒微量 白色パミス微量
- 3 暗灰褐色土 白色小粒子微量 焼土粒微量 炭化物微量
- 4 暗黄灰褐色土 黄褐色小ブロックやや多く混入 白色パミス少量混入

第 433 図 第 233 号住居跡



第 434 図 第 233 号住居跡出土遺物

第 233 号住居跡出土遺物観察表 (第 434 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	13.4	4.9	5.8	A B F J	普通	橙	90	覆土	口縁やや楕円形

第 234 号住居跡 (第 435・436 図)

H・I-17、H-18 グリッドに位置する。多数のピットに切られている。規模は、主軸長東西 4.34 m、南北 4.66 m、深さ 4 cm 程を測る。平面形は、台形気味を呈する。主軸方位は、N-99°-E を指す。

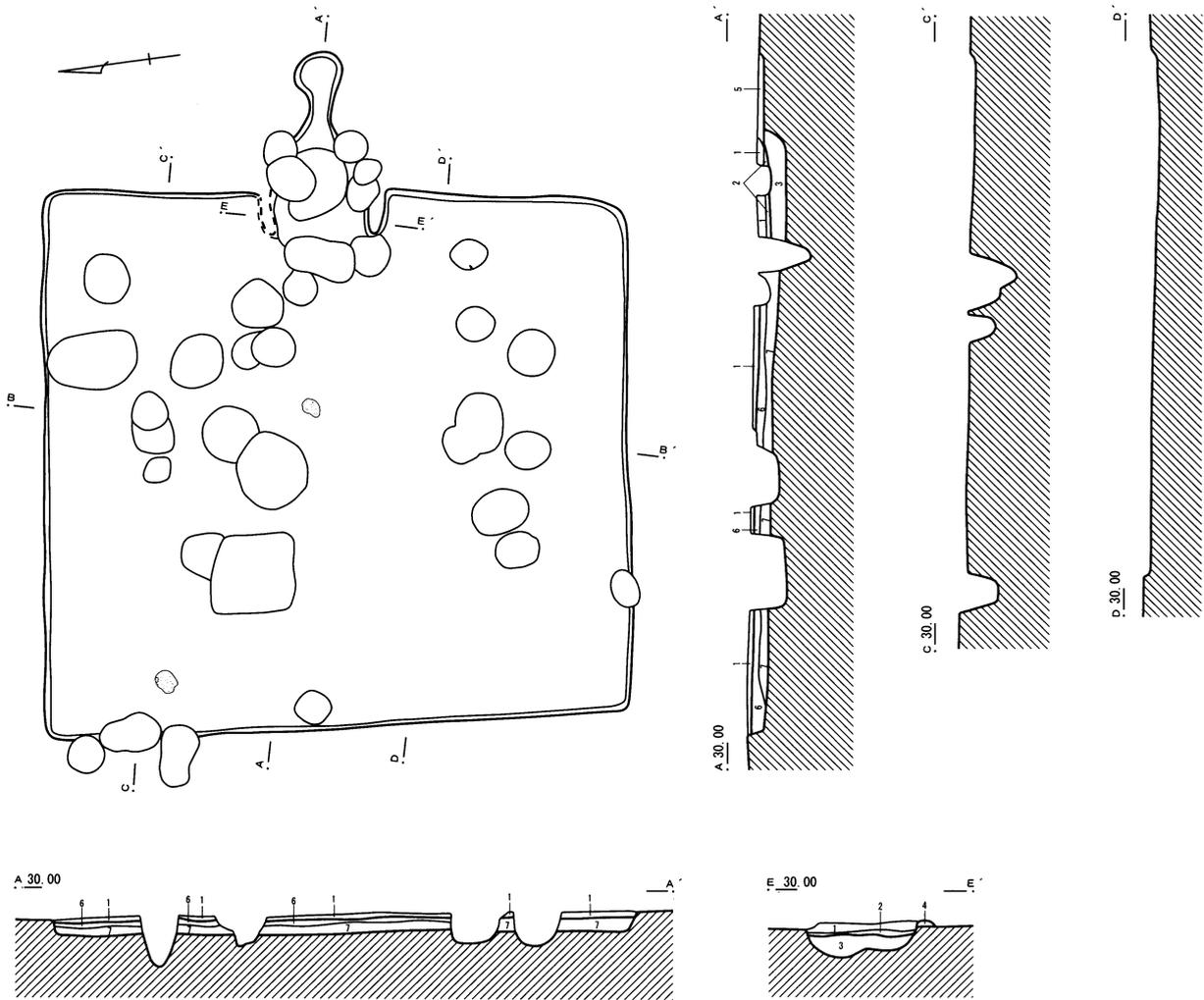
カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。ピットに切られているため燃焼部は、90cm × 77cm で

床面と同じ高さで残存していた。煙道部は、62cm が確認できた。

遺物は、土師器杯・小皿・甕が出土した。

第 235 号住居跡 (第 437・438 図)

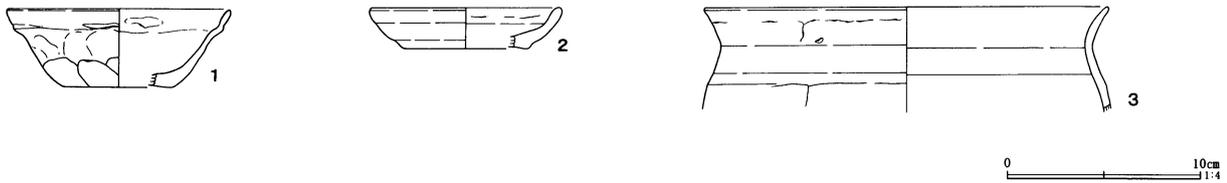
M-14・15 グリッドに位置する。第 6 号溝と重複し、南半は切られている。規模は、主軸長東西 3.28 m、残存部は南北 1.08 m、深さ 28cm 程を測る。北壁を基準とすると主軸方位は、N-81°-W を指す。



- 1 暗褐色土 黄褐色土粒多量
- 2 黒灰色土 灰層 焼土粒・黄褐色土粒少量
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量 (カマド掘り方)
- 4 褐色土 黄褐色土主体
- 5 暗褐色土 焼土ブロック多量
- 6 暗褐色土 灰色粘土少量 (貼り床)
- 7 褐色土 黄褐色土ブロック多量 (掘り方)

0 2m 1:60

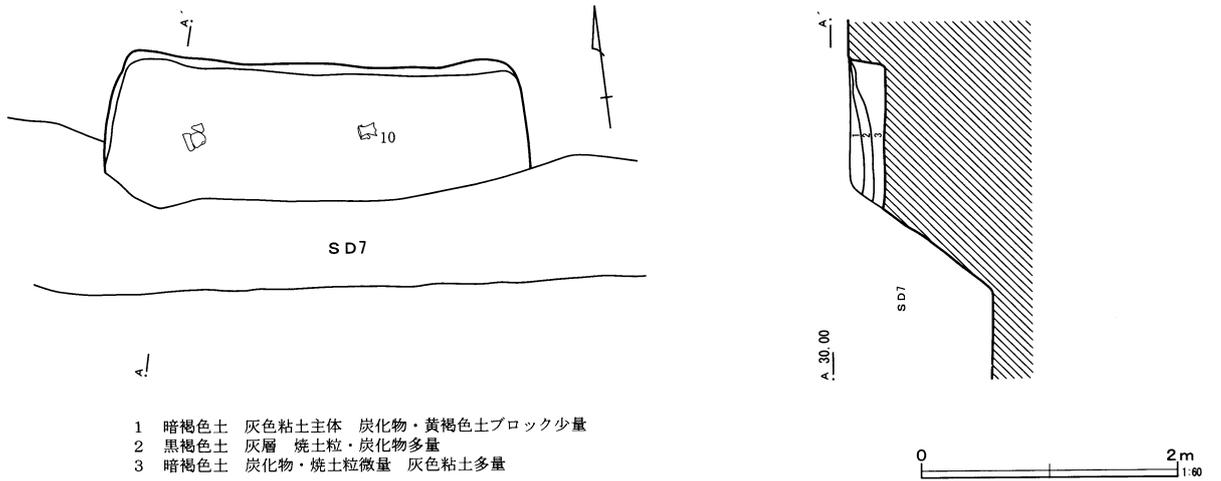
第435図 第234号住居跡



第436図 第234号住居跡出土遺物

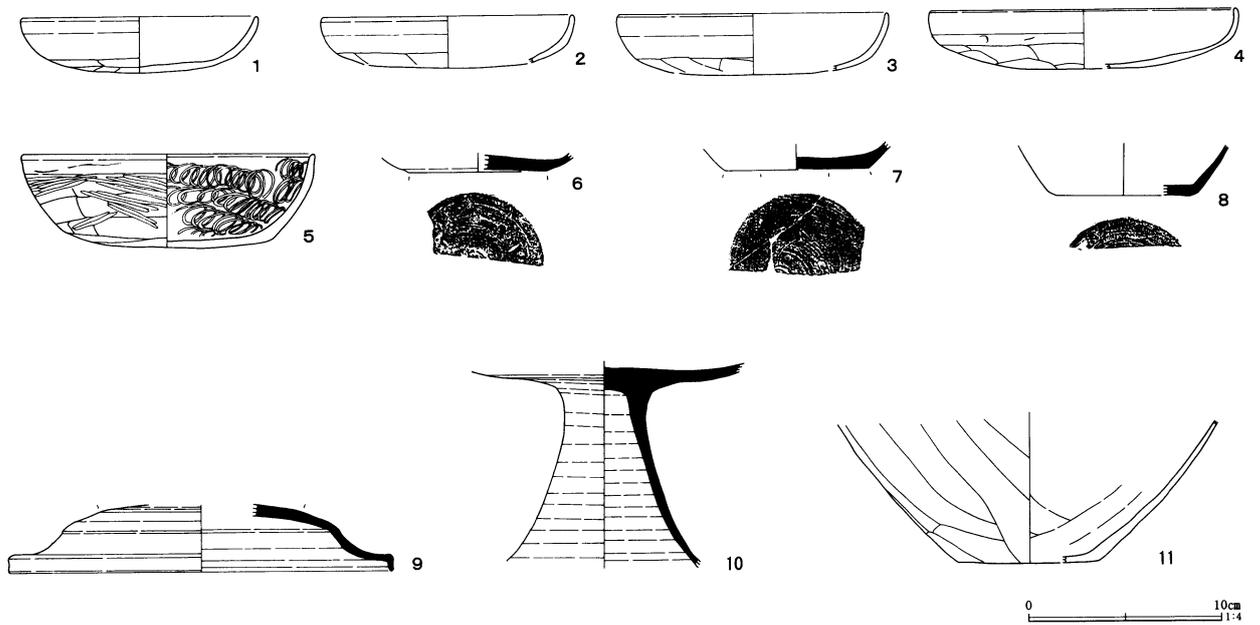
第234号住居跡出土遺物観察表 (第436図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.6)	4.2	(5.6)	A B F J	普通	橙	15	カマド	
2	土師小皿	(10.0)	2.2	(6.6)	B F J	普通	浅黄橙	10	覆土	
3	土師甕	(21.0)			A B F J	普通	橙	15	カマド	



- 1 暗褐色土 灰色粘土主体 炭化物・黄褐色土ブロック少量
 2 黒褐色土 灰層 焼土粒・炭化物多量
 3 暗褐色土 炭化物・焼土粒微量 灰色粘土多量

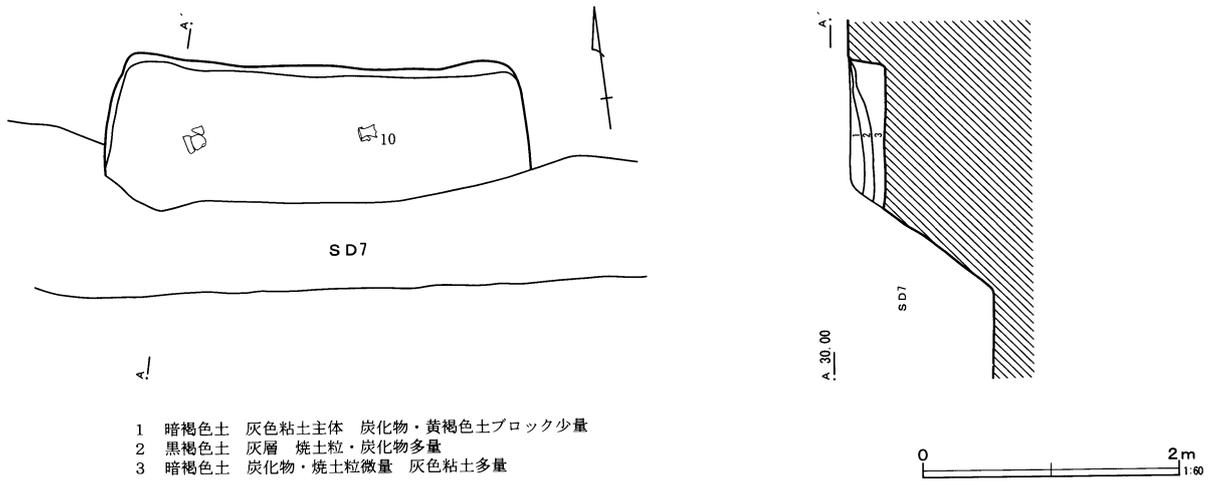
第437図 第235号住居跡



第438図 第235号住居跡出土遺物

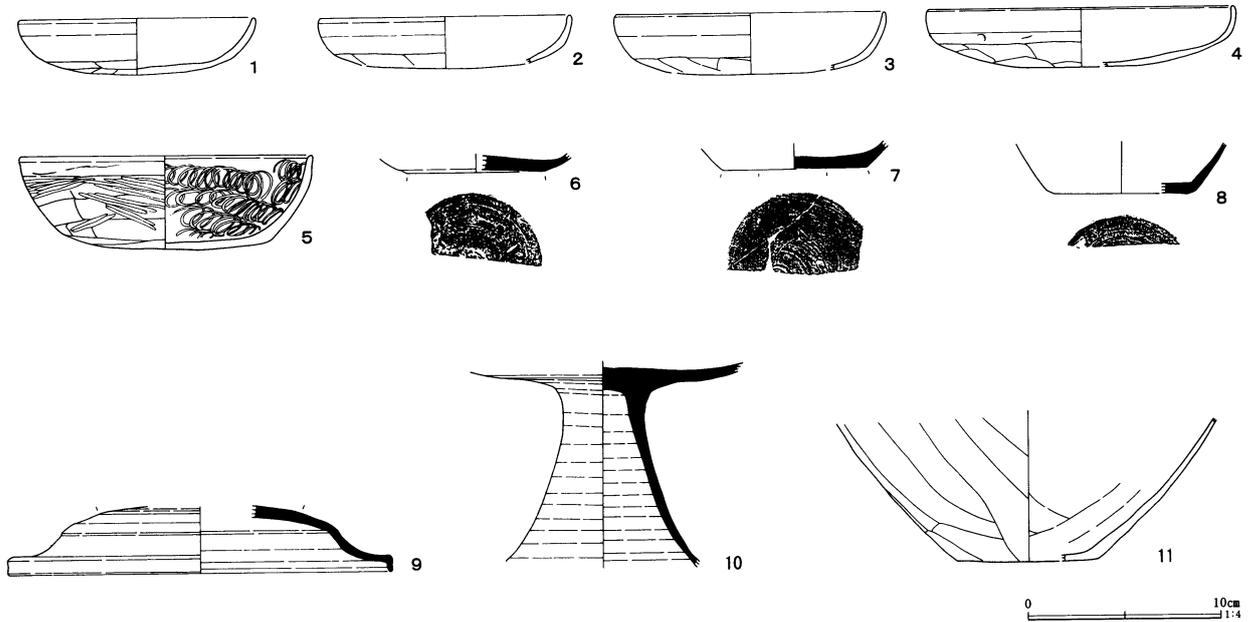
第235号住居跡出土遺物観察表 (第438図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.1)	(2.9)		A F G	普通	橙	15	覆土	
2	土師坏	(13.0)	(2.7)		A B C I	普通	にぶい橙	35	覆土	
3	土師坏	(14.0)			A F	普通	橙	15	覆土	
4	土師坏	(16.0)	3.1		A J	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師坏	15.1	4.9	10.8	A C F	良好	橙	90	覆土	暗文土器 内面螺旋状 外面体部ヘラ削り 後暗文
6	須恵埴			(7.0)	A H	良好	灰	40	覆土	底部回転ヘラ削り
7	須恵埴			(7.0)	A H	良好	灰	40	覆土	



- 1 暗褐色土 灰色粘土主体 炭化物・黄褐色土ブロック少量
- 2 黒褐色土 灰層 焼土粒・炭化物多量
- 3 暗褐色土 炭化物・焼土粒微量 灰色粘土多量

第 437 図 第 235 号住居跡



第 438 図 第 235 号住居跡出土遺物

第 235 号住居跡出土遺物観察表 (第 438 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(12.1)	(2.9)		A F G	普通	橙	15	覆土	
2	土師杯	(13.0)	(2.7)		A B C I	普通	にぶい橙	35	覆土	
3	土師杯	(14.0)			A F	普通	橙	15	覆土	
4	土師杯	(16.0)	3.1		A J	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師杯	15.1	4.9	10.8	A C F	良好	橙	90	覆土	暗文土器 内面螺旋状 外面体部ヘラ削り後暗文
6	須恵埴			(7.0)	A H	良好	灰	40	覆土	底部回転ヘラ削り
7	須恵埴			(7.0)	A H	良好	灰	40	覆土	

第 235 号住居跡出土遺物観察表 (第 438 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
8	須恵坏			(7.0)	AH	良好	灰	20	覆土	底部回転糸切り
9	須恵蓋	(19.8)			AH	良好	灰	35	覆土	天井部回転ヘラ削り
10	須恵高盤				AHJK	良好	灰	60	覆土	
11	土師甕			(7.4)	AB	普通	にぶい赤橙	40	覆土	

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・壺・蓋・高盤が出土した。

第 236 号住居跡 (第 439・441 図)

K-16・17 グリッドに位置する。第 239・250・282・299 号住居跡・第 447・451 号土坑と重複し、土坑に切られ、住居跡すべてを切っている。北東壁は、第 447 号土坑に壊されている。規模は、主軸長東西 5.51 m、南北 4.41 m、深さ 8 cm 程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N-94°-E を指す。

カマドは、東壁北寄りに設けられている。燃焼部は、168cm × 73cm、深さは床面と同じで、煙道部は長さ 65cm が確認できた。

遺物は、須恵器高台付壺・甕、土師器高台付壺、灰釉陶器高台付壺と鉄製品が出土した。7 は現存長 4.9cm の角棒状鉄製品である。一方は幅広の延板状となる。用途は不明。

第 239 号住居跡 (第 439・440・442・443 図)

K-16・17 グリッドに位置する。第 236・250・282・299 号住居跡と重複し、第 236・250 号住居跡に切られ、第 282 号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西 6.94 m、南北 4.06 m、深さ 29cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-95°-E を指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、第 236 号住居跡カマドに切られ不明であるが、煙道部 120cm が残存していた。

遺物は、土師器坏・小型甕・甕、須恵器坏・高台付坏・高台付壺・円面硯、灰釉陶器高台付壺・高台付皿、緑釉陶器高台付輪花壺と鉄製品が出土した。24 は現存長 9.9cm、25 は現存長 6.5cm、26 は現存長

3.7cm の角棒状鉄製品である。これらは釘もしくは釘に類する接合具の可能性はある。25 はその形状から鋊の脚部かもしれない。24・26 は床面から出土した。

第 250 号住居跡 (第 439・444 図)

K-16 グリッドに位置する。第 196・236・239 号住居跡・第 450 号土坑と重複し、第 236 号住居跡に切られ、第 239 号住居跡の上部を切っている。確認できた規模は、南北 3.51 m、東西 1.44 m、深さ 12cm 程を測る。東西を主軸とすると方位は、N-88°-E を指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器皿が出土した。

第 282 号住居跡 (第 439・445 図)

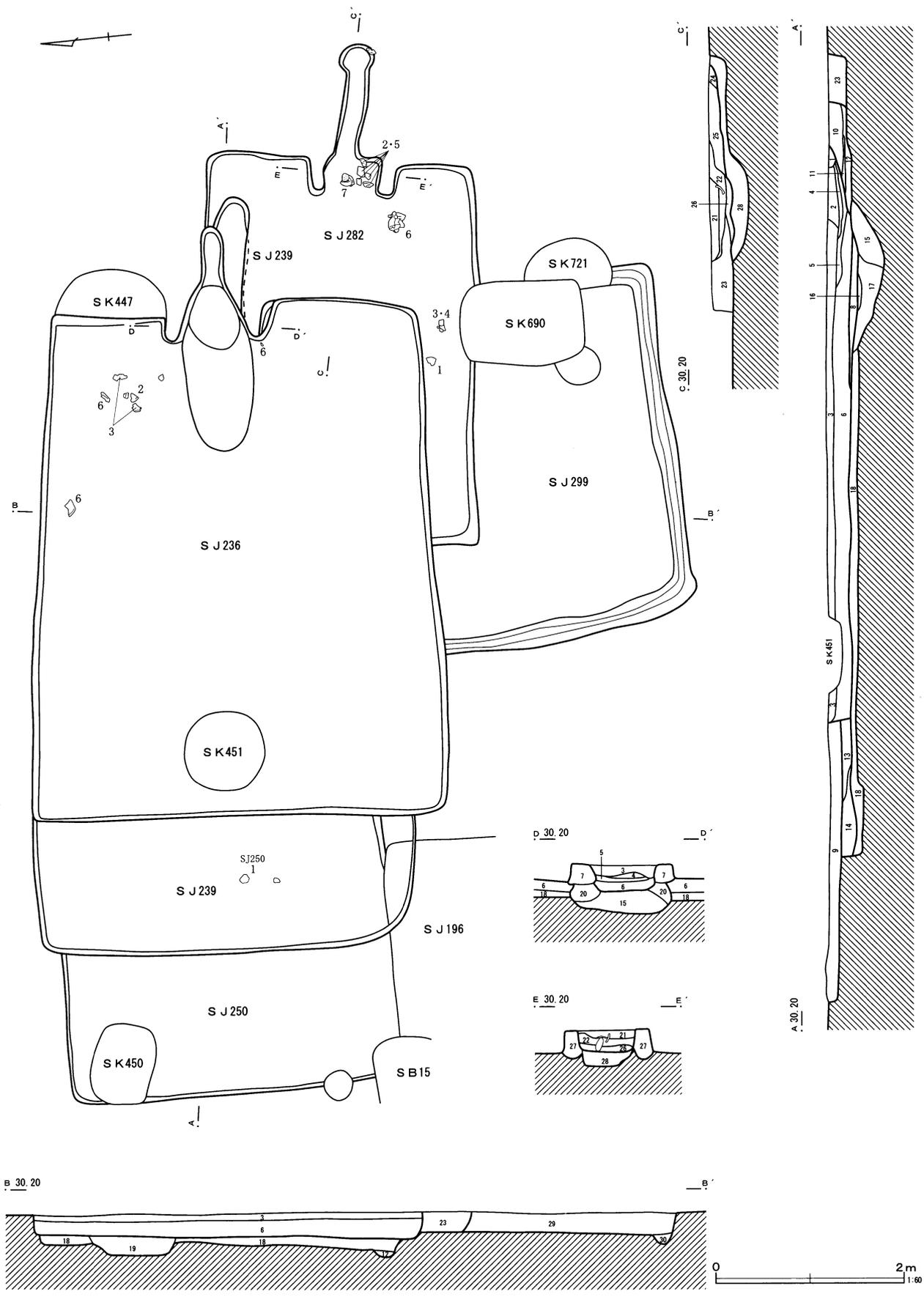
K-16・17、L-17 グリッドに位置する。第 236・239・299 号住居跡・第 690 号土坑と重複し、第 236・239 号住居跡・第 690 号土坑に切られ、第 299 号住居跡を切っている。規模は、南壁で主軸長東西 4.07 m、南北 2.86 m、深さ 23cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-99°-E を指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、92cm × 60cm で床面と同じ高さで、煙道部は長さ 118cm が確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器瓶が出土した。

第 299 号住居跡 (第 439・446 図)

K・L-16、L-17 グリッドに位置する。第 236・239・282 号住居跡・第 690・721 号土坑と重複し、土坑・住居跡いずれもの遺構に切られている。規模は、南壁で東西 3.78 m、西壁で南北 2.74 m が残存し、深さ 22cm 程を測る。南壁を基準とすると主軸



第 439 图 第 236 · 239 · 250 · 282 · 299 号住居跡



第236・239・250・282・299号住居跡

- | | | | |
|----------|--------------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒・灰色粘土ブロック多量 (S J 236) | 16 暗褐色土 | 焼土ブロック多量 (S J 239カマド掘り方) |
| 2 黄褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 (S J 236) | 17 黒褐色土 | 焼土粒・灰・黄褐色土粒多量 (S J 239カマド掘り方) |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒多量 黄褐色土粒少量 (S J 236) | 18 灰色土 | 灰色粘土主体 焼土粒・黄褐色土粒少量 |
| 4 暗褐色土 | 焼土ブロック主体 (カマド天井崩落土) (S J 236) | 19 灰色土 | 灰色粘土主体 黄褐色土粒含む (S J 239床下土坑) |
| 5 黒褐色土 | 灰層 焼土粒多量 (S J 236) | 20 暗灰色土 | 焼土粒微量 焚き口側僅かに焼土化 (S J 239カマドソデ) |
| 6 暗灰色土 | 焼土粒・黄褐色土粒少量 埋め戻し (掘り方) (S J 236) | 21 暗褐色土 | 白色粒・黄褐色土粒多量 焼土粒少量 (S J 282) |
| 7 暗灰褐色土 | 焼土粒・黄褐色土粒少量 カマド構築土 (S J 236) | 22 暗褐色土 | 焼土ブロック多量 (S J 282カマド天井崩落土) |
| 8 灰色土 | 焼土粒・黄褐色土粒多量 埋め戻し | 23 暗褐色土 | 白色粒・焼土粒・黄褐色土粒多量 (S J 282) |
| 9 暗灰褐色土 | 白色粒・焼土粒少量 炭化物全面に散在 (S J 250) | 24 暗褐色土 | 焼土ブロック・黄褐色土ブロック多量 (S J 282煙突崩落土) |
| 10 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物多量 (S J 239) | 25 暗褐色土 | 焼土粒微量 (S J 282) |
| 11 暗赤褐色土 | 焼土ブロック多量 (S J 239 カマド天井崩落土) | 26 黒褐色土 | 灰層 焼土粒少量 (S J 282) |
| 12 黒褐色土 | 灰層 焼土粒・黄褐色土ブロック含む (S J 239) | 27 灰褐色土 | 白色粒多量 焼土粒・炭化物少量 |
| 13 暗褐色土 | 焼土粒微量 黄褐色土粒少量 (S J 239) | 28 暗褐色土 | 黄褐色土ブロック・暗褐色土の混土 (S J 282カマド掘り方) |
| 14 暗灰色土 | 焼土粒微量 (S J 239) | 29 暗灰色土 | 灰色粘土主体 黄褐色土粒多量 |
| 15 暗灰褐色土 | 焼土粒・黄褐色土粒多量 焼土ブロック少量 (S J 239カマド掘り方) | 30 暗褐色土 | 黄褐色土粒少量 |

第440図 第239号住居跡

方位は、N-88°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器杯、須恵器杯と鉄製品が出土した。

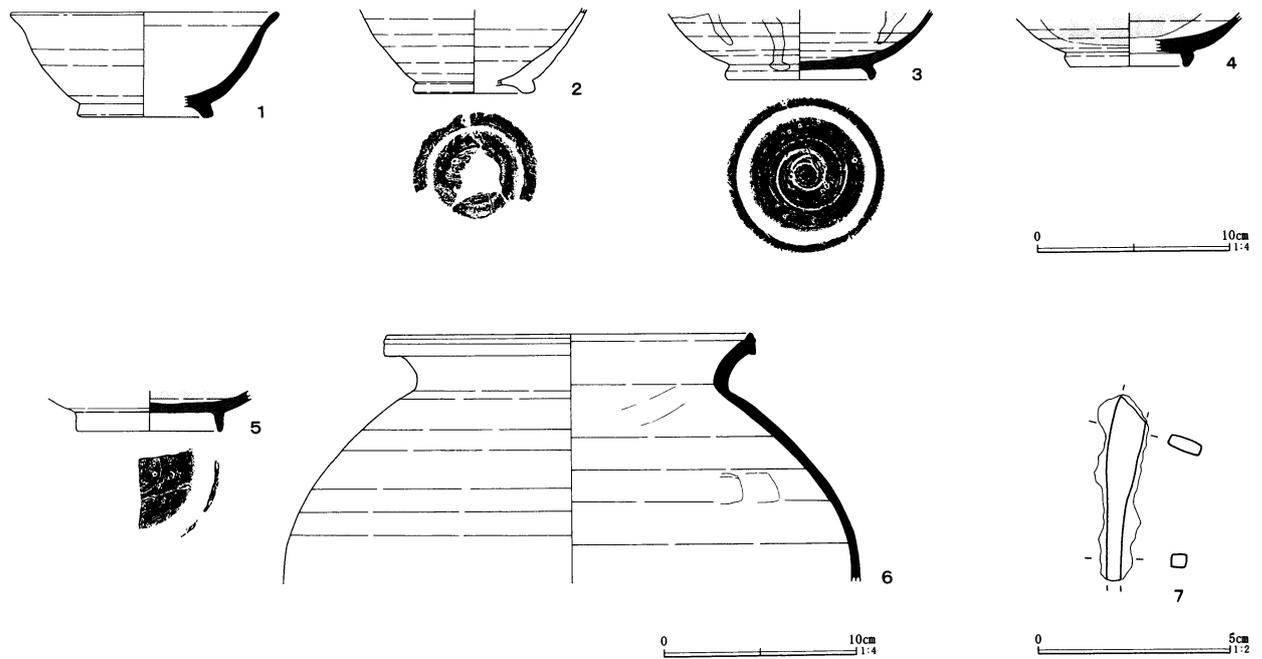
4は鉄製刀子である。切先を含む刃部と茎先を欠く。

現存長は9.3cm、刃幅1.1~1.4cmである。関は明

瞭な両関である。5は延板状の鉄製品である。現存

長3.6cm。刀子の茎部とも考えられるが、少なくと

も4と同じものではない。



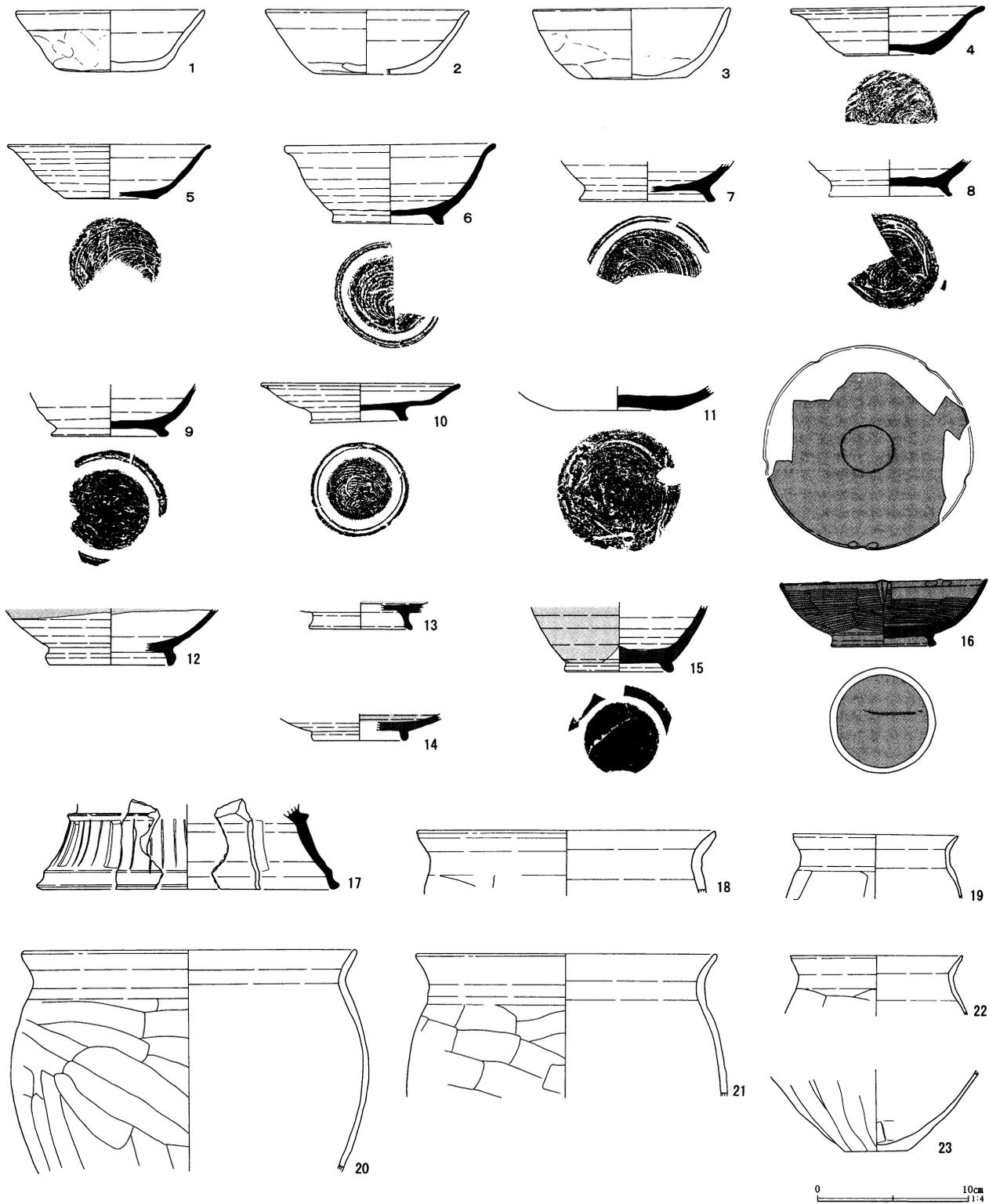
第 441 図 第 236 号住居跡出土遺物

第 236 号住居跡出土遺物観察表 (第 441 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台碗	(13.7)	5.5	(7.0)	A F I K	普通	灰黄	15	覆土	
2	土師高台碗			6.3	A F J K	不良	橙	60	覆土	ロクロ土師器
3	灰釉高台碗			7.4	A G K	良好	灰黄	70	覆土	高台内へら削り 施釉ツケガケ 内面重ね焼き痕
4	灰釉高台碗			(6.1)	G	良好	灰白	15	覆土	高台内へら削り 内外面ハケヌリ 浜北産
5	灰釉高台碗			(7.5)	J	良好	灰白	20	覆土	高台内へら削り 施釉ツケガケ 内面重ね焼き痕 東濃産
6	須恵甕	(18.8)			A J K	普通	灰	40	カマド	

第 239 号住居跡出土遺物観察表 (第 442 図)

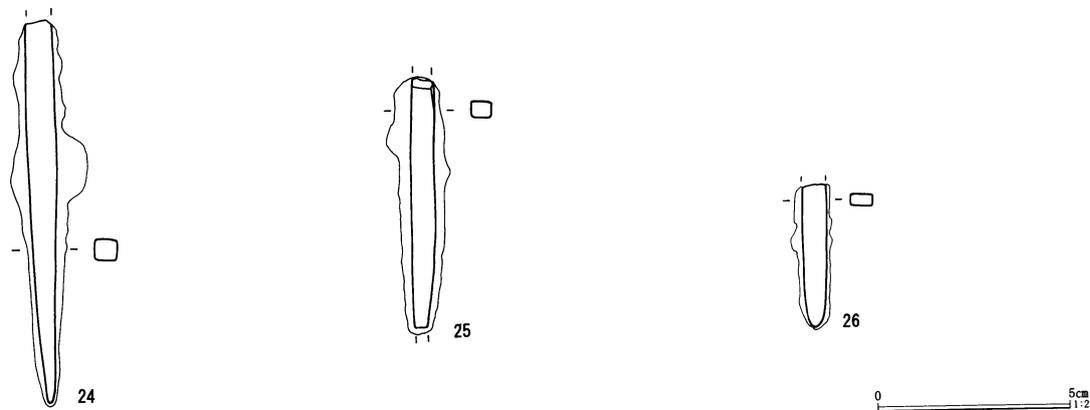
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.5	4.1	6.8	A B F J K	普通	にぶい褐	40	床直	内外面磨耗著しい
2	土師坏	(13.4)			A F G	普通	橙	30	覆土	
3	土師坏	(13.0)	4.7	7.2	F J K	普通	橙	60	覆土	やや磨耗する
4	須恵坏	(13.0)	3.2	6.2	A J K	普通	灰	45	覆土	器形の歪み大きい
5	須恵坏	13.5	3.6	6.2	A J K	良好	灰	80	床直	底部右回転糸切り
6	須恵高台碗	14.0	5.4	7.4	A J K	良好	灰	40	床直	やや歪みあり
7	須恵高台碗			(9.0)	A J	良好	黄灰	40	覆土	底部回転糸切り
8	須恵高台碗			(8.0)	A J K	良好	褐灰	60	覆土	高台部の大部分が剥離
9	須恵高台碗			7.8	A F J K	普通	褐灰	80	覆土	底部回転糸切り
10	須恵高台皿	13.2	2.7	6.5	A J K	良好	にぶい赤褐	100	覆土	やや歪みあり 底部回転糸切り、周辺ナデ
11	須恵皿			7.5	A B G J K	普通	灰	70	覆土	底部内面のみ酸化焰焼成
12	灰釉高台碗			(8.0)	G	良好	灰白	20	覆土	高台内へら削り 施釉内外面ハケヌリ 内面に重ね焼き痕 東濃産



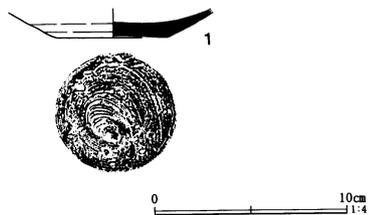
第 442 图 第 239 号住居跡出土遺物 (1)

第 239 号住居跡出土遺物観察表 (第 442 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
13	灰釉高台皿			(6.7)	G	良好	灰白	10	覆土	高台内へラ削り 施釉ハケヌリ一筆 内面に重ね焼き痕 東濃産
14	灰釉高台皿			(6.1)	A G	良好	灰白	11	覆土	高台内へラ削り 施釉内面ハケヌリ 内面に重ね焼き痕 東濃産
15	灰釉瓶			(6.9)	A	良好	灰白	80	覆土	高台内へラ削り 施釉 外面へラナデ 東濃産
16	緑釉高台碗	13.7	4.3	7.0	—	良好	オリーブ灰	70	覆土	輪花碗 内外面磨き 全面施釉 トチン痕 高台内へラ描き 猿投産
17	須恵円面硯			(20.0)	A	良好	灰	5	覆土	圈足硯 (長方形透孔+3条縦位沈線)
18	土師甕	(19.6)			A B F J	普通	にぶい黄褐	20	覆土	
19	小型土師甕	(10.9)			A C F	普通	にぶい橙	25	覆土	
20	小型土師甕	(21.9)			A B F G	普通	にぶい黄橙	20	カマド	
21	土師甕	(19.7)			A B F	普通	浅黄	25	覆土	
22	土師甕	(10.3)			A C	普通	にぶい橙	25	覆土	
23	土師甕			(4.0)	A B F	良好	にぶい黄	20	覆土	



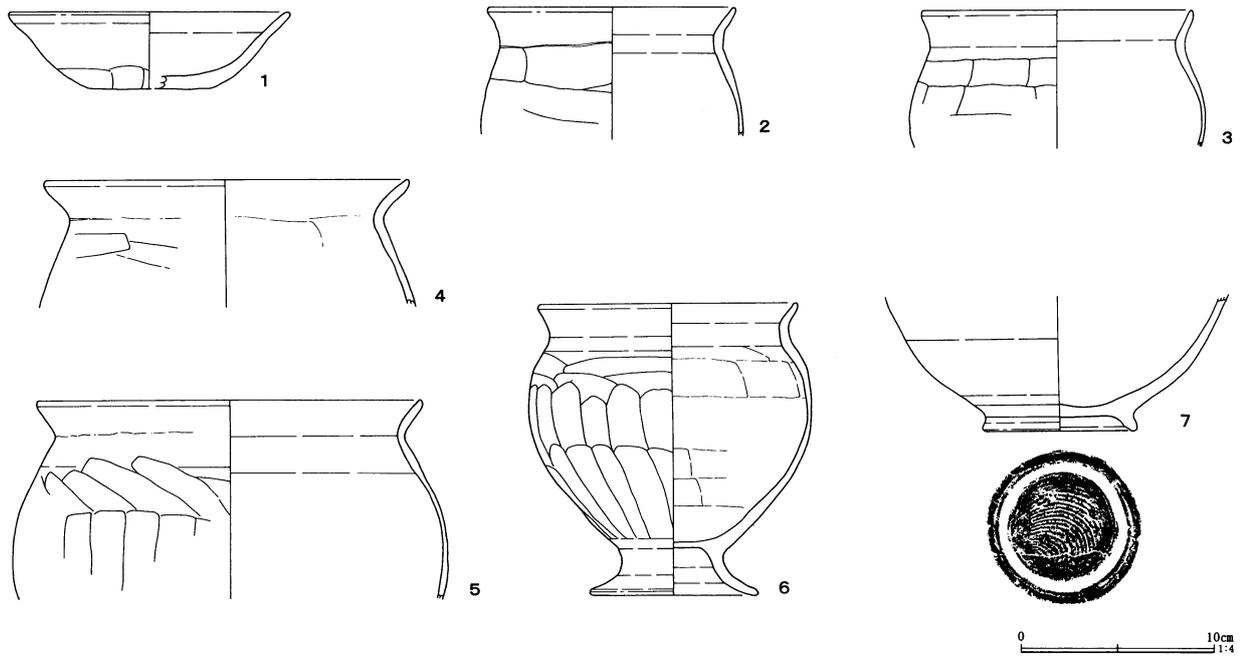
第 443 図 第 239 号住居跡出土遺物 (2)



第 444 図 第 250 号住居跡出土遺物

第 250 号住居跡出土遺物観察表 (第 444 図)

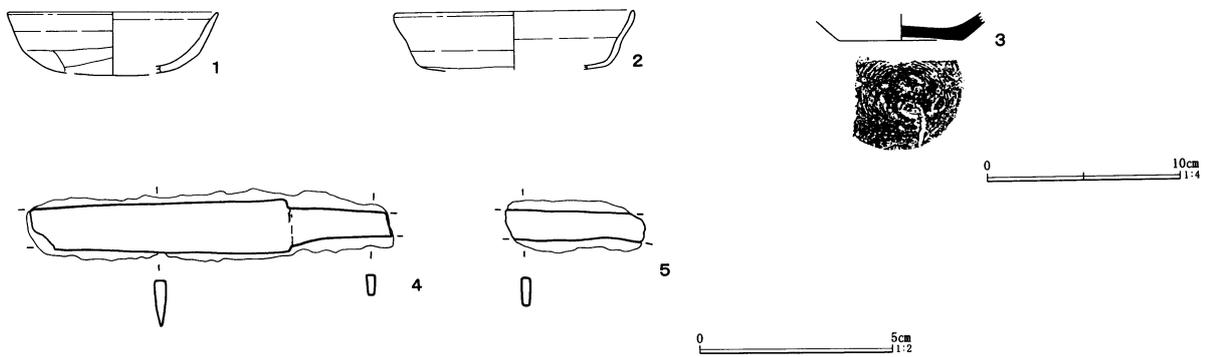
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵皿			5.8	A K	普通	灰	80	床直	



第445図 第282号住居跡出土遺物

第282号住居跡出土遺物観察表 (第445図)

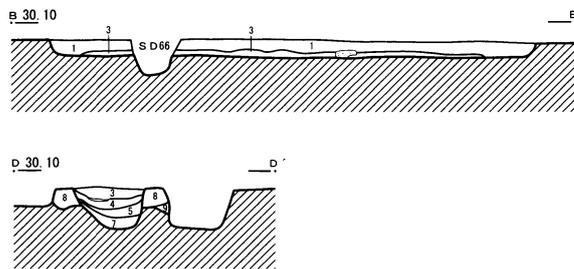
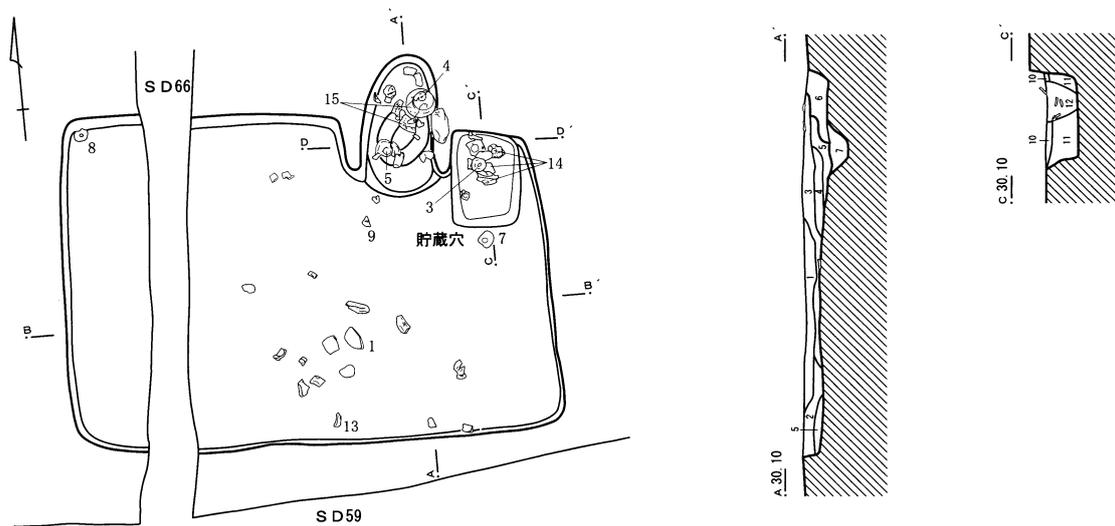
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(14.4)	4.0	(6.2)	ABF	普通	にぶい黄橙	30	覆土	底部外面一方向へラ削り
2	土師甕	(12.7)			ACFG	普通	灰褐	40	カマド	
3	土師甕	(13.9)			ABFG	普通	灰褐	40	覆土	
4	土師甕	(18.8)			AF	良好	浅黄橙	10	覆土	
5	土師甕	(19.9)			AFGJ	普通	浅黄橙	25	カマド	
6	土師台付甕	(13.3)	15.3	(8.4)	AF	普通	橙	60	覆土	
7	須恵瓶			7.8	AGJK	不良	にぶい黄橙	30	カマド	酸化焰焼成



第446図 第299号住居跡出土遺物

第299号住居跡出土遺物観察表 (第446図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(10.8)			ABG	普通	にぶい黄褐	25	覆土	
2	土師坏	(12.3)		(9.8)	AB	普通	橙	20	覆土	
3	須恵坏			(6.3)	G	普通	灰	30	覆土	



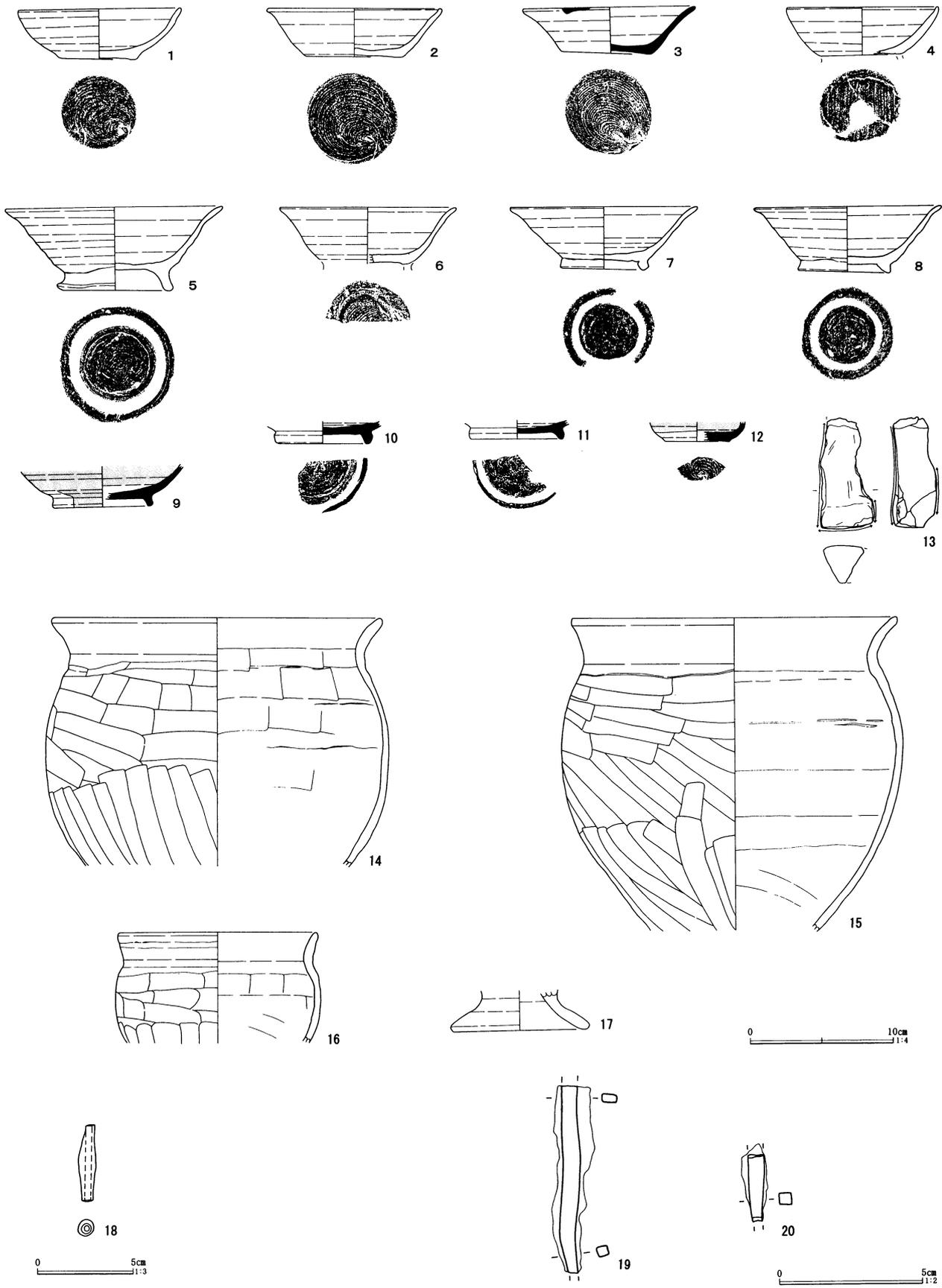
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 2 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物多量 灰含む
- 3 灰褐色土 焼土粒・炭化物・灰色粘土・褐色土粒少量
- 4 黒褐色土 灰層 焼土粒少量
- 5 黒色土 焼土粒・炭化物多量 灰含む
- 6 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 褐色土粒多量 (カマド掘り方)
- 7 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量 褐色土ブロック多量
- 8 暗褐色土 焼土粒・灰色粘土多量 炭化物少量
- 9 黒褐色土 焼土粒・炭化物多量 灰色粘土少量
- 10 黒褐色土 焼土粒・炭化物少量 (貯蔵穴)
- 11 暗褐色土 焼土粒微量 炭化物少量 (貯蔵穴)
- 12 黒色土 焼土粒多量 炭化物少量 (貯蔵穴)

0 2m
1:60

第447図 第238号住居跡

第238号住居跡出土遺物観察表 (第448図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.4)	3.6	5.3	B F J	普通	橙	70	床直	ロクロ土師器 底部回転糸切り
2	土師坏	12.2	3.4	6.6	A B F J	普通	にぶい橙	90	貯蔵穴	ロクロ土師器 底部回転糸切り やや歪みあり
3	須恵坏	12.0	3.4	6.1	A B J	良好	にぶい黄橙	100	貯蔵穴	口縁一部に油煙
4	土師高台坏	10.8	3.4		A B F J	普通	橙	90	カマド	ロクロ土師器 高台剥離
5	土師高台碗	15.2	6.0	8.0	B F J	普通	明黄褐	80	カマド	ロクロ土師器
6	土師高台碗	(12.4)			A B F J	普通	にぶい橙	40	貯蔵穴	ロクロ土師器 高台剥離
7	土師高台碗	13.1	4.5	6.2	A F J	普通	橙	95	覆土	ロクロ土師器
8	須恵高台碗	13.2	4.7	6.5	A B F J	普通	橙	90	覆土	酸化焰焼成
9	灰釉高台碗			(6.8)	A G	普通	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 東濃産
10	灰釉高台碗			(6.5)	G	良好	灰白	25	覆土	高台内ヘラ削り 施釉なし 東濃産
11	灰釉高台碗			(6.4)	A G	良好	灰白	30	覆土	高台内糸きり 施釉なし 内面重ね焼き痕 東濃産
12	灰釉耳皿			(4.4)	A G	良好	灰白	30	覆土	内底部糸きり 施釉外面ハケヌリ、内面自然釉
13	砥石	長さ7.8 幅3.7 厚さ2.7					—	—	覆土	
14	土師甕	(22.8)			A F J	良好	にぶい黄橙	20	カマド	
15	土師甕	(22.5)			C F J	良好	にぶい橙	60	カマド	
16	土師甕	(14.0)			A B F J	良好	橙	30	覆土	
17	土師台付甕			9.3	A B J	普通	明赤褐	70	覆土	
18	土錘	長さ4.0	径0.9~0.95	孔径0.4		普通	灰黄	100	覆土	



第 448 图 第 238 号住居跡出土遺物

第238号住居跡 (第447・448図)

K-17・18、L-18グリッドに位置する。第257号住居跡・第66号溝と重複し、溝に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長南北2.73m、東西3.78m、深さ14cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-2°-Eを指す。

貯蔵穴は、北東隅に設けられており、78cm×54cmの長方形で、深さ37cmを測る。

カマドは、北壁東寄りに設けられている。燃焼部は、113cm×56cmで床面と同じ高さである。

遺物は、土師坏・高台付壺・小型甕・甕・台付甕、須恵器坏・高台付壺、灰釉陶器高台付壺・耳皿、砥石、土錘と鉄製品が出土した。19・20ともに用途不明の角棒状鉄製品である。19は現存長6.5cm、20は現存長2.3cmである。

第240号住居跡 (第449図)

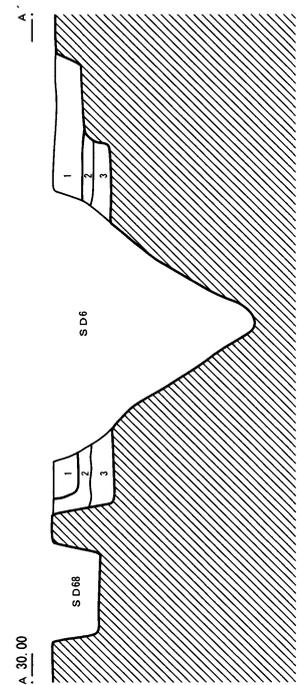
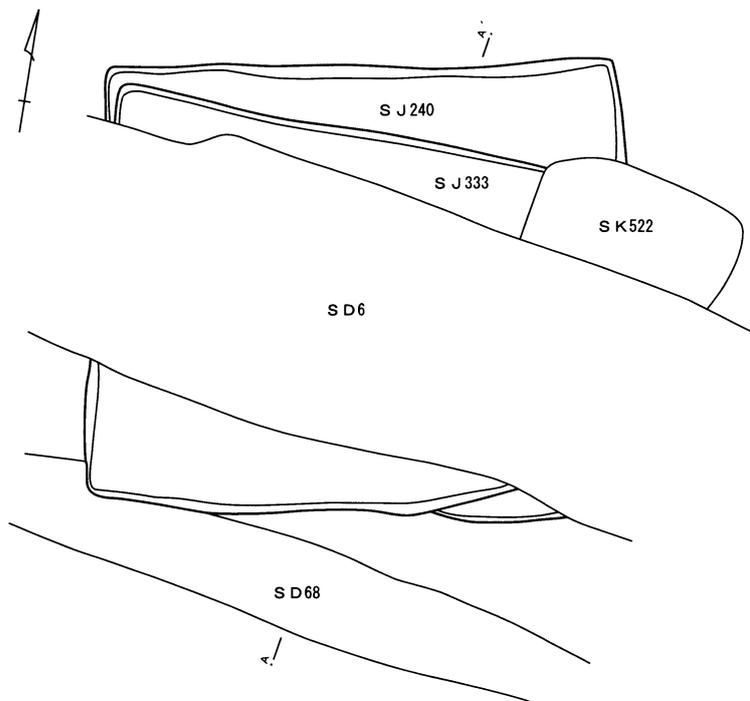
M・N-16グリッドに位置する。第333号住居跡・第522号土坑・第6号溝と重複し、住居跡の殆どが、東西に延びる第6号溝に切られ、第333号住居跡上部を切っている。規模は、東壁で主軸長東西4.01m、南北3.50m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-79°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

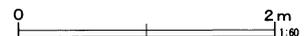
第333号住居跡 (第449図)

M・N-16グリッドに位置する。第240号住居跡・第522号土坑・第6・68号溝と重複し、住居跡の殆どが、東西に延びる第6号溝に切られ、第68号溝を切っている。規模は、主軸長東西3.26m以上、南北3.20m、深さ47cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。



- 第240・333号住居跡
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量 住居覆土
 - 2 暗褐色土 暗黄褐色土をランダムに含む 埋め戻し (S J 333)
 - 3 暗灰褐色土 焼土粒少量 炭化物微量 埋め戻し (S J 333)



第449図 第240・333号住居跡

第 241 号住居跡 (第 450・451 図)

P-22 グリッドに位置する。北側は調査区域外となっている。規模は、西壁で主軸長南北 3.21 m が確認でき、東西 3.53 m、深さ 30cm 程を測る。主軸方位は、N-5°-W を指す。

壁溝は全周し、幅 9~15cm、深さ 5 cm 程を測る。カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師環・甕、須恵器坏が出土した。

第 242 号住居跡 (第 452・453 図)

P-19 グリッドに位置する。北側は調査区域外となっている。第 243 号住居跡と重複し、切っている。規模は、南壁で東西 4.06 m、確認できた南北

は西壁で 1.65 m、深さ 41cm 程を測る。南壁を基準にすると主軸方位は、N-78°-E を指す。

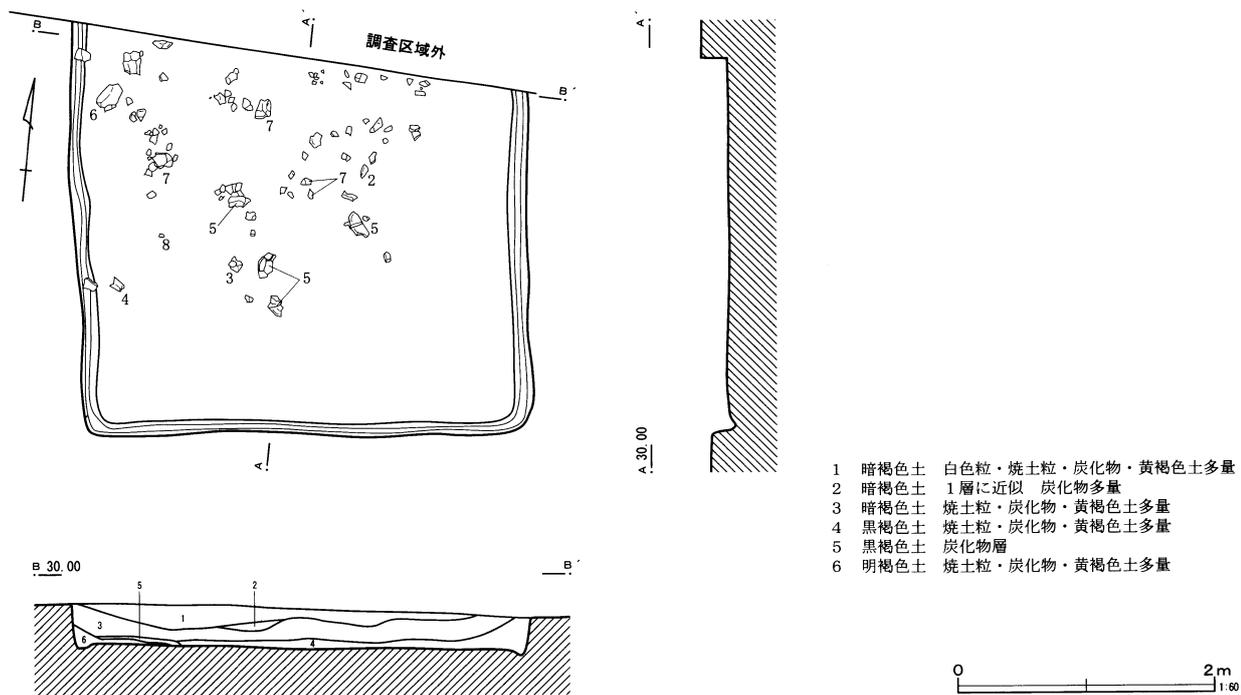
貯蔵穴 2 基とも南東隅に設けられており、貯蔵穴 1 は、径 41cm × 43cm の円形で、深さ 16cm を測る。

貯蔵穴 2 は、貯蔵穴 1 と接して、南東隅に設けられており、径 35cm × 43cm の円形で、深さ 13cm を測る。

壁溝は、南壁と西壁で確認でき、幅 20~27cm、深さ 8 cm 程を測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

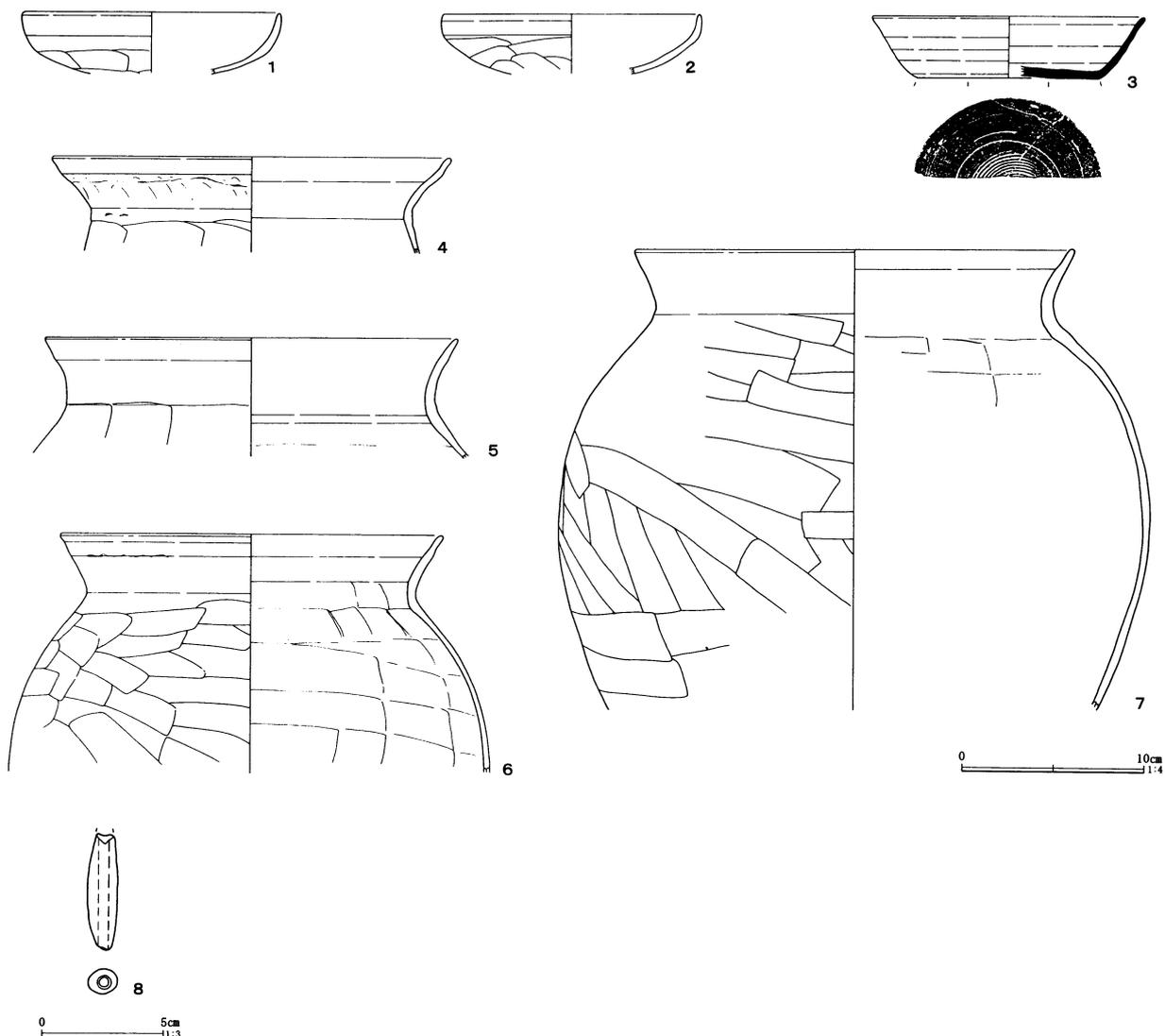
遺物は、土師器坏が出土した。



第 450 図 第 241 号住居跡

第 241 号住居跡出土遺物観察表 (第 451 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(14.0)	3.4	(10.0)	B J	普通	灰褐	15	覆土	やや歪みあり
2	土師環	(14.0)			A B F J	普通	にぶい橙	15	床直	
3	須恵環	(15.0)			A H J K	良好	灰	40	床直	
4	土師甕	(22.0)			A B F J	普通	橙	20	覆土	
5	土師甕	(22.3)			A B F J K	普通	にぶい橙	90	床直	
6	土師甕	(20.8)			A B J	普通	にぶい褐	30	覆土	
7	土師甕	(23.8)			A F	普通	明赤褐	40	覆土	
8	土錘	長さ(4.8)		径 1.2 孔径 0.5	普通	黒	95	覆土		



第451図 第241号住居跡出土遺物

第243号住居跡 (第452・453図)

P-19・20グリッドに位置する北側は調査区域外となっている。第242号住居跡・第1号溝と重複し、溝と住居跡に切られている。規模は、南壁で確認できたのは東西3.61m、南北2.20mが残存し、深さ18cm程を測る。南壁を基準とすると主軸方位は、N-87°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏が出土した。

第246号住居跡 (第454・455図)

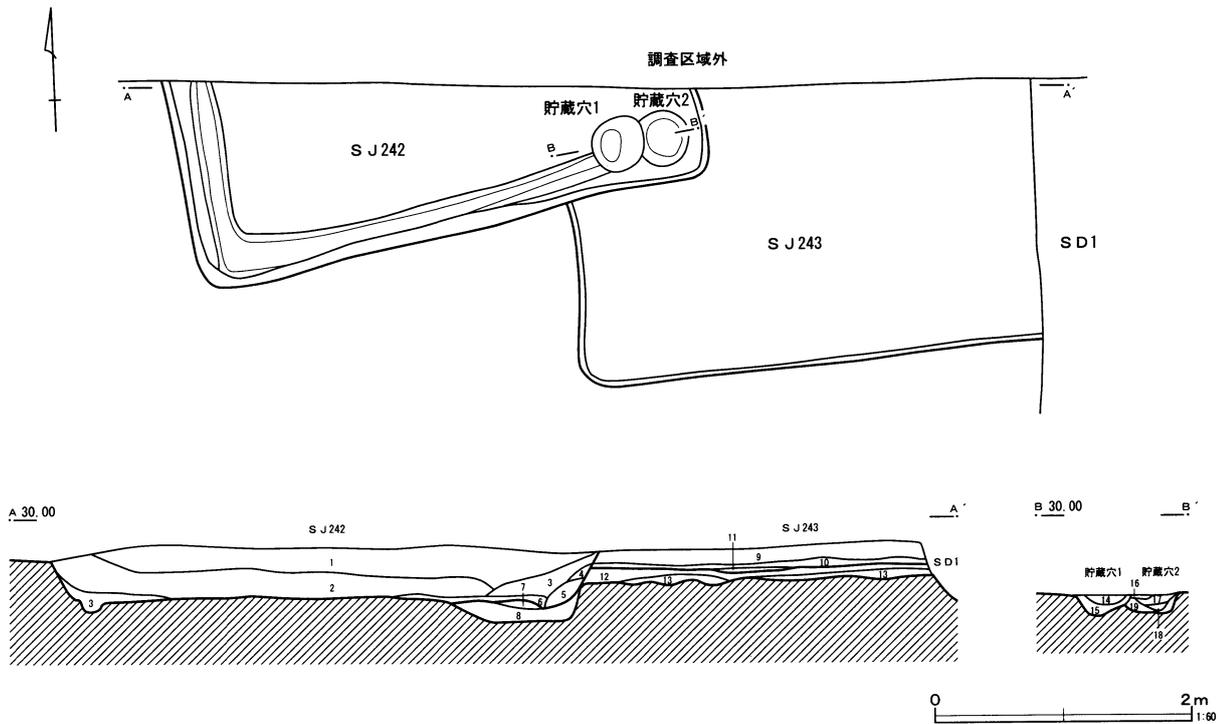
I-17・18グリッドに位置する。第251号住居跡・第477号土坑・ピットと重複している。規模は、主

軸長東西4.74m、南北3.90m、深さ22cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-101°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、80cm×60cmの長方形で、深さ49cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。カマド前面にピットがあり切られており、燃焼部は、60cm×60cmが残存し、深さ15cmほどを測る。煙道部は、長さ75cmが確認できた。

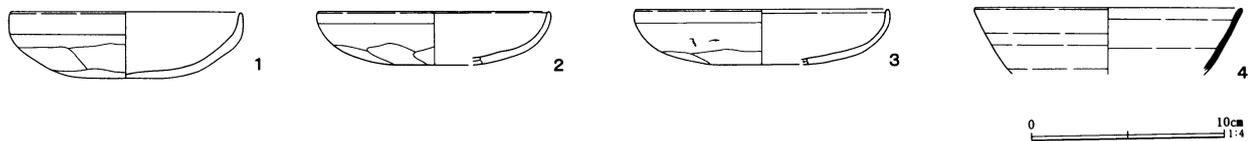
遺物は、須恵器坏・高台付碗、土師器甕と鉄製品が出土した。7は刀子の基部と考えられる鉄製品である。現存長6.2cm。



第242・243号住居跡

- | | | | |
|---------|----------------------------------|----------|---------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 白色粒・焼土粒・炭化物少量 黄褐色土多量 (S J 242) | 10 黒褐色土 | 焼土粒微量 炭化物少量 黄褐色土多量 |
| 2 暗褐色土 | 白色粒少量 焼土粒微量 黄褐色土多量 | 11 黒褐色土 | 10層に近似 焼土粒・焼土ブロック多量 |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒微量 黄褐色土多量 | 12 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 黄褐色土多量 (貼り床) |
| 4 明赤褐色土 | 焼土層 | 13 黒褐色土 | 焼土粒微量 黄褐色土多量 (貼り床) |
| 5 黄褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 | 14 褐色土 | 白色粒・炭化物微量 焼土粒少量 (S J 242貯蔵穴) |
| 6 灰黄褐色土 | | 15 暗黄褐色土 | 焼土粒微量 黄褐色土・灰褐色土 (S J 242貯蔵穴) |
| 7 褐色土 | 焼土粒・黄褐色土多量 (貼り床) | 16 黄褐色土 | 焼土粒微量 (S J 242貯蔵穴) |
| 8 灰黄褐色土 | 黄褐色土で構成される 焼土粒微量 (貼り床) | 17 灰黄褐色土 | 焼土ブロック多量 黄褐色土少量 (S J 242貯蔵穴) |
| 9 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 黄褐色土多量 白色粒微量 (S J 243) | 18 褐色土 | 炭化物多量 黄褐色土少量 古い貯蔵穴 (S J 242貯蔵穴) |

第 452 図 第 242・243 号住居跡



第 453 図 第 242・243 号住居跡出土遺物

第 242 号住居跡出土遺物観察表 (第 453 図)

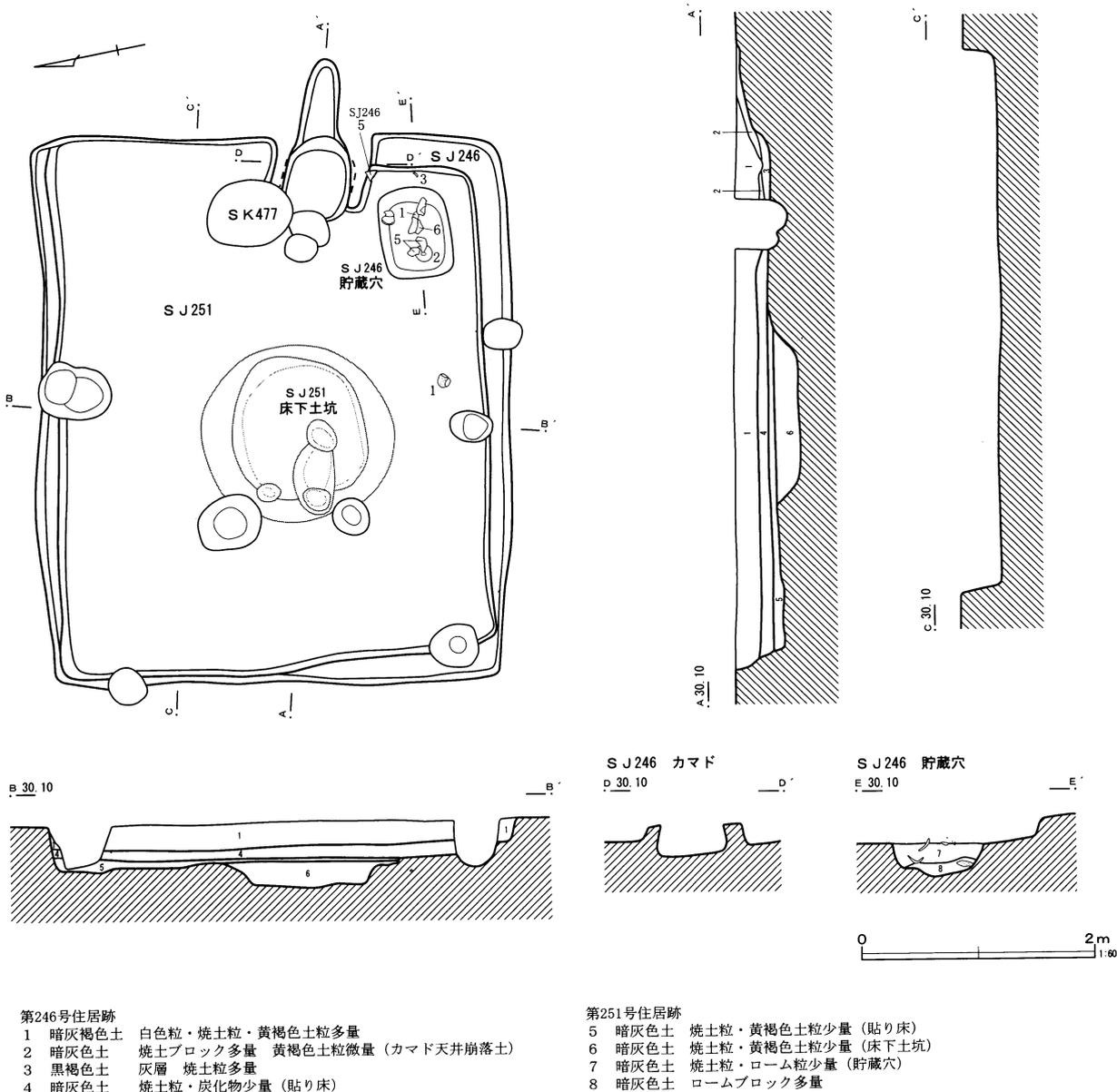
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.0)	3.5		A B J	普通	橙	10	覆土	
2	土師坏	(12.0)			B F J	普通	橙	10	覆土	
3	土師坏	(13.0)			A B J	普通	橙	15	覆土	
4	須恵坏	(14.0)			A H	良好	灰	10	覆土	

第251号住居跡 (第454・456図)

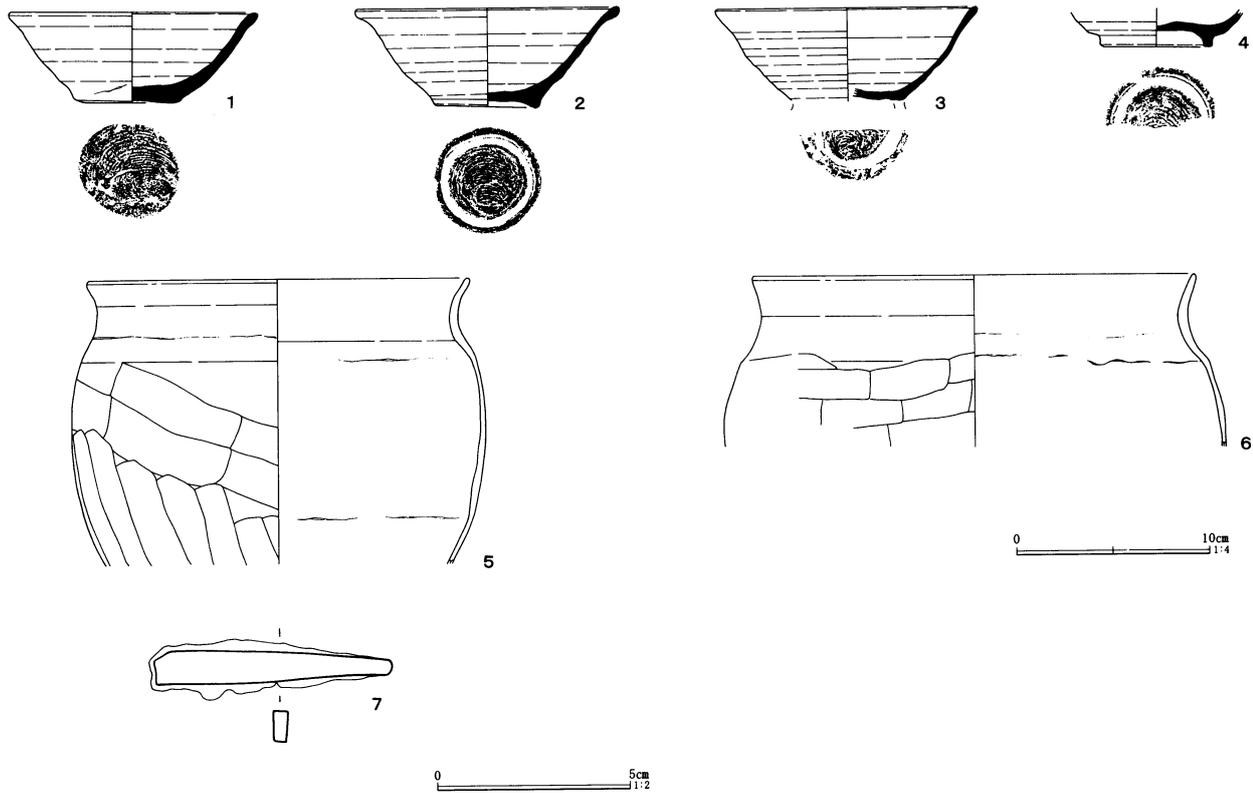
I-17・18グリッドに位置する。第246号住居跡・第477号土坑・ピットと重複している。規模は、主軸長東西4.24m、南北3.88m、深さ32cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-101°-Eを指す。

カマドは、第246号住居跡に切られ不明である。

遺物は、土師器坏・小型甕・甕、須恵器坏・埴・高台付埴・甕と鉄製品が出土した。8は鉄製刀子の刃部である。切先をわずかに欠き、現存長は6.6cm、刃幅は最大で1.1cmである。9は板状の鉄製品である。現存長は4.7cm、厚さは約0.2cmである。三角形を呈するが刃はなく用途は不明である。



第454図 第246・251号住居跡



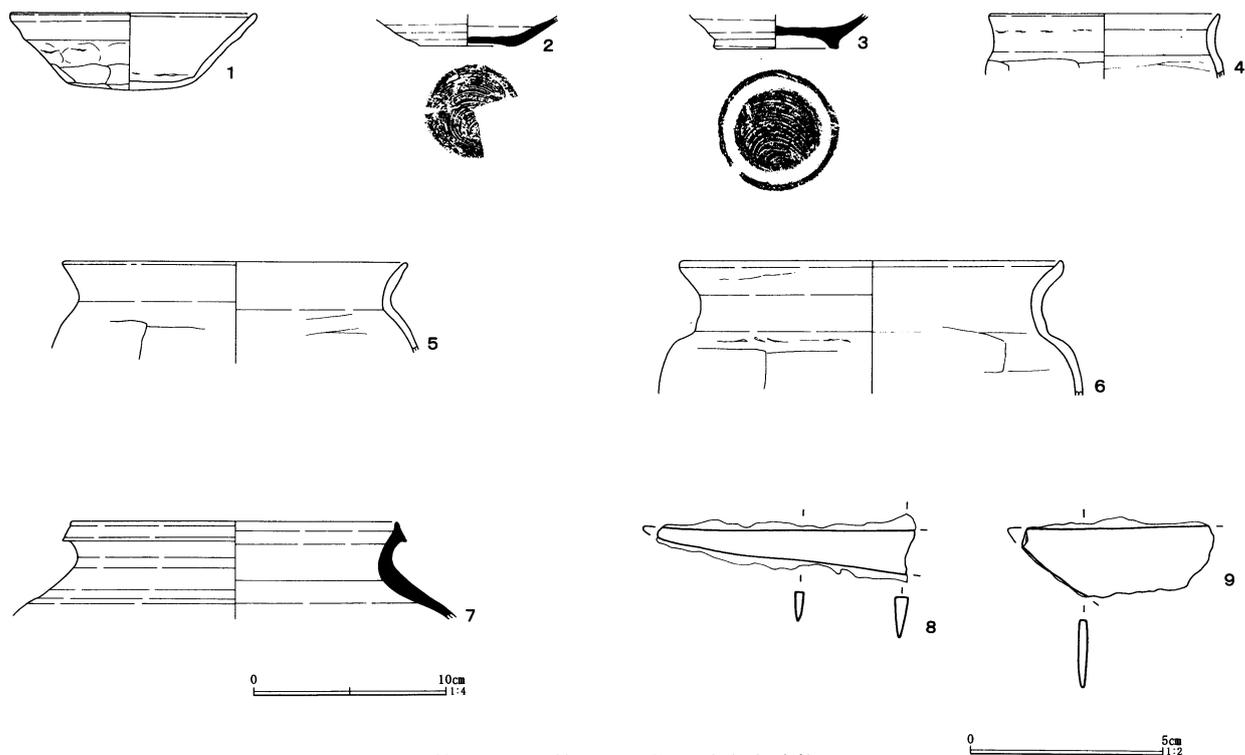
第455図 第246号住居跡出土遺物

第246号住居跡出土遺物観察表 (第455図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(13.0)	4.7	5.4	A F J K	普通	灰	40	貯蔵穴	歪み大きい
2	須恵高台坏	13.7	5.3	5.5	A C J	良好	灰	100	貯蔵穴	
3	須恵高台坏	(13.4)			A J	良好	灰	20	覆土	高台剥離
4	須恵高台坏			(5.8)	A C J K	良好	灰	40	覆土	
5	土師甕	(19.6)			A B J	普通	にぶい橙	25	貯蔵穴	
6	土師甕	(22.8)			A C F J	普通	橙	20	貯蔵穴	

第251号住居跡出土遺物観察表 (第456図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	4.0	6.6	A B F J	普通	橙	70	床直	
2	須恵坏			5.0	A J K	良好	灰	60	覆土	底部右回転糸切り
3	須恵高台坏			6.5	A I J K	良好	灰	90	床直	底部右回転糸切り
4	土師小型甕	(12.0)			A B J	普通	にぶい橙	10	床下土坑	
5	土師甕	(17.6)			B F J	普通	橙	20	掘り方	
6	土師甕	(19.7)			B F J	普通	橙	10	掘り方	
7	須恵甕	(17.0)			A F J K	普通	灰黄褐	10	掘り方	内外面の磨耗著しい



第456図 第251号住居跡出土遺物

第248号住居跡 (第457・458図)

K-16・17グリッドに位置する。第239・260号住居跡、第447号土坑と重複し、住居跡・土坑すべてに切られている。規模は、北壁で東西2.82m、確認できた南北0.77m、深さ46cm程を測る。平面形は、不明である。北壁を基準とすると主軸方位は、N-96°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏が出土した。

第260号住居跡 (第457・459図)

K-16・17グリッドに位置する。第236・239・248・261号住居跡・第441・447・449号土坑と重複し、第236・239号住居跡・土坑に切られ、第248・261号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西7.10m、西壁で南北4.84m、深さ55cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-95°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。土坑・住居跡に切られ、煙道部のみで、120cmが確認できた。

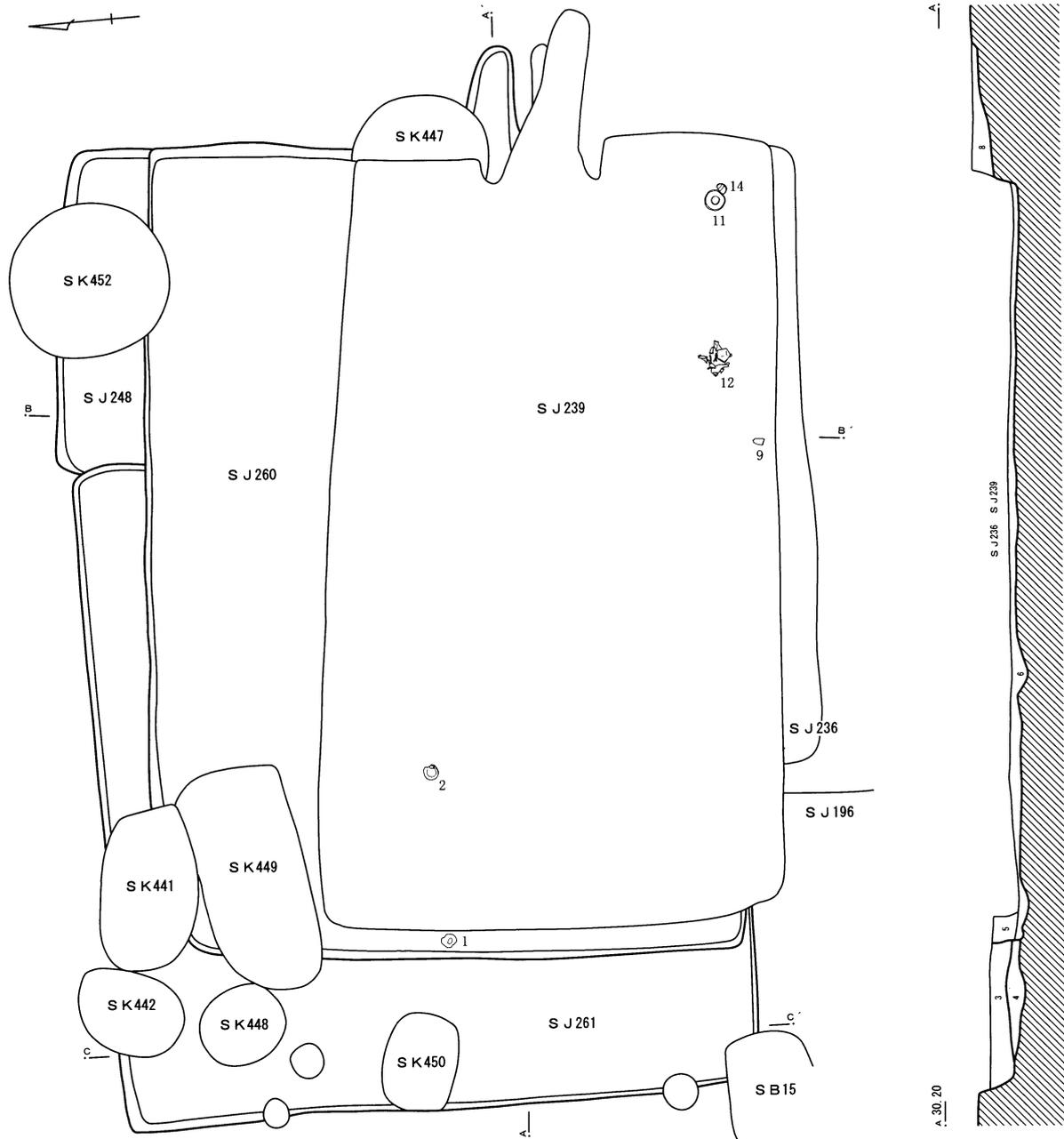
遺物は、土師器坏・小型甕・甕、須恵器坏・高台付壺・皿、灰釉陶器高台付壺が出土した。

第261号住居跡 (第457・460図)

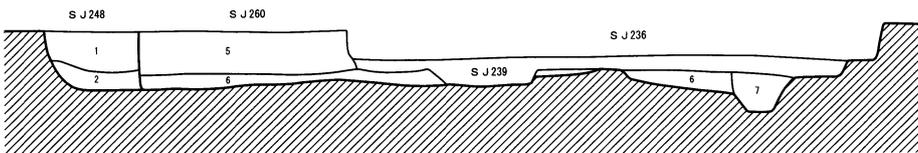
K-16グリッドに位置する。第248・260号住居跡・第441・442・448・449・450号土坑・第15号掘立柱建物跡と重複し、第248号住居跡を切り、他の遺構に切られている。規模は、北壁で主軸長東西5.86m、南北5.58m、深さ18cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-92°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

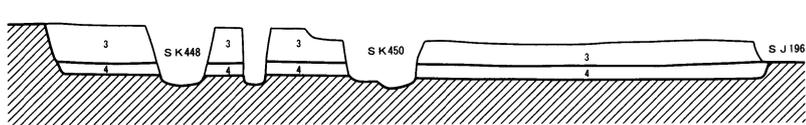
遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付壺、緑釉陶器破片、土錘と鉄製品が出土した。6は鉄製鎌である。およそ半分を欠損する。現存長は7.3cm、刃部幅は残存部で2.9cmである。7は鉄製刀子である。茎先を欠き、現存長は8.7cm、刃長7.2cm、刃幅0.6~1.2cmである。茎の表面にはわずかに柄木の痕跡が見られる。8は鉄製刀子の切先部分である。現存長2.6cm、刃幅最大1.2cmである。9は用途不明の鉄製品である。厚さ約0.1cmの鉄板を折り曲げている。現存長は3.7cmである。



B. 30. 20



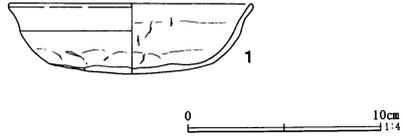
C. 30. 20



- 第248・260・261号住居跡
- 1 暗褐色土 白色粒・焼土粒・黄褐色土粒多量 (S J 248)
 - 2 暗褐色土 焼土粒多量 黄褐色土粒少量 (S J 248)
 - 3 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量 (S J 261)
 - 4 暗灰色土 焼土粒少量 灰色粘土多量 (S J 261貼り床)
 - 5 暗褐色土 焼土粒多量 炭化物少量 (S J 260)
 - 6 暗灰色土 灰色粘土主体 焼土粒微量 (S J 260)
 - 7 暗灰色土 黄褐色土ブロック少量 黄褐色土粒少量
 - 8 暗褐色土 焼土粒多量 灰色粘土ブロック少量

0 2m 1.00

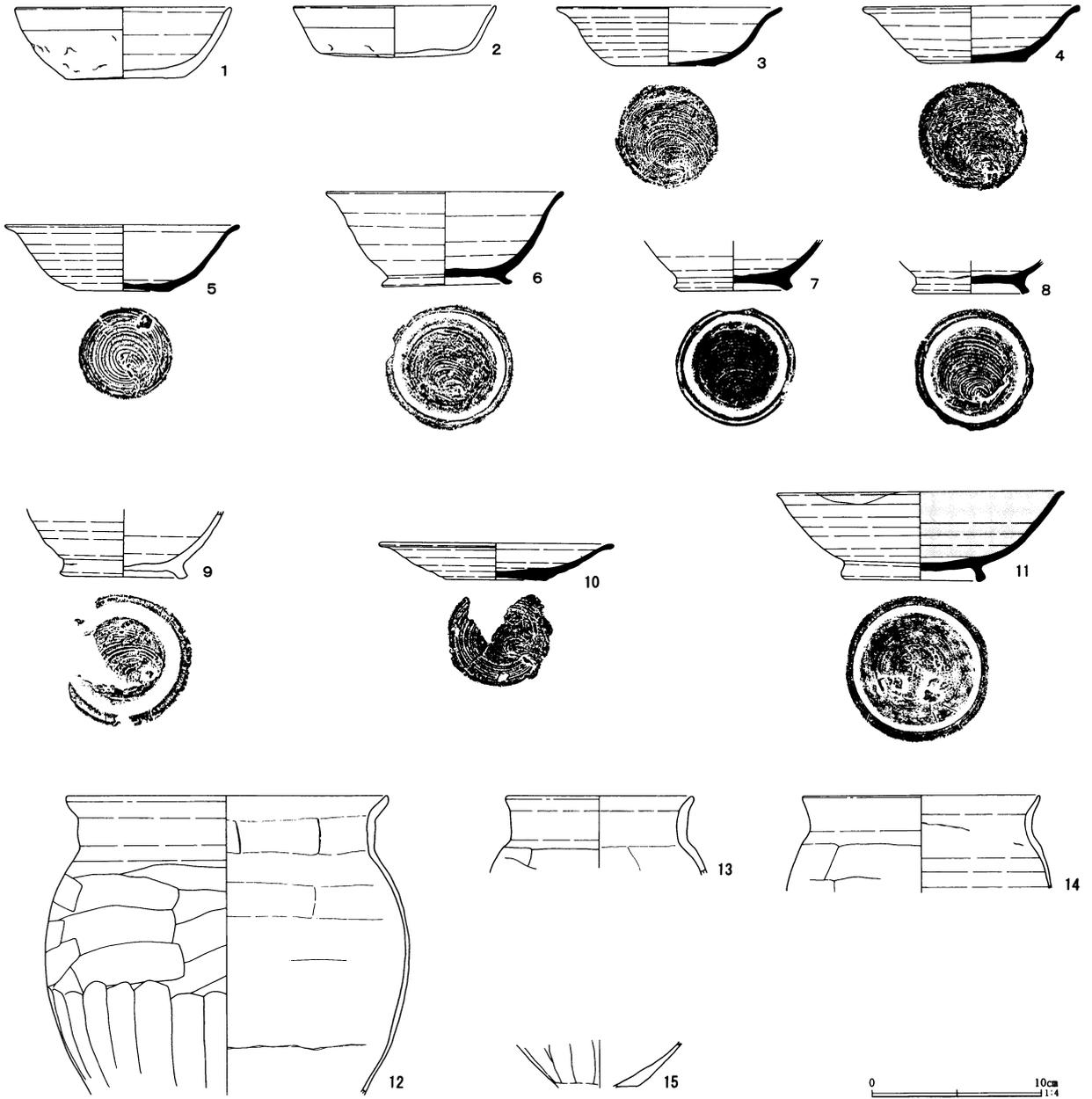
第457図 第248・260・261号住居跡



第 458 図 第 248 号住居跡出土遺物

第 248 号住居跡出土遺物観察表 (第 458 図)

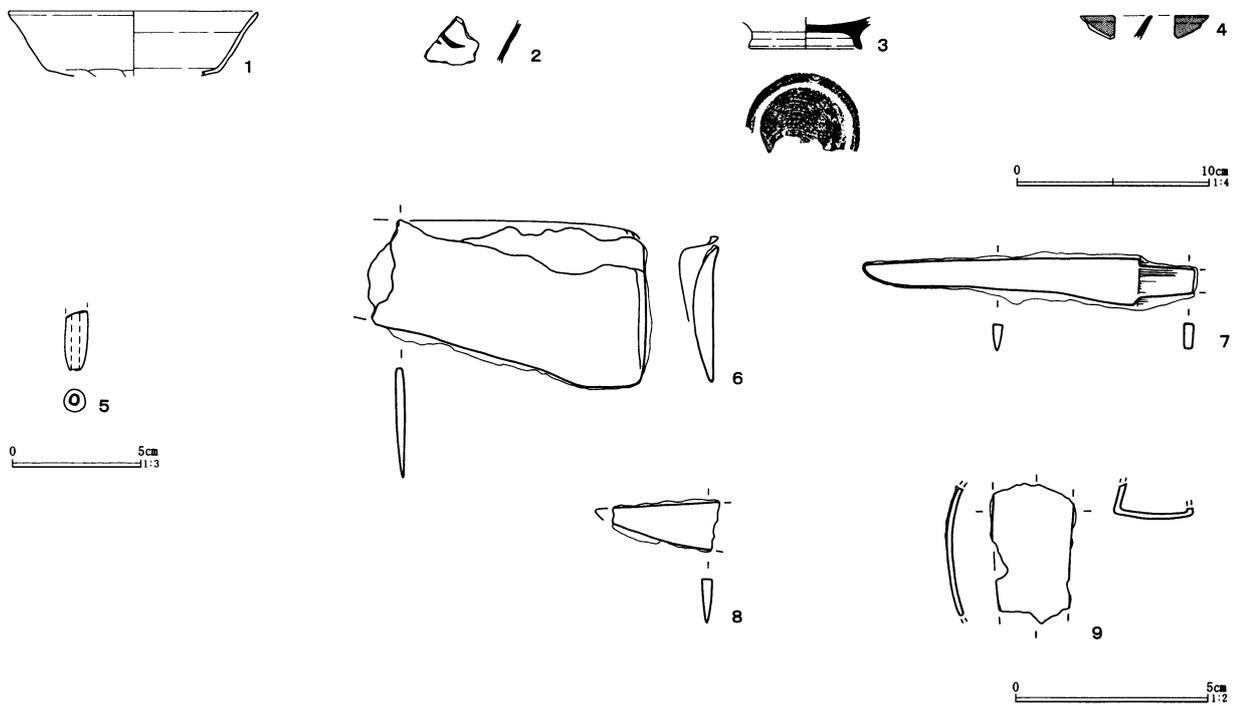
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	3.7	8.6	A B J	普通	にぶい橙	70	覆土	



第 459 図 第 260 号住居跡出土遺物

第 260 号住居跡出土遺物観察表 (第 459 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.8	4.3	7.0	A B F J	普通	橙	90	覆土	体部内面ロクロ痕 底部外面一方向ヘラ削り
2	土師坏	12.0	3.0	8.8	A B F J	普通	橙	95	床直	
3	須恵坏	13.4	3.5	6.0	A J K	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
4	須恵坏	12.8	3.4	6.4	A J K	良好	灰	70	床直	やや歪みあり 底部回転糸切り
5	須恵坏	(13.6)	3.9	5.5	A F J K	普通	灰	40	覆土	底部のみ酸化焰焼成
6	須恵高台埴	(14.0)	5.7	7.6	A C J K	良好	灰	80	覆土	底部回転糸切り
7	須恵高台埴			7.0	A D J	普通	灰	60	覆土	底部回転糸切り
8	須恵高台埴			7.0	A C J K	普通	灰	90	覆土	底部右回転糸切り
9	土師高台埴			7.5	A F J K	良好	明赤褐	60	覆土	底部回転糸切り
10	須恵皿	(13.8)	2.2	6.0	A C J K	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
11	灰釉高台埴	17.0	5.3	8.5	A G	良好	黄灰	100	覆土	高台内ヘラ削り 施釉ハケヌリ 東濃産
12	土師甕	(18.9)			A F J K	普通	にぶい黄橙	80	床直	
13	土師小型甕	(10.8)			A B C F	普通	橙	30	覆土	
14	土師小型甕	(13.9)			A B F G	普通	にぶい赤褐	20	覆土	
15	土師台付甕				A D F	普通	にぶい赤褐	40	覆土	



第 460 図 第 261 号住居跡出土遺物

第 261 号住居跡出土遺物観察表 (第 460 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.9)			F	普通	暗灰黄	10	掘り方	
2	須恵坏				A	普通	灰	破片	覆土	外面に墨書
3	須恵高台埴			5.9	A G	普通	灰	60	覆土	
4	緑釉陶器						—	破片	覆土	
5	土錘	長さ (2.4)		径 0.85	孔径 0.4	普通	橙	40	覆土	

第249号住居跡 (第461・462図)

N-13・14グリッドに位置する。北東部は調査区域外となっている。第531・532・534号土坑・第75号土溝と重複し、土坑すべてと溝に切られている。北壁・南壁の一部が確認されたのみで規模は、北壁2.25m、南壁4.05m、深さ20cm程を測る。東西方向を基準とすると主軸方位は、N-89°-Eを指す。

壁溝は、壁が確認されたところではすべて確認され、幅7~13cm、深さ10~13cmを測る。

貯蔵穴2基が検出され、住居跡南東隅に設けられたものと推定される。貯蔵穴1は、南壁寄りに設けられており、79cm×42cmの楕円形で、深さ14cmを測る。貯蔵穴2は、貯蔵穴1の西で南壁寄りに設けられており、50cm×38cmの円形で、深さ40cmを測る。

カマドは、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・台付甕、須恵器坏・高台付碗・皿、土製紡錘車が出土した。

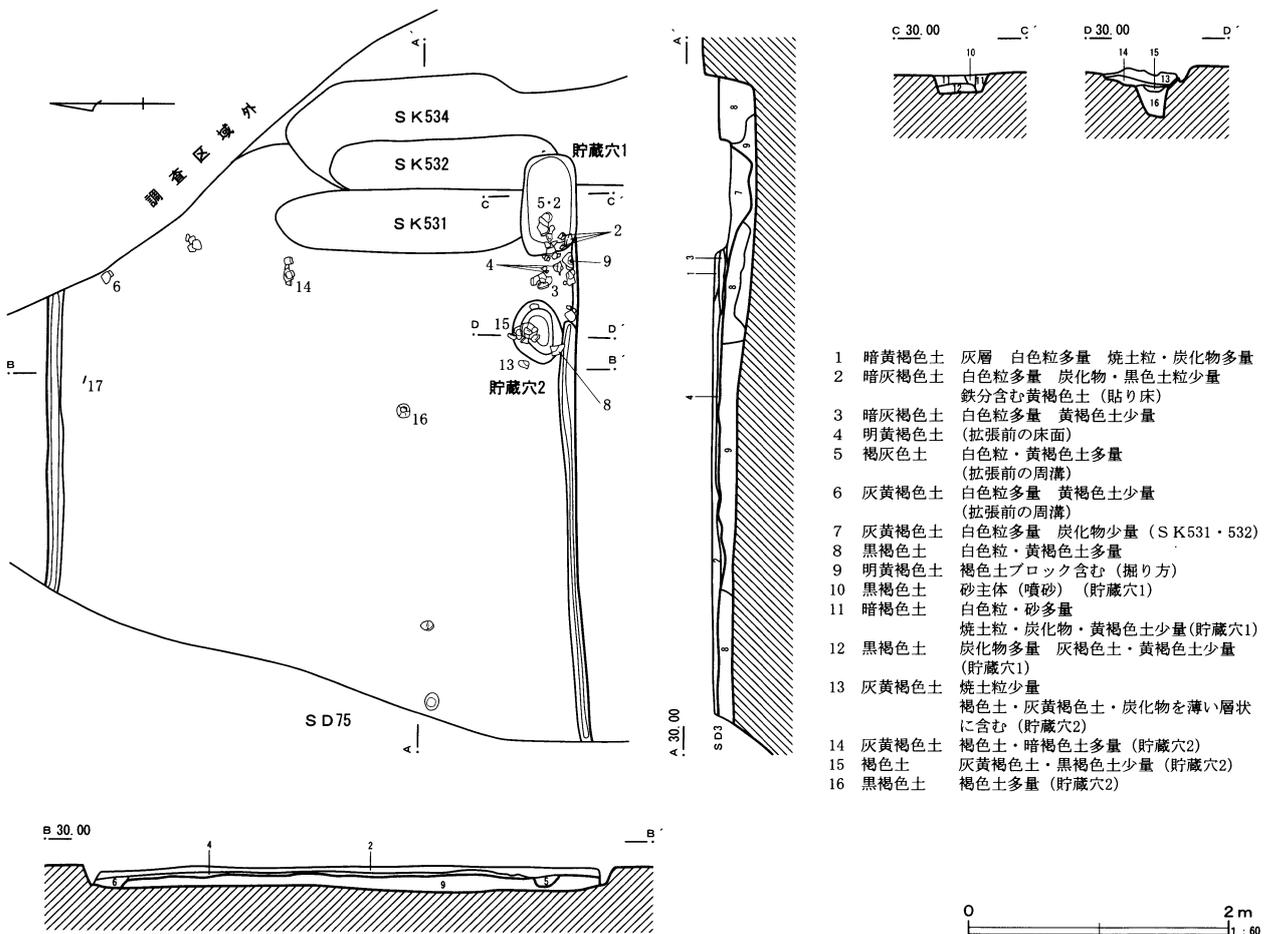
第252号住居跡 (第463・464図)

J・K-16グリッドに位置する。第218・229号住居跡・第380・415・555号土坑と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西4.72m、南北3.74m、深さ32cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-95°-Eを指す。

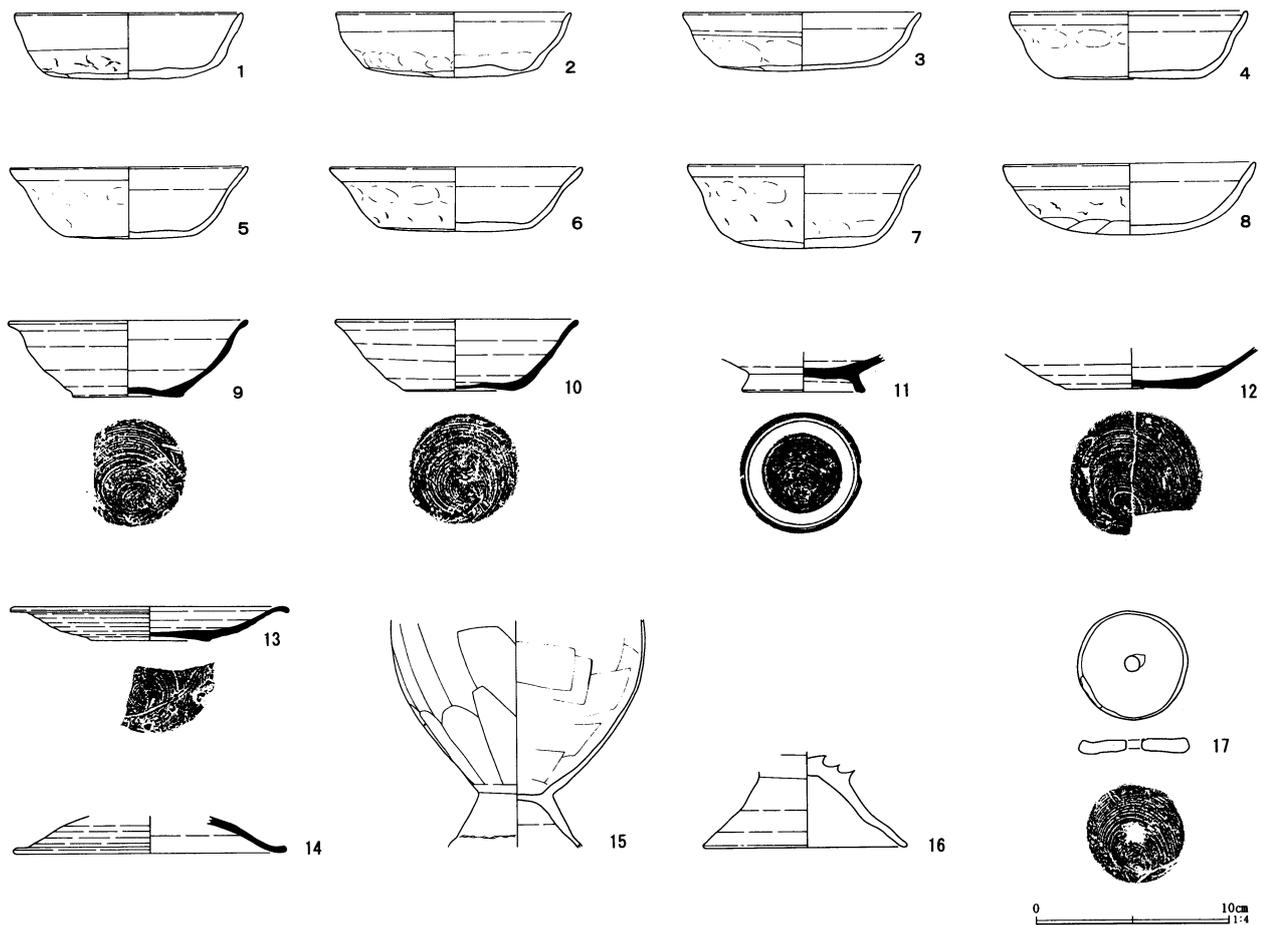
壁溝は、カマドを除きほぼ全周し、幅13~15cm、深さ5~8cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。カマド東半が土坑に切られているため、燃烧部は、105cm×53cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台付碗、須恵器坏・高台付碗・(長頸)瓶、灰釉陶器高台付碗、緑釉陶器高台と砥石が出土した。



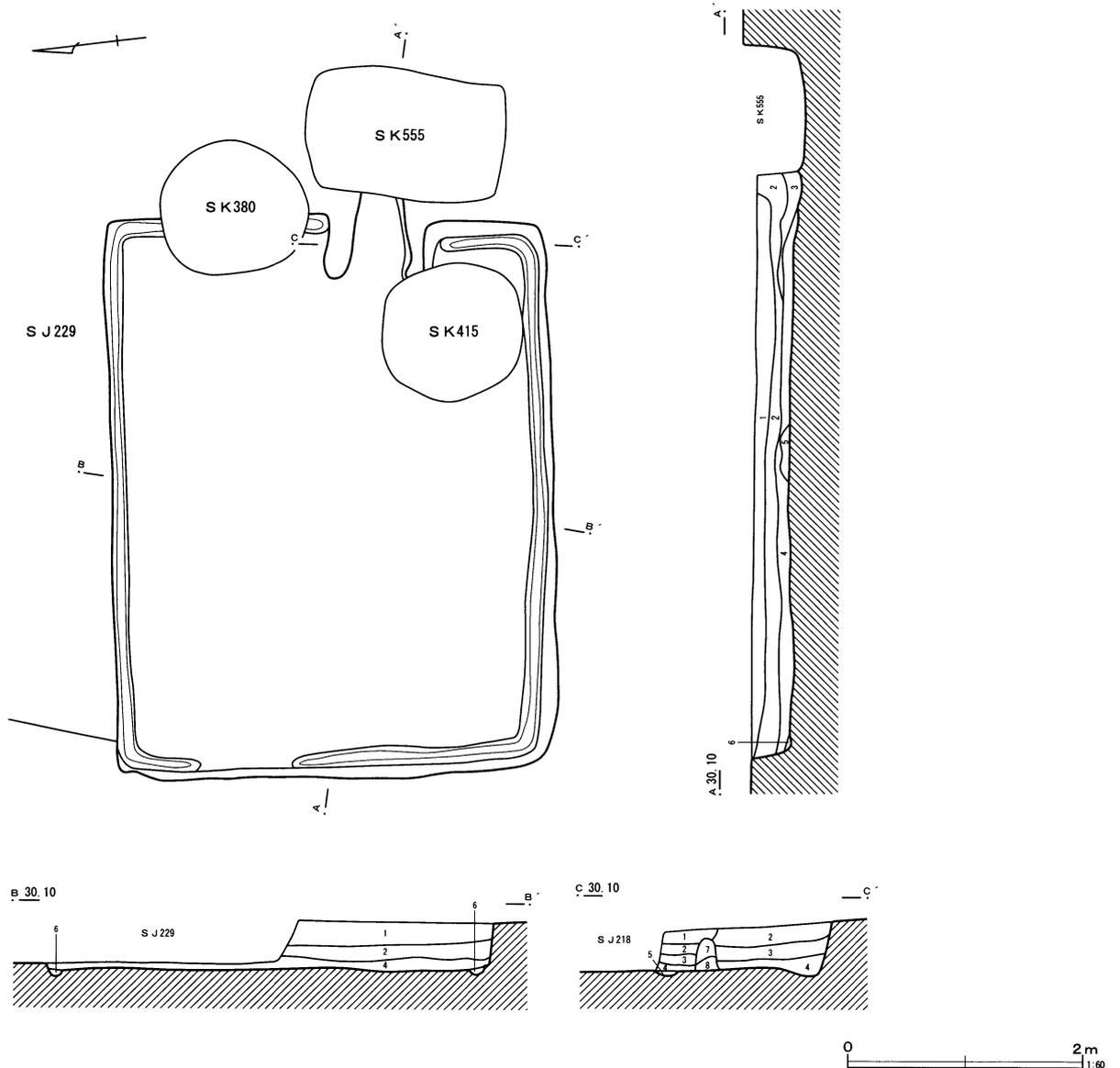
第461図 第249号住居跡



第 462 図 第 249 号住居跡出土遺物

第 249 号住居跡出土遺物観察表 (第 462 図)

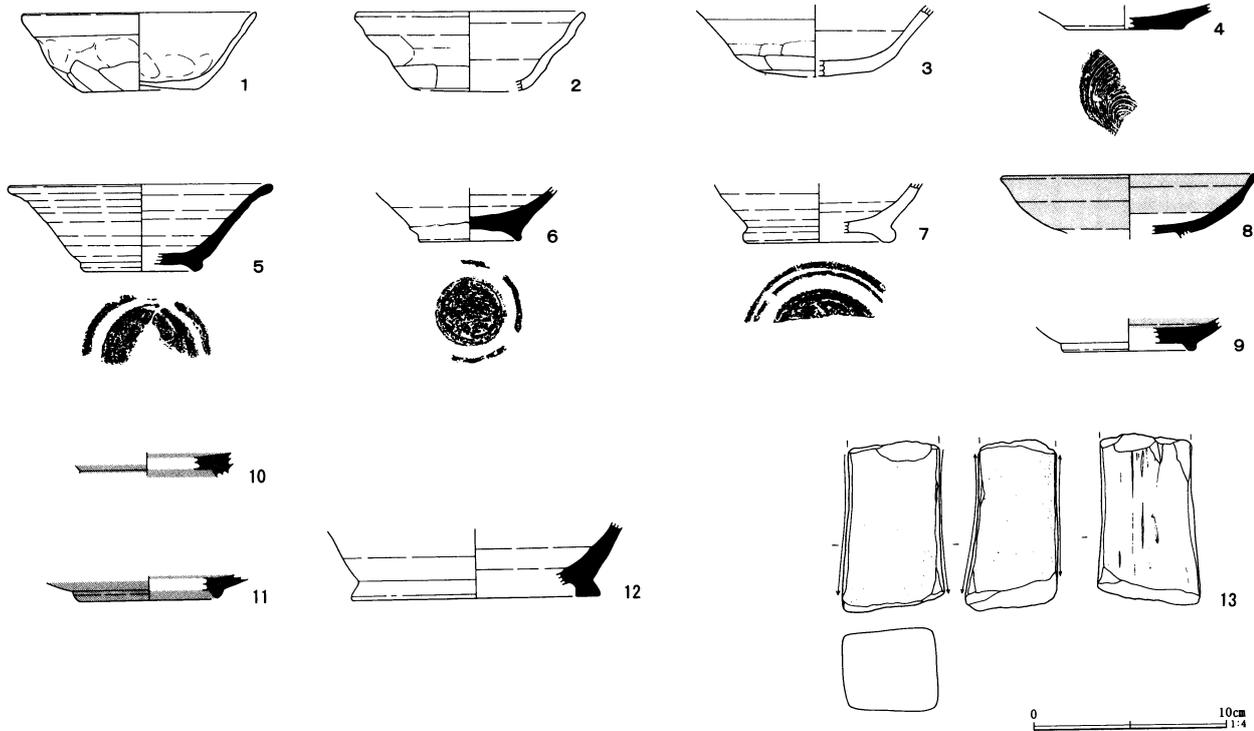
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.8	3.5	9.3	A F J	普通	橙	80	覆土	
2	土師坏	12.2	3.4	8.8	A B J	普通	橙	95	貯蔵穴 1	
3	土師坏	12.4	3.1	8.5	A B J K	普通	にぶい赤褐	85	床直	
4	土師坏	(12.2)	3.6	(7.4)	B F J	普通	橙	25	床直	
5	土師坏	(12.4)	3.7	(6.6)	F J	普通	橙	40	床直	
6	土師坏	(13.0)	3.4	(8.0)	F J	普通	橙	30	床直	やや歪みあり
7	土師坏	(12.0)	4.4		F J	普通	橙	40	覆土	やや歪みあり
8	土師坏	(13.0)	3.7		A B D J	普通	にぶい橙	40	貯蔵穴 2	
9	須恵坏	12.4	4.0	5.7	A J K	良好	灰	60	床直	底部回転糸切り
10	須恵坏	12.7	3.8	5.8	A J K	普通	灰白	95	貯蔵穴 2	底部回転糸切り
11	須恵高台碗			6.3	A F J K	普通	灰	70	覆土	底部回転糸切り
12	須恵皿			7.1	A B J K	普通	にぶい黄褐	70	覆土	
13	須恵皿	(14.6)	1.8	(6.2)	A J K	良好	灰	15	床直	底部に糸引き痕
14	須恵蓋	14.2			A G	普通	灰	60	床直	
15	土師台付甕				A C	良好	にぶい赤褐	90	貯蔵穴 2	
16	土師台付甕			10.4	A C	普通	橙	95	床直	外面一部に油煙付着
17	土製紡錘車	径 5.7 × 5.7	厚さ 0.7	孔径 0.8		良好	灰	100	覆土	須恵器底部の転用 周縁部研磨



- 1 暗灰褐色土 焼土粒少量 炭化物微量 灰色粘土多量
- 2 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物・灰色粘土少量
- 3 暗灰褐色土 灰層 焼土粒・炭化物・灰色粘土多量 灰が帯状に堆積
- 4 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物・灰色粘土・褐色土ブロック多量

- 5 暗黄褐色土 炭化物・灰色粘土微量
- 6 暗褐色土 炭化物微量
- 7 暗灰褐色土 焼土粒・灰色粘土少量 炭化物微量
- 8 暗褐色土 焼土粒やや多量 炭化物微量 灰色粘土少量

第463図 第252号住居跡



第 464 図 第 252 号住居跡出土遺物

第 252 号住居跡出土遺物観察表 (第 464 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.2	4.2	6.0	A B F J K	普通	橙	80	覆土	底部周辺手持ちヘラ削り
2	土師坏	(11.7)		(6.0)	B J	普通	にぶい褐	20	覆土	
3	土師坏			(5.8)	A F J	普通	灰褐	20	覆土	
4	須恵坏			(6.0)	A K	普通	灰	25	覆土	
5	須恵高台碗	(13.8)	4.5	(6.4)	F J K	普通	黄灰	60	覆土	
6	須恵高台碗			5.4	A C F J	普通	灰	70	覆土	底部外面墨書か?
7	土師高台碗			(8.0)	A B D F J K	普通	灰黄褐	40	覆土	ロクロ土師器
8	灰釉高台碗	(13.1)			G	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 高台欠損 浜北産
9	灰釉高台碗			(6.9)	F G	普通	灰白	20	覆土	高台内ヘラ削り 施釉内面ハケヌリ 二川産
10	緑釉高台				J	普通	—	10	覆土	猿投産
11	緑釉高台			(7.2)	G J	不良	—	10	覆土	猿投産
12	須恵瓶			(12.8)	A J	普通	灰	15	覆土	
13	砥石	長さ9.0 幅5.4 厚さ4.8			—	—	—	—	覆土	

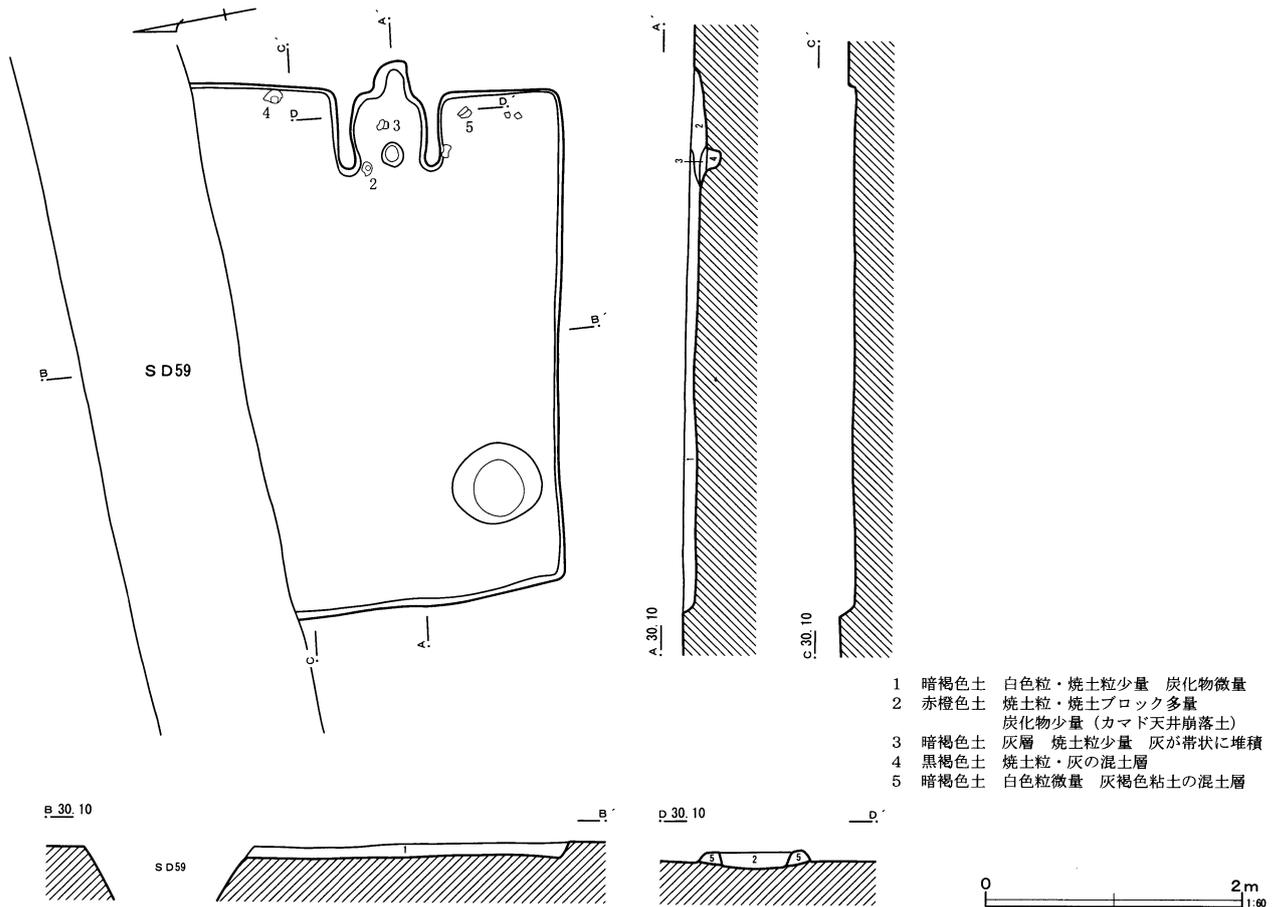
第 254 号住居跡 (第 465・466 図)

L-18 グリッドに位置する。第 255 号住居跡・第 59 号溝と重複し、溝に北側が切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長東西 3.89 m、確認できた東壁で南北 2.76 m、深さ 10cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-97°-E を指す。

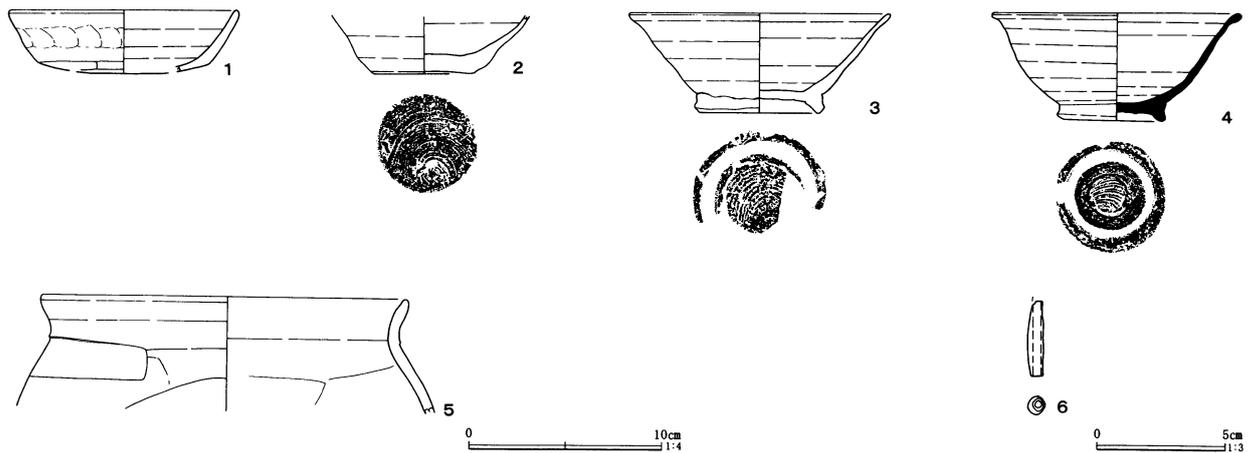
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、95cm × 57cm で床面と同じ高さである。

南西隅に土坑が確認され、径 70cm × 62cm、深さ 37cm を測る。

遺物は、土師器坏・高台付碗・土師器甕、須恵器坏・高台付碗と土錘が出土した。



第465図 第254号住居跡



第466図 第254号住居跡出土遺物

第255号住居跡 (第467・468図)

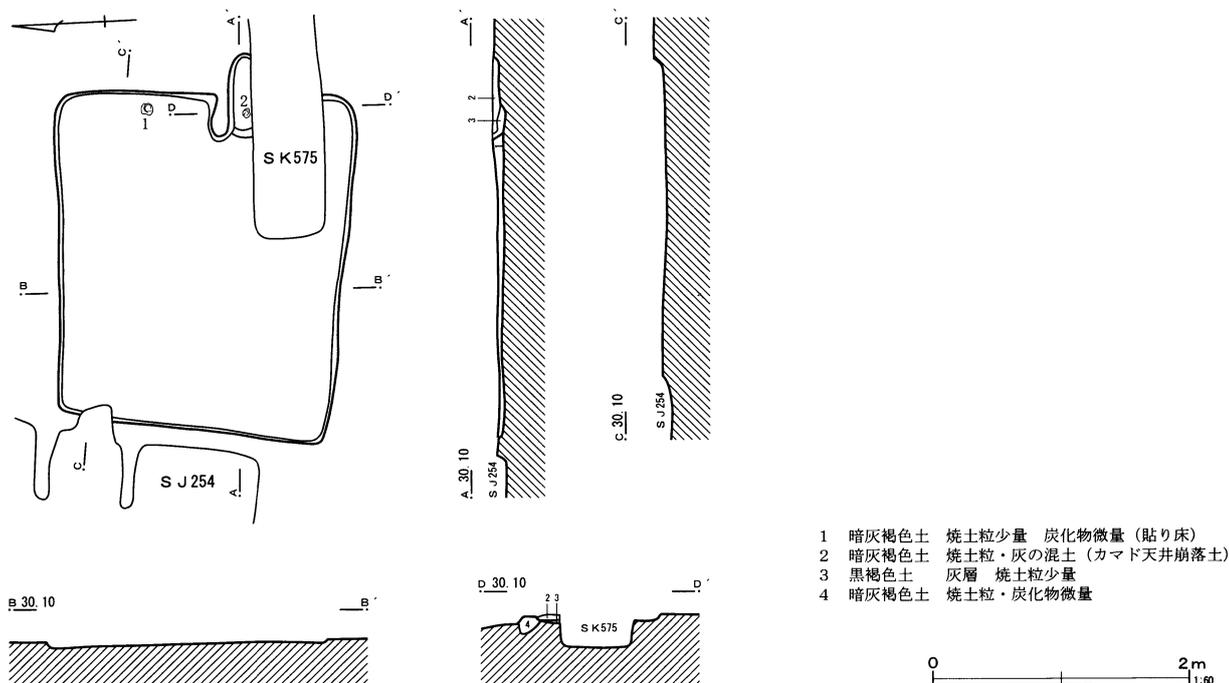
L-18グリッドに位置する。第254号住居跡・第575号土坑と重複し、両遺構から切られている。規模は、主軸長東西2.66m、南北2.30m、深さ4cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。カマドの南半は、第575号土坑に切られている。燃烧部は、65cmが残存していた。

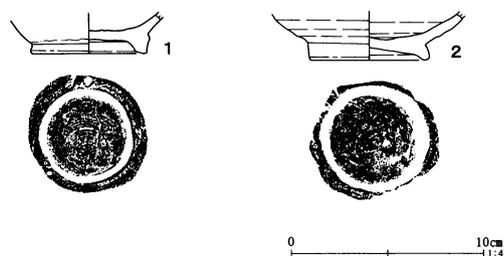
遺物は、須恵器高台付壺、土師器高台付壺が出土した。

第 254 号住居跡出土遺物観察表 (第 466 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(10.8)		(8.8)	A C F	普通	にぶい橙	20	覆土	酸化焰焼成 ロクロ土師器
2	須恵坏			5.2	A B F J	普通	浅黄橙	60	カマド	
3	土師高台埴	(13.6)	5.2	6.8	A B F J	不良	橙	40	カマド	
4	須恵高台埴	13.0	5.6	5.7	A B J	普通	にぶい橙	70	床直	
5	土師甕	(18.9)			B F G J	良好	にぶい黄橙	15	覆土	
6	土錘	長さ (2.9)		径 0.6 孔径 0.3		普通	浅黄	90	覆土	



第 467 図 第 255 号住居跡



第 468 図 第 255 号住居跡出土遺物

第 255 号住居跡出土遺物観察表 (第 468 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台坏			6.0	A J	普通	にぶい橙	80	覆土	酸化焰焼成 底部内面螺旋状ヘラ痕
2	土師高台埴			5.1	B G J	普通	浅黄橙	40	カマド	ロクロ土師器

第 256 号住居跡 (第 469・470 図)

L-18・19 グリッドに位置する。第 265・310 号住居跡・第 574 号土坑・第 59 号溝と重複し、第 310 号住居跡を切り、他のすべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西 3.64 m、南北 4.72 m、深さ 15cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-95°-E を指す。

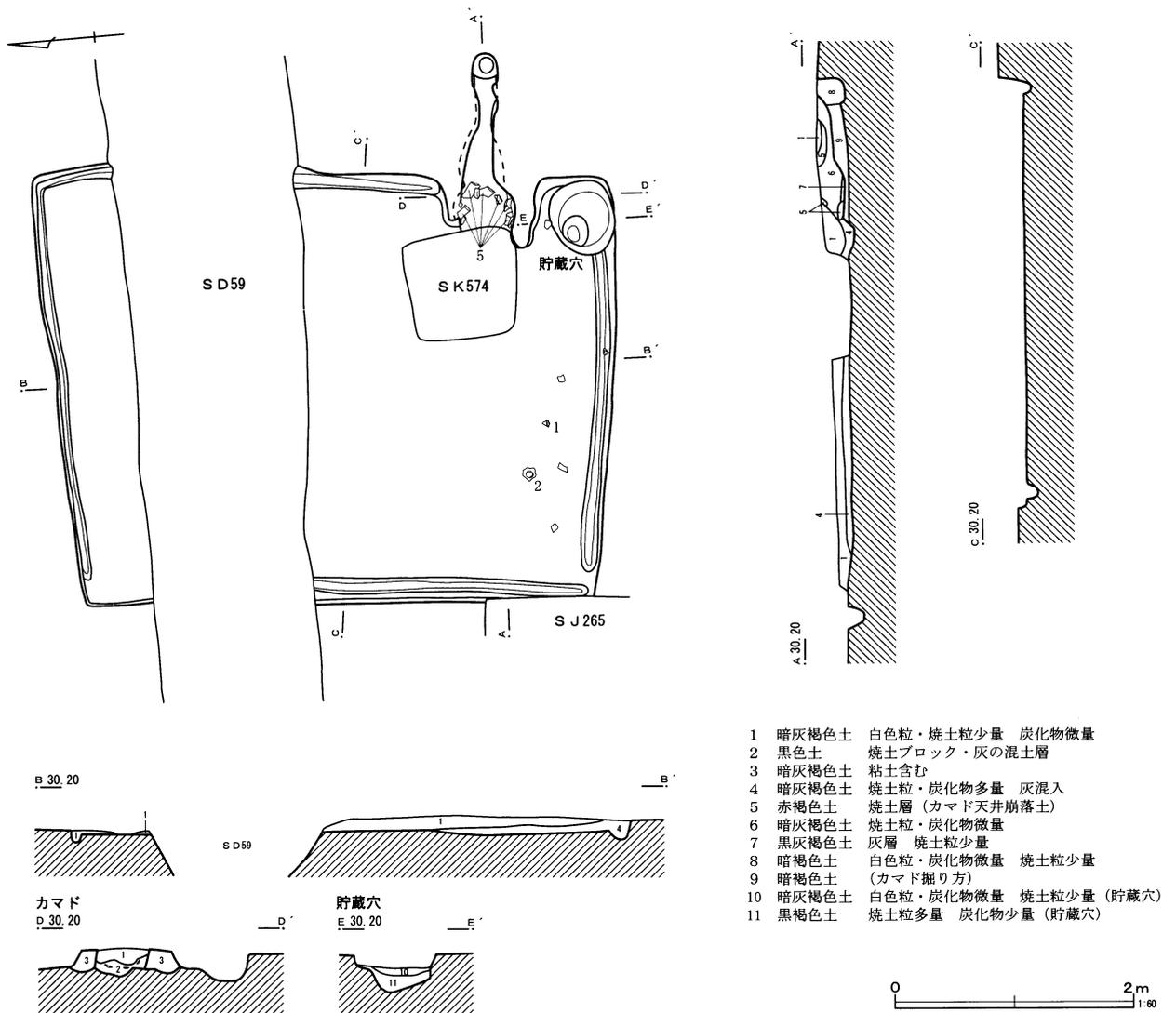
壁溝は、カマド部分を除きほぼ全周し、幅 13cm 程、深さ 10~12cm を測る。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、径 63cm × 53cm の円形で、深さ 33cm を測る。

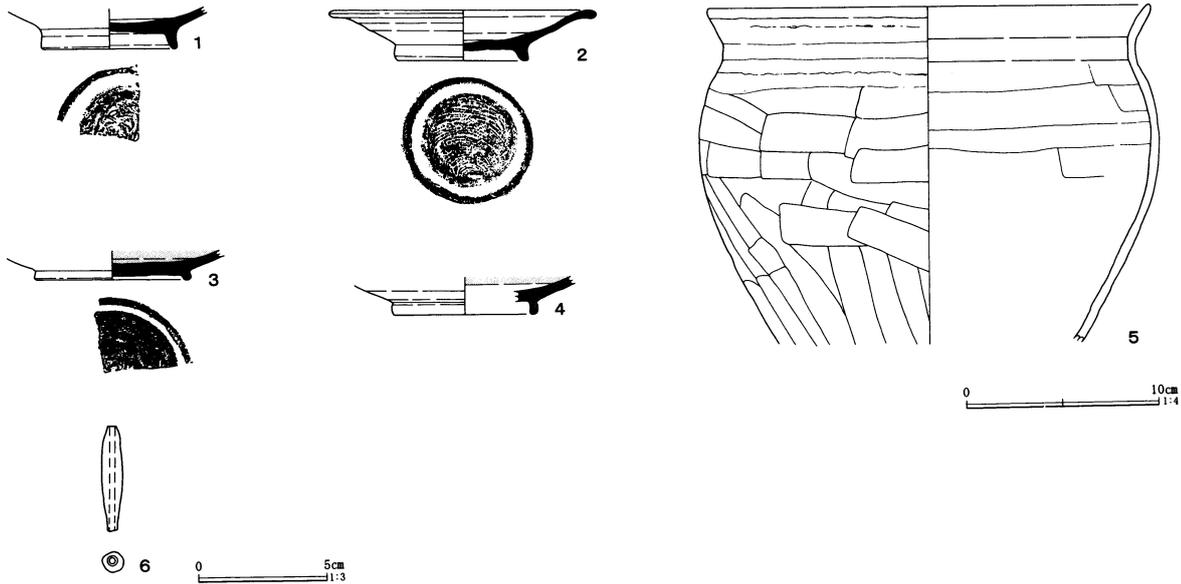
カマドは、東壁で南に片寄って設けられている。

カマド前は土坑に切られているため確認できた燃焼部は、80cm × 43cm、深さ 5cm 程が残存していた。煙道部は、長さ 120cm が確認できた。

遺物は、須恵器高台付皿、土師器甕、灰釉陶器高台付皿と土錘が出土した。



第 469 図 第 256 号住居跡



第470図 第256号住居跡出土遺物

第256号住居跡出土遺物観察表 (第470図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台皿			(6.9)	A J	良好	灰黄褐	20	覆土	
2	須恵高台皿	(14.9)	2.7	6.7	A J	普通	灰	35	覆土	
3	灰釉高台皿			(7.8)	A G K	普通	灰白	20	覆土	高台内へラ削り 施釉内面ハケヌリ 二川産
4	灰釉高台皿			(7.4)	G	良好	灰白	15	カマド	高台内へラ削り 施釉内面ハケヌリ一筆内面に重ね焼き痕 二川産
5	土師甕	22.8			A B F G	良好	にぶい橙	60	カマド	
6	土錘	長さ4.1	径0.8	孔径0.2		普通	浅黄橙	100	覆土	

第257号住居跡 (第471図)

K・L-17・18グリッドに位置する。第238号住居跡・第59・66号溝と重複し、南側は第59号溝に切れ、住居跡に上部が切られている。中央南北方向に第66号溝が切っている。規模は、主軸長東西4.00m、確認できた南北2.26mが残存し、深さ17cm程を測る。主軸方位は、N-89°-Eを指す。

壁溝は、カマド部分を除き全周し、幅15~20cm、深さ8cm程を測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、74cm×60cm、深さ10cm程を測る。

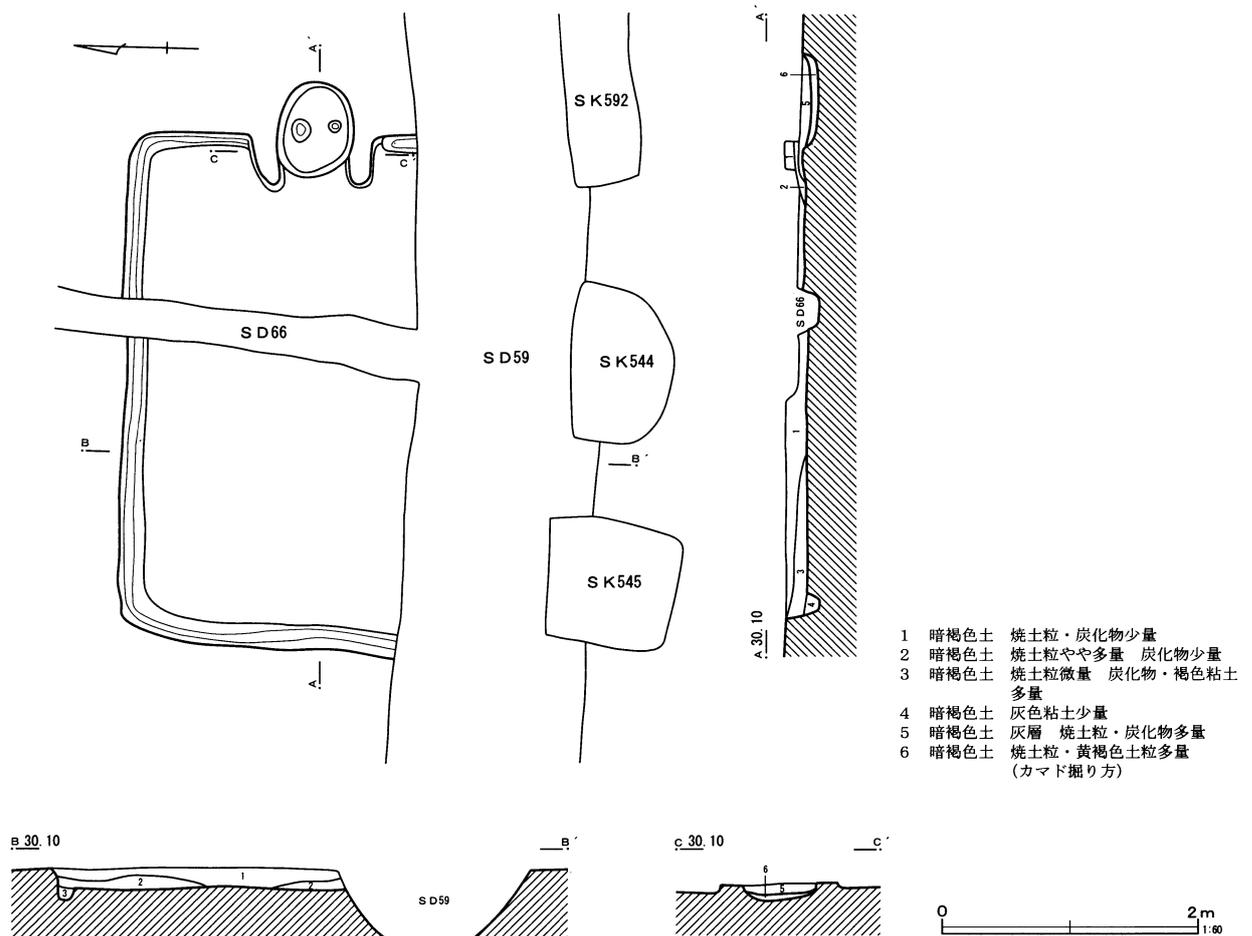
第258号住居跡 (第472・473図)

K-17・18グリッドに位置する。第495・694・695号土坑・第27・30号井戸跡・第66号溝と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西4.00m、南北3.46m、深さ19cm程を測る。平面形は、方形を呈する。東西方向を主軸とすると主軸方位は、N-69°-Eを指す。

壁溝は、全周すると推定され、幅15~22cm、深さ5~10cmを測る。

カマド等の施設は、確認されなかった。

遺物は、灰釉陶器(長頸)瓶が出土した。



第471図 第257号住居跡

第262号住居跡 (第474・475図)

J-16・17グリッドに位置する。第295号住居跡・第376・486・491・675号土坑と重複し、住居跡を切り、土坑には切られている。規模は、主軸長東西2.86m、南北3.80m、深さ16cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-99°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、81cm×84cmの円形で深さ、41cmを測る。

カマドは、東壁で南に片寄って設けられている。燃焼部は、90cm×50cm、深さ10cm程を測り、煙道部は長さ73cmが確認できた。

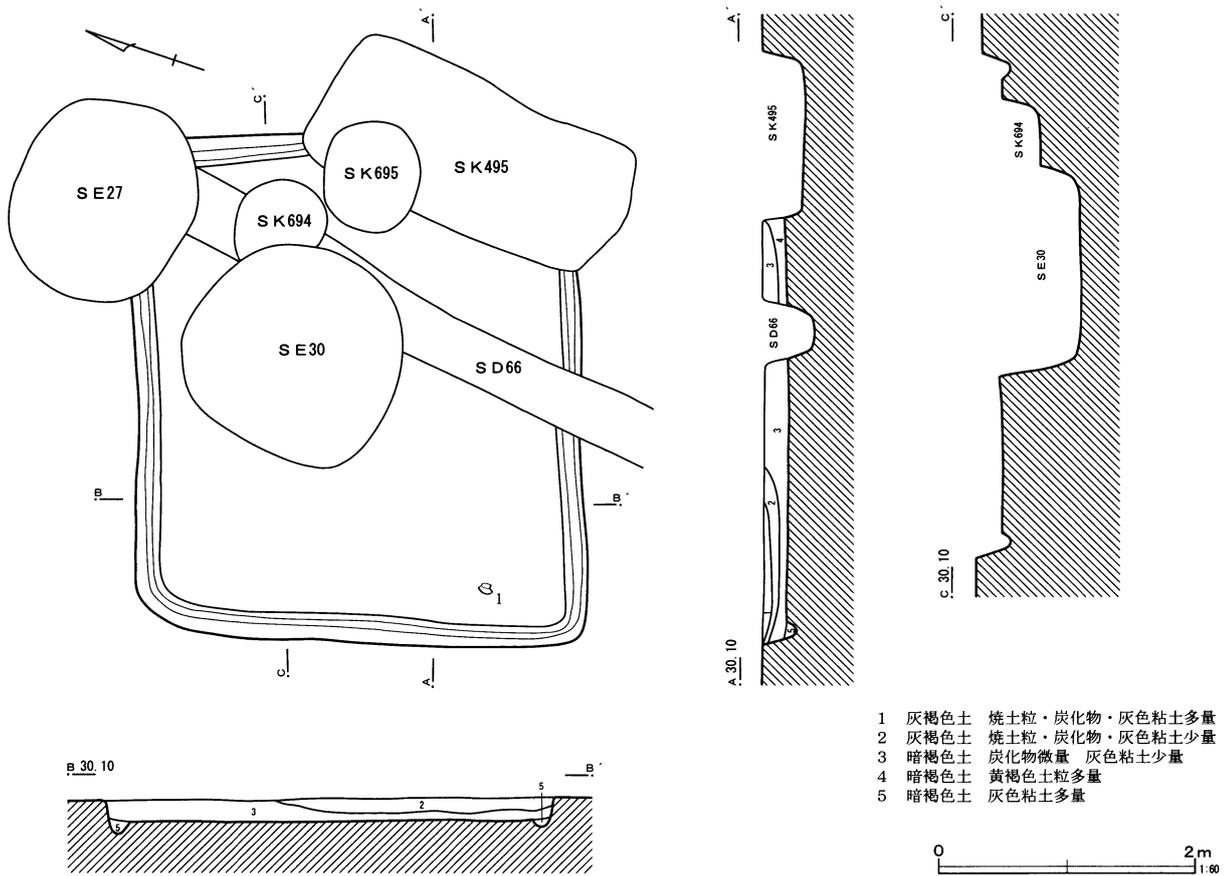
遺物は、土師器坏・高台付壘・甕、須恵器坏、砥石、土錘が出土した。

第295号住居跡 (第474・476図)

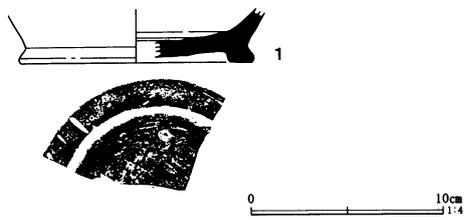
J-17グリッドに位置する。第262号住居、第486・712号土坑と重複し、住居跡・土坑に切られている。規模は、主軸長南北2.18m、北壁で東西3.00mが確認でき、深さ5cm程を測る。主軸方位は、N-10°-Eを指す。

カマドは、北壁に設けられている。カマド前は住居跡に切られており、燃焼部は80cm×50cmが残存していた。

遺物は、土師器甕が出土した。



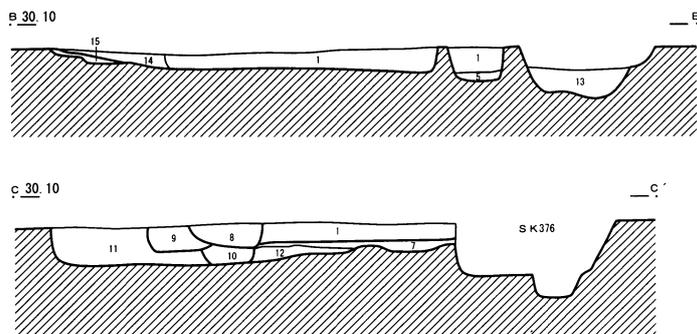
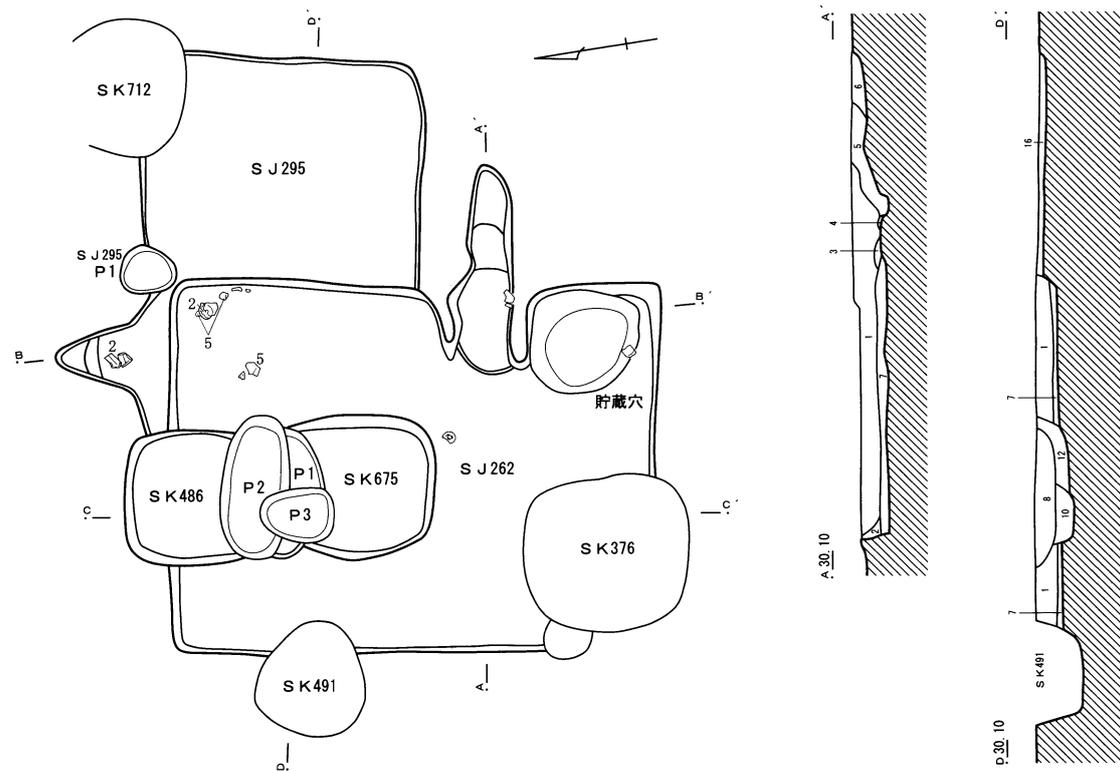
第 472 図 第 258 号住居跡



第 473 図 第 258 号住居跡出土遺物

第 258 号住居跡出土遺物観察表 (第 473 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	灰釉瓶			(12.0)	G	良好	灰白	30	覆土	高台内へラ削り 施釉なし 底部内面に自然釉



第262・295号住居跡 第486・675号土坑

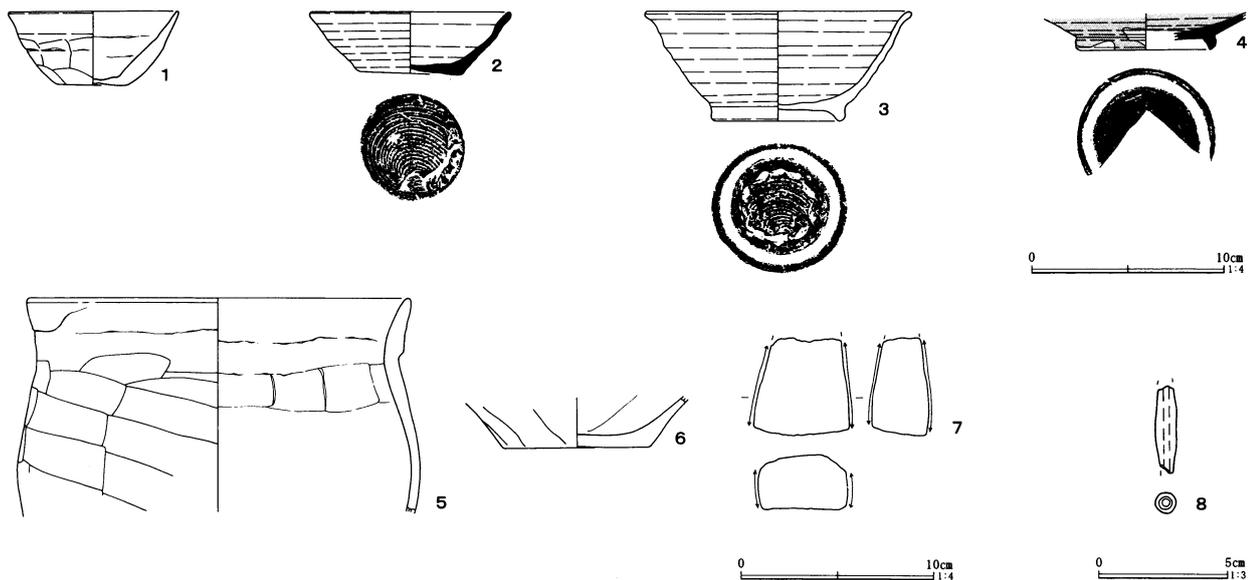
- 1 暗褐色土 白色粒少量 焼土粒多量
- 2 暗灰色土 灰白色粘土含む
- 3 黒色灰土 灰層
- 4 赤褐色土 焼土層
- 5 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量
- 6 暗褐色土 焼土粒微量
- 7 暗灰色土 焼土粒微量 灰色粘土主体(貼り床)
- 8 暗褐色土 白色粒多量 焼土粒微量(ビット1)
- 9 黒褐色土 白色粒・焼土粒・黄褐色土ブロック多量(ビット2)
- 10 黒褐色土 焼土粒少量(ビット3)
- 11 黒褐色土 白色粒・焼土粒少量 黄褐色土ブロック多量(SK486)
- 12 黒褐色土 黄褐色土ブロック少量(SK675)
- 13 暗褐色土 焼土粒・炭化物多量(貯蔵穴)
- 14 暗褐色土 焼土ブロック多量 炭化物少量(SJ295燃焼部)
- 15 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量(SJ295カマド掘り方)
- 16 暗褐色土 焼土粒多量 焼土ブロック少量



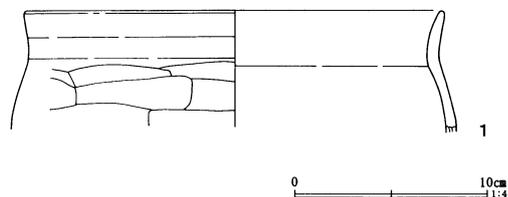
第474図 第262・295号住居跡

第262号住居跡出土遺物観察表(第475図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	9.0	3.9	3.6	ABFJ	普通	にぶい橙	80	覆土	
2	須恵坏	10.6	3.3	5.5	BFJ	普通	褐灰	100	覆土	底部回転糸切り
3	土師高台碗	(14.0)	5.7	7.0	ACFJK	普通	にぶい褐	60	貯蔵穴	ロクロ土師器
4	灰釉高台碗			7.2	A	良好	灰白	40	覆土	高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 東濃産
5	土師甕	(19.7)			AFJ	普通	にぶい黄橙	40	覆土	
6	土師甕			(7.5)	AF	良好	橙	25	覆土	
7	砥石	長さ5.1 幅4.9 厚さ2.9							覆土	
8	土錘	長さ(3.35) 径0.85 孔径0.2~0.25					灰白	80	覆土	



第475図 第262号住居跡出土遺物



第476図 第295号住居跡出土遺物

第295号住居跡出土遺物観察表 (第476図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師甕	(21.5)			ABGJ	普通	橙	20	カマド	

第263号住居跡 (第477・478図)

I・J-18・19グリッドに位置する。第635号土坑・第36号井戸跡と重複し、切られている。規模は、主軸長東西3.32m、西壁で南北2.63m、深さ3cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-106°-Eを指す。

壁構は西壁と南・北両壁の一部に確認でき、幅17~20cm、深さ7cm程を測る。

カマドは、東壁で南に片寄って設けられている。燃焼部は、97cm×55cm、深さ8cmを測り、煙道部は長さ48cmが確認できた。

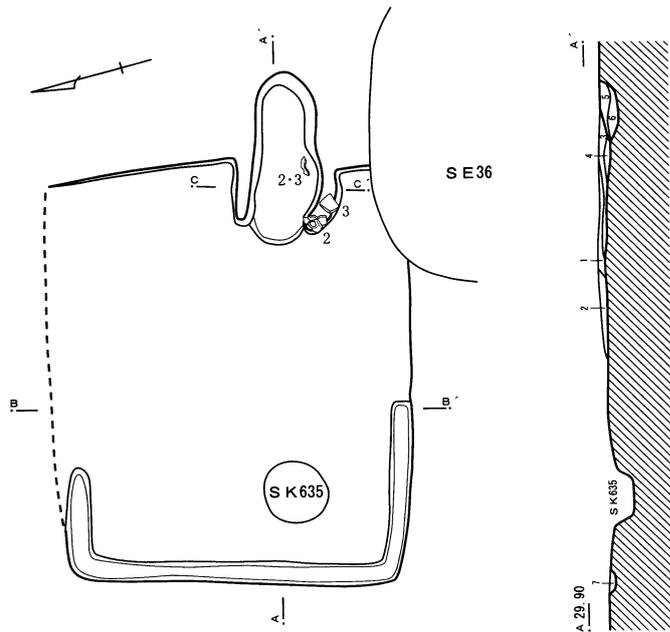
遺物は、土師器坏・高台付碗・羽釜が出土した。

第264号住居跡 (第479・480・481図)

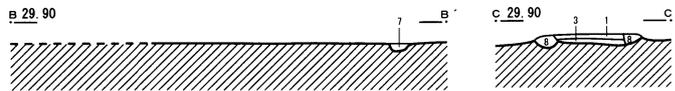
L・M-19グリッドに位置する。第312号住居と重複し、切っている。規模は、主軸長東西3.38m、南北4.90m、深さ19cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東に設けられており、60cm×84cmの楕円形で、深さ48cmを測る。

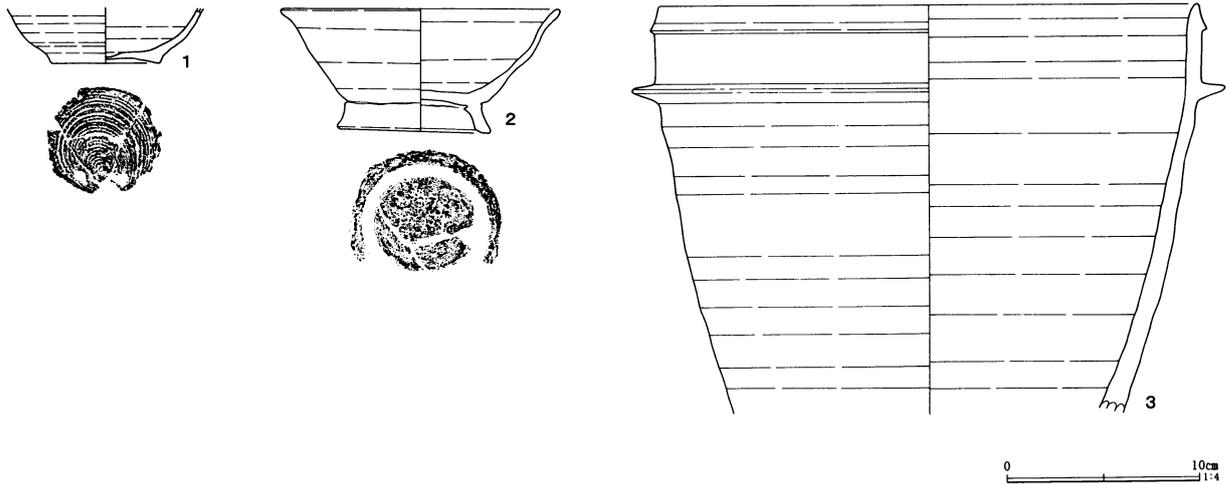
カマドは、東壁で南に片寄って設けられている。燃焼部は、94cm×70cm、深さ12cm程を測る。煙道部は長さ70cmが確認できた。



- 1 暗褐色土 焼土粒多量 (カマド天井崩落土)
- 2 暗褐色土 焼土粒微量
- 3 黒色灰土 灰層 暗褐色ブロック少量
- 4 暗赤褐色土 2次加熱 焼土層
- 5 黄灰色土 黄褐色土・灰色粘土の混合 (煙道掘り方)
- 6 暗灰色土 灰色粘土主体 (煙道掘り方)
- 7 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 8 暗灰色土 焼土粒・黄褐色土粒微量



第 477 図 第 263 号住居跡



第 478 図 第 263 号住居跡出土遺物

第 263 号住居跡出土遺物観察表 (第 478 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏			5.8	B F J	普通	にぶい橙	60	覆土	ロクロ土師器
2	土師高台堦	14.5	6.5	8.0	A B F J	普通	浅黄橙	70	カマド	ロクロ土師器 内外面磨耗著しい
3	土師羽釜	(28.0)			A G J	普通	灰白	15	カマド	

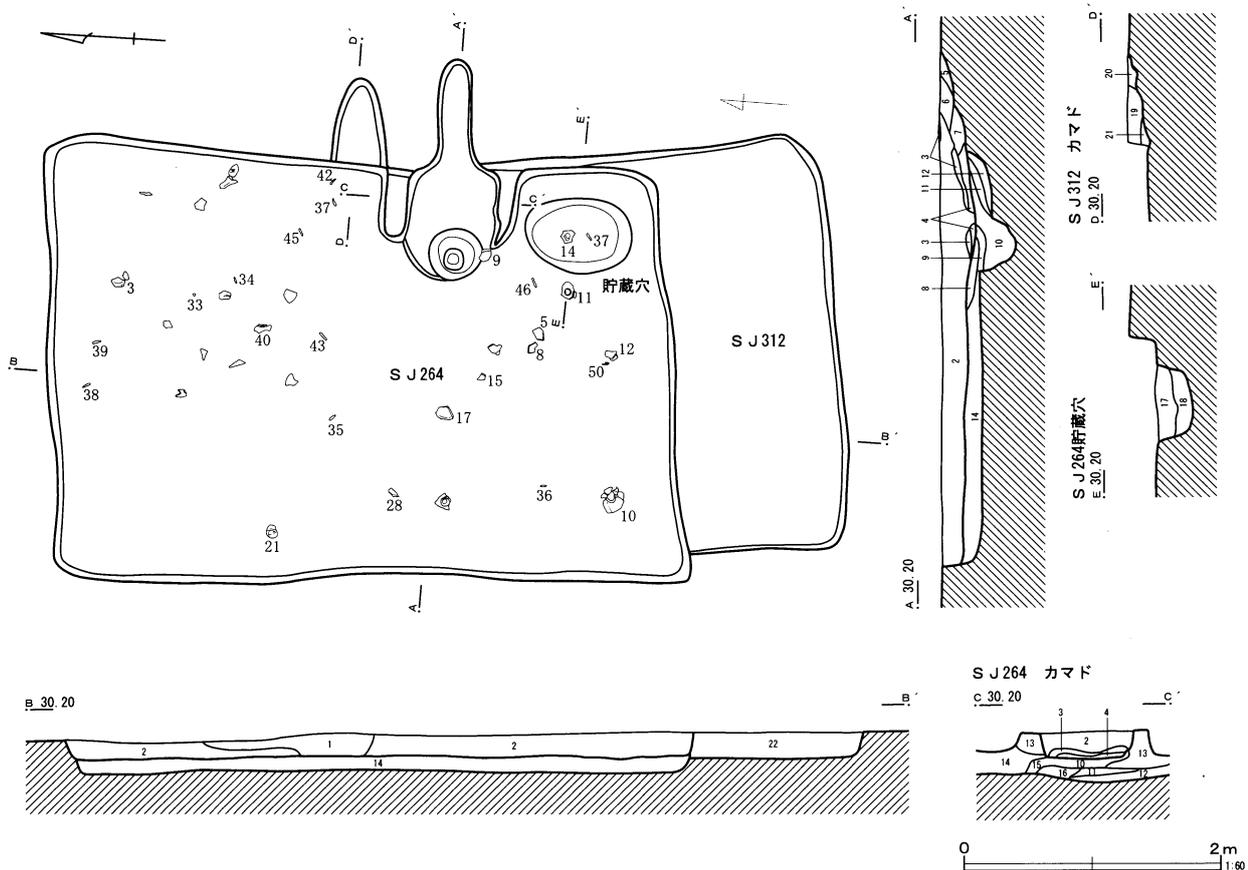
遺物は、土師器坏・高台付碗・甕、須恵器坏・高台碗・皿・長頸瓶、灰釉陶器高台坏皿、土錘と鉄製品が出土した。46は鉄製釘である。ほぼ完形で長さ8.2cm、頭幅1.1cmである。47は鉄製刀子と思われ刃の一部である。現存長2.1cm、刃幅最大0.9cm。切先に近い部分と推定される。48は鉄製刀子の茎部と考えられる。現存長8.5cm。49は丸棒状の鉄製品である。現存長は8.7cm。用途は不明である。50はC字状に曲がった角棒状鉄製品である。現存長5.2cm。用途は不明である。

第312号住居跡 (第479・482図)

L・M-19グリッドに位置する。第264号住居跡と重複し、切られている。規模は、主軸長東西3.16m、東壁で南北3.90mが確認でき、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-83°-Eを指す。

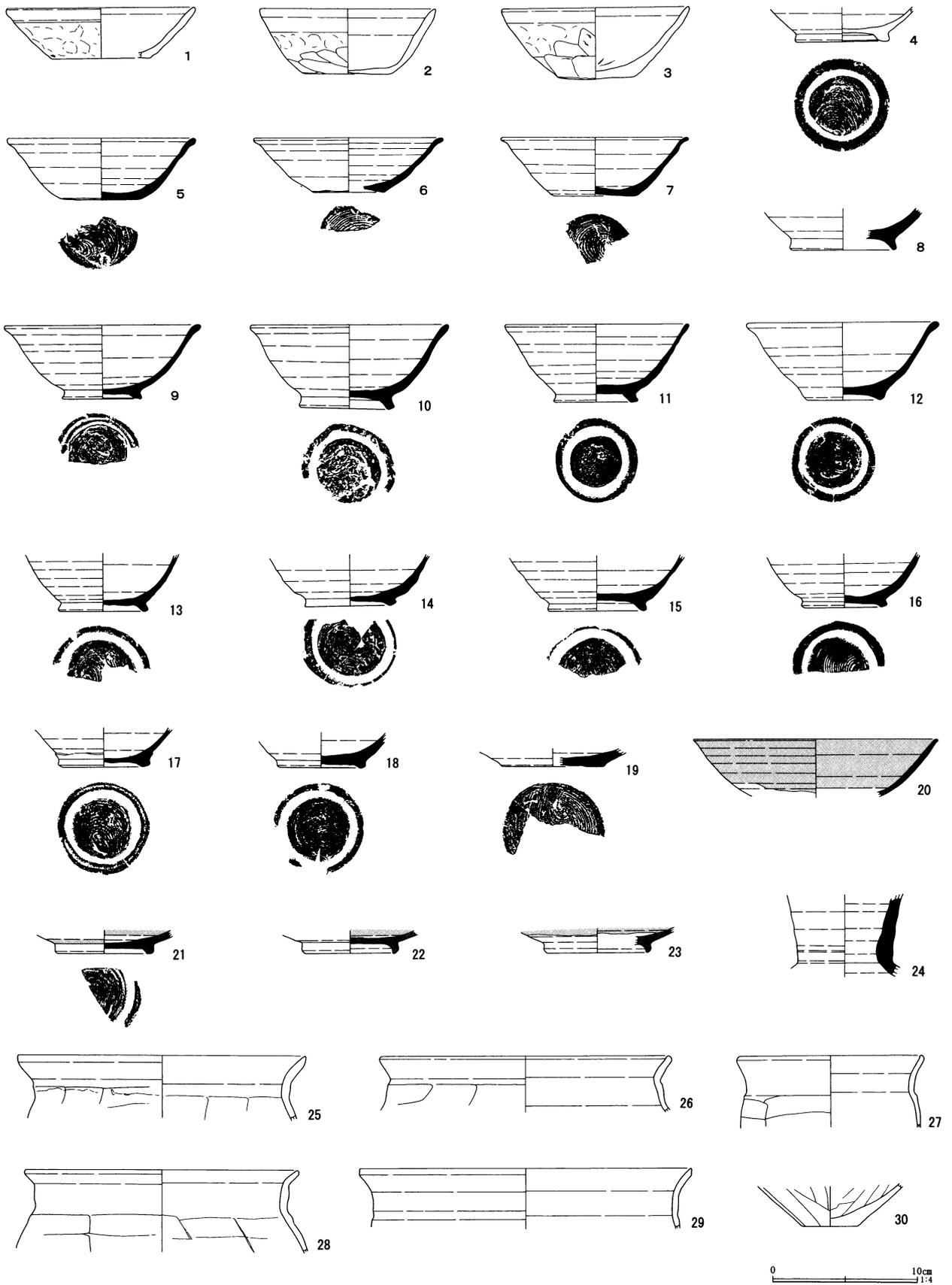
カマドは、東壁に設けられているが、殆ど住居跡に切られ燃焼部は、66cm×40cmが残存していた。

遺物は、須恵器坏・高台付碗・土師器甕が出土した。

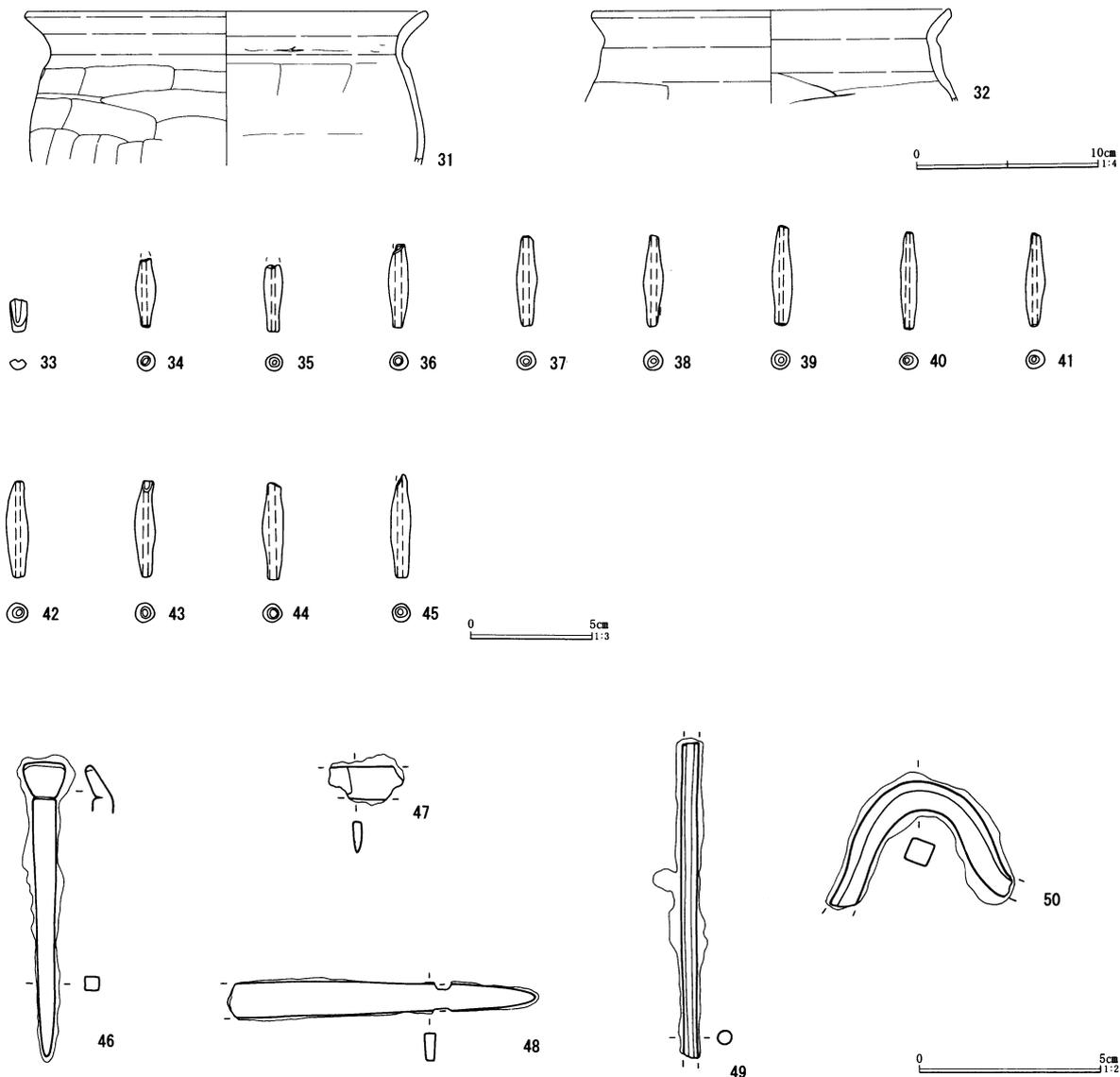


- | | | |
|--------------|-------|-----------------------------|
| 第264・312号住居跡 | | |
| 1 | 黒色土 | 焼土粒少量 炭化物・灰多量 |
| 2 | 暗褐色土 | 焼土粒少量 炭化物微量 |
| 3 | 暗褐色土 | 焼土層 (カマド天井崩落土) |
| 4 | 黒色土 | 灰層 焼土粒含む |
| 5 | 暗褐色土 | 焼土ブロック、ランダムに含む (煙突からの流入土) |
| 6 | 暗褐色土 | 白色粒微量 焼土粒多量 |
| 7 | 黒褐色土 | 焼土粒やや多量 |
| 8 | 暗灰褐色土 | 焼土粒やや多量 灰・炭化物少量 (カマド掘り方) |
| 9 | 暗褐色土 | 焼土粒やや多量 炭化物少量 (カマド掘り方) |
| 10 | 暗灰褐色土 | 焼土ブロック多量 炭化物・灰含む (カマド掘り方) |
| 11 | 黒褐色土 | 焼土粒多量 灰混入 (カマド掘り方) |
| 12 | 暗褐色土 | 焼土粒微量 黄褐色土ブロック少量 (カマド掘り方) |
| 13 | 暗褐色土 | 白色粒・焼土粒少量 炭化物微量 |
| 14 | 暗灰褐色土 | 焼土粒やや多量 炭化物微量 (貼り床) |
| 15 | 暗黄褐色土 | 焼土多量 (カマド掘り方) |
| 16 | 暗褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック多量 (カマド掘り方) |
| 17 | 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 (貯蔵穴) |
| 18 | 暗灰褐色土 | 焼土粒・灰多量 (貯蔵穴) |
| 19 | 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 (S J 312カマド) |
| 20 | 暗褐色土 | 焼土粒やや多量 炭化物少量 (S J 312カマド) |
| 21 | 暗褐色土 | 焼土ブロック多量 炭化物少量 (S J 312カマド) |
| 22 | 暗黄褐色土 | 暗褐色土ブロック混入 (S J 312掘り方) |

第479図 第264・312号住居跡



第480图 第264号住居跡出土遺物(1)



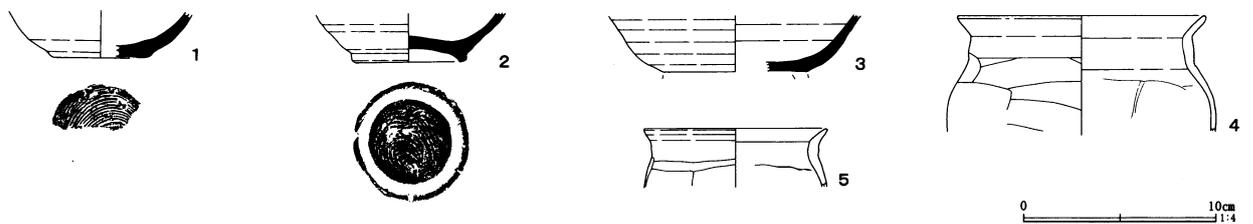
第481図 第264号住居跡出土遺物(2)

第264号住居跡出土遺物観察表(第480図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	3.6		A F J	普通	にぶい橙	15	覆土	
2	土師坏	(12.2)	4.6	6.3	A F J	不良	橙		覆土	
3	土師坏	(13.0)	5.0	5.4	A B C F J	普通	にぶい褐	40	覆土	
4	土師高台碗			6.6	A B C F J K	良好	橙	90	覆土	ロクロ土師器
5	須恵坏	(13.0)	4.4	5.6	A C J K	良好	灰	40	覆土	歪み大きい
6	須恵坏	(13.0)	3.8	(5.0)	A C J K	良好	灰	15	覆土	底部回転糸切り
7	須恵坏	(13.0)	4.1	(6.0)	A C J K	良好	灰	15	カマド	底部右回転糸切り
8	須恵高台碗			(7.0)	A J	普通	にぶい黄	30	覆土	
9	須恵高台碗	(13.6)	5.2	5.7	C J K	良好	灰	30	カマド	やや歪みあり
10	須恵高台碗	13.8	5.9	6.4	F	普通	灰黄褐	85	覆土	底部回転糸切り
11	須恵高台碗	(12.7)	5.4	5.8	A J K	良好	灰褐	60	覆土	底部回転糸切り
12	須恵高台碗	(13.0)	5.5	5.5	A K	普通	灰	60	覆土	

第 264 号住居跡出土遺物観察表 (第 480・481 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
13	須恵高台壺			6.3	A J K	良好	灰	20	覆土	
14	須恵高台壺			6.3	A J K	良好	灰	40	覆土	
15	須恵高台壺			(7.0)	A F J K	良好	灰	30	覆土	
16	須恵高台壺			(6.0)	A J K	良好	褐灰	20	覆土	底部回転糸切り
17	須恵高台壺			(6.4)	A J K	良好	灰	80	覆土	
18	須恵高台壺			6.1	F J K	良好	にぶい褐	80	覆土	
19	須恵皿			(7.0)	A J	良好	灰	40	覆土	底部右回転糸切り
20	灰釉壺 (16.8)				A	良好	灰白	30	覆土	施釉内外面ハケヌリ 東濃産
21	灰釉高台皿			(6.2)	G	普通	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 浜北産
22	灰釉高台皿			(6.1)	A	良好	灰白	15	覆土	高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 二川産
23	灰釉高台皿			(7.0)	A	良好	灰	10	掘り方	
24	須恵長頸瓶				A C F J	普通	灰	90	覆土	頸部径 6.6
25	土師甕 (19.8)				A B F	良好	にぶい黄橙	20	覆土	
26	土師甕 (19.7)				A F G	良好	灰黄褐	15	覆土	
27	土師甕 (12.5)				A F	良好	にぶい橙	20	覆土	
28	土師甕 (18.9)				A F G	普通	にぶい橙	20	覆土	
29	土師甕 (21.8)				A B F	良好	橙	15	覆土	口縁部内面ロクロナデ
30	土師甕			4.8	A C F	良好	黒褐	20	覆土	底部一方向ヘラ削り
31	土師甕 (22.0)				A F J	良好	橙	15	覆土	
32	土師甕 (19.6)				A B F	良好	にぶい橙	10	覆土	
33	土錘	長さ (1.4) 径 (0.7) 孔径 0.2					橙	20	覆土	
34	土錘	長さ (2.85) 径 0.8 孔径 0.3					灰白	80	覆土	
35	土錘	長さ (2.8) 径 0.75 孔径 0.2					橙	70	覆土	
36	土錘	長さ 3.5 径 0.8 孔径 0.3~0.35					にぶい橙	90	覆土	
37	土錘	長さ 3.75 径 0.8~0.85 孔径 0.3					にぶい黄橙	100	覆土	
38	土錘	長さ 3.85 径 0.8 孔径 0.25					浅黄橙	95	覆土	
39	土錘	長さ 4.2 径 0.8 孔径 0.25					灰褐	100	覆土	
40	土錘	長さ 4.05 径 0.65 孔径 0.25					橙	95	覆土	
41	土錘	長さ 3.9 径 0.8 孔径 0.25					にぶい黄橙	100	貯蔵穴	
42	土錘	長さ 4.0 径 0.85 孔径 0.3					橙	100	覆土	
43	土錘	長さ 4.0 径 0.85 孔径 0.3					橙	100	覆土	
44	土錘	長さ 4.0 径 0.8 孔径 0.3					橙	100	覆土	
45	土錘	長さ 4.3 径 0.85 孔径 0.25					にぶい黄橙	90	覆土	



第 482 図 第 312 号住居跡出土遺物

第312号住居跡出土遺物観察表 (第482図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(5.7)	A J	普通	灰	22	掘り方	
2	須恵高台埴			6.0	J	普通	灰	50	覆土	底部回転糸切り
3	須恵高台埴				A F J K	普通	灰黄	20	覆土	高台部剥離
4	土師甕	(12.8)			A F	良好	褐灰	20	覆土	
5	土師甕	(9.4)			A B D F	良好	にぶい褐	25	覆土	胴部外面煤付着

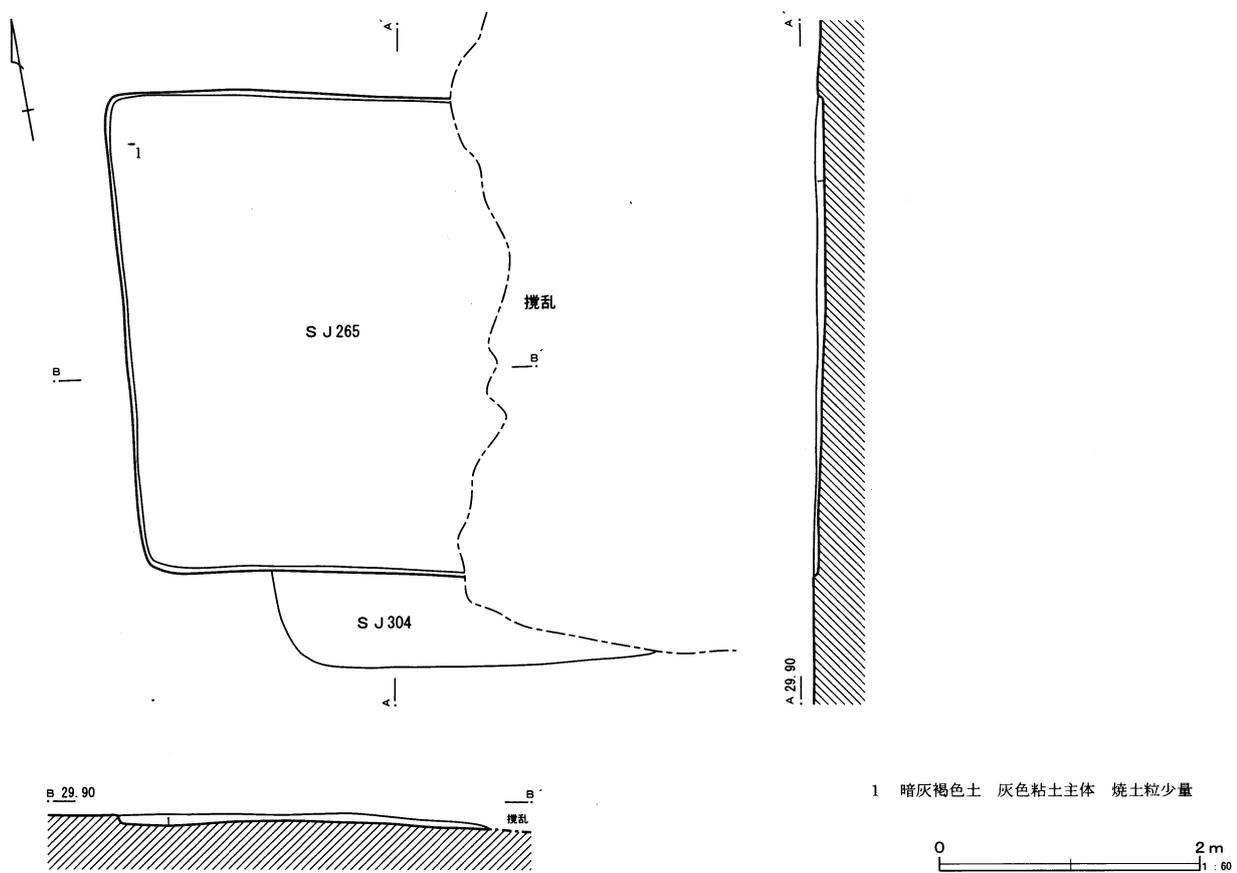
第265号住居跡 (第483・484図)

J・K-19グリッドに位置する。東側は攪乱を受けている。第304号住居跡と重複し、切っている。規模は、確認できた主軸長南北3.02 m、東西3.74 m、深さ8 cm程を測る。主軸方位は、N-97°

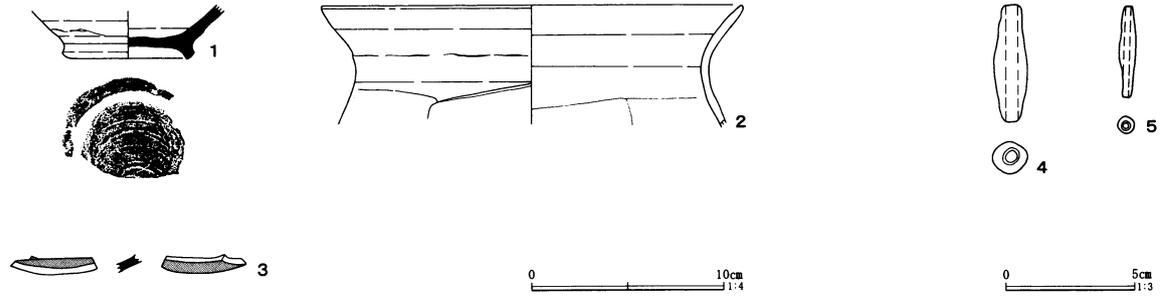
-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器高台付埴、土師器甕、緑釉陶器、土錘が出土した。



第483図 第265号住居跡



第484図 第265号住居跡出土遺物

第265号住居跡出土遺物観察表 (第484図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壺			(6.4)	J	普通	淡黄	60	床直	底部回転糸切り
2	土師甕	(21.6)			ACFJ	普通	橙	20	覆土	
3	緑釉稜皿				G	普通	—	破片	覆土	猿投産
4	土錘	長さ4.6	径1.3	孔径0.5		普通	にぶい赤橙	100	覆土	
5	土錘	長さ3.6	径0.5	孔径0.2		普通	黒褐	100	覆土	

第266号住居跡 (第485図)

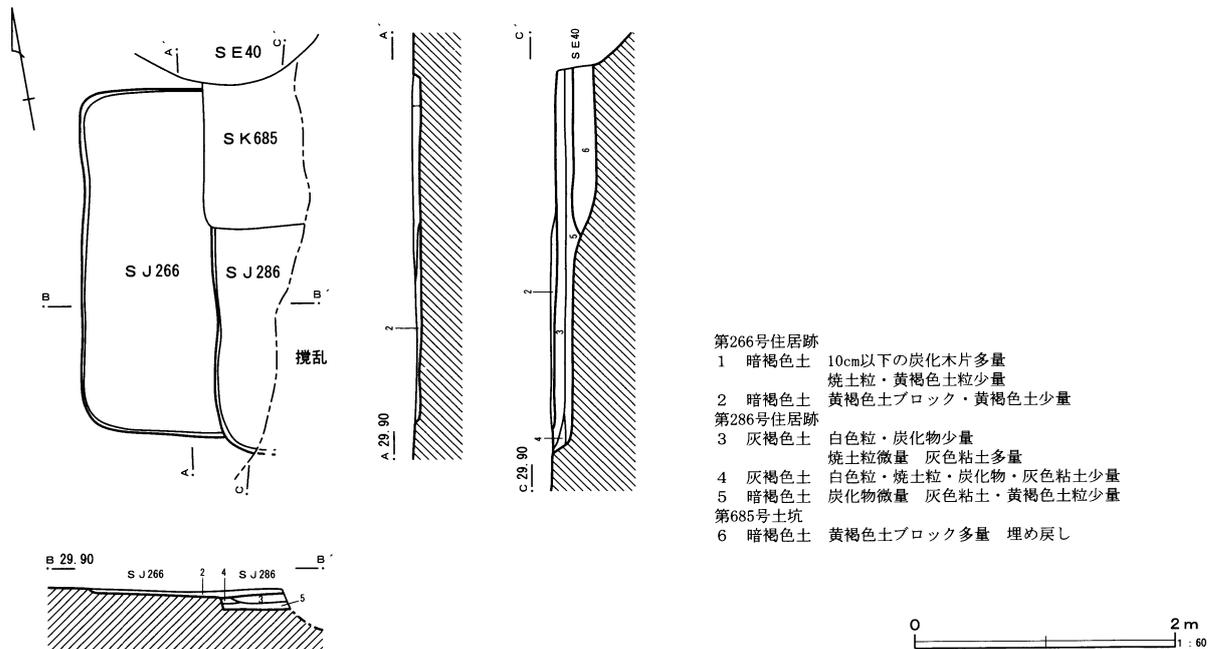
J-19グリッドに位置する。第286号住居・第685号土坑と重複し、住居跡を切っている。規模は、主軸長南北2.73m、確認できた東西1.05m、深さ6cm程を測る。西壁を基準とすると主軸方位は、

N-7°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

第286号住居跡 (第485図)

J-19グリッドに位置する。東側は攪乱を受けている。第266号住居・第685号土坑と重複し、上



第266号住居跡

- 1 暗褐色土 10cm以下の炭化木片多量
焼土粒・黄褐色土粒少量
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック・黄褐色土少量

第286号住居跡

- 3 灰褐色土 白色粒・炭化物少量
焼土粒微量 灰色粘土多量
- 4 灰褐色土 白色粒・焼土粒・炭化物・灰色粘土少量
- 5 暗褐色土 炭化物微量 灰色粘土・黄褐色土粒少量

第685号土坑

- 6 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量 埋め戻し

第485図 第266・286号住居跡

部が住居跡に切られ、土坑上部を切っている。規模は、西壁残存は南北1.75 m、残存する東西0.54 m、深さ13cmを測る。西壁を基準とすると主軸方位は、N-8°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

第267号住居跡 (第486・487図)

J-16・17グリッドに位置する。第262号住居・第480・486・492号土坑・第62号溝と重複し、南壁上部が住居跡に、他のすべての遺構に切られている。規模は、主軸長東西2.88 m、南北3.96 m、深さ6 cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-101°-Eを指す。

ピット2基は住居跡に関連するものであるが、柱

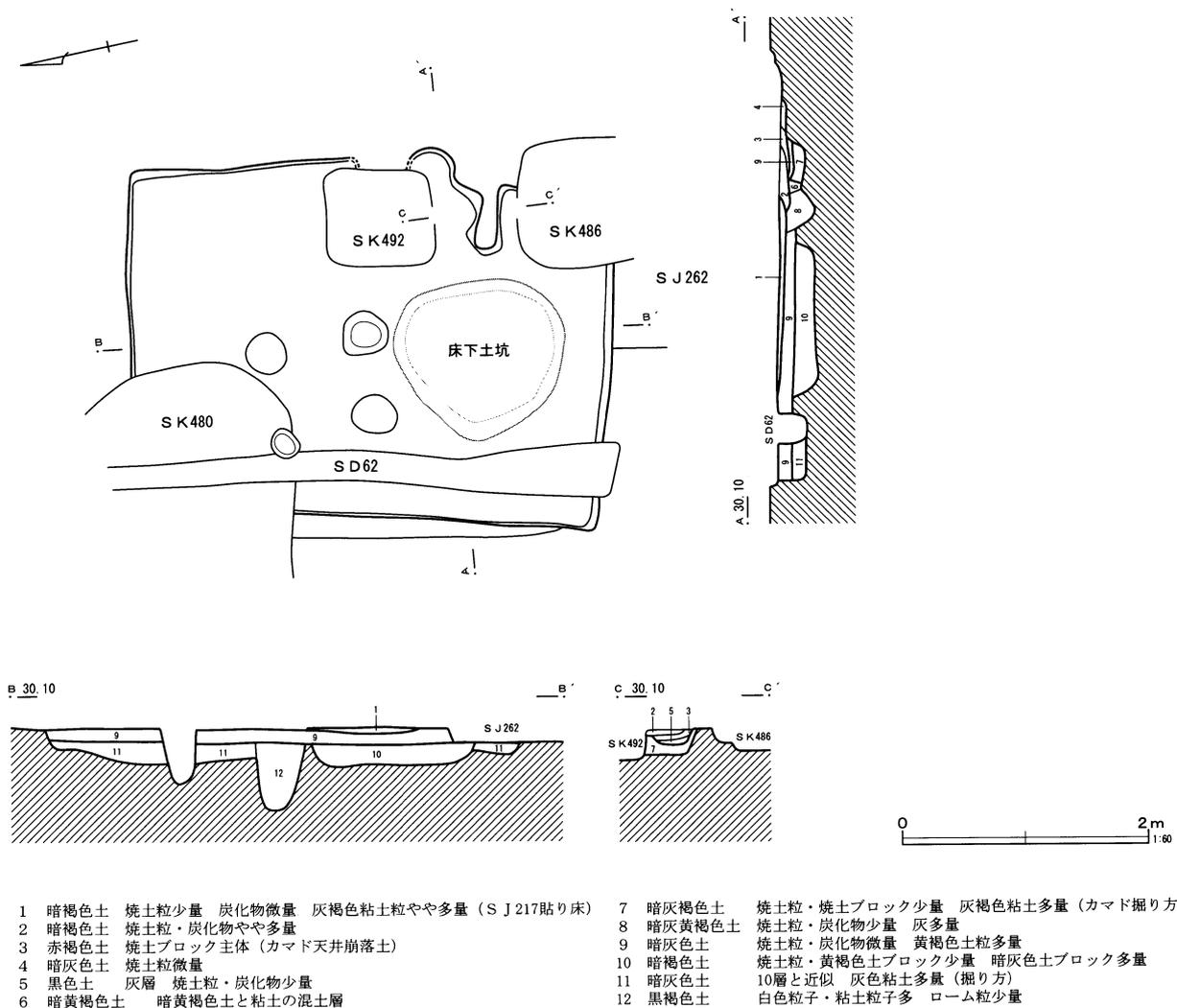
穴ではないと考えられる。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。カマド北半は土坑に切られ、燃焼部は、77cmが残存していた。煙道部は、長さ30cmが確認できた。

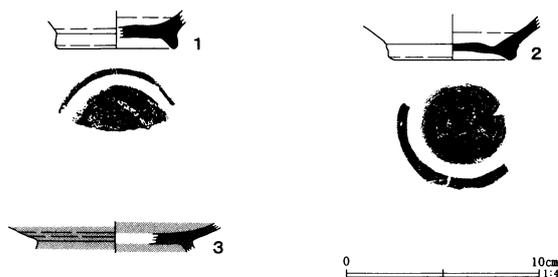
遺物は、須恵器高台付壺、緑釉陶器高台坏が出土した。

第268号住居跡 (第488・489図)

L-13グリッドに位置する。第269・270・274・275号住居跡と重複し、第269号住居跡に切られ、第270・274・275号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西6.26 m、南北4.61 m、深さ23cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-85°-Eを指す。



第486図 第267号住居跡



第487図 第267号住居跡出土遺物

第267号住居跡出土遺物観察表 (第487図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壺			(6.4)	A J	良好	灰白	30	覆土	
2	須恵高台壺			(6.6)	A	良好	灰白	60	覆土	
3	緑釉高台皿					良好	オリーブ灰	15	覆土	猿投産

壁溝は、南壁・西壁と北壁の一部で検出され、幅17～25cm、深さ10～15cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。カマド前は住居跡に切られており確認できた燃焼部は、80cm×80cm、深さ15cmを測り、煙道部は、長さ70cmが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器瓶が出土した。

第269号住居跡 (第488・490図)

L-13グリッドに位置する。第268・270号住居と重複し、2軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長南北3.56m、東西5.08m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-3°-Wを指す。

カマドは、北壁やや東寄りに設けられている。燃焼部は、67cm×70cm、深さ15cmを測り、煙道部は、長さ35cmが確認できた。カマド前のピットには灰が堆積していた。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・蓋・高台・円面硯・高盤・瓶と鉄製品が出土した。14は鉄製刀子である。2片に分離するが、同一個体と推定される。切先を含む刃部片は現存長4.7cm、刃部最大幅0.8cm、刃部元～茎部の破片は現存長8.2cm、刃部幅1.1cmである。復元すると刃部の長さはおよそ12cmになる

と考えられる。関は背・刃ともにやや浅いが明瞭な角関で、茎の表面には柄木の木質がわずかに残っている。

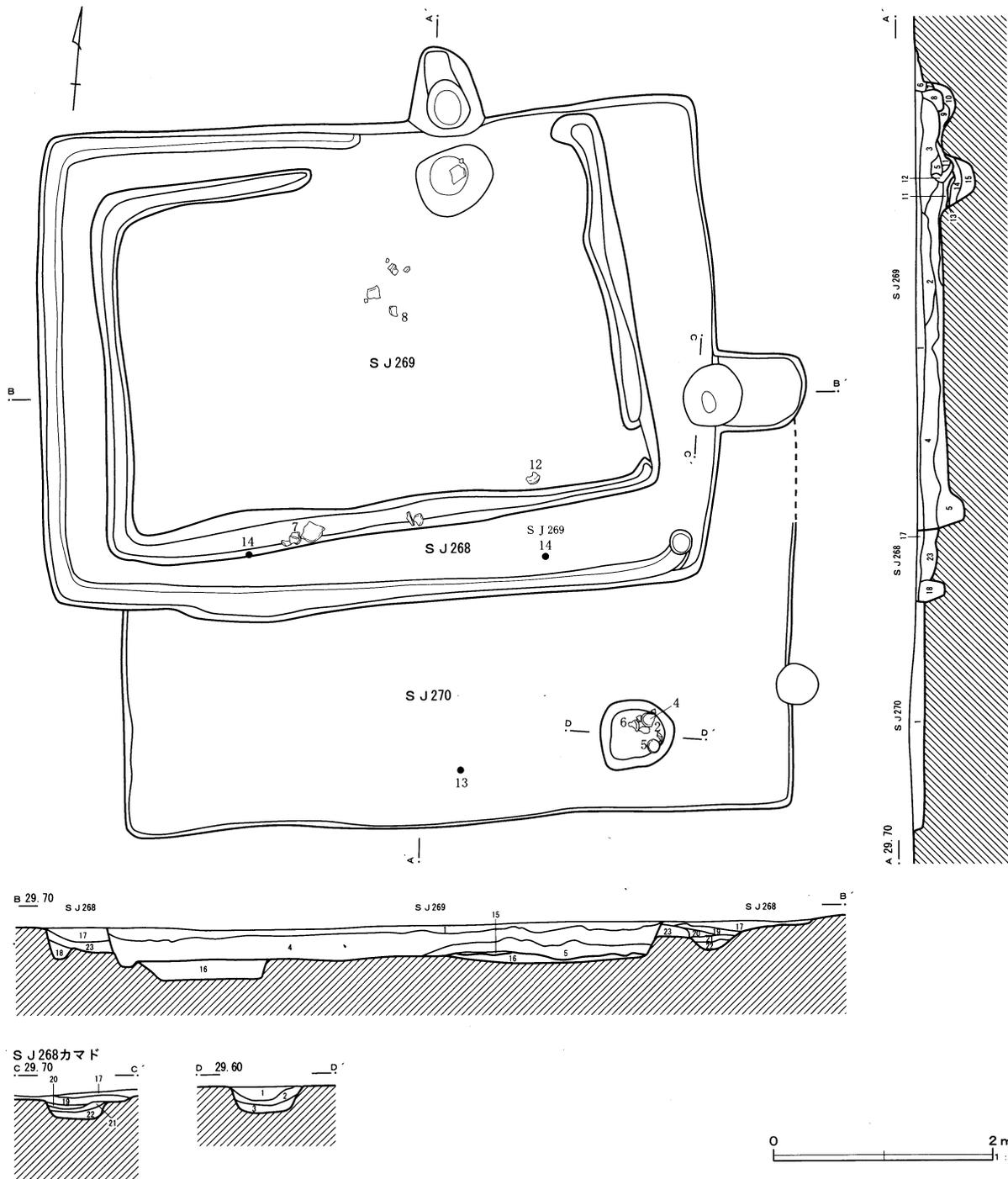
第270号住居跡 (第488・491図)

L-13グリッドに位置する。第268・269号住居跡と重複し、2軒の住居跡に切られている。規模は、主軸長東西6.26m、確認できた東壁で南北2.60m、深さ11cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。南壁を基準とすると主軸方位は、N-98°-Eを指す。

南東隅に土坑が確認され、径70cm×63cmの円形で、深さ25cmを測る。貯蔵穴ともみられる。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・蓋と鉄製品が出土した。13は鉄製刀子である。茎先を欠き、現存長12.7cm、刃長8.1cm、刃幅0.6～1.1cmである。幅0.4cm、径1.2×1.0cmの筒状の鍔が装着される。関は両関である。

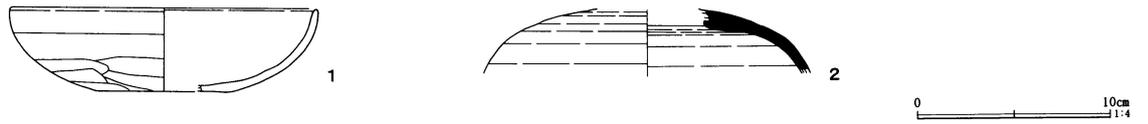


第269・270号住居跡

- 1 黒褐色土 白色粒多量 焼土粒少量 炭化物微量
- 2 暗灰黄褐色土 焼土粒少量 炭化物・黄褐色土ブロック多量
- 3 暗黄褐色土 焼土粒・炭化物多量
- 4 暗黄灰色土 焼土粒・炭化物少量
- 5 褐灰色土 焼土粒・炭化物微量 黄褐色土ブロック多量
- 6 灰黄褐色土 焼土粒・黄褐色土ブロック多量
- 7 黒色土 炭化物・褐色土の混土
- 8 褐色土 焼土ブロック多量 炭化物微量 (カマド天井崩落土)
- 9 暗褐色土 褐色土・黄褐色土の混土 (煙道掘り方)
- 10 灰黄褐色土 黄褐色土ブロック多量 (煙道掘り方)
- 11 黒色土 灰層 炭化物層
- 12 暗黄褐色土 炭化物含む
- 13 明黄褐色土 下面に炭化物が帯状に堆積 (カマド掘り方)
- 14 暗褐色土 灰褐色土・黄褐色土の混土 (カマド掘り方)

- 15 黄褐色土 褐色土ブロック多量
 - 16 明黄褐色土 灰褐色土ブロック少量 (掘り方)
 - 17 褐色土 焼土粒・炭化物多量 焼土ブロック少量
- 第268住居跡
- 18 褐色土 焼土粒少量 黄褐色土ブロック多量
 - 19 暗褐色土 焼土粒多量 炭化物主体 黄褐色土粒少量
 - 20 暗黄褐色土 焼土粒・炭化物多量 (カマド)
 - 21 黒褐色土 焼土粒・炭化物・黄褐色土ブロック多量 埋め戻し (カマド)
 - 22 黒褐色土 焼土粒少量 炭化物・黄褐色土ブロック多量 埋め戻し (カマド)
 - 23 暗黄褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 第270号住居跡内土坑
- 1 暗褐色土 焼土粒・黄褐色土ブロック少量 黄褐色土粒多量
 - 2 黒褐色土 焼土粒・焼土ブロック・炭化物多量
 - 3 暗黄褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土ブロック多量 炭化物微量

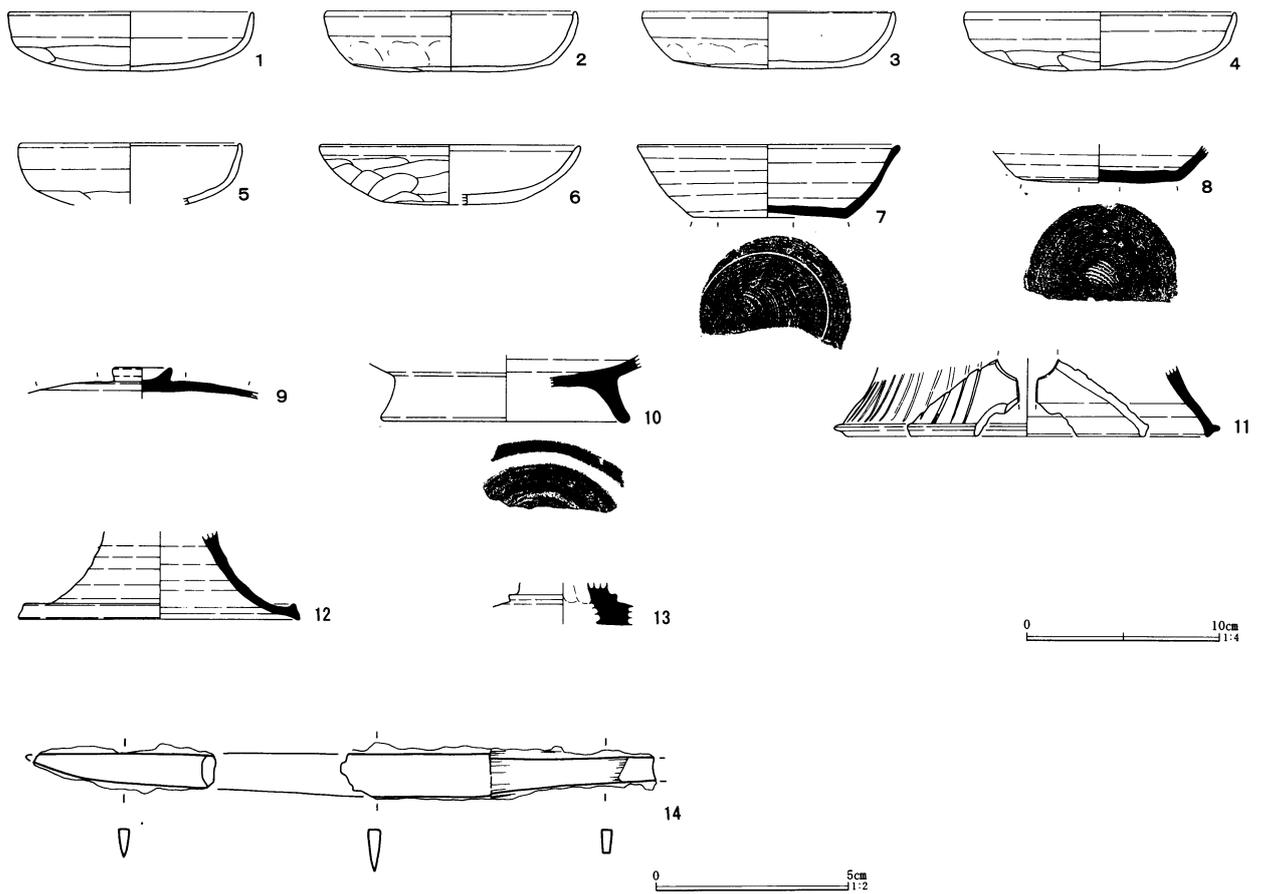
第488図 第268・269・270号住居跡



第 489 図 第 268 号住居跡出土遺物

第 268 号住居跡出土遺物観察表 (第 489 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(16.0)	4.4	(7.0)	B C J	普通	にぶい褐	30	カマド	
2	須恵瓶				A K	良好	灰	30	床直	



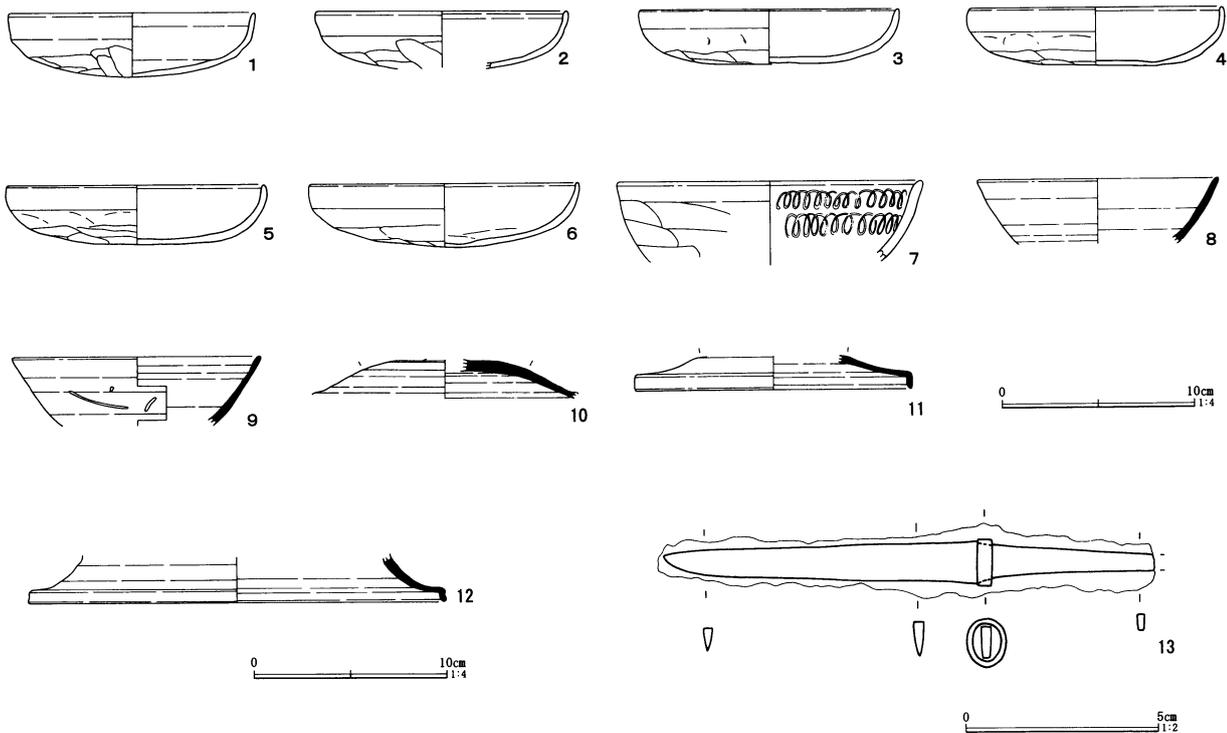
第 490 図 第 269 号住居跡出土遺物

第 269 号住居跡出土遺物観察表 (第 490 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.8	3.1		B J	普通	橙	90	覆土	
2	土師坏	(13.0)	3.2	(10.4)	B F J	普通	橙	60	カマド	
3	土師坏	13.0	3.0	10.0	B J	普通	橙	80	覆土	
4	土師坏	(14.0)	3.0		B J	普通	にぶい橙	15	覆土	
5	土師坏	(11.6)			A B J	普通	にぶい橙	15	覆土	
6	土師坏	(13.6)	3.1	(7.0)	A B F J	良好	にぶい赤褐	25	覆土	

第 269 号住居跡出土遺物観察表 (第 490 図)

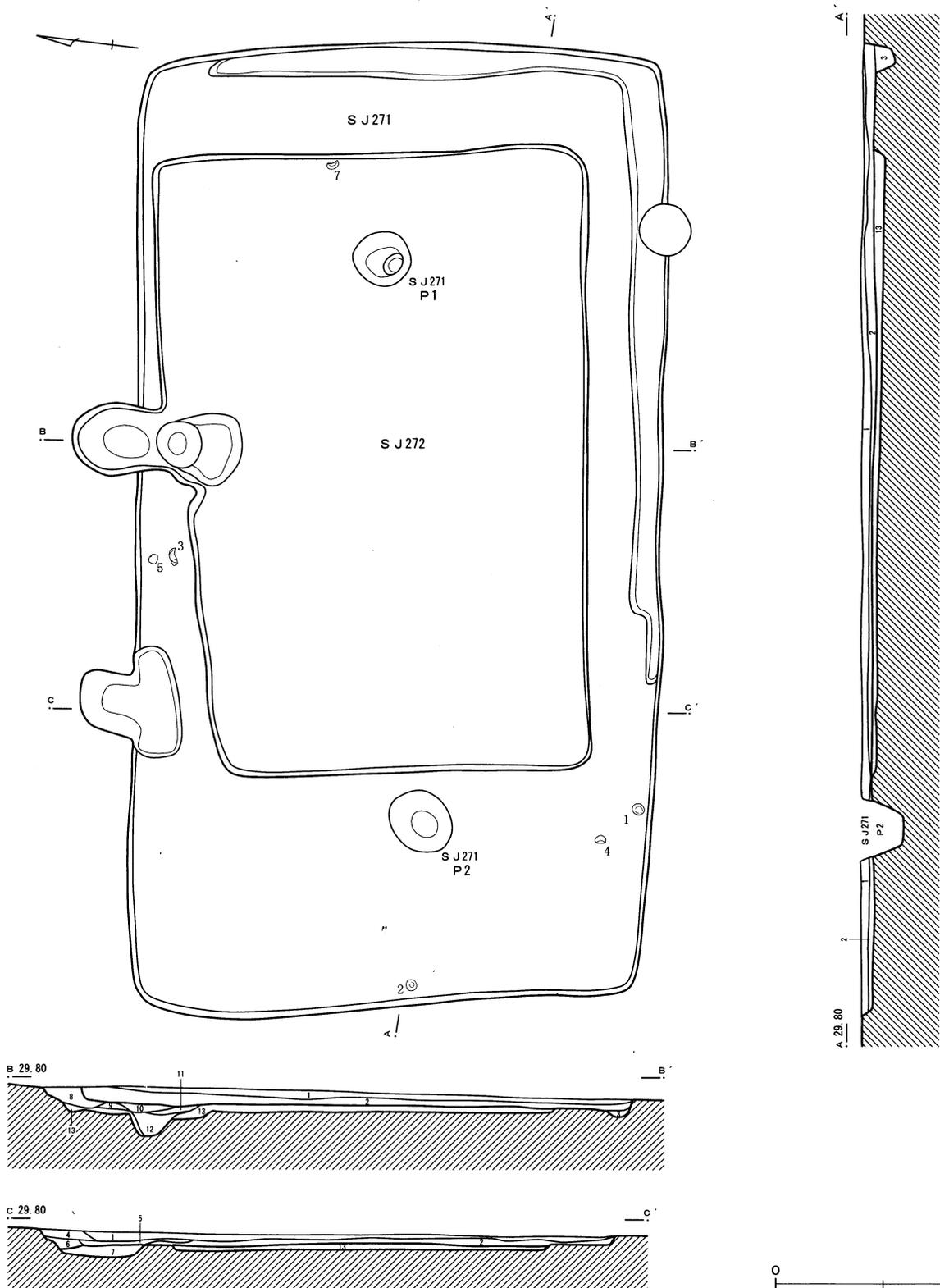
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
7	須恵坏	(13.7)	3.8	8.0	A J K	良好	にぶい橙	60	壁溝	底部回転糸切り後周辺回転ヘラ削り つまみ径 3.1 天井部回転ヘラ削り
8	須恵坏			8.0	A H J	良好	灰	60	床直	
9	須恵盖				A H J K	良好	灰	40	覆土	
10	須恵高台			(13.0)	C J K	良好	灰白	20	覆土	
11	須恵円面碗			(20.0)	A J K	良好	暗灰	10	覆土	
12	須恵高盤			(14.6)	A H J	良好	灰	30	床直	
13	須恵瓶				A G	良好	灰白	25	覆土	脚部沈線と円形透孔 外面自然釉



第 491 図 第 270 号住居跡出土遺物

第 270 号住居跡出土遺物観察表 (第 491 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.8)	3.4		A C J	普通	橙	30	覆土	やや歪みあり
2	土師坏	(13.0)			B F J	普通	橙	25	ピット	
3	土師坏	(13.4)	2.9		A B F	普通	橙	40	覆土	
4	土師坏	13.2	3.1		A B F	普通	にぶい赤褐	80	ピット	
5	土師坏	13.5	3.2		A B F	普通	橙	100	ピット	
6	土師坏	14.0	3.4		A B F	普通	にぶい橙	90	ピット	
7	土師坏	(15.2)			A B	良好	橙	15	覆土	螺旋状の暗文
8	須恵坏	(12.4)			A G H	良好	灰	25	覆土	体部外面にヘラ書
9	須恵坏	(12.8)			A G	良好	灰	20	覆土	
10	須恵盖				A H	良好	灰	10	覆土	
11	須恵盖	(14.2)			A G	良好	灰	10	覆土	
12	須恵盖	(21.8)			A	良好	灰	15	覆土	



第271号住居跡

- 1 暗褐色土 白色粒少量 焼土粒微量 黄褐色土多量
- 2 黄褐色土 灰褐色土・黄褐色土の混土層
- 3 灰黄褐色土 白色粒・焼土粒微量 黄褐色土ブロック多量
- 4 黒褐色土 焼土粒・焼土ブロック主体 炭化物多量 (カマド天井崩落土)
- 5 黒褐色土 灰層 炭化物主体 焼土粒多量
- 6 黒褐色土 灰層 炭化物主体 焼土粒多量
- 7 黄褐色土 褐色土主体 (カマド掘り方)

第272号住居跡

- 8 褐色土 焼土ブロック多量
- 9 黄褐色土 褐灰色土多量
- 10 暗黄褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量 炭化物少量 (天井崩落土)
- 11 黒色土 灰層 炭化物主体 焼土粒少量
- 12 黒褐色土 炭化物・黄褐色ブロックの混土層 焼土粒微量 (カマド掘り方)
- 13 暗黄褐色土 焼土粒微量 粘土粒多量

第492図 第271・272号住居跡

第271号住居跡 (第492・493図)

L-14グリッドに位置する。第272号住居跡と重複し、上部を切っている。規模は、主軸長南北5.00m、東西9.25m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-7°-Wを指す。

壁溝は、東壁と南壁に部分的に検出され、幅17~40cm、深さ8~20cmを測る。

柱穴が2本確認され、径52~55cm、深さ30cmを測る。

カマドは、北壁で西に片寄って設けられている。燃焼部は、90cm×107cmで床面と同じ高さである。煙道部は13cmが確認できた。

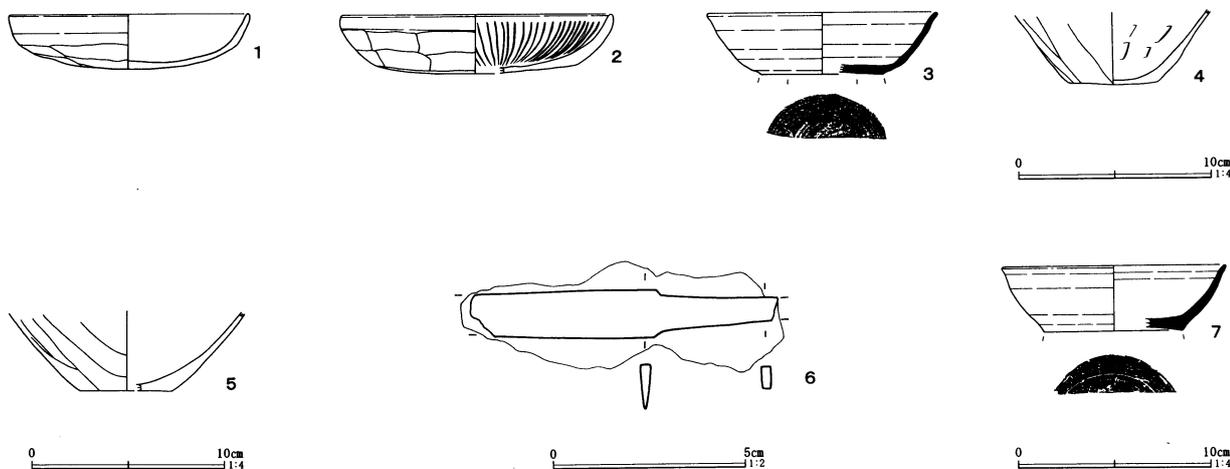
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏と鉄製品が出土した。6は鉄製刀子である。切先を含む刃部と茎先を欠く。現存長8.2cm、刃幅1.2cmである。関は両関で、背関のほうがやや深い角関を呈する。

第272号住居跡 (第492・493図)

L-14グリッドに位置する。第271号住居と重複し、上部が切られている。規模は、主軸長南北4.08m、東西5.94m、深さ16cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-6°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、120cm×58cmを測る。

遺物は、須恵器坏が出土した。



第493図 第271・272号住居跡出土遺物

第271号住居跡出土遺物観察表 (第493図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.5	2.9		ABFJ	普通	橙	100	覆土	内面に放射状の暗文 底部回転糸切り、周辺回転ヘラ削り
2	土師坏	14.2	3.1	10.5	BFJ	普通	にぶい赤褐	80	床直	
3	須恵坏	(12.0)	3.2	(6.4)	AHJK	良好	灰	40	床直	
4	土師甕			4.7	ABFHJ	良好	にぶい黄橙	70	覆土	
5	土師甕			(4.7)	ABFJ	良好	にぶい褐	40	床直	
7	須恵坏	(11.5)	3.4	7.2	AH	良好	灰	40	床直	

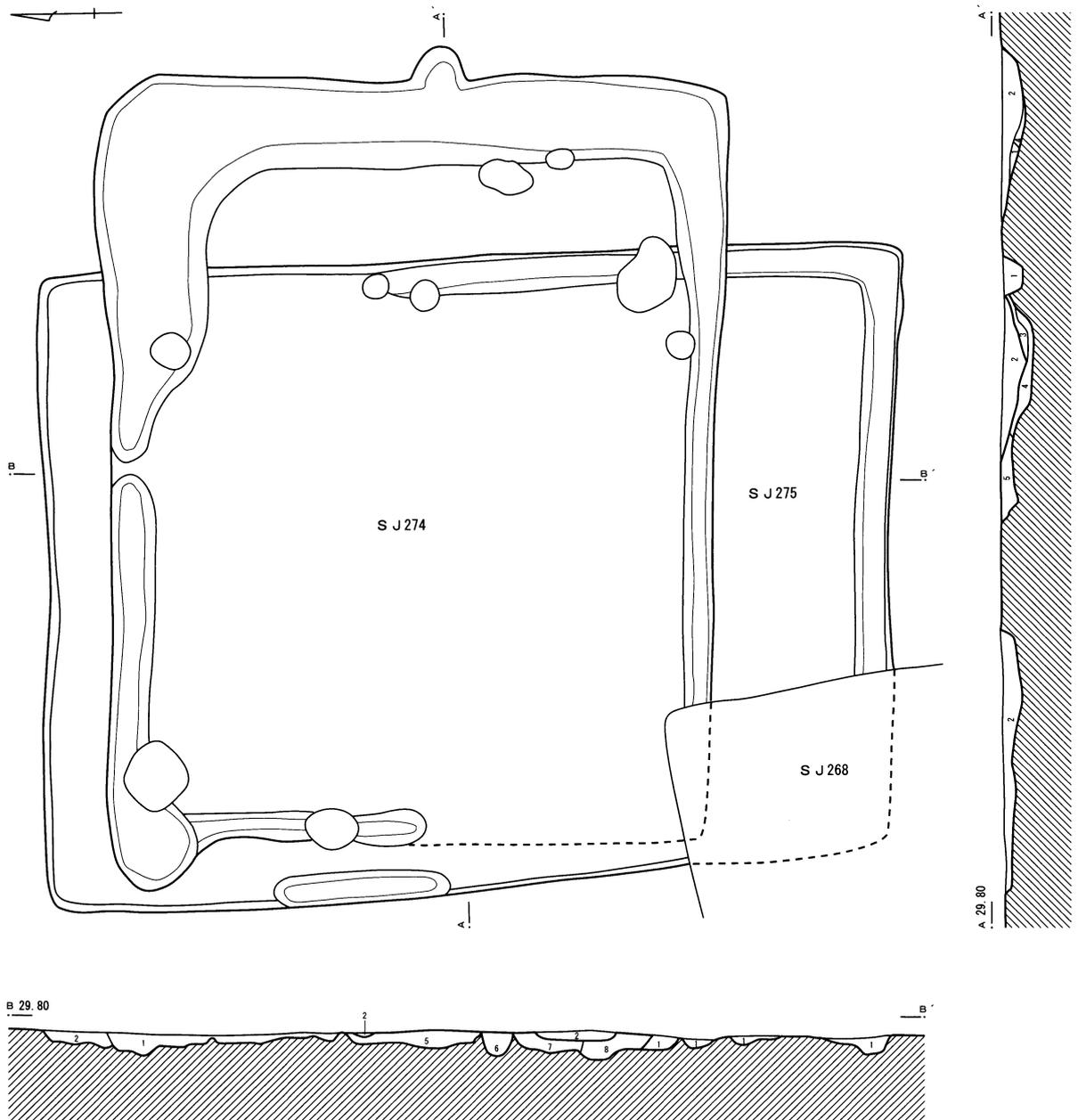
第274号住居跡 (第494・495図)

K・L-13・14グリッドに位置する。第268・275号住居跡と重複している。南西隅壁は、第268号住居に壊されている。規模は、主軸長東西6.75m、

南北5.24m、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-91°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付碗・皿・瓶、



第274・275号住居跡

- | | | | | | |
|---------|------------------|---------------------|----------|--------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色土 | 白色粒・焼土粒少量 | 炭化物多量 | 黄褐色土含む | 5 褐色土 | 焼土ブロック・炭化物・黄褐色土ブロック多量 (掘り方) |
| 2 灰黄褐色土 | 白色粒多量 | 焼土粒・炭化物微量 | 黄褐色土との互層 | 6 黄褐色土 | 褐色土ブロック多量 (掘り方) |
| 3 褐灰色土 | 焼土粒・焼土ブロック・炭化物少量 | 灰白色土を層状に含む (床下土坑) | | 7 黄褐色土 | 焼土粒・炭化物多量 |
| 4 黄褐色土 | 焼土粒少量 | 焼土ブロック・炭化物微量 (床下土坑) | | 8 黄褐色土 | 砂質 7層に近似 (掘り方) |

0 2m
1:60

第494図 第274・275号住居跡

灰釉陶器高台付碗、土錘と鉄製品が出土した。17は延板状の鉄製品である。一方の端部は丸くなる。現存長は5.8cm、厚さは約0.3cmである。用途は不明である。

第275号住居跡 (第494図)

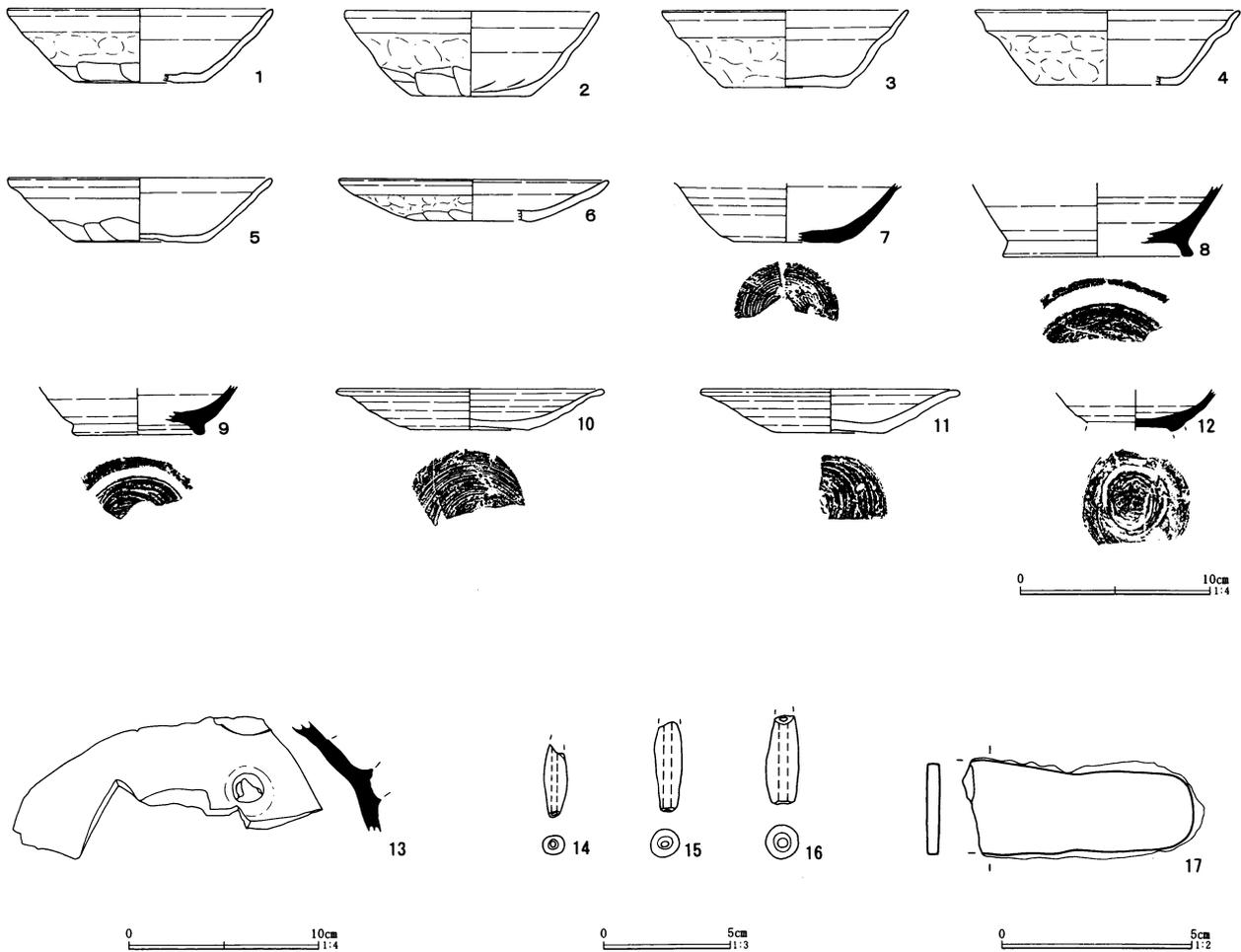
L-13・14グリッドに位置する。第274号住居と重複している。南西隅壁は、第268号住居に壊されている。規模は、主軸長南北7.31m、東西5.64m、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-1°-Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

第274・275号住居跡出土遺物 (第496図)

6は鉄製の鋳造品である。現存長9.5cm、断面は破断面では三角形を呈し、端部では半円形となる。端

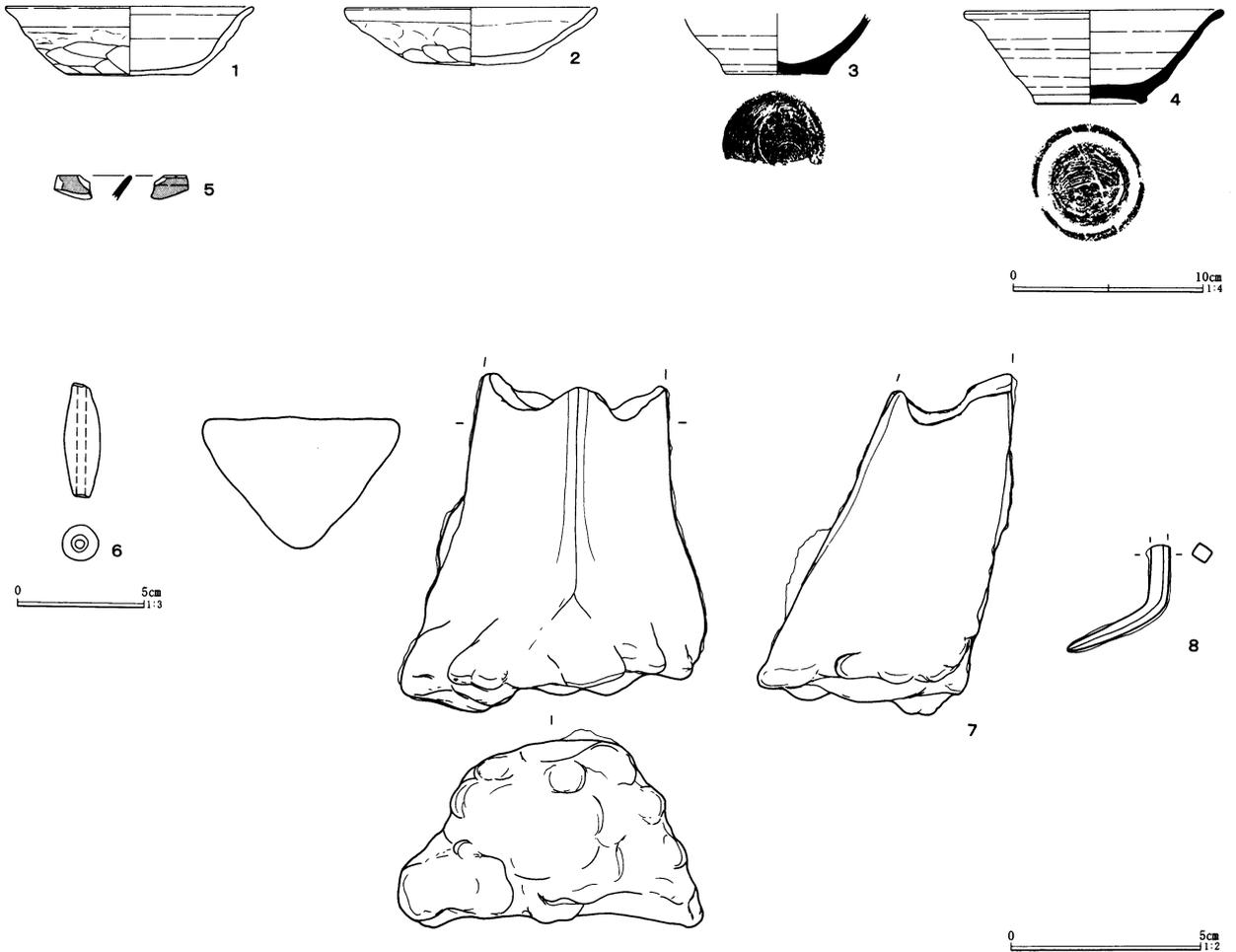
部の幅は4.8cm×8.0cmである。用途は不明であるが、容器の脚部である可能性もある。7は鉄釘の基部～脚部である。くの字状に曲がり、現存長は3.8cmである。



第495図 第274号住居跡出土遺物

第 274 号住居跡出土遺物観察表 (第 495 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(14.0)	4.0	(6.8)	A B F J	普通	橙	25	覆土	
2	土師坏	(13.4)	4.6	(6.2)	B F J	普通	にぶい黄橙	20	覆土	口縁部外面～底部内面横ナデ 底部一方 へら削り
3	土師坏	(13.0)	4.1	(6.4)	A B F J	普通	にぶい橙	30	覆土	口縁部内外面横ナデ
4	土師坏	(14.0)	4.0	(7.4)	B F J	普通	橙	20	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
5	土師坏	(14.0)	3.4	(7.0)	A B F J	普通	褐	50	覆土	内面一部油煙付着 底部外周へら削り
6	土師皿	(14.2)	2.3	(6.0)	A B F J	普通	橙	30	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
7	須恵坏			(5.6)	A G K	普通	灰	30	覆土	
8	須恵高台碗			(10.0)	A F G	普通	褐灰	15	覆土	
9	須恵高台碗			(7.0)	A J K	普通	灰黄褐	25	覆土	
10	須恵皿	(13.8)	2.1	(5.3)	A F G J	普通	黒褐	30	覆土	酸化焰焼成
11	須恵皿	(13.5)	2.4	(5.8)	F G J	普通	暗灰黄	20	覆土	酸化焰焼成
12	灰釉高台碗				A J K	良好	灰	80	覆土	高台内糸きり 高台欠損 施釉なし
13	須恵瓶				A J K	良好	灰	5	覆土	把手付き
14	土錘	長さ (2.85)	径 0.9	孔径 0.3		普通	明赤褐	70	覆土	
15	土錘	長さ (3.55)	径 1.1	孔径 0.3		普通	橙	70	覆土	
16	土錘	長さ (3.6)	径 1.75	孔径 0.45		普通	にぶい橙	90	覆土	



第 496 図 第 274・275 号住居跡出土遺物

第 274・275 号住居跡出土遺物観察表 (第 496 図)

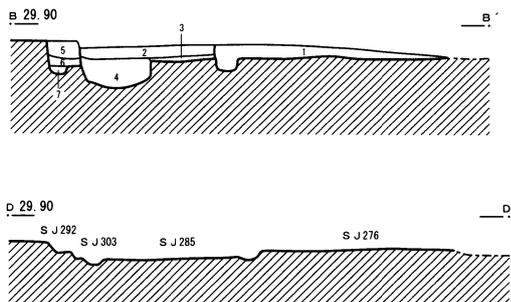
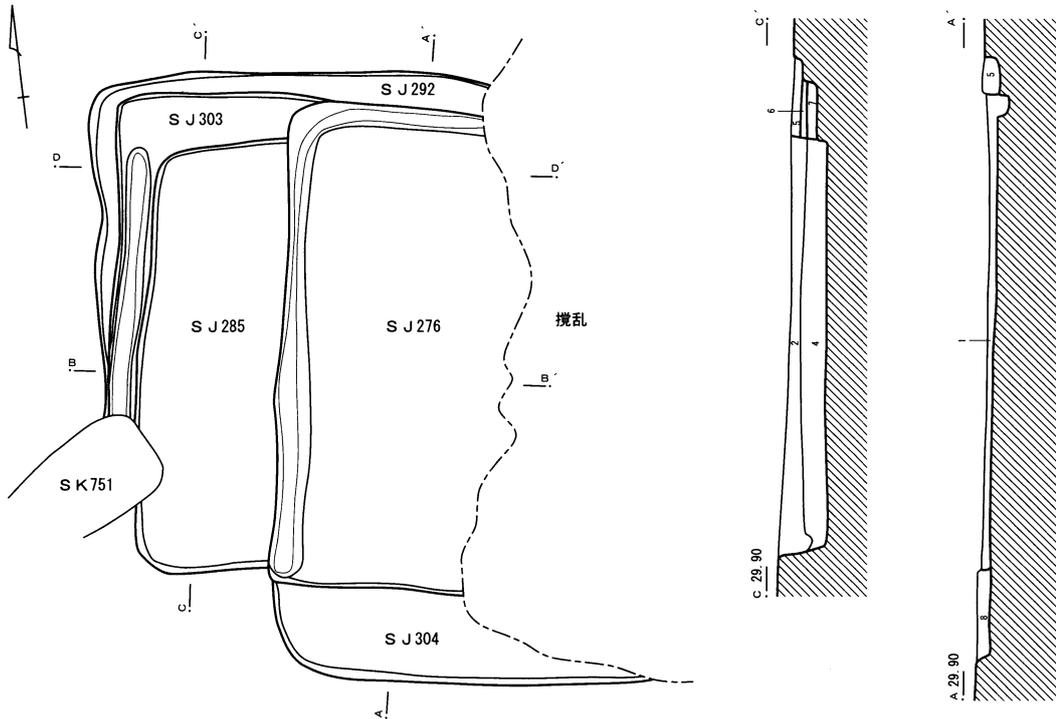
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	3.7	(6.6)	A B F G	普通	橙	15	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ 底部へラ削り
2	土師坏	13.2	3.1	6.0	A B F J	普通	橙	70	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ 底部外周のみ一方向へラ削り
3	須恵坏			5.3	A J K	普通	灰	50	覆土	
4	須恵高台埴	(13.8)	5.0	6.0	A J K	普通	灰	60	覆土	底部回転糸切り
5	緑釉埴							破片	覆土	猿投産
6	土錘	長さ 4.5	径 1.45	孔径 0.35～0.4			橙	100	覆土	

第 276 号住居跡 (第 497・498 図)

J・K-19 グリッドに位置する。第 285・292・303・304 号住居跡と重複し、すべての住居跡を切っている。東側は攪乱を受けている。規模は、西壁

で南北 3.74 m、確認できた東西 1.82 m、深さ 8 cm 程を測る。主軸方位は東西方向を基準とすると、N-100°-E を指す。

壁溝は、北壁・西壁で検出され、幅 15～28 cm、



- 第 276 号住居跡
- 1 暗灰色土 焼土粒・炭化物微量 灰色粘土多量
- 第 285 号住居跡
- 2 暗灰色土 灰色粘土層 (貼り床)
- 3 暗褐色土 焼土粒・炭化物・黄褐色土ブロック少量
- 4 暗灰色土 灰色粘土主体 焼土粒・炭化物少量
- 第 292 号住居跡
- 5 暗灰色土 灰色土主体 白色粒多量 黄褐色土粒少量
- 第 303 号住居跡
- 6 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 7 暗灰褐色土 焼土粒・灰色粘土少量
- 第 304 号住居跡
- 8 暗灰褐色土 灰色粘土 焼土粒少量



第 497 図 第 276・285・292・303・304 号住居跡

深さ 10cm 程を測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器坏、土師器甕が出土した。

第 285 号住居跡 (第 497・499 図)

J・K-19 グリッドに位置する。第 285・292・303・304 号住居跡と重複し、すべての住居跡を切っている。東側は攪乱を受けている。規模は、主軸長は西壁で南北 3.74 m、確認できた東西 1.82 m、深さ 15cm 程を測る。主軸方位は東西方向を基準とすると、N-94°-E を指す。

壁溝は、北壁・西壁で検出され、幅 15~28cm、深さ 10cm 程を測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器坏、土師器甕が出土した。

第 292 号住居跡 (第 497 図)

J-19 グリッドに位置する。第 285・292・303 号住居跡・第 751 号土坑と重複し、土坑と第 276・285 号住居跡に切られ、第 303 号住居跡を切っている。東側は攪乱を受けている。規模は、北壁で東西 3.10 m、西壁で南北 2.62 m が確認でき、深さ 7 cm 程を測る。主軸方位は、東西方向を基準とすると、N-95°-E を指す。

壁溝は、北壁・西壁で検出され、幅 15~28cm、深さ 10cm 程を測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。

第 303 号住居跡 (第 497・500 図)

J-19 グリッドに位置する。第 276・285・292 号住居跡・第 751 号土坑と重複し、すべての遺構に切られている。東側は、攪乱を受けている。規模は、北壁で 1.60 m、西壁で 2.60 m が確認でき、深さ 20cm 程を測る。主軸方位は、N-97°-E を指す。

壁溝は、西壁で検出され、幅 20cm、深さ 6 cm 程を測る。

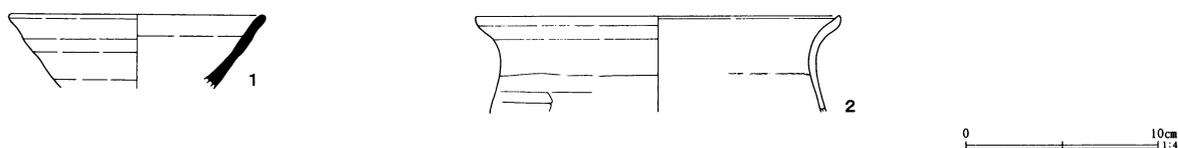
カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、鉄製品が出土した。延板状の鉄製品である。現存長は 1.4cm。用途は不明である。

第 304 号住居跡 (第 497 図)

K-19 グリッドに位置する。東側は、攪乱を受けている。第 276 号住居跡と重複し、切られている。規模は、西壁で南北 0.72 m、南壁で東西 2.90 m、深さ 10cm 程を測る。主軸方位は南壁を基準とすると、N-80°-E を指す。

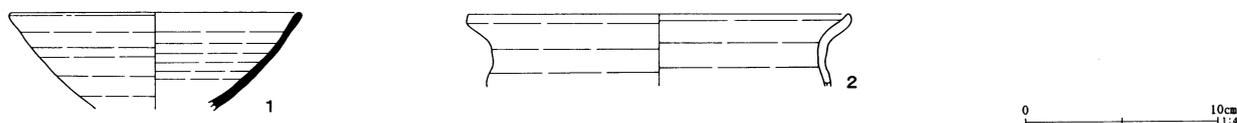
カマド等の施設は、確認できなかった。



第 498 図 第 276 号住居跡出土遺物

第 276 号住居跡出土遺物観察表 (第 498 図)

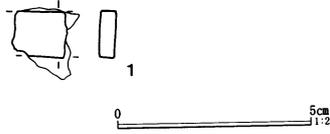
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(13.1)			A G	普通	灰	15	覆土	
2	土師甕	(18.7)			A F	良好	にぶい橙	10	覆土	外面に油煙斑状に付着



第 499 図 第 285 号住居跡出土遺物

第 285 号住居跡出土遺物観察表 (第 499 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師壺	(15.0)			DG	不良	灰白	40	覆土	
2	土師甕	(19.7)			A F G J	普通	にぶい橙	15	覆土	



第 500 図 第 303 号住居跡出土遺物

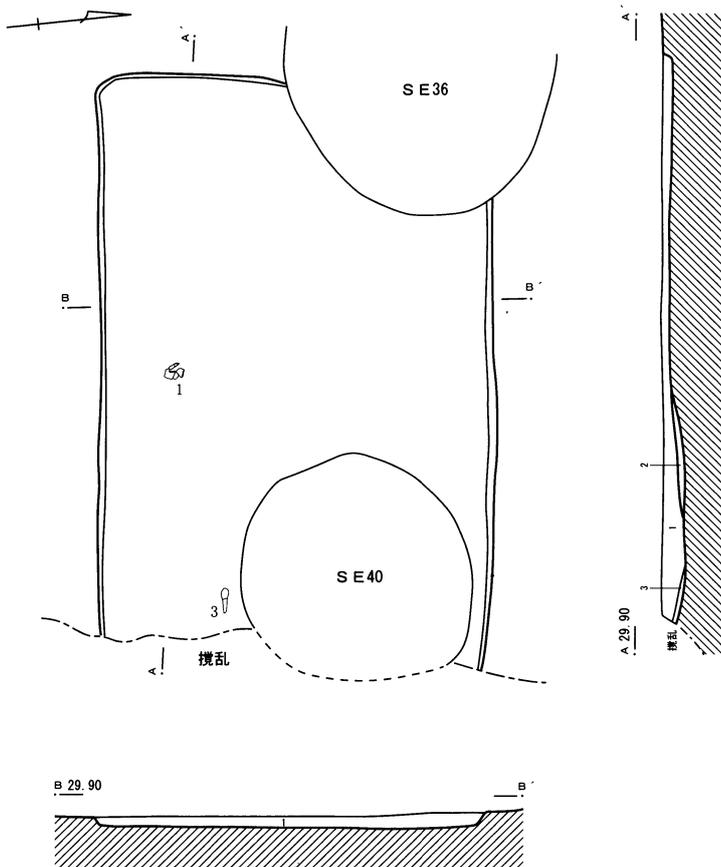
第 277 号住居跡 (第 501・502 図)

J-19 グリッドに位置する。北東隅壁は、第 266・294 号住居跡・第 36・40 号井戸跡と重複し、井戸跡と第 266 号住居跡に切られ、第 294 号住居跡を切っている。東側は、攪乱を受けている。規模は、主軸長東西 4.40 m が確認でき、南北 3.03 m、深さ 15 cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、

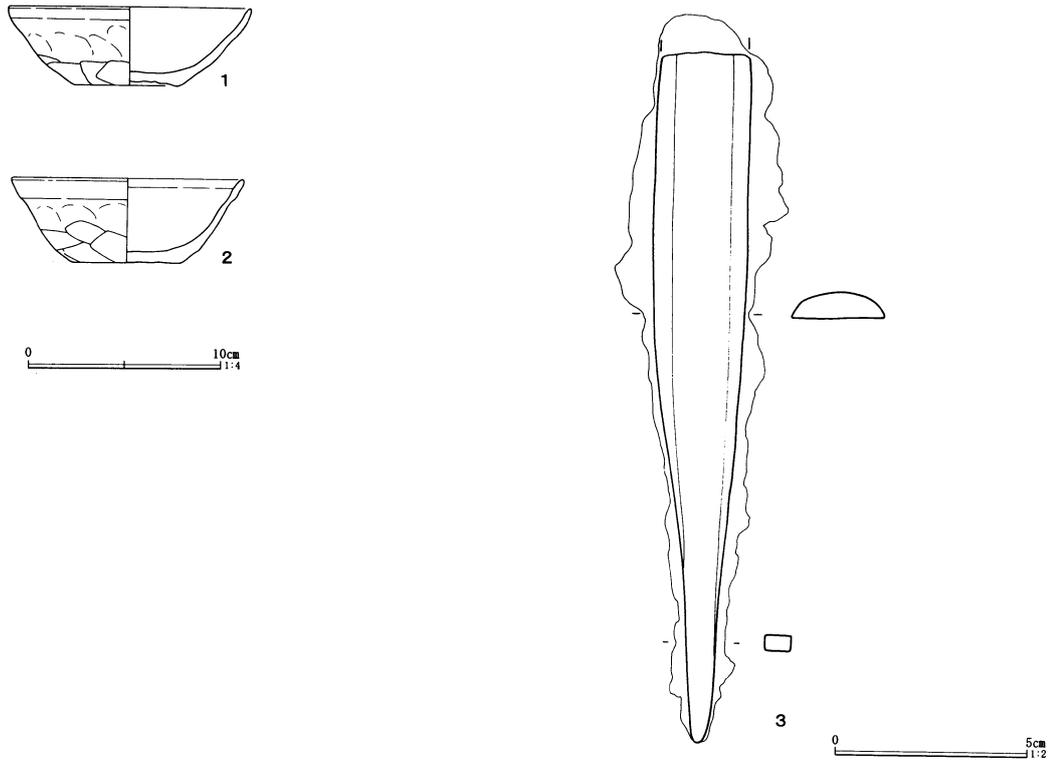
N-96°-E を指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏と鉄製品が出土した。3 は用途不明の鉄製品である。現存長は 18.0 cm で、断面半円形を呈する幅 2.4 cm の鉄棒が幅を減じて断面方形となり端部に至る。床面からの出土である。



第 501 図 第 277 号住居跡



第502図 第277号住居跡出土遺物

第277号住居跡出土遺物観察表 (第502図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.6	4.1	5.4	A B F J	普通	橙	80	床直	
2	土師坏	(12.0)	4.4	(5.8)	A F J	普通	にぶい褐	30	覆土	

VII まとめ

1. 弥生時代の遺物

飯塚北遺跡からは、5基の再葬墓から器形や文様がわかる土器が出土したほか、再葬墓と同時期と思われる遺物集中区からも破片類や石器・剥片類などが出土した。ここでは再葬墓から出土した土器群に

ついて比較検討するとともに、再葬墓と土壇、遺物集中区の有機的な関係から、再葬にいたる過程を復元してみたい。

(1) 飯塚北遺跡出土の弥生土器

5基の再葬墓では、2～3個体の土器が埋設されたいわゆる複棺の再葬墓となるものが、第1号・第2a号・第2b号の3基で、第4号は単独出土、第3号は破片類がまとまっていたものの復元個体は出土していない。土器の出土状態を検討した際にも、第1号及び2a号・2b号の出土状況には、底面に接して直立するように埋設された壺形土器と、それに接して覆土上面に埋設された個体が認められたことから埋設の順序を推定することができた。土器棺の埋設に際しては追葬などが行われ、時間差が存在した可能性は否定できないが、調査所見および出土土器を検討する限り、出土位置の相違が細分に足る時間差をもっていないと考えられた。したがってここでは各再葬墓から出土した土器群を一括性の高い組成として捉えた。

第1号再葬墓からは3個体の土器が出土した。このうち遺構底面に直立して埋設されていた壺形土器の肩部には、櫛歯状工具による波状文や横位鋸歯文が施文されており、肩部の張る第4号再葬墓出土土器とも近似した様相を持っている。一方、同再葬墓の上面から出土した無文の小型広口の壺形土器にも口唇肥厚帯をもち、胴部には文様帯を意図したミガキが施されていることから、施文手法が相違するとはいえ、両社には文様帯としての共通性を窺うことができる。胴上半部を欠損した縄文地に沈線文が描かれる土器は、明らかに磨り消し縄文によるモチーフ構成をもっている。

一方、第2a号再葬墓と第2b号再葬墓は、第1号・第4号再葬墓出土土器とは内容が異なり、地縄文の土器群を主体とした構成となっており、文様描出手法においても、平行沈線によって描かれたモチーフ間に磨り消しが施されていないなどの際立った差異がある。また、第2a号と第2b号再葬墓出土土器のうち、広口で長胴の壺形土器については、胴下部の文様は相違するものの、胎土・整形・文様施文手法などが酷似しており、極めて近接した時間内での所産あるいは同一製作者の手によるものとも考えられる。

ここで飯塚北遺跡第1号再葬墓および第4号再葬墓出土土器の組み合わせをもとに、近似した組成をもつ一括資料との比較を試みてみよう。比較資料として提示したのは、岩櫃山遺跡B群一括資料(杉原1962)と原遺跡D-第63号土壇出土資料(若狭2001)である。岩櫃山遺跡ではA～Cまで3箇所の集中地点があり、時期区分に関してはほぼ同一段階に含める立場と、A群→B・C群の2段階の変遷を措定する立場とがある。飯塚北遺跡の資料を比較すると、第1号再葬墓一括資料の組み合わせは、A群の組み合わせと近似していると思われるが、飯塚北遺跡における壺形土器は胴部に比較し口頸部が短く、寸詰まりな印象を受けることからむしろ甕の口頸部形態に近いものと考えられる。肥厚した口唇下部に押圧が施される点に岩櫃山B群との類似性が見られる。しかし岩櫃山例の地条痕に対し、飯塚北例

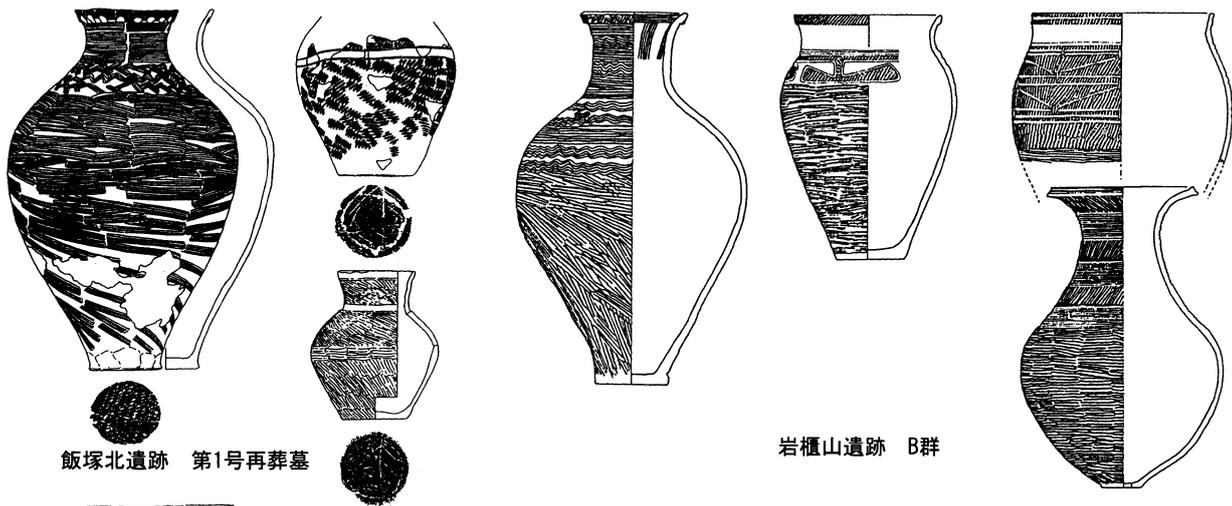
は地縄文であることや、岩櫃山例が丸子式相当資料や大洞A'系の甕形土器と同様の多帯構成に対し、飯塚北例では横位矢羽根状文と波状文の組み合わせとはいえ一帯構成である点が相違する。肩部に一帯の文様態をもつ土器は、飯塚北遺跡第4号再葬墓出土土器においても共通し、出土土器の特徴とも言える。この2基の再葬墓出土土器と大洞A'系の甕形土器に胴部一帯構成が存在する点との類似性を考えるべきかもしれない。これに対して飯塚北遺跡第2a号と第2b号再葬墓出土土器は様相がまったく異なっている点にも注目しておきたい。

飯塚北遺跡の周辺では、多数の再葬墓が検出された横間栗遺跡(鈴木 1999)がある。報告では再葬墓が3時期に区分されており、また岩櫃山遺跡出土土器との対比関係から2時期に区分する見解も提出されている。

それでは飯塚北遺跡と横間栗遺跡とで対比関係が可能であろうか。横間栗遺跡では、第8号再葬墓出土甕形土器のように、幅狭く連続した平行沈線文により描かれた菱形文と、小型壺や甕形土器にみられる単沈線文とがあり、いずれも地が磨り消され、後者では単位文的な文様構成を意図しているようである。前者では胴部が3帯構成となり、横位平行沈線が本来は区画を意図していたと考えられるが、横位線から上方に伸びる平行沈線によって菱形上のモチーフが描かれており、後述する前組羽根倉遺跡1号再葬墓(書上ほか 1983)の甕形土器と同様に、重畳する菱形文にも通じる様相が見て取れる。前組羽根倉遺跡第1号再葬墓から出土した甕形土器は、肩部一帯の文様態に上下連鎖する菱形単位文が描かれており、横間栗遺跡第8号再葬墓とは対照的な文様構成となっている。あたかも岩櫃山遺跡B群の文様帯や文様描出手法をアレンジしたようにも見受けられる。

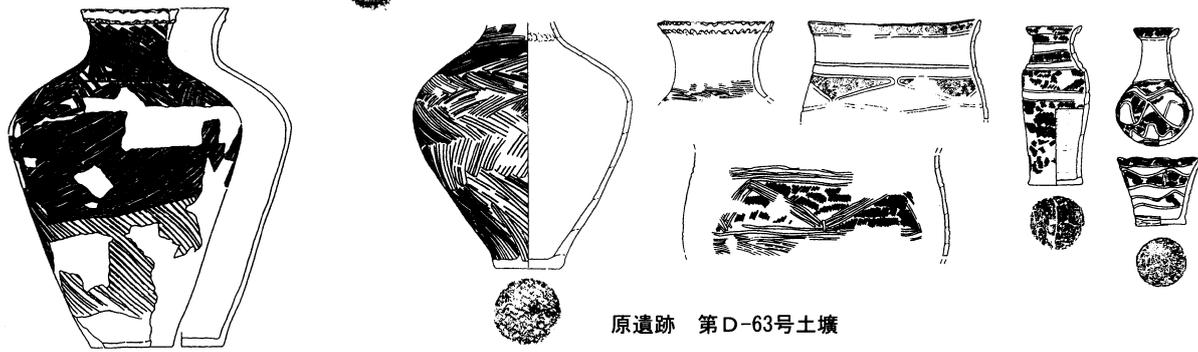
原遺跡D-63号土壙では、条痕文系の壺形土器や縄文地文で磨り消しが施された甕形土器とともに、小型の鉢や壺形土器が出土しており、組成からみる

と、岩櫃山遺跡B群と横間栗遺跡第8号再葬墓とをあわせたような機種構成である。磨り消し縄文の甕形土器は胴中位以下が欠損しているが、前組羽根倉遺跡第1号再葬墓出土の甕形土器に近似しているようである。小形壺形土器に見られる磨り消し縄文による文様には、大振りの波状文を対向させたものも認められることから、岩櫃山遺跡C群や横間栗遺跡第2号再葬墓あるいは上敷面遺跡で多量に出土した壺形土器に連続する土器と考えられる。飯塚北遺跡第1号再葬墓の並行期として大別した段階では、長頸壺が小形の磨り消し縄文系に多出する傾向が多いようであり、前組羽根倉遺跡で出土した条痕文系の壺は変則的な存在であったとも考えられる。因みに、飯塚北遺跡第1号再葬墓出土の条痕文系壺形土器の頸部に見られる多段横位の条痕は、前組羽根倉遺跡の長頸壺の頸部ともよく似た印象を受ける。飯塚北遺跡第4号再葬墓出土土器は、肥厚した口唇部上下に加えられた押圧手法が原遺跡D-63号土壙出土の壺形土器に近く、肩部の縦位矢羽根状のモチーフは、前組羽根倉遺跡などにも見受けられるように、周辺部にも近似した施文手法などが認められることから、飯塚北遺跡第1号土壙と近い時期と考えている。これらのなかにあつて、横間栗遺跡もまた特異な内容を有するようと思われる。やや古い段階として扱われる第9号、第12号再葬墓出土の壺形土器をみると口頸部が強く外反するものや、横位多重の条線で文様帯区画されるものがある。胴部は中央から口頸部寄りに最大径をもち、通常認められる壺と近い。これに対し、前組羽根倉遺跡の長頸壺は、胴部最大径が底部寄りにあり、様相を異にする。これらの相違は、例えば岩櫃山遺跡A群の組成にある丸子式の形態を例に取れば、前組例や横間栗例は、在地の壺形土器をベースに丸子式の要素の一部を取り入れた事例とも見られるであろう。現状では遺跡や資料が多いとはいえ、広範な資料であるため、地域差や系統差が縊りあつて、複雑な状況を持っているように思われる。



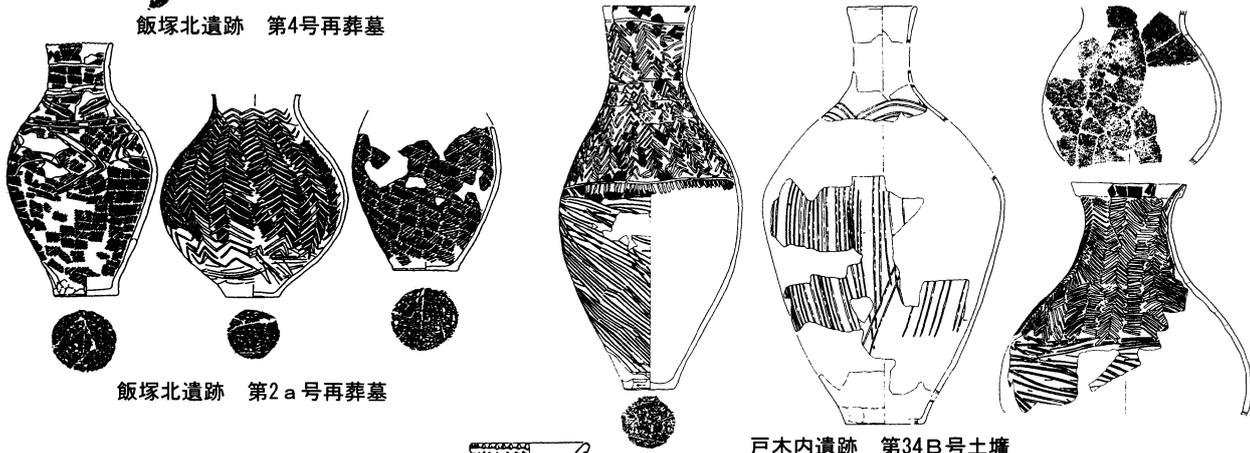
飯塚北遺跡 第1号再葬墓

岩櫃山遺跡 B群



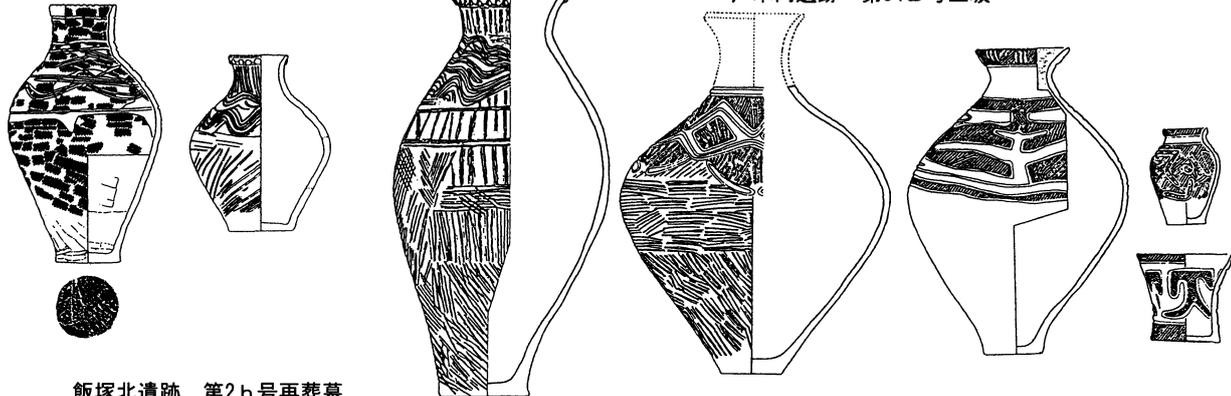
飯塚北遺跡 第4号再葬墓

原遺跡 第D-63号土壙



飯塚北遺跡 第2a号再葬墓

戸木内遺跡 第34B号土壙



飯塚北遺跡 第2b号再葬墓

岩櫃山遺跡 C群

第503図 再葬墓出土土器と関連資料

飯塚北遺跡第2a号と第2b号再葬墓出土土器は、縄文地文に沈線文施文される土器が主体であり、第1号再葬墓出土土器とは様相を異にしている。両土壙から出土した壺形土器は、細身でナデ肩の印象が強い。口頸部・胴上部・胴中位に文様帯を持つが、第2a号再葬墓出土土器は、胴中位の文様帯下端区画はない。いずれも各帯には菱形と鋸歯のモチーフが施文されるが、この2個体に関しては各帯のモチーフが異なっている。特に第2a号再葬墓出土土器の胴中位では、菱形あるいは横位矢羽根状の末端が閉塞する平行沈線文間に、弧状の並行沈線文が施文されている。このような文様描出手法は、地縄文と単沈線文や磨り消し縄文による文様施文手法の延長線上にあり、胴部への大振りな鋸歯文構成などを見ると、周辺では横間栗遺跡第2号再葬墓出土土器や上敷面遺跡出土土器(関 1983)などに、閉塞した沈線文などの手法上では、岩櫃山C群とも一部と対比できるものと考えられる。

飯塚北遺跡が位置する妻沼町周辺では、これらの組成に近似する一群は見出し難い。栃木県戸木内遺跡SK-34B出土土器群(内山 1997)がもっとも近い資料となろう。戸木内遺跡では、長胴の壺形土器と胴部の張りが強い壺形土器とがあり、後者は丸子式の器形に近い。いずれも飯塚北遺跡第2a号再葬墓出土土器と近似し、胴張りの壺形土器では飯塚北遺跡例では胴部全体に、戸木内例では口頸部から肩部にかけて縦位矢羽根状沈線文が施文されている。

一方飯塚北遺跡第2b号再葬墓では、無文地上に櫛歯状工具を用いて口頸部に縦位、肩部に波状に描かれた小形壺形土器がある。第1号再葬墓出土の無文小形壺形土器とは口頸部の形態を異にする。口唇が肥厚し、円形刺突が施されており、口唇上には、他の資料と同様に刻み目がかえられている。この資料は戸木内遺跡ではなく、岩櫃山遺跡A群やC群の条痕文系壺形土器の器形や文様構成、加飾手法に類似している点に注目しておきたい。

飯塚北遺跡の再葬墓出土土器が、第1号・第4号

→第2a号・第2b号・第3号への変遷を想定した場合、横間栗遺跡において、第8号・第9号・第12号と第2号再葬墓出土土器との相違に時間差が介在するのであれば、飯塚北遺跡においても第1号と第2a号・第2b号との系統差を伴う組成の違いを時間差と捉えることができるであろう。同様に、岩櫃山遺跡出土土器におけるB群→C群・A群への変遷に関しても同様の見解が支持され得るものと考えられる。

飯塚北遺跡で検出された再葬墓出土土器は、周辺の資料群からみると、横間栗遺跡第1号再葬墓に後続し前期的な様相を引き継ぐ部分と、中期中葉段階の飯塚遺跡出土土器の直前段階に相当する部分とからなるものと考えられる。飯塚遺跡出土土器(荒川 1988)は、弥生中期中葉の出流原遺跡の新しい段階(若狭 1992)に措定されることから、弥生中期前葉のなかでの時間差をもった資料群とみなすことができるのではなかろうか。組成から見ると、1号再葬墓出土土器のように、前期的な系譜を引き継ぎつつ、中期中葉の様相へ急速に変わりつつある状況を反映していたものと考えられる。飯塚北遺跡第2号再葬墓と並行期とみなした横間栗遺跡第2号再葬墓出土土器は、飯塚遺跡や飯塚南遺跡(荒川 1988)などの土器群へ移行していることから、飯塚北遺跡第2号再葬墓並行期を弥生中期中葉的土器群の開始期とみることもできよう。

飯塚北遺跡では、再葬墓とともに多くの破片資料がまとまっていた遺物集中区が検出された。集中区出土土器には器形がわかる資料が少ないことから、位置づけを明確にすることは難しいが、おおよそ第1号再葬墓から第2号再葬墓の時期に含まれる資料が多いように思われ、再葬墓とかわりを持って形成された遺構の可能性が高いようである。

以上、飯塚北遺跡再葬墓出土土器群について、周辺地域の出土土器群との比較を試みた。もとより雑駁な検討に過ぎないことは承知しているが、機会を改めて再度検討を加えてみたい。

(2) 再葬墓と他の遺構との関連性について

飯塚北遺跡からは、再葬墓を以外に、単独土壙・人骨廃棄土壙・遺物集中区が検出されている。個々の遺構の詳細については既に触れたところであり、それらの評価についてはさまざまな見解が生じることと思われる。しかしながら遺構同士を有機的に結

土壙

第504図は、第5集中区を除く各遺構を、種別に網掛けしたものである。このなかで、第938号土壙に注目しておきたい。第938号土壙は不整円形の土壙で、下部から被熱していない骨が、上部からは被熱した骨片や灰、炭化物などが廃棄された状態で検出された。遺物集中区や単独土壙、再葬墓などはこの土壙を中心として環状や弧状に配置されていることが遺構分布の特徴である。

土壙には長方形と円形のものがあり、前者には第741号土壙・第1012号土壙が、後者には第695号・第772号・第773号がある。いずれの土壙からも人骨をはじめ、遺物などは出土していないために、用途を判断することは難しいが、後述するように遺跡からは住居跡や居住施設と考えられる遺構が検出されていないことから、貯蔵施設と見ることも困難である。仮にこれらの土壙を、再葬墓の形成にかかわ

再葬墓

総計5基が検出された再葬墓は、各々系統を異にする土器が埋設されていた。そのこと自体も大きな問題となるが、ここでは埋設にかかわる時間的な問題について検討したい。土器の出土状態からみると、遺構の底面に接した個体と覆土上面に位置する個体があることから、必ずしも一時に埋設されたものではなく、追葬された可能性も考えられるが、調査時の所見では土器同士が密着するように出土しており、覆土の観察でも掘り返された形跡は認められなかったことから、飯塚北遺跡の場合は同時期あるいは極

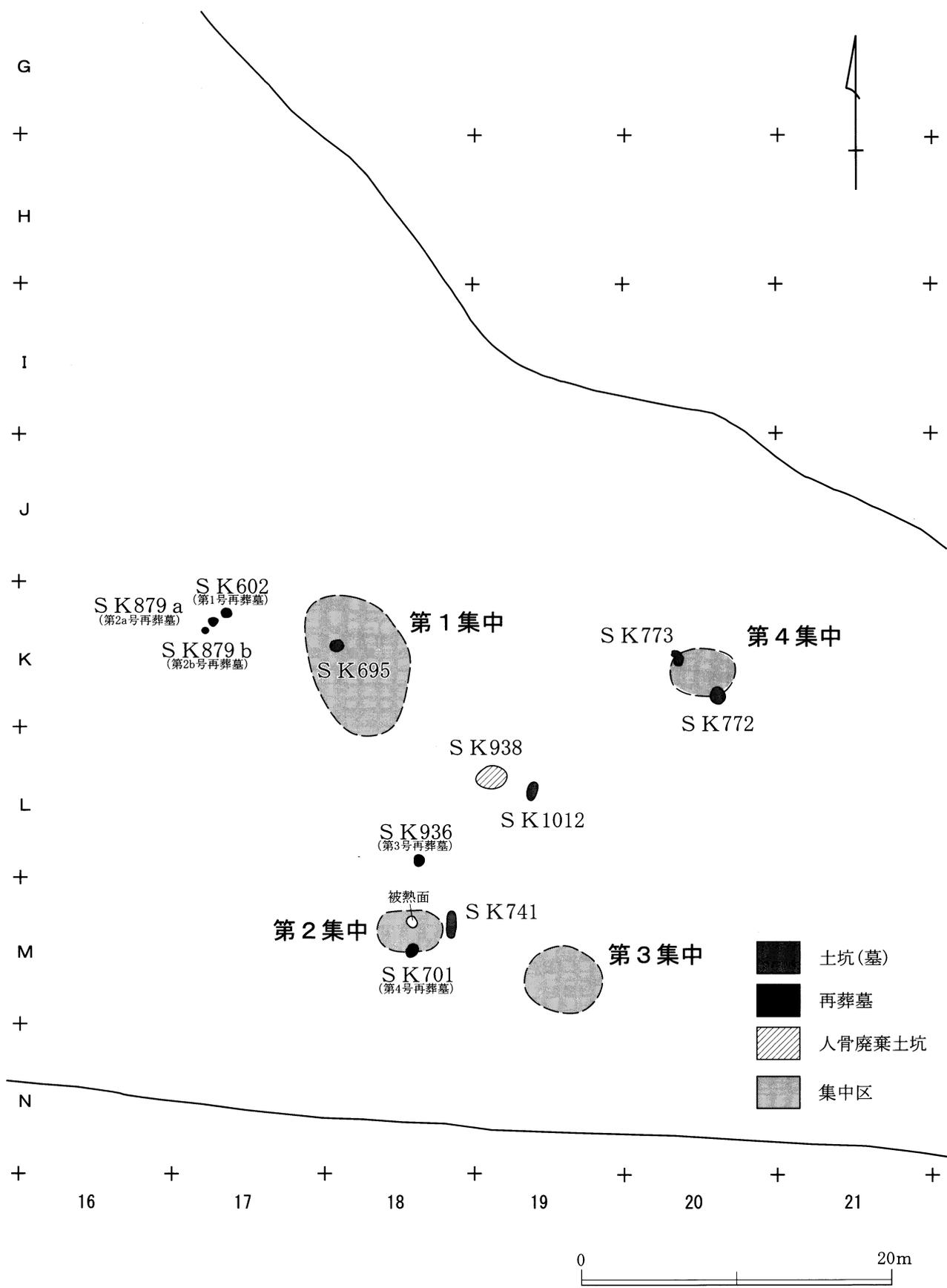
びつけることによって、再葬にいたる経過を復元できる可能性が考えられる。ここでは上記の命題から飯塚北遺跡において再葬墓が形成された過程を探ってみたい。

る埋葬施設とみると、飯塚北遺跡内での一連の行為が復元できる可能性がある。

5基の土壙中、一次葬として遺体を進展状態で埋葬できた土壙は第741号・第1012号土壙である。他の土壙は規模が小さいことから、進展以外の埋葬法あるいは成人以外を対象とした埋葬を考慮する必要がある。土壙の覆土には埋め戻されたような形跡が認められなかったことから、遺体を掘り出した後は自然埋没した可能性も考えねばならないだろう。これらの土壙がどの再葬墓と関連するのかは明らかではない。第1集中区や第4集中区では、土壙との重複関係が認められたが、調査の過程では覆土の相違をもって前後関係を決定できなかった。しかし、土壙は集中区調査後の精査時に検出されたことから、集中区が形成される以前に再葬墓が形成された可能性が高いと考えられる。

めて短期間に埋設され埋め戻されたものと想定している。

再葬墓のうち第1号(S K 602)、第2a号(S K 879a)、第2b号(S K 879b)の3基は第1集中区の西側にあり、直線上に並ぶ極めて近接した位置関係にある。第4号(S K 701)再葬墓は第2集中区と重複して検出されたが、出土状態からは第2集中区よりも先行するものと判断された。第5号(S K 936)再葬墓は第2集中区の北側に位置する。再葬墓の古い段階には第1号と第4号が、新しい段階には第



第504図 弥生時代の遺構

2a号、第2b号、第5号が想定される。このうち複棺再葬墓は第1号と第2a号、第2b号のみで、第4号と第5号再葬墓は単棺である。第3号再葬墓は覆土上面に複数固体の土器破片や礫が検出されており、他とは様相が異なっている。

第2集中区と第5集中区は再葬墓との重複関係をもっている。第2集中区では遺物取り上げ途中で再葬墓が検出された。第5号再葬墓集は第5集中区の遺物取り上げ後の精査において検出されたもので、地中区の形成も再葬墓と同様に新旧に区分されるものと考えられる。

ところで土器棺内部からは微細な骨片がわずかながら出土している。また遺構の覆土内にも骨片が含まれていたが、いずれも部位を特定できるようなものはない。骨片は灰白色ないしは白色で、熱を受けていたことは明らかである。このことから、遺体を掘り出し、必要とされる部位を火葬した後に骨を破碎し、微細骨片を選択的に土器棺に封入し骨を含んだ土で埋めたものと考えられる。

ここで問題となるのは人骨が廃棄された第938号土壙である。この土壙は不整形で、覆土の観察からは、掘り返された形跡が認められた。土壙下部からは被熱していない下肢骨あるいは上腕骨と見られる比較的大きめな人骨が検出されたが、非常に脆く鑑定はおろか取り上げることもできなかった。ここからは頭蓋骨などは発見できず、部位が限られていた可能性がある。また個体数も不明である。このことから、遺体を掘り出した後に骨を解体したかあるい

遺物集中区

遺物集中区は計5箇所が検出された。位置的には人骨廃棄土壙を囲むように第1集中区から第4集中区が形成されている。第5集中区はこれらとは離れた位置にあり、西側の未調査区に広がる可能性も考えられる。第1から第4集中区の間は遺物分布が極めて希薄であることから、これらの集中区が何らかの意図を持って形成されていたことは明らかである。

は一次葬として埋葬する際に遺体を解体したことも考慮しなければならないであろう。この土壙以外からはこのような出土状態を示すものがないことから、この土壙にのみ人骨が廃棄されていたものと考えられる。上層からは炭化物や灰あるいは粉状となった骨とともに灰白色ないしは白色の骨片が層状に堆積していた。このことから、第938号土壙は、当初は一次葬のための埋葬施設あるいは遺体を掘り出した跡に不要な骨を廃棄する場として使用され、その後に火葬された骨を廃棄する場として利用されたものと考えられる。

以上のことから、遺体を埋葬した後に一定期間を経て遺体を掘り出し、火葬すべき骨と不要な骨を選別し、不要な骨を廃棄したか、あるいは一次葬の時点で遺体が解体され、不要部分が廃棄された、火葬された後に不要部分が廃棄されたものと考えられる。いずれにしても、火葬された骨も極く一部が土器棺に封入されたに過ぎず、焼人骨もほとんどが廃棄されていたのであろう。しかしながら火葬以前に骨が破碎されていたか火葬後に破碎されたかは決定しがたい。再葬墓の覆土内からも微細な焼骨片が検出されたことから、土器棺を埋設する際には、埋め土にも骨片を混ぜていた可能性が高いといえる。第938号土壙はこのような目的で使用されていたのであろう。ただしすべての土器棺や再葬墓の覆土から骨片が検出されたわけではないので、このような一連の行為が全てにあてはまるものとも思われない。

各集中区の規模や遺物量は変異が大きいが、もっとも濃密な分布を示しているのが第2集中区である。この集中区では地山面が被熱し赤変していた部分が検出されたことから、当初は住居跡の可能性を示すものと考えていた。第2集中区以外からは焼土化した地山面や柱穴、硬化面などは認められなかった。これらのことから、ここでは遺物集中区を、居住空

間としてよりも再葬墓の形成に伴う場として評価した。

集中区から出土した土器には小片が多く、全体を知ることができる資料は少ないが、条痕文系の壺形ことができる資料は少ないが、条痕文系の壺形土器を主体に、縄文系の甕形土器を含む組成と思われ、この点では再葬墓出土土器との差異はない。また赤彩された土器や小形土器などの祭祀的様相を窺わせる土器も出土していない。

出土土器には弥生前期に相当すると考えられる破片が少量出土しているが、ほとんどが再葬墓と同時期の資料と考えられる。また各集中区では、再葬墓の時間幅に並行する資料が含まれており、第3集中区では新しい段階の土器が主体的である。

集中区は、前述したように土壌や再葬墓と重複関係を持っており、第2集中区では再葬墓と同一段階と考えられる資料が含まれていることから、再葬墓の形成に際して集中区が形成されていた可能性が指摘できる。

集中区からは土器以外に石器類も出土している。主に石鍬とされる打製石器が主体であるが、各集中

区からはチャートを主体とする剥片や微細なチップ類が含まれており、これらには定型的な石器は認められなかった。また剥片には使用による刃こぼれ状の痕跡を示すものも含まれていた。出土土器自体に祭祀的な性格付けはできないが、剥片・チップ類の多出もこの時期に一般的な事例と考えることができるのであろうか。

最後に、各遺構の関連性をまとめると、以下のような流れが想定できる。

死→ 一次葬（土葬）→ 骨の解体・破碎・廃棄
→ 火葬→ 壺棺への封入→ 骨の廃棄

死→ 遺体解体・破碎・廃棄→ 火葬→ 壺棺への封入→ 骨の廃棄

集中区はこれらの過程の中で、おそらく土器棺の埋設後に形成されたと想定できる。遺物量が少ないことから長期継続して廃棄行為が行われたとは考え難い。

飯塚北遺跡の弥生時代の遺構をもとに、問題点を取り上げてみたが、今後の検討にゆだねる部分が多く、改めて検討してみたい。

引用参考文献

- 荒川 弘 1988 「飯塚遺跡」『東日本の弥生墓制』群馬県考古学研究所 千曲川水系古代文化研究所 北武蔵古代文化研究会
- 荒川 弘 1988 「飯塚南遺跡」『東日本の弥生墓制』群馬県考古学研究所 千曲川水系古代文化研究所 北武蔵古代文化研究会
- 内山敏行 1997 『戸木内遺跡（第4次調査）』栃木県文化振興事業団 埋蔵文化財センター
- 書上元博ほか 1983 「神川村前組羽根倉遺跡の研究」『埼玉県立博物館紀要』第12号
- 小出輝雄 2003 「弥生中期前葉の土器様相－横間栗遺跡出土土器を中心として－」『法制考古学』第30集
- 設楽博巳 1993 「壺棺再葬墓の基礎的研究」『国立歴史民族博物館研究報告』第50集 杉原荘介
1967 「群馬県岩櫃山遺跡における弥生時代の墓址」『考古学集刊』第3巻第4号
- 杉原荘介 1981 「栃木県出流原における弥生時代の再葬墓群」『明治大学文学部研究報告』第八冊
- 鈴木敏昭 1999 『横間栗遺跡』熊谷市教育委員会
- 鈴木正博 2003 「脱条痕文縁辺文化研究序説－弥生式「Zigzag文様帯系土器群」と「脱条痕文」に観る相互作用と「共同の母体」観」『婆良岐考古』第25号
- 関 義則 1983 「須和田式土器の再検討」『埼玉県立博物館紀要』第10号
- 若狭 徹 2001 「中野谷・原遺跡」『安中市史 原始古代中世資料編』安中市
- 若狭 徹 1992 「北関東における弥生式土器の成立と展開」『駿台史学』第84号

2. 奈良・平安時代の遺物

飯塚北遺跡では奈良・平安時代の住居跡 305 軒が検出された。本報告では、そのうち 263 軒の住居跡について報告を行った。残りの 42 軒については、他の遺構も加え来年度報告の予定であるため、一般集落では出土しない特殊な遺物について瞥見する。

今回報告の 6 軒の住居跡で、円面硯を出土している。未報告の 42 軒からは出土していない。いずれも破片であるが、円面硯の圈足硯の部類に入るものである。

第 166 号住居跡の円面硯は硯面部 1/4 程度の破片であるが、脚台部も上位が若干遺存し、長方形透孔と透孔間に縦位の 2 条の沈線が加飾されていることが確認でき、硯面部は内堤を持つ有堤式である。共伴遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台坏壙・皿・蓋、灰釉陶器高台坏壙・高台坏皿・羽釜・(長頸)瓶が出土しているが、時期が混在している。土師器坏は平底風の底部から内湾気味に立ち上がるもの、底部に僅かな丸みを持ち直立する口縁を持つもの、外反するものがある。8 世紀第 4 四半期とみられる。また、平底で体部に S 字状の屈曲を持つ坏があり、口径は 13 cm 程、器高は 4 cm 前後を主体とし、底部が縮小するものは結果的に体部が開いてくる。須恵器との類似性が強い土器である。口縁部近くまでへら削りされているものもみられる。9 世紀第 4 四半期と考えられる。暗文坏は、平底で口縁部は短く立ち上がり端部で外反し、放射状暗文と螺旋状暗文が施されている。8 世紀第 1 四半期頃末から 8 世紀中葉と捉えることができる。須恵器坏は、底部全面へら削り・周辺へら削り・糸切りの 3 種が混在している。へら削り・周辺へら削りの坏は、口径 13 cm 程で 8 世紀中葉古段階の様相を呈している。底部糸切り坏は、口径 12～13 cm、底径 6 cm 程で口径・底径比は 1/2 以下となる。他の高台坏・皿・灰釉陶器からすると 9 世紀第 4 四半期から 10 世紀初頭として捉えることができる。これらのことから、8 世紀代の土器も含むが、円面硯も硯面部も径 13 cm と小

型であることから、9 世紀後半代の所産と考えられる。

第 180 号住居跡出土の円面硯は、脚台部のみであるが、長方形透孔と透孔間に単位は不明であるが縦位の沈線が加飾されている。共伴遺物は、第 166 号住居跡でもみられた土師器坏で、平底で体部に S 字状の屈曲を持つ坏と、高台付壙と口縁がコの字状を呈する土師器台付甕と甕が出土している。高台壙を比較すると口縁部は大きく外反するものではないが、土師器坏とコの字状口縁の甕などから第 166 号住居跡とほぼ同時期とみられる。

第 186 号住居跡出土の円面硯は、脚台部のみで、長方形透孔と透孔間に縦位沈線 3 状もしくは 4 条が加飾されている。共伴遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付壙・蓋・甕が出土している。土師器坏は口径 12.6～13.3 cm で、口縁部は内湾気味に立ち上がるものと、外傾するものがある。須恵器坏は、底部は周辺へら削りのものでやや偏平気味で土師器坏より若干古い様相を示す。高台付壙は小型のもので、高台部から直立に近い角度で立ち上がり、土師器坏と同時期を示す。これらのことから、8 世紀第 4 四半期とみられる。

第 227 号住居跡出土の円面硯は、脚台部のみで長方形と推定される透孔が確認できただけである。共伴遺物は、土師器坏・須恵器坏・高台付壙・(長頸)瓶、土師器甕が出土している。土師器坏は口径 12～14 cm で平底を呈する。口縁部まで内湾して立ち上がるもの、外傾し直線的に立ち上がるもの、僅かな S 字状を呈するものがある。須恵器坏は、底部は糸切りで口径・底径比は 1/3 以下で 9 世紀後半代を示す。土師器甕もコの字状口縁を呈している。9 世紀後半代と捉えることができる。

第 239 号住居跡出土の円面硯は、脚台部のみで長方形透孔と透孔間に縦位の沈線 2 条が確認された。共伴遺物は、土師器坏須恵器坏高台坏壙 灰釉陶器壙、緑釉陶器壙が出土している。土師器坏は口径

13.4 cmで、僅かな屈曲を持つものと内湾して立ち上がるものがある。須恵器坏も底部糸切りで、口径・低径比1/2以下を示している。緑釉陶器はK-90 窯式並行のものであることから、9世紀後半代ものと捉えられる。

第269号住居跡出土の円面硯は、脚台部に縦位の沈線が施されている。相伴遺物は、土師器坏、須恵器坏などである。土師器は口径11.6 cm～14.0 cmであるが、主体は13 cm程のものである。底部は僅かな丸底風のもと平底のもので、口縁部は前者が外傾して開き、後者は内湾しながら開く。須恵器坏は底部周辺へラ削りのもので、土師器同様に8世紀第4四半期である。

円面硯については、飛鳥時代から脚台部に透孔が等間隔に多数施された透脚硯や須恵器坏類を使用した転用硯、獣脚や蹄脚を持つものと脚が無いものの円面硯が使用され、東国では奈良時代から圈足硯が使用され大型の物から小型化へという変遷がある。また、硯面部では内堤のあるものから無いものへという流れがある。さらに、9世代以降は風字硯、そして10世紀以降は石硯と移行していく。

埼玉県内では、末野窯跡の東灰原一面より獣脚の円面硯が出土した。硯面部の縁は欠損し、内堤は微隆起状で海と陸が区分されている。復元外径26 cm、獣脚数推定16本とされ、7世紀第4四半期としている(赤熊1999)。

8世紀になると、透脚硯が出現する。鳩山窯跡群

の広町B号窯の他に虫草山窯跡・高岡廃寺などから出土している。8世紀中葉以降は、脚台部に透孔と縦位の沈線などで加飾されたものが出現する。一方、岡部町熊野遺跡からは8世紀第1四半期後半に低脚硯が出土している。これは、硯面部に内堤を持たず窪められた墨溜めを持つもので、脚台部には等間隔

で方形の透孔がある。8世紀中葉から第3四半期には低脚硯ではない脚台部に長方形透孔と縦位の沈線が施されているものが出土している(富田2002)。8世紀中葉まで熊野遺跡で墨溜めを持つものがみられたがそれ以降は類例がなく、時間的・地域の特長とみられる。

飯塚北遺跡では、脚台部が長方形透孔と縦位の沈線が組み合わされたもの、或いは沈線のみのものがみられるが、概ね8世紀第4四半期と9世紀後半代まで円面硯が使用されている。

他にも集落内の住居跡から出土例があるが、若葉台遺跡や熊野遺跡のように官衙関連の集落と考えられているが、広範囲な遺跡・遺構の分布状況から官衙関連の集落と想定されているのであって、出土した遺跡や住居跡だけでは判断できない。本報告の飯塚北遺跡では住居跡のみの分析であったため、今後の掘立柱建物跡の整理結果と周辺遺跡の関連を踏まえて判断していくことが必要である。

紙幅の都合により、引用・参考文献は省略させていただきます。